

ナンバリングコード			
AAX3602			
科目名			
行政企業体験実習			
英語名			
開講学科		コース	
法文学部共通 新旧共通			
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法文学部・法文アドバンス ト科目I(選択)	実習	1単位	3年
担当教員	連絡先(TEL)	連絡先(MAIL)	
就職委員長	uemt05(下記と組み合わせること)	@leh.kagoshima-u.ac.jp	
共同担当教員		前後期	
		前期	
授業概要			
本実習は、企業等でのインターンシップおよびその事前・事後指導で構成される。			
学修目標			
<ul style="list-style-type: none"> ・事前・事後指導及びインターンシップを通じて、インターンシップ先の業種および職種に関する深い理解ができるようになる。 ・事前・事後指導及びインターンシップを通じて、具体性のあるキャリア意識が形成できるようになる。 			
授業計画			
第1回 事前指導1：事前指導ガイダンス			
第2回 事前指導2：我が国と鹿児島県の経済状況と財務局			
第3回 事前指導3：労働基準法に定められている法定の労働条件等について			
第4回 事前指導4：職業分析について			
第5回 事前指導5：学生の希望と企業の求める人材とのマッチングについて			
第6回 事前指導6：マナー実践講座			
第7回 インターンシップ実施(1)			
第8回 インターンシップ実施(2)			
第9回 インターンシップ実施(3)			
第10回 インターンシップ実施(4)			
第11回 インターンシップ実施(5)			
第12回 インターンシップ実施(6)			
第13回 インターンシップ実施(7)			
第14回 インターンシップ実施(8)			
第15回 事後指導：レポート報告			
授業外学習(予習・復習)			
<ul style="list-style-type: none"> ・事前指導までに十分な情報収集を行い、希望するインターンシップ先についてある程度の計画を立て、スケジュール上必要な場合には適切に手続を行う。 ・事前指導の内容を復習して(第1～6回復習)、実際の研修時に実践できるように十分な準備(第7～14回予習)を行う。 ・実際の研修についてのレポートを作成する(第7～14回復習、第15回予習)。 			
教科書			
指定しない			
参考書			
授業中に適宜紹介する			
成績の評価基準			
事前指導、事後指導への取り組み態度(55%)、インターンシップ参加状況(45%)			
オフィスアワー			
追って指示する			
アクティブ・ラーニング			
その他;			

アクティブ・ラーニング（その他の内容）

インターンシップ

アクティブ・ラーニング（授業回数）

15回中8回

備考（受講要件）

- ・本授業は6-8月における事前指導、夏休み期間のインターンシップ実施、後期前半の事後指導にて構成される変則開講の授業であり、講義については例年水曜4限目に行われる（外部協力者依頼のため回によっては変更になることがある）。
- ・通常の履修登録日におけるWeb登録は不要。
- ・インターンシップの全体像や登録について説明するガイダンスを例年4月に開催する（2019年度は4月10日14:30[法文203]にて開催済み）。当日出席できない者は学生係で書類を受け取ること。
- ・事前指導等の具体的日程については掲示を参照すること。出席不可能な日程のある者は、配慮するので必ず就職委員長または学生係に必ず連絡し相談すること。
- ・第7～14回については、法政策学科インターンシップ以外の、鹿児島大学を通じて登録されるインターンシップはすべて対象となる。詳細は4月説明会資料を参照のこと。
- ・本学産学・地域共創センターによる「かごしま課題解決型インターンシップ」も対象である。
- ・その他公表されているスケジュール等を含め支障のある者は個別対応の余地があるため必ず就職委員長または学生係に相談すること。

実務経験のある教員による実践的授業

本実習は、企業等でのインターンシップと事前・事後指導で構成される。民間企業あるいは行政官庁での実務経験者による実地指導をとおして、業種及び職種に関する深い理解を得ることができる。

ナンバリングコード			
科目名			
アジアの法と社会			
英語名			
Law and Society in Asia			
開講学科		コース	
法文学部共通 新旧共通			
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法文学部・法文アドバンス ト科目I(選択)	講義	2単位	4年
担当教員	連絡先(TEL)	連絡先(MAIL)	
張 秀娟	099-285-7085	k7017538@kadai.jp	
共同担当教員		前後期	
		後期	
授業概要			
日本を含むアジア、とくに中国における法に関わる諸問題を多面的に検討する。その社会的な背景にも言及するほか、具体的な問題点を探っていきたい。			
学修目標			
中国法を中心にしたアジアの法制度を知るとともに、日本とは異なる外国の社会や生活についての理解を深める。			
授業計画			
第1回	ガイダンス		
第2回	法と国家		
第3回	中国憲法		
第4回	土地管理制度		
第5回	戸籍制度		
第6回	家族と法(1)		
第7回	家族と法(2)		
第8回	労働と法(1)		
第9回	労働と法(2)		
第10回	社会保障のしくみと法(1)		
第11回	社会保障のしくみと法(2)		
第12回	紛争解決---裁判制度(1)		
第13回	紛争解決---裁判制度(2)		
第14回	紛争解決---裁判外紛争処理システム		
第15回	犯罪と法		
授業計画については、授業の進行状況に応じて若干変更する場合がある。			
授業外学習(予習・復習)			
授業の際に指示する。			
教科書			
なし。レジュメを配布する。			
参考書			
高見澤磨 = 鈴木賢 = 宇田川幸則・現代中国法入門[第7版](有斐閣,2016)			
田中信行・入門中国法(弘文堂,2013)			
小口彦太 = 田中信行・現代中国法[第2版](成文堂,2012)			
西村幸次郎・現代中国法講義〔第3版〕(法律文化社,2008)			
成績の評価基準			
期末試験による。			
オフィスアワ -			
授業終了後1時間			
アクティブ・ラーニング			

学習の振り返り（ミニッツ・ペーパー等）；

アクティブ・ラーニング（その他の内容）

アクティブ・ラーニング（授業回数）

備考（受講要件）

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
FHS-AAJ4403			
科目名			
教育実習事前・事後指導(英語)			
英語名			
Pre-Instruction and Review of Practice Teaching			
開講学科		コース	
法文学部共通 新旧共通			
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
教職科目	演習	1単位	4年
担当教員	連絡先 (TEL)		連絡先 (MAIL)
未定			
共同担当教員		前後期	
		前期	
授業概要			
学習指導案の作成や模擬授業を通して、英語指導方法を研究する。特に、理論と実践の一体化を図る。また、教職員採用試験の直前指導を実施する。			
学修目標			
(1) 学習指導要領の目標を踏まえて、日々の授業の目標を設定できる。			
(2) 目標に応じた指導内容を考え、実践できる。			
(3) 教師の役割、使命感を認識する。			
(4) 英語の授業の在り方について、多角的視点から考察する。			
授業計画			
第1回	ガイダンス(本講義の概要説明, 受講生の英語教師としての目標の発表)		
第2回	英語教師を目指すに当たって(各県総合教育センター等の資料により, 英語教師としての在り方を学ぶ)		
第3回	英語指導法について(1)(主要な英語教授法および指導原理の学習)		
第4回	英語指導法について(2)(英語授業の組み立て方および指導方法の学習)		
第5回	学習指導要領(中学校)		
第6回	学習指導要領(高等学校)		
第7回	学習指導案の書き方		
第8回	学習指導案の作成		
第9回	模擬授業(1)(中学校の教科書を中心にして)		
第10回	模擬授業(2)(高等学校の教科書を中心にして)		
第11回	教室英語, 英語教育用語について		
第12回	英語授業実践例の視聴(文部科学省作成のDVDによる)		
第13回	教育実習の総括(1)(中学校での実習生の体験発表)		
第14回	教育実習の総括(2)(高等学校の実習生の体験発表)		
第15回	教員採用試験直前指導		
授業外学習(予習・復習)			
予習: 模擬授業に当たっては、教案作成や事前の予習をしておく。			
復習: 授業で扱う資料、参考文献を復習して、指導案作成や教育実習に役立てる。			
教科書			
教科指導に関する資料(プリント)			
参考書			
中学校学習指導要領解説(外国語編 文部科学省 東京書籍)			
高等学校学習指導要領解説(外国語編 文部科学省 開隆堂)			
成績の評価基準			
期末テストの成績, 学習指導案及びレポート提出, 出席等, 総合的に評価する。			
オフィスアワ -			
金曜日 13:30 14:30			

アクティブ・ラーニング

プレゼンテーション;

アクティブ・ラーニング(その他の内容)

アクティブ・ラーニング(授業回数)

15回中2回

備考(受講要件)

教職の必修科目(英語)

実務経験のある教員による実践的授業

該当する。

ナンバリングコード			
FHS-AAJ4404			
科目名			
教育実習(中学)			
英語名			
Field Study of Secondary Education			
開講学科		コース	
法文学部共通 新旧共通			
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
教職科目	実習	4単位	4年
担当教員	連絡先(TEL)	連絡先(MAIL)	
教務委員長			
共同担当教員		前後期	
		前期	
授業概要			
学修目標			
授業計画			
授業外学習(予習・復習)			
教科書			
参考書			
成績の評価基準			
オフィスアワ -			
アクティブ・ラーニング			
アクティブ・ラーニング(その他の内容)			
アクティブ・ラーニング(授業回数)			
備考(受講要件)			
実務経験のある教員による実践的授業			

ナンバリングコード			
FHS-AAJ4404			
科目名			
教育実習(高校)			
英語名			
Practice Teaching			
開講学科		コース	
法文学部共通 新旧共通			
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
教職科目	実習	2単位	4年
担当教員	連絡先(TEL)	連絡先(MAIL)	
教務委員長			
共同担当教員		前後期	
		前期	
授業概要			
学修目標			
授業計画			
授業外学習(予習・復習)			
教科書			
参考書			
成績の評価基準			
オフィスアワ -			
アクティブ・ラーニング			
アクティブ・ラーニング(その他の内容)			
アクティブ・ラーニング(授業回数)			
備考(受講要件)			
実務経験のある教員による実践的授業			

ナンバリングコード

FHS-AAJ4403

科目名

教育実習事前・事後指導(社会・公民・地理歴史・商業)

英語名

Pre-Instruction and Review of Practice Teaching

開講学科

コース

法文学部共通 新旧共通

授業科目区分

授業形態

単位数

開講期

教職科目

演習

1単位

4年

担当教員

連絡先 (TEL)

連絡先 (MAIL)

川野恭司

共同担当教員

前後期

前期

授業概要

事前指導としては各科の基本的目標の確認と授業構想力、指導案の書き方、授業展開法を学び、事後指導としては、各人の実習体験に基づくレベルアップした授業展開法をより深く分析し習得する。いずれも基本的に学生の模擬授業を通して行うものとする。

学修目標

中学校社会科、および高等学校地歴・公民科・商業科における授業構想力と授業方法論の獲得を目指す。

授業計画

- 第1回：ガイダンス 教科の特質、その共通点と相違点、教育実習の意義
 第2回：模擬授業グループ分担～テーマの確認、教材研究
 第3回：教師による模擬的授業提起と発問～指導案について
 第4回：実習事前 学生模擬授業(1) 中学社会
 第5回：実習事前 学生模擬授業(2) 地歴～地理
 第6回：実習事前 学生模擬授業(3) 地歴～世界史
 第7回：実習事前 学生模擬授業(4) 地歴～日本史(前近代)
 第8回：実習事前 学生模擬授業(5) 地歴～日本史(近現代)
 第9回：実習事前 学生模擬授業(6) 公民
 第10回：実習事後 学生模擬授業(1) 商業
 第11回：実習事後 学生模擬授業(2) 地歴～世界史
 第12回：実習事後 学生模擬授業(3) 地歴～日本史
 第13回：実習事後 学生模擬授業(4) 公民
 第14回：実習事後 学生模擬授業(5) 中学社会
 第15回：実習全体の体験交流と総括

授業外学習(予習・復習)

学習指導案の事前作成・検討(指導)

教科書

中学校学指導要領：社会(文科省)、高等学校学習指導要領：地理歴史・公民・商業(文科省)

参考書

「資料で語る鹿児島県の歴史」(鹿児島県中学校社会科研究科2010年)他、適宜指示する

成績の評価基準

指導案と模擬授業(4割)、授業分析への参加・所感(2割)、総括レポート(4割)

オフィスアワ -

講義終了後・非常勤講師室

アクティブ・ラーニング

その他;

アクティブ・ラーニング(その他の内容)

模擬授業および授業分析における対話・討論

アクティブ・ラーニング(授業回数)

教科授業においては、ほぼ毎回(14～15回)

備考(受講要件)

- (1) 演習にあたっては、問題提起(問いかけ)に対し、積極的に応答し、自ら討論に参加することを重視する(評価する)。このこと自体が、教職にあってはもちろんのこと、これからの世の中を生きる上で大切な資質となると考えるゆえ。
- (2) 数名ずつのグループ編成を行う。

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード

FHS-AAJ4403

科目名

教育実習事前・事後指導(国語)

英語名

Pre-Instruction and Review of Practice Teaching

開講学科

コース

法文学部共通 新旧共通

授業科目区分

授業形態

単位数

開講期

教職科目

演習

1単位

4年

担当教員

連絡先(TEL)

連絡先(MAIL)

千々岩弘一

090-1871-6374

chijiwa@soc.iuk.ac.jp

共同担当教員

前後期

前期

授業概要

まず、中学校・高等学校の国語科教育に関する基本的な認識を再確認する。これを踏まえて、学習者の実態把握の方法や教材分析の方法、指導計画の作成方法などの確認を通して国語科授業構想力を育成する。さらに、教育実習を経た段階で、国語科教育に関して認識した諸課題を確認させる。

学修目標

1. 中学校・高等学校の国語科に関する基本的認識の再確認。
2. 中学校・高等学校の国語科授業構想力の育成。
3. 中学校・高等学校の国語科教育に関する諸課題の確認。

授業計画

<教育実習前>

- 第1回 オリエンテーション(本科目の目標・内容・方法・評価などについての説明)
- 第2回 現行「学習指導要領」に基づく中学校国語科の性格
- 第3回 現行「学習指導要領」に基づく高等学校国語科の性格
- 第4回 国語科授業構想の方法1(国語科授業構想の手順の説明、学習者の実態把握の意義と方法)
- 第5回 国語科授業構想の方法2(学習指導目標・内容の意義と仮設の方法)
- 第6回 国語科授業構想の方法3(教材選定の意義と方法、教材分析の意義と方法、学習指導目標・内容の措置)
- 第7回 国語科授業構想の方法4(学習指導方法の解説-「発問」・「板書」の意義と方法)
- 第8回 国語科授業構想の方法5(学習指導方法の解説-ICT機器活用の意義と方法)
- 第9回 国語科授業構想の方法6(学習計画の立案の意義と方法、学習指導案の構造の解説)
- 第10回 国語科授業構想の方法7(学習指導案作成に関する補説)
- 第11回 受講生(A君)による教育実習の総括と課題の提示。これを踏まえての討議と解説。
- 第12回 受講生(Bさん)による教育実習の総括と課題の提示。これを踏まえての討議と解説。
- 第13回 受講生(C君)による教育実習の総括と課題の提示。これを踏まえての討議と解説。
- 第14回 受講生(Dさん)による教育実習の総括と課題の提示。これを踏まえての討議と解説。
- 第15回 中学校・高等学校における国語科教育に関する総括と受講者各自の課題の確認。

定期試験

授業外学習(予習・復習)

各自の課題意識に基づいて、必要な資料や情報を収集しておくこと。

教科書

「中学校学習指導要領解説国語編」・「高等学校学習指導要領国語編」
必要に応じてプリントを配布する

参考書

『新訂 国語科教育学の基礎』(森田信義・山元隆春・山元悦子・千々岩弘一著、溪水社、平成22年)

成績の評価基準

1. 受講態度(10%)
2. 体験談の報告内容(45%)

3. レポートの質(45%)

オフィスアワ -

アクティブ・ラーニング

グループワーク; プレゼンテーション;

アクティブ・ラーニング(その他の内容)

アクティブ・ラーニング(授業回数)

15回中15回

備考(受講要件)

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
FHS-AAJ4402			
科目名			
教職実践演習			
英語名			
開講学科		コース	
法文学部共通 新旧共通			
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
教職科目	演習	2単位	4年
担当教員	連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)	
教務委員長、千々岩弘一、橋本文孝、川野恭司			
共同担当教員		前後期	
		後期	
授業概要			
<p>(1) 学ぶ楽しさを味わわせる学習指導のありかたを考える。</p> <p>(2) 履修カルテに基づき自己診断を実施し、教員としての資質と能力を受講者自身に分析させ、個々の実践的指導力とその問題点について自覚させる。</p> <p>(3) 受講生が本学部で修得した専門知識を各教科教育にどのように生かすかを考えさせる。</p> <p>(4) (2) 及び (3) を各自でまとめ、レポートとして提出させることにより、教員としての自覚を高めることを目指す。</p>			
学修目標			
<p>将来教員となる上で必要な「教職の理解」、「連携協働力、自己改善力の育成」、「学習者理解」、「構想力、展開力、評価力等」、「教科領域等の内容理解」、「実践的なコミュニケーション能力」、「教員として求められるリーダーシップ」等に関して、自らの修得状況や課題となっている点を明らかにするとともに、不足している点を補い、自己改善力を身につける。具体的には、「履修カルテ」に強化すべき点として指摘されている事項や教育実習を通して気づいた課題を振り返りながら、教員としての資質能力を高める。また、学生の取得希望免許種に応じた実践力の向上も具体的に図る。</p>			
授業計画			
<p>本授業は、共通開設部分と個別開設部分とに分かれて授業を行う。</p> <p>共通開設部分は、法文学部、理学部、工学部、農学部、水産学部の5学部合同で行う(第1回、第12-15回)。</p> <p>個別開設部分は、法文学部のみで行う(第2-11回)。</p>			
<p>第1回 全体オリエンテーション(教職の意義及び求められる資質について、教職履修カルテを活用した自己省察を行う)</p> <p>第2回 授業に特化した自己課題について</p> <p>第3回 教科の特質や内容に応じた授業の構成や進め方:理論</p> <p>第4回 教科の特質や内容に応じた授業の構成や進め方:応用</p> <p>第5回 指導案作成1(グループワーク)</p> <p>第6回 指導案作成2(グループワーク)</p> <p>第7回 指導案作成3(グループワーク)</p> <p>第8回 模擬授業と授業研究1</p> <p>第9回 模擬授業と授業研究2</p> <p>第10回 模擬授業と授業研究3</p> <p>第11回 自己課題の振り返り</p> <p>第12回 特別支援教育の実際1(発達障害の理解と支援について)</p> <p>第13回 特別支援教育の実際2(特別支援教育コーディネーターの役割と校内委員会について)</p> <p>第14回 保健安全指導の実際</p> <p>第15回 総括講義、授業全体の振り返り</p>			
授業外学習(予習・復習)			
<p>授業で扱う資料、参考文献の当該部分を事前に予習しておくことが望ましい。また、受講した授業内容について復習することが望ましい。模擬授業準備~指導案事前作成・検討(指導)</p>			

教科書

関連する学生指導要領解説（文部科学省）を参考書として使用する。
その他、必要に応じて適宜指示する。

参考書

関連する学生指導要領解説（文部科学省）を参考書として使用する。
その他、必要に応じて適宜指示する。

成績の評価基準

各講座での取り組みにおいて、自己の課題の解決の状況と身につけるべき資質能力の達成度を評価する。
共通開設部分（30%）、個別開設部分（70%）の結果を考慮して評価する。

オフィスアワー

金曜 5 限

アクティブ・ラーニング

グループワーク；ディベート；プレゼンテーション；学習の振り返り（ミニッツ・ペーパー等）；

アクティブ・ラーニング（その他の内容）

模擬授業および授業分析における対話・討論

アクティブ・ラーニング（授業回数）

15回中15回

備考（受講要件）

教育実習の単位を修得した者に限る。

なお、本科目の単位を修得するには以下（1）および（2）を満たしていなければならない。

- （1）全体開設部分 5 分の 4 以上の出席
- （2）学部個別開設部分の 3 分の 2 以上の出席

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
科目名			
現代社会を探索			
英語名			
開講学科		コース	
法文学部共通 新旧共通			
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法文学部・法文アドバンス ト科目I(選択)	講義	2単位	1~4年
担当教員		連絡先(TEL)	連絡先(MAIL)
中島宏・鳥飼貴司・渡邊弘・原田いづみ		099-285-7633(中島)	h-nakaji@leh.kagoshima-u.ac.jp(中島)
共同担当教員		前後期	
		前期	
授業概要			
<p>私たちが生きる「現代の社会」とはどのような社会なのだろうか。この科目では、社会にある問題の中から時事的なトピックを取り上げ、社会の主体としてその問題に取り組むために必要な知識や考え方を探っていく。全体を大きく4つのテーマに分け、各テーマごとに3つのトピックを扱っていく。学生は事前に示される課題を実施した上で講義に参加し、教員による講義のほか、他の受講者や教員とのディスカッションなども通じて思考を深める。現代社会を自ら探るための手がかりを掴んでもらうための科目である。</p>			
学修目標			
<ul style="list-style-type: none"> ・自分たちが生きる社会の様々な問題を読み解くための知識と方法論を獲得する。 ・現代における社会問題を概観し、その構造と背景を理解する。 ・社会を変えていく担い手のひとりとして主体的な評価や判断ができるようになる。 ・様々な情報の価値を正しく見極め、必要な情報を獲得する能力を身につける。 			
授業計画			
<p>第1回 イントロダクション 第2回 犯罪(1) 科学的捜査 第3回 犯罪(2) 裁判 第4回 犯罪(3) 子どもの権利 第5回 子ども(1) 格差社会と子ども 第6回 子ども(2) 子どもの精神的自由 第7回 子ども(3) 教育政策の決定方法 第8回 ジェンダー(1) 性と暴力 第9回 ジェンダー(2) 性と平等 第10回 ジェンダー(3) 性的指向と少数者の権利 第11回 中間討論 第12回 社会をつくる・変える(1) 税制・財政と社会の変化 第13回 社会をつくる・変える(2) 社会を変える人々 第14回 社会をつくる・変える(3) 社会を変える方法 第15回 総括</p>			
授業外学習(予習・復習)			
<p>予習...毎回事前に示される予習課題を実施し、講義当日までにmanabaで提出する(60分) 復習...毎回の講義へのコメントをmanabaで提出する(15分) この他にレポート課題3回(講義内容の復習に加え新書3冊の熟読が必要) 予習・復習に必要な時間の合計については、文部科学省の定める大学設置基準に準拠する。</p>			
教科書			
特に定めない。ただし、レポート作成のための課題文献をmanabaで各回1冊ずつ示す。			
参考書			
各回の参考文献(レポートの課題文献)は追ってmanabaで告知する。			

本講義の全体を通じての参考文献として、以下のものがある。

- 1) 山本義隆『近代日本一五〇年 - 科学技術総力戦体制の破綻』(岩波新書)(2018年)
- 2) 井手英策・今野晴貴・藤田孝典『未来の再建 - 暮らし・仕事・社会保障のグランドデザイン』(ちくま新書)(2018年)
- 3) 見田宗介『現代社会はどこに向かうか - 高原の見晴らしを切り開くこと』(岩波新書)(2018年)
- 4) 高橋源一郎『ぼくらの民主主義なんだぜ』(朝日新書)(2015年)
- 5) 村上宣寛『あざむかれる知性 - 本や論文はどこまで正しいか』(ちくま新書)(2015年)
- 6) 本田由紀『もじれる社会』(ちくま新書)(2014年)

成績の評価基準

授業への参加状況...40%

毎回、a)予習課題を事前提出、b)講義への出席、c)講義後(72時間以内)のコメント提出。以上のaからcをすべて行った学生について当該授業回に参加したものと認め、上記a)b)の内容を評価する。全体の3分の2以上について参加が認められない場合には失格とする。

レポート課題60点

この講義を構成する4つのテーマ(犯罪、子ども、ジェンダー、社会をつくる・変える)のうち3つを選び、講義で示す課題文献(新書またはこれと同じ水準のもの)を読んだ上で、講義内容に関する2000字以上のレポートをそれぞれ作成する(各20点)。なお、意欲のある学生は、4つのテーマすべてについてレポートを提出することもできる。その場合には、上記に加えてさらに20点を上限として単純加点する(4通目のレポートの点数を、100点満点を超えてそのまま加点する)。

オフィスアワ -

追って指定する。

アクティブ・ラーニング

グループワーク; ディベート; 学習の振り返り(ミニッツ・ペーパー等);

アクティブ・ラーニング(その他の内容)

アクティブ・ラーニング(授業回数)

15回中13回

備考(受講要件)

- (1) 1年次から履修可能。ただし、「アドバンス科目」であるため、一部に高度な内容を含むことがある。
- (2) 主体的に学び問う意欲がある者のみを「学生」と認める。

実務経験のある教員による実践的授業

2回程度、実務家教員による講義を予定する。

ナンバリングコード			
AAX2602			
科目名			
キャリア論			
英語名			
Career Planning			
開講学科		コース	
法文学部共通 新旧共通			
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法文学部・法文アドバンス ト科目I(選択)	講義	2単位	2~3年
担当教員		連絡先(TEL)	連絡先(MAIL)
金子満			k-326@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
		後期	
授業概要			
様々な領域で実際に仕事をしている方々の話を聞くことによって、大学での学びと社会生活の関連を考える。			
学修目標			
社会生活と大学での学びの関係を認識し、将来的な進路を考えていくための基本的な素養を身につける。			
授業計画			
おおよそ下記の構成を予定して開講する。			
第1講「ESの書き方」	リクルートキャリア		
第2講「SPIの活用等」	リクルートキャリア		
第3講「就職活動に向けて」	鹿児島大学就職支援センター		
第4講「(仮)私達の労働環境」	鹿児島県労働委員会		
第5講「法律専門職の仕事1-弁護士」	弁護士		
第6講「法律専門職の仕事2-税理士・労務士」	税理士会(予定)、社会保険労務士会(予定)		
第7講「法律専門職の仕事3-不動産鑑定士・土地家屋調査士」	不動産鑑定士協会(予定)、土地家屋調査士会(予定)		
第8講「未定」	外部省講座		
第9講「未定」	共同通信社鹿児島支局		
第10講「未定」	アートディレクター・デザイナー		
第11講「未定」	ハローワークかごしま		
第12講「地域金融機関の役割」	鹿児島銀行人事部		
第13講「(仮)ゆうちょ銀行会社概要」	ゆうちょ銀行鹿児島店		
第14講「(仮)就職とは?キャリアとは?働くとは?」	株式会社下堂園		
第15講「(仮)働くということ」	九州旅客鉄道株式会社		
授業外学習(予習・復習)			
予習: 講義テーマをもとに、自分なりの考えをまとめておくこと			
復習: 講義資料をもとに関連する事柄について調べ、講義内容について理解を深めること			
教科書			
ほぼ毎回、資料を配布			
参考書			
必要に応じて適宜指示をする			
成績の評価基準			
2/3以上の出席者を評価対象とする。			
毎回提出してもらうミニレポートにより評価する。			
オフィスアワ -			
設定なし。事前にアポイントメントをいただければ、その都度対応します。			
アクティブ・ラーニング			
学習の振り返り(ミニッツ・ペーパー等);			
アクティブ・ラーニング(その他の内容)			

アクティブ・ラーニング（授業回数）

15回中15回

備考（受講要件）

- ・ 出欠や提出物は、manabaおよびresponを通じて行うことを前提としているが、使用ができない事情がある受講者には個別に対応するので、最初の講義の際に必ず申し出ること。
- ・ 各講義はコーディネーター教員が担当する。

実務経験のある教員による実践的授業

公務員や地元企業の従業員、弁護士、税理士などを講師として招き、それぞれの仕事の内容、やりがい、魅力などを講義してもらおう。それを通じて、受講生には自身のキャリアについて、大学での学びと関連させつつ、考えを深めてもらおう。

ナンバリングコード			
AAX2502			
科目名			
まちづくり論			
英語名			
Community Development and Town Management			
開講学科		コース	
法文学部共通 新旧共通			
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法文学部・法文アドバンス ト科目Ⅰ(選択)	講義	2単位	2～4年
担当教員		連絡先(TEL)	連絡先(MAIL)
平井一臣		285-8855	isshin@leh.kagoshima-u.ac.jp メールには、必ず学籍番号と氏名を明記し、パソコンからのメールを拒否をしないように注意して下さい。
共同担当教員		前後期	
鹿児島市との包括連携協定に基づき、鹿児島市の職員の協力を得て行います。		後期	
授業概要			
<p>(1)鹿児島市が24年度に策定した第五次総合計画の6つの基本目標に基づく政策について各テーマを専門とする職員及び担当講師が授業，ワークショップを担当します。</p> <p>(2)当該授業により，市政への理解と関心を高め，学生の市政への参画を推進するとともに，将来のまちづくりを担う人材を育成することを目的とします。</p> <p>(3)「受講生の声」等、過去の記録が法文学部のHP上で公開されています。受講に当たっては、是非参考にしてください。</p> <p>http://kadai-houbun.jp/education-program/advanced/machidukuri/</p>			
学修目標			
<p>当該授業では，以下のことを学修目標とします。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 行政の仕組みや役割が理解できる。 2. 鹿児島市のまちづくりの現状や課題が理解できる。 3. 鹿児島市の現状や課題を踏まえた改善策を提案できる。 4. 地域公共政策の立案プロセスを理解できる。 			
授業計画			
<p>授業計画は、以下のとおりです。ただし，鹿児島市の都合で変更する場合があります。</p> <p>第1回 ガイダンス，「今日の地方自治体と政策」【担当講師】</p> <p>第2回 「鹿児島市の観光について（インパウンドを中心に）」（1）講義及びグループワーク【鹿児島市観光プロモーション課】</p> <p>第3回 「鹿児島市の観光について（インパウンドを中心に）」（2）グループワーク及び発表【鹿児島市観光プロモーション課】</p> <p>第4回 「鹿児島市のゴミ問題について（有料化・無料化を中心に）」（1）講義及びグループワーク【鹿児島市資源政策課】</p> <p>第5回 「鹿児島市のゴミ問題について（有料化・無料化を中心に）」（2）グループワーク【鹿児島市資源政策課】</p> <p>第6回 「鹿児島市のゴミ問題について（有料化・無料化を中心に）」（3）発表【鹿児島市資源政策課】</p> <p>第7回 「鹿児島市の都市計画について（本港区の活用を中心に）」（1）講義及びグループワーク【鹿児島市都市計画課】</p> <p>第8回 中間総括【担当講師】</p> <p>第9回 「鹿児島市の都市計画について（本港区の活用を中心に）」（2）グループワーク及び発表【鹿児島市都市計画課】</p> <p>第10回 グループワーク全体のまとめ（1）【担当講師】</p>			

第11回 グループワーク全体のまとめ（２）【担当講師】

第12回 意見交換会にむけての準備（１）【担当講師】

第13回 意見交換会にむけての準備（２）【担当講師】

第14回 意見交換会にむけての準備（３）【担当講師】

第15回 鹿児島副市長との意見交換会

～若者の視点からまちづくりの提言を行う～

授業外学習（予習・復習）

（予習）

- 各授業の前に、鹿児島市のホームページを閲覧し、授業に関連する政策の内容を確認しておくこと。
- 事前に配付する資料を参考に、次回の授業の予習を欠かさず行うこと。
- 鹿児島市の政策に関連する報道（新聞、テレビなど）について、こまめにチェックし、関心をもって接すること。

（復習）

課題レポートの作成やプレゼンテーションの準備のため、必要に応じて、鹿児島市の関連部署へのヒアリングを行うこと。

教科書

あらかじめ講義に必要な資料を配付します。

参考書

講義のなかで適宜紹介します。

成績の評価基準

- 「課題レポート」並びに「グループ内での議論及び発表の内容」により行います。
- 評価割合は、講義のコメントシート（グループ内での議論及び発表の内容を反映したコメントシートを提出してもらい点数化します）50%、課題レポート50%です。

したがって、出席回数 が少なく、コメントシートが提出できない場合、レポートが満点でも合格点は得られません。

- 課題レポートは、「インバウンドを中心とした鹿児島市の観光政策」、「有料化を中心とした鹿児島市のゴミ政策」、「本港区の活用を中心とした鹿児島市の都市計画」、あるいは、その他自身が興味をもつ政策の中から当該課題に対する改善策を提案するものとします。

オフィスアワー

オフィスアワーは特に定めず対応します。メールであらかじめ訪問の内容と希望訪問日時を連絡して下さい。

アクティブ・ラーニング

グループワーク；プレゼンテーション；

アクティブ・ラーニング（その他の内容）

アクティブ・ラーニング（授業回数）

15回中14回

備考（受講要件）

1. この授業を履修するには、強い意思をもち主体的・積極的に参加することが必要です。全ての回に参加するよう心がけ、また、授業外学習も十分に行ってください。将来、地域公共政策の立案者として活躍を望む学生の参加を歓迎します。

2. この授業では、グループで議論を行い、その成果を発表し、課題レポート作成のために、必要に応じて鹿児島市の担当部署に対してヒアリングを実施するなど、各学生が主体的・積極的に学ぶ姿勢をもつことが求められます。

3. グループワークの成果を発表するためには、課外での活動を含め、グループでの十分な準備が必要です。

4. 鹿児島市へのヒアリング調査を実施する場合には、ヒアリング調査事項を作成し、鹿児島市の担当者の方と日程を調整し、効率よく行う必要があります。

5. 副市長との意見交換会では、自薦あるいは講師が指名する数名の学生が副市長への提言をとりまとめ、関係部署との事前協議を行います。また、当日の運営もすべて（司会も含む）学生が行います。

6. 受講を希望する者は、初回到講義の進め方及び評価方法について説明するので必ず出席して下さい。
7. 講義資料は、当日講義に参加した学生のみに配布します。後日配布はしないので十分注意してください。
8. 提出された課題レポートは、鹿児島市の政策立案の参考資料とするため、その写しを全て提供します。
9. 提出のあった課題レポートのうち、とくに優秀であると認められたものについては、鹿児島市役所でのプレゼンテーションを予定しています。なお、昨年度の様子は、大学のHPで紹介されています。

実務経験のある教員による実践的授業

鹿児島市が24年度に策定した第5次総合計画の6つの基本目標に基づく環境政策、観光政策、産業支援政策、危機管理政策など主要政策の内容及び課題について、鹿児島市の職員及び自治体職員として政策立案の実務経験を有する授業担当者が分担し、講義を行う。そのうち、各政策の解決すべき課題についてのワークショップを実施し、その成果についてのプレゼンテーションを行う。15回の授業のうち、鹿児島市の職員が7回から8回程度の講義を担当し、授業担当者が6回から7回程度の講義を担当する。最終回は、学生が講義で身につけた課題発見・課題解決能力を生かし、鹿児島市長を招いて、直接、政策提言をする機会を設けている。

地域心理支援論（公認心理師の職責2）（旧 心理学のしごと）
ナンバリングコード

科目名

地域心理支援論（公認心理師の職責2）（旧 心理学のしごと）

英語名

開講学科

コース

法文学部共通 新旧共通

授業科目区分

授業形態

単位数

開講期

法文学部・法文アドバンス
ト科目I（選択）

講義

2単位

2～4年

担当教員

連絡先（TEL）

連絡先（MAIL）

富原 一哉・安部 幸志・飯田 昌
子・平田 祐太郎・米田 孝一・山
崎 真理子

tomihara@leh.kagoshima-u.ac.jp

共同担当教員

前後期

金坂 弥起・吉村 隆之・久保 陽子

後期

授業概要

心理学の専門性を生かした職業や業務を紹介することにより、心理学の知見を生かした将来のキャリアの見通しと目標設定が可能となるようにするとともに、心理学に対する学習意欲促進を図る。

学修目標

1. 心理の専門職（公認心理師，臨床心理士等）の役割について理解する。
2. 心理職の義務と倫理について理解する。
3. 心理支援を要する者への安全確保について理解する。
4. 保健医療、福祉、教育その他の分野における心理職の具体的な業務と連携について理解する。

授業計画

講義内容や順番は変更されることもあるので注意すること。

第1回 「ガイダンス」（富原）

第2回 「地域における心理職（公認心理師）の役割」（富原）

第3回 「心理に関する支援を要する者等の安全の確保」（飯田）

第4回 「司法領域における心理職の役割（家庭裁判所調査官）」（ゲスト講師）（富原）

第5回 「精神科医療領域における臨床心理士の仕事1-D.L.ローゼンハン（1973）による偽患者実験をめぐって」（金坂）

第6回 「精神科医療領域における臨床心理士の仕事2-精神科病院における臨床心理士の役割と意義」（金坂）

第7回 「生涯学習への準備」（安部）

第8回 「福祉領域における臨床心理士の仕事1 - 児童福祉領域」（久保）

第9回 「福祉領域における臨床心理士の仕事2 - その他の福祉領域」（久保）

第10回 「産業領域における医療とのつながり-リワークプログラム」（吉村）

第11回 「産業領域における医療とのつながり-ストレスマネジメント」（吉村）

第12回 「教育領域における心理職の役割（ネットワークを活用した心理支援の実際）」（平田）

第13回 「公認心理師の法的義務及び倫理」（米田）

第14回 「マーケティング、リサーチにおける消費者心理学の活用」（山崎）

第15回 「まとめ」（富原）

授業外学習（予習・復習）

各回の授業テーマについて講義内容を復習するとともに、自ら情報を収集するなどして社会における心理学の役割を考察すること。

教科書

なし。

授業の中で適宜プリントを配布する。

参考書

成績の評価基準

各回に出されるレポートによって評価する。未提出のレポートがあると大きく成績評価が下がるので注意のこと

。また、止むを得ず授業を欠席する際は、その1週間後までに欠席した回の担当の先生に連絡を取り、別途課題を出してもらうこと。それ以降の申し出は受け付けない。

オフィスアワ -

月曜2限(研究室)。ただし、できるだけメールにて事前に連絡してください。

アクティブ・ラーニング

アクティブ・ラーニング（その他の内容）

アクティブ・ラーニング（授業回数）

備考（受講要件）

既にこの授業の単位を修得している者の繰り返しの単位修得は認めない。

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
FHS-AAA3601			
科目名			
マスコミ論(旧 マスコミ論?)			
英語名			
Mass communication theory			
開講学科		コース	
法文学部共通 新旧共通			
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法文学部・法文アドバンス ト科目I(選択)	講義	2単位	2~4年
担当教員		連絡先(TEL)	連絡先(MAIL)
宮下正昭		090-8295-6853	mk-miya@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
本学教員のほか、在鹿児島マスメディアの報道責任者・現役記者など		後期	
授業概要			
本学部と在鹿マスメディア13社が協力して開講。マスメディアの仕組み、地域メディアの役割や今日的課題、地域社会・世界を見る目、情報を読み解く力を身につける。また就職して働くことの意味や心構えを学ぶ。			
学修目標			
(1) 新聞社・通信社の仕組み、記者・アナウンサー・キャスターの仕事など、報道の現場の姿を把握し、リテラシー能力を向上できる。			
(2) マスメディアの抱える課題とその解決への努力を理解することにより、就職活動に生かすことができる。			
(3) マスメディアの役割・構造を理解し、現代社会での「言論の自由」について認識を深めることができる			
授業計画			
第1回	新聞と放送局 現状とこれから	法文学部教員	
第2回	全国紙の報道1	朝日新聞鹿児島総局長	
第3回	全国紙の報道2	読売新聞鹿児島支局長	
第4回	地方紙の報道	南日本新聞元記者	
第5回	地域紙の役割	南海日日新聞鹿児島総局記者	
第6回	通信社の仕事1	共同通信鹿児島支局長	
第7回	通信社の仕事2	時事通信鹿児島支局長	
第8回	民放ローカル局の役割1	MBC報道局長	
第9回	民放ローカル局の役割2	KTS報道部担当部長	
第10回	民放ローカル局の役割3	KKB報道情報センターGE	
第11回	民放ローカル局の役割4	KYT報道制作局次長	
第12回	NHKの役割	NHK鹿児島放送局放送部副部長	
第13回	放送局のイベント	KTS営業局長	
第14回	放送局のネット展開	MBCデジタル担当局長	
第15回	若手記者、アナと語る	新聞2社と放送2社から各2人	
授業外学習(予習・復習)			
できるだけ毎日、新聞を読み、テレビのニュースや報道特集番組を視聴し、ポータルサイトのニュース記事をチェックするなど、ニュース感覚を磨く努力をすること。			
教科書			
特に使用しない。適宜資料を配付する。			
参考書			
講義中に適宜紹介する。			
成績の評価基準			
毎回の講義に対する「感想シート」(60%)と、期末レポート(40%)を総合評価する。6回以上無断欠席したら単位を与えない。			
オフィスアワ -			
金曜午後 事前に連絡を			

アクティブ・ラーニング

ディベート; 学習の振り返り(ミニッツ・ペーパー等);

アクティブ・ラーニング(その他の内容)

アクティブ・ラーニング(授業回数)

15回中15回

備考(受講要件)

(1) この授業の単位を取得したもので、後期末の総括授業でのマスコミ論演習の受講オリエンテーションに出席したものに限り、来年前期の「マスコミ論演習」を受講できる。「マスコミ論演習」は実践型の実習が中心。

(2) 提示した授業計画はメディア各社との協議によって変更することがある。

実務経験のある教員による実践的授業

鹿児島大学法文学部と在鹿マスメディア13社が協力して開講する講義である。マスメディアの仕組み、地域メディアの役割や今日的課題、地域社会・世界を見る目、情報を読み解く力を身につける。また就職して働くことの意味や心構えも学ぶことができる。

ナンバリングコード			
科目名			
アクティブ・ゼミ（企画・編集）			
英語名			
開講学科		コース	
法文学部共通 新旧共通			
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法文学部・法文アドバンス ト科目I（選択）	演習	2単位	2～4年
担当教員		連絡先（TEL）	連絡先（MAIL）
菅野康太		099-285-7624	canno@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
		前期	
授業概要			
<p>< 授業の目的 ></p> <p>本授業では、webや紙媒体を用いた情報発信を実践する。鹿児島では、様々なグラスルーツの活動が行われているが、それをあまり知らない大学生も多い。一方で、そのような活動をしている地域の人々は、学生の参加やアイデアを求めている。地域で行われている新しい取り組みを知ることは、自身のキャリアデザインにも繋がるだろう。また「知る」ための最良の手段は自ら「つくる」ことでもある。各受講生の興味関心に合わせ、鹿児島で行われているさまざまな取り組みを取材し、それを記事にする。もしくは、各受講生の興味関心に合わせ、この地域や現代社会の課題を洗い出し、その解決策を探るために取材を行う。必要であれば、イベントを企画・開催し、その内容をレポート記事にするなどの方法も考えられる。また、このような活動を行う際には、根拠の妥当性が重要となる。その妥当性は、学術的な知見や調査によって担保されるということを他の授業などでも指導された経験があるだろう。それらを活かし、取材や執筆などを行うことも目指す。この授業を通して、大学での学びを社会で活かすための実践をしようと思っ</p> <p>どのようなテーマを選択するかは、各受講生の希望を聞いて決定するが、全てを一から作り上げることは難しいため、学外の協力者の活動や媒体に参加し、記事の執筆などを行える体制を準備している。</p>			
<p>< 今年度の主たる活動 ></p> <p>今年度の主たるテーマは、地球温暖化対策の一環として鹿児島市が取り組む「COOL CHOICE」に関する情報誌の作成のための企画案の作成。「COOL CHOICE」とは、2030年度に温室効果ガスの排出量を2013年度比で26%削減するという国の目標達成のため、省エネ・低炭素型の製品への買換・サービスの利用・ライフスタイルの選択など、地球温暖化対策に資する「賢い選択」をしていこうという国の取組のこと。環境省が中心となり様々な自治体に取り組んでいる活動だが、鹿児島市では「COOL CHOICE」の取組の一環として、昨年度、市民参加型のワークショップにてフリーペーパーの製作を行った。この活動には、鹿児島大生も参加している。今年度はこのような活動を鹿児島市とともに考え、コミュニティデザイン・科学コミュニケーションなど、授業で学んだことを活かしながらフリーペーパー製作やイベント立案などを行う。</p> <p>鹿児島市 COOL CHOICEのHP https://www.city.kagoshima.lg.jp/kankyo/kankyo/kanseisaku/kagoshimacitycoolchoice.html フリーペーパーのダウンロードはこちらから http://www.city.kagoshima.lg.jp/kankyo/kankyo/kanseisaku/coolchoicejyohoshi.html</p> <p>クールチョイス鹿児島市のHP https://cool-choice.jp 鹿大法文のHPでの活動報告 https://kadai-houbun.jp/seminar_info/181018-2/</p>			
<p>* 受講生本人の興味関心に合わせ、これ以外の活動を行うことも可能</p>			
<p>< 学外協力者 ></p> <p>本年度の学外協力者を以下に示す。</p>			

鹿児島市環境政策課

H30より環境省と連携し、COOL CHOICEに取り組んでいる。

SILASU

アートの視点で鹿児島を探索する活動を行う任意団体。菅野もメンバーの1人。KAGOSHIMA Arts and/or Science など、芸術、科学、コミュニティデザインなどに関するイベント企画やwebでの発信を行なっている。この関連イベントやwebでの発信の企画・執筆に関わることが可能。広報、コミュニティデザイナー、デザイナー、アーティストで構成される。

<https://bit.ly/20PVx11>

Judd.

株式会社Judd.はフリーペーパー「Judd.」を継続発行しており、鹿児島大学も取り上げている。また、H30には、環境省が推進する「クールチョイス」という地球温暖化対策に対する取り組みに関し、鹿児島市が市民参加型ワークショップによってフリーペーパーを制作している（本学学生も参加）。その編集をJudd.が担っていた。このようなフリーペーパー制作のノウハウを学ぶことが可能。

https://kadai-houbun.jp/seminar_info/181018-2/

<http://www.judd.jp/2018/07/09/judd-no-13-かごしまのわたしたちの周辺/>

GMOペパボ

「もっとおもしろくできる」という企業理念を掲げ、レンタルサーバー「ロリポップ！」やハンドメイドマーケット「minne」、などの個人向けインターネットサービスを提供。2019年2月、鹿児島に新たな拠点を設立し、鹿児島ユナイテッドFCのオフィシャルトップパートナーや「THE GREAT SATSUMANIAN HES」へのIT支援も行っている。

<https://pepabo.com>

ash Satsuma Design & Craft Fair

鹿児島を拠点とするクラフト作家やデザイナーのプロダクトが県内各地で展示・販売される行事。食器や伝統工芸品、衣類、グラフィックデザインまで、多岐にわたる展示が行われる。小売店の若い経営者などの参加も多い。このイベントの取材や企画参加が可能。

学修目標

- ・企画立案の際に、その企画が重要である理由を当該コミュニティの背景から論理的に説明できるようになる。
- ・情報発信を自らできるようになる。
- ・学術的背景や方法論に基づき、情報の妥当性を精査し、文章作成ができるようになる。
- ・分かりやすさと正確さが両立した情報発信ができるようになる。

授業計画

- 第1回 オリエンテーション：科学コミュニケーションに見る、学術とメディア
- 第2回 コミュニティデザイン、広報、デザイン、アートの現場1（外部講師）
- 第3回 コミュニティデザイン、広報、デザイン、アートの現場2（外部講師）
- 第4回 コミュニティデザイン、広報、デザイン、アートの現場3（外部講師）
- 第5回 行政の現場から：コミュニティデザイン志向の鹿児島市の取り組み（学部講師：鹿児島市）
- 第6回 企画会議1（企画案の発表）
- 第7回 企画会議2（企画案の発表）
- 第8回 企画会議3（企画の決定）
- 第9回 進捗報告1
- 第10回 進捗報告2
- 第11回 進捗報告3
- 第12回 進捗報告4
- 第13回 進捗報告5
- 第14回 成果発表1
- 第15回 成果発表2

授業外学習（予習・復習）

取材、執筆、イベント参加など、授業外で行う必要がある。

教科書

なし
参考書
菅野が執筆したサイエンスコミュニケーションに関する論考 http://synodos.jp/authorcategory/synapseproject
成績の評価基準
企画立案および最終成果物の記事内容をレポートとして評価する
オフィスアワ -
随時（要メール連絡）
アクティブ・ラーニング
グループワーク；フィールドワーク；プレゼンテーション；その他；
アクティブ・ラーニング（その他の内容）
P B L（プロジェクトベースの学習）、取材、イベント企画、記事編集・執筆
アクティブ・ラーニング（授業回数）
15回中15回
備考（受講要件）
<ul style="list-style-type: none"> ・履修希望者は事前にメール連絡をください。 ・募集人数は最大15人とします（登録順）。 ・何かを調べたい、発信したい、学外の活動に参加したいという方を歓迎します。 ・大学での学びを社会で活かす方法を模索している方を歓迎します。 ・他学部の方も歓迎します。 ・休日などのイベント参加を授業参加に振り返ることがあります。 ・取材などは授業時間外となります。 ・移動など費用がかかる場合、学外協力者の運営費で協力いただくこともありますが、受講生の完全自主企画などの場合、費用は捻出できない可能性が高いです。通学範囲内の取材にするなど工夫が必要になる可能性があります。 ・外部講師担当回は、講師の都合により開催回が前後する可能性があります。
実務経験のある教員による実践的授業
外部講師が民間の実務経験者になる可能性が高い

ナンバリングコード			
FHS-AAA2505			
科目名			
地域科学特殊講義			
英語名			
Special Lecture of regional science			
開講学科		コース	
法文学部共通 新旧共通			
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法文学部・法文アドバンス ト科目I(選択)	講義	2単位	2~4年
担当教員		連絡先(TEL)	連絡先(MAIL)
石塚孔信 北崎浩嗣 小林善仁 吉田明弘 岩船昌起 金子満		099-285-7586(石塚)	ishiduka@leh.kagoshima-u.ac.jp(石塚)
共同担当教員		前後期	
上記の教員		前期	
授業概要			
・近年、「地域」は現代社会の大きな変動の中で、いろいろな観点から関心を呼び、注目されている。この「地域」のことを総合的に分析し、理解することによって、今後のあり得べき地域政策を考える力を学生諸君に身につけてもらう。			
学修目標			
<ul style="list-style-type: none"> ・「地域」とは何かを理解する。 ・「地域」を総合的に分析するためのツールを身につける。 ・「地域」の問題点や課題を洗い出し、認識する。 ・今後のあり得べき地域政策を考える。 			
授業計画			
第1回	オリエンテーション・「地域分析の方法(計量分析の手法について) (石塚)		
第2回	「中心市街地の現状と課題」(石塚)		
第3回	「観光資源としての地域の風景(仮)」(吉田)		
第4回	「地域の活性化戦略について」(北崎)		
第5回	「地域の再生と公民連携」(林)		
第6回	未定		
第7回	(予定)外部講師		
第8回	「南九州(鹿児島)の自然地域環境(地形景観, 自然景観, 自然地域区分)」(森脇)		
第9回	「地域の地理と歴史」(小林)		
第10回	(予定)(金子)		
第11回	「災害と避難行動」あるいは「仮設住宅と周辺地域」(岩船)		
第12回	(予定)外部講師		
第13回	(予定)外部講師		
第14回	未定		
第15回	まとめ(石塚)		
授業外学習(予習・復習)			
・各教員の講義や課題をまとめておくこと。			
教科書			
・特になし。			
参考書			
・各教員の準備する資料等。			
成績の評価基準			
・各担当教員の評価を総合して判定する。5回以上欠席した場合は単位認定をしません。			
オフィスアワー			
木曜日の4限終了後			
アクティブ・ラーニング			
フィールドワーク; 学習の振り返り(ミニッツ・ペーパー等);			

アクティブ・ラーニング（その他の内容）

アクティブ・ラーニング（授業回数）

15回中15回（フィールドワーク1回）

備考（受講要件）

- ・地域について関心のある熱意ある学生諸君の受講を期待している。
- ・エクスカージョンについては、やり方等を検討中である。

実務経験のある教員による実践的授業

「地域」のことを総合的に分析し、理解することによって、今後のあり得べき地域政策を考える力を学生諸君に身につけてもらう。専任教員とゲスト講師（3回）による講義で地域について学び、地域政策を考える。またフィールドワークが1回ある。

ナンバリングコード			
AAX3502			
科目名			
地域科学演習			
英語名			
開講学科		コース	
法文学部共通 新旧共通			
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法文学部・法文アドバンス ト科目I(選択)	演習	2単位	2~4年
担当教員		連絡先(TEL)	連絡先(MAIL)
石塚孔信		099-285-7586	ishiduka@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
小林善仁		後期	
授業概要			
<ul style="list-style-type: none"> ・「地域」の問題は、現代社会の大きな変動の中で、いろいろな観点から関心を呼び、注目されている。そのなかでも近年話題となることが多い「中心市街地」の衰退は、全国的に、とりわけ地方都市において深刻な問題となっている。 ・本演習では、地方中心都市であり、県庁所在地でもある県都鹿児島市における中心市街地の活性化問題に本学部と鹿児島市が協力して取り組み、学生諸君と研究調査を共同で進めていく。 ・最終的には、報告書としてまとめることによって、鹿児島市の中心市街地の問題点を指摘し、それに対する処方箋と街づくりの方向性を模索していく。 			
学修目標			
<ul style="list-style-type: none"> ・鹿児島市の中心市街地の課題を理解する。 ・中心市街地の課題を総合的に分析するツールを身につけて、実際に分析を行う。 ・アンケート調査の方法を習得し、実際に調査を行う。 ・鹿児島市の中心市街地の現状や課題を洗い出し、まとめる。 ・最終的には、報告書を作成し、鹿児島市の中心市街地活性化の処方箋と方向性を提言する。 			
授業計画			
第1回 オリエンテーション(石塚・鹿児島市役所)「今回の実習の意義や過去の調査の概要説明」			
第2回 中心市街地の課題について(1)(石塚)「法律や制度(まちづくり3法の変遷等)」			
第3回 中心市街地の課題について(2)(鹿児島市役所)「本市における具体的な施策とその評価」			
第4回 アンケート調査の方法(1)(本学教員)「調査票の作成法とデータ入力」			
第5回 中心市街地の視察(エクスカーション)(本学教員・鹿児島市役所)「アンケート調査の現場を含む中心市街地の視察」			
第6回 アンケート調査表の作成(石塚・鹿児島市役所)「今回の調査における調査票の作成」			
第7回 アンケート調査の方法(2)(本学教員)「調査票の集計法(グラフの作成、相関係数、クロス集計等)」			
第8回 アンケート調査の方法(3)(本学教員)「推定と検定等」			
第9回 アンケート調査表の結果(データ)入力(石塚)「データ入力とグラフ化」			
第10回 中心市街地の課題について(3)(本学教員)「本市や他地域の事例紹介」			
第11回 アンケート調査の結果の分析(1)(本学教員・鹿児島市役所)「データと図表、グラフからの検討」			
第12回 アンケート調査の結果の分析(2)(本学教員・鹿児島市役所)「データと図表、グラフからの検討」			
第13回 報告書の作成(1)(本学教員・鹿児島市役所)「班分けと班ごとの報告書の作成」			
第14回 報告書の作成(2)(本学教員・鹿児島市役所)「全体を通しての報告書の作成」			
第15回 まとめ(本学教員・鹿児島市役所)			
第16回 期末試験は行わない(報告書の評価)			
授業外学習(予習・復習)			
予習:担当教員からの指示及び授業計画等を踏まえながら予習を行い、次回の授業に主体的に参加できるよう準備をする。(2時間程度)			

復習：担当教員からの指示及び授業で扱った内容等を整理しつつ復習し、その内容を確実に身につける。（2時間程度）

教科書

- ・特に指定しない。

参考書

- ・授業時間内において適宜指示する。

成績の評価基準

- ・15回の授業のうち10回以上の出席を前提として、以下のような割合で評価する。
- ・授業時間において使用するデータの収集やアンケート調査表の作成 = 40%
- ・報告書（1編）60%

オフィスアワ -

本演習の前後の時間

アクティブ・ラーニング

グループワーク；

アクティブ・ラーニング（その他の内容）

アクティブ・ラーニング（授業回数）

15回中15回

備考（受講要件）

- ・2年生以上。
- ・地域科学特殊講義を受講していることが望ましい。
- ・受講者数の上限は30名。
- ・希望者が上限を超えた場合は、地域科学特殊講義を受講済みの学生を優先する。
- ・鹿児島市役所と共同で報告書を作成することになるので、「地域」や「まちづくり」に強い関心を持ち、モチベーションの高い学生諸君に受講してもらいたい。

実務経験のある教員による実践的授業

鹿児島市役所職員により、鹿児島中心地市街地の現状や課題を洗い出してもらおう。それらの課題に対して学生は、アンケート調査等を行い、事前に身に着けたエクセルツール等を使用しながら、中心市街地活性化の処方箋と方向性を市役所職員と一緒に考える。専任教員が5回ツール等の解説を行い、10回、ゲスト講師が、市の課題等を紹介する。

ナンバリングコード

科目名

海外異文化体験実習（台湾の歴史と多様性を学ぶ）

英語名

Study tour to Taiwan

開講学科

コース

法文学部共通 新旧共通

授業科目区分

授業形態

単位数

開講期

法文学部・法文アドバンス
ト科目I（選択）

実習

2～4年

担当教員

連絡先（TEL）

連絡先（MAIL）

鶴戸 聡

099-285-8883, 099-285-3761

udo@leh.kagoshima-u.ac.jp,
morita@gic.kagoshima-u.ac.jp

共同担当教員

前後期

森田豊子(グローバルセンター)

前期

授業概要

日本は日清戦争後、50年間に渡り台湾統治を行った。台湾で生まれ育ち台湾を故郷と考える「湾生」と呼ばれる日本人も存在し、我が国と密接な歴史的な関係を持つ。また、台湾は原住民文化が残っている他、オランダ、日本、中国など様々な移民を受け入れ、近年でもベトナムからの移民などを積極的に受け入れていれている多文化社会となっている。本授業の目的は、台湾の高雄と台南を訪問し、現地の大学生と交流することによって、(1)日本と密接に関わる台湾の歴史を学ぶこと、(2)実際に台湾の人々の暮らしを見て感じ、現地の人々や大学生と対話をするという体験を通して学ぶこと、(3)台湾の他民族が共生している現状を学ぶことである。この研修を実りあるものにするために、事前学習、事後学習十分に行う。また、現地大学との交流の準備として自分の関心に基づいて問題を設定し、必要な情報を集めて考察し、発表し、現地の大学生と討論できるようにする。

学修目標

日本統治時代の台湾の歴史を学ぶだけでなく、原住民、中国人、ベトナム人など多くの民族から成る台湾の現状を知ること、日本における報道だけでは得られない視点を持つこと。帰国後も鹿児島島の台湾人の組織(蓬莱会)などとの交流を通じて、日本における多文化社会への課題を理解する。

授業計画

1. 事前学習:オリエンテーション
2. 事前学習:台湾事情(歴史と政治)
3. 事前学習:日本に住む台湾人事情
4. 事前学習:台湾事情(社会と文化)
5. 海外実習:現地大学との交流、ワークショップ共催(高雄大学)
6. 海外実習:日本統治時代の台湾の歴史学習(1高雄)
7. 海外実習:多様化する台湾:客家人について学ぶ
8. 海外実習:現地での日本企業の活動
9. 海外実習:現地大学の学生とのフィールドワーク(高雄大学)
10. 海外実習:現地大学の学生との交流、ワークショップ(成功大学)
11. 海外実習:現地大学生とのフィールドワーク(成功大学)
12. 海外実習:日本統治時代の台湾の歴史学習(2台南)
13. 海外実習:多様化する台湾(台湾原住民)
14. 海外実習:多様化する台湾(台湾の外国人)
15. 事後学習:資料の整理、報告書作成
16. 事後学習:海外研修報告会準備

授業外学習（予習・復習）

授業外学習(予習・復習)

大学交流ワークショップでの発表準備(テーマごとの調べ学習、パワーポイント作成)、報告書の作成など

教科書

赤松美和子・若松大祐『台湾を知るための60章』明石書店、2016年。

参考書

事前学習で指示する。

成績の評価基準

事前学習(発表)50%、事後学習(報告書)50%

オフィスアワ -

アクティブ・ラーニング

グループワーク；フィールドワーク；プレゼンテーション；学習の振り返り（ミニッツ・ペーパー等）；

アクティブ・ラーニング（その他の内容）

アクティブ・ラーニング（授業回数）

備考（受講要件）

平成28年度以前入生は、法文総合科目とする。

費用は学生の自己負担である。

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード

科目名

海外異文化体験実習（イスラームの多様性を学ぶ）

英語名

Study tour to Iran

開講学科

コース

法文学部共通 新旧共通

授業科目区分

授業形態

単位数

開講期

法文学部・法文アドバンス
ト科目I（選択）

実習

2～4年

担当教員

連絡先（TEL）

連絡先（MAIL）

鶴戸 聡

099-285-8883, 099-285-3761

udo@leh.kagoshima-u.ac.jp,
morita@gic.kagoshima-u.ac.jp

共同担当教員

前後期

森田 豊子(グローバルセンター)

後期

授業概要

現在地球上には約16億人のムスリムが暮らしている。今後グローバルに活躍しようとするれば、世界人口の4分の1を占めようとしているムスリムとの協働が欠かせない。本授業の目的は、多様なイスラームの現実を知ること、そしてムスリムとの共生のあり方を探ることである。実際にトルコを訪問し、ムスリムの暮らしを見て感じ、現地の人々や大学生と対話し、自身の体験を通して学ぶ。海外研修を実りあるものにするために、事前学習を十分に行う。また、日本におけるイスラーム諸国の報道だけでは不十分なことから、インターネットなどを通して英語で書かれた現地新聞などに触れることができるように指導する。自身の関心に応じてテーマを設定し、必要な情報を集めて精査し、発表し、さらにまた調べ、まとめるという作業を行う。事後学習では、事前学習の内容に、現地での体験や調査データを加えて、各自の研究を完成させる。

学修目標

研修を通して、ムスリムが実際に暮らしている現場を知り、同年代のムスリムたちとの交流を通じて?日本の報道からの情報では決して得られない多様な視点を持つこと、?異文化への理解と共感の力を身につけること、?グローバルな視点で考えることを目指す。これらの能力を身につけることによって、今後、日本だけではなく国際社会で貢献できるような人材となれるよう、また、日本の地域社会で多文化共生を担うことのできる人材に成長することを目標とする。

授業計画

- 1．事前学習：オリエンテーション
- 2．事前学習：トルコ事情（中東およびトルコの政治経済）
- 3．事前学習：トルコ事情（中東およびトルコの社会と文化）
- 4．海外研修：現地大学との交流（アンカラ大学）
- 5．海外実習：現地大学とのワークショップ共催（アンカラ大学）
- 6．海外実習：国際支援-JICAオフィス訪問
- 7．海外実習：人々の暮らし トルコの市場調査
- 8．海外実習：宗教と政治 イスラーム宗教施設訪問
- 9．海外実習：宗教と政治 トルコの宗教史調査
- 10．海外実習：トルコにおけるNGO訪問
- 11．海外実習：トルコの教育施設訪問
- 12．海外実習：トルコの歴史と文化調査
- 13．海外実習：クロージングセッション（まとめ）
- 14．事後学習：資料の整理、報告書の作成
- 15．事後学習：海外研修報告会準備

授業外学習（予習・復習）

大学交流ワークショップでの発表準備(テーマごとの調べ学習、パワーポイント作成)、報告書の作成など。

教科書

なし

参考書

事前学習で指示する。

成績の評価基準

海外異文化体験実習(イスラームの多様性を学ぶ)

成績の評価基準

事前学習(発表)50%、事後学習(報告書)50%

オフィスアワ -

アクティブ・ラーニング

グループワーク；フィールドワーク；プレゼンテーション；学習の振り返り（ミニッツ・ペーパー等）；

アクティブ・ラーニング（その他の内容）

アクティブ・ラーニング（授業回数）

備考（受講要件）

平成28年度以前入生は、法文総合科目とする。

費用は学生の自己負担である。

募集はP-SEGの枠内で行うため、ウェブで授業登録する必要はない。

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
科目名			
自然科学から見る人・文化・社会			
英語名			
The Natural Sciences and the Humanities			
開講学科		コース	
法文学部共通 新旧共通			
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法文学部・法文アドバンス ト科目II(選択)	講義	2単位	2~4年
担当教員		連絡先(TEL)	連絡先(MAIL)
菅野康太・吉田明弘・石田智子・太田純貴		099-285-7624	canno@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
吉田明弘、石田智子、太田純貴、菅野康太		前期	
授業概要			
本授業では、近年ますます重要性の高まりつつある自然科学の観点から、あるいは自然科学の観点との関連のなかで、人文科学的問題関心について複数分野の専門教員によって横断的に講義を行う。			
学修目標			
本授業では、以下の要件の修得を学習目標とする。			
1. 自然科学という人間の営みがもついくつかの特徴について、自然科学と人文科学を横断する観点から理解すること。			
2. 人・文化・社会といった人文科学的主題について、自然科学的観点から理解する方法およびいくつかの結果を理解すること。			
3. 人文科学的な関心と自然科学的な関心を受講生自身が結びつけられるようになること。			
授業計画			
1 なぜ科学は嫌われるのか? : 社会生物学論争に見る「分断」(菅野)			
2 分断はするけど境界は曖昧: 男と女、自然と人工、生命と非生命(菅野)			
3 理系と文系の現在を巡って: 何を対話すべきか?(菅野)			
4 対話は可能なのか?: 科学技術社会論、メディア、アートの事例(菅野)			
5 年代学による楽器・美術品の真贋鑑定と交易(吉田)			
6 景観復元からみた人類・社会の変遷史(吉田)			
7 考古学における科学的思考 捏造・偽史・疑似科学(石田)			
8 火山噴火と復興 災害と考古学(石田)			
9 モノの動きからみたヒトの交流 地球科学と考古学(石田)			
10 身体から文化・社会をよむ 自然人類学と考古学(石田)			
11 タイムマシン/タイムトラヴェルと自然科学 時間の尺度(太田)			
12 タイムマシン/タイムトラヴェルと自然科学 進化論(太田)			
13 シンポジウムに振り替え			
14 シンポジウムに振り替え			
15 シンポジウムに振り替え			
最後の3回はシンポジウムへの参加に振り返る(前期期間中の土日のどこかで、午後半日の予定)。詳細は、授業ガイダンスなどで説明する。			
授業外学習(予習・復習)			
・授業でもちいるスライドの印刷あるいは講義用資料を授業の前後に読んで予習と復習をすること。			
・授業で取り上げた書籍などを授業後などに自分で読むことを復習として行うことが望ましい。			
教科書			
授業中に適宜指示する。			
参考書			
授業中に適宜指示する。			
成績の評価基準			

授業中あるいは授業後のミニッツ・ペーパーに相当するもの、および授業中に行われる小テストなど（授業担当教員によって若干異なる場合がある）。

オフィスアワ -

授業のあとなど随時

アクティブ・ラーニング

学習の振り返り（ミニッツ・ペーパー等）；

アクティブ・ラーニング（その他の内容）

学習の振り返り（ミニッツ・ペーパー等）

アクティブ・ラーニング（授業回数）

15

備考（受講要件）

受講要件は特にないが、250人を超えた場合、抽選により履修制限をかける。法文アドバンスト科目IIの選択科目に該当する。なお、後期に開講される同一名称の科目とは内容は異なるのが、重複履修不可であるので、いずれかを履修することが推奨される。

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード

科目名

自然科学から見る人・文化・社会

英語名

The Natural Sciences and the Humanities

開講学科

コース

法文学部共通 新旧共通

授業科目区分

授業形態

単位数

開講期

法文学部・法文アドバンス
ト科目II(選択)

講義

2単位

2~4年

担当教員

連絡先(TEL)

連絡先(MAIL)

大園博記

099-258-3578(大園研究室)

ozono@leh.kagoshima-u.ac.jp

共同担当教員

前後期

片桐資津子・菅野康太・富原一哉・米田孝一

後期

授業概要

本授業では、近年ますます重要性の高まりつつある自然科学やデータサイエンスの観点から、あるいは自然科学の観点との関連のなかで、人文科学および社会科学の問題関心について複数分野の専門教員によって横断的に講義を行う。

学修目標

本授業では、以下の要件の修得を学習目標とする。

- 1.自然科学という人間の営みがついにつかの特徴について、自然科学と人文・社会科学を横断する観点から理解すること。
- 2.人・文化・社会といった人文・社会科学の主題について、自然科学やデータサイエンスの視点から理解する方法と知見を理解すること。
- 3.人文・社会科学的な関心と自然科学的な関心を受講生自身が結びつけられるようになること。

授業計画

- 1.オリエンテーション(大園)
- 2.エントロピー増大の法則からみる地域活性化(片桐)
- 3.生物のホメオスタシスと社会システムの安定性(片桐)
- 4.ネットワーク科学：人間関係を数理的に記述する(大園)
- 5.文化進化論1：遺伝子と文化の共進化(大園)
- 6.文化進化論2：文化的多様性の起源(大園)
- 7.似非科学と超常現象(富原)
- 8.統計で嘘をつく方法(富原)
- 9.素粒子のふるまいと社会秩序(片桐)
- 10.なぜ科学は嫌われるのか？：社会生物学論争に見る「分断」(菅野)
- 11.分断はするけど境界は曖昧：男と女、自然と人工、生命と非生命(菅野)
- 12.理系と文系の現在を巡って：何を対話すべきか？(菅野)
- 13.対話は可能なのか？：科学技術社会論、メディア、アートの事例(菅野)
- 14.医学でみる人・文化・社会(米田)
- 15.Bio-Psycho-Social model - 心療内科 - (米田)

授業外学習(予習・復習)

- ・授業でもちいるスライドの印刷あるいは講義用資料を授業の前後に読んで予習と復習をすること。
- ・授業で取り上げた書籍などを授業後などに自分で読むことを復習として行うことが望ましい。

教科書

授業中に適宜指示する。

参考書

授業中に適宜指示する。

成績の評価基準

授業中あるいは授業後のミニッツ・ペーパーに相当するもの、および授業中に行われる小テストなど(授業担当教員によって若干異なる場合がある)。

オフィスアワ -

授業のあとなど随時

アクティブ・ラーニング

学習の振り返り（ミニッツ・ペーパー等）；

アクティブ・ラーニング（その他の内容）

アクティブ・ラーニング（授業回数）

15回中15回

備考（受講要件）

受講要件は特にないが、250人を超えた場合、抽選により履修制限をかける。法文アドバンスト科目IIの選択科目に該当する。なお、前期に開講される同一名称の科目とは内容は異なるが、重複履修不可であるので、いずれかを履修することが推奨される。2019年度は、後期月曜1限に開講予定である。

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
FHS-AAJ2403			
科目名			
地理歴史科教育法I			
英語名			
teaching Geography and History I			
開講学科		コース	
法文学部共通 新旧共通			
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
教職科目	演習	2単位	2～4年
担当教員	連絡先 (TEL)		連絡先 (MAIL)
永山修一			nagayama@lasalle.ed.jp
共同担当教員		前後期	
		前期	
授業概要			
学習指導要領や教科書の役割を理解するとともに、授業の年間計画、単元計画、各時間の「学習指導案」について理解を深める。3～4名の班を作り、協同しての指導案作成、授業準備を課す模擬授業を通じて、実践的な力を身につける。模擬授業ごとに、意見交換を行い、よりよい授業づくりをめざす姿勢を身につける。			
学修目標			
現在の歴史地理教育をとりまく諸問題に関心を持つとともに、養成すべき歴史的思考力・地理的思考力について考え、実際に学習指導案を作成し、それに基づいて授業が行えるようにする。			
授業計画			
第1回：導入 レシートを用いた授業（近年の歴史地理教育の問題に関するレポート課題提示）			
第2回：学習指導要領（地理歴史科）の概要			
第3回：学習指導案について（1）作成について 視聴覚教材と情報機器の活用			
第4回：学習指導案について（2）導入と展開のあり方について			
第5回：学習指導案について（3）評価について			
第6回：実際の授業（ラ・サール学園において授業見学、討論）			
第7回：地理歴史科と国際理解教育			
第8回：地理歴史科におけるディベート授業			
第9回：授業の実際と討論（模擬授業1 日本史 諸資料から見る古代社会）			
第10回：授業の実際と討論（模擬授業2 日本史 地域資料にみる武士社会の形成）			
第11回：授業の実際と討論（模擬授業3 世界史 西洋 産業社会と国民国家の形成）			
第12回：授業の実際と討論（模擬授業4 世界史 東洋 中央アジアの遊牧民の展開）			
第13回：授業の実際と討論（模擬授業5 地理 地形、気候、植生）			
第14回：授業の実際と討論（模擬授業6 地理 国家間の結び付きの現状と課題）			
第15回：近年の歴史地理教育の問題に関するレポートをうけての講義。まとめ			
授業外学習（予習・復習）			
教科書			
教育基本法・学校教育法・高等学校学習指導要領			
参考書			
『高等学校学習指導要領解説 地理歴史編』			
成績の評価基準			
レポート課題への取り組み（10%）、模擬授業に対する取り組み（40%）、および最終レポートとして提出する「学習指導案」の内容（50%）を評価する。			
オフィスアワー			
講義終了後・非常勤講師室			
アクティブ・ラーニング			
グループワーク；			
アクティブ・ラーニング（その他の内容）			
アクティブ・ラーニング（授業回数）			

備考（受講要件）

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
FHS-AAJ4401			
科目名			
教職概論			
英語名			
Study for a Teaching Training			
開講学科		コース	
法文学部共通 新旧共通			
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
教職科目	講義	2単位	2～4年
担当教員	連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)	
川野 恭司			
共同担当教員		前後期	
		後期	
授業概要			
今日の学校教育の現状と実践的課題を多角的に考察する。			
学修目標			
教職の意義、教員の役割・職務内容等を学ぶことを通して教職の基本的なありようと自己の教員としての資質についての洞察を得る。			
授業計画			
講義は教師の問題提起にもとづき対話を中心に展開する			
1. 今日の子どもの実態 (知・徳・体)			
2. 学校の再生と文化活動			
3. 人権と教育			
・「いじめ」			
・ハンセン病問題			
4. 進路・進学と教育			
5. 教職員の職場・教師の生きがい			
6. その他			
授業外学習 (予習・復習)			
マスコミ等で報道される教育関係の情報は、その都度チェックしておくこと。(最近では「いじめ」「体罰」など)			
教科書			
使用しない。			
参考書			
適宜指示する。			
成績の評価基準			
平常点 (出席と授業参加) を最も重視する。学期末提出のレポートも評価に加える。			
オフィスアワ -			
講義前後。非常勤控室にて			
アクティブ・ラーニング			
その他;			
アクティブ・ラーニング (その他の内容)			
群説の構成と実演。ディベート・討論による深化			
アクティブ・ラーニング (授業回数)			
ほぼ毎回 ()			
備考 (受講要件)			
講義にあたっては、問題提起 (問いかけ) に対し、積極的に応答し、自ら討論に参加することを重視する (評価する)。このこと自体が、教職にあってはもちろんのことこれからの世の中を生きる上で大切な資質になると考えるゆえ。			
実務経験のある教員による実践的授業			

ナンバリングコード			
FHS-AAJ2401			
科目名			
社会科教育法I			
英語名			
Education Methods of Social Sciences 1			
開講学科		コース	
法文学部共通 新旧共通			
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
教職科目	講義	2単位	2～4年
担当教員	連絡先 (TEL)		連絡先 (MAIL)
川野 恭司			
共同担当教員		前後期	
		後期	
授業概要			
<p>中学校社会科教師に求められる基礎的な素質を養う。中学校社会科の現状と課題について、学習指導要領をふまえ、学校・生徒の実態とかかわらせながら、自分なりの社会科観・授業力形成の糸口をつかむことを目標とする。</p> <p>講義は全体として、学生自身の模擬授業を中心に展開する。</p>			
学修目標			
<ol style="list-style-type: none"> 1. 社会科授業における教材研究のあり方を修得する。 2. 生徒の「認識」とかかわる学習指導案の作成と授業展開法を身につける。 3. 授業および授業分析に自ら参加し、授業する力を身につける。 			
授業計画			
<ol style="list-style-type: none"> 1. 中学校社会科授業実践の紹介と分析 2. 中学校社会科授業づくりの視点と方法（模擬授業を中心にすすめる） 3. 中学校社会科の課題 			
授業外学習（予習・復習）			
学習指導案の事前作成・検討（指導）			
教科書			
適宜資料を配付する。			
参考書			
講義中に適宜紹介する。			
成績の評価基準			
模擬授業、授業分析へのとりくみ、毎時の小レポートと期末レポート			
オフィスアワ -			
講義前後。非常勤控室にて。			
アクティブ・ラーニング			
その他；			
アクティブ・ラーニング（その他の内容）			
模擬授業および授業分析における対話・討論。			
アクティブ・ラーニング（授業回数）			
ほぼ毎回（14～15回）。			
備考（受講要件）			
講義にあたっては、問題提起（問いかけ）に対し、積極的に応答し、自ら討論に参加することを重視する（評価する）。このこと自体が、教職にあってはもちろんのことこれからの世の中を生きる上で大切な資質になると考えるゆえ。			
実務経験のある教員による実践的授業			

ナンバリングコード			
科目名			
商業科教育法Ⅰ			
英語名			
Educational Methods of Commerce Science Ⅰ			
開講学科		コース	
法文学部共通 新旧共通			
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
教職科目	講義	2単位	2～4年
担当教員	連絡先 (TEL)		連絡先 (MAIL)
岡元直樹	090-2852-9671		naaki09gofw@yahoo.co.jp
共同担当教員		前後期	
		前期	
授業概要			
高等学校商業科を担当する教師として必要な基礎的知識と実践力を育成する。			
学修目標			
1. 学習指導の基本的な考え方が理解できる。 2. 高等学校商業科の目標と内容が理解できる。 3. 教材研究の進め方が理解できる。 4. 学習指導計画の立て方ができる。 5. 授業の進め方が理解できる。 6. 指導計画に生かす評価法が理解できる。			
授業計画			
第 1回 ガイダンス 第 2回 学習指導の基本的な考え方 第 3回 高等学校商業科の目標と内容 (1) : 教科の目標 第 4回 高等学校商業科の目標と内容 (2) : 教科の内容 第 5回 教材研究の進め方 第 6回 学習指導案の工夫・改善 (1) : 学習指導案の形式 第 7回 学習指導案の工夫・改善 (2) : 学習指導案作成の上の留意点 第 8回 模擬授業および研究討議 (1) : 模擬授業 第 9回 模擬授業および研究討議 (2) : 授業研究 第10回 模擬授業および研究討議 (3) : 研究討議 第11回 教科指導と評価 (1) : 教科指導に生かす評価 第12回 教科指導と評価 (2) : 評価問題の作成 第13回 教科指導と評価 (3) : 評価問題の工夫 第14回 商業科教師への道 第15回 まとめ			
授業外学習 (予習・復習)			
簿記に関する基本的・基礎的知識を有していることが望ましい。			
教科書			
使用しない。適宜資料を配付する。			
参考書			
文部科学省「高等学校学習指導要領」(2009年, 文部科学省) 文部科学省「高等学校学習指導要領解説 商業編」(2010年, 文部科学省) 日本商業教育学会編『教職必修 最新商業科教育法 新訂版』(2011年, 実教出版)			
成績の評価基準			
レポート (1回: 50%) 小テスト (3回: 30%) 授業への取り組み態度 (20%)			
オフィスアワ -			
講義終了後・非常勤講師控え室			

アクティブ・ラーニング

グループワーク; ディベート; プレゼンテーション; 学習の振り返り(ミニッツ・ペーパー等);

アクティブ・ラーニング(その他の内容)

アクティブ・ラーニング(授業回数)

15回中4回

備考(受講要件)

夏季休業中に開講予定(集中講義)

高等学校教諭免許「商業」の取得には、「商業科教育法?(隔年開講)」および「商業科教育法?(隔年開講)」の4単位を修得しなければならない。

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
科目名			
観光学			
英語名			
開講学科		コース	
法文学部共通 新旧共通			
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法文学部・法文アドバンス ト科目I(選択)	講義	2単位	3~4年
担当教員		連絡先(TEL)	連絡先(MAIL)
石塚孔信		099-285-7586	ishiduka@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
		前期	
授業概要			
<p>観光は観光者、そのニーズに応える観光産業、そして地域特有の観光資源の3つの関わりによって成り立つものである。本講義では、近年の観光者のニーズに応えるための観光関連産業の取り組みと課題について解説し、鹿児島県のような観光資源を紹介した上で、これからの鹿児島の観光に求められるものについて講義を行う。毎回、観光に携わる実務家の方を講師に招いて、実務の観点から観光について詳しく説明がなされる。</p>			
学修目標			
<ol style="list-style-type: none"> 1. 観光産業の取り組みと課題を説明することができる。 2. 鹿児島の観光資源を知り、観光地域づくりの実践方法を理解することができる。 3. 鹿児島のこれからの観光のあり方について意見を述べるすることができる。 			
授業計画			
第1回	ガイダンス		
第2回	何故、今観光か - 観光振興と地域経済 -		
第3回	観光関連産業の現状と課題 - 交通・運輸, 宿泊, テーマパーク, 観光施設 -		
第4回	旅行市場の動向と新しいビジネスへの挑戦		
第5回	観光と世界文化遺産		
第6回	観光と歴史世界自然遺産		
第7回	観光と世界自然遺産		
第8回	観光と宿泊		
第9回	観光と食		
第10回	観光と言語対応		
第11回	国際観光とインバウンド		
第12回	観光行政		
第13回	DMOについて		
第14回	DMOの事例: 大隅の観光地域づくり		
第15回	これからの鹿児島の観光に求められるもの		
授業外学習(予習・復習)			
授業終了後、配布資料やノートを見て授業の復習を行うこと。			
教科書			
特になし。			
参考書			
各教員の準備する資料等。			
成績の評価基準			
各担当教員の評価を総合して判定する。			
オフィスアワー			
火曜日の4限			
アクティブ・ラーニング			
学習の振り返り(ミニッツ・ペーパー等);			
アクティブ・ラーニング(その他の内容)			

ミニッツ・ペーパーの実施。

アクティブ・ラーニング（授業回数）

15回中15回。

備考（受講要件）

なし。

実務経験のある教員による実践的授業

近年の観光者のニーズに応えるための観光関連産業の取り組みと課題について解説し、鹿児島県のような観光資源を紹介した上で、これからの鹿児島県の観光に求められるものについて講義を行う。毎回、観光に携わる実務家の方を講師に招いて（14回）、実務の観点から観光について詳しく説明がなされる。

ナンバリングコード			
AAX3601			
科目名			
マスコミ論演習（旧 マスコミ論2）			
英語名			
Mass communication theory			
開講学科		コース	
法文学部共通 新旧共通			
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法文学部・法文アドバンス ト科目I（選択）	実習	2単位	3～4年
担当教員		連絡先（TEL）	連絡先（MAIL）
宮下正昭		285-7203	mk-miya@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
本学教員のほか、在鹿児島のマスメディア各社の現 役記者、ディレクターなど		前期	
授業概要			
鹿児島県マスコミ各社の現役の報道責任者ら（報道本部長、支局長、総局長、報道部長など）を講師に依頼して、マスコミの現場見学・体験、記事作成指導、取材実習などを行う。			
学修目標			
。（1）マスコミ現場の現実の姿に触れて、大量の情報を送出することの重大さと意義を把握する （2）記事作成や取材実習によって情報取得・記事作成の指導を受け、簡潔で的確な情報伝達を修得する。			
授業計画			
第1回	全体オリエンテーション、グループ分け		
第2回	南日本新聞社・深夜の編集、印刷刷り出し見学		
第3回	記事作成と放送局体験オリエンテーション		
第4～6回	記事作成実習（各新聞社講師による取材・執筆実習、添削指導）		
第7回	新聞社が求める人材		
第8回	放送局体験		
第9回	放送局の番組体験		
第10回	放送局が求める人材		
第11回	ラジオ局体験		
第12回	高校野球取材実習（県立鴨池球場で取材実習）		
第13回	高校野球中継見学（県立鴨池球場）		
第14回	放送局記者講義		
第15回	総括 夜、マスコミ各社と懇親会		
授業外学習（予習・復習）			
できるだけ毎日、新聞を読み、テレビのニュースや報道特集番組を視聴し、ポータルサイトのニュース記事を チェックするなど、ニュース感覚を磨く努力をすること。			
教科書			
適宜資料を配付する。			
参考書			
適宜指示する。			
成績の評価基準			
編集・印刷現場見学、記事作成実習、放送局見学、高校野球取材など各実習ごとにレポートを提出してもらい、 それを総合評価する（60%）とともに期末レポートも提出する（40%）。			
オフィスアワ -			
金曜午後 事前に連絡を			
アクティブ・ラーニング			
グループワーク；フィールドワーク；学習の振り返り（ミニッツ・ペーパー等）； アクティブ・ラーニング（その他の内容）			
アクティブ・ラーニング（授業回数）			

15回中15回

備考（受講要件）

- （１）マスコミ論１の単位を取得し、マスコミ論演習受講オリエンテーションに出席した者を優先する。
- （２）定員２０人程度。
- （３）授業計画はメディア各社との協議によって変更することがある。授業の時間、曜日がずれることもある。
- （４）１５コマ中半分ほどは外（テレビ局、新聞社、ラジオスタジオなど）にでるため、火曜、特に午後は他の授業を入れない方が望ましい

実務経験のある教員による実践的授業

鹿児島県内のマスコミ各社の報道責任者ら（報道本部長、支局長など）が講師として登壇し、マスコミの現場見学・体験、記事作成指導、取材実習などを行う。

ナンバリングコード			
科目名			
社会教育演習?			
英語名			
開講学科		コース	
法文学部共通 新旧共通		地域社会コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会・地域社会コース / 選択科目	演習	1単位	2～3年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
農中 至		0992857603	nounaka@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
なし		後期	
授業概要			
社会教育学研究および社会教育実践を進めるために重要な基本的研究姿勢および研究態度を身につけることを目的とします。具体的には自己の問題関心や研究関心に気づき、自発的にさまざまな課題に挑戦していけるための条件とはなにかについて探求します。			
学修目標			
鹿児島県の地域的特性踏まえ、身近で具体的かつ現実的なレベルから社会教育研究を進めていけるような研究姿勢を身につけることを学習目標とします。			
授業計画			
1. オリエンテーション 2. 現代社会教育の基礎理論の検討 3. 現代社会教育の実践論の分析と検討 4. 受講生による報告と討論の計画 5. 受講生による報告と討論 実践と活動の探究 6. 受講生による報告と討論 子ども期の探究 7. 受講生による報告と討論 青年期の探究 8. 受講生による報告と討論 成人期の探究 9. 受講生による報告と討論 高齢期期の探究 10. 受講生による報告と討論 性・ジェンダー・人権問題の探究 11. 島嶼・地方都市社会教育問題に関するグループ研究発表 社会・経済・労働の視点とのかかわりで 12. 島嶼・地方都市社会教育問題に関するグループ研究発表 医療・福祉の視点とのかかわりで 13. 島嶼・地方都市社会教育問題に関するグループ研究発表 子育て・育児・地域文化の視点とのかかわりで 14. 鹿児島県島嶼社会教育史の読解と探究 復帰運動と青年団の視点を中心に 15. 鹿児島県島嶼社会教育史の読解と探究 占領下奄美の社会教育史的特質 (確認小試験を含む)			
授業外学習 (予習・復習)			
配布資料関連文献の読解および関連語句の一覧ノートの作成			
教科書			
授業中に指示します。			
参考書			
佐藤一子『地域学習の創造』(東京大学出版会、2015)			
成績の評価基準			
各授業後の小レポート(30%)・事前準備状況・報告内容の質(30%)・確認小試験(40%)			
オフィスアワ -			
随時受け付けます。			
アクティブ・ラーニング			
グループワーク; ディベート; プレゼンテーション; 学習の振り返り(ミニッツ・ペーパー等);			
アクティブ・ラーニング(その他の内容)			

アクティブ・ラーニング（授業回数）

15回中14回

備考（受講要件）

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
科目名			
日本近現代文学演習 2			
英語名			
開講学科		コース	
法文学部共通 新旧共通		多元地域文化コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
人文・多元地域文化コース / 選択科目	演習	2単位	3～4年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
多田蔵人			ktada@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
		後期	
授業概要			
日本近代文学について、各学生が論文の対象として選んだ作家と作品について発表しながら、論文作成の能力を鍛え、一本の研究論文を執筆する。参加者は教員のみならず学生相互の批評を受けながら、自らのテーマを絞り、調査を行い、論文の形にする。			
学修目標			
卒業論文に相当する論文を一本完成させること。			
授業計画			
1回	ガイダンス		
2回	作家・作品選択		
3回	テーマ設定		
4回	調査1 論文		
5回	調査2 用例探索		
6回	学生発表(レジュメ形式) 1		
7回	学生発表(レジュメ形式) 1		
8回	論文形式についてのガイダンス		
9回	単章執筆とチェック		
10回	調査3 典拠		
11回	調査4 影響関係		
12回	学生発表(論文形式) 1		
13回	学生発表(論文形式) 2		
14回	学生発表(論文形式) 3		
15回	まとめ		
授業外学習(予習・復習)			
自らが担当する作家の全集はもちろん、参加者が論文を執筆する対象作品は必ず読むこと。			
教科書			
参考書			
成績の評価基準			
毎回の議論への参加50%、提出論文50%。			
オフィスアワ -			
アクティブ・ラーニング			
アクティブ・ラーニング(その他の内容)			
アクティブ・ラーニング(授業回数)			

備考（受講要件）

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
FHS-BBB4301			
科目名			
演習II(家族法)(旧 課題研究)			
英語名			
Seminar II:Family Law			
開講学科		コース	
法政策学科(2016年度入学生まで)			
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法政策学科/必修科目	演習	2単位	4年
担当教員	連絡先(TEL)	連絡先(MAIL)	
阿部純一	099-285-7645	jave@leh.kagoshima-u.ac.jp	
共同担当教員		前後期	
なし		後期	
授業概要			
報告者の関心に基づいて決定された「家族と法」に関するテーマについて、報告と検討を重ねることで、自己の考えを「課題研究報告書」にまとめる。			
学修目標			
<ul style="list-style-type: none"> ・「家族と法」に関する個別テーマについて論文を完成させる ・論文執筆の技法を修得する 			
授業計画			
第01回: ガイダンス 第02回: 報告と検討1 第03回: 報告と検討2 第04回: 報告と検討3 第05回: 報告と検討4 第06回: 報告と検討5 第07回: 報告と検討6 第08回: 報告と検討7 第09回: 報告と検討8 第10回: 報告と検討9 第11回: 報告と検討10 第12回: 報告と検討11 第13回: 報告と検討12 第14回: 報告と検討13 第15回: まとめ			
* 授業計画については、授業の進行状況に応じて若干変更する場合がある。			
授業外学習(予習・復習)			
【予習】報告者以外の者も事前にテーマについて調べ、議論に参加するための準備をすること(45分)			
【復習】授業後に各自で内容を復習すること(1時間)			
教科書			
各自の所有している家族法の教科書を持参すること			
参考書			
授業中に指示する			
成績の評価基準			
授業への出席及び議論への参加状況によって評価する			
オフィスアワー			
火曜日2限(研究室)			
アクティブ・ラーニング			
グループワーク; ディベート; プレゼンテーション;			
アクティブ・ラーニング(その他の内容)			

アクティブ・ラーニング(授業回数)

15回中15回

備考(受講要件)

・履修者には、各テーマについて、議論への積極的な参加が求められる。

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
FHS-BBB4301			
科目名			
演習II (刑法 (展開)) (旧 課題研究)			
英語名			
Seminar II:Criminal Law Advanced			
開講学科		コース	
法政策学科 (2016年度入学生まで)			
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法政策学科/必修科目	演習	2単位	4年
担当教員	連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)	
上原大祐	099-285-7626	embryo@leh.kagoshima-u.ac.jp	
共同担当教員		前後期	
		前期	
授業概要			
刑法に関し、他の学問分野との関係性を理解するための演習をゼミ形式で行う。			
学修目標			
刑法が他の学問分野とどのような関係性を有するのか概観し、社会の中で刑法の占めるべき位置について理解すること。			
授業計画			
(前期)			
第1回 ガイダンス。			
第2回~第15回 報告と討論			
授業外学習 (予習・復習)			
報告者・司会者は報告/司会の準備に努力を要する。			
教科書			
後日、指示する。			
参考書			
成績の評価基準			
授業への取り組み態度(報告, 討論中の発言等)を総合的に評価する。			
オフィスアワ -			
研究室在室時			
アクティブ・ラーニング			
グループワーク; ディベート; プレゼンテーション;			
アクティブ・ラーニング (その他の内容)			
アクティブ・ラーニング (授業回数)			
備考 (受講要件)			
3年次に演習 (刑法) を受講していること。			
実務経験のある教員による実践的授業			

ナンバリングコード			
FHS-BBB4301			
科目名			
演習II (租税法) (旧 課題研究)			
英語名			
Seminar II:Tax Law			
開講学科		コース	
法政策学科 (2016年度入学生まで)			
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法政策学科/必修科目	演習	2単位	4年
担当教員	連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)	
鳥飼貴司	099-285-7623	torikai@leh.kagoshima-u.ac.jp	
共同担当教員		前後期	
		前期	
授業概要			
課題研究作成のための指導を行う。			
学修目標			
1. 租税の法的問題点についての基本的理解を深める。 2. 論文作成能力を身につける。			
授業計画			
(前期)			
第1回	ガイダンス		
第2回~第14回	課題研究報告と討論		
第15回	まとめ		
授業外学習 (予習・復習)			
教科書			
金子宏『租税法』(弘文堂) 毎年改訂されているので、最新版を購入すること。			
参考書			
適宜指示する。			
成績の評価基準			
課題研究報告			
オフィスアワ -			
講義後に話かけるのは自由。 その他の場合、事前にメールで面会交渉をすること。			
アクティブ・ラーニング			
ディベート; プレゼンテーション;			
アクティブ・ラーニング (その他の内容)			
アクティブ・ラーニング (授業回数)			
15回中15回			
備考 (受講要件)			
特になし			
実務経験のある教員による実践的授業			

ナンバリングコード			
FHS-BBB4301			
科目名			
演習II (財産法) (旧 課題研究)			
英語名			
Seminar II:Property and Contract			
開講学科		コース	
法政策学科 (2016年度入学生まで)			
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法政策学科/必修科目	演習	2単位	4年
担当教員	連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)	
植本幸子			
共同担当教員		前後期	
		前期	
授業概要			
民法領域に関連する課題を各自で設定し、口頭報告と討論を通して、研究報告書としてまとめる。			
学修目標			
<ul style="list-style-type: none"> ・民法に関連する問題についての資料を集めまとめる技術を身につける。 ・民法に関連する問題について行われる報告に関連して、私見を示すことが出来る。 ・民法に関連する問題について報告書としてまとめ私見を示すことが出来る。 			
授業計画			
第1回	ガイダンス・進捗状況報告		
第2～5回	進捗状況報告		
第6回～第15回	報告と討論 (それぞれの段階で文章化した上で簡潔に口頭で発表する)		
<p>進捗状況報告日においては、テーマ設定の状況を報告する。さらに、学期前に連絡した任意の教材により主要な論点について一通り概要を説明することにより、各テーマ設定に役立てる。</p> <p>口頭報告を行わない者は、指示された期日に報告者への質問票を提出する。 就職活動などやむを得ぬ事情で欠席の場合には、レポートをもって出席に替えることがある。 原則2回の口頭報告が求められる。(既に2回報告済みの者は1回。ただし、水準に満たない場合には再度の報告が求められることがある。)</p>			
授業外学習 (予習・復習)			
(予習)			
報告者以外は報告者の研究テーマに従って教科書等により疑問点や私見を固める。 報告者は課題研究に相当するレポートを作成する。			
(復習)			
報告者以外は、報告時の議論にを反映させ関連論点につき自己の私見を固める。 報告者は、報告時の議論を反映させて課題研究の作成を行う。			
教科書			
手持ちの物を必ず持参すること。			
参考書			
六法 自己の報告に関連する資料や教科書は必ず持参すること			
成績の評価基準			
<ul style="list-style-type: none"> ・授業への取り組み態度 (口頭報告への取り組み態度と深度、発言の回数、質問票の提出状況。発言の内容より予習による理解度が深く、優れた考察が見られた場合には加点となる。) ・レポート (指導を反映させた報告書を作成できているかどうか。口頭報告までの準備状況や最終提出分の内容が深く優れている場合には加点。) 			
オフィスアワー			
追って指示する。			
アクティブ・ラーニング			

ディベート; プレゼンテーション;

アクティブ・ラーニング(その他の内容)

アクティブ・ラーニング(授業回数)

15回中14回

備考(受講要件)

- ・既に課題研究2単位を履修済みの者は、本授業の後期のシラバスを参照すること。
- ・3年次演習の単位が満たない場合に、課題研究の聴講を特に希望する場合には必ず事前に植本まで連絡すること。

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
FHS-BBB4301			
科目名			
演習II (国際関係論) (旧 課題研究)			
英語名			
Seminar II: International Relations			
開講学科		コース	
法政策学科 (2016年度入学生まで)			
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法政策学科/必修科目	演習	2単位	4年
担当教員	連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)	
木村朗	099-285-7654	kimura@leh.kagoshima-u.ac.jp	
共同担当教員		前後期	
		前期	
授業概要			
演習において選択したテーマに関する資料・文献を各自が収集・分析し、個別指導のもと、「研究報告書」を作成する。前期に中間報告、後期に最終報告をそれぞれ行い、受講生全員で、それについて討論する。			
学修目標			
1) 国際問題に対する基本的な知識と分析視角・方法を学ぶことができる。			
2) 各自の問題意識に従って主体にテーマを選択し、具体的な国際紛争の解決策を提言できるようにする。			
授業計画			
< 前期 >			
第1回	授業の進め方の説明		
第2回 ~ 第14回	報告および討論		
第15回	まとめ		
< 後期 >			
第1回	授業の進め方の説明		
第2回 ~ 第14回	報告および討論		
第15回	まとめ		
授業外学習 (予習・復習)			
9月にゼミ研修旅行・ゼミ合宿を行う予定。			
教科書			
特に定めない。報告者が作成したレジュメ・資料を毎回配布する。			
参考書			
適宜授業の中で紹介する。			
成績の評価基準			
授業への取り組み態度、課題研究報告書 (総合的に評価)			
オフィスアワ -			
月曜日・3時限・研究室			
アクティブ・ラーニング			
アクティブ・ラーニング (その他の内容)			
アクティブ・ラーニング (授業回数)			
備考 (受講要件)			
特になし			
実務経験のある教員による実践的授業			

ナンバリングコード			
FHS-BBB4301			
科目名			
演習II (社会保障法) (旧 課題研究)			
英語名			
Seminar II: Social Security Law			
開講学科		コース	
法政策学科 (2016年度入学生まで)			
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法政策学科/必修科目	演習	2単位	4年
担当教員	連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)	
伊藤周平			
共同担当教員		前後期	
		前期	
授業概要			
研究報告書 (卒業論文) の作成指導を行う。			
学修目標			
研究報告書の作成を目標とする。			
授業計画			
前期 (集中) : 研究報告書の作成に向けてのガイダンス、テーマの設定のアドバイスなど			
後期 (第 1 回 ~ 第 1 5 回) : 研究報告書の作成の指導など			
授業外学習 (予習・復習)			
教科書			
適宜、指示する。			
参考書			
適宜、指示する。			
成績の評価基準			
授業への取り組み態度 (研究報告書の内容)			
オフィスアワ -			
アクティブ・ラーニング			
アクティブ・ラーニング (その他の内容)			
アクティブ・ラーニング (授業回数)			
備考 (受講要件)			
なし			
実務経験のある教員による実践的授業			

ナンバリングコード

科目名

演習II (民事手続法) (旧 課題研究)

英語名

Seminar II: Civil Procedure

開講学科

コース

法政策学科 (2016年度入学生まで)

授業科目区分

授業形態

単位数

開講期

法政策学科/必修科目

演習

2単位

4年

担当教員

連絡先 (TEL)

連絡先 (MAIL)

齋藤善人

099-285-3526

saito@leh.kagoshima-u.ac.jp

共同担当教員

前後期

後期

授業概要

学修目標

研究テーマについて、文献を検索・狩猟し、「読み込む」作業を尽くすこと。
読解した内容を分析・整理すること。
研究テーマを解析・検討した内容を最終報告の形に纏めること。

授業計画

授業外学習 (予習・復習)

教科書

小林秀之編・判例講義 民事訴訟法 [第3版] (悠々社・平成28年)

参考書

民事訴訟法の授業で指定された教科書や参考文献など。たとえば、幾つか挙げるとすれば...

【1】概説書

高橋宏志・民事訴訟法概論 (有斐閣・平成28年)
川嶋四郎・民事訴訟法概説 [第2版] (弘文堂・平成28年)
山本弘=長谷部由起子=松下淳一・民事訴訟法 [第3版] (有斐閣・平成30年)
和田吉弘・基礎からわかる民事訴訟法 (商事法務・平成24年)
野村秀敏=佐野裕志=伊東俊明=齋藤善人=柳沢雄二=大内義三・民事訴訟法 (北樹出版・平成30年)

【2】定評のある体系書

高橋宏志・重点講義民事訴訟法 (上) [第2版補訂版], (下) [第2版補訂版] (有斐閣・平成25, 26年)

伊藤眞・民事訴訟法 [第6版] (有斐閣・平成30年)
川嶋四郎・民事訴訟法 (日本評論社・平成25年)
河野正憲・民事訴訟法 (有斐閣・平成21年)
小島武司・民事訴訟法 (有斐閣・平成25年)
新堂幸司・民事訴訟法 [第5版] (弘文堂・平成23年)
中野貞一郎=松浦馨=鈴木正裕編・新民事訴訟法講義 [第3版] (有斐閣・平成30年)
藤田広美・講義民事訴訟 [第3版] (東大出版会・平成25年)
藤田広美・解析民事訴訟 [第2版] (東大出版会・平成25年)
松本博之=上野泰男・民事訴訟法 [第8版] (弘文堂・平成27年)
三木浩一=笠井正俊=垣内秀介=菱田雄郷・LEGA QUEST民事訴訟法 [第2版] (有斐閣・平成27年)

【3】注釈書

秋山幹男=伊藤眞=加藤新太郎=高田裕成=福田剛久=山本和彦・コンメンタル民事訴訟法1 [第2版追補版], 2 [第2版], 3, 4, 5, 6 (日本評論社・平成26, 18, 20, 22, 24, 26年)

松浦馨=新堂幸司=竹下守夫=高橋宏志=加藤新太郎=上原敏夫=高田裕成・条解民事訴訟法 [第2版] (弘文堂・平成23年)

加藤新太郎=松下淳一編・新基本法コンメンタル民事訴訟法1, 2 (日本評論社・平成30年)

笠井正俊=越山和広編・新コンメンタル民事訴訟法 [第2版] (日本評論社・平成25年)

成績の評価基準

演習の場における受講生各位のパフォーマンス(報告や質疑応答の頻度、その内容等)も斟酌しつつ、最終的な学習成果である研究報告書により主に評価する。

演習に出席することは義務であり、出席したことで評価されることはない。演習に“参加”して、はじめて評価される。すなわち、演習の現場で、自学自習した内容を積極的に検証すること、他者の考えを批判的に検討すること、議論を総括し集約する作業を試みることなど、能動的な学習姿勢を貫徹することが要求される。

オフィスアワ -

アクティブ・ラーニング

プレゼンテーション; その他;

アクティブ・ラーニング(その他の内容)

質疑応答を契機とした双方向の議論。

アクティブ・ラーニング(授業回数)

授業内容に応じて、適宜臨機応変に...

備考(受講要件)

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード

科目名

演習II (民事手続法) (旧 課題研究)

英語名

Seminar II: Civil Procedure

開講学科

コース

法政策学科 (2016年度入学生まで)

授業科目区分

授業形態

単位数

開講期

法政策学科/必修科目

演習

2単位

4年

担当教員

連絡先 (TEL)

連絡先 (MAIL)

齋藤善人

099-285-3526

saito@leh.kagoshima-u.ac.jp

共同担当教員

前後期

前期

授業概要

前年度の判例学習や問題演習を通じて、各自が関心をもったテーマにつき、学習を深化そして進化させ、研究報告書の形に纏めることを最終目標とする。

学修目標

研究テーマについて、文献を検索・狩猟し、「読み込む」作業を尽くすこと。
読解した内容を分析・整理すること。
研究テーマの解析内容につき、途中経過として、中間報告すること。

授業計画

受講生各自が選択、設定した研究テーマにつき、研究報告書の形に纏める作業の過程として、適宜経過報告を経由し、そして中間報告に至るまでが今学期の進行予定。

授業外学習 (予習・復習)

教科書

小林秀之編・判例講義 民事訴訟法 [第3版] (悠々社・平成28年)

参考書

民事訴訟法の授業で指定された教科書や参考文献など。たとえば、幾つか挙げるとすれば...

【1】概説書

高橋宏志・民事訴訟法概論 (有斐閣・平成28年)
川嶋四郎・民事訴訟法概説 [第2版] (弘文堂・平成28年)
山本弘=長谷部由起子=松下淳一・民事訴訟法 [第3版] (有斐閣・平成30年)
和田吉弘・基礎からわかる民事訴訟法 (商事法務・平成24年)

【2】定評のある体系書

高橋宏志・重点講義民事訴訟法 (上) [第2版補訂版], (下) [第2版補訂版] (有斐閣・平成25, 26年)

伊藤眞・民事訴訟法 [第6版] (有斐閣・平成30年)
川嶋四郎・民事訴訟法 (日本評論社・平成25年)
河野正憲・民事訴訟法 (有斐閣・平成21年)
小島武司・民事訴訟法 (有斐閣・平成25年)
新堂幸司・民事訴訟法 [第5版] (弘文堂・平成23年)
中野貞一郎=松浦馨=鈴木正裕編・新民事訴訟法講義 [第3版] (有斐閣・平成30年)
藤田広美・講義民事訴訟 [第3版] (東大出版会・平成25年)
藤田広美・解析民事訴訟 [第2版] (東大出版会・平成25年)
松本博之=上野泰男・民事訴訟法 [第8版] (弘文堂・平成27年)
三木浩一=笠井正俊=垣内秀介=菱田雄郷・LEGA QUEST民事訴訟法 [第2版] (有斐閣・平成27年)

【3】注釈書

秋山幹男=伊藤眞=加藤新太郎=高田裕成=福田剛久=山本和彦・コンメンタル民事訴訟法1 [第2版追補版], 2 [第2版], 3, 4, 5, 6 (日本評論社・平成26, 18, 20, 22, 24, 26年)

松浦馨=新堂幸司=竹下守夫=高橋宏志=加藤新太郎=上原敏夫=高田裕成・条解民事訴訟法 [第2版] (弘文堂・平成23年)

加藤新太郎=松下淳一編・新基本法コンメンタル民事訴訟法1, 2 (日本評論社・平成30年)

笠井正俊=越山和広編・新コンメンタル民事訴訟法 [第2版] (日本評論社・平成25年)

成績の評価基準

演習の場における受講生各位のパフォーマンス (報告や質疑応答の頻度、その内容等) も斟酌しつつ、最終的な学習成果である研究報告書により主に評価する。

演習に出席することは義務であり、出席したことで評価されることはない。演習に“参加”して、はじめて評価される。すなわち、演習の現場で、自学自習した内容を積極的に検証すること、他者の考えを批判的に検討すること、議論を総括し集約する作業を試みることなど、能動的な学習姿勢を貫徹することが要求される。

オフィスアワー

アクティブ・ラーニング

プレゼンテーション; その他;

アクティブ・ラーニング (その他の内容)

質疑応答を契機とした双方向の議論。

アクティブ・ラーニング (授業回数)

授業内容に応じて、適宜臨機応変に...

備考 (受講要件)

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
FHS-BBB4301			
科目名			
演習II (刑法 (展開)) (旧 課題研究)			
英語名			
Seminar II:Criminal Law Advanced			
開講学科		コース	
法政策学科 (2016年度入学生まで)			
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法政策学科/必修科目	演習	2単位	4年
担当教員	連絡先 (TEL)		連絡先 (MAIL)
上原大祐	099-285-7626		embryo@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
		後期	
授業概要			
刑事法に関し、「研究報告書」を作成するための個別的な指導を行う。各自の研究報告書について報告を行う。その後、報告に基づいて討論を行う。			
学修目標			
「演習」および前期「課題研究」で学修した文献の収集、テ - マの分析の方法等を用いて、各自設定したテ - マにつき研究し、研究報告書を作成すること。			
授業計画			
(後期)			
第1回 ガイダンス。			
第2回 ~ 第15回 報告と討論。			
授業外学習 (予習・復習)			
報告者・司会者は報告 / 司会の準備に努力を要する。			
教科書			
特になし。			
参考書			
必要に応じて指示する。			
成績の評価基準			
授業への取り組み態度(報告, 討論中の発言等)および研究報告書を総合的に評価する。			
オフィスアワ -			
研究室在室時			
アクティブ・ラーニング			
ディベート; プレゼンテーション;			
アクティブ・ラーニング (その他の内容)			
アクティブ・ラーニング (授業回数)			
備考 (受講要件)			
3年次に演習「刑法」を受講していること。			
実務経験のある教員による実践的授業			

ナンバリングコード			
FHS-BBB4301			
科目名			
演習II (社会保障法) (旧 課題研究)			
英語名			
Seminar II: Social Security Law			
開講学科		コース	
法政策学科 (2016年度入学生まで)			
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法政策学科/必修科目	講義	2単位	4年
担当教員	連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)	
伊藤周平			
共同担当教員		前後期	
		後期	
授業概要			
研究報告書 (卒業論文) の作成指導を行う。			
学修目標			
研究報告書の作成を目標とする。			
授業計画			
前期 (集中) : 研究報告書の作成に向けてのガイダンス、テーマの設定のアドバイスなど			
後期 (第 1 回 ~ 第 1 5 回) : 研究報告書の作成の指導			
授業外学習 (予習・復習)			
教科書			
適宜、指示する。			
参考書			
適宜、指示する。			
成績の評価基準			
授業への取り組み態度 (研究報告書の内容)			
オフィスアワ -			
アクティブ・ラーニング			
アクティブ・ラーニング (その他の内容)			
アクティブ・ラーニング (授業回数)			
備考 (受講要件)			
実務経験のある教員による実践的授業			

ナンバリングコード			
FHS-BBB4301			
科目名			
演習II (財産法) (旧 課題研究)			
英語名			
Seminar II:Property and Contract			
開講学科		コース	
法政策学科 (2016年度入学生まで)			
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法政策学科/必修科目	演習	2単位	4年
担当教員	連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)	
植本幸子			
共同担当教員		前後期	
		後期	
授業概要			
民法領域に関連する課題を各自で設定し、口頭報告と討論を行い、その成果を課題研究報告書としてまとめる。			
学修目標			
<ul style="list-style-type: none"> ・民法に関連する問題についての資料を集めまとめる技術を身につける。 ・民法に関連する問題について行われる報告に関連して、私見を示すことが出来る。 ・民法に関連する問題について報告書としてまとめ私見を示すことが出来る。 			
授業計画			
<p>来年度からは新カリキュラム生となるため内容が変わるので注意すること。 留年生は下記のような実施が維持される。</p> <p>(後期)</p> <p>第1回～第15回 報告と討論</p> <ul style="list-style-type: none"> ・先の2単位修得の際に課題研究自体について報告を2回行わなかった者は今期で2回の報告を行う。 ・今期の2回目報告(通算3回目報告)については口頭報告の際に、文章化した本文を必ず配布すること。 <p>報告担当日以外の授業にやむを得ず欠席する場合には、指示された期日に欠席時に報告されたテーマについての概要と私見をA4で1～2枚程度にまとめて提出すること。</p> <p>最低1回の報告が義務で有り権利である。人数的に許される場合には、さらなる口頭報告が認められる場合があるが、その保障はないため完成原稿を報告するつもりで挑むこと。</p>			
授業外学習 (予習・復習)			
<p>報告の準備(資料の読破と論文作成)のために、最低でも3×15時間の予習が必要である。 復習としては、授業中の議論と論点を復習しよりより論文に修正する(適宜)。</p>			
教科書			
民法の講義を受ける際に使用するよう指導されていた教科書を持参すること。			
参考書			
<p>六法を必ず用意すること。 報告時には、本文中引用の資料を必ず持参すること。</p>			
成績の評価基準			
<ul style="list-style-type: none"> ・授業への取り組み態度(口頭報告への取り組み態度と深度、発言の回数、質問票の提出状況。発言の内容において予習による理解度が深く、優れた考察が見られた場合には加点となる。) ・レポート(指導を反映させた課題研究報告書作成し、期限通りに提出できるかどうか。口頭報告までの準備状況や最終提出分の内容が深く優れている場合には加点。) 			
オフィスアワー			
追って指示する。			
アクティブ・ラーニング			
ディベート; プレゼンテーション;			
アクティブ・ラーニング (その他の内容)			

アクティブ・ラーニング (授業回数)

15回中14回

備考 (受講要件)

- ・前期までに課題研究を2単位履修していない者は前期のシラバスの進行による。
- ・報告後に課題研究の本文につき指導を希望する者は、適宜授業の時に提出すること。
- ・とにかく出席に努め、思考をその都度確実に文章化し、できたところまででよいので必ず提出・発表するように心がけること。

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
FHS-BBB4301			
科目名			
演習II (租税法) (旧 課題研究)			
英語名			
Seminar II:Tax Law			
開講学科		コース	
法政策学科 (2016年度入学生まで)			
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法政策学科/必修科目	演習	2単位	4年
担当教員	連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)	
鳥飼貴司	099-285-7623	torikai@leh.kagoshima-u.ac.jp	
共同担当教員		前後期	
		後期	
授業概要			
課題研究作成のための指導を行う。			
学修目標			
1. 租税の法的問題点についての基本的理解を深める。 2. 論文作成能力を身につける。			
授業計画			
(後期)			
第1回~第14回	課題研究報告と討論		
第15回	まとめ		
授業外学習 (予習・復習)			
教科書			
金子宏『租税法』(弘文堂) 毎年改訂されているので、最新版を購入すること。			
参考書			
適宜指示する。			
成績の評価基準			
課題研究報告			
オフィスアワ -			
講義後に話かけるのは自由。 その他の場合、事前にメールで面会交渉をすること。			
アクティブ・ラーニング			
ディベート; プレゼンテーション;			
アクティブ・ラーニング (その他の内容)			
アクティブ・ラーニング (授業回数)			
15回中15回			
備考 (受講要件)			
特になし			
実務経験のある教員による実践的授業			

ナンバリングコード

FHS-BBB4301

科目名

演習II (法政策論・行政法務論) (旧 課題研究)

英語名

Seminar II:Public Policy and Administrative Practice

開講学科

コース

法政策学科 (2016年度入学生まで)

授業科目区分

授業形態

単位数

開講期

法政策学科/必修科目

演習

2単位

4年

担当教員

連絡先 (TEL)

連絡先 (MAIL)

宇那木正寛

285-7628

unaki@leh.kagoshima-u.ac.jp
メールには、必ず学籍番号と氏名
を明記し、パソコンからのメール拒
否設定を解除しておいて下さい。

共同担当教員

前後期

後期

授業概要

課題研究報告書作成のための指導を行います。

学修目標

- (1) 研究手法及び論文の作成方法を学ぶ。
- (2) 課題研究報告書を作成する。

授業計画

第1回～15回 「課題研究報告書」の作成指導

授業外学習 (予習・復習)

【予習】

指示した文献の検討と報告資料の作成

【復習】

授業中に指示した事項についての検討

教科書

授業中に適宜指示します。

参考書

授業中に適宜指示します。

成績の評価基準

授業への取組の態度 (報告、討論中の発言, 出席等) により評価します。

オフィスアワ -

オフィスアワーは特に設けず、研究室在室中に対応いたします。ただし、来訪時は、事前メール等で日程調整を
御願いたします。

アクティブ・ラーニング

プレゼンテーション;

アクティブ・ラーニング (その他の内容)

アクティブ・ラーニング (授業回数)

15回中15回

備考 (受講要件)

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
科目名			
演習II(商法)(旧 課題研究)			
英語名			
Seminar II:Business Law			
開講学科		コース	
法政策学科(2016年度入学生まで)			
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法政策学科/選択科目	演習	2単位	4年
担当教員	連絡先(TEL)	連絡先(MAIL)	
志田惣一	099-285-7637	icns@leh.kagoshima-u.ac.jp	
共同担当教員		前後期	
		前期	
授業概要			
研究報告書作成のための準備			
学修目標			
研究報告書作成のための必要な知見を得る。			
授業計画			
1 から15回 会社法の個別問題についての検討。			
授業外学習(予習・復習)			
学生の報告を中心に演習を進める。			
教科書			
とくになし。			
参考書			
とくになし。			
成績の評価基準			
平常点			
オフィスアワ -			
火2限			
アクティブ・ラーニング			
アクティブ・ラーニング(その他の内容)			
アクティブ・ラーニング(授業回数)			
備考(受講要件)			
とくになし。			
実務経験のある教員による実践的授業			

ナンバリングコード			
科目名			
民族・地域紛争論			
英語名			
開講学科		コース	
法政策学科(2016年度入学生まで)			
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法政策学科/選択科目	講義	2単位	4年
担当教員	連絡先(TEL)		連絡先(MAIL)
木村朗			kimura@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
		後期	
授業概要			
<p>冷戦後、世界各地で頻発する地地域・民族紛争や領土紛争を取り上げ、個別具体的な事例を分析・考察する。また、そうした具体的な民族・地域紛争や領土問題の背景にある、民族・ナショナリズム理論の検証も行う。そして、必要に応じて適宜日本内外の時事問題を取り上げて解説する。</p>			
学修目標			
<p>(1) 国際問題に対する基本的な知識を身に修得することができる。</p> <p>(2) 国際問題に対する分析視角・方法を学ぶことができる。</p> <p>(3) 独自の問題意識を育成することができる。</p>			
授業計画			
<p>授業計画：</p> <p>第1回 入門 - 授業方法の確認</p> <p>第2回 民族問題の起源</p> <p>第3回 ナショナリズムの再検討</p> <p>第4回 琉球ナショナリズムの起源について</p> <p>第5回 日米安保・沖縄基地問題の現状と課題</p> <p>第6回 東アジア共同体への展望と課題</p> <p>第7回 沖縄の自立と独立をめぐる諸問題</p> <p>第8回 民族・地域紛争と国際社会の対応</p> <p>第9回 冷戦の終焉と湾岸戦争</p> <p>第10回 パレスチナ問題とイスラエル</p> <p>第11回 ボスニア紛争・NATO空爆</p> <p>第12回 国連の意義と限界</p> <p>第13回 9・11事件とアフガニスタン・イラク戦争</p> <p>第14回 アラブの春と人道的介入論新しい中東の国際秩序</p> <p>第15回 総括 - ナショナリズムを越えて</p>			
授業外学習(予習・復習)			
教科書			
授業開始に指定する。			
参考書			
適宜紹介する			
成績の評価基準			
レポート課題と最終講義での小テストあり。その他に、毎回授業終了時に回収するアンケートも総合的な評価を行う場合の参考にする。			
オフィスアワー			
月曜日・3時限・研究室			
アクティブ・ラーニング			
アクティブ・ラーニング(その他の内容)			

アクティブ・ラーニング（授業回数）

備考（受講要件）

授業に関連したビデオ・DVDを適宜上映して鑑賞・解説する

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
FHS-BBB2301			
科目名			
演習I(憲法)(旧 演習)			
英語名			
Seminar I:Constitutional Law			
開講学科		コース	
法政策学科(2016年度入学生まで)		法学コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会・法学コース/必修科目	演習	2単位	3年
担当教員		連絡先(TEL)	連絡先(MAIL)
大野友也		099-285-7640	onotomoy@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
		前期	
授業概要			
演習形式で、憲法判例や学説についての整理・検討を行う。取り上げる判例・学説については、学生と相談して決める			
学修目標			
(1) 憲法についての基本的な概念・判例・学説を理解する。 (2) 現代の憲法問題について知り、解決策を考える。 (3) ディベート能力を身につける。			
授業計画			
第1回:オリエンテーション/レポート講評(レポート課題については「備考」を参照のこと) 第2~14回:報告・討論 第15回:まとめ			
授業外学習(予習・復習)			
【予習】講義の一週間前に配布する予告レジュメ・資料を読んでおく(30分程度) 【復習】配布したレジュメを再読し、自身で論点を再考する(60分程度)			
【課外活動】社会科見学として、鹿児島刑務所、鹿児島検察庁などへ行きます。また、夏休みには合宿に行きます。			
その際、大学生協の保険に入りますが、大学生協に加入していないと、この保険にはいれませんが、かならず大学生協に加入しておいてください。			
教科書			
各自の所有する『憲法』のテキスト(たとえば、芦部信喜『憲法』(岩波書店)、辻村みよ子『憲法』(日本評論社)、佐藤幸治『日本国憲法論』(成文堂)、長谷部恭男『憲法』(新世社)、浦部法穂『憲法学教室』(日本評論社)、高橋和之『立憲主義と日本国憲法』(有斐閣)、渋谷秀樹『憲法』(有斐閣)、野中俊彦ほか『憲法I、II』(有斐閣)など)			
参考書			
適宜指示する。			
成績の評価基準			
授業への取り組みの姿勢で評価する。			
オフィスアワ -			
火曜5限目(研究室)			
アクティブ・ラーニング			
ディベート; プレゼンテーション;			
アクティブ・ラーニング(その他の内容)			
アクティブ・ラーニング(授業回数)			
15回中15回			
備考(受講要件)			

第一回目にレポート講評をします。レポートのテーマは、「憲法ゼミを志望した理由」です。字数は1500字以上、用紙サイズはA4で、横書き。締め切りは4月11日(水)午後4時(研究室まで持参し直接提出するか、研究室のドアのボックスに入れておくこと)。パソコンを使用して作成してください。また、末尾に文字数を記載してください。

4・5限通してゼミを行いたいので(4年生の課題研究と合同)、できれば木曜4限には別の講義を履修しないようにして下さい(もちろん強制ではありませんが、可能な限りあけておいてください)。

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
科目名			
演習I (理論刑法学) (旧 演習)			
英語名			
Seminar I: Criminal Law Dogmatic			
開講学科		コース	
法政策学科 (2016年度入学生まで)		法学コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会・法学コース/必修科目	演習	2単位	3年
担当教員		連絡先 (TEL)	
南由介		連絡先 (MAIL)	
		minamiy@leh.kagoshima-u.ac.jp	
共同担当教員		前後期	
		後期	
授業概要			
<p>本演習は、理論刑法学の学修を内容とする。理論刑法学とは、論理・体系に裏づけられた学問としての刑法学である。そこでは、通説であるから、判例であるから、結論が妥当であるから、という理由づけは通用せず、論理的に正当化し得るのか、矛盾を内包していないか、他の見解と比較し理論的により優れた見解といえるのか、という観点から、学説を整理し、自説を展開することが求められる。そして、受講者は、相互に各見解を検討・批判して、止揚し、各自、一定の結論を得ることが目指される。</p> <p>具体的には、刑法総論分野および刑法各論分野の判例を題材として、あらかじめ決めておいた担当者が、判例の分析・検討およびその判例にまつわる学説の検討・批判を内容とする報告を行い、受講者全員で、さらに相互に検討・批判することを通して、理論刑法学の学修を図りたい。</p> <p>上記を内容とする演習を実現するには、受講者全員の高い意識と協力が不可欠である。報告者は、当然のことであるが多くの判例・裁判例、文献の読み込みが、他の受講者は、予習が必須である。また、必要に応じて、受講者同士で時間外の学修（いわゆるサブゼミ）が行われることがあっても良いであろう。</p>			
学修目標			
<p>以下の点の修得を目標とする。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 法的・論理的思考力を涵養する。 2. 刑法総論・各論を体系的に理解し、それらにおいて問題となる論点を検討し、批判的に考察することができる能力を涵養する。 			
授業計画			
第1回 ガイダンス			
第2回～第15回 報告・検討			
授業外学習 (予習・復習)			
教科書			
松原芳博編『刑法の判例〔総論〕』（成文堂）			
松原芳博編『刑法の判例〔各論〕』（成文堂）			
(本演習では、今年度は総論を扱う。各論は次年度の?で扱う予定である。)			
参考書			
井田良＝佐藤拓磨編『よくわかる刑法・第3版』（2018年）ミネルヴァ書房			
成績の評価基準			
演習への参加度（報告の内容、発言などの積極性）を総合的に考慮して評価する。			
オフィスアワ -			
研究室在室時			
アクティブ・ラーニング			
ディベート; プレゼンテーション;			
アクティブ・ラーニング (その他の内容)			

アクティブ・ラーニング (授業回数)

15回中15回

備考 (受講要件)

刑法に関心のある者、議論をすることが好きな者、考えることが好きな者を歓迎したい。また、ロースクールの進学を考えている者については、課題の提示等、個別に対応する。

なお、演習の内容については、受講者の意見を取り入れながら運営したいので、積極的に提言してもらいたい。合宿等も、要望があれば実施したい。

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
FHS-BBB2301			
科目名			
演習I(海商法)(旧 演習)			
英語名			
Seminar I:Maritime Law			
開講学科		コース	
法政策学科(2016年度入学生まで)		法学コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会・法学コース/必修科目	演習	2単位	3年
担当教員	連絡先(TEL)	連絡先(MAIL)	
松田忠大	099-285-7653	tmatsuda@leh.kagoshima-u.ac.jp	
共同担当教員		前後期	
		後期	
授業概要			
演習形式で海商法に関する判例研究を行います。 なお、演習の進め方および研究の対象とする判例は学生と相談して決定します。			
学修目標			
(1) 海商法に関する基本的な知識を定着させる。 (2) 商取引の基本的な考え方を理解し、商法的な視点から法解釈を行うことができる能力を身につける。 (3) コミュニケーション能力およびプレゼンテーション能力を身につける。			
授業計画			
第1回:オリエンテーション 第2回~第14回:研究報告および討論 第15回:まとめ			
授業外学習(予習・復習)			
この演習では、国内または国外における学外研修を行うことを予定しています。また、他大学のゼミとの合同研究会の開催も計画しています。			
教科書			
中村眞澄=箱井崇史『海商法』(第2版)(成文堂・2013年) 箱井崇史『基本講義現代海商法』(第3版)(成文堂・2018年)			
参考書			
その他の参考文献等は適宜指示します。			
成績の評価基準			
演習への取り組み態度で評価します。			
オフィスアワー			
火曜3限(研究室)			
アクティブ・ラーニング			
グループワーク; ディベート; プレゼンテーション; アクティブ・ラーニング(その他の内容)			
アクティブ・ラーニング(授業回数)			
15回中15回			
備考(受講要件)			
実務経験のある教員による実践的授業			

ナンバリングコード			
FHS-BBB2301			
科目名			
演習I (法社会学) (旧 演習)			
英語名			
Seminar I: Socio-Legal Studies			
開講学科		コース	
法政策学科 (2016年度入学生まで)		法学コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会・法学コース/選択科目	演習	2単位	3年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
米田憲市			kenyone@leh.kagoshima-u.ac.jp (subject欄に [演習:法社会学] と用件を記載し、本文には氏名と学籍番号を、必ず記載すること)
共同担当教員		前後期	
		前期	
授業概要			
<p>小難しい言い方をすれば、法社会学は、法やルールの社会的性質をその状況的事実とともに明らかにすることを志向し、理解を深めようとする研究実践とその成果の総体の呼称である。</p> <p>この研究領域では、多様な研究主題に多様な研究手法がとられることに鑑み、まず、これまでどのような主題がどのような手法で研究されているのかを明らかにしながら、これとほぼ並行して行う共通主題の調査研究と合わせて、この分野が法に関する研究分野の中で最も自由な性質を持つ分野であることを実感してもらい、「法についての知的で体験的で実践的な冒険」を授業の概要にしたい。</p>			
学修目標			
<p>再び小難しい言い方をすると、事実に対する冷静な分析力に基づいて、社会現象に対する共感的理解を伴った積極的かつ建設的提案ができ、組織をリードする意欲と協調性を習得して、国内外を問わず「ひとつぶ」意欲を持つことを、学修目標とする。</p>			
授業計画			
<p>おおむね、次の5つのテーマに取り組む。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. いわゆる"法社会学"にはどのような研究があるかリサーチする。 2. いわゆる"法社会学"の研究に、どのような研究手法がとられているかをリサーチする。 3. 法に関する諸場面や諸活動の位置づけや構造を説明する。 4. 新聞やニュースなどで法社会的な現象を取り上げ、それがいかに法社会的かを説明する。 5. 日常生活の中の場面にルールを発見し、そのルールを説明する。 			
授業外学習 (予習・復習)			
<p>ゼミでの発表・報告に向けた準備のため、時間外の共同作業が必須である。</p> <p>また、より充実した成果を上げるために、地域の法律系イベントに参加することや裁判傍聴に行くこと、法律系の検定試験を受験することが強く推奨される。</p>			
教科書			
指定しない			
参考書			
随時、紹介するとともに、みんなで探す。			
成績の評価基準			
上記、学修目標などに対して、積極的かつ意欲的に取り組んでいるかを基準とする。			
オフィスアワ -			
月曜5限 (その他、随時対応する。)			
アクティブ・ラーニング			
グループワーク; ディベート; フィールドワーク; プレゼンテーション; 学習の振り返り (ミニッツ・ペーパー			

等);

アクティブ・ラーニング(その他の内容)

アクティブ・ラーニング(授業回数)

15回中15回

備考(受講要件)

- ・「法社会学」「法情報論」の在学中の履修(履修後でなくてよい)が必須である。
- ・学生の研究活動の進捗や課題に合わせて、開講時間を変更することがある。
- ・法情報論ほか法政策学科で開講される、法に関する実践的な科目の受講を推奨する。
- ・法社会学の学会、研究発表会に遠征して学修してもらうことがある。
- ・繰り返しだが、課外の時間に開催される地域の法律系イベントに参加することや裁判傍聴に行くこと、法律系の検定試験を受験することが強く推奨される。
- ・これまた、繰り返しになるが、事実に対する冷静な分析力に基づいて、社会現象に対する共感的理解を伴った積極的かつ建設的提案ができ、組織をリードする意欲と協調性を習得して、国内外を問わず「ひとつぶ」意欲を持つ者を歓迎する。

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード

FHS-BBB4301

科目名

演習II (行政法・地方自治法) (旧 課題研究)

英語名

Seminar II: Administrative and Local Government Law

開講学科

法政策学科 (2016年度入学生まで)

コース

法学コース

授業科目区分

法政策学科/必修科目

授業形態

演習

単位数

2単位

開講期

4年

担当教員

森尾成之

連絡先 (TEL)

連絡先 (MAIL)

共同担当教員

前後期

後期

授業概要

講義や演習で学んだことを踏まえて、各自が選んだ行政法に関するテーマにつき報告し、それをレポートにまとめる。他の報告者の報告なり時事的なテーマにつき議論する。

学修目標

講義で学んだ理論、判例、学説の理解と演繹。
 講義で学んだことを踏まえつつ、自分自身の考えを聞き手に分かるように論理的に表現できるようになること。
 学修の成果をレポートにまとめる。
 他者の意見を聞きつつ、より妥当な解決方法はないかを考える眼を養う。

授業計画

前期、後期とも

第1回 ガイダンス

第2回～15回 報告と討論

授業外学習 (予習・復習)

ゼミ合宿なり社会見学、出前授業などを実施することがある。

教科書

授業中に適宜指示する。

参考書

授業中に適宜指示する。

成績の評価基準

ゼミでの参加状況 (報告、発言など) で評価する。
 事前の連絡なく欠席する者には単位を与えないことがある。

オフィスアワー

授業終了後に受け付け、適宜対応する。

アクティブ・ラーニング

グループワーク; ディベート; プレゼンテーション;

アクティブ・ラーニング (その他の内容)

アクティブ・ラーニング (授業回数)

15回中15回

備考 (受講要件)

行政の法システム、行政救済法、自治体行政法、行政法入門は受講済みか、未受講科目については並行して受講すること。

シラバスの内容は若干変更することがある。

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード

FHS-BBB4301

科目名

演習II (行政法・地方自治法) (旧 課題研究)

英語名

Seminar II:Administrative and Local Government Law

開講学科

コース

法政策学科 (2016年度入学生まで)

法学コース

授業科目区分

授業形態

単位数

開講期

法政策学科/必修科目

演習

2単位

4年

担当教員

連絡先 (TEL)

連絡先 (MAIL)

森尾成之

共同担当教員

前後期

前期

授業概要

講義や演習で学んだことを踏まえて、各自が選んだ行政法に関するテーマにつき報告し、それをレポートにまとめる。他の報告者の報告なり時事的なテーマにつき議論する。

学修目標

講義で学んだ理論、判例、学説の理解と演繹。
講義で学んだことを踏まえつつ、自分自身の考えを聞き手に分かるように論理的に表現できるようになること。
学修の成果をレポートにまとめる。
他者の意見を聞きつつ、より妥当な解決方法はないかを考える眼を養う。

授業計画

前期、後期とも

第1回 ガイダンス

第2回～15回 報告と討論

授業外学習 (予習・復習)

ゼミ合宿なり社会見学、出前授業などを実施することがある。

教科書

授業中に適宜指示する。

参考書

授業中に適宜指示する。

成績の評価基準

ゼミでの参加状況 (報告、発言など) で評価する。
事前の連絡なく欠席する者には単位を与えないことがある。

オフィスアワー

授業終了後に受け付け、適宜対応する。

アクティブ・ラーニング

グループワーク; ディベート; プレゼンテーション;

アクティブ・ラーニング (その他の内容)

アクティブ・ラーニング (授業回数)

15回中15回

備考 (受講要件)

行政の法システム、行政救済法、自治体行政法、行政法入門は受講済みか、未受講科目については並行して受講すること。

シラバスの内容は若干変更することがある。

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード

FHS-BBB4301

科目名

演習II (法政策論・行政法務論) (旧 課題研究)

英語名

Seminar II:Public Policy and Administrative Practice

開講学科

法政策学科 (2016年度入学生まで)

コース

法学コース

授業科目区分

法政策学科/必修科目

授業形態

演習

単位数

2単位

開講期

4年

担当教員

宇那木正寛

連絡先 (TEL)

285-7628

連絡先 (MAIL)

unaki@leh.kagoshima-u.ac.jp
メールには、必ず学籍番号と氏名
を明記し、パソコンからのメール拒
否設定を解除しておいて下さい。

共同担当教員

前後期

前期

授業概要

課題研究書作成に向け、各自が研究テーマに関連する事項について発表し、当該発表をもとに討論を行います。

学修目標

研究手法および論文の作成方法についての理解を深めます。

授業計画

第1回 ガイダンス

第2回～15回 各自が課題研究書の作成に向け各自が研究テーマに関する事項について発表を行います。

授業外学習 (予習・復習)

【予習】

事前に指示した文献等の検討と報告資料の作成

【復習】

授業中に指示した事項についての検討

教科書

授業中に適宜指示します。

参考書

授業中適宜指示します。

成績の評価基準

授業への取組の態度 (報告、討論中の発言, 出席等) により評価します。

オフィスアワ -

オフィスアワーは特に設けず、研究室在室中はできる限り対応します。来訪の際には事前にメールで連絡をするようにして下さい。

アクティブ・ラーニング

プレゼンテーション;

アクティブ・ラーニング (その他の内容)

アクティブ・ラーニング (授業回数)

15回中14回

備考 (受講要件)

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
FHS-BBB4301			
科目名			
演習II(憲法)(旧 課題研究)			
英語名			
Seminar II:Constitutional Law			
開講学科		コース	
法政策学科(2016年度入学生まで)		法学コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法政策学科/必修科目	演習	2単位	4年
担当教員	連絡先(TEL)	連絡先(MAIL)	
大野友也	099-285-7640	onotomoy@leh.kagoshima-u.ac.jp	
共同担当教員		前後期	
		後期	
授業概要			
課題研究作成のための指導を行う			
学修目標			
(1) 憲法についての基本的理解を深める (2) 論文作成能力を身につける			
授業計画			
第1回 ガイダンス 第2～15回 課題研究の作成指導			
授業外学習(予習・復習)			
【予習】講義の一週間前に配布する予告レジュメ・資料を読んでおくこと(30分程度)。 【復習】配布したレジュメを再読し、論点を再考すること(60分程度)。 【課外活動】合宿、社会科見学など、学外での研修等を予定しています。			
教科書			
各自の所有する『憲法』のテキスト(たとえば、芦部信喜『憲法』(岩波書店)、辻村みよ子『憲法』(日本評論社)、佐藤幸治『日本国憲法論』(成文堂)、長谷部恭男『憲法』(新世社)、浦部法穂『憲法学教室』(日本評論社)、高橋和之『立憲主義と日本国憲法』(有斐閣)、渋谷秀樹『憲法』(有斐閣)、野中俊彦ほか『憲法I、II』(有斐閣)など)			
参考書			
なし。			
成績の評価基準			
授業への取り組み態度で評価する。			
オフィスアワー			
火曜5限目(研究室)			
アクティブ・ラーニング			
ディベート; プレゼンテーション; アクティブ・ラーニング(その他の内容)			
アクティブ・ラーニング(授業回数)			
15回中15回			
備考(受講要件)			
実務経験のある教員による実践的授業			

ナンバリングコード			
FHS-BBB4301			
科目名			
演習II (国際私法) (旧 課題研究)			
英語名			
Seminar II: Private International Law			
開講学科		コース	
法政策学科 (2016年度入学生まで)		法学コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法政策学科/必修科目	演習	2単位	4年
担当教員	連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)	
眞砂康司	285-7630 (国際私法研究室)	masago@leh.kagoshima-u.ac.jp 件名 (題名) に、必ず学籍番号、氏名を入れてください。	
共同担当教員		前後期	
		前期	
授業概要			
各受講生が、教員の助言と指導のもと、それぞれのテーマで研究報告を行い、それに基づく討論を行う。最終的には、課題研究報告書の作成を行う。			
学修目標			
ゼミ最終学年としての国際私法の詳細的知識の習得。			
授業計画			
(前期)			
第1回 ガイダンス			
第2回 課題研究報告書に関する個別発表と討論?			
第3回 課題研究報告書に関する個別発表と討論?			
第4回 課題研究報告書に関する個別発表と討論?			
第5回 課題研究報告書に関する個別発表と討論?			
第6回 課題研究報告書に関する個別発表と討論?			
第7回 課題研究報告書に関する個別発表と討論?			
第8回 課題研究報告書に関する個別発表と討論?			
第9回 課題研究報告書に関する個別発表と討論?			
第10回 課題研究報告書に関する個別発表と討論?			
第11回 課題研究報告書に関する個別発表と討論?			
第12回 課題研究報告書に関する個別発表と討論?			
第13回 課題研究報告書に関する個別発表と討論?			
第14回 課題研究報告書に関する個別発表と討論?			
第15回 課題研究報告書に関する個別発表と討論?			
授業外学習 (予習・復習)			
あらかじめ伝えられている報告者のタイトルについては予習することが望ましい。授業後は、報告者でなくとも、質問することが望ましい。			
教科書			
適宜、指示する。			
参考書			
適宜、指示する。			
成績の評価基準			
授業への取り組み態度			
オフィスアワー			
木曜日・3時限・研究室			
アクティブ・ラーニング			
ディベート; プレゼンテーション;			
アクティブ・ラーニング (その他の内容)			

アクティブ・ラーニング (授業回数)

ほぼ毎回

備考 (受講要件)

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
FHS-BBB4301			
科目名			
演習II (海商法) (旧 課題研究)			
英語名			
Seminar II:Maritime Law			
開講学科		コース	
法政策学科 (2016年度入学生まで)		法学コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法政策学科/必修科目	演習	2単位	4年
担当教員	連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)	
松田忠大	099-285-7653	tmatsuda@leh.kagoshima-u.ac.jp	
共同担当教員		前後期	
		前期	
授業概要			
これまで講義および演習で学習してきたことを踏まえて、各自が選んだ海商法に関するテーマについて報告し、それを論説文としてまとめます。			
学修目標			
(1) 講義および演習で学習してきた海商法に関する知識および理論を定着させる。			
(2) 法学に関する論説文を書くための知識、技術および能力を身につける。			
授業計画			
第1回: ガイダンス			
第2~15回: 報告および討論			
授業外学習 (予習・復習)			
この授業では、国内または国外における学外研修を行うことを予定しています。また、他大学のゼミとの合同研究会の開催も計画しています。			
教科書			
授業中に適宜指示する。			
参考書			
授業中に適宜指示する。			
成績の評価基準			
授業への出席状況、報告の内容、討論への参加状況を総合的に判定して評価する。			
オフィスアワ -			
月曜4限 (研究室)			
アクティブ・ラーニング			
グループワーク; ディベート; プレゼンテーション;			
アクティブ・ラーニング (その他の内容)			
アクティブ・ラーニング (授業回数)			
15回中15回			
備考 (受講要件)			
実務経験のある教員による実践的授業			

ナンバリングコード			
FHS-BBB4301			
科目名			
演習II (海商法) (旧 課題研究)			
英語名			
Research Seminar II			
開講学科		コース	
法政策学科 (2016年度入学生まで)		法学コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法政策学科/必修科目	演習	2単位	4年
担当教員	連絡先 (TEL)		連絡先 (MAIL)
松田忠大	099-285-7653		tmatsuda@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
		後期	
授業概要			
これまで講義および演習で学習してきたことを踏まえて、各自が選んだ海商法に関するテーマについて報告し、それを論説文としてまとめる。			
学修目標			
(1) 講義および演習で学習してきた海商法に関する知識および理論を定着させる。			
(2) 法学に関する論説文を書くための知識、技術および能力を身につける。			
授業計画			
第1回: ガイダンス			
第2~15回 報告と討論			
授業外学習 (予習・復習)			
課題研究の執筆に向け、自らの選択したテーマについて、資料収集およびその検討をすること。			
教科書			
授業中に適宜指示する。			
参考書			
授業中に適宜指示する。			
成績の評価基準			
授業への出席状況、報告の内容、討論への参加状況および執筆した論説文の内容を総合的に判定して評価します。			
オフィスアワ -			
火曜3限 (研究室)			
アクティブ・ラーニング			
グループワーク; ディベート; プレゼンテーション;			
アクティブ・ラーニング (その他の内容)			
アクティブ・ラーニング (授業回数)			
15回中15回			
備考 (受講要件)			
実務経験のある教員による実践的授業			

ナンバリングコード			
科目名			
演習II (刑法(理論)) (旧 課題研究)			
英語名			
Seminar II:Criminal Law			
開講学科		コース	
法政策学科 (2016年度入学生まで)		法学コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法政策学科/必修科目	演習	2単位	4年
担当教員	連絡先 (TEL)		連絡先 (MAIL)
南由介			minamiy@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
		前期	
授業概要			
<p>本演習は、理論刑法学の学修を内容とする。理論刑法学とは、論理・体系に裏づけられた学問としての刑法学である。そこでは、通説であるから、判例であるから、結論が妥当であるから、という理由づけは通用せず、論理的に正当化し得るのか、矛盾を内包していないか、他の見解と比較し理論的により優れた見解といえるのか、という観点から、学説を整理し、自説を展開することが求められる。そして、受講者は、相互に各見解を検討・批判して、止揚し、各自、一定の結論を得ることが目指される。</p> <p>具体的には、刑法総論分野および刑法各論分野の判例を題材として、あらかじめ決めておいた担当者が、判例の分析・検討およびその判例にまつわる学説の検討・批判を内容とする報告を行い、受講者全員で、さらに相互に検討・批判することを通して、理論刑法学の学修を図りたい。</p> <p>上記を内容とする演習を実現するには、受講者全員の高い意識と協力が不可欠である。報告者は、当然のことであるが多くの判例・裁判例、文献の読み込みが、他の受講者は、予習が必須である。また、必要に応じて、受講者同士で時間外の学修（いわゆるサブゼミ）が行われることがあっても良いであろう。</p>			
学修目標			
<p>以下の点の修得を目標とする。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 法的・論理的思考力を涵養する。 2. 刑法総論・各論を体系的に理解し、それらにおいて問題となる論点を検討し、批判的に考察することができる能力を涵養する。 			
授業計画			
第1回 ガイダンス			
第2回～第15回 報告・検討			
授業外学習 (予習・復習)			
教科書			
松原芳博編『刑法の判例〔総論〕』（成文堂）			
松原芳博編『刑法の判例〔各論〕』（成文堂）			
（本演習では、今年度は総論を扱うので、演習開始時までに〔総論〕を用意しておいてもらいたい。）			
参考書			
井田良＝佐藤拓磨編『よくわかる刑法・第3版』（2018年）ミネルヴァ書房			
成績の評価基準			
演習への参加度（報告の内容、発言などの積極性）および課題研究の内容を総合的に考慮して評価する。			
オフィスアワ -			
研究室在室時			
アクティブ・ラーニング			
ディベート；プレゼンテーション；			
アクティブ・ラーニング（その他の内容）			
アクティブ・ラーニング（授業回数）			

15回中15回

備考（受講要件）

刑法に関心のある者、議論をすることが好きな者、考えることが好きな者を歓迎したい。また、ロースクールの進学を考えている者については、課題の提示等、個別に対応する。

なお、演習の内容については、受講者の意見を取り入れながら運営したいので、積極的に提言してもらいたい。合宿等も、要望があれば実施したい。

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード

科目名

演習II (刑事訴訟法) (旧 課題研究)

英語名

Seminar II:Criminal Procedure

開講学科

コース

法政策学科 (2016年度入学生まで)

法学コース

授業科目区分

授業形態

単位数

開講期

法政策学科/必修科目

演習

2単位

4年

担当教員

連絡先 (TEL)

連絡先 (MAIL)

中島宏

099-285-7633

h-nakaji@leh.kagoshima-u.ac.jp

共同担当教員

前後期

後期

授業概要

この演習では、刑事訴訟 (捜査・公訴・公判・証拠・裁判・上訴・非常救済) の諸問題について、3年次の演習で行ってきた共同研究をさらに進めるとともに、各自のテーマについて研究論文をまとめる。学生の研究報告と討論を中心に進行し、随時、論文の完成に向けた個別指導を行う。また、2年生の演習と合同での討論を行う。

学修目標

- 1) 刑事訴訟法の基本的な概念や制度を正しく理解する。
- 2) 刑事訴訟における様々な問題について、その背景と本質を正しく分析する。
- 3) 刑事訴訟における判例の機能について考察を深める。
- 4) 刑事訴訟の具体的な問題をどのように解決すべきか、自説を形成できるようになる。
- 5) 文献調査の手法を身につける。
- 6) 研究成果を文章および口頭で伝える手法を身につける。
- 7) 研究成果を論文にまとめて公開する。

授業計画

- 第1回 今後の方針決定
- 第2回 研究報告と討論
- 第3回 研究報告と討論
- 第4回 研究報告と討論
- 第5回 研究報告と討論
- 第6回 研究報告と討論
- 第7回 研究報告と討論
- 第8回 研究報告と討論
- 第9回 研究報告と討論
- 第10回 研究報告と討論
- 第11回 研究報告と討論
- 第12回 研究報告と討論
- 第13回 研究報告と討論
- 第14回 研究報告と討論
- 第15回 まとめ

授業外学習 (予習・復習)

各自の研究テーマについて授業外で調査・分析を進める。したがって、報告を担当する週だけでなく、恒常的に研究に取り組む必要がある。授業時間は、研究成果を発表するためのものであり、むしろ授業外学習こそが学習 (研究) のメインである。

さらに、自分の研究報告以外についても、以下の予習・復習が必要である。まず、予習として、報告担当者による指示に従って、判決文や基本的な知識を得るための文献に目を通すことが必要である (30~60分程度)。また、復習として、報告を終えた担当者に対して感想や評価をフィードバックすることが求められる (共同研究のマネーとして) (15~30分程度)。

教科書

特に指定しない。

参考書

各自の研究テーマに応じて随時アドバイスする。

成績の評価基準

研究報告、発言の頻度と内容、卒業論文などの水準を踏まえて評価する。

なお、演習は共同作業をその本質とするものであり、欠席は「Give & Take」の関係からの一方的な離脱を意味する。したがって、無断欠席や理由のない欠席は厳禁である。複数回繰り返した学生は、その時点で直ちに参加資格を喪失することになるので注意すること。

オフィスアワー

追って指定する。

アクティブ・ラーニング

グループワーク；ディベート；フィールドワーク；プレゼンテーション；学習の振り返り（ミニッツ・ペーパー等）；

アクティブ・ラーニング（その他の内容）

アクティブ・ラーニング（授業回数）

15回中15回

備考（受講要件）

演習I（刑事訴訟法）を3年次に受講していること。

主体的に学び問う意欲を持った学生のみ歓迎する。

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード

科目名

演習II (刑事訴訟法) (旧 課題研究)

英語名

Seminar II:Criminal Procedure

開講学科

コース

法政策学科 (2016年度入学生まで)

法学コース

授業科目区分

授業形態

単位数

開講期

法政策学科/必修科目

演習

2単位

4年

担当教員

連絡先 (TEL)

連絡先 (MAIL)

中島宏

099-285-7633

h-nakaji@leh.kagoshima-u.ac.jp

共同担当教員

前後期

前期

授業概要

この演習では、刑事訴訟 (捜査・公訴・公判・証拠・裁判・上訴・非常救済) の諸問題について、3年次の演習で行ってきた共同研究をさらに進めるとともに、各自のテーマについて研究論文をまとめる。学生の研究報告と討論を中心に進行し、随時、論文の完成に向けた個別指導を行う。また、2年生の演習と合同での討論を行う。

学修目標

- 1) 刑事訴訟法の基本的な概念や制度を正しく理解する。
- 2) 刑事訴訟における様々な問題について、その背景と本質を正しく分析する。
- 3) 刑事訴訟における判例の機能について考察を深める。
- 4) 刑事訴訟の具体的な問題をどのように解決すべきか、自説を形成できるようになる。
- 5) 文献調査の手法を身につける。
- 6) 研究成果を文章および口頭で伝える手法を身につける。
- 7) 研究成果を論文にまとめて公開する。

授業計画

- 第1回 今後の方針決定
- 第2回 研究報告と討論
- 第3回 研究報告と討論
- 第4回 研究報告と討論
- 第5回 研究報告と討論
- 第6回 研究報告と討論
- 第7回 研究報告と討論
- 第8回 研究報告と討論
- 第9回 研究報告と討論
- 第10回 研究報告と討論
- 第11回 研究報告と討論
- 第12回 研究報告と討論
- 第13回 研究報告と討論
- 第14回 研究報告と討論
- 第15回 まとめ

授業外学習 (予習・復習)

各自の研究テーマについて授業外で調査・分析を進める。したがって、報告を担当する週だけでなく、恒常的に研究に取り組む必要がある。授業時間は、研究成果を発表するためのものであり、むしろ授業外学習こそが学習 (研究) のメインである。

さらに、自分の研究報告以外についても、以下の予習・復習が必要である。まず、予習として、報告担当者による指示に従って、判決文や基本的な知識を得るための文献に目を通すことが必要である (30~60分程度)。また、復習として、報告を終えた担当者に対して感想や評価をフィードバックすることが求められる (共同研究のマナーとして) (15~30分程度)。

教科書

特に指定しない。

参考書

各自の研究テーマに応じて随時アドバイスする。

成績の評価基準

研究報告、発言の頻度と内容、卒業論文などの水準を踏まえて評価する。

なお、演習は共同作業をその本質とするものであり、欠席は「Give & Take」の関係からの一方的な離脱を意味する。したがって、無断欠席や理由のない欠席は厳禁である。複数回繰り返した学生は、その時点で直ちに参加資格を喪失することになるので注意すること。

オフィスアワー

追って指定する。

アクティブ・ラーニング

グループワーク; ディベート; フィールドワーク; プレゼンテーション; 学習の振り返り (ミニッツ・ペーパー等);

アクティブ・ラーニング (その他の内容)

アクティブ・ラーニング (授業回数)

15回中15回

備考 (受講要件)

演習I (刑事訴訟法) を3年次に受講していること。
主体的に学び問う意欲を持った学生のみ歓迎する。

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
科目名			
演習II (刑法(理論)) (旧 課題研究)			
英語名			
Seminar II:Criminal Law			
開講学科		コース	
法政策学科 (2016年度入学生まで)		法学コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法政策学科/必修科目	演習	2単位	4年
担当教員	連絡先 (TEL)		連絡先 (MAIL)
南由介			minamiy@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
		後期	
授業概要			
<p>本演習は、理論刑法学の学修を内容とする。理論刑法学とは、論理・体系に裏づけられた学問としての刑法学である。そこでは、通説であるから、判例であるから、結論が妥当であるから、という理由づけは通用せず、論理的に正当化し得るのか、矛盾を内包していないか、他の見解と比較し理論的により優れた見解といえるのか、という観点から、学説を整理し、自説を展開することが求められる。そして、受講者は、相互に各見解を検討・批判して、止揚し、各自、一定の結論を得ることが目指される。</p> <p>具体的には、刑法総論分野および刑法各論分野の判例を題材として、あらかじめ決めておいた担当者が、判例の分析・検討およびその判例にまつわる学説の検討・批判を内容とする報告を行い、受講者全員で、さらに相互に検討・批判することを通して、理論刑法学の学修を図りたい。</p> <p>上記を内容とする演習を実現するには、受講者全員の高い意識と協力が不可欠である。報告者は、当然のことであるが多くの判例・裁判例、文献の読み込みが、他の受講者は、予習が必須である。また、必要に応じて、受講者同士で時間外の学修（いわゆるサブゼミ）が行われることがあっても良いであろう。</p>			
学修目標			
<p>以下の点の修得を目標とする。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 法的・論理的思考力を涵養する。 2. 刑法総論・各論を体系的に理解し、それらにおいて問題となる論点を検討し、批判的に考察することができる能力を涵養する。 			
授業計画			
第1回 ガイダンス			
第2回～第15回 報告・検討			
授業外学習 (予習・復習)			
教科書			
松原芳博編『刑法の判例〔総論〕』（成文堂）			
松原芳博編『刑法の判例〔各論〕』（成文堂）			
（本演習では、今年度は総論を扱うので、演習開始時までに〔総論〕を用意しておいてもらいたい。）			
参考書			
井田良＝佐藤拓磨編『よくわかる刑法・第3版』（2018年）ミネルヴァ書房			
成績の評価基準			
演習への参加度（報告の内容、発言などの積極性）および課題研究の内容を総合的に考慮して評価する。			
オフィスアワ -			
研究室在室時			
アクティブ・ラーニング			
ディベート；プレゼンテーション；			
アクティブ・ラーニング（その他の内容）			
アクティブ・ラーニング（授業回数）			

15回中15回

備考（受講要件）

刑法に関心のある者、議論をすることが好きな者、考えることが好きな者を歓迎したい。また、ロースクールの進学を考えている者については、課題の提示等、個別に対応する。

なお、演習の内容については、受講者の意見を取り入れながら運営したいので、積極的に提言してもらいたい。合宿等も、要望があれば実施したい。

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
FHS-BBB4301			
科目名			
演習II(憲法)(旧 課題研究)			
英語名			
Seminar II:Constitutional Law			
開講学科		コース	
法政策学科(2016年度入学生まで)		法学コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法政策学科/必修科目	演習	2単位	4年
担当教員	連絡先(TEL)	連絡先(MAIL)	
大野友也	099 - 285-7640	onotomoy@leh.kagoshima-u.ac.jp	
共同担当教員		前後期	
		前期	
授業概要			
課題研究作成のための指導を行う			
学修目標			
(1) 憲法についての基本的理解を深める (2) 論文作成能力を身につける			
授業計画			
第1回 ガイダンス 第2～15回 課題研究の作成指導			
授業外学習(予習・復習)			
【予習】講義の一週間前に配布する予告レジュメ・資料を読んでおくこと(30分程度)。 【復習】配布したレジュメを再読し、論点を再考すること(60分程度)。			
【課外活動】合宿・社会科見学などの研修を予定しています。			
教科書			
各自の所有する『憲法』のテキスト(たとえば、芦部信喜『憲法』(岩波書店)、辻村みよ子『憲法』(日本評論社)、佐藤幸治『日本国憲法論』(成文堂)、長谷部恭男『憲法』(新世社)、浦部法穂『憲法学教室』(日本評論社)、高橋和之『立憲主義と日本国憲法』(有斐閣)、渋谷秀樹『憲法』(有斐閣)、野中俊彦ほか『憲法I、II』(有斐閣)など)			
参考書			
なし			
成績の評価基準			
平常点で評価する。			
オフィスアワー			
火曜5限目(研究室)			
アクティブ・ラーニング			
ディベート; プレゼンテーション;			
アクティブ・ラーニング(その他の内容)			
アクティブ・ラーニング(授業回数)			
15回中15回			
備考(受講要件)			
実務経験のある教員による実践的授業			

ナンバリングコード			
FHS-BBB4301			
科目名			
演習II (国際関係論) (旧 課題研究)			
英語名			
Seminar II: International Relations			
開講学科		コース	
法政策学科 (2016年度入学生まで)		法学コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法政策学科/必修科目	演習	2単位	4年
担当教員	連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)	
木村朗	099-285-7654	kimura@leh.kagoshima-u.ac.jp	
共同担当教員		前後期	
		後期	
授業概要			
演習において選択したテーマに関する資料・文献を各自が収集・分析し、個別指導のもと、「研究報告書」を作成する。前期に中間報告、後期に最終報告をそれぞれ行い、受講生全員で、それについて討論する。			
学修目標			
1) 国際問題に対する基本的な知識と分析視角・方法を学ぶことができる。			
2) 各自の問題意識に従って主体にテーマを選択し、具体的な国際紛争の解決策を提言できるようにする。			
授業計画			
第1回 授業の進め方の説明			
第2回～第14回 報告および討論			
第15回 まとめ			
<後期>			
第1回 授業の進め方の説明			
第2回～第14回 報告および討論			
第15回 まとめ			
授業外学習 (予習・復習)			
毎年秋に開催される九州平和学会 (日本平和学会九州地区平和研究集会) に合わせるかたちか、あるいは別個にゼミ研修旅行・ゼミ合宿を行う。今年は9月11～13日に沖縄へのゼミ合宿旅行を行うことになっている。			
教科書			
特に定めない。報告者が作成したレジュメ・資料を毎回配布する。			
参考書			
適宜授業の中で紹介する。			
成績の評価基準			
授業への取り組み態度、課題研究報告書 (総合的に評価)			
オフィスアワー			
月曜日・3時限・研究室			
アクティブ・ラーニング			
プレゼンテーション;			
アクティブ・ラーニング (その他の内容)			
アクティブ・ラーニング (授業回数)			
備考 (受講要件)			
特になし			
実務経験のある教員による実践的授業			

ナンバリングコード			
FHS-BBB4301			
科目名			
演習II (国際私法) (旧 課題研究)			
英語名			
Seminar II: Private International Law			
開講学科		コース	
法政策学科 (2016年度入学生まで)		法学コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法政策学科/必修科目	演習	2単位	4年
担当教員	連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)	
眞砂康司	099-285-7630	masago@leh.kagoshima-u.ac.jp 件名 (題名) に、必ず学籍番号、氏名を入れてください。	
共同担当教員		前後期	
		後期	
授業概要			
各受講生が、教員の助言と指導のもと、それぞれのテーマで研究報告を行い、それに基づく討論を行う。最終的には、課題研究報告書の作成を行う。			
学修目標			
ゼミ最終学年としての国際私法の詳細的知識の習得。			
授業計画			
(前期に引き続き)			
(後期)			
第1回 課題研究報告書に関する個別発表と討論?			
第2回 課題研究報告書に関する個別発表と討論?			
第3回 課題研究報告書に関する個別発表と討論?			
第4回 課題研究報告書に関する個別発表と討論?			
第5回 課題研究報告書に関する個別発表と討論?			
第6回 課題研究報告書に関する個別発表と討論?			
第7回 課題研究報告書に関する個別発表と討論?			
第8回 課題研究報告書に関する個別発表と討論?			
第9回 課題研究報告書に関する個別発表と討論?			
第10回 課題研究報告書に関する個別発表と討論?			
第11回 総括?			
第12回 総括?			
第13回 総括?			
第14回 総括?			
第15回 総括?			
授業外学習 (予習・復習)			
あらかじめ伝えられている報告者のタイトルについては予習することが望ましい。演習後は、報告者でなくとも、質問することが望ましい。			
教科書			
適宜、指示する。			
参考書			
適宜、指示する。			
成績の評価基準			
課題研究報告書に対する評価と授業への取り組み態度			
オフィスアワ -			
金曜日・3時限・研究室 (除く11/9)			
アクティブ・ラーニング			
ディベート; プレゼンテーション;			

アクティブ・ラーニング (その他の内容)

アクティブ・ラーニング (授業回数)

ほぼ毎回

備考 (受講要件)

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
FHS-BBB4301			
科目名			
演習II (法社会学) (旧 課題研究)			
英語名			
Seminar II:Legal Practices			
開講学科		コース	
法政策学科 (2016年度入学生まで)		法学コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法政策学科/必修科目	演習	2単位	4年
担当教員	連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)	
米田憲市	099-285-8860	kenyone@leh.kagoshima-u.ac.jp(必ず件名に「演習?(法社会学):氏名」を入れること)	
共同担当教員		前後期	
		後期	
授業概要			
履修学生個々の法社会学に関する研究課題に基づいた研究指導を行う。			
学修目標			
法社会学の問題関心に基づく研究論文を完成させる。			
授業計画			
第1講 研究指導(1)			
第2講 研究指導(2)			
第3講 研究指導(3)			
第4講 研究指導(4)			
第5講 研究指導(5)			
第6講 中間発表会(1)			
第7講 研究指導(6)			
第8講 研究指導(7)			
第9講 研究指導(8)			
第10講 研究指導(9)			
第11講 中間発表会(2)			
第12講 研究指導(10)			
第13講 研究指導(11)			
第14講 研究指導(12)			
第15講 最終発表会			
授業外学習(予習・復習)			
<ul style="list-style-type: none"> ・研究指導 個々に研究の進捗や課題について随時報告できるようにする。 ・中間発表 論文全体が完成していることを想定してプレゼンを行う。 ・最終発表会 演習?の履修者と合同で開講し、完成した研究を報告発表する。 			
教科書			
特に指定しない。			
参考書			
研究の進捗に合わせて随時指示される。			
成績の評価基準			
平常点である。ゼミでの取り組みや議論の充実への貢献度による。			
オフィスアワー			
随時			
アクティブ・ラーニング			
グループワーク; ディベート; フィールドワーク; プレゼンテーション;			

アクティブ・ラーニング(その他の内容)

アクティブ・ラーニング(授業回数)

15回中15回

備考(受講要件)

法社会学に関わる演習?を履修していること。

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
FHS-BBB4301			
科目名			
演習II (法社会学) (旧 課題研究)			
英語名			
Seminar II: Socio-Legal Studies			
開講学科		コース	
法政策学科 (2016年度入学生まで)		法学コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法政策学科/必修科目	演習	2単位	4年
担当教員		連絡先 (TEL)	
米田憲市		099-285-8860	
共同担当教員		連絡先 (MAIL)	
		kenyone@leh.kagoshima-u.ac.jp (必ず件名に「演習? (法社会学) : 氏名」を入れること)	
		前後期	
		前期	
授業概要			
履修学生個々の法社会学に関する研究課題に基づいた研究指導を行う。			
学修目標			
法社会学の問題関心に基づく研究論文を完成させる。			
授業計画			
第1講 研究指導(1)			
第2講 研究指導(2)			
第3講 研究指導(3)			
第4講 研究指導(4)			
第5講 研究指導(5)			
第6講 中間発表会(1)			
第7講 研究指導(6)			
第8講 研究指導(7)			
第9講 研究指導(8)			
第10講 研究指導(9)			
第11講 中間発表会(2)			
第12講 研究指導(10)			
第13講 研究指導(11)			
第14講 研究指導(12)			
第15講 最終発表会			
授業外学習 (予習・復習)			
<ul style="list-style-type: none"> ・研究指導 個々に研究の進捗や課題について随時報告できるようにする。 ・中間発表 論文全体が完成していることを想定してプレゼンを行う。 ・最終発表会 演習?の履修者と合同で開講し、完成した研究を報告発表する。 			
教科書			
特に指定しない。			
参考書			
研究の進捗に応じて随時指示される。			
成績の評価基準			
平常点である。ゼミでの取り組みや議論の充実への貢献度による。			
オフィスアワー			
随時			
アクティブ・ラーニング			
グループワーク; ディベート; フィールドワーク; プレゼンテーション; 学習の振り返り (ミニッツ・ペーパー等);			
アクティブ・ラーニング (その他の内容)			

アクティブ・ラーニング(授業回数)

15回中15回

備考(受講要件)

法社会学に関わる演習14単位と前期の演習IIを履修していること。ただし、それを踏まえてあえてというものも歓迎する。

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
科目名			
演習II(商法)(旧 課題研究)			
英語名			
Seminar II:Business Law			
開講学科		コース	
法政策学科(2016年度入学生まで)		法学コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法政策学科/選択科目	演習	2単位	4年
担当教員	連絡先(TEL)	連絡先(MAIL)	
志田惣一	099-285-7637	icns@leh.kagoshima-u.ac.jp	
共同担当教員	前後期		
	後期		
授業概要			
研究報告書を作成するための準備を行う。			
学修目標			
研究報告書を完成させる。			
授業計画			
1~15回 会社法の個別問題についての検討			
授業外学習(予習・復習)			
学生の報告を中心に演習を進める。			
教科書			
とくになし			
参考書			
とくになし			
成績の評価基準			
平常点			
オフィスアワ -			
火2限			
アクティブ・ラーニング			
アクティブ・ラーニング(その他の内容)			
アクティブ・ラーニング(授業回数)			
備考(受講要件)			
とくになし			
実務経験のある教員による実践的授業			

ナンバリングコード

FHS-BBC3301

科目名

公共法務論（旧 法政策論）

英語名

Law and Public Policy

開講学科

コース

法政策学科（2016年度入学生まで）

法学コース

授業科目区分

授業形態

単位数

開講期

法政策学科/選択科目

講義

2単位

3～4年

担当教員

連絡先（TEL）

連絡先（MAIL）

宇那木正寛

285 - 7628

unaki@leh.kagoshima-u.ac.jp
メールには、必ず学籍番号と氏名を明記し、パソコンからのメール拒否設定を解除しておいて下さい。

共同担当教員

前後期

後期

授業概要

国や地方公共団体は、災害、少子化問題、高齢者福祉、サイバー犯罪など様々な公共課題に対処するために政策を立案します。この政策は、特に公共政策と呼ばれ、目的及び手段の体系から構成されます。

この目的及び手段の体系からなる公共政策は、法令や条例などによって規範化（立法）されます。この規範化においては、法律学的観点からすると、国の政策については憲法に反してはならず、また、地方公共団体の政策においては、憲法を含む国法秩序に調和的であることが求められます。

この授業では、特に身近な地方公共団体の政策（地域公共政策）を中心に、政策を規範化するために必要な法学上の基礎的理論と政策を実現するための手段（行政手法）について講義します。あわせて、政策の規範化に必要な立法技術論の基礎知識についても講義します。

担当教員は、地方公共団体の法務担当職員として20年にわたり政策立案、法令審査、訴訟等の業務を担当するとともに、自治体の法務執行過程全般についての研究を行ってきました。この授業では、これまでの研究成果や実務での経験を生かした講義を行います。

なお、授業中、5回程度、学習レポート（授業についての質問、感想等）の提出を求めます。

学修目標

1. 法律学の視点から、いかなる行政手法をどのような基準で選択し、政策を立案すべきかについて討論できる能力を養う。
2. 公共政策を規範化（立法）するために必要な基礎知識を習得する。

授業計画

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 公共政策の意義
- 第3回 公共政策とその規範化
- 第4回 国、地方公共団体の政策と憲法 - 基礎
- 第5回 国、地方公共団体の政策と憲法 - 応用
- 第6回 立法事実
- 第7回 国と地方公共団体の政策分担
- 第8回 国と地方公共団体の政策分担規範
- 第9回 都道府県と市町村の政策分担規範
- 第10回 政策目的実現のための行政手法
- 第11回 行政手法の実効性担保のシステム
- 第12回 行政義務の強制的履行システム
- 第13回 公共政策規範化のための立法技術 - 法令の構成
- 第14回 公共政策規範化のための立法技術 - 実体的規定
- 第15回 まとめ
- 第16回 期末テスト

授業外学習（予習・復習）

【予習】

授業内容について、教科書等を読み、不明な点を明らかにしておくことが必要です。

【復習】

授業中に指示する文献等について、自主学習を行って下さい。

教科書

宇那木正寛『自治体政策立案入門』（ぎょうせい、2015）

参考書

必要に応じて指示します。

成績の評価基準

期末試験（100％）により評価します。

オフィスアワー

オフィスアワーは特に設けず、研究室在室中はできる限り対応したいと思います。ただし、不在の場合もあるので、事前連絡が確実です。

アクティブ・ラーニング

学習の振り返り（ミニッツ・ペーパー等）；

アクティブ・ラーニング（その他の内容）

ミニッツペーパー（学習レポート）の活用

アクティブ・ラーニング（授業回数）

15回中5回程度

備考（受講要件）

- 1．行政法のシステム、行政救済法を受講していることを前提に講義を行います。
- 2．第1回目の講義の際に、ガイダンスを行います。受講希望者は必ず出席して下さい。
- 3．授業は、講義形式を中心に行いますが、授業中に、質問をしたり、意見を求めます。
- 4．毎回、必ず六法を持参して下さい（有斐閣のポケット六法など小型六法で可）。
- 5．授業中、5回程度、学習レポート（授業についての質問、感想等）の提出を求めます。
- 6．シラバスの内容は若干変更することがあります。

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード

FHS-BBC3304

科目名

地方自治法（旧 自治体行政法）

英語名

Local Government Law

開講学科

コース

法政策学科（2016年度入学生まで）

法学コース

授業科目区分

授業形態

単位数

開講期

法政策学科/選択科目

講義

2単位

3～4年

担当教員

連絡先（TEL）

連絡先（MAIL）

宇那木正寛

2 8 5 - 7 6 2 8

unaki@leh.kagoshima-u.ac.jp
メールには、必ず学籍番号と氏名を明記し、パソコンからのメール拒否設定を解除しておいて下さい。

共同担当教員

前後期

後期

授業概要

地方自治法を中心とした、地方自治に関する法について解説します。
なお、授業中に数回、学習レポート（授業についての質問、感想等）の提出を求めます。

学修目標

地方自治に関する法制度及び法理論の基礎について理解することを目標とします。

授業計画

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 地方自治の基礎理論と地方公共団体の構成要素
- 第3回 普通地方公共団体
- 第4回 特別地方公共団体
- 第5回 地方公共団体の事務(1) - 地方公共団体の事務の種類
- 第6回 地方公共団体の事務(2) - 地方分権改革
- 第7回 地方公共団体の権能(1) - 自主組織権、自主行政権
- 第8回 地方公共団体の権能(2) - 自主立法権の種類
- 第9回 地方公共団体の権能(3) - 自主立法権の限界
- 第10回 地方公共団体の機関(1) - 議会と長
- 第11回 地方公共団体の機関(2) - 委員会と委員
- 第12回 住民の権利義務
- 第13回 住民監査請求と住民訴訟
- 第14回 普通地方公共団体に対する国・都道府県の関与
- 第15回 まとめ
- 第16回 期末テスト

授業外学習（予習・復習）

【予習】

1. 授業で取り上げられる予定の法律の条文や判決文について、あらかじめ入手し、予習しておくことが必要です。
2. 授業で取り上げる法律の多くは、小型の六法には掲載されていません。受講に当たって、法令データ提供システム（<http://law.e-gov.go.jp/cgi-bin/idxsearch.cgi>）などにアクセスし、あらかじめ当該法令をダウンロードするなどし、予習を行い、授業に出席することが必要です。
3. 授業では、裁判例を取り上げます。受講に当たって、判例データ・ベースなどにアクセスし、あらかじめ、当該裁判例をダウンロードするなどし、予習を行い、授業に出席することが必要です。

【復習】

授業中に指示する事項について、自主学習を行って下さい。

教科書

宇賀克也『地方自治法概説〔第7版〕』（有斐閣、2017年）

参考書

宇那木正寛『自治体政策立案入門』（ぎょうせい、2015年）

磯部力・小幡純子・斎藤誠編『地方自治判例百選〔第4版〕』（有斐閣、2013年）

成績の評価基準

期末試験（100％）で評価します。ただし出題の範囲は、教科書だけではなく、授業で扱う法令や条例、そして裁判例も含まれます。

したがって、期末試験に対応するには、毎回、必要な条文や裁判例を各自で入手し、授業に臨むことが必要です。

オフィスアワー -

オフィスアワーは特に設けず、研究室在室中は対応します。ただし、不在の場合もあるので、来訪の際には、メールで事前に連絡して下さい。

アクティブ・ラーニング

学習の振り返り（ミニッツ・ペーパー等）；

アクティブ・ラーニング（その他の内容）

ミニッツ・ペーパー（学習レポートの提出）

アクティブ・ラーニング（授業回数）

15回中5回

備考（受講要件）

- 1．行政の法システム、行政救済法を受講していることを前提として授業を進めます。
- 2．六法の持参は当然ですが、授業で取り上げる法律や条例の条文を各自、事前に用意して授業に臨んでください。
- 3．授業で取り上げる裁判例は、各自、事前に用意して講義に臨んでください。
- 4．シラバスの内容は若干変更することがあります。
- 5．第1回目の授業の際に講義の進め方などについて説明をするので、受講希望者は必ず出席して下さい。
- 6．授業中、数回、学習レポート（授業についての質問、感想等）の提出を求めます。

実務経験のある教員による実践的授業

刑法各論II (旧 法律学特殊講義 (犯罪と刑罰特論))
ナンバリングコード

FHS-BBC2337

科目名

刑法各論II (旧 法律学特殊講義 (犯罪と刑罰特論))

英語名

Criminal Law: Specific Offences II

開講学科		コース	
法政策学科 (2016年度入学生まで)		法学コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法政策学科/選択科目	講義	2単位	3~4年
担当教員	連絡先 (TEL)		連絡先 (MAIL)
南由介			minamiy@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員			前後期
			前期

授業概要

刑法各論のうち財産犯についての講義を行います。刑法は法規範の一つですが、刑罰という峻厳な強制力を有する点に他の法規範には見られない特徴があり、それ故、条文解釈においては場当たりのにならないよう緻密な議論がなされています。他方、法益侵害が発生したならば適切な規定を適用し、社会秩序を維持して法益の保護が図られなければならないのも当然です。条文を解釈するにあたっては、メリット・デメリットを意識しながら結論を導くことが求められます。

財産犯は、他の法益を保護する犯罪よりも複雑な様相を呈しているといっても過言ではありません。それは、法益が(ほぼ)同じであり、行為態様の相違によって成立する犯罪が区別されていると見得るからでしょう。それから、各犯罪の相互関係が重要となってきます。本講義では、事例を頻繁に用いつつ、各犯罪の成立要件を考察し、犯罪相互の関係を明らかにしていきます。

学修目標

以下の点の修得を目標とします。

1. 財産犯の保護法益、行為の客体等、財産犯の基本的事項について理解する。
2. 各財産犯の成立要件を理解し、各財産犯相互の関係について把握する。
3. 判例や主要な学説を理解し、多角的視野に基づいて結論を導くことができるようにする。

授業計画

- 第1回 財産の刑罰的保護(1)(客体等)
- 第2回 財産の刑罰的保護(2)(保護法益、不法領得の意思)
- 第3回 窃盗罪(1):窃盗罪
- 第4回 窃盗罪(2):不動産侵奪罪・親族相盗例
- 第5回 器物損壊罪
- 第6回 強盗罪(1):強盗罪
- 第7回 強盗罪(2):準強盗罪
- 第8回 強盗罪(3):240条
- 第9回 詐欺罪・恐喝罪(1):詐欺罪
- 第10回 詐欺罪・恐喝罪(2):電子計算機使用詐欺罪
- 第11回 詐欺罪・恐喝罪(3):恐喝罪
- 第12回 横領罪・背任罪(1):横領罪
- 第13回 横領罪・背任罪(2):背任罪
- 第14回 横領罪・背任罪(3):横領罪と背任罪の区別
- 第15回 盗品等関与罪
- 第16回 試験

授業外学習(予習・復習)

- 【予習】 授業で扱う内容につき、教科書の該当箇所を読み、概要を把握する(約1時間)。
- 【復習】 授業で扱った内容につき、レジュメで復習し、理解が十分でない箇所は教科書で再確認する(約1時間)。

教科書

井田良=佐藤拓磨『新論点講義シリーズ刑法各論・第3版』(2017年)弘文堂

参考書

井田良 = 佐藤拓磨編 『よくわかる刑法・第3版』 (2018年) ミネルヴァ書房

井田良 『入門刑法学・各論』 (2013年) 有斐閣

井田良 = 城下裕二編 『刑法各論判例インデックス』 (2016年) 商事法務

井田良 『講義刑法学・各論』 (2016年) 有斐閣

成績の評価基準

期末試験 (100%) (持ち込み一切不可)

オフィスアワ -

研究室在室時

アクティブ・ラーニング

その他;

アクティブ・ラーニング (その他の内容)

適宜学生に質問し、教員と学生とで応答を重ねて、理解を促進を図ります。

アクティブ・ラーニング (授業回数)

全回

備考 (受講要件)

授業には六法を持参すること。刑法総論?・?をすでに受講していることが望ましいですが、必要に応じて総論に関する事項につき補足しますので、それらの科目を受講していない人でも本講義を受講して構いません。

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
科目名			
地域政治論			
英語名			
開講学科		コース	
経済情報学科 (2016年度入学生まで)			
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
経済情報学科/選択科目	講義	2単位	4年
担当教員	連絡先 (TEL)		連絡先 (MAIL)
平井一臣	099-285-8855		isshin@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
		後期	
授業概要			
地域政治についての、歴史、構造、現状分析を行う。			
学修目標			
地域政治に対する関心を高め、地域政治がかかえる諸課題についての理解を深める。			
授業計画			
第1回 ガイダンス			
第2回 地域政治の歴史 (戦後改革)			
第3回 地域政治の歴史 (地域開発と地域政治)			
第4回 地域政治の歴史 (福祉国家と地域政治)			
第5回 地域政治の歴史 (新自由主義改革と地域政治)			
第6回 地域政治の構造 (二元代表制)			
第7回 地域政治の構造 (住民と自治)			
第8回 地域政治の構造 (規模と権限)			
第9回 地域政治の構造 (財政)			
第10回 地域政治の課題 (平成の大合併)			
第11回 地域政治の課題 (住民投票)			
第12回 地域政治の課題 (自治体外交)			
第13回 地域政治の課題 (ポピュリズム)			
第14回 地域政治の課題 (「地方消滅」論と地方創生)			
第15回 これからの地域政治			
授業外学習 (予習・復習)			
事前に提示した資料を読んで授業に臨み、授業で提示した課題を中心に復習を行う。			
教科書			
参考書			
授業中に適宜紹介する			
成績の評価基準			
定期試験による			
オフィスアワー			
メールで事前に調整し、適宜対応する。			
アクティブ・ラーニング			
学習の振り返り (ミニッツ・ペーパー等) ;			
アクティブ・ラーニング (その他の内容)			
アクティブ・ラーニング (授業回数)			
5回			
備考 (受講要件)			
実務経験のある教員による実践的授業			

ナンバリングコード			
FHS-CCD2302			
科目名			
外国書研究			
英語名			
Studies on Foreign Works			
開講学科		コース	
経済情報学科 (2016年度入学生まで)			
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
経済情報学科/必修科目	講義	2単位	3~4年
担当教員	連絡先 (TEL)		連絡先 (MAIL)
西村知	099-285-8851		satoru@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
なし。		前期	
授業概要			
<p>経済時事問題について英字新聞、ネットの英語記事などをテキストとして読解する。読解力のみならず音読によって英語の発音も指導する。また、テキストに関連する事象についても深く解説する。</p>			
学修目標			
英語の読解力、発音を上達させる。			
授業計画			
<p>1 授業の流れの説明、テキストの配布・解説 2 基本的な英文法の解説 3-14 テキストの解読 15 まとめ (授業を振り返って問題点を整理する)</p>			
授業外学習 (予習・復習)			
授業中、適宜、指示する。			
教科書			
授業の初回で配布する。			
参考書			
授業の初回で紹介する。			
成績の評価基準			
<p>3回の中間試験(90%) 毎回の授業での報告(10%)</p>			
オフィスアワ -			
水曜日 (12:00-13:00)			
アクティブ・ラーニング			
アクティブ・ラーニング (その他の内容)			
アクティブ・ラーニング (授業回数)			
備考 (受講要件)			
特になし。			
実務経験のある教員による実践的授業			

ナンバリングコード			
FHS-CCD2302			
科目名			
外国書研究			
英語名			
Studies on Foreign Works			
開講学科		コース	
経済情報学科 (2016年度入学生まで)		経済コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
経済情報学科/必修科目	講義	2単位	2~4年
担当教員	連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)	
北村浩一	099-285-6296	kitamura@leh.kagoshima-u.ac.jp	
共同担当教員		前後期	
		前期	
授業概要			
<p>現在、情報は主としてインターネット経由で触れることが日常となった。ただし、我々日本人には言語のハンデのために必ずしもその情報を生かし切っていないといえる。そこでインターネット上の海外（英語）の経済および社会に関する情報を読み解くことで新たな視点からインターネット情報に接する。</p>			
学修目標			
<p>これまで習得した英語読解能力、エンドユーザー実習で学んだ技術を生かして国際的な情報の収集・分析能力を養うことが目標である。したがって実際に情報を収集し、分析するという実習的な要素を取り入れているので、従来の外国書講読とは異なった双方向型の授業形式を採用している。</p> <p>具体的にはPowerPointを使ってのプレゼンテーション、Wordを使っての文書（企画書）作成など、使える技能をフルに活用しながら授業を進めていく。</p>			
授業計画			
<p>第1回 ガイダンス 第2回～第5回 情報の収集・分析（パート1） 第6回～第8回 個人報告 第9回～第12回 情報の収集・分析（パート2） 第13回～第15回 個人報告</p>			
授業外学習（予習・復習）			
必要に応じて適宜指示をする。			
教科書			
参考書			
成績の評価基準			
期末試験、授業への取り組み態度、レポート			
オフィスアワ -			
毎週木曜日12時半～13時半			
アクティブ・ラーニング			
プレゼンテーション；学習の振り返り（ミニッツ・ペーパー等）；			
アクティブ・ラーニング（その他の内容）			
アクティブ・ラーニング（授業回数）			
全15回中13回			
備考（受講要件）			
必修科目なので無断欠席は厳禁であることに十分留意すること。			
実務経験のある教員による実践的授業			

ナンバリングコード			
科目名			
多言語文化論演習1c			
英語名			
開講学科		コース	
人文学科 新旧共通			
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
人文・多元地域文化コース / 選択科目	演習	2単位	2～4年
担当教員	連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)	
鶴戸 聡			
共同担当教員	前後期		
前期			
授業概要			
学修目標			
授業計画			
授業外学習 (予習・復習)			
教科書			
参考書			
成績の評価基準			
オフィスアワ -			
アクティブ・ラーニング			
アクティブ・ラーニング (その他の内容)			
アクティブ・ラーニング (授業回数)			
備考 (受講要件)			
実務経験のある教員による実践的授業			

ナンバリングコード			
FHS-DGI4602			
科目名			
博物館実習			
英語名			
Museum Management Practicum			
開講学科		コース	
人文学科 新旧共通			
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
学芸員科目	実習	3単位	4年
担当教員	連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)	
渡辺芳郎	099-285-7539	watanabe@leh.kagoshima-u.ac.jp	
共同担当教員		前後期	
		前期	
授業概要			
博物館における実習とその事前事後指導を行う。			
学修目標			
博物館学芸員として必要な知識や技能などを修得する。			
授業計画			
第1・2回：事前指導 第3～14回：見学実習 第15～26回：学内実習 第27回：館園実習事前指導 第28～42回：館園実習 第43回：館園実習事後指導 第44・45回：事後指導			
授業外学習 (予習・復習)			
実習する各博物館の指示。			
教科書			
適宜指示 (実習する各博物館の指示)			
参考書			
適宜指示 (実習する各博物館の指示)			
成績の評価基準			
授業への取り組み態度とレポートおよび実習館の評価に基づき総合的に評価。			
オフィスアワ -			
研究室在室中はいつでも可。			
アクティブ・ラーニング			
グループワーク; フィールドワーク;			
アクティブ・ラーニング (その他の内容)			
アクティブ・ラーニング (授業回数)			
備考 (受講要件)			
本授業は平成24年度以降入生のみ受講可。			
実務経験のある教員による実践的授業			

ナンバリングコード			
科目名			
地域フィールド実習			
英語名			
開講学科		コース	
人文学科 新旧共通			
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
人文・多元地域文化コース / 選択科目	実習	1単位	2～3年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
渡辺芳郎・小林善仁・石田智子		099-285-7539	watanabe@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
		前期	
授業概要			
地域を理解するための方法として、エリアを設定してフィールドワークを実施する。設定されたエリアについての事前学習を踏まえ計画を立て、その調査を通じて、記録の方法を学ぶとともに、みずからの調査結果を発表するためのスキルを養成する。			
学修目標			
フィールドワークにともなう諸知識・諸技術の習得およびそのプレゼンテーションの方法習得を目標とする。			
授業計画			
学内での座学とともに、土・日、祝日、長期休暇中等に学外においても実施する。			
授業外学習 (予習・復習)			
授業で実施する技法修得のための予習・復習が望ましい。			
教科書			
なし			
参考書			
なし			
成績の評価基準			
授業に臨む姿勢 (50%) ・ プレゼンテーション (50%)			
オフィスアワー			
授業・会議のないときはいつでも可。			
アクティブ・ラーニング			
グループワーク; フィールドワーク; プレゼンテーション;			
アクティブ・ラーニング (その他の内容)			
フィールドワーク調査に必要なさまざまな技術を共同で学ぶ			
アクティブ・ラーニング (授業回数)			
備考 (受講要件)			
交通費・入館料などの経費は自己負担。			
実務経験のある教員による実践的授業			

ナンバリングコード			
科目名			
日本語学研究B (旧 日本語構造論)			
英語名			
Japanese Linguistics B			
開講学科		コース	
人文学科 新旧共通			
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
人文・多元地域文化コース / 選択科目	講義	2単位	2~4年
担当教員	連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)	
梅崎光		授業で配布する資料を参照のこと。	
共同担当教員	前後期 後期		
授業概要			
日本語文法史の基本的なテーマについて理解することを目的として、教科書の内容に沿って授業する。			
学修目標			
過去の日本語に関する事実を認識し研究する手続きを知る。			
授業計画			
概ね以下のような順序で行う予定である。受講者の理解度等に応じて若干の伸び縮みや内容変更があると了解していただきたい。			
第1回：活用			
第2回：格			
第3回：ヴォイス			
第4回：アスペクト・テンス			
第5回：モダリティ			
第6回：感動表現・希望表現			
第7回：係り結び			
第8回：とりたて			
第9回：準体句			
第10回：条件表現			
第11回：待遇表現			
第12回：ダイクシス			
第13回：談話・テキスト			
第14回：文法史と方言			
第15回：総括			
定期試験			
授業外学習 (予習・復習)			
<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業の前に教科書を熟読する。 ・ 教科書、授業で配布した資料、授業中の筆記をもとに授業内容を復習する。 ・ 各自の現状に応じて、高等学校に学んだ古典文法を復習する。 			
教科書			
高山善行/青木博史:編『ガイドブック日本語文法史』ひつじ書房、2010年			
参考書			
授業中に適宜示す。			
成績の評価基準			
小テスト (40%) と期末試験 (60%)			
オフィスアワ -			
アクティブ・ラーニング			

学習の振り返り (ミニッツ・ペーパー等) ;

アクティブ・ラーニング (その他の内容)

アクティブ・ラーニング (授業回数)

備考 (受講要件)

日本語学概説AおよびBを受講済みであることが望ましい。受講に当たっての注意事項は以下のとおりである。

- (1) 座席表の通りに着席する。
- (2) 遅刻しない。やむを得ず遅刻した場合はコソコソと入室する。
- (3) 私語等による妨害行為はお断りする。
- (4) 授業中は携帯電話・スマートフォン等の電源を切って鞆にしまう。
- (5) 授業時間中に無断で抜け出さない。

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード

科目名

アメリカ文学演習 1 (旧 アメリカ文学演習)

英語名

American Literature 1

開講学科

コース

人文学科 新旧共通

授業科目区分

授業形態

単位数

開講期

人文・多元地域文化コース
/ 選択科目

講義

2単位

2~4年

担当教員

連絡先 (TEL)

連絡先 (MAIL)

竹内勝徳

985-8874

takeutik@leh.kagoshima-u.ac.jp

共同担当教員

前後期

前期

授業概要

ケイト・ショパンの “The Awakening” を精読し、資料や文献を参照して作品を解釈する。毎回の授業で発表の割り当てを行い、レジュメを準備して翻訳を発表すると共に、その箇所についての解釈を提示する。また、その発表について全体でディスカッションを行う。

学修目標

ショパンの作品を精読することをテーマとする。到達目標は以下のとおりである。(1) ショパンとリアリズム文学の特質について理解する。(2) 作品に表れた時代背景やアメリカ社会・文化の特徴について理解を深める。(3) 精読を行うことで英語の読解力を向上させる。(4) 作品の解釈とディスカッションを通して批判的な思考力を高める。(5) 資料を駆使して解釈を行い、レポートを作成することで情報処理能力と分析力を向上させる。

授業計画

- 第1回 ケイト・ショパン文学の全体像と資料の紹介
 第2回 “The Awakening” 精読 資本主義との関連性
 第3回 “The Awakening” 精読 劇場文化との関連
 第4回 “The Awakening” 精読 言語的特質
 第5回 “The Awakening” 精読 法律と言語
 第6回 “The Awakening” 精読 声と身体
 第7回 “The Awakening” 精読 身体の対立性
 第8回 “The Awakening” 精読 アフェクトについて
 第9回 “The Awakening” 精読 アフェクトと言語
 第10回 “The Awakening” 精読 政治性
 第11回 “The Awakening” 精読 メルヴィルの芸術観
 第12回 “The Awakening” 精読 メルヴィルの想像力
 第13回 “The Awakening” 精読 ホーソンとの差異
 第14回 “The Awakening” 精読 想像力と対象物 (リアリティ)
 第15回 全体ディスカッション、総括
 レポート提出

授業外学習 (予習・復習)

全員が確実にテキストを読んでから授業に参加し、授業中の指摘や翻訳の修正点について復習しておくことが求められる。

教科書

プリントを配布。

参考書

授業中に指示。

成績の評価基準

レポート50%、発表25%、ディスカッション25%の割合で成績評価を行う。

オフィスアワ -

月曜の昼休み。

アクティブ・ラーニング

グループワーク; ディベート; プレゼンテーション;

アクティブ・ラーニング (その他の内容)

ディスカッションでアクティブ・ラーニングを行う。

アクティブ・ラーニング (授業回数)

15回中15回。

備考 (受講要件)

英語力の向上に意欲を持っていること。

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
科目名			
日本古典文学研究C			
英語名			
Classical Japanese Literature C			
開講学科		コース	
人文学科 新旧共通			
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
人文・多元地域文化コース / 選択科目	講義	2単位	2～4年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
福田智子		099 (285) 8904(人文学科 丹羽謙治)	niwa@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
		前期	
授業概要			
『古今和歌集』『古今和歌六帖』および平安朝私家集といった和歌文学作品や『源氏物語』を取り上げ、写本間に存する本文異同から、伝本の性格を比較分析するとともに、写本が生み出された時代の政治的・文化的背景を踏まえて、平安朝仮名文学の読解の可能性を再検討する。			
学修目標			
変体仮名・くずし字を読み、複数の伝本の本文異同を正確に把握する力を身に付けるとともに、平安朝仮名文学を読解する力を向上させる。			
授業計画			
第1回 ガイダンス 「書写」という行為			
第2回 勅撰和歌集の時代 歌人の身分と「歌の家」意識			
第3回 平安朝私家集の成立 十世紀後半の和歌活動			
第4回 『古今和歌集』の伝本 伝藤原公任筆本の存在			
第5回 和歌の本文異同 「吉野の里に降れる白雪」			
第6回 平安朝の『万葉集』享受(一) 西本願寺本の訓			
第7回 平安朝の『万葉集』享受(二) 訓の生成と流布			
第8回 『古今和歌六帖』の本文(一) 写本と版本			
第9回 『古今和歌六帖』の本文(二) 題と本文の間			
第10回 私家集間の和歌の重複 藤原兼家六十賀和歌			
第11回 散逸私家集の復元 平祐拳の人生と一条朝和歌の表現特徴			
第12回 私家集の成立年代推定 『為忠集』再考			
第13回 『源氏物語』諸本分類の問題点			
第14回 『源氏物語』陽明文庫本桐壺巻の本文			
第15回 まとめ 伝本研究の将来(情報科学技術導入の可能性)			
授業外学習(予習・復習)			
(予習) 関連する平安朝仮名文学の原文に目を通す。			
(復習) 授業中に取り上げる平安朝仮名文学作品を読み、参考文献を参看して理解を深める。			
教科書			
使用しない。プリントを配付する。			
参考書			
津本信博編『平安朝文学史入門便覧 表覧・図説・図録』(武蔵野書院)。 その他は授業中に紹介する。			
成績の評価基準			
授業に対するコメント(40%)とレポート(60%)			
オフィスアワー			
授業の終了後。			
アクティブ・ラーニング			
学習の振り返り(ミニッツ・ペーパー等);			

アクティブ・ラーニング（その他の内容）

アクティブ・ラーニング（授業回数）

毎回

備考（受講要件）

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
科目名			
日本近現代文学研究B (旧 日本近代文学)			
英語名			
Modern Japanese Literature B1			
開講学科		コース	
人文学科 新旧共通			
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
人文・多元地域文化コース / 選択科目	講義	2単位	2～4年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
多田蔵人			
共同担当教員		前後期	
		後期	
授業概要			
<p>テーマ：日本近代文学における引用</p> <p>近代文学の歴史は、しばしば言文一致体ないし口語文の歴史として語られる。しかし近代小説は、先行する時代の文学表現や海外の文学表現、さらに小説以外の散文表現から、少なからざる影響・拘束を受けてもいた。近代小説を読むと、一見口語であるように見える表現のかけに文語といわれる表現が見え隠れしていることの原因である。近代文学の諸作品が他のテキストから影響を受け、新たな表現を創り出してゆく変換式を、理論的に把握してみたいと思う。</p>			
学修目標			
引用の分析を通じて、近代文学における規範的文章概念を理解する。			
授業計画			
<p>第1回：空想小説1 西洋案内書と小説</p> <p>第2回：空想小説2 ジュール・ヴェルヌの翻訳</p> <p>第3回：空想小説3 都市描写の文体形成</p> <p>第4回：政治小説1 空想小説と政治小説の連関</p> <p>第5回：政治小説2 「未来記」ものの政治的役割</p> <p>第6回：政治小説3 矢野龍溪の小説と植民地問題</p> <p>第7回：諷刺小説1 福地桜痴の諸作</p> <p>第8回：諷刺小説2 江戸戯作との関連</p> <p>第9回：諷刺小説3 言葉のリアリズムとしての諷刺文学</p> <p>第10回：社会小説1 「暗黒面」の発見</p> <p>第11回：社会小説2 ルポルタージュの文章</p> <p>第12回：社会小説3 大逆事件と歴史叙述</p> <p>第13回：江戸趣味1 「異国」としての江戸</p> <p>第14回：江戸趣味2 江戸の「暗黒面」へのまなざし</p> <p>第15回：江戸趣味3 歴史小説への転回</p> <p>定期試験</p>			
授業外学習 (予習・復習)			
予習：指定されたテキストは、必ず読んでくること。復習：授業で紹介した参考文献に目を通し、自分なりに考えをまとめること。			
教科書			
講義時に適宜配布する。			
参考書			
成績の評価基準			
授業の提出物40%、試験60%。			
オフィスアワ -			

アクティブ・ラーニング

アクティブ・ラーニング (その他の内容)

アクティブ・ラーニング (授業回数)

備考 (受講要件)

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
科目名			
地理学演習 A 1			
英語名			
Geography A1b			
開講学科		コース	
人文学科 新旧共通			
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
人文・多元地域文化コース / 選択科目	演習	2単位	2～4年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
小林善仁		099 285 7557	zenjin@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
		後期	
授業概要			
<p>地域には、自然・人文の諸現象が存在し、地理学はそれらの分析を通じて地域の仕組みや特性を考える学問である。この授業では、人文地理学で取り扱う資料（地図・統計・名鑑）を用いて、地域の地理学的分析視角を解説すると共に、地図・統計類を用いて身近な地域を実際に分析することにより、地域の特性と地域に内在する諸問題の存在を明らかにする。</p>			
学修目標			
<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域に関する地理学的資料について理解し、取り扱うことができる。 ・ 地域に対する地理学の分析方法を理解することができる。 ・ 地域の諸問題に関する文献を収集し、整理することができる。 ・ 地域の地理的特性と地域に内在する諸問題を理解し、説明することができる。 			
授業計画			
第1回 ガイダンス 第2回 地理学の諸分野 第3回 地理学の文献収集・整理1（人口） 第4回 地理学の文献収集・整理2（集落） 第5回 地理学の文献収集・整理3（産業） 第6回 地理学の文献収集・整理4（観光） 第7回 地理学の文献講読・発表1（人口） 第8回 地理学の文献講読・発表2（集落） 第9回 地理学の文献講読・発表3（産業） 第10回 地理学の文献講読・発表4（観光） 第11回 地域の地理学的分析1（人口） 第12回 地域の地理学的分析2（集落） 第13回 地域の地理学的分析3（産業） 第14回 地域の地理学的分析4（観光） 第15回 フィールドワーク 期末課題			
授業外学習（予習・復習）			
興味を持った事柄は図書・インターネットなどで調べてみて下さい。			
教科書			
プリントを配布。			
参考書			
講義の中で適宜紹介する。			
成績の評価基準			
<ul style="list-style-type: none"> ・ 各回の課題・発表内容（50％） ・ 期末課題（50％50％） 			
オフィスアワ -			
講義・会議の時間以外ならいつでも可。			

アクティブ・ラーニング

グループワーク; ディベート;

アクティブ・ラーニング (その他の内容)

アクティブ・ラーニング (授業回数)

15回中14回

備考 (受講要件)

ゼミ所属学生 (3年生対象) に限る。

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
FHS-DFH2532			
科目名			
報道論演習 1 (旧 マスコミ論演習)			
英語名			
Journalism Studies 1			
開講学科		コース	
人文学科 新旧共通			
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
人文・多元地域文化コース / 選択科目	演習	2単位	2~4年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
宮下正昭		090-8295-6853	mk-miya@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
なし		前期	
授業概要			
マスコミ報道の大きな分野である事件事故報道について、さまざまな角度から考える。被疑者の人権、被害者の人権は？ そもそも事件事故報道は社会にとって必要なのか。あなたも裁判員に選ばれる可能性があるなか、社会人としての基本的態度を培いたい。日々のニュースも参考にしながら授業を進める。			
学修目標			
事件報道のありようから社会のありように、より関心を持ってもらう。情報を伝える媒体は、従来の新聞紙、テレビ(電波)からネット(通信)へシフトしつつあるが、問われるのは中身(コンテンツ)。事件を扱った過去の秀逸なドキュメンタリー番組や新聞記事からも社会を見つめ直す。			
授業計画			
第 1 回	逮捕って何?	刑事訴訟法と報道の現状	
第 2 回	事件記者って何?	新聞、テレビの現状と記者活動	
第 3 回	被害者の実名・匿名 1	プライバシーと事実の報道	
第 4 回	被害者の実名・匿名 2	メディアスクラム	
第 5 回	被疑者の実名・匿名 1	事実の報道と社会的制裁	
第 6 回	被疑者の実名・匿名 2	事実の報道とえん罪	
第 7 回	別件逮捕の危険性	警察追従の記者たち	
第 8 回	性犯罪とえん罪	便利な条例の落とし穴	
第 9 回	えん罪事件の罪深さ	「供述」情報に乗った責任	
第 10 回	死刑制度の重さ	世論とどう向き合う	
第 11 回	国策捜査と報道	国家の思惑と事実	
第 12 回	調査報道の意義	記者のしたかさと社の覚悟	
第 13 回	内部告発の重さ	告発者と取材記者の関係	
第 14 回	災害と報道	問われる記者の覚悟と配慮	
第 15 回	記者クラブのありよう	日本独自システムの功罪	
授業外学習(予習・復習)			
事件を報じる新聞、テレビ、ネットニュースにできるだけ目を通す。報じられる中身の背景、メディアの特性にも注意をめぐらす。			
教科書			
なし			
参考書			
共同通信社発行『記者ハンドブック』、日本新聞協会発行『実名と報道』、宮下正昭著『予断』(筑摩書房)、マーティン・ファクラー著『「放蕩のこと」を伝えない日本の新聞』(双葉新書)、高田昌幸ほか編『権力vs調査報道』(旬報社)、加藤久晴著『原発テレビの荒野』(大月書店)、清水潔著『殺人犯はそこにいる』(新潮社)			
成績の評価基準			
授業での感想レポートと期末試験の結果から総合的に判断する			
オフィスアワ -			

金曜午後	ただし事前に連絡を
アクティブ・ラーニング	
ディベート; 学習の振り返り (ミニッツ・ペーパー等);	
アクティブ・ラーニング (その他の内容)	
アクティブ・ラーニング (授業回数)	
15回中	15回
備考 (受講要件)	
欠席する場合は事前連絡を	
実務経験のある教員による実践的授業	

ナンバリングコード			
FHS-DFH2532			
科目名			
報道論演習1(旧 マスコミ論演習)			
英語名			
Journalism Studies 1			
開講学科		コース	
人文学科 新旧共通			
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
人文・多元地域文化コース / 選択科目	演習	2単位	2~4年
担当教員		連絡先(TEL)	連絡先(MAIL)
宮下正昭		090-8295-6853	mk-miya@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
なし		後期	
授業概要			
<p>人々の暮らしをより豊かに幸せにする、その一翼を報道機関も担っている。しかし、対外的な問題では国籍ジャーナリズムに陥り、国民の暮らしにとっては最悪の事態、戦争へと導きかねない危険性もはらんでいる。社会を戦争へ駆り立てた戦前、戦中の報道を振り返りながら、現在の日々の出来事、ニュースからその問題点を検証、社会のありようを考える。</p> <p>随時、ドキュメンタリー番組なども活用し、議論を深めたい</p>			
学修目標			
<p>マスコミ、報道機関は社会にとって必要か。過去の歴史や他国の例も交えて考える。歴史を検証しながら、日々のニュースを検証し、報道の在り方を学ぶ。ネット世論の動向も注視し、旧来のメディアとともにリテラシーを育む。</p>			
授業計画			
第1回	戦争とメディア1	日中戦争と鼓舞する新聞	
第2回	戦争とメディア2	太平洋戦争と大本営報道	
第3回	戦争とメディア3	最初の犠牲者は真実	
第4回	領土問題報道	尖閣、竹島、北方領土問題と暮らし	
第5回	慰安婦報道	彼我の違い 複合的視野をもつには	
第6回	北朝鮮報道1	「拉致被害者を返せ」の熱風	
第7回	北朝鮮報道2	国家に囚われるメディア	
第8回	在日米軍報道	沖縄メディアと中央メディア	
第9回	在日米軍報道	沖縄とニッポン	
第10回	皇室報道1	天皇制と日本	
第11回	皇室報道2	タブーとメディア	
第12回	ネット右翼	その吸引力と既存メディア	
第13回	希望は戦争?	閉塞感とメディアの役割	
第14回	戦争を報じる1	問われるスタンス	
第15回	戦争を報じる	プロパガンダの怖さ	
授業外学習(予習・復習)			
日々のニュースをできるだけチェックを。ネットだけでなく新聞、テレビという旧来のメディアからも情報を			
教科書			
特に指定しない。興味があれば、以下の参考書を購読すること。授業に必要な資料はコピーして配布する。			
参考書			
『そして、メディアは日本を戦争に導いた』半藤一利・保阪正康著(東洋経済新報社)			
『ネットと愛国』安田浩一著(講談社) 『聖堂の日の丸』宮下正昭著(南方新社)			
『「本当のこと」を伝えない日本の新聞』マーティン・ファクラー(双葉新書)			
『報道の自己規制』上出義樹著(リベルタ出版)			
成績の評価基準			
授業での感想レポートなどと期末試験で総合的に判断する			

オフィスアワ -

金曜午後 事前に連絡を

アクティブ・ラーニング

ディベート; 学習の振り返り(ミニッツ・ペーパー等);

アクティブ・ラーニング(その他の内容)

アクティブ・ラーニング(授業回数)

15回中15回

備考(受講要件)

欠席する場合は事前に理由とともに連絡を

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
科目名			
考古学研究D (旧 比較考古学)			
英語名			
Archaeology D			
開講学科		コース	
人文学科 新旧共通			
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
人文・多元地域文化コース / 選択科目	講義	2単位	2~4年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
竹中正巳		099-254-9191	takenaka@jkajyo.ac.jp
共同担当教員		前後期	
		後期	
授業概要			
遺跡から出土した古人骨を丹念に調べることによって、そこから過去に暮らした人々の人物像や生業、社会、文化、習慣など生活のスタイル全般に関わる情報を解読して行く「骨考古学」的アプローチに関する基本的知識の修得を目標とする。			
学修目標			
まず、古人骨から情報を得るために必要な人骨や歯に関する解剖学的知識を講義する。そして、現在この日本列島に住む「日本人」はどのような歴史を経て形成されたのか。いわゆる「日本人の起源」について、旧石器時代人や縄文人、あるいは縄文人から弥生人への移行問題、古墳時代人、中近世人の身体特徴や生活誌など、いまでも多くの謎を秘めた日本人の形成史を考えていく。特に、骨考古学からみた南九州や琉球列島の人々の成り立ちに関する最新の研究成果についても紹介していく。			
授業計画			
(1)骨考古学とはなにか、骨考古学から何がわかるか (2)~(5)古人骨を読み解くために必要な人骨や歯に関する解剖学的知識 (6)発掘現場での古人骨の調査方法 (7)日本人の起源とは？日本人起源論争を振り返りながら (8)日本列島の旧石器時代人骨 (9)日本列島の縄文時代人骨 (10)日本列島の弥生時代人骨と渡来人問題 (11)日本列島の古墳時代人骨 (12)日本列島の古代人骨 (13)日本列島の中世人骨 (14)日本列島の近世人骨 (15)南九州や琉球列島の人々の成り立ちに関する最新の調査研究の成果			
授業外学習 (予習・復習)			
授業中に適宜指示する。			
教科書			
なし			
参考書			
授業中に適宜指示する。			
成績の評価基準			
期末試験			
オフィスアワ -			
アクティブ・ラーニング			
アクティブ・ラーニング (その他の内容)			
アクティブ・ラーニング (授業回数)			

備考 (受講要件)

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
科目名			
報道論			
英語名			
Journalism Studies			
開講学科		コース	
人文学科 新旧共通			
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
人文・多元地域文化コース / 選択科目	講義	2単位	2～4年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
宮下正昭		090-8295-6853	mk-miya@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
		前期	
授業概要			
ローカルメディアと地域との関わり合いを主にテレビドキュメンタリーを通じて探る。地域の課題、地域の暮らしぶり・文化、地域の事件は取り上げ方次第でグローバルな関心事ともなる。数多いローカルメディアの秀作を鑑賞し、その狙い、意義を話し合う。インターネット社会のなかでのローカルメディアのありようをみつめたい。			
学修目標			
ローカルメディアのドキュメンタリーを通して、地域を見つめ直し、社会のありようを考える契機とする。			
授業計画			
第1回	新聞、テレビ、ラジオなどローカルメディアの現状		
第2回	MBS「なぜペンをとるのか 沖縄の新聞記者たち」から見る沖縄		
第3回	TUT「はりぼて 腐敗議会と記者たちの攻防」から見る地方自治		
第4回	KTS「独裁者が生まれた町」からみる大衆政治		
第5回	NHK「いつか外に出られる日まで」から考える社会		
第6回	MBC「星塚・人間回復の声」から考える差別、偏見		
第7回	NNB「陽炎 えん罪被害の闇」から見るらく印の怖さ		
第8回	KYT「嘘ひいごろ」から見るえん罪捜査		
第9回	RKB「"実習生" という名の労働者」から考える日本		
第10回	KTS「桜島からの警告」から見る火山と暮らし		
第11回	MBC「僕のメリット」から見る島の暮らし		
第12回	MBC「家族スパイダー」から見る家族		
第13回	KTS「ママと僕と信作と」から見る障害と家族		
第14回	RKK「祖父の日記」から見る戦争と人間		
第15回	KRY「記憶の澱」から見る国家と国民		
授業外学習 (予習・復習)			
日々の暮らしの中、気になったこと、驚いたこと、感動したことを正面から、斜めから、時には裏から見てみる。 日々のニュースから社会のありように関心をもつ。			
教科書			
なし			
参考書			
新聞各紙			
成績の評価基準			
毎回の授業の態様と感想レポートから総合的に判断する			
オフィスアワー			
金曜午後 ただし事前に連絡を			
アクティブ・ラーニング			
ディベート; 学習の振り返り (ミニッツ・ペーパー等);			
アクティブ・ラーニング (その他の内容)			

アクティブ・ラーニング（授業回数）

15回中15回を予定

備考（受講要件）

社会、人間に関心をもつ学生ならだれでも。

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
科目名			
日本歴史・文化研究C(旧 日本文化史)			
英語名			
Japanese History & Culture C			
開講学科		コース	
人文学科 新旧共通			
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
人文・多元地域文化コース / 選択科目	講義	2単位	2~4年
担当教員		連絡先(TEL)	連絡先(MAIL)
松尾千歳			chitoshi.matsuo@shimadzu-ltd.jp shimadzuはdを入れ忘れないように
共同担当教員		前後期	
		前期	
授業概要			
<p>鹿児島県内外にある文化財を通じて、近世日本文化・技術の歴史・特色を論じる。</p> <p>特に、薩摩の文化が異国情緒にあふれていたこと、19世紀、通商を求める西欧列強の外圧にさらされ、他地域より早く近代化に踏み切ったこと、そしてそれが世界的にみると、非常に特異な手法であったことなどを重点的に講義する。</p>			
学修目標			
<ol style="list-style-type: none"> 1 鹿児島の歴史・文化に関する知識を身につけることによって、アイデンティティを確立させる 2 文化財を通じて鹿児島、さらに日本文化史・技術史の特色を知ることができる 3 文化財の活用等について考察することができる 			
授業計画			
第1回	ガイダンス	何のために歴史文化を学ぶのか	鹿児島の歴史・文化の特色
第2回		中国の航海神・媽祖	
第3回		薩摩の食文化	
第4回		焼酎がたかる薩摩の歴史	
第5回		島津家伝来の甲冑	
第6回		太閤検地	
第7回		城下町鹿児島	
第8回		外城制度と琉球支配	
第9回		徳川と島津	
第10回		鹿児島と北海道	
第11回		集成館事業	
第12回		薩摩切子	
第13回		薩英戦争	
第14回		薩摩にとって明治維新とは	
第15回		明治日本の産業革命遺産	
状況により変更する場合もある			
身近にある史跡・文化財を紹介するので、講義終了後、実物に触れる機会を持つことが望ましい。			
授業外学習(予習・復習)			
教科書			
特になし。随時プリントを配付する。			
参考書			
原口泉ほか『鹿児島県の歴史』(山川出版社 1999年) 尚古集成館編『島津斉彬の挑戦』(春苑堂文庫、2002年) 松尾千歳『西郷隆盛と薩摩』(吉川弘文館、2014年) 同 『島津斉彬』(戎光祥出版、			

2017年)

成績の評価基準

講義終了後提出の感想文および期末レポートで総合的に評価する。

オフィスアワ -

講義終了後

アクティブ・ラーニング

アクティブ・ラーニング(その他の内容)

アクティブ・ラーニング(授業回数)

備考(受講要件)

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード

FHS-DEH2411

科目名

心理学研究法

英語名

Research Methods in Psychology

開講学科

コース

人文学科 新旧共通

授業科目区分

授業形態

単位数

開講期

人文・心理学コース / 必修
科目

講義

2単位

2～4年

担当教員

連絡先 (TEL)

連絡先 (MAIL)

横山春彦

099 - 285 - 7535 (内線7535)

yokoyama@leh.kagoshima-u.ac.jp

共同担当教員

前後期

なし

前期

授業概要

平成28年後期(金・1限)に開講予定。

心理学研究の概要について講義を行う。15回のうち前半の7回については要因(独立変数、従属変数、剰余変数)及び統計処理(統計的仮説の検定)など、研究法の基礎的事項について講義を行い、第8回以降は具体的な実験研究を毎回一つずつ取り上げ講義を行う。

学修目標

以下の3点を目標とする。

1. 特定の心理学研究に関し、従属変数、独立変数が適切に把握・説明できる。
2. 実験などデータの収集時に適切な剰余変数の統制ができる。
3. 得られたデータについて適切な統計処理ができ、その結果が説明できる。

授業計画

授業計画は以下の通りである。

1. 要因の理解(従属変数、独立変数、剰余変数)、身近な動植物、のらねこ研究
2. 従属変数の理解(比例尺度、順序尺度、名義尺度)、身近な動植物、のらねこ研究
3. 独立変数の理解(被験者間要因、被験者内要因、水準)、身近な動植物、のらねこ研究
4. 要因単独の影響(主効果、有意水準、帰無仮説)、身近な動植物、のらねこ研究
5. 2要因の影響(1次の交互作用、第?種/第?種の過誤)、身近な動植物、のらねこ研究
6. 3要因の影響(2次の交互作用)、身近な動植物、のらねこ研究
7. 統計処理の意味の理解(分散分析)、身近な動植物、のらねこ研究
8. 重さの弁別(重量弁別、精神物理学的測定法)、身近な動植物、のらねこ研究
9. 種々の研究法、身近な動植物、のらねこ研究
10. 学習実験(鏡映描写、学習曲線、回帰分析)、身近な動植物、のらねこ研究
11. 皮膚感覚実験(2点閾)、身近な動植物、のらねこ研究
12. 幾何学的錯視実験(観察距離、視角、輝度)、身近な動植物、のらねこ研究
13. イメージ実験(心的回転、直線回帰、曲線回帰)、身近な動植物、のらねこ研究
14. 記憶走査実験(記憶走査)、身近な動植物、のらねこ研究
15. 認知実験(ストループ効果)、身近な動植物、のらねこ研究
16. 期末試験

授業外学習(予習・復習)

予習: 次回の講義時に配布されるコメントペーパー(出席表の裏)に記載出来るよう、次回のテーマに関して疑問・質問等を整理しておくこと。

復習: 授業で扱ったテーマに関する疑問・質問等をまとめておくこと。

教科書

指定しない。

参考書

適宜紹介。

成績の評価基準

コメントペーパーへの記載（20%：次週の講義テーマに関する疑問・質問の整理（予習）、授業で扱ったテーマに関する疑問・質問の整理（復習）に基づく授業内での作業）、受講態度（20%）、期末試験の成績等により総合的に評価する。

オフィスアワー

毎週月曜日14：30～15：30

アクティブ・ラーニング

アクティブ・ラーニング（その他の内容）

アクティブ・ラーニング（授業回数）

備考（受講要件）

なし

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
科目名			
消費者心理学（旧 産業・組織心理学）			
英語名			
Consumer Psychology			
開講学科		コース	
人文学科 新旧共通			
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
人文・心理学コース / 選択科目	講義	2単位	2～4年
担当教員		連絡先（TEL）	連絡先（MAIL）
山崎真理子			yamasaki@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
		後期	
授業概要			
<p>私たちにとって日常的な消費者行動について、（社会）心理学の観点から考える。 まずは座学を中心に、基本的な知識を身につける。 一部の回ではペア・グループ単位でのワークを通じて、体験的に理解を深めることを目指す。</p>			
学修目標			
<ul style="list-style-type: none"> ・学生が、購買・消費に関わる行動に関連深い、心理学の基礎知識について理解することを目指す。 ・専門的な観点から消費者心理について考え、実践に活かす方法を考える姿勢を身につけることを目指す。 ・さらに授業中課題のなかで、受講者が学びの成果を社会に伝えられるように、表現力を高めることを目指す。 			
授業計画			
第 1 回...オリエンテーション・（社会）心理学とは 第 2 回...社会心理学の観点からみた消費者行動 第 3 回...消費者の価値志向（1）ブランド選択 第 4 回...消費者の価値志向（2）マーケット・セグメンテーション 第 5 回...消費者の個人内過程（1）購買の計画性 第 6 回...消費者の個人内過程（2）価格判断の過程 第 7 回...消費者間の個人間仮定：口コミの効果 第 8 回...消費者と企業のコミュニケーション（1）比較広告 第 9 回...消費者と企業のコミュニケーション（2）悪徳商法 第10回...地域性と接客サービス（ワーク） 第11回...心理学研究法（1）批判的思考とは 第12回...心理学研究法（2）質問紙調査法を中心に 第13回...飲料の官能評定（1）ブラインド実験とは（ワーク） 第14回...飲料の官能評定（2）ブランドの効果とは（ワーク） 第15回...総括			
授業外学習（予習・復習）			
<ul style="list-style-type: none"> ・予習：消費者心理に関わる社会の実情について適宜、情報収集。 ・復習：講義内容の見直しの他、さらに参考書などを通じて理解を深める。 			
教科書			
特に指定しない			
参考書			
講義中に適宜紹介			
成績の評価基準			
<ul style="list-style-type: none"> ・授業への取り組み（適宜、授業中課題）... 50% ・期末試験（持ち込みは一切不可）..... 50% 			
オフィスアワ -			
水曜 2 限			

アクティブ・ラーニング

グループワーク；

アクティブ・ラーニング（その他の内容）

一部、ペア・グループ単位での活動（模擬体験、模擬実験など）を導入予定。ただし、受講者数に応じて調整。

アクティブ・ラーニング（授業回数）

全15回中3回

備考（受講要件）

履修条件は特に設けない。受講者数次第では授業計画を一部変更。

その点、ご了承下さい。

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
CHX2414			
科目名			
人体の構造と機能及び疾病			
英語名			
Human Body Structure, Function and Diseases			
開講学科		コース	
人文学科 新旧共通			
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
人文・心理学コース / 選択科目	講義	2単位	2～4年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
米田孝一		内線7663	yonedat@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
		前期	
授業概要			
機能別の臓器解剖学、疾病を学ぶ。心理的支援が必要になる疾患を中心に理解する。			
学修目標			
1. 心身機能と身体構造及び様々な疾病や障害について概説できる。			
2. がん、難病等の心理に関する支援が必要な主な疾病について概説できる。			
授業計画			
第1回	人体の基本構造と機能		
第2回	脳・神経(1) 中枢神経		
第3回	脳・神経(2) 末梢神経		
第4回	脳・神経(3) 脳神経系疾患		
第5回	感覚器		
第6回	運動器		
第7回	循環器		
第8回	呼吸器		
第9回	消化管		
第10回	肝・胆・膵		
第11回	内分泌・代謝		
第12回	腎臓・泌尿器・生殖器		
第13回	血液・免疫・アレルギー・感染症		
第14回	がん、難病		
第15回	総まとめ		
授業外学習(予習・復習)			
予習としては扱う予定の領域をみておく。授業後は、解剖、生理、疾患についてまとめておく。自分で図示できるようになると良い。			
教科書			
特に指定しない。			
参考書			
授業内で紹介する。			
成績の評価基準			
試験(100%)			
授業出席率が2/3に満たない場合は期末試験を受けられず、成績単位は与えられない。			
オフィスアワー			
月曜2限：対応困難な時もあるため予めメールでお問い合わせください。			
アクティブ・ラーニング			
アクティブ・ラーニング(その他の内容)			
アクティブ・ラーニング(授業回数)			

備考（受講要件）

実務経験のある教員による実践的授業

担当教員が医師（心療内科専門医）として診療に従事している経験を活かし、臓器別に解剖、機能、疾患について学生は学ぶ。身体のメカニズムのみならず、心と身体の関係、ストレスによる身体疾患、闘病に伴う心理的・精神的变化などについても経験例を交えながら授業を進める。心理学を専攻する者が臨床現場に出るときに最低限必要な知識を持つこと、他専攻の学生にとっては医学一般の基礎を理解できるようになることが目標である。

ナンバリングコード			
FHS-DEH3404			
科目名			
コミュニティ援助論（福祉心理学）			
英語名			
Community Psychology			
開講学科		コース	
人文学科 新旧共通			
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
人文・心理学コース / 選択科目	講義	2単位	2～4年
担当教員		連絡先（TEL）	連絡先（MAIL）
平田祐太郎		099-285-7540	hirata@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
		後期	
授業概要			
<p>現代社会の様々なコミュニティについて、援助論の観点より講義を行う。現代社会は、情報化、国際化、少子高齢化等が進展する中で、これまでのコミュニティのあり方も急速に変化を迫られている。現代社会の課題を特に児童福祉に焦点をあて、学生個々が考え、授業において明らかにすると共に、援助の視点やアプローチについて学ぶ。</p>			
学修目標			
<ul style="list-style-type: none"> ・福祉現場において生じる問題及びその背景、心理社会的課題及び必要な支援に関する知識の習得を目指す。 ・児童虐待についての基本的知識の習得を目指す。 ・コミュニティ援助の特質および考え方を修得することを目指す。 ・過去の先行研究から最新のコミュニティ援助技法、福祉心理学に関する知識・視点をもつことができる。 			
授業計画			
<p>授業計画</p> <p>第1回：オリエンテーション（授業概要の説明）</p> <p>第2回：コミュニティ援助の視点と方法論（定義、歴史、特徴、意義と課題）</p> <p>第3回：子育て支援とコミュニティ援助？</p> <p>第4回：子育て支援とコミュニティ援助？</p> <p>第5回：虐待の理解と対応？</p> <p>第6回：虐待の理解と対応？</p> <p>第7回：社会的養護の実際</p> <p>第8回：コミュニティ援助としての危機介入の視点と技法</p> <p>第9回：心理教育等を用いた予防的アプローチ</p> <p>第10回：訪問援助型の支援</p> <p>第11回：不登校児童・生徒に対する支援</p> <p>第12回：ネットワーキングを用いた支援の展開（連携・協働を用いた援助）</p> <p>第13回：質的研究を用いたコミュニティ援助の評価</p> <p>第14回：コミュニティ援助の討論と総括</p> <p>定期試験</p>			
授業外学習（予習・復習）			
予習：教科書の当該部分を事前に予習しておくこと			
教科書			
毎回資料を配布する。			
参考書			
<p>コミュニティ・アプローチ 臨床心理学を学ぶ5 高島克子 東京大学出版</p> <p>福祉心理学 人の成長を辿って 中山哲志・稲谷ふみ枝・深谷昌志 ナカニシヤ出版</p> <p>コミュニティ心理学 山本和郎 東京大学出版</p>			
成績の評価基準			
授業への参加姿勢25%、中間レポート25%、最終レポートの成績50%から総合的に評価を行う。			
オフィスアワ -			

火曜日4限 研究室

アクティブ・ラーニング

グループワーク；学習の振り返り（ミニッツ・ペーパー等）；

アクティブ・ラーニング（その他の内容）

アクティブ・ラーニング（授業回数）

備考（受講要件）

特になし。ゲストスピーカーをお呼びして授業を行う場合がある。

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
FHS-DEH3403			
科目名			
産業・組織心理学			
英語名			
Industrial & Organizational Psychology			
開講学科		コース	
人文学科 新旧共通			
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
人文・心理学コース/選択科目	講義	2単位	2～4年
担当教員		連絡先 (TEL)	
榊原良太			
共同担当教員		連絡先 (MAIL)	
		sakakibara@leh.kagoshima-u.ac.jp	
		前後期	
		前期	
授業概要			
本講義では、産業・組織心理学に関する知識、知見に基づき、現在の産業・組織をめぐるさまざまな事柄・問題について考えていく。また、産業・組織に関するより良い実践を考案し、その有効性についての議論を行う。			
学修目標			
(1)産業・組織心理学に関する基礎的な知識を習得する。 (2)習得した基礎的な知識をもとに、現在の産業・組織をめぐる様々な問題を指摘できる。 (3)産業・組織心理学の知識・知見に基づいた、よりよい実践を考案できる。 (4)常に「いずれ自身が社会に出ること」を意識しながら講義に臨む。			
授業計画			
第1回：オリエンテーション 第2回：ワーク・モチベーション 第3回：ストレスとメンタルヘルス(1)(ストレス理論と対処) 第4回：ストレスとメンタルヘルス(2)(精神疾患とその予防、治療) 第5回：キャリア発達とその支援 第6回：面接と採用 第7回：人事評価 第8回：チームワーク 第9回：リーダーシップ 第10回：組織の中の感情とその役割 第11回：ヒューマンエラーと安全対策 第12回：人間工学 第13回：お金に関する心理・行動 第14回：広告 第15回：まとめ			
授業外学習 (予習・復習)			
授業後に復習をし、知識を確かなものとする。			
教科書			
指定しない。			
参考書			
産業・組織心理学 (山口裕幸ほか著、有斐閣アルマ、2006年)			
成績の評価基準			
レポートと定期試験 (あるいはレポート課題) の点数により評価を行う。詳細な評価方法はオリエンテーションの際に伝える。			
オフィスアワ -			
火曜2限、事前にメールにて連絡すること。			
アクティブ・ラーニング			

ディベート; 学習の振り返り (ミニッツ・ペーパー等);

アクティブ・ラーニング (その他の内容)

アクティブ・ラーニング (授業回数)

備考 (受講要件)

なし

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード

科目名

学校心理学（教育・学校心理学）（旧 学習心理学）

英語名

School Psychology

開講学科

コース

人文学科 新旧共通

授業科目区分

授業形態

単位数

開講期

人文・心理学コース / 選択
科目

講義

2単位

3～4年

担当教員

連絡先（TEL）

連絡先（MAIL）

森藤悦子

099-285-7774

morifuji@edu.kagoshima-u.ac.jp

共同担当教員

前後期

前期

授業概要

本授業では、学校現場における生徒指導、進路指導、教育相談について、基本的な内容の理解と対応について学習します。

適宜、授業で課題を出し、個人で考えてもらったあと、ディスカッションをし、意見を発表してもらおう予定です。

学修目標

授業の到達目標及びテーマ

1. 児童・生徒の発達段階における心理的危機や行動問題及びその背景について説明できる。
2. キャリア意識を高め、「よりよい生き方」を志向する援助の実際について説明できる。
3. 学校など教育現場における心理社会的課題に対して、援助的・支援的行動を説明できる。

授業計画

第1回：オリエンテーション

第2回：学校に求められる臨床的視点(1)：生徒指導と教育相談

第3回：学校に求められる臨床的視点(2)：教師とスクールカウンセリング

第4回：学校に求められる臨床的視点(3)：キャリア教育と進路相談

第5回：学校に求められる臨床的視点(4)：子どもの発達と問題行動

第6回：教育現場において生じる問題とその背景(1)：問題行動のとらえ方

第7回：教育現場において生じる問題とその背景(2)：学習に関する問題

第8回：教育現場において生じる問題とその背景(3)：発達障害

第9回：教育現場における心理社会的課題と必要な支援(1)：アセスメントと心理検査

第10回：教育現場における心理社会的課題と必要な支援(2)：不登校

第11回：教育現場における心理社会的課題と必要な支援(3)：いじめ、非行

第12回：予防・開発的取り組み：学校における心理教育

第13回：教師への支援：教師のメンタルヘルス、保護者対応

第14回：校内の支援体制づくりと地域や各種支援リソースの活用：チーム学校

第15回：これまでのまとめ・期末試験

授業外学習（予習・復習）

適宜、授業時間外課題（予習・復習）を提示しますので、積極的に取り組んでください。

教科書

特に指定しません。資料は毎回、教員が用意します。

参考書

文部科学省 生徒指導提要，2010年

成績の評価基準

1. 授業終了時のショートペーパー（30%）

2. 期末試験（70%）

全体の3分の1以上の欠席（公欠、病欠含む）があった場合、評価ができませんのでご注意ください。遅刻早退は欠席0.5回とします。

オフィスアワ -

火曜2限（出張や会議等で不在のこともありますので、必ず事前にメール等でアポを取ってからお越しください）

アクティブ・ラーニング

グループワーク；ディベート；学習の振り返り（ミニッツ・ペーパー等）；

アクティブ・ラーニング（その他の内容）

アクティブ・ラーニング（授業回数）

15回中10回

備考（受講要件）

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
科目名			
産業・組織心理学演習（旧 社会心理学演習）			
英語名			
Industrial & Organizational Psychology 1			
開講学科		コース	
人文学科 新旧共通			
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
人文・心理学コース / 選択科目	演習	2単位	3～4年
担当教員		連絡先（TEL）	連絡先（MAIL）
榑原良太		099-285-7518	
共同担当教員		前後期	
		後期	
授業概要			
社会心理学の研究アプローチについて理解し、自ら研究計画を立てられるようになることを目指す。具体的には、毎週担当者が本や論文の発表をして、全体でディスカッションをする中で、「面白い研究とは何か」「どのようにしたら知りたいことがわかるのか」について理解を深める。その上で、それぞれが自らの研究アイデアを持ち寄り、議論する中でアイデアを洗練させていく。			
学修目標			
社会心理学の諸理論と研究手法について、研究論文を講読する中で理解できるようになることを目指す。そして、自ら問題を発見し、それを探求していく方法論や思考法を身につけることを目標とする。			
授業計画			
第1回 オリエンテーション			
第2回：日本語論文発表1：感情の基礎			
第3回：日本語論文発表2：感情と認知			
第4回：日本語論文発表3：感情と行動			
第5回：日本語論文発表4：感情と精神的健康			
第6回：日本語論文発表5：感情と進化			
第7回：日本語論文発表6：感情と文化			
第8回：日本語論文発表7：感情知性			
第9回：日本語論文発表8：感情と脳			
第10回：英語論文発表1			
第11回：英語論文発表2			
第12回：英語論文発表3			
第13回：英語論文発表4			
第14回：英語論文発表5			
第15回 まとめ			
授業外学習（予習・復習）			
予習：発表の準備			
復習：議論の中で提示された問題点について再考			
教科書			
参考書			
成績の評価基準			
授業への参加、発言、発表を総合的に見て評価する。			
オフィスアワー			
火曜 5 限			
アクティブ・ラーニング			
グループワーク；ディベート；プレゼンテーション；			
アクティブ・ラーニング（その他の内容）			

アクティブ・ラーニング（授業回数）

備考（受講要件）

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
科目名			
コミュニティ心理支援実習（心理実習）			
英語名			
Exercises in Psychological Support in the Community			
開講学科		コース	
人文学科 新旧共通			
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
人文・心理学コース / 選択科目	実習	1単位	3～4年
担当教員		連絡先（TEL）	連絡先（MAIL）
米田 孝一・安部 幸志・飯田 昌子・平田 祐太郎・富原 一哉		099-285-7663（米田）	yonedat@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
		前期	
授業概要			
<p>心理職の仕事内容、および心理職が勤務する施設の概要について調べるとともに、現場での見学・体験実習を通じて、心理職の役割について理解する。具体的には心理職が働く医療現場、福祉現場、司法領域現場などを見学して、各施設の機能や役割などについて理解を深める。これらの授業を通して、心理に関する支援を要する者へのチームアプローチ、他職種連携および地域連携のありかたを学ぶ。</p>			
学修目標			
<p>心理職の仕事内容、および心理職が勤務する施設の概要について調べるとともに、現場での見学・体験実習を通じて、心理職の役割について理解する。具体的には心理職が働く医療、福祉、司法領域などの現場などを見学して、各施設の機能や役割などについて理解を深める。これらの授業を通して、心理に関する支援を要する者へのチームアプローチ、他職種連携および地域連携のありかたを学ぶ。</p>			
授業計画			
1回	実習前指導	医療、福祉、司法領域における必須知識	
2回	病院実習	精神科について	
3回	病院実習	心理職の業務	
4回	病院実習	心理室見学病棟見学	
5回	病院実習	病棟見学	
6回	病院実習	カンファレンス見学	
7回	病院実習	病棟回診	
8回	病院実習	地域医療連携センターについて	
9回	司法実習	司法領域における心理業務	
10回	司法実習	施設見学	
11回	病院実習	高齢者医療・慢性疾患医療・難病医療について	
12回	病院実習	病棟見学	
13回	福祉実習	高齢者福祉について / 児童福祉について	
14回	福祉実習	施設見学	
15回	実習後指導	実習のまとめ	
授業外学習（予習・復習）			
教科書			
参考書			
成績の評価基準			
<p>実習における態度、積極性、学習、レポート等の点数を総合的に評価する。実習の欠席、実習中の不真面目、レポート不提出などは単位が与えられない。</p>			
オフィスアワ -			
実習のため特に設定しない			

アクティブ・ラーニング

アクティブ・ラーニング（その他の内容）

アクティブ・ラーニング（授業回数）

備考（受講要件）

「人間と文化コース」「心理学コース」所属の学生に限る。

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
科目名			
消費者心理学演習（旧 社会心理学演習）			
英語名			
Consumer Psychology 1			
開講学科		コース	
人文学科 新旧共通			
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
人文・心理学コース / 選択科目	演習	2単位	3～4年
担当教員		連絡先（TEL）	連絡先（MAIL）
山崎真理子		099-285-7631	yamasaki@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
		前期	
授業概要			
卒業論文に向けて、心理学研究の基礎を理解する。 その際、主として消費者行動をテーマに演習を進める。			
学修目標			
<ul style="list-style-type: none"> ・心理学研究を行うにあたって必要な基礎知識を身につけることを目指す。 ・関連テーマについて、国内外の調査・実験論文の読み方を理解することを目指す。 ・同時に、地域社会の現状にも目を向けて、社会のニーズ・課題を把握することを目指す。 			
授業計画			
注： = 科目担当者回、 受講者担当回			
第 1回：自己紹介、オリエンテーション、今後の進め方について相談 第 2回：心理学研究とは（1）心理学研究法・統計学を簡単に復習 第 3回：心理学研究とは（2）消費者心理学研究の実際、心理学研究の流れを理解 第 4回：専門書を読む（1）英書の読み方のポイント 第 5回：専門書を読む（2）内容紹介（輪読） 第 6回：論文を読む（1）日本語論文の読み方のポイント 第 7回：論文を読む（2）内容紹介（受講者A,B） 第 8回：論文を読む（3）内容紹介（受講者C,D） 第 9回：論文を読む（4）内容紹介（受講者E） 第10回：論文を読む（5）応用可能性を考える 第11回：研究計画の立案（1）意見交換（グループワーク） 第12回：研究計画の立案（2）プレゼン準備（グループワーク） 第13回：研究計画の立案（3）プレゼン（グループワーク） 第14回：研究計画の立案（4）ディスカッション、研究計画の修正 第15回：総括（全体を復習、質問）			
授業外学習（予習・復習）			
プレゼンやディスカッション前後では特に、各自でしっかり予習・復習を行うこと。 具体的な課題については、各授業回で適宜説明を行う。			
教科書			
特に設けない			
参考書			
「心理学研究法 心を見つめる科学のまなざし」 高野陽太郎・岡 隆（編） 有斐閣アルマ			
成績の評価基準			
授業中課題100%（期末試験0%）			
講義中のプレゼン、ディスカッション、提出物などを評価対象とする。			
オフィスアワ -			

水曜 2 限

アクティブ・ラーニング

グループワーク；プレゼンテーション；

アクティブ・ラーニング（その他の内容）

アクティブ・ラーニング（授業回数）

全 15 回

備考（受講要件）

初回で受講者の声も聞きながら、授業計画を調整予定。

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
科目名			
消費者心理学演習（旧 社会心理学演習）			
英語名			
Consumer Psychology 1			
開講学科		コース	
人文学科 新旧共通			
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
人文・心理学コース / 選択科目	演習	2単位	3～4年
担当教員		連絡先（TEL）	連絡先（MAIL）
山崎真理子		099-285-7631	yamasaki@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
		後期	
授業概要			
卒業論文に向けて、心理学研究を実施できる能力を身につける。 その際、主として消費者行動をテーマに演習を進める。			
Cf. 他科目「心理学実験」等における学習成果をもとに、受講者自身が研究の詳細を検討する機会を設ける。			
学修目標			
<ul style="list-style-type: none"> 卒業研究に取り組む前に、実践的な能力を高めることを目指す。 研究倫理の他、文献研究、計画立案、データ処理、データ解釈など一連の流れを体験的に理解することを目指す。 次年度の卒業研究に向けて、受講者自身が研究の方向性を見出せることを目指す。 			
授業計画			
注： = 4年生中心（3年生はコメント）、 3年生中心（4年生はサポート）			
<ul style="list-style-type: none"> 第1回：オリエンテーション、班分け 第2回：?研究計画立案（テーマは班単位で相談） 第3回：?文献研究 第4回：?研究課題の探索、結果の予測 第5回：?研究手順等、詳細の検討 第6回：?仮説-方法-結果-主張の見直し 第7回：?研究計画案の発表 第8回：卒業論文の読み合わせ会 第9回：?卒論の研究計画立案（テーマは各自で設定） 第10回：?卒論の文献研究 第11回：?卒論の研究課題を探索、結果を予測 第12回：?卒論の研究手順等、詳細の検討 第13回：?卒論の仮説-方法-結果-主張の見直し 第14回：卒論発表会の練習?プレゼン、意見交換 第15回：卒論発表会の練習?改善に向けて 			
授業外学習（予習・復習）			
翌週以降に備えて、各自でしっかり予習・復習を行うこと。 また後半回までに、各自が卒論で取り組みたいテーマの関連論文を選出し、プレゼン準備を進めておくこと。			
教科書			
特に設けない			
参考書			
講義中に紹介予定			
成績の評価基準			
授業中課題100%（期末試験0%）			

講義中のプレゼン、ディスカッション、提出物（特に最終レポートは重要）などを評価対象とする。

オフィスアワ -

水曜 2 限

アクティブ・ラーニング

グループワーク；プレゼンテーション；

アクティブ・ラーニング（その他の内容）

アクティブ・ラーニング（授業回数）

全 15 回

備考（受講要件）

初回で受講者の声も聞きながら、授業計画を調整予定。

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
科目名			
臨床援助論（心理学的支援法）			
英語名			
Theories of Psychological Support			
開講学科		コース	
人文学科 新旧共通			
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
人文・心理学コース / 選択科目	講義	2単位	3～4年
担当教員		連絡先（TEL）	連絡先（MAIL）
稲谷ふみ枝・高橋佳代・中村真樹			
共同担当教員		前後期	
		前期	
授業概要			
<p>本授業の目的は、心理療法の基礎を理解することである。代表的な心理療法並びにカウンセリングの歴史、概念、意義、適応及び限界を学んだ上で、訪問による支援や地域支援の意義、良好な人間関係を築くためのコミュニケーションの方法、プライバシーへの配慮、心理に関する支援を要する者の関係者に対する支援、心の健康教育について特に重点的に学習する。</p>			
学修目標			
<p>心理療法ならびにカウンセリングの基本的知識を身につける 心理療法の活用現場について知る 心理療法の主な技法や留意点について理解する</p>			
授業計画			
<p>第1回 オリエンテーション 第2回 臨床心理学のなりたちと展開 第3回 代表的な心理療法（1）力動論に基づく理解 第4回 代表的な心理療法（2）行動論・認知論に基づく理解 第5回 代表的な心理療法（3）その他の心理療法の理解 第6回 心理療法の諸概念 第7回 心理臨床の対象と領域 第8回 心理療法の適応と限界 第9回 プライバシーへの配慮 第10回 地域支援支援と訪問支援 第11回 心理アセスメントの視点と方法 第12回 良好な人間関係を築くためのコミュニケーションの方法 第13回 心理に関する支援を要する者の関係者に対する支援 第14回 心の健康教育とストレスマネジメント 第15回 まとめと総括</p>			
授業外学習（予習・復習）			
心理療法に関する資料や論文を主体的に読むこと			
教科書			
初回授業日に指示する			
参考書			
<p>こころのケアの基本 小俣和義 北樹出版 カウンセリングの実際問題 河合隼雄 誠信書房</p>			
成績の評価基準			
授業への参加態度20%、授業後のミニレポート20%、最終レポート60%で評価する。			
オフィスアワ -			
アクティブ・ラーニング			
グループワーク；ディベート；学習の振り返り（ミニッツ・ペーパー等）；			

アクティブ・ラーニング（その他の内容）

アクティブ・ラーニング（授業回数）

15回中7回

備考（受講要件）

実務経験のある教員による実践的授業

障害児心理学（障害者・障害児心理学）（旧 臨床心理学）
ナンバリングコード

科目名

障害児心理学（障害者・障害児心理学）（旧 臨床心理学）

英語名

Clinical Psychology of Handicapped Children

開講学科

コース

人文学科 新旧共通

授業科目区分

授業形態

単位数

開講期

人文・心理学コース / 選択
科目

講義

2単位

3～4年

担当教員

連絡先（TEL）

連絡先（MAIL）

今村智佳子

099-285-3287

learning-support@gm.kagoshima-u.
ac.jp

共同担当教員

前後期

後期

授業概要

この講義では、はじめに人があり、その人が障害という特性を持っているとする考えについて理解を深めることを目的とします。人の発達の過程において、障害特性がどのように影響するか、環境によってどのように顕在化するか等について理解を深めます。それぞれの障害の概要や特性理解に基づき心理社会的課題及び必要な支援について理解を深め、多様な社会の一員としてまた、支援者としての基礎的知識を養います。

学修目標

1. 種々の身体障害、知的障害及び精神障害の概要について理解する
2. 障害者・障害児の心理社会的課題及び支援について理解する

授業計画

- 第1回 障害の概念
- 第2回 発達の視点について
- 第3回 乳幼児期における障害について
- 第4回 視覚障害について
- 第5回 聴覚障害について
- 第6回 肢体不自由について
- 第7回 病弱・虚弱について
- 第8回 発達障害について
- 第9回 注意欠陥多動性障害について
- 第10回 学習障害について
- 第11回 自閉症スペクトラム障害について
- 第12回 精神障害について
- 第13回 障害者・障害児の支援のあり方について
- 第14回 障害の受け止め及び家族支援について
- 第15回 社会と障害について

授業外学習（予習・復習）

講義内容に関する書籍やHPを紹介するので、各自理解を深めること

教科書

参考書

成績の評価基準

期末試験（60%）、授業への取り組み態度（20%）、ミニッツペーパー（20%）

オフィスアワ -

木曜日の午後を除く、平日9時～17時。
事前にメール・電話にて連絡をいただくとスムーズです。

アクティブ・ラーニング

学習の振り返り（ミニッツ・ペーパー等）；

アクティブ・ラーニング（その他の内容）

アクティブ・ラーニング（授業回数）

備考（受講要件）

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード

FHS-DEH3407

科目名

認知心理学演習

英語名

Cognitive Psychology 1

開講学科		コース	
人文学科 新旧共通			
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
人文・心理学コース / 選択科目	演習	2単位	3～4年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
横山春彦		099-285-7535	yokoyama@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
なし		後期	

授業概要

平成28年後期(月・3限)に開講。卒業論文の完成・提出に伴う必要な作業の実行につき、以下の4点を重視し、授業を進める。

1. 実験、調査の実施。
2. 得られたデータの分析。
3. 本論及びレジュメの作成。
4. 要領を得た発表の実行。

学修目標

卒業論文の完成・提出に伴う必要な作業の実行につき、以下の4点を重点目標とする。

1. 実験、調査の実施。
2. 得られたデータの分析。
3. 本論及びレジュメの作成。
4. 要領を得た発表の実行。

授業計画

後期の演習では、以下のスケジュールに従い、授業を行う。

- 第1回 卒論で取り扱う問題・目的・方法・結果の処理の再検討
- 第2回 実験、調査の実施に向けての具体的な検討
- 第3回 実験、調査の実施に向けての予備調査
- 第4回 第1回目の実験、調査の実施
- 第5回 第2回目の実験、調査の実施
- 第6回 実験、調査の実行に伴う問題点の整理とその改善策の検討
- 第7回 第3回目の実験、調査の実施
- 第8回 第4回目の実験、調査の実施
- 第9回 実験、調査で得られたデータの分析
- 第10回 実験、調査で得られたデータの分析上の問題点の再検討
- 第11回 実験、調査で得られた結果のまとめ
- 第12回 本論、レジュメの完成に関する個別検討
- 第13回 発表に向けての第1回リハーサルと問題点の整理
- 第14回 発表に向けての第2回リハーサルと問題点の整理
- 第15回 発表に向けての第3回リハーサルと問題点の整理
- 第16回 期末試験(期末試験は実施せず、15回ごとの成果に基づき個人ごと総合的に評価する。成績の評価基準を参照のこと)

授業外学習(予習・復習)

予週：次回の演習までに必要な修正等を加え、適切に対処できること。 復習：演習時の指摘に従い、必要な修正を適宜行うこと。
教科書
特に指定しない。
参考書
適宜紹介する。
成績の評価基準
毎回の授業における参加態度・意欲（20%）、各回の授業内容ごと必要な作業の進捗状況（60%）、発表の出来（20%）により個人ごと総合的に評価する。
オフィスアワ -
毎週月曜日16：10～17：40 法文学部棟1号館4階 認知心理学研究室
アクティブ・ラーニング
アクティブ・ラーニング（その他の内容）
アクティブ・ラーニング（授業回数）
備考（受講要件）
ゼミ所属性に限る。
実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
科目名			
教育心理学概説（旧 心理学特講）			
英語名			
Introduction to Educational Psychology			
開講学科		コース	
人文学科 新旧共通			
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
人文・心理学コース / 選択科目	講義	2単位	3～4年
担当教員		連絡先（TEL）	
下木戸 隆司			
共同担当教員		前後期	
		後期	
授業概要			
<p>教育活動を円滑に進めていくためには、児童生徒の行動と心理を理解しておくことが必要不可欠である。本講義では、教授・学習法、動機づけ、教育評価、学級集団、発達、学習等の内容を取りあげる。それらに関する基礎的知識の習得と諸理論の理解、および自分自身の教師観・教育観の確立を目的とする。</p>			
学修目標			
<p>1. 効果的な学習の仕組みを理解し、児童生徒の特性や状態を適切に評価した上で、それに応じて指導方法を選択できる。</p> <p>2. 学級内での人間関係、教師の影響、集団力学を理解することで学級運営についての自らの考えや見解を深めることができる。</p> <p>3. 人間の発達の特性を理解し、生涯発達の観点から、個々の児童・生徒に応じた関わり方や指導法について着想できる。</p> <p>4. グループワークを通じて、仲間と協力しながら課題を成し遂げていくことができる。</p> <p>5. 学校教育で問題になっている諸事項について、教師として自分がどうすべきか・どうしたいのかについて意見をまとめ、表明できる。</p>			
授業計画			
<p>第1回：オリエンテーション1 教育心理学の意味 グループ編成</p> <p>第2回：オリエンテーション2 授業の進め方 教育心理学の必要性</p> <p>第3回：学習の原理 古典的条件づけ オペラント条件づけ 観察学習</p> <p>第4回：教授・学習法1 効果的な学習法・学習指導の形態</p> <p>第5回：教授・学習法2 様々な学習法</p> <p>第6回：動機づけ 動機づけのしくみ</p> <p>第7回：教育評価1 教育評価の目的・方法・評価に影響する要因</p> <p>第8回：教育評価2 学力・知能の測定評価</p> <p>第9回：教育評価3 性格の測定評価</p> <p>第10回：学級集団1 学級集団の特徴と機能 教師生徒関係</p> <p>第11回：学級集団2 教師の成長と影響力 友人関係</p> <p>第12回：発達1 発達の特徴 遺伝と環境</p> <p>第13回：発達2 認知発達 社会性の発達</p> <p>第14回；発達3 発達障がい</p> <p>第15回：効率のよい学習、よい授業とは何かを考える</p>			
授業外学習（予習・復習）			
<p>グループレポート作成のために、各自が課題テーマについて考えたり、メンバー同士で議論したりして意見をまとめることが必要である。</p>			
教科書			
教科書はとくに指定しない。			
参考書			
参考書についてはオリエンテーション時に配布する。			
成績の評価基準			

全12回あるグループレポートの内容と授業への参加状況から成績を評価する。出席は成績評価には加味しないが、無断欠席が4回以上になった場合は不合格とする。授業開始から10分を超えて出席した場合には遅刻として、さらに30分を超えた場合には欠席として扱う。遅刻・早退は0.5回分の欠席と見なす。

オフィスアワ -

アクティブ・ラーニング

グループワーク;

アクティブ・ラーニング(その他の内容)

アクティブ・ラーニング(授業回数)

12回

備考(受講要件)

教育学部での講義となり、グループワークの関係上、受講者数を10名までに制限します。またこの講義を履修しても、教職課程の免許科目単位にはなりません。

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
科目名			
医療関連法（関係行政論）			
英語名			
Legal and Administrative Systems			
開講学科		コース	
人文学科 新旧共通			
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
人文・心理学コース / 選択科目	講義	2単位	3～4年
担当教員		連絡先（TEL）	連絡先（MAIL）
上原大祐・伊藤周平		099-285-7626(上原)	embryo@leh.kagoshima-u.ac.jp(上原)
共同担当教員		前後期	
		後期	
授業概要			
公認心理士として社会で活動する上で必要となる法、制度、そしてその基盤となる考え方について学ぶ。			
学修目標			
公認心理士が活動する上で出会う法制度を把握し、社会における公認心理士の役割について認識する。			
授業計画			
第1回 法・制度の基本と公認心理士			
第2回 公認心理士の法的立場と多職種連携			
第3回 公認心理士の各分野への展開			
第4回 教育分野に関係する法律・制度			
第5回 司法・犯罪分野に関係する法律・制度（1）刑事			
第6回 司法・犯罪分野に関係する法律・制度（2）家事			
第7回 司法・犯罪分野に関係する法律・制度（3）少年非行			
第8回 保健医療分野に関係する法律・制度（1）医療全般			
第9回 保健医療分野に関係する法律・制度（2）精神科医療			
第10回 保健医療分野に関係する法律・制度（3）地域保健・医療			
第11回 福祉分野に関係する法律・制度（1）児童福祉			
第12回 福祉分野に関係する法律・制度（2）障害者・障害児福祉			
第13回 福祉分野に関係する法律・制度（3）高齢者福祉			
第14回 産業・労働分野に関する法律・制度			
第15回 まとめ			
授業外学習（予習・復習）			
積み重ね式の知識の修得となるため、特に復習が必要である。毎回の講義の後に、復習をして知識を定着させておくことが望ましい(30分程度)。			
教科書			
元永拓郎編『関係行政論』（2018・遠見書房）			
参考書			
成績の評価基準			
期末試験			
オフィスアワー			
在室時、適宜対応(上原)			
アクティブ・ラーニング			
アクティブ・ラーニング（その他の内容）			
アクティブ・ラーニング（授業回数）			

備考（受講要件）

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
FHS-DEH3407			
科目名			
認知心理学演習			
英語名			
Comparative Psychology 1			
開講学科		コース	
人文学科 新旧共通			
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
人文・心理学コース / 選択科目	演習	2単位	3～4年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
横山春彦		099-285-7535	yokoyama@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
		前期	
授業概要			
平成28年前期(月・3限)開講。卒業論文の作成に必要な以下の3点を明確に設定し、実行することが目標である。			
1. 卒論で取り扱う問題・方法が適切に設定できる。			
2. 卒論で取り扱う問題・方法に関し、要点を得たレジюмеが作成できる。			
3. 卒論で取り扱う問題・方法に関し、要領を得た発表ができる。			
学修目標			
卒業論文で取り扱う問題・方法を適切に設定するために必要な議論、検討を行う。具体的には以下の3点をポイントとして15回の授業を行う。			
1. 検討すべき問題・方法は適切か。			
2. 適切にレジюмеが作成されているか。			
3. レジюмеにまとめた内容に関し、要領を得た発表ができるかどうか。			
授業計画			
前期の演習では、以下のスケジュールに従い、授業を行う。			
第1回 ヒト・動物の興味ある現象・事柄に関する検討			
第2回 ヒト・動物の興味ある現象・事柄に関する検討のまとめ			
第3回 ヒト・動物の興味ある現象・事柄に関する先行研究の報告			
第4回 ヒト・動物の興味ある現象・事柄に関する選考研究のまとめ			
第5回 ヒト・動物の興味ある現象・事柄に関する研究テーマ(問題)の検討			
第6回 ヒト・動物の興味ある現象・事柄に関する研究テーマ(問題)のまとめ			
第7回 ヒト・動物の興味ある現象・事柄に関する研究方法の検討			
第8回 ヒト・動物の興味ある現象・事柄に関する研究方法のまとめ			
第9回 卒論で取り扱う研究内容に関する問題・目的・方法の総まとめ			
第10回 卒論で取り扱う研究内容に関する結果の処理(分析)の検討			
第11回 卒論で取り扱う研究内容に関する結果の処理(分析)のまとめ			
第12回 問題・目的・方法に関するレジюме作成の検討			
第13回 問題・目的・方法に関するレジюме作成の再検討			
第14回 レジюмеの発表に関する検討			
第15回 レジюмеの発表と後期に向けての改善点の整理。			
第16回 期末試験			
授業外学習(予習・復習)			
予週: 次回の演習までに必要な材料をそろえ、適切に説明できること。			
復習: 演習時の指摘に従い、必要な修正を行うこと。			
教科書			

指定しない。
参考書
適宜紹介する。
成績の評価基準
毎回の授業における参加態度・意欲（20%）、各回の授業内容に関する理解と必要な作業の進捗状況（60%）、レジュメの完成度（10%）、発表の仕方（10%）により個人ごと総合的に評価する。
オフィスアワ -
毎週月曜日14：10～17：40 認知心理学研究室
アクティブ・ラーニング
アクティブ・ラーニング（その他の内容）
アクティブ・ラーニング（授業回数）
備考（受講要件）
実務経験のある教員による実践的授業

発達臨床心理学（健康・医療心理学）（旧 発達心理学）
ナンバリングコード

科目名

発達臨床心理学（健康・医療心理学）（旧 発達心理学）

英語名

Developmental Clinical Psychology

開講学科

コース

人文学科 新旧共通

授業科目区分

授業形態

単位数

開講期

人文・心理学コース / 選択
科目

講義

2単位

3～4年

担当教員

連絡先（TEL）

連絡先（MAIL）

安部幸志

k7336046@kadai.jp

共同担当教員

前後期

後期

授業概要

本授業では、発達臨床心理学に関する諸分野のうち、「健康」に焦点を当てて講義を展開する。すなわち、健康の維持と増進、疾病の予防と治療、ヘルスシステムや健康政策の分析や改善などに行動科学の知識と技術で関与するための知識を得ることを目的とした授業である。また、本授業の目的はそれだけでなく、個人が発達過程を通じ、健康で幸福な人生を実現するために必要となる要因について学ぶことも含まれる。

具体的な授業は、高齢者の健康問題、認知症、心理的ストレス、ソーシャルサポート、パーソナリティ（行動様式）と疾患との関連性、ライフスタイル、健康教育、ヘルスケアシステム、QOL（クオリティ・オブ・ライフ）、ターミナルケア、自殺予防、災害時の心理支援など多岐にわたるもので、それらに関する研究手法と、具体的にどう対処するのかについて学ぶ。

学修目標

1. 発達過程における健康とはなにか理解すること
2. 発達臨床心理学や健康心理学の知識と技法を自分の心身の健康に役立てる力を身につけること

授業計画

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 健康支援活動とストレスチェック
- 第3回 保健・医療における法律・制度・倫理
- 第4回 ストレスの心理とアセスメント
- 第5回 心の健康とストレスマネジメント
- 第6回 小児科・母子保健領域
- 第7回 神経科・リハビリテーション領域
- 第8回 さまざまな医療現場とコンサルテーション
- 第9回 さまざまな保健活動
- 第10回 高齢者と健康
- 第11回 精神科（成人期）
- 第12回 精神科（高齢期）
- 第13回 自殺予防活動
- 第14回 災害時等に必要な心理に関する支援
- 第15回 総括

授業外学習（予習・復習）

本授業では、授業外学習としてグループでの調べ学習が複数回含まれる。

教科書

なし
プリントを適宜配布する。

参考書

なし

成績の評価基準

- ワークシート：20%
- グループワークでの発表：20%

最終試験：60%（受講者数によってレポートへ変更の可能性あり）

オフィスアワ -

アクティブ・ラーニング

グループワーク；プレゼンテーション；学習の振り返り（ミニッツ・ペーパー等）；

アクティブ・ラーニング（その他の内容）

アクティブ・ラーニング（授業回数）

15回中15回

備考（受講要件）

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード

FHS-DEH3409

科目名

産業・組織心理学演習（旧 社会心理学演習）

英語名

Industrial & Organizational Psychology 1

開講学科

コース

人文学科 新旧共通

授業科目区分

授業形態

単位数

開講期

人文・心理学コース / 選択
科目

演習

2単位

3～4年

担当教員

連絡先（TEL）

連絡先（MAIL）

榊原良太

099-285-7518

sakakibara@leh.kagoshima-u.ac.jp

共同担当教員

前後期

前期

授業概要

社会心理学の研究アプローチについて理解し、自ら研究計画を立てられるようになることを目指す。具体的には、毎週担当者が本や論文の発表をして、全体でディスカッションをする中で、「面白い研究とは何か」「どのようにしたら知りたいことがわかるのか」について理解を深める。その上で、それぞれが自らの研究アイデアを持ち寄り、議論する中でアイデアを洗練させていく。

学修目標

社会心理学の諸理論と研究手法について、研究論文を講読する中で理解できるようになることを目指す。そして、自ら問題を発見し、それを探求していく方法論や思考法を身につけることを目標とする。

授業計画

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回：日本語論文発表1：社会的認知
- 第3回：日本語論文発表2：潜在的過程
- 第4回：日本語論文発表3：帰属理論
- 第5回：日本語論文発表4：自己正当化
- 第6回：日本語論文発表5：協力関係
- 第7回：日本語論文発表6：集団感葛藤
- 第8回：日本語論文発表7：進化と適応
- 第9回：日本語論文発表8：文化
- 第10回：英語論文発表1：Social Cognition
- 第11回：英語論文発表2：Cooperation
- 第12回：英語論文発表3：Group
- 第13回：英語論文発表4：Evolutionary Psychology
- 第14回：英語論文発表5：Cultural Psychology
- 第15回 まとめ

授業外学習（予習・復習）

予習：発表の準備

複数：議論の中で提示された問題点について再考

教科書

指定しない。

参考書

適宜紹介する。

成績の評価基準

授業への参加、発言、発表を総合的に見て評価する。

オフィスアワ -

火曜4限

アクティブ・ラーニング

グループワーク；ディベート；プレゼンテーション；

アクティブ・ラーニング（その他の内容）

アクティブ・ラーニング（授業回数）

備考（受講要件）

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード

科目名

説得・交渉心理学（旧 社会心理学）

英語名

The psychology of Negotiation and Persuasion

開講学科

コース

人文学科 新旧共通

授業科目区分

授業形態

単位数

開講期

人文・心理学コース / 選択
科目

講義

2単位

3～4年

担当教員

連絡先（TEL）

連絡先（MAIL）

山崎真理子

yamasaki@leh.kagoshima-u.ac.jp

共同担当教員

前後期

前期

授業概要

他者との関わりにおいて必要な説得・交渉について、（社会）心理学の観点から考える。

まずは座学を中心に、基本的な知識を身につける。

その後の回ではグループワークを通じて、知識の活用方法を検討しながら社会的スキル向上を目指す。

学修目標

- ・ 学生が、説得・交渉の内容に関わる心理学の基礎知識を理解することを目指す。
- ・ 専門的な観点から説得・交渉について考え、実践での活用に対する意識を高めることを目指す。
- ・ さらに、受講者が学びの成果を社会に伝えられるように、表現力を高めることを目指す。

授業計画

注： 座学、 グループワーク

第 1回：オリエンテーション、心理学とは

第 2回：対人的コミュニケーション

第 3回：意図的でない対人的影響（社会的手抜き、傍観者効果）

第 4回：意図的でない対人的影響（漏れ聞き効果、行動感染、情動感染）

第 5回：意図的な対人的影響（フットインザドア法、ドアインザフェイス法）

第 6回：意図的な対人的影響（ローボール法、ザッツノットオール法）

第 7回：説得と態度変容

第 8回：態度尺度の妥当性・信頼性

第 9回：説得の規定因（スリーパー効果、初頭効果、新近性効果）

第10回：説得のモデルと理論（ヒューリスティックシステムティックモデル）

第11回：説得のモデルと理論（精緻化見込みモデル）

第12回：実践に向けて（1）プレゼンテーマの検討

第13回：実践に向けて（2）プレゼン準備

第14回：実践に向けて（3）プレゼン

第15回：実践に向けて（4）プレゼンに対するディスカッション

授業外学習（予習・復習）

- ・ 予習：説得・交渉に関わる社会の実状について情報収集。
- ・ 復習：講義内容の見直し、グループワークの整理。専門書等で補足を。

教科書

特に指定しない

参考書

依頼と説得の心理学 人は他者にどう影響を与えるか（サイエンス社）今井芳昭

成績の評価基準

授業への取り組み（特にグループワーク）...50%、期末試験（持ち込み不可）...50%

諸事情で出席できない場合は分かり次第、科目担当者に相談して下さい。

グループ編成の際に人数調整等を含めて検討します。

オフィスアワ -

水曜 2 限

アクティブ・ラーニング

グループワーク；プレゼンテーション；

アクティブ・ラーニング（その他の内容）

アクティブ・ラーニング（授業回数）

4 回

備考（受講要件）

履修条件は特に設けない。

受講者数次第では授業計画（後半のグループワーク）を中心に一部変更予定。

その点、ご了承下さい。

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
FHS-DDF4201			
科目名			
卒業科目（日本とアジア）			
英語名			
Graduation Thesis			
開講学科		コース	
人文学科 新旧共通		日本とアジアコース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
人文学科/必修科目	演習	8単位	4年
担当教員	連絡先（TEL）		連絡先（MAIL）
大田由紀夫	099-285-7560		ota@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
		前期	
授業概要			
卒業論文の執筆と指導			
学修目標			
ゼミ指導教員による指導助言を受け、受講生が第7期までに各自のテーマに従って進めてきた研究を増進し、より完成度の高い卒業論文を作成する。			
授業計画			
<ul style="list-style-type: none"> ・指導は、ゼミ指導教員とのマンツーマン、あるいは所属ゼミ単位、あるいは各分野（合同ゼミ）において、適宜行われる。 ・指導の時間帯、期間等はゼミ指導教員との相談の上決定される。 ・指導の目的によっては、学内だけでなく学外での研修を行うこともある。 <ul style="list-style-type: none"> *（例）東洋史・中文ゼミ：11月の霧島合同ゼミ研修合宿。 その他、各ゼミの方針、計画を確認すること。 ・指導は卒業論文提出まで行われる。 			
授業外学習（予習・復習）			
指導を受けて、各自の研究テーマに応じた研究材料の調査検討を行う。			
教科書			
指導教員の指示による。			
参考書			
指導教員の指示による。			
成績の評価基準			
卒業論文をゼミ指導教員を含む複数の教員で審査し、評価する。			
オフィスアワ -			
不定期			
アクティブ・ラーニング			
アクティブ・ラーニング（その他の内容）			
アクティブ・ラーニング（授業回数）			
備考（受講要件）			
人文学科日本とアジアコース所属の4年生に限る			
実務経験のある教員による実践的授業			

ナンバリングコード			
FHS-DDF4201			
科目名			
卒業科目（日本とアジア）			
英語名			
Graduation Thesis			
開講学科		コース	
人文学科 新旧共通		日本とアジアコース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
人文学科/必修科目	演習	8単位	4年
担当教員	連絡先（TEL）		連絡先（MAIL）
大田由紀夫	285-7560		ota@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
		後期	
授業概要			
ゼミ指導教員の指導助言に従い卒業論文の作成を行う。			
学修目標			
ゼミ指導教員による指導助言を受け、受講生が第7期までに各自のテーマに従って進めてきた研究を増進し、より完成度の高い卒業論文を作成する。			
授業計画			
<ul style="list-style-type: none"> ・指導は、ゼミ指導教員とのマンツーマン、あるいは所属ゼミ単位、あるいは各分野（合同ゼミ）において、適宜行われる。 ・指導の時間帯、期間等はゼミ指導教員との相談の上決定される。 ・指導の目的によっては、学内だけでなく学外での研修を行うこともある。 <ul style="list-style-type: none"> *（例）東洋史・中文ゼミ：11月の霧島合同ゼミ研修合宿。 ・その他、各ゼミの方針、計画を確認すること。 ・指導は卒業論文提出まで行われる。 			
授業外学習（予習・復習）			
指導を受けて、各自の研究テーマに応じた研究材料の調査検討を行う。			
教科書			
指導教員の指示による。			
参考書			
指導教員の指示による。			
成績の評価基準			
卒業論文をゼミ指導教員を含む複数の教員で審査し、評価する。			
オフィスアワ -			
不定期（各ゼミ指導教員に確認のこと）			
アクティブ・ラーニング			
アクティブ・ラーニング（その他の内容）			
アクティブ・ラーニング（授業回数）			
備考（受講要件）			
人文学科日本とアジアコース所属の4年生に限る。			
実務経験のある教員による実践的授業			

ナンバリングコード			
科目名			
日本文学史概説B(旧 日本文学史)			
英語名			
Introduction to Japanese Literary History B			
開講学科		コース	
人文学科 新旧共通		日本とアジアコース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
人文・多元地域文化コース / 選択科目	講義	2単位	1~4年
担当教員		連絡先 (TEL)	
多田 蔵人			
共同担当教員		前後期	
		前期	
授業概要			
<p>テーマ：日本近代文学における引用</p> <p>近代文学の歴史は、しばしば言文一致体ないし口語文の歴史として語られる。しかし近代小説は、先行する時代の文学表現や海外の文学表現、さらに小説以外の散文表現から、少なからざる影響・拘束を受けてもいた。近代小説を読むと、一見口語であるように見える表現のかけに文語といわれる表現が見え隠れしていることの原因である。近代文学の諸作品が他のテキストから影響を受け、新たな表現を創り出してゆく変換式を、理論的に把握してみたいと思う。</p>			
学修目標			
日本近代小説史についての知識を身につけ、作品の方法を理論化する術を学ぶ。			
授業計画			
<p>第1回：歴史書1(明治期政治小説など)</p> <p>第2回：歴史書2(森鷗外など)</p> <p>第3回：手紙1(夏目漱石『こころ』など)</p> <p>第4回：手紙2(田山花袋『蒲団』など)</p> <p>第5回：日記1(国木田独歩『武蔵野』など)</p> <p>第6回：日記2(永井荷風『新婦朝者の日記』など)</p> <p>第7回：演説1(明治期政治小説?など)</p> <p>第8回：演説2(社会主義文学など)</p> <p>第9回：落語・講談1(言文一致体小説など)</p> <p>第10回：落語・講談2(歴史小説など)</p> <p>第11回：演劇1(尾崎紅葉『金色夜叉』など)</p> <p>第12回：演劇2(安部公房『友達』など)</p> <p>第13回：映画1(谷崎潤一郎『人面疽』など)</p> <p>第14回：映画2(宇野浩二『悲しきチャアライ』など)</p> <p>第15回：アメリカ文学(村上春樹など)</p> <p>定期試験</p>			
授業外学習(予習・復習)			
教科書			
授業時に指示する。			
参考書			
成績の評価基準			
授業の提出物40%、試験60%。			
オフィスアワ -			
アクティブ・ラーニング			

アクティブ・ラーニング (その他の内容)

アクティブ・ラーニング (授業回数)

備考 (受講要件)

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード

科目名

日本歴史・文化演習 A 1 (旧 日本史演習 III)

英語名

Japanese History & Culture A1

開講学科

コース

人文学科 新旧共通

日本とアジアコース

授業科目区分

授業形態

単位数

開講期

人文・多元地域文化コース
/ 選択科目

演習

2単位

2~4年

担当教員

連絡先 (TEL)

連絡先 (MAIL)

厩尾達哉

099-285-7552

tro@leh.kagoshima-u.ac.jp

共同担当教員

前後期

後期

授業概要

日本後紀を読む。

学修目標

日本史を通時的に理解する上で必須の古代律令制の形成・展開過程について、適格な知識と判断力を習得し、日本史を史料に基づいて再構成し、日本史上の様々な問題を史料を深く読み込むことによって批判・考察する力を身につけることを授業の到達目標とする。

授業計画

- 第1回：ガイダンス
- 第2回：弘仁元年
- 第3回：弘仁2年
- 第4回：弘仁3年
- 第5回：弘仁4年
- 第6回：弘仁5年
- 第7回：弘仁6年
- 第8回：弘仁7年
- 第9回：弘仁8年
- 第10回：弘仁10年
- 第11回：弘仁11年
- 第12回：弘仁12年
- 第13回：弘仁13年
- 第14回：弘仁14年前半
- 第15回：弘仁14年後半

授業外学習 (予習・復習)

テキストについて、予め精読し、内容理解に努める。

教科書

プリントを配布する。

参考書

成績の評価基準

学生が積極的に授業に参加し、読み解き、歴史記述の妥当性を自ら批判的に検証しようとする積極的な姿勢の有無を毎時の授業で細かく評価し、さらに定期試験で評価する。配点割合は担当時の発表内容 3 割、毎時の意見・質問内容 2 割、定期試験 5 割とする。

オフィスアワ -

火曜13:30~14:30 あらかじめメール・電話でアポイントメントをとることがのぞましい。

アクティブ・ラーニング

アクティブ・ラーニング (その他の内容)

アクティブ・ラーニング (授業回数)

備考 (受講要件)

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード

FHS-DHH2230

科目名

日本歴史・文化演習 A 1 (旧 日本史演習 III)

英語名

Japanese History & Culture A1

開講学科

コース

人文学科 新旧共通

日本とアジアコース

授業科目区分

授業形態

単位数

開講期

人文・多元地域文化コース
/ 選択科目

演習

2単位

2~4年

担当教員

連絡先 (TEL)

連絡先 (MAIL)

厩尾達哉

099-285-7552

tro@leh.kagoshima-u.ac.jp

共同担当教員

前後期

前期

授業概要

日本後紀を読む。

学修目標

日本史を通時的に理解する上で必須の古代律令制の形成・展開過程について、適格な知識と判断力を習得し、日本史を史料に基づいて再構成し、日本史上の様々な問題を史料を深く読み込むことによって批判・考察する力を身につけることを授業の到達目標とする。

授業計画

- 第1回：ガイダンス
- 第2回：弘仁元年
- 第3回：弘仁2年
- 第4回：弘仁3年
- 第5回：弘仁4年
- 第6回：弘仁5年
- 第7回：弘仁6年
- 第8回：弘仁7年
- 第9回：弘仁8年
- 第10回：弘仁10年
- 第11回：弘仁11年
- 第12回：弘仁12年
- 第13回：弘仁13年
- 第14回：弘仁14年前半
- 第15回：弘仁14年後半

授業外学習 (予習・復習)

テキストについて、予め精読し、内容理解に努める。

関西方面において実地研修旅行 (自由参加) を行う予定。

教科書

プリントを配布する。

参考書

成績の評価基準

学生が積極的に授業に参加し、読み解き、歴史記述の妥当性を自ら批判的に検証しようとする積極的な姿勢の有無を毎時の授業で細かく評価し、さらに定期試験で評価する。配点割合は担当時の発表内容 3 割、毎時の意見・質問内容 2 割、定期試験 5 割とする。

オフィスアワ -

火曜13:30~14:30 あらかじめメール・電話でアポイントメントをとることがのぞましい。

アクティブ・ラーニング

アクティブ・ラーニング (その他の内容)

アクティブ・ラーニング (授業回数)

備考 (受講要件)

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
FHS-DHH2138			
科目名			
古文書実習 A (旧 古文書実習)			
英語名			
Practical Palaeography A			
開講学科		コース	
人文学科 新旧共通		日本とアジアコース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
人文・多元地域文化コース / 選択科目	実習	2単位	2~4年
担当教員	連絡先 (TEL)		連絡先 (MAIL)
厩尾 達哉	099-285-7552		tro@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
		前期	
授業概要			
古代から近世までの古文書・木簡・墨書土器・金石文の写真を配付し、マン・ツー・マンで判読を指導する。同時に変体仮名のドリルを10回に分けて実施し、変体仮名に習熟させる。。			
学修目標			
日本史の依拠史料としてもっとも重要な古文書を実際に判読する力を養い、日本史を史料のレベルから考えていこうとする姿勢を身につけることを授業の到達目標とする。			
授業計画			
第1回：ガイダンス			
第2回：正倉院文書行政文書の判読と変体仮名の学習			
第3回：正倉院文書写経所文書の判読と変体仮名の学習			
第4回：木簡の判読と変体仮名の学習			
第5回：墨書土器・金石文の判読と変体仮名の学習			
第6回：中世武家文書（田代文書）の判読と変体仮名の学習			
第7回：中世武家文書（越前島津家文書）の判読と変体仮名の学習			
第8回：中世武家文書（駿河伊達家文書）の判読と変体仮名の学習			
第9回：中世武家文書（皆川家文書）の判読と変体仮名の学習			
第10回：中世武家文書（三嶋大社矢田部家文書）の判読と変体仮名の学習			
第11回：中世公家文書（久我家文書）の判読と変体仮名の学習			
第12回：軍忠状・感状・目安状について			
第13回：奉書・御教書・下文について			
第14回：売券について			
第15回：近世地方文書の中世武家文書（田代文書）の判読			
授業外学習（予習・復習）			
発表を担当する受講者は、割り当てられた文書の形式や内容などについて調査し、レジュメを作成する。それ以外の受講者も、古文書読解力のさらなる向上のために、授業で行った古文書判読の復習をしておくことが望ましい。			
教科書			
特になし。			
参考書			
児玉幸多編『くずし字用例辞典』（東京堂出版）			
成績の評価基準			
毎時間、判読した釈文を提出させ、添削・採点・返却した上で古文書判読能力を評価する。			
オフィスアワ -			
火曜13:30~14:30 あらかじめメール・電話でアポイントメントをとることがのぞましい。			
アクティブ・ラーニング			
アクティブ・ラーニング（その他の内容）			

アクティブ・ラーニング (授業回数)

備考 (受講要件)

金曜日 4 限・5 限を通じて受講すること。

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
FHS-DHH2211			
科目名			
日本歴史・文化研究A(旧 日本国制史)			
英語名			
Japanese History & Culture A			
開講学科		コース	
人文学科 新旧共通		日本とアジアコース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
人文・多元地域文化コース / 選択科目	講義	2単位	2~4年
担当教員		連絡先(TEL)	連絡先(MAIL)
厩尾達哉		099-285-7552	tro@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
		後期	
授業概要			
律令国家の官人・官司統制を検討して、古代専制君主国家の実相をい明らかにする。			
学修目標			
日本史を通時的に理解する上で必須の古代律令制の形成・展開過程について、適格な知識と判断力を習得し、日本史について一貫した視点で見通す力を身につけることを授業の到達目標とする。			
授業計画			
第1回：律令官人とは何か？			
第2回：律令官人とは何か？			
第3回：律令官人とは何か？			
第4回：律令官人の闕怠事例？			
第5回：律令官人の闕怠事例？			
第6回：律令官人の闕怠事例？			
第7回：律令官人の闕怠事例？			
第8回：律令国家の官人統制？			
第9回：律令国家の官人統制？			
第10回：律令国家の官人統制？			
第11回：律令国家の官人統制？			
第12回：律令国家の官司統制？			
第13回：律令国家の官司統制？			
第14回：律令国家の官司統制？			
第15回：古代専制君主国家の実相			
授業外学習(予習・復習)			
授業前に配布のテキストを事前に熟読し、授業後はテキストと配布の史料および板書の史料を熟読する。			
教科書			
特になし。			
参考書			
なし。			
成績の評価基準			
学生が積極的に授業に参加し、歴史学の基本である史料を自分の力で読み解き、歴史上の問題を自分で考えていこうとする姿勢を随時実施する小テスト、ミニッツペーパーできめ細かく評価する。			
オフィスアワ -			
火曜13:30~14:00 あらかじめメール・電話でアポイントメントをとることがのぞましい。			
アクティブ・ラーニング			
学習の振り返り(ミニッツ・ペーパー等)；			
アクティブ・ラーニング(その他の内容)			
アクティブ・ラーニング(授業回数)			
15回中14回			

備考(受講要件)

漢文史料を正しく読もうという意欲があること。

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
科目名			
日本歴史・文化演習 2 (旧 日本史演習 I)			
英語名			
Japanese History & Culture 2			
開講学科		コース	
人文学科 新旧共通		日本とアジアコース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
人文・多元地域文化コース / 選択科目	演習	2単位	3~4年
担当教員	連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)	
厩尾達哉	099-285-7552	tro@leh.kagoshima-u.ac.jp	
共同担当教員	前後期		
	後期		
授業概要			
古代史の基本文献である類聚三代格を輪読する。			
学修目標			
厩尾ゼミ所属生および卒論を古代史で執筆予定の4年生が日本古代史の史料読解法と基礎的知識とを集中的に修得し、卒業論文執筆が可能となる。			
授業計画			
第1回 ガイダンス			
第2回 類聚三代格の輪読			
第3回 類聚三代格の輪読			
第4回 類聚三代格の輪読			
第5回 類聚三代格の輪読			
第6回 類聚三代格の輪読			
第7回 類聚三代格の輪読			
第7回 類聚三代格の輪読			
第9回 類聚三代格の輪読			
第10回 類聚三代格の輪読			
第11回 類聚三代格の輪読			
第12回 類聚三代格の輪読			
第13回 類聚三代格の輪読			
第14回 類聚三代格の輪読			
第15回 類聚三代格の輪読			
授業外学習 (予習・復習)			
予め類聚三代格所収の官符類を精読する。			
教科書			
プリントを配布する。			
参考書			
成績の評価基準			
授業への取り組み。			
オフィスアワ -			
火曜13:30~14:30 あらかじめメール・電話でアポイントメントをとることがのぞましい。			
アクティブ・ラーニング			
プレゼンテーション;			
アクティブ・ラーニング (その他の内容)			
アクティブ・ラーニング (授業回数)			
15回中14回			
備考 (受講要件)			

漢文や文語文、古文についての基礎的な読解・運用能力を要する。

梶尾ゼミまたは金井ゼミ所属生に限る。

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
FHS-DHH2230			
科目名			
日本歴史・文化演習 2 (旧 日本史演習 I)			
英語名			
Japanese History & Culture 2			
開講学科		コース	
人文学科 新旧共通		日本とアジアコース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
人文・多元地域文化コース / 選択科目	演習	2単位	3~4年
担当教員	連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)	
厩尾達哉	099-285-7552	tro@leh.kagoshima-u.ac.jp	
共同担当教員	前後期		
	前期		
授業概要			
古代史の基本文献である類聚三代格を輪読する。			
学修目標			
厩尾ゼミ所属生および卒論を古代史で執筆予定の4年生が日本古代史の史料読解法と基礎的知識とを集中的に修得し、卒業論文執筆が可能となる。			
授業計画			
第1回 ガイダンス			
第2回 類聚三代格の輪読			
第3回 類聚三代格の輪読			
第4回 類聚三代格の輪読			
第5回 類聚三代格の輪読			
第6回 類聚三代格の輪読			
第7回 類聚三代格の輪読			
第7回 類聚三代格の輪読			
第9回 類聚三代格の輪読			
第10回 類聚三代格の輪読			
第11回 類聚三代格の輪読			
第12回 類聚三代格の輪読			
第13回 類聚三代格の輪読			
第14回 類聚三代格の輪読			
第15回 類聚三代格の輪読			
授業外学習 (予習・復習)			
予め類聚三代格所収の官符類を精読する。			
教科書			
プリントを配布する。			
参考書			
成績の評価基準			
授業への取り組み。			
オフィスアワ -			
火曜14:30~16:00 あらかじめメール・電話でアポイントメントをとることがのぞましい。			
アクティブ・ラーニング			
プレゼンテーション;			
アクティブ・ラーニング (その他の内容)			
アクティブ・ラーニング (授業回数)			
15回中14回			
備考 (受講要件)			

漢文や文語文、古文についての基礎的な読解・運用能力を要する。

梶尾ゼミまたは金井ゼミ所属生に限る。

実務経験のある教員による実践的授業

英語ライティング a (旧 英語コミュニケーション2A)
ナンバリングコード

FHS-DIH2142

科目名

英語ライティング a (旧 英語コミュニケーション2A)

英語名

Academic Writing in English a

開講学科

コース

人文学科 新旧共通

ヨーロッパ・アメリカ文化コース

授業科目区分

授業形態

単位数

開講期

人文・多元地域文化コース
/ 選択科目

講義

2単位

2年

担当教員

連絡先 (TEL)

連絡先 (MAIL)

スティーブ コダ

285-7573

coke@leh.kagoshima-u.ac.jp

共同担当教員

前後期

後期

授業概要

You will learn essay structure and how to analyse paragraphs and essays. You will also learn how to use discourse markers and conjunctives effectively. You will be expected to communicate actively with other students about your writing in and outside of the classroom

学修目標

This class is an introduction to academic writing in English concentrating on essay structure for explaining graphs, tables and charts. Classwork will be divided between discussion and writing. This class will be helpful if you are going to take the 教員採用試験 or IELTS or TOEFL.

授業計画

授業計画

Week 1 Introduction
Week 2 Writing overviews
Week 3 Writing about graphs
Week 4 Writing about tables and bar graphs
Week 5 Making comparisons 1 : Vocabulary
Week 6 Making comparisons 2 : Data comparison
Week 7 Essay feedback
Week 8 Ranking information
Week 9 Writing about processes 1 : Vocabulary
Week 10 Writing about processes 2 : Explaining processes
Week 11 Writing about charts
Week 12 Writing about maps
Week 13 Grammar practice
Week 14 Vocabulary practice
Week 15 Essay feedback and test preparation
Week 16 Test essay

授業外学習 (予習・復習)

You will be expected to gather information for your essays.
You will be given regular homework.

教科書

Handouts will be given

参考書

You will need access to a good dictionary and grammar book - using your smartphone is ok.

成績の評価基準

Classwork 50%
Final essay and test 50% (25% each)

	オフィスアワ -
Anytime is ok	
	アクティブ・ラーニング
グループワーク;	
	アクティブ・ラーニング (その他の内容)
	アクティブ・ラーニング (授業回数)
15回中15回	
	備考 (受講要件)
None	
	実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード

科目名

哲学演習 B 1 (旧 西洋の人間と思想 B 演習)

英語名

Western Philosophy B1

開講学科

コース

人文学科 新旧共通

ヨーロッパ・アメリカ文化コース

授業科目区分

授業形態

単位数

開講期

人文・多元地域文化コース
/ 選択科目

演習

2単位

2~4年

担当教員

連絡先 (TEL)

連絡先 (MAIL)

近藤和敬

099-285-8910

kondo@leh.kagoshima-u.ac.jp

共同担当教員

前後期

なし

後期

授業概要

現代形而上学の一つの立場であるデイヴィッドソンの思想について理解する。

学修目標

- ・現代形而上学の問題について理解する。
- ・自分で問題について考えるだけの素材となる知識を身に着ける。
- ・デイヴィッドソンの哲学における問題について理解する。

授業計画

1. ガイダンス、イントロダクション
2. 『真理・言語・歴史』に所収の論文講読および解説
3. 参加者による発表および論文購読 1 「真理の復権」を読む 1 (20-30)
4. 参加者による発表および論文購読 2 「真理の復権」を読む 2 (30-31)
5. 参加者による発表および論文購読 3 「真理を定義しようとすることの愚かさ」を読む 1 (42-55)
6. 参加者による発表および論文購読 4 「真理を定義しようとすることの愚かさ」を読む 2 (56-71)
7. 参加者による発表および論文購読 5 「方法と形而上学」を読む 1 (72-77)
8. 参加者による発表および論文購読 6 「方法と形而上学」を読む 2 (78-82)
9. 参加者による発表および論文購読 7 「意味・真理・証拠」を読む 1 (83-95)
10. 参加者による発表および論文購読 8 「意味・真理・証拠」を読む 2 (96-106)
11. 参加者による発表および論文購読 9 「真理の概念を追って」を読む
12. 参加者による発表および論文購読 10 「墓碑銘のすてきな乱れ」を読む 1 (142-158)
13. 参加者による発表および論文購読 11 「墓碑銘のすてきな乱れ」を読む 2 (159-174)
14. 参加者による発表および論文購読 12 「言語を通して見るということ」を読む 1 (202-214)
15. 参加者による発表および論文購読 13 「言語を通して見るということ」を読む 2 (215-224)

授業外学習 (予習・復習)

発表の準備が必要です。

また授業外の時間に用意されている資料 (論文) を読んだうえで、manabaの掲示板に、そのまとめを授業開始までに記入する必要があります。

教科書

ドナルド・デイヴィッドソン『真理・言語・歴史』春秋社、2010年。授業中に資料を配布します。

参考書

成績の評価基準

発表の内容と最終レポートによって評価します。

オフィスアワー

随時

アクティブ・ラーニング

ディベート; プレゼンテーション;

アクティブ・ラーニング (その他の内容)

アクティブ・ラーニング (授業回数)

備考 (受講要件)

哲学概論あるいは倫理学概説を受講した (あるいは受講中) であることが望ましいです。

実務経験のある教員による実践的授業

現代ヨーロッパ・アメリカ文化研究（旧 現代ヨーロッパ・アメリカ文化論）
ナンバリングコード

科目名

現代ヨーロッパ・アメリカ文化研究（旧 現代ヨーロッパ・アメリカ文化論）

英語名

Modern Cultural History of Europe & America

開講学科

コース

人文学科 新旧共通

ヨーロッパ・アメリカ文化コース

授業科目区分

授業形態

単位数

開講期

人文・多元地域文化コース
/ 選択科目

講義

2単位

2～4年

担当教員

連絡先（TEL）

連絡先（MAIL）

梁川英俊

8891

yanagawa@leh.kagoshima-u.ac.jp

共同担当教員

前後期

なし

前期

授業概要

この講義はフランスという国に関心を持ってもらうための授業です。フランスは美食やファッションの国として知られる一方で、最近の「黄色いベスト運動」のような激しいデモの国でもあります。食料自給率200%を誇る農業国でありながら、コンコルドやTGVに象徴されるようなテクノロジーの国でもあります。自国の文化に非常な誇りを持つ国である半面、他国の文化の摂取にも熱心で、おそらく日本文化を世界中で最も愛する国でもあります。この授業では、こうした一筋縄では理解できない多様性を持つフランスという国の魅力を、日本はもちろん隣国のイギリスやドイツ、またアメリカとの関係に触れながら紹介し、同時に古代から現代に至る西欧の歴史を学んでいきます。

学修目標

- (1) 世界史に関する理解を深める
- (2) 自分の住んでいる地域を再考する
- (3) 歴史の面白さを実感する
- (4) 文化の力と可能性を知る
- (5) ことばに関する理解を深める
- (6) 批判的思考力を養う

授業計画

- | | |
|------|-----------------------|
| 第1回 | オリエンテーション |
| 第2回 | フランスはデモの国である |
| 第3回 | フランスは農業国である |
| 第4回 | フランスはカトリック国である |
| 第5回 | フランスは中央集権国家である |
| 第6回 | フランスは文化国家である |
| 第7回 | フランスは移民の国である |
| 第8回 | フランスはワインの国である |
| 第9回 | フランスは美食の国である |
| 第10回 | フランスとイギリスは鶏とライオンの仲である |
| 第11回 | フランスとドイツは今友人昔敵の仲である |
| 第12回 | フランスとアメリカは不思議な関係である |
| 第13回 | フランスと日本は相思相愛の仲である（1） |
| 第14回 | フランスと日本は相思相愛の仲である（2） |
| 第15回 | まとめ |

授業外学習（予習・復習）

授業で取り上げるトピックに関しては、事前に連絡するので、各自で関連文献を読むなどして準備してください（予習1時間）。また授業で調べるように言われた事柄については、積極的に調べて理解を深めるようにしてください（復習1時間）。

教科書

特に指定しません。

参考書

授業中に適宜紹介します。

成績の評価基準

毎回の授業後に提出する小レポート(50%) + 試験あるいはレポート(50%)

オフィスアワ -

随時。メールであらかじめアポイントを取ることが望ましい。

アクティブ・ラーニング

学習の振り返り(ミニッツ・ペーパー等);

アクティブ・ラーニング(その他の内容)

アクティブ・ラーニング(授業回数)

毎回

備考(受講要件)

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
科目名			
英語翻訳論演習			
英語名			
English Translation 1			
開講学科		コース	
人文学科 新旧共通		ヨーロッパ・アメリカ文化コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
人文・多元地域文化コース / 選択科目	演習	2単位	2～4年
担当教員	連絡先 (TEL)		連絡先 (MAIL)
ホルヘ・ガルシア・アロヨ	8874		takeutik@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員	前後期		
none	後期		
授業概要			
This class will focus on the improvement of writing production and reading comprehension skills through text translation practice and the comparison between the original text and the translated one to prepare you for writing your thesis.			
学修目標			
In this class you will improve your writing and reading comprehension skills. At the end of this course you will acquire an advanced level of these skills (CEFR level C1) so that you can write successfully your thesis. To achieve this goal, the activities of this course will include learning reading and writing strategies through text translation practice and the analysis of the differences between the original text and the translated one.			
授業計画			
Week 1 Presentation of the course. Introduction activities. Week 2 Reading and writing and translation activities (text 1) Week 3 Analysis between the original texts and the translated ones. Week 4 Reading and writing and translation activities (text 2) Week 5 Analysis between the original texts and the translated ones. Week 6 Reading and writing and translation activities (text 3) Week 7 Preparation for the final project week. Week 8 Reading and writing and translation activities (text 4, audiovisual experience) Week 9 Analysis between the original texts and the translated ones. Week 10 Reading and writing and translation activities (text 5) Week 11 Analysis between the original texts and the translated ones. Week 12 Preparation for the final project week. Week 13 Reading and writing and translation activities (text 6, video game experience). Week 14 Reading and writing and translation activities (text 7, movie experience) Week 15 Analysis between the original text and the translated ones. (Submission of the final project)			
The final project will consist in a translation of a long text. The text to be translated can be chosen by the students (but it must be a text of the same nature as those we will see in class). In the “preparation for the final project week” you will have time to show how your course final project is progressing and to ask all the doubts you have concerning it.			
授業外学習 (予習・復習)			
As support for preparation of your final project you will be given some homework activities through the course.			
教科書			
Handouts will be given (texts related to literature and pop culture: manga, anime, comics, movies etc.).			

Audiovisual material will be brought to class (anime, movies and videogames).

参考書

Please bring your dictionaries.

成績の評価基準

Final project: 40%, class performance: 30%, homework: 30%

オフィスアワ -

12:10-12:40 on every Monday

アクティブ・ラーニング

グループワーク; プレゼンテーション;

アクティブ・ラーニング(その他の内容)

Translation project.

アクティブ・ラーニング(授業回数)

5 classes

備考(受講要件)

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード

FHS-DIH2133

科目名

哲学演習 B 1 (旧 西洋の人間と思想B演習1)

英語名

Western Philosophy B1

開講学科

コース

人文学科 新旧共通

ヨーロッパ・アメリカ文化コース

授業科目区分

授業形態

単位数

開講期

人文・多元地域文化コース
/ 選択科目

演習

2単位

2~4年

担当教員

連絡先 (TEL)

連絡先 (MAIL)

近藤和敬

099-285-8910

kondo@leh.kagoshima-u.ac.jp

共同担当教員

前後期

なし

前期

授業概要

現代フランス哲学の源泉であり続けるベルクソンの哲学について、とくに彼の『思考と動き』を読むことで、彼の形而上学と科学についての考え方を学ぶ。

学修目標

哲学の議論を自分で読んで、理解できるようになる。
 哲学の議論をまとめなおして、ほかの人に説明できるようになる。
 ベルクソンの形而上学と科学についての思想を理解する。

授業計画

最初に教員が資料の背景説明などをおこなったあと、担当者によってまとめの提示、後に参加者によるディスカッションを行います。

1. ベルクソン『思考と動き』を読む。
2. 参加者による発表1「序論第一部」(9 - 31)
3. 参加者による発表2「序論第一部」(32 - 41)
4. 参加者による発表3「可能と現実」
5. これまでのまとめ
6. 参加者による発表4「序論第二部」(42 - 84)
7. 参加者による発表5「序論第二部」(84 - 102)
8. 参加者による発表6「序論第二部」(102 - 140)
9. 参加者による発表7「哲学的直観」
10. これまでのまとめ
11. 参加者による発表8「形而上学入門」(254 - 272)
12. 参加者による発表9「形而上学入門」(272 - 290)
13. 参加者による発表10「形而上学入門」(291 - 298)
14. 参加者による発表11「形而上学入門」(299 - 329)
15. 全体のまとめ

授業外学習 (予習・復習)

毎回事前に資料を読んでくること。
 また読んだ資料のまとめをmanabaの掲示板(場合によってはレポート形式)で毎週記載すること。

教科書

アンリ・ベルクソン『思考と動き』(原章二訳)平凡社

参考書

なし

成績の評価基準

- ・授業への出席と取組(70パーセント)
 毎回事前に資料を読んでくるのが前提で、毎回、読んだ箇所のまとめをmanabaの掲示板に授業開始時刻までに記載することが出席の要件となります。
- ・期末のレポート(30パーセント)

評価基準： 1) 主題設定の適切さ、 2) 文章の説得力、 3) 日本語の正しさ、 4) 追加資料の有無

オフィスアワ -

授業のあとなど随時

アクティブ・ラーニング

グループワーク； ディベート； プレゼンテーション；

アクティブ・ラーニング (その他の内容)

アクティブ・ラーニング (授業回数)

15回中11回

備考 (受講要件)

平成 21 年度以前の入学生については「比較思想論演習」に読み替える。

これまでに哲学概論と倫理学概説を受講していることが望ましい。

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
科目名			
哲学演習 2 B (旧 西洋の人間と思想A演習2)			
英語名			
Western Philosophy 2B			
開講学科		コース	
人文学科 新旧共通		ヨーロッパ・アメリカ文化コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
人文・多元地域文化コース / 選択科目	演習	2単位	3~4年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
近藤和敬			kondo@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
なし		後期	
授業概要			
参加者の研究発表内容について議論する。			
学修目標			
<ul style="list-style-type: none"> ・自分の関心にそった文献を選べるようになる。 ・読んだものを適切にまとめられるようになる。 ・ほかの人の発表にたいして適切にコメントが言えるようになる。 ・引用の仕方などを理解する。 ・参考文献表の作り方を覚える。 ・卒論の準備を進める。 			
授業計画			
ゼミ生の研究発表のための授業です。 1回目：ガイダンス 2回目～15回目：ゼミ生の発表			
授業外学習 (予習・復習)			
発表者は、授業外時間に本を読み、まとめてくる必要があります。			
教科書			
なし			
参考書			
なし			
成績の評価基準			
発表の内容に応じて評価します。			
オフィスアワー			
随時			
アクティブ・ラーニング			
グループワーク; ディベート; プレゼンテーション;			
アクティブ・ラーニング (その他の内容)			
アクティブ・ラーニング (授業回数)			
15回中15回			
備考 (受講要件)			
ゼミ生に限ります。			
実務経験のある教員による実践的授業			

ナンバリングコード			
科目名			
英語学演習 2 (旧 英語構造論演習)			
英語名			
English Linguistics 2			
開講学科		コース	
人文学科 新旧共通		ヨーロッパ・アメリカ文化コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
人文・多元地域文化コース / 選択科目	演習	2単位	3~4年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
末松信子		099-285-7572	suematsu@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
		後期	
授業概要			
本演習では、英語学関連の論文を読み、英語および英語学に関する知識を深めるとともに、卒業論文執筆に向けた指導を行う。			
学修目標			
(1) 英語の構造についての理解を深める。 (2) 英語を研究する方法を修得する。 (3) 関心のあるテーマをについて、論理的かつ説得力のあるレポートを作成する。			
授業計画			
第1回 ガイダンス 第2回~第15回 発表と議論 第15回 総括 発表担当者の準備した資料と発表に基づき授業を進める。			
授業外学習 (予習・復習)			
予習: 指示された参考書、論文などに予め目を通し、課題をして予習しておくこと。 復習: 授業内容を基に各自参考文献を調べるなど復習しておくこと。			
教科書			
必要に応じて適宜指示する。			
参考書			
必要に応じて適宜指示する。			
成績の評価基準			
発表の準備・内容、プレゼンテーション、ディスカッションへの積極的な参加、期末レポートにより総合的に評価する。			
オフィスアワー			
授業、会議以外の時間 (あらかじめ連絡のこと)			
アクティブ・ラーニング			
グループワーク; ディベート; プレゼンテーション;			
アクティブ・ラーニング (その他の内容)			
アクティブ・ラーニング (授業回数)			
14回			
備考 (受講要件)			
ゼミ生に限る。			
実務経験のある教員による実践的授業			

ナンバリングコード			
科目名			
英語コミュニケーション演習			
英語名			
English Communication			
開講学科		コース	
人文学科 新旧共通		ヨーロッパ・アメリカ文化コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
人文・多元地域文化コース / 選択科目	演習	2単位	3~4年
担当教員	連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)	
スティーブ コーダ			
共同担当教員		前後期	
		後期	
授業概要			
This seminar will focus on working towards your dissertation			
学修目標			
You will work towards your dissertation receiving supervision from me, as well as help from other members of the class. You will also take part in library guidance and careers advice activities.			
授業計画			
Week 1 Summer progress report Week 2 Library guidance Week 3 卒論中間発表会 Week 4 卒論中間発表会 Week 5 Careers advice Week 6 Careers advice Week 7 3rd years' progress report and feedback Week 8 3rd years' progress report and feedback Week 9 3rd years help 4th years with their dissertations Week 10 卒論構想発表会 Week 11 卒論構想発表会 Week 12 Dissertation final week Week 13 3rd year progress report and feedback Week 14 Introduction of new 2nd years Week 15 卒論発表会 (This class will take place after exam week)			
授業外学習 (予習・復習)			
You will be expected to continue with working towards your dissertation outside of class throughout the semester.			
教科書			
None			
参考書			
None			
成績の評価基準			
3rd years: Progress reports (20%), 構想発表会(30%) and a final 9000字 report (50%) 4th years: 発表会 s (100%)			
オフィスアワ -			
Anytime is ok, but to mail me to make sure I'm in!			
アクティブ・ラーニング			
グループワーク; プレゼンテーション;			
アクティブ・ラーニング (その他の内容)			

アクティブ・ラーニング（授業回数）

15回中7回

備考（受講要件）

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
FHS-DIH2133			
科目名			
哲学演習 2 B (旧 西洋の人間と思想A演習2)			
英語名			
Western Philosophy 2B			
開講学科		コース	
人文学科 新旧共通		ヨーロッパ・アメリカ文化コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
人文・多元地域文化コース / 選択科目	演習	2単位	3~4年
担当教員	連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)	
近藤和敬	099-285-8910	kondo@leh.kagoshima-u.ac.jp	
共同担当教員	前後期		
	前期		
授業概要			
参加者の研究発表内容について議論する。			
学修目標			
<ul style="list-style-type: none"> ・自分の関心にそった文献を選べるようになる。 ・読んだものを適切にまとめられるようになる。 ・ほかの人の発表にたいして適切にコメントが言えるようになる。 ・引用の仕方などを理解する。 ・参考文献表の作り方を覚える。 			
授業計画			
ゼミ生の研究発表のための授業です。			
1回目：ガイダンス			
2回目～15回目：ゼミ生の発表			
授業外学習 (予習・復習)			
発表者は、授業外時間に本を読み、まとめてくる必要があります。			
教科書			
なし			
参考書			
なし			
成績の評価基準			
発表の内容に応じて評価します。			
オフィスアワ -			
授業のあとなど随時			
アクティブ・ラーニング			
グループワーク; ディベート; プレゼンテーション;			
アクティブ・ラーニング (その他の内容)			
アクティブ・ラーニング (授業回数)			
15回中15回			
備考 (受講要件)			
ゼミ生に限ります。			
実務経験のある教員による実践的授業			

英語ライティングb (旧 英語コミュニケーション2B・C)
ナンバリングコード

FHS-DIH2142

科目名

英語ライティングb (旧 英語コミュニケーション2B・C)

英語名

Academic Writing in English b

開講学科		コース	
人文学科 新旧共通		ヨーロッパ・アメリカ文化コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
人文・多元地域文化コース / 選択科目	演習	2単位	3~4年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
スティーブ コーダ		285-7573	coke@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
		後期	

授業概要

This class is an introduction to academic writing in English concentrating on essay structure for talking about graphs, tables, charts processes and maps.
Classwork will be divided between discussion and writing.
This class will be helpful if you are going to take the 教員採用試験 or IELTS or TOEFL.

学修目標

You will learn how to plan your structure and analyse paragraphs and essays. You will also learn how to use discourse markers and conjunctives effectively. You will be expected to communicate actively with other students about your writing in and outside of the classroom.

授業計画

Week 1 Introduction
Week 2 Writing overviews
Week 3 Writing about graphs
Week 4 Writing about tables and bar graphs
Week 5 Making comparisons 1 : Vocabulary
Week 6 Making comparisons 2 : Data comparison
Week 7 Essay feedback
Week 8 Ranking information
Week 9 Writing about processes 1 : Vocabulary
Week 10 Writing about processes 2 : Explaining processes
Week 11 Writing about charts
Week 12 Writing about maps
Week 13 Grammar practice
Week 14 Vocabulary practice
Week 15 Essay feedback and test preparation
Week 16 Test essay

授業外学習 (予習・復習)

You will be given homework most weeks.
You will also be required to read up on topics.

教科書

Handouts will be given

参考書

A good dictionary - using your smartphone is ok

成績の評価基準

Coursework 50%
Final essay and test 50% (25% each)

オフィスアワ -

Anytime is ok, but please mail me before to arrange a time.

アクティブ・ラーニング

グループワーク;

アクティブ・ラーニング (その他の内容)

アクティブ・ラーニング (授業回数)

15回中15回

備考 (受講要件)

None

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
FHS-DIH2125			
科目名			
英語学演習 2 (旧 英語構造論演習)			
英語名			
English Linguistics 2			
開講学科		コース	
人文学科 新旧共通		ヨーロッパ・アメリカ文化コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
人文・多元地域文化コース / 選択科目	演習	2単位	3~4年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
末松信子		099-285-7572	suematsu@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
		前期	
授業概要			
本演習では、英語学関連の論文を読み、英語および英語学に関する知識を深めるとともに、研究テーマの設定の仕方や論文の作成方法等、卒業論文執筆に向けた指導を行う。			
学修目標			
(1) 英語の構造についての理解を深める。 (2) 英語を研究する方法を修得する。 (3) 関心のあるテーマを見つけ、論理的かつ説得力のあるレポートを作成する。			
授業計画			
第1回 ガイダンス 第2回~第14回 発表と議論 第15回 総括 発表担当者の準備した資料と発表に基づき授業を進める。			
授業外学習 (予習・復習)			
予習: 指示された参考書、論文などに予め目を通し、課題をして予習しておくこと。 復習: 授業内容を基に各自参考文献を調べるなど復習しておくこと。			
教科書			
必要に応じて適宜指示する。			
参考書			
必要に応じて適宜指示する。			
成績の評価基準			
発表の準備・内容、プレゼンテーション、ディスカッションへの積極的な参加、期末レポートにより総合的に評価する。			
オフィスアワー			
授業、会議以外の時間 (あらかじめ連絡のこと)			
アクティブ・ラーニング			
グループワーク; ディベート; プレゼンテーション;			
アクティブ・ラーニング (その他の内容)			
アクティブ・ラーニング (授業回数)			
備考 (受講要件)			
ゼミ生に限る。			
実務経験のある教員による実践的授業			

ナンバリングコード			
科目名			
英語コミュニケーション演習			
英語名			
English Communication			
開講学科		コース	
人文学科 新旧共通		ヨーロッパ・アメリカ文化コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
人文・多元地域文化コース / 選択科目	演習	2単位	3~4年
担当教員	連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)	
スティーブ・コダ			
共同担当教員		前後期	
		前期	
授業概要			
This class will focus on essay writing, research and translations skills in preparation for your dissertation			
学修目標			
In this class you will learn how to essay writing and research skills leading towards your dissertation. These activities will include learning reading strategies, how to summarise, how to quote and reference, how to plan and structure your essays, and learning about plagiarism. You will also learn the translation skills needed for an annotated translation.			
授業計画			
<p>Week 1 Ice-breaking activities</p> <p>Weeks 2 Essay writing, research and translation activities.</p> <p>Weeks 3 Essay writing, research and translation activities.</p> <p>Week 4 Research progress week</p> <p>Weeks 5 Essay writing, research and translation activities.</p> <p>Weeks 6 Essay writing, research and translation activities.</p> <p>Week 7 Research progress week</p> <p>Weeks 8 Essay writing, research and translation activities.</p> <p>Weeks 9 Essay writing, research and translation activities.</p> <p>Week 10 Research progress week</p> <p>Weeks 11 Essay writing, research and translation activities.</p> <p>Weeks 12 Essay writing, research and translation activities.</p> <p>Week 13 Research progress week</p> <p>Weeks 14 Essay writing, research and translation activities.</p> <p>Weeks 15 Essay writing, research and translation activities.</p>			
<p>In research progress week, you will be given time to present how your individual research is progressing.</p>			
授業外学習 (予習・復習)			
You will be given homework activities throughout the course as well as continuing with your individual research for your final dissertation.			
教科書			
Handouts will be given			
参考書			
Bring your dictionaries.			

成績の評価基準

60% Research progress reports (3 times)

40% Final report

オフィスアワ -

Anytime is ok, but mail me to make sure I'm in!

アクティブ・ラーニング

グループワーク; プレゼンテーション;

アクティブ・ラーニング (その他の内容)

アクティブ・ラーニング (授業回数)

15回中 15回

備考 (受講要件)

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
FHS-DGH2215			
科目名			
考古学研究C (旧 考古学地域論)			
英語名			
Archaeology C			
開講学科		コース	
人文学科 新旧共通		地域社会コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
人文・多元地域文化コース / 選択科目	講義	2単位	2～4年
担当教員	連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)	
中村直子	099-285-7270	k8315479@kada i . jp	
共同担当教員		前後期	
		前期	
授業概要			
南九州・南西諸島における先史古代の埋葬遺跡から葬墓制について説明し、葬墓制から見た社会の特質について解説する。			
学修目標			
(1) 南九州と南西諸島に分布する葬墓制の種類を理解する。 (2) 葬墓制の変遷について理解する。 (3) 南九州と南西諸島の葬墓制の特徴について理解する。			
授業計画			
第 1 回 : イントロダクション 第 2 回 南九州と南西諸島の地理的環境について 第 3 回 縄文時代の南九州の埋葬遺跡 第 4 回 南九州の葬墓制 (1) 石棺系の埋葬遺跡 第 5 回 南九州の葬墓制 (2) 甕棺墓 第 6 回 南九州の葬墓制 (3) 周溝墓 第 7 回 南九州の葬墓制 (4) 薩摩地方の古墳 第 8 回 南九州の葬墓制 (5) 大隅地方の古墳 第 9 回 南九州の葬墓制 (6) 地下式横穴墓 第10回 南九州の葬墓制 (7) 土壙墓・立石墓 第11回 種子島・甌島の埋葬遺跡 第12回 奄美群島の埋葬遺跡 第13回 沖縄諸島の埋葬遺跡 第14回 葬墓制の変遷と比較 (1) 各葬墓制の関係性 第15回 葬墓制の変遷と比較 (2) 葬墓制からみた南九州と南西諸島の社会の特徴			
授業外学習 (予習・復習)			
講義資料による予習・復習が望ましい。			
教科書			
プリントを配布する。			
参考書			
適宜、講義の中で紹介する。			
成績の評価基準			
期末試験 (ノート持込可) (70%)、授業への取り組み態度 (30%)			
オフィスアワ -			
アクティブ・ラーニング			
プレゼンテーション; 学習の振り返り (ミニッツ・ペーパー等);			
アクティブ・ラーニング (その他の内容)			
アクティブ・ラーニング (授業回数)			

15回

備考 (受講要件)

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
FHS-DDF1502			
科目名			
人文科学基礎I			
英語名			
Humanities I			
開講学科		コース	
人文学科 新旧共通		多元地域文化コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
人文・多元地域文化コース / 必修科目	演習	2単位	1年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
石田智子 (共同: 榊原良太・金井静香・多田蔵人)		099-285-7549	ishida@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
金井静香、多田蔵人、榊原良太		前期	
授業概要			
この授業はあらかじめ編成された40名程度のクラスにクラス担任を兼ねた担当教員が配置され、以下のような趣旨で授業を行います。			
(1) クラス内での小グループでのグループワーク: 研究課題を設定し、共同で探求した成果をパワーポイント等によって発表します。この過程で人文系共通技能を習得していきます。			
(2) 全クラス合同の人文レクチャーおよびキャリア・レクチャー: 人文レクチャーは人文系共通技能についてのレクチャーで、文献資料の取扱い方やレポートの作成方法などの講義です。キャリア・レクチャーは在学中の活動から卒業後の進路までのスパンで自分のキャリア形成に自覚的に取り組むための講演です。			
学修目標			
人文科学諸分野を研究するために必要な人文系共通技能の必須アイテムを習得する。			
授業計画			
第1回	オリエンテーション・グループ分け		
第2回	人文レクチャー		
第3回	グループワーク(1)		
第4回	グループワーク(2)		
第5回	二年次以降の学びについて(1)		
第6回	二年次以降の学びについて(2)		
第7回	グループワーク(3)		
第8回	グループワーク(4)		
第9回	二年次以降の学びについて(3)		
第10回	二年次以降の学びについて(4)		
第11回	発表会(1)		
第12回	発表会(2)		
第13回	二年次以降の学びについて(5)		
第14回	資格関係ガイダンス		
第15回	夏休みの課題等について		
授業外学習(予習・復習)			
グループワークに関しては毎回1-2時間程度の復習が必要となります。			
また発表会に関しては3-4時間程度の予習が必要となります。			
また別途、随時課題を課しますので、課題についても各1-2時間程度の授業外学習が必要となります。			
教科書			
必要に応じてプリント等を配布します。			
参考書			
授業中に適宜紹介します。			
成績の評価基準			
グループワークの成果: 6割、グループへの貢献度: 4割。			
オフィスアワー			

授業中に指示する。事前にメールで教員と連絡をとること。

アクティブ・ラーニング

グループワーク；ディベート；フィールドワーク；プレゼンテーション；学習の振り返り（ミニッツ・ペーパー等）；

アクティブ・ラーニング（その他の内容）

アクティブ・ラーニング（授業回数）

15回中15回

備考（受講要件）

前もって指定されたクラスの授業を受講してください。

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
FHS-DDF1502			
科目名			
人文科学基礎I			
英語名			
Humanities I			
開講学科		コース	
人文学科 新旧共通		多元地域文化コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
人文・多元地域文化コース / 必修科目	演習	2単位	1年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
金井静香 (共同: 多田蔵人・石田智子・榊原良太)		099-285-7553	kanai@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
		前期	
授業概要			
学年全体の合同授業とグループワークを組み合わせで行います。合同授業は大学における修学や学生生活から大学卒業後の進路までを視野に入れた大学四年間の過ごし方について自覚的に取り組むためのレクチャーです。			
学修目標			
人文科学諸分野を研究するために必要な人文系共通技能を習得する。			
授業計画			
第1回 オリエンテーション・グループ分け			
第2回 人文レクチャー			
第3回 グループワーク(1)			
第4回 二年次以降の学びについて(1)			
第5回 二年次以降の学びについて(2)			
第6回 二年次以降の学びについて(3)			
第7回 二年次以降の学びについて(4)			
第8回 二年次以降の学びについて(5)			
第9回 グループワーク(2)			
第10回 グループワーク(3)			
第11回 グループワーク(4)			
第12回 資格関係ガイダンス			
第13回 発表会(1)			
第14回 発表会(2)			
第15回 夏休みの課題等について			
授業外学習(予習・復習)			
成果発表にむけた準備のため、予習・復習が必要です。 また随時課題を課しますので、課題についても授業外学習が必要となります。			
教科書			
必要に応じてプリント等を配布します。			
参考書			
授業中に適宜紹介します。			
成績の評価基準			
グループワークの成果: 6割、諸課題4割。			
オフィスアワー			
原則としてメールで事前にアポイントメントを取ること。			
アクティブ・ラーニング			
グループワーク; プレゼンテーション;			
アクティブ・ラーニング(その他の内容)			
アクティブ・ラーニング(授業回数)			

15回中6回

備考（受講要件）

前もって指定されたクラスの授業を受講してください。

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
FHS-DDF1503			
科目名			
人文科学基礎II			
英語名			
Humanities II			
開講学科		コース	
人文学科 新旧共通		多元地域文化コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
人文・多元地域文化コース / 必修科目	演習	2単位	1年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
金井静香 (共同: 多田蔵人・石田智子・榊原良太)		099-285-7553	kanai@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
		後期	
授業概要			
学年全体の合同授業とグループワークを組み合わせで行います。合同授業は大学における修学や学生生活から大学卒業後の進路までを視野に入れた大学四年間の過ごし方について自覚的に取り組むためのレクチャーです。			
学修目標			
人文科学諸分野を研究するために必要な人文系共通技能を習得する。			
授業計画			
第1回 オリエンテーション・グループ分け			
第2回 留学関係ガイダンス			
第3回 グループワーク(1)			
第4回 グループワーク(2)			
第5回 発表会(1)			
第6回 発表会(2)			
第7回 キャリアレクチャー			
第8回 グループワーク(3)			
第9回 グループワーク(4)			
第10回 グループワーク(5)			
第11回 グループワーク(6)			
第12回 成果発表(1)			
第13回 成果発表(2)			
第14回 成果発表(3)			
第15回 全体発表			
授業外学習(予習・復習)			
成果発表にむけた準備のため、予習・復習が必要です。 また、随時課題を課しますので、課題についても授業外学習が必要となります。			
教科書			
適宜授業中にプリント等を配布します。			
参考書			
適宜授業中に紹介します。			
成績の評価基準			
グループワークの成果: 6割、諸課題4割。			
オフィスアワ -			
原則としてメールで事前にアポイントメントを取ること。			
アクティブ・ラーニング			
グループワーク; プレゼンテーション;			
アクティブ・ラーニング(その他の内容)			
アクティブ・ラーニング(授業回数)			

15回中11回

備考（受講要件）

前もって指定されたクラスの授業を受講して下さい。

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
FHS-DDF1503			
科目名			
人文科学基礎II			
英語名			
Humanities II			
開講学科		コース	
人文学科 新旧共通		多元地域文化コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
人文・多元地域文化コース / 必修科目	講義	2単位	1年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
石田智子 (共同: 榊原良太・金井静香・多田蔵人)		099-285-7549	ishida@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
金井静香、多田蔵人、榊原良太		後期	
授業概要			
キャリアレクチャーとグループワークを組み合わせで行います。キャリアレクチャーは学年全体の合同授業です。キャリアレクチャーの目的は大学における修学や学生生活から大学卒業後の進路までを視野に入れた大学4年間の過ごし方について自覚的に取り組むことです。			
学修目標			
人文科学諸分野を研究するために必要な人文系共通技能の必須アイテムを習得する。			
授業計画			
人文科学諸分野を研究するために必要な人文系共通技能の必須アイテムを習得する。			
授業計画			
第1回 オリエンテーション ・グループ分け			
第2回 留学関係ガイダンス			
第3回 グループワーク (1)			
第4回 グループワーク (2)			
第5回 発表会 (1)			
第6回 発表会 (2)			
第7回 キャリアレクチャー			
第8回 グループワーク (3)			
第9回 グループワーク (4)			
第10回 グループワーク (5)			
第11回 グループワーク (6)			
第12回 成果発表 (1)			
第13回 成果発表 (2)			
第14回 成果発表 (3)			
第15回 全体発表			
授業外学習 (予習・復習)			
グループワークに関しては毎回1-2時間程度の復習が必要となります。 また成果発表に関しては3-4時間程度の予習が必要となります。 また別途、随時課題を課しますので、課題についても各1-2時間程度の授業外学習が必要となります。			
教科書			
適宜授業中にプリント等を配布します			
参考書			
適宜授業中に紹介します。			
成績の評価基準			
グループワークの成果：6割、グループへの貢献度：4割。			
オフィスアワー			
授業中に指示する。随時。事前にメールで教員と連絡をとること。			
アクティブ・ラーニング			

グループワーク; ディベート; フィールドワーク; プレゼンテーション; 学習の振り返り(ミニッツ・ペーパー等);

アクティブ・ラーニング(その他の内容)

アクティブ・ラーニング(授業回数)

15回中15回

備考(受講要件)

前もって指定されたクラスの授業を受講して下さい。

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
FHS-DDF1502			
科目名			
人文科学基礎I			
英語名			
Humanities I			
開講学科		コース	
人文学科 新旧共通		多元地域文化コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
人文・多元地域文化コース / 必修科目	演習	2単位	1年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
多田蔵人 (共同: 石田智子・榊原良太・金井静香)		099-285-8906	pon@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
近藤和敬、中路武士		前期	
授業概要			
学年全体の合同授業とグループワークを組み合わせで行います。合同授業は大学における修学や学生生活から大学卒業後の進路までを視野に入れた大学四年間の過ごし方について自覚的に取り組むためのレクチャーです。			
学修目標			
人文科学諸分野を研究するために必要な人文系共通技能を習得する。特に、調査方法の基礎を学び、データの整理やプレゼンテーションに関するスキルの定着と向上を目指す。			
授業計画			
第1回	オリエンテーション・グループ分け		
第2回	人文レクチャー		
第3回	グループワーク(1)		
第4回	グループワーク(2)		
第5回	二年次以降の学びについて(1)		
第6回	二年次以降の学びについて(2)		
第7回	グループワーク(3)		
第8回	グループワーク(4)		
第9回	二年次以降の学びについて(3)		
第10回	二年次以降の学びについて(4)		
第11回	発表会(1)		
第12回	発表会(2)		
第13回	二年次以降の学びについて(5)		
第14回	資格関係ガイダンス		
第15回	夏休みの課題等について		
授業外学習(予習・復習)			
成果発表に向けた準備のため、予習・復習が必要です。 また、随時課題を課しますので、課題についても授業外学習が必要となります。			
教科書			
必要に応じてプリント等を配布します。			
参考書			
授業中に適宜紹介します。			
成績の評価基準			
グループワークの成果: 60%、諸課題: 40%。			
オフィスアワー			
原則としてメールで事前にアポイントメントを取ること。			
アクティブ・ラーニング			
グループワーク; プレゼンテーション; アクティブ・ラーニング(その他の内容)			

アクティブ・ラーニング（授業回数）

15回中 6回

備考（受講要件）

前もって指定されたクラスの授業を受講してください。

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
FHS-DDF1503			
科目名			
人文科学基礎II			
英語名			
Humanities II			
開講学科		コース	
人文学科 新旧共通		多元地域文化コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
人文・多元地域文化コース / 必修科目	講義	2単位	1年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
多田蔵人 (共同: 石田智子・榎原良太・金井静香)			hos leh.kagoshima-u.ac.jp は アットマーク
共同担当教員		前後期	
近藤和敬、中路武士		後期	
授業概要			
学年全体の合同授業とグループワークを組み合わせで行います。合同授業は大学における修学や学生生活から大学卒業後の進路までを視野に入れた大学四年間の過ごし方について自覚的に取り組むためのレクチャーです。			
学修目標			
人文科学諸分野を研究するために必要な人文系共通技能を習得する。			
授業計画			
第1回 オリエンテーション、グループ分け			
第2回 留学関係ガイダンス			
第3回 グループワーク(1)			
第4回 グループワーク(2)			
第5回 グループワーク(3)			
第6回 グループワーク(4)			
第7回 キャリアレクチャー			
第8回 グループワーク(5)			
第9回 グループワーク(6)			
第10回 グループワーク(7)			
第11回 グループワーク(8)			
第12回 成果発表(1)			
第13回 成果発表(2)			
第14回 成果発表(3)			
第15回 全体発表			
授業外学習(予習・復習)			
グループワークの準備などで、授業外学習が必要になる場合があります。			
教科書			
適宜授業中にプリント等を配布します。			
参考書			
適宜授業中に紹介します。			
成績の評価基準			
グループワークの成果: 6割、諸課題: 4割。			
オフィスアワー			
原則として事前にメールでアポイントメントを取ることを。			
アクティブ・ラーニング			
グループワーク; プレゼンテーション;			
アクティブ・ラーニング(その他の内容)			
アクティブ・ラーニング(授業回数)			
15回中11回			

備考（受講要件）

前もって指定されたクラスの授業を受講して下さい。

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード

科目名

多元地域文化コース基礎I (旧 コース基礎演習1)

英語名

Course Basics 1

開講学科

コース

人文学科 新旧共通

多元地域文化コース

授業科目区分

授業形態

単位数

開講期

人文・多元地域文化コース
/ 必修科目

講義

2単位

2年

担当教員

連絡先 (TEL)

連絡先 (MAIL)

福永善隆 (共同: 末松信子・尾崎孝
宏)

itokane@leh.kagoshima-u.ac.jp

共同担当教員

前後期

内山弘、近藤和敬

前期

授業概要

クラスごとに行われる講義とグループワークを組み合わせで行います。講義では主に人文科学の諸分野における独特な研究手法や論文などでの表現方法を学びます。

学修目標

人文科学諸分野を研究するために必要な人文系共通技能を習得し、より専門的な学習のための準備を整える。

授業計画

1. オリエンテーション・グループ分け
2. ゼミアンケート (調査用)、ゼミ所属申請書の書き方
3. アンケート結果公表、ゼミ所属申請書の作成に向けた準備
4. 論文やレポートをかくための準備1: 文章の種類 (著作・論文・書評など) と扱い
5. 論文やレポートをかくための準備2: 文献の調査のやり方
6. 論文やレポートをかくための準備3: 引用の基本
7. ゼミ所属申請書の確認および修正、提出
8. 研究実践レクチャー1-1
9. 研究実践レクチャー1-2
10. 第二次申請書の提出、研究実践レクチャー1-3
11. グループワーク、レクチャーの実践1
12. グループワーク、レクチャーの実践2
13. 成果発表1
14. 成果発表2
15. 夏休みの課題等について

授業外学習 (予習・復習)

成果発表に向けた準備のため、予習・復習が必要です。
また、随時課題を課しますので、課題についても授業外学習が必要となります。

教科書

特になし

参考書

特になし

成績の評価基準

グループワークの成果: 60%、諸課題: 40%

オフィスアワ -

随時

アクティブ・ラーニング

グループワーク; プレゼンテーション; 学習の振り返り (ミニッツ・ペーパー等);

アクティブ・ラーニング (その他の内容)

アクティブ・ラーニング (授業回数)

備考(受講要件)

平成21年度以前の入学生は「フィールド学」に読み替え。また「コース基礎演習1」にも読み替え。

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード

科目名

多元地域文化コース基礎I (旧 コース基礎演習1)

英語名

Course Basics 1

開講学科

コース

人文学科 新旧共通

多元地域文化コース

授業科目区分

授業形態

単位数

開講期

人文・多元地域文化コース
/ 必修科目

講義

2単位

2年

担当教員

連絡先 (TEL)

連絡先 (MAIL)

末松信子 (共同: 福永善隆・尾崎孝宏)

099-285-7572

suematsu@leh.kagoshima-u.ac.jp

共同担当教員

前後期

前期

授業概要

クラスごとに行われる講義とグループワークを組み合わせで行う。講義では主に人文科学の諸分野における独特な研究手法や論文などでの表現方法を学ぶ。

学修目標

人文科学諸分野を研究するために必要な人文系共通技能を習得し、より専門的な学習のための準備を整える。

授業計画

- 第1回 オリエンテーション・グループ分け
- 第2回 ゼミアンケート(調査用)、ゼミ所属申請書の書き方
- 第3回 アンケート結果公表、ゼミ所属申請書の作成に向けた準備
- 第4回 論文やレポートをかくための準備1:文章の種類(著作・論文・書評など)と扱い
- 第5回 論文やレポートをかくための準備2:文献の調査のやり方
- 第6回 論文やレポートをかくための準備3:引用の基本
- 第7回 ゼミ所属申請書の確認および修正、提出
- 第8回 研究実践レクチャー1-1
- 第9回 研究実践レクチャー1-2
- 第10回 第二次申請書の提出、研究実践レクチャー1-3
- 第11回 グループワーク、レクチャーの実践1
- 第12回 グループワーク、レクチャーの実践2
- 第13回 成果発表1
- 第14回 仮ゼミ所属発表、成果発表2
- 第15回 夏休みの課題等について

授業外学習(予習・復習)

成果発表に向けた準備のため、予習・復習が必要。
また、随時課題を課するので、課題についても授業外学習が必要となる。

教科書

必要に応じてプリント等を配布する。

参考書

授業中に適宜紹介する。

成績の評価基準

グループワークの成果:60%、諸課題:40%

オフィスアワ -

原則としてメールで事前にアポイントメントを取る。

アクティブ・ラーニング

グループワーク; プレゼンテーション;

アクティブ・ラーニング(その他の内容)

アクティブ・ラーニング(授業回数)

15回中4回

備考(受講要件)

前もって指定されたクラスの授業を受講すること。

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード

科目名

多元地域文化コース基礎Ⅰ(旧 コース基礎演習Ⅰ)

英語名

Course Basics 1

開講学科

コース

人文学科 新旧共通

多元地域文化コース

授業科目区分

授業形態

単位数

開講期

人文・多元地域文化コース
/ 必修科目

講義

2単位

2年

担当教員

連絡先 (TEL)

連絡先 (MAIL)

尾崎孝宏(共同:末松信子・福永善隆)

kondo@leh.kagoshima-u.ac.jp

共同担当教員

前後期

兼城系絵、内山弘

前期

授業概要

クラスごとに行われる講義とグループワークを組み合わせで行います。講義では主に人文科学の諸分野における独特な研究手法や論文などでの表現方法を学びます。

学修目標

人文科学諸分野を研究するために必要な人文系共通技能を習得し、より専門的な学習のための準備を整える。

授業計画

- 1.オリエンテーション・グループ分け
- 2.「ゼミ所属にかんする調書」および「これからの勉強にかんする興味関心のアンケート調査」の書き方
- 3.「ゼミ所属にかんする調書」および「これからの勉強にかんする興味関心のアンケート調査」の作成に向けた準備
- 4.論文やレポートをかくための準備1:文章の種類(著作・論文・書評など)と扱い方の基本
- 5.論文やレポートをかくための準備2:文献の調査のやり方
- 6.論文やレポートをかくための準備3:引用の基本
- 7.「ゼミ所属にかんする調書」および「これからの勉強にかんする興味関心のアンケート調査」の確認、修正および提出
- 8.研究実践レクチャー1-1
- 9.研究実践レクチャー1-2
- 10.研究実践レクチャー1-3
- 11.グループワーク、レクチャーの実践1
- 12.グループワーク、レクチャーの実践2
- 13.成果発表1
- 14.ゼミ所属発表、成果発表2
- 15.夏休みの課題等について

授業外学習(予習・復習)

成果発表に向けた準備のため、予習・復習が必要です。また、随時課題を課しますので、課題についても授業外学習が必要となります。

教科書

特になし

参考書

特になし

成績の評価基準

グループワークの成果:60%、諸課題:40%

オフィスアワ-

随時

アクティブ・ラーニング

グループワーク;プレゼンテーション;学習の振り返り(ミニッツ・ペーパー等);

アクティブ・ラーニング(その他の内容)

アクティブ・ラーニング (授業回数)

15/15

備考 (受講要件)

多元地域文化コースの2年次以降の学生であること(ただし、旧カリキュラムの学生は、コース基礎演習に読み替え)

実務経験のある教員による実践的授業

多元地域文化コース基礎II (旧 コース基礎演習2)
ナンバリングコード

FHS-DDF2208

科目名

多元地域文化コース基礎II (旧 コース基礎演習2)

英語名

Course Basics 2

開講学科

コース

人文学科 新旧共通

多元地域文化コース

授業科目区分

授業形態

単位数

開講期

人文・多元地域文化コース
/ 必修科目

演習

2単位

2年

担当教員

連絡先 (TEL)

連絡先 (MAIL)

末松信子 (共同: 福永善隆)

suematsu@leh.kagoshima-u.ac.jp

共同担当教員

前後期

福永善隆・尾崎孝宏

後期

授業概要

クラスごとに行われる講義とグループワークを組み合わせて行います。講義では主に人文科学の諸分野における独特な研究手法や論文などでの表現方法を学びます。

学修目標

人文科学諸分野を研究するために必要な人文系共通技能を習得し、より専門的な学習のための準備を整える。

授業計画

1. オリエンテーション
2. 研究実践レクチャー2-1
3. 研究実践レクチャー2-2
4. 研究実践レクチャー2-3
5. グループワーク、レクチャーの実践3
6. グループワーク、レクチャーの実践4
7. 成果発表3
8. 成果発表4
9. 研究実践レクチャー3-1
10. 研究実践レクチャー3-2
11. 研究実践レクチャー3-3
12. グループワーク、レクチャーの実践5
13. グループワーク、レクチャーの実践6
14. 成果発表5
15. 成果発表6

授業外学習 (予習・復習)

成果発表に向けた準備のため、予習・復習が必要です。
また、随時課題を課しますので、課題についても授業外学習が必要となります。

教科書

特になし

参考書

特になし

成績の評価基準

グループワークの成果: 60%、諸課題: 40%

オフィスアワー

随時

アクティブ・ラーニング

グループワーク; プレゼンテーション; 学習の振り返り (ミニッツ・ペーパー等);

アクティブ・ラーニング (その他の内容)

アクティブ・ラーニング (授業回数)

備考(受講要件)

平成21年度以前の入学生は「フィールド学」に読み替え。また「コース基礎演習2」にも読み替え。

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード

科目名

多元地域文化コース基礎II (旧 コース基礎演習2)

英語名

Course Basics 2

開講学科

コース

人文学科 新旧共通

多元地域文化コース

授業科目区分

授業形態

単位数

開講期

人文・多元地域文化コース
/ 必修科目

講義

2単位

2年

担当教員

連絡先 (TEL)

連絡先 (MAIL)

(共同: 末松信子・福永善隆)

099-285-8906

pon@leh.kagoshima-u.ac.jp

共同担当教員

前後期

兼城系絵、近藤和敬

後期

授業概要

クラスごとに行われる講義とグループワークを組み合わせで行う。講義では主に人文科学の諸分野における独特な研究手法や論文などでの表現方法を学ぶ。

学修目標

人文科学諸分野を研究するために必要な人文系共通技能を習得し、より専門的な学習のための準備を整える。

授業計画

- 第1回 オリエンテーション、夏休みの宿題の回収
- 第2回 研究実践レクチャー2-1
- 第3回 研究実践レクチャー2-2
- 第4回 研究実践レクチャー2-3
- 第5回 グループワーク、レクチャーの実践3
- 第6回 グループワーク、レクチャーの実践4
- 第7回 成果発表3
- 第8回 成果発表4
- 第9回 研究実践レクチャー3-1
- 第10回 研究実践レクチャー3-2
- 第11回 研究実践レクチャー3-3
- 第12回 グループワーク、レクチャーの実践5
- 第13回 グループワーク、レクチャーの実践6
- 第14回 成果発表5
- 第15回 成果発表6

授業外学習 (予習・復習)

成果発表に向けた準備のため、予習・復習が必要。
また、随時課題を課するので、課題についても授業外学習が必要となる。

教科書

必要に応じてプリント等を配布する。

参考書

授業中に適宜紹介する。

成績の評価基準

グループワークの成果: 60%、諸課題: 40%

オフィスアワー

原則としてメールで事前にアポイントメントを取ることを。

アクティブ・ラーニング

グループワーク; プレゼンテーション;

アクティブ・ラーニング (その他の内容)

アクティブ・ラーニング (授業回数)

15回中8回

備考(受講要件)

前もって指定されたクラスの授業を受講すること。

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード

科目名

多元地域文化コース基礎II (旧 コース基礎演習2)

英語名

Course Basics 2

開講学科

コース

人文学科 新旧共通

多元地域文化コース

授業科目区分

授業形態

単位数

開講期

人文・多元地域文化コース
/ 必修科目

演習

2単位

2年

担当教員

連絡先 (TEL)

連絡先 (MAIL)

福永善隆 (共同: 末松信子)

i tokane@leh.kagoshima-u.ac.jp

共同担当教員

前後期

内山弘、近藤和敬

後期

授業概要

クラスごとに行われる講義とグループワークを組み合わせで行う。講義では主に人文科学の諸分野における独特な研究手法や論文などでの表現方法を学ぶ。

学修目標

人文科学諸分野を研究するために必要な人文系共通技能を習得し、より専門的な学習のための準備を整える。

授業計画

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 研究実践レクチャー2-1
- 第3回 研究実践レクチャー2-2
- 第4回 研究実践レクチャー2-3
- 第5回 グループワーク、レクチャーの実践3
- 第6回 グループワーク、レクチャーの実践4
- 第7回 成果発表3
- 第8回 成果発表4
- 第9回 研究実践レクチャー3-1
- 第10回 研究実践レクチャー3-2
- 第11回 研究実践レクチャー3-3
- 第12回 グループワーク、レクチャーの実践5
- 第13回 グループワーク、レクチャーの実践6
- 第14回 成果発表5
- 第15回 成果発表6

授業外学習 (予習・復習)

成果発表に向けた準備のため、予習・復習が必要。
また、随時課題を課するので、課題についても授業外学習が必要となる。

教科書

必要に応じてプリント等を配布する。

参考書

適宜紹介する

成績の評価基準

グループワークの成果: 60%、諸課題: 40%

オフィスアワー

随時

アクティブ・ラーニング

グループワーク; ディベート; プレゼンテーション; 学習の振り返り (ミニッツ・ペーパー等);
アクティブ・ラーニング (その他の内容)

アクティブ・ラーニング (授業回数)

15回中8回

備考(受講要件)

前もって指定されたクラスの授業を受講すること。

実務経験のある教員による実践的授業

英語オーラルa (旧 英語コミュニケーション1)
ナンバリングコード

科目名

英語オーラルa (旧 英語コミュニケーション1)

英語名

Oral English a

開講学科

コース

人文学科 新旧共通

多元地域文化コース

授業科目区分

授業形態

単位数

開講期

人文・多元地域文化コース
/ 選択科目

演習

2単位

2年

担当教員

連絡先 (TEL)

連絡先 (MAIL)

スティーブ・コダ

coke@leh.kagoshima-u.ac.jp

共同担当教員

前後期

前期

授業概要

This is an upper-intermediate course that will teach you how to give presentations in English. The course will follow a pattern of lecture/activities one week, followed by presentations the next week. You will be expected to make about 6 presentations throughout the course. For the test, the class will be split into two halves, the 1st group will present the first week. The 2nd group will present the second week.

学修目標

This course aims to build your confidence in using real English. You will be able to learn how to give an effective presentation. The skills that you learn you will be able to use when you give presentations in Japanese too.

授業計画

Week 1 Introduction
Week 2 Physical aspects of presentations 1 : Posture and eye contact
Week 3 Presentation practice and peer evaluation
Week 4 Physical aspects of presentations 2 : Gestures
Week 5 Presentation practice and peer evaluation
Week 6 Oral aspects of presentations 1 : Voice inflection
Week 7 Presentation practice and peer evaluation
Week 8 Oral aspects of presentations 2 : Pronunciation
Week 9 Presentation practice and peer evaluation
Week 10 Presentation structure 1 : Structure
Week 11 Presentation practice and peer evaluation
Week 12 Presentation structure 2 : Powerpoint
Week 13 Presentation practice and peer evaluation
Week 14 Individual research for final presentation
Week 15 Final presentation and peer evaluation (1st group)
Week 16 Final presentation and peer evaluation (2nd group)

授業外学習 (予習・復習)

You will be expected to prepare the contents of your presentations. You will also be required to watch presentations on YouTube

教科書

You will be given handouts

参考書

None

成績の評価基準

Presentations in class 50%
Final Presentation 50%

オフィスアワ -

Anytime ok, but mail me to make sure I will be available

アクティブ・ラーニング

グループワーク; プレゼンテーション;

アクティブ・ラーニング (その他の内容)

アクティブ・ラーニング (授業回数)

Every week

備考 (受講要件)

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
科目名			
多文化交流論演習 2			
英語名			
開講学科		コース	
人文学科 新旧共通		多元地域文化コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
人文・多元地域文化コース / 選択科目	演習	2単位	3年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
中島 祥子		099-285-7664	sachikon@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
		前期	
授業概要			
異文化間コミュニケーション及び異文化間教育関係の基本図書や論文を読み、要点を理解し、内容を批判的に読むことを目的とし、文献の要点をまとめ、他者に説明することを目的とする。 また、具体的なテーマに沿った文献などを読み、データ収集方法を学ぶ。			
学修目標			
1. 異文化間コミュニケーション及び異文化間教育関係の基本図書を読み、内容を理解し、説明することができる。 2. 具体的なテーマに沿った文献を批判的に読み、問題点を指摘することができる。 3. さまざまな調査方法を学び、具体的なテーマに沿ったデータ取集を選ぶことができる。 4. 文献の要点を適切な表現で文章としてまとめ、さらに口頭で説明することができる。			
授業計画			
第1回：オリエンテーション（授業概要とスケジュールについて。受講生の人数により変更の可能性あり） 第2回：基本図書の紹介と発表方法及び分担について 第3回：学生による発表（1） 第4回：学生による発表（2） 第5回：学生による発表（3） 第6回：学生による発表（4） 第7回：中間総括 第8回：学生による発表（5） 第9回：学生による発表（6） 第10回：学生による発表（7） 第11回：学生による発表（8） 第12回：論文講読（1） 第13回：論文講読（2） 第14回：論文講読（3） 第15回：まとめ			
授業外学習（予習・復習）			
予習：文献の読解、疑問点の抽出、レジュメ作成など。 復習：振り返り提出など			
教科書			
第1回の授業で指定する。			
参考書			
第1回の授業で指定する。			
成績の評価基準			
(1) 授業への取り組み方（受講中の発言、振り返り、宿題などを含む）30%、（2）発表30%、（3）期末レポート40%で総合評価する。			
オフィスアワ -			
木曜日5限（研究室）。他の時間帯でも都合があれば適宜応じます。メールなどで連絡をとってください。			

アクティブ・ラーニング

グループワーク; ディベート; プレゼンテーション; 学習の振り返り (ミニッツ・ペーパー等);

アクティブ・ラーニング (その他の内容)

アクティブ・ラーニング (授業回数)

15中115回

備考 (受講要件)

ゼミ生に限る。課題が多いので、積極的に参加すること。

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
FHS-DDF4101			
科目名			
卒業科目（ヨーロッパ・アメリカ文化）			
英語名			
Graduation Thesis			
開講学科		コース	
人文学科 新旧共通		多元地域文化コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
人文学科/必修科目	演習	8単位	4年
担当教員	連絡先（TEL）	連絡先（MAIL）	
柴田健志	285-7533	siba@leh.kagoshima-u.ac.jp	
共同担当教員	前後期		
	後期		
授業概要			
卒業論文作成の指導			
学修目標			
卒業論文の作成			
授業計画			
卒業論文作成にあたって随時			
授業外学習（予習・復習）			
自分の研究テーマに関する文献調査および論文の執筆			
教科書			
なし			
参考書			
なし			
成績の評価基準			
1) テーマが明確に設定されていること			
2) 論旨が明確であること			
3) 文献が的確に参照されていること			
オフィスアワ -			
随時			
アクティブ・ラーニング			
ディベート; プレゼンテーション;			
アクティブ・ラーニング（その他の内容）			
アクティブ・ラーニング（授業回数）			
15回中15回			
備考（受講要件）			
卒業予定の学生			
実務経験のある教員による実践的授業			

ナンバリングコード			
FHS-DDF4101			
科目名			
卒業科目（ヨーロッパ・アメリカ文化）			
英語名			
Graduation Thesis			
開講学科		コース	
人文学科 新旧共通		多元地域文化コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
人文学科/必修科目	演習	8単位	4年
担当教員	連絡先（TEL）	連絡先（MAIL）	
柴田健志	285-7533	siba@leh.kagoshima-u.ac.jp	
共同担当教員	前後期		
	前期		
授業概要			
卒業論文作成の指導			
学修目標			
卒業論文の作成			
授業計画			
卒業論文作成にあたって随時			
授業外学習（予習・復習）			
自分の研究テーマに関する文献調査および論文の執筆			
教科書			
なし			
参考書			
なし			
成績の評価基準			
1) テーマが明確に設定されていること			
2) 論旨が明確であること			
3) 文献が的確に参照されていること			
オフィスアワ -			
随時			
アクティブ・ラーニング			
ディベート;			
アクティブ・ラーニング（その他の内容）			
アクティブ・ラーニング（授業回数）			
備考（受講要件）			
卒業予定の学生			
実務経験のある教員による実践的授業			

ナンバリングコード			
科目名			
日本語学概説B (旧 国語学概論)			
英語名			
Introduction to Japanese Linguistics B			
開講学科		コース	
人文学科 新旧共通		多元地域文化コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
人文・多元地域文化コース / 選択科目	講義	2単位	1～4年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
内山弘		099-285-8906	pon@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
		前期	
授業概要			
<p>日本語を古代語と近代語に区分する場合、近代語はさらに中世語、近世語、近現代語に区分される。高等学校の教科で言えば、中世語と近世語は古文、近現代語は現代文に相当するが、前者は中古語から近現代語へと移行する過渡期の言語であり、中世語～近現代語を近代語として連続的に見ていくことで古文と現代文を有機的に捉えることが可能になる。</p> <p>本講義では、近代語を「中世語」「近世語」「近現代語」の三つに分け、それぞれ部門ごとに概説していく。</p>			
学修目標			
・近代語を通時的に見ていくことで、国語の授業のために必要な近代語についての総合的・体系的な知識を得ることができる。			
授業計画			
第1回：はじめに 古代語から近代語へ			
第2回：前期中世語(1) 院政・鎌倉期の資料その1			
第3回：前期中世語(2) 院政・鎌倉期の資料その2			
第4回：前期中世語(3) 院政・鎌倉期の音韻・表記			
第5回：前期中世語(4) 院政・鎌倉期の文法と語彙			
第6回：後期中世語(1) 南北朝・室町期の資料その1			
第7回：後期中世語(2) 南北朝・室町期の資料その2			
第8回：後期中世語(3) 南北朝・室町期の音韻・表記			
第9回：後期中世語(4) 南北朝・室町期の文法			
第10回：後期中世語(5) 南北朝・室町期の語彙			
第11回：近世語(1) 近世語の資料			
第12回：近世語(2) 近世語の音韻・表記			
第13回：近世語(3) 近世語の文法・語彙			
第14回：近現代語(1) 共通語と現代仮名遣の成立			
第15回：近現代語(2) その他			
定期試験			
授業外学習(予習・復習)			
予習：配布された講義資料に一通り目を通しておくこと。			
復習：配布された講義資料と講義ノートを見返して講義内容を自分なりに整理すること。			
教科書			
授業中に適宜プリントを配布する。			
参考書			
特に定めない。			
成績の評価基準			
期末試験(100%)			
オフィスアワ -			
火曜4限(内山研究室)。電子メールでの相談は常時受け付ける。			
アクティブ・ラーニング			

アクティブ・ラーニング (その他の内容)

アクティブ・ラーニング (授業回数)

15回中0回

備考 (受講要件)

免許教科の必修授業科目：国語

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード

科目名

言語思想史概説（旧 フランス語圏文化論）

英語名

Introduction to History of Linguistic Thought

開講学科

コース

人文学科 新旧共通

多元地域文化コース

授業科目区分

授業形態

単位数

開講期

人文・多元地域文化コース
/ 選択科目

講義

2単位

1～4年

担当教員

連絡先（TEL）

連絡先（MAIL）

鶴戸 聡

udo@leh.kagoshima-u.ac.jp

共同担当教員

前後期

後期

授業概要

前半で言語学の基礎を学び、言語の性質について入門的な知識を得る。後半には古代から20世紀に至る言語思想の展開を概観する。

学修目標

- ・ 言語一般の性質について基礎的な知識を身につける。
- ・ 言語思想史の概要を理解し、人文諸学の基礎を身につける。
- ・ 世界の様々な言語状況について知見を深める。

授業計画

- 1： オリエンテーション：言語の研究
- 2： 語の構造
- 3： 文の構造
- 4： 語の意味
- 5： 文の意味
- 6： 言語の多様性と類型
- 7： 言語の変化
- 8： 音の構造
- 9： 古代ギリシアの言語思想
- 10： 聖書の言語思想
- 11： 古代ローマの言語思想
- 12： 標準語とは何か
- 13： 近代ヨーロッパの言語思想
- 14： ソシユール
- 15： 言語学と現代思想

（参加者の反応を見つつ調整・変更することがある）

授業外学習（予習・復習）

予習：配布資料を読み、質問を考えてくる（1時間）。

復習：授業で知ったことを基に発展学習を行う（2時間）。

教科書

適宜資料を配布する。

参考書

風間喜代三他著『言語学』東京大学出版会、第二版、2004年。

ロイ・ハリス、タルボット・テイラー著『言語論のランドマーク』大修館書店、1997年。

その他、適宜授業中に紹介する。

成績の評価基準

試験もしくはレポートによる。

オフィスアワ -

授業後。もしくはメールでアポを取る。

アクティブ・ラーニング

アクティブ・ラーニング（その他の内容）

アクティブ・ラーニング（授業回数）

備考（受講要件）

本講義は実験的な試みであるため、必ずしも計画通り進まない可能性もある。内容についても受講生のフィードバックを求めながら調整したい。

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
FHS-DHH2210			
科目名			
日本史概説			
英語名			
Introduction to Japanese history			
開講学科		コース	
人文学科 新旧共通		多元地域文化コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
人文・多元地域文化コース / 選択科目	講義	2単位	1～4年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
金井 静香・厩尾 達哉・佐藤宏之		099-285-7553	kanai@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
		前期	
授業概要			
テキストに指定した書籍の内容を、下記の「授業計画」のように分割して講義する予定である。			
学修目標			
(1) 日本史の用語に関する知識を習得する。			
(2) 日本史を通史的に説明できる。			
(3) 日本史に関する研究動向を理解する。			
授業計画			
第1回 古代国家の成立			
第2回 律令国家の形成と展開			
第3回 摂関政治と地方社会			
第4回 中世社会の成立と展開			
第5回 内乱と一揆の時代			
第6回 中世文化の展開			
第7回 幕藩体制の確立			
第8回 幕藩体制の動揺と解体			
第9回 都市と民衆の文化			
第10回 近代国家の成立			
第11回 政党政治の発展と社会運動			
第12回 アジア太平洋戦争			
第13回 戦後改革			
第14回 復興と高度経済成長			
第15回 現代の世界と日本			
定期試験			
授業外学習 (予習・復習)			
教科書			
佐々木潤之介・佐藤信・中島三千男・藤田覚・外園豊基・渡辺?喜編『概論日本歴史』(吉川弘文館)			
参考書			
授業中に適宜紹介または配布する。			
成績の評価基準			
期末試験の配点を、授業の担当回数に応じて古代20点、中世20点、近世・近現代60点とする。			
オフィスアワ -			
あらかじめアポイントをとること。			
アクティブ・ラーニング			
アクティブ・ラーニング (その他の内容)			
アクティブ・ラーニング (授業回数)			

備考（受講要件）

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード

FHS-DIH2124

科目名

アメリカ文学概説B(旧 アメリカ小説論)

英語名

Introduction to American Literature B

開講学科

コース

人文学科 新旧共通

多元地域文化コース

授業科目区分

授業形態

単位数

開講期

人文・多元地域文化コース
/ 選択科目

講義

2単位

1~4年

担当教員

連絡先(TEL)

連絡先(MAIL)

竹内勝徳

285-8874

takeutik@leh.kagoshima-u.ac.jp

共同担当教員

前後期

なし

後期

授業概要

20世紀と21世紀におけるアメリカ文学の成長を、自然主義文学や前衛芸術からの発展、並びに度重なる戦争や社会の腐敗に対する反動、そして、資本主義社会やインターネットの普及に支えられたグローバルな次元での価値観の交錯の結果として捉え、主としてモダニズムとポストモダニズムの文学について論じる。主な作家としてドライサー、フィッツジェラルド、ヘミングウェイ、フォークナー、スタインベック、ケルアック、モリソン、デリーロ、オースターを取り上げる。彼らの経歴や文学の特質を時代背景に照らして詳しく紹介し、その作品の抜粋を英語で読む。また、2度の世界大戦と核兵器の開発によってもたらされた価値観の変容、機械産業の発展とインターネットやグローバリゼーションに同期して生じたポストモダンな世界観についても文学作品と関連させて述べる。授業内ではディスカッションの時間を設け、英語によるディスカッションの後、ミニレポートを提出してもらう。

学修目標

20世紀以降のアメリカ文学をテーマとして講義を行う。到達目標は以下のとおりである。(1) 20世紀以降のアメリカ文学の特質について理解する共に、各作家や作品の特徴を具体的に学ぶ。(2) 20世紀以降のアメリカ文学の時代背景、並びに、グローバル社会の中心的担い手としてのアメリカの文化的特質と社会のあり方について理解を深める。(3) 代表的な作品の抜粋を読むことで英語の読解力を向上させる。(4) 英語でのディスカッションを通して英語の表現力を高める。(5) 作家たちの経歴を知ること、海外における社会や職業のあり方について理解を深める。

授業計画

- 第1回 アメリカ帝国主義の発展と経済大国への道
- 第2回 モダニズム文学と自然主義文学の特質
- 第3回 セオドア・ドライサー『シスター・キャリー』とダーウィニズム
- 第4回 スコット・フィッツジェラルド『夜はやさし』と消費社会
- 第5回 アーネスト・ヘミングウェイ『誰がために鐘は鳴る』と前衛芸術
- 第6回 ウィリアム・フォークナー『八月の光』の小説構造
- 第7回 ジョン・スタインベックと労働運動
- 第8回 第2次大戦後の文化状況
- 第9回 ビート・ジェネレーションと戦後のアメリカ
- 第10回 サリンジャー『ライ麦畑で捕まえて』
- 第11回 ポストモダニズムの特質
- 第12回 トニ・モリソン『ピラブド』と人種
- 第13回 ドン・デリーロ『ホワイト・ノイズ』と1980年代のアメリカ
- 第14回 ポール・オースター『ガラスの街』と価値観の交錯
- 第15回 20、21世紀アメリカ文学の特質

定期試験

授業外学習(予習・復習)

予習: 授業中に配ったプリントを読み、英文を訳しておく。

復習: ノートに書いたことを整理し、授業中になされた指示に従って調査等を行う。

教科書

早瀬博範『21世紀からみるアメリカ文学史』(英宝社)

参考書

授業中に配布する文学作品からの抜粋のプリント

成績の評価基準

期末試験50%、中間レポート25%、ミニレポート25%の割合で成績評価を行う。

オフィスアワ -

月曜昼休み

アクティブ・ラーニング

グループワーク; ディベート; 学習の振り返り(ミニッツ・ペーパー等);

アクティブ・ラーニング(その他の内容)

アクティブ・ラーニング(授業回数)

15回中5回

備考(受講要件)

英語力の向上に意欲をもっていること。

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
FHS-DGH2210			
科目名			
人文地理学概説			
英語名			
Introduction to Human Geography			
開講学科		コース	
人文学科 新旧共通		多元地域文化コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
人文・多元地域文化コース / 選択科目	講義	2単位	1～4年
担当教員		連絡先 (TEL)	
小林善仁		099-285-7557	
共同担当教員		連絡先 (MAIL)	
		zenjin@leh.kagoshima-u.ac.jp	
		前後期	
		前期	
授業概要			
人文地理学は、地域の人文的諸事象に注目して、地域の仕組みとその特性を明らかにするものである。人文地理学の問題・関心や研究手法などを解説し、身近な地域の話題を取り上げて概説する。			
学修目標			
地域を研究する際の地理学的方法を理解する。 日本の地理的諸問題を列挙できる。			
授業計画			
第1回 ガイダンス			
第2回 地理学の見方・考え方			
第3回 地理学の諸資料(地図)			
第4回 地形図の読図			
第5回 新旧地形図の比較			
第6回 人口地理学1 日本の人口			
第7回 人口地理学2 九州の人口			
第8回 都市地理学1 日本の都市			
第9回 都市地理学2 九州の都市			
第10回 都市地理学3 都市の内部構造			
第11回 水産地理学1 日本の水産業			
第12回 水産地理学2 九州の水産業			
第13回 観光地理学1 日本の観光			
第14回 観光地理学2 九州の観光			
第15回 総括			
第16回 定期試験			
授業外学習(予習・復習)			
配布する資料の内容・図表を熟読し、興味を持った事柄は図書・インターネットなどで調べてみて下さい。			
教科書			
特になし。			
参考書			
講義の中で適宜紹介する。			
成績の評価基準			
・各回の課題(20%) ・定期試験(80%)			
オフィスアワー			
講義・会議の時間以外ならいつでも可。			
アクティブ・ラーニング			
学習の振り返り(ミニッツ・ペーパー等);			
アクティブ・ラーニング(その他の内容)			

アクティブ・ラーニング（授業回数）

備考（受講要件）

地図帳を持っているものは、講義に持参すること。

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード

FHS-DGH2219

科目名

比較民俗学概説

英語名

Introduction to Comparative Folklore

開講学科

コース

人文学科 新旧共通

多元地域文化コース

授業科目区分

授業形態

単位数

開講期

人文・多元地域文化コース
/ 選択科目

講義

2単位

1～4年

担当教員

連絡先 (TEL)

連絡先 (MAIL)

熊 華磊

099-285-8902 (兼城研究室)

共同担当教員

前後期

前期

授業概要

民俗学、或いは民俗学者と聞いたらどんなイメージが浮かぶだろう。民俗学を学ぶ以前の私は真っ先に思い浮かんだのは、ジブリアニメ「平成狸合戦ぽんぽこ」の中に登場した、狸たちによる化けを取り上げたテレビ番組にコメンテーターとして出演したあの「先生」だった(わかるかな?)。どこか古臭くて、土臭い。しかし、民俗学は、その歴史を長く見積もっても100年経っていない比較的新しい学問である。また、民俗学が扱う事象も決して農村社会に限られていない。本講義は民俗学の姿に接近するため、学説史や方法論、代表人物や研究事象など多方面から民俗学に関する知識を紹介する。また最終的には、変化の激しい現代社会における民俗学の意味について学生とともに考えていきたい。

学修目標

?民俗学の学問的流れやその中で生まれた諸理論について理解する

?民俗学の方法論について理解する。

?身近な生活世界にある諸事象に対し興味を持ち、民俗学的に思考することができる。

授業計画

- 第1回 オリエンテーション&花見の話
- 第2回 民俗と民俗学について：民俗が先か、民俗学が先か？
- 第3回 民俗学の生い立ち：柳田国男について
- 第4回 民俗学の方法論その一：重出立証法と個別分析法
- 第5回 民俗学の方法論その二：聞き書き
- 第6回 旅する民俗学者：宮本常一について
- 第7回 民俗学が捉える時間その一：一日
- 第8回 民俗学が捉える時間その二：一年
- 第9回 民俗学が捉える時間その三：一生
- 第10回 民俗学が捉える空間その一：ムラ
- 第11回 民俗学が捉える空間その二：都市
- 第12回 鹿児島における民俗学研究その一：十五夜綱引の研究
- 第13回 鹿児島における民俗学研究その二：奄美に関する民俗学研究
- 第14回 民俗学の今：「新・野の学問」の構築に向けて
- 第15回 総括：現代社会における民俗学の意味

授業外学習 (予習・復習)

予習：次回の講義で取り扱うキーワードを前もって調べること。

復習：講義の中で出たキーワードや人物、概念などについてさらに調べ、知識を深めること。

教科書

授業時に資料を配布する。

参考書

岩元道弥・菅豊・中村淳編2012『民俗学の可能性を拓く：「野の学問」とアカデミズム』青弓社

小野重朗1972『十五夜綱引の研究』慶友社

下野敏見2013『奄美諸島の民俗文化誌』南方新社

新谷尚紀・波平恵美子・湯川洋司編2003『暮らしの中の民俗学1：一日』吉川弘文館

新谷尚紀・波平恵美子・湯川洋司編2003『暮らしの中の民俗学2：一年』吉川弘文館

新谷尚紀・波平恵美子・湯川洋司編2003『暮らしの中の民俗学3：一生』吉川弘文館

福田アジオ1992『柳田国男の民俗学』吉川弘文館

宮本常一1984『忘れられた日本人』岩波書店

宮本常一・安溪遊地2008『調査されるという迷惑：フィールドに出る前に読んでおく本』みずのわ出版

八木透・政岡伸洋編2004『こんなに面白い民俗学』ナツメ社

成績の評価基準

毎回レポート（40％）と最終試験（60％）で評価する。総合して60点以上得られれば単位を付与する。

毎回レポート：毎回講義最後に講義内容に関するレポートの提出を要する。

最終試験：授業で扱った範囲から、選択式問題（60％）と小論文（40％）で出題する。

オフィスアワ -

授業終了後もしくは非常勤講師控室

アクティブ・ラーニング

アクティブ・ラーニング（その他の内容）

アクティブ・ラーニング（授業回数）

備考（受講要件）

受講要件特になし。

担当教員は鹿児島滞在歴10年の中国人。

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
FHS-DHH2222			
科目名			
東洋史概説A(旧 東洋史概説)			
英語名			
Introduction to East Asian History A			
開講学科		コース	
人文学科 新旧共通		多元地域文化コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
人文・多元地域文化コース / 選択科目	講義	2単位	1～4年
担当教員		連絡先(TEL)	連絡先(MAIL)
福永善隆		099(285)7561	fukunaga@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
		前期	
授業概要			
<p>テーマ：中国古代史</p> <p>私たちは一口に中国というが、その領域には様々な文化・地域を含んでいる。それは中国語といっても、北京を中心とする北京方言にすぎず、例えば広東語などそれ以外の地域には方言としては片づけられないほどの様々なバリエーションがあることに示されている。この多様な地域を含む中国が現在まで分裂を繰り返しながら再び統合され、まがりなりにも統一を保ってこられたのは1人の皇帝が天下を治める皇帝支配体制が維持されてきたことが大きな要因の一つである。本講義は皇帝支配体制の確立・変遷を中心として、中国文明の誕生から唐までの歴史展開を論じる。</p>			
学修目標			
<ol style="list-style-type: none"> 1) 中国古代の歴史展開を把握する。 2) 各王朝の時代の特徴を理解する。 3) 1・2 中国における歴史展開の原理を把握する。 			
授業計画			
第1回：イントロダクション 第2回：中国文明の誕生 第3回：中華王朝の原形：殷・周 第4回：統一への胎動：春秋戦国時代 第5回：始皇帝の大帝国：秦 第6回：皇帝支配体制の確立：前漢 第7回：皇帝支配体制と儒学：新 第8回：皇帝支配体制の変容：後漢 第9回：分裂時代の始まり：三国 第10回：貴族制の時代：晋・南朝 第11回：異民族の王朝：北朝 第12回：中国の再統一：隋 第13回：国際色豊かな王朝：唐 第14回：唐の衰亡 第15回：総括 定期試験			
授業外学習(予習・復習)			
(予習) 愛宕元・富谷至編『中国の歴史上【古代 中世】』(昭和堂、2009年)の該当箇所を前もって読んでくることを推奨する。 (復習) 理解を深めるために関係文献を読むことを推奨する。			
教科書			
使用しない。適宜プリントを配布。			
参考書			
堀敏一『中国通史』(講談社学術文庫、2000年)			

梅原郁『皇帝政治と中国』（白帝社、2003年）
 愛宕元・富谷至編『中国の歴史上【古代 中世】』（昭和堂、2009年）
 川勝義雄『魏晋南北朝』（講談社学術文庫）
 川本芳昭『中国の歴史5 中華の崩壊と拡大』（講談社）
 氣賀沢保規『中国の歴史5 絢爛たる世界帝国』（講談社） など

成績の評価基準

期末試験

オフィスアワー

授業・会議以外であればいつでも可。

アクティブ・ラーニング

学習の振り返り（ミニッツ・ペーパー等）；

アクティブ・ラーニング（その他の内容）

アクティブ・ラーニング（授業回数）

15回中15回

備考（受講要件）

特になし

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
FHS-DIH2114			
科目名			
倫理学概説			
英語名			
Introduction to Ethics			
開講学科		コース	
人文学科 新旧共通		多元地域文化コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
人文・多元地域文化コース / 選択科目	講義	2単位	1～4年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
柴田健志		285-7533	siba@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
		後期	
授業概要			
倫理学の基本的な考え方を講義します。			
学修目標			
倫理学の基本的な考え方を理解すること。			
授業計画			
1 ガイダンス			
2 倫理学とは(問い)			
3 幸福			
4 義務			
5 徳			
6 道德判断			
7 道德			
8 自己と他者			
9 個人と社会			
10 正義、自由、平等			
11 医療			
12 環境			
13 ビジネス			
14 倫理学とは(答え)			
15 全体のまとめとディベート			
授業外学習(予習・復習)			
予習 テキストの読解			
復習 テキストの問題点の検討			
教科書			
柘植尚則『プレップ倫理学』弘文堂			
参考書			
特にありません。授業の際に適宜紹介します。			
成績の評価基準			
期末試験によっておこないます(100%)。評価基準は(1)問題提起の的確さ(2)結論の妥当性(3)論理の整合性、以上3点です。			
オフィスアワー			
授業終了後			
アクティブ・ラーニング			
ディベート; 学習の振り返り(ミニッツ・ペーパー等);			
アクティブ・ラーニング(その他の内容)			
アクティブ・ラーニング(授業回数)			
15回中3回			

備考（受講要件）

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード

FHS-DFH2518

科目名

芸術文化史概説（旧 ポピュラーカルチャー論）

英語名

Introduction to History of Art & Culture

開講学科

コース

人文学科 新旧共通

多元地域文化コース

授業科目区分

授業形態

単位数

開講期

人文・多元地域文化コース
/ 選択科目

講義

2単位

1～4年

担当教員

連絡先（TEL）

連絡先（MAIL）

太田純貴

099-285-7576

yota@leh.kagoshima-u.ac.jp

共同担当教員

前後期

なし

後期

授業概要

芸術文化は、哲学・ポピュラーカルチャー・宗教などの様々な領域に影響を与えると同時に、そうした領域から影響を受けてきた。本講義では、現在の私たちの生活にも密接に関与し、哲学の動向にもした20世紀の西洋の芸術文化を取り上げ、基礎的な事項や鍵となる流れについて解説を行なう。

学修目標

1. 芸術文化に関する基礎的な知識を修得する。
2. 芸術文化の大きな動向について理解する。
3. 芸術文化と他領域の相互の影響関係を把握する。

授業計画

- 第1回： ガイダンス
 - 第2回： 表現主義
 - 第3回： キュビズム
 - 第4回： 未来派
 - 第5回： ロシア・アヴァンギャルド
 - 第6回： パウハウス
 - 第7回： ダダ
 - 第8回： シュルレアリスム
 - 第9回： ミニマルアート
 - 第10回： 抽象表現主義
 - 第11回： ポップアート
 - 第12回： オブアート
 - 第14回： ランドアート
 - 第15回： 総括
- 定期試験

授業外学習（予習・復習）

授業中に指示する作品や文献について目を通しておくこと。最悪、人名とどんなことが書かれているかだけでも整理して覚えておくこと。

教科書

特になし。適宜、授業スライドやプリントを配布する。

参考書

末永昭和『20世紀の美術』美術出版社など。授業中にも適宜指示する。

成績の評価基準

1. 授業中のミニレポート（リフレクションシート）の提出（30%）
2. 受講態度（10%）
3. 期末テストもしくはレポート（60%）

* レポートについてはさまざまな視点より、総合的に評価する。

オフィスアワ -

追って指示する（ガイダンス時に指示する予定）

アクティブ・ラーニング

学習の振り返り（ミニッツ・ペーパー等）；

アクティブ・ラーニング（その他の内容）

アクティブ・ラーニング（授業回数）

15回中15回

備考（受講要件）

1. H29年度以前にポピュラーカルチャー論を受講した学生も、受講していない学生も、H29年度以降の新科目名・芸術文化史概説を一度だけ受講できる（新科目名になってから重複することはできない）
2. 授業予定・内容は、必要に応じて変更することがある。
3. 私語やスマートフォン・携帯の使用などは授業妨害と見なし、そうした学生の受講は認めない。該当する学生には退席を命じることがある。その場合、以後の受講は認めない。
4. レポートの剽窃・盗作に関しては、言うまでもなく認めない。剽窃・盗作行為が確認された場合は、何らかの処分がくだされる可能性がある。
5. 成績評価がレポートの場合、授業中に指示した形式や参考資料（文献、ウェブ、映像含む）の提示の仕方を守っていないレポートに関しては、採点の対象外とする。
6. 受講制限（上限100名）あり

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
FHS-DIH2113			
科目名			
哲学概説(旧 哲学概論)			
英語名			
Introduction to Western Philosophy			
開講学科		コース	
人文学科 新旧共通		多元地域文化コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
人文・多元地域文化コース / 選択科目	講義	2単位	1~4年
担当教員		連絡先(TEL)	連絡先(MAIL)
近藤和敬		099-285-8910	kondo@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
		前期	
授業概要			
近代とはなにか。このことを理解するうえでは、西洋哲学についての理解を欠くことができない。本授業では、「西洋=近代」とは何であり、それにたいして自分たちがどのように位置づけられうるのかということを理解するために、古代から現代にいたる哲学史の概要を学びながら、考えていく。			
学修目標			
<ol style="list-style-type: none"> 1. 西洋近代についての理解を深める。 2. 哲学史と近現代社会の関係について理解する。 3. 現代哲学を理解するうえで必要な基本的知識を獲得する。 			
授業計画			
<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 現代社会と哲学 2. 哲学の起源と学問の歴史、ソクラテス以前の哲学者たち 3. 理性と絶対性、プラトンとアリストテレス 4. キリスト教の歴史と哲学のかかわり、アウグスティヌス、トマス 5. 哲学と神学の乖離、デカルト 6. 近代科学の誕生とイギリス経験論、ベーコン、ロック、ニュートン 7. イギリス経験論とフランス啓蒙思想 8. フランス啓蒙思想とドイツ哲学、カントの批判哲学 9. カント：現象界と叡智界 10. 近代市民社会の成立、サン＝シモン、マルクス(ここまでの内容についての小テストあり) 11. 人類の進歩と歴史、帝国主義と植民地、ヘーゲルと歴史的理性 12. 近代の終焉にむけて 絶対精神から実存へ、ニーチェ、ショーペンハウアー、コジェーヴ 13. 二つの世界大戦、近代批判、工場産業から情報産業へ、レヴィ＝ストロース、ボードリヤール 14. 現代の診断、自然主義のほうへ、フーコー、ドゥルーズ 15. まとめの小テスト 16. 期末テストは行わない 			
授業外学習(予習・復習)			
<ul style="list-style-type: none"> ・授業でもちいるスライドのPDFを授業の前後に読んで予習と復習をすること。 ・授業で取り上げた書籍などを授業後などに自分で読むことを復習として行うことが望ましい。 ・授業期間中に読書レポートを課す(課題図書の場合は授業中に提示する)。 			
教科書			
とくにありません。授業中に資料を配布する。			
参考書			
貫成人『哲学マップ』筑摩書房、2004年。 伊藤邦武『物語 哲学の歴史』中公新書、2012年。			
成績の評価基準			
<ul style="list-style-type: none"> ・途中の小テスト(40%)とまとめの小テスト(60%)で評価する。 ・授業期間中に課される読書レポートを提出していることが、評価を受けることとなる(レポートそれ自体は評価の対象とはならない)。 			

オフィスアワ -

授業のあとなど随時

アクティブ・ラーニング

学習の振り返り(ミニッツ・ペーパー等);

アクティブ・ラーニング(その他の内容)

アクティブ・ラーニング(授業回数)

15回中15回

備考(受講要件)

昨年度の哲学概論と重複履修をしないようにしてください。

本授業のための受講要件は特にありませんが、本授業を受けていることが、西洋の人間と思想A(講義)の受講要件となりますので、注意してください。

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
FHS-DHH2222			
科目名			
東洋史概説B (旧 東洋史概説)			
英語名			
Introduction to East Asian History B			
開講学科		コース	
人文学科 新旧共通		多元地域文化コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
人文・多元地域文化コース / 選択科目	講義	2単位	1～4年
担当教員	連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)	
大田由紀夫	099-285-7560	ota@leh.kagoshima-u.ac.jp	
共同担当教員		前後期	
		後期	
授業概要			
<p>テーマ：中国近世史</p> <p>北宋～清代（10世紀～20世紀初頭）の時期は、我々に馴染みの深い「伝統中国」社会が形成され、現代中国の基盤が出来上がる時期である。本講義は、幾多の内外の動乱・変動を経てその社会を成熟させていった近世中国史を、東北アジアにおける歴史動向と関連させながら講義する予定である。</p>			
学修目標			
1．近世中国社会の特質について理解し、2．近世中国史に関する基礎的歴史知識を獲得する。			
授業計画			
<p>第1回：ガイダンス</p> <p>第2回：時代区分論と「唐宋変革」</p> <p>第3回：10世紀以降の東アジアの歴史動向</p> <p>第4回：分裂の時代 唐末五代</p> <p>第5回：北宋期の国家・社会・経済</p> <p>第6回：王安石の新政と宋の南遷</p> <p>第7回：東アジア史の「南北朝」時代 金と南宋</p> <p>第8回：モンゴル帝国の形成とその時代</p> <p>第9回：モンゴルの「平和」 ユーラシアの「大交流」期</p> <p>第10回：明の成立と洪武体制の形成</p> <p>第11回：「南倭北虜」の時代</p> <p>第12回：清朝の登場と東アジア世界</p> <p>第13回：清朝支配の確立</p> <p>第14回：清の「盛世」</p> <p>第15回：「伝統」中国社会の変容</p>			
授業外学習（予習・復習）			
（予習）10世紀宋代以降の中国史概説書に目を通しておくことが望ましい。（復習）講義資料・ノートをもとに前回の講義内容について復習して理解を深めておくことが望ましい。			
教科書			
特になし。			
参考書			
宮崎市定『中国史 下巻』（岩波書店）			
成績の評価基準			
期末の試験ないしレポート（学習目標?40%、学習目標?60%）。			
オフィスアワー			
授業・会議等以外であればいつでも可。			
アクティブ・ラーニング			
その他;			
アクティブ・ラーニング（その他の内容）			

講義内容に関する学生の疑問・質問ならびにその応答

アクティブ・ラーニング(授業回数)

15回中1回ないし2回

備考(受講要件)

特になし。

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード

FHS-DIH2123

科目名

アメリカ文学概説A(旧 アメリカ文学)

英語名

Introduction to American Literature A

開講学科

コース

人文学科 新旧共通

多元地域文化コース

授業科目区分

授業形態

単位数

開講期

人文・多元地域文化コース
/ 選択科目

講義

2単位

1~4年

担当教員

連絡先 (TEL)

連絡先 (MAIL)

竹内勝徳

takeutik@leh.kagoshima-u.ac.jp

共同担当教員

前後期

前期

授業概要

アメリカ文学の成立を、植民地時代のピューリタン文学、ならびに、ヨーロッパから持ち込まれた小説の形式の融合として捉え、18世紀の文学勃興期を概観したうえで、19世紀前半に起ったアメリカ最初の文学運動であるアメリカン・ルネサンス、並びに、南北戦争以降に台頭したリアリズム文学について論じる。主な作家としてエマソン、ホーソーン、ポー、メルヴィル、ソロー、トウェイン、ジェームズ、ショパンを取り上げる。彼らの経歴や文学の特質を時代背景に照らして詳しく紹介し、その作品の抜粋を英語で読む。また、資本主義の進展から生じた産業構造の変化や交通の発達、さらには、それらに付随して起った社会変容や文化の発展についても、文学作品と関連させて述べる。授業内ではディスカッションの時間を設け、英語によるディスカッションの後、ミニレポートを提出してもらう。

学修目標

19世紀のアメリカ文学をテーマとして講義を行う。到達目標は以下のとおりである。(1) 19世紀アメリカ文学の特質について理解する共に、各作家や作品の特徴を具体的に学ぶ。(2) 19世紀アメリカ文学の時代背景や現代のグローバル社会に通じるアメリカ社会・文化の源流について理解を深める。(3) 代表的な作品の抜粋を読むことで英語の読解力を向上させる。(4) 英語でのディスカッションを通して英語の表現力を高める。(5) 作家たちの経歴を知ること、海外における社会や職業のあり方について理解を深める。

授業計画

- 第1回 植民地時代からアメリカの独立 クーパーとブラウン
 第2回 資本主義の進展とロマンティズムの広がり
 第3回 アメリカン・ルネサンスの全体像
 第4回 エッセイと詩(エマソン「アメリカの学者」、ポー「大烏」、ロングフェロー)
 第5回 小説(メルヴィル『タイピー』『ピリー・パッド』、ポー「黒猫」)
 第6回 小説(ストウ夫人『アンクル・トムの小屋』、マライア・カミングズ『点灯夫』、スーザン・ウォーナー『広い、広い世界』)
 第7回 小説(ホーソーン『七破風の家』)
 第8回 社会運動(ソロー『ウォールデン』、エマソン『英国の特質』、ジョン・ブラウン)
 第9回 大衆文化
 第10回 黒人奴隷制度と南北戦争
 第11回 戦後復興とリアリズム文学の関係
 第12回 小説(マーク・トウェイン『イノセント・アブロード』)
 第13回 小説(ヘンリー・ジェームズ『ねじの回転』)
 第14回 小説(ケイト・ショパン『目覚め』)
 第15回 19世紀アメリカ文学の特質
 定期試験

授業外学習(予習・復習)

予習: 授業中に配ったプリントを読み、英文を訳しておく。

復習: ノートに書いたことを整理し、授業中になされた指示に従って調査等を行う。

教科書

早瀬博範『21世紀からみるアメリカ文学史』(英宝社)

参考書

授業中に配布する文学作品からの抜粋のプリント

成績の評価基準

期末試験50%、中間レポート25%、ミニレポート25%の割合で成績評価を行う。

オフィスアワ -

月曜昼休み

アクティブ・ラーニング

グループワーク; ディベート; 学習の振り返り (ミニッツ・ペーパー等);

アクティブ・ラーニング (その他の内容)

アクティブ・ラーニング (授業回数)

15回中5回

備考 (受講要件)

英語力の向上に意欲を持っていること。

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
FHS-DIH2220			
科目名			
西洋史概説			
英語名			
Introduction to Western History			
開講学科		コース	
人文学科 新旧共通		多元地域文化コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
人文・多元地域文化コース / 選択科目	講義	2単位	1～4年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
藤内哲也		099-285-8863	ttonai@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
		前期	
授業概要			
<p>現代世界の諸問題を理解するうえで、西洋世界の歴史を学ぶことはきわめて重要です。本授業ではヨーロッパ文明の源泉としての古代世界から、ヨーロッパの政治的・社会的な枠組みが形成された中世世界、さらには現代の国際関係や経済構造に直結する近世・近代世界におけるおもなトピックについて概観し、その歴史的な経緯や背景を理解します。</p>			
学修目標			
<ul style="list-style-type: none"> ・西洋史に関する概説的な知見を習得します ・現代世界を理解するための知識や視座を獲得します 			
授業計画			
<p>第1回：オリエンテーション 西洋史へのまなざし 第2回：古代ギリシア・ローマ 第3回：キリスト教の成立と発展 第4回：中世国家の形成 第5回：都市と農村 第6回：ローマ・カトリック教会の発展 第7回：災厄の世紀：中世後期の世界 第8回：ルネサンスと宗教改革 第9回：社団国家と絶対王政 第10回：ヨーロッパ諸国の世界進出 第11回：啓蒙の時代 第12回：市民革命の時代 第13回：国民国家の形成と発展 第14回：帝国主義の時代 第15回：現代世界への展望</p>			
授業外学習（予習・復習）			
<p>【予習】参考文献を読み、西洋史に関する基本的な知見を得ておきます。 【復習】授業内容についてまとめたうえで、分からない点や関心のある点については、参考文献を読み、さらに理解を深めます</p>			
教科書			
とくに指定しません			
参考書			
<p>1 服部良久・南川高志・山辺規子編著『大学で学ぶ西洋史〔古代・中世〕』ミネルヴァ書房、2006年 2 小山哲・上垣豊・山田史郎・杉本淑彦編著『大学で学ぶ西洋史〔近現代〕』ミネルヴァ書房、2011年 3 南塚信吾・秋田茂・高澤紀恵責任編集『新しく学ぶ西洋の歴史 アジアから考える』ミネルヴァ書房、2016年</p>			
成績の評価基準			

定期試験（100%）：以下の問題を組み合わせた試験を行います

?語句に関する問題：重要なキーワードを理解していることを問う

?論述問題：時代の大きな流れや特質を理解していることを問う

オフィスアワ -

随時（メールにてアポをとること）

アクティブ・ラーニング

アクティブ・ラーニング（その他の内容）

アクティブ・ラーニング（授業回数）

備考（受講要件）

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
FHS-DGH2212			
科目名			
地誌学概説（旧 地誌学講義）			
英語名			
Introduction to Regional Geography			
開講学科		コース	
人文学科 新旧共通		多元地域文化コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
人文・多元地域文化コース / 選択科目	講義	2単位	1～4年
担当教員		連絡先（TEL）	連絡先（MAIL）
小林善仁		099-285-7557	zenjin@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
		後期	
授業概要			
地誌学は、自然と人文の両面から地域を記述し、その特徴（地域性）を明らかにする学問である。本講義では、居住や生産活動（農業）などを素材として、日本の文化と世界の文化を比較し、その共通点と違いについて解説する。			
学修目標			
1. 世界各地の文化の違いを理解できる。 2. 世界の文化との比較を通じて、日本の文化の特徴を理解することができる。 3. 地域の違いを作り出す要因について、自然と人文の両面から理解することができる。			
授業計画			
第1回 ガイダンス 第2回 地理学のなかの地誌学 第3回 世界と日本の地域区分1 - 世界の地域区分 第4回 世界と日本の地域区分2 - 日本の地域区分 第5回 自然環境と人々の暮らし1 - 環境決定論・環境可能論 第6回 自然環境と人々の暮らし2 - 環境論の展開 第7回 自然環境と人々の暮らし3 - 環境と産業 第8回 日本の地誌1 - 日本の自然環境 第9回 日本の地誌2 - 日本の集落・農業 第10回 日本の地誌3 - 九州地方の地誌（自然環境） 第11回 日本の地誌4 - 九州地方の地誌（集落・農業） 第12回 東アジアの地誌1 - 自然環境 第13回 東アジアの地誌2 - 集落・農業 第14回 アメリカの地誌1 - 自然環境 第15回 アメリカの地誌2 - 集落・農業			
授業外学習（予習・復習）			
配布する資料の内容・図表を熟読し、興味を持った事柄は図書・インターネットなどで調べてみて下さい。			
教科書			
特になし。			
参考書			
講義の中で適宜紹介する。			
成績の評価基準			
期末試験、授業への取り組み態度。			
オフィスアワ -			
講義・会議の時間以外ならいつでも可。			
アクティブ・ラーニング			
アクティブ・ラーニング（その他の内容）			

アクティブ・ラーニング（授業回数）

備考（受講要件）

地図帳を持っているものは、講義に持参すること。

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
FHS-DHH2118			
科目名			
日本語学概説A (旧 国語学概論)			
英語名			
Introduction to Japanese Linguistics A			
開講学科		コース	
人文学科 新旧共通		多元地域文化コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
人文・多元地域文化コース / 選択科目	講義	2単位	1～4年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
内山弘		099-285-8906	pon@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
		後期	
授業概要			
<p>日本語を古代語と近代語に区分する場合、古代語はさらに上代語と中古語に区分される。一般に古典文法とか古典仮名遣などという場合、中古語のそれを指して言うことが多い。所謂文語に限って言えば、中古語がその成立に与えた影響は実に甚だしいものがある。上代語については『万葉集』を除き高等学校の授業では扱われることは少ないが、中古語を生んだ日本語の源流であり、その知識は古典を学ぶ上で欠かせないものである。</p> <p>本講義では、古代語を「上代語以前」「上代語」「中古語」の三つに分け、それぞれ部門ごとに概説していく。</p>			
学修目標			
・古代語を通時的に見ていくことで、国語の授業のために必要な古代語についての総合的・体系的な知識を得ることができる。			
授業計画			
<p>授業計画</p> <p>第1回：はじめに 古代語とは</p> <p>第2回：上代語以前(1) 日本語のあけぼの</p> <p>第3回：上代語以前(2) 魏志倭人伝のことは</p> <p>第4回：上代語(1) 上代語の資料について</p> <p>第5回：上代語(2) 上代語の音韻・表記</p> <p>第6回：上代語(3) 上代語の文法</p> <p>第7回：上代語(4) 上代語の語彙</p> <p>第8回：上代語から中古語へ 移行期のことは</p> <p>第9回：中古語(1) 中古語の資料(訓点資料編)</p> <p>第10回：中古語(2) 中古語の資料(和文資料編)</p> <p>第11回：中古語(3) 中古語の表記</p> <p>第12回：中古語(4) 中古語の音韻(音韻の消滅と発達)</p> <p>第13回：中古語(5) 中古語の音韻(音韻の用法的変化)</p> <p>第14回：中古語(6) 中古語の文法</p> <p>第15回：中古語(7) 中古語の語彙</p> <p>定期試験</p>			
授業外学習(予習・復習)			
<p>予習：配布された講義資料に一通り目を通しておくこと。</p> <p>復習：配布された講義資料と講義ノートを見返して講義内容を自分なりに整理すること。</p>			
教科書			
授業中に適宜プリントを配付する。			
参考書			
特に定めない。			
成績の評価基準			
期末試験(100%)			

オフィスアワ -

火曜 4 限 (内山研究室)。電子メールでの相談は常時受け付ける。

アクティブ・ラーニング

アクティブ・ラーニング (その他の内容)

アクティブ・ラーニング (授業回数)

15回中0回

備考 (受講要件)

免許教科の必修授業科目：国語

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
FHS-DGH2221			
科目名			
文化人類学概説（旧 文化人類学）			
英語名			
Introduction to Cultural Anthropology			
開講学科		コース	
人文学科 新旧共通		多元地域文化コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
人文・多元地域文化コース / 選択科目	講義	2単位	1～4年
担当教員		連絡先（TEL）	連絡先（MAIL）
尾崎孝宏		099-285-8878	ozakit@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
		前期	
授業概要			
文化人類学とは主に、自文化以外の文化、つまり「異文化」を理解するための学問である。この授業では、文化人類学という学問の誕生と現在までに展開されてきた議論を解説する。文化人類学が歩んできた「他者」・「異文化」を「発見」し、理解を試み、また失敗してきた歴史から、文化人類学と異文化についての理解を深めてもらう。			
学修目標			
1、文化人類学の主要なトピックを理解する 2、人間文化の多様性を理解する			
授業計画			
第1回 文化人類学とは何か 第2回 文化人類学の誕生 第3回 フィールドワークの誕生 第4回 ヒトについて 第5回 生業1（採集狩猟） 第6回 生業2（農耕、牧畜） 第7回 民族という概念 第8回 家族と親族 第9回 セクシュアリティとジェンダー 第10回 儀礼と分類 第11回 宗教と呪術 第12回 交換1（クラ交換） 第13回 交換2（交換がもたらす社会的効果） 第14回 グローバル化と異文化 第15回 文化人類学の未来？			
授業外学習（予習・復習）			
授業に関係する人名、地名、民族名、用語等について、前もって調べるように心掛ける。 授業内容の復習をその都度するように心掛ける。			
教科書			
プリントを配布する。			
参考書			
授業時に適宜紹介する。			
成績の評価基準			
毎回の小レポート（50%）、期末レポート（50%）			
オフィスアワー			
金曜日昼休み、研究室 それ以外の時間は事前予約のこと			
アクティブ・ラーニング			
学習の振り返り（ミニッツ・ペーパー等）；			

アクティブ・ラーニング（その他の内容）

アクティブ・ラーニング（授業回数）

15回中14回

備考（受講要件）

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
FHS-DHH2214			
科目名			
日本文学史概説A (旧 日本文学史)			
英語名			
Introduction to Japanese Literary History A			
開講学科		コース	
人文学科 新旧共通		多元地域文化コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
人文・多元地域文化コース / 選択科目	講義	2単位	1~4年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
丹羽 謙治		099-285-8904 (丹羽)	niwa@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
		後期	
授業概要			
<p>本講義では、主要な古典文学作品の諸本相互の関係について概説し、その上で諸本間のテキストの違いが作品理解に及ぼす影響、後世への影響について具体例を示しながら講義する。</p> <p>なお、江戸時代（近世）については大きな流れをつかむことを目的とし、ジャンルの違いに重点をおいて説明をする。</p>			
学修目標			
<ul style="list-style-type: none"> ・日本古典文学の基本的な流れを把握する。 ・主要な古典文学作品におけるテキストの問題について理解する。 			
授業計画			
第1回：導入 古典文学とは 第2回：竹取物語 第3回：伊勢物語 第4回：古今和歌集/三代集 第5回：土佐日記・蜻蛉日記 第6回：源氏物語 第7回：枕草子 第8回：歴史物語 第9回：今昔物語集 説話の世界 第10回：平家物語 第11回：徒然草 第12回：曾我物語 第13回：連歌と俳諧 第14回：江戸時代の文学（前期） 第15回：江戸時代の文学（後期） 期末試験			
授業外学習（予習・復習）			
授業で取り上げた文学作品の全部または一部を読む（予習）。授業で取り上げた文学作品を繰り返し読み、解釈する（復習）。			
教科書			
プリントを配布する。			
参考書			
秋山虔ほか『日本古典読本』（筑摩書房）			
成績の評価基準			
期末試験の成績によって評価する。			
オフィスアワ -			
月曜日3限			
アクティブ・ラーニング			

アクティブ・ラーニング (その他の内容)

アクティブ・ラーニング (授業回数)

備考 (受講要件)

教職 (国語) の必修科目。平成28年度以前入生は「日本文学史」(2単位)に読み替え。

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
科目名			
中国文学概説B (旧 中国文学概説)			
英語名			
Introduction to Chinese Literature B			
開講学科		コース	
人文学科 新旧共通		多元地域文化コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
人文・多元地域文化コース / 選択科目	講義	2単位	1～4年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
高津孝		099-285-7562	gaojin@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
		後期	
授業概要			
この講義においては、学生が中国文学をよりよく理解し、中国文学についての個別的知識を体系化できるよう、中国文学史の全体像とその枠組みについて講義をし、世界文学の中におけるその特殊性と普遍性についての認識を深めることを目標とする。この講義においては、宋代から清代の文学について述べる。			
学修目標			
授業の到達目標及びテーマ (1) 中国文学についての基礎知識を習得する。 (2) 中国の詩歌についての深い理解に達する。 (3) 中国における社会と文学の関係を理解する。			
授業計画			
第1回 オリエンテーション 第2回 北宋の文学：欧陽脩と古文 第3回 北宋の文学：蘇軾 第4回 南宋の文学：陸游 第5回 文学否定論と朱子学 第6回 宋词 第7回 金元の文学：元好問 第8回 金元の文学：元曲 第9回 明代の文学：前後七子 第10回 明代の文学：陽明学と白話小説 第11回 明代の文学：三国演義、西遊記 第12回 明代の文学：水滸伝。金瓶梅 第13回 明清の三詩説 第14回 清代の文学：聊齋志異、紅樓夢 第15回 日本漢詩文 定期試験			
授業外学習 (予習・復習)			
予習：次の授業で扱う分野について、インターネット、図書館等を利用し、予習しておくこと。約1時間。 復習：授業中に学んだ内容について復習し、扱われた作品の意味、内容を十分に理解できるようにしておくこと。約30分			
教科書			
松原朗等著『教養のための中国古典文学史』（研文出版、2009年）			
参考書			
周勳初著『中国古典文学批評史』（高津孝訳、勉誠出版、2007年） 川合康三編訳『中国名詩選』（上・中・下）（岩波文庫、2015年）			
成績の評価基準			
期末試験。			
オフィスアワ -			

金曜日・2限・高津研究室

アクティブ・ラーニング

学習の振り返り (ミニッツ・ペーパー等);

アクティブ・ラーニング (その他の内容)

アクティブ・ラーニング (授業回数)

2回

備考 (受講要件)

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
科目名			
考古学概説A (旧 考古学概説)			
英語名			
Introduction to Archaeology A			
開講学科		コース	
人文学科 新旧共通		多元地域文化コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
人文・多元地域文化コース / 選択科目	講義	2単位	1～4年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
渡辺芳郎		099-285-7539	watanabe@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
		前期	
授業概要			
考古学の基礎的な方法論や思考方法を修得することを目的として、考古学という学問を概観する。考古学資料から情報を読み取る基礎的方法を理解した上で、過去の人間活動や社会、歴史を復元する方法や、関連諸科学の活用方法を身につける。さらに、現代社会における考古学の役割について認識を深める。			
学修目標			
<ul style="list-style-type: none"> ・考古学の基礎的方法論や思考方法を身につける。 ・発掘調査で出土した遺構や遺物の分析・解釈の方法を修得する。 ・考古学と関連諸科学の関係を理解する。 ・現代社会において考古学を学ぶ意義を認識する。 			
授業計画			
第1回 考古学とはなにか			
第2回 考古学の資料			
第3回 考古学の調査方法			
第4回 考古学の歴史(1) ヨーロッパ・アメリカ			
第5回 考古学の歴史(2) 日本			
第6回 考古学の基礎的方法(1) 層位論			
第7回 考古学の基礎的方法(2) 分類			
第8回 考古学の基礎的方法(3) 時間論			
第9回 考古学の基礎的方法(4) 空間論			
第10回 考古学の基礎的方法(5) 機能論			
第11回 考古学の基礎的方法(6) 社会復元			
第12回 考古学と関連諸科学(1) 年代測定			
第13回 考古学と関連諸科学(2) 環境復元			
第14回 考古学と関連諸科学(3) 産地推定			
第15回 現代社会と考古学			
授業外学習(予習・復習)			
授業中に配付した資料を参考に復習することが望ましい。			
教科書			
なし。授業中に資料を適宜配付。			
参考書			
授業中に適宜紹介する。			
成績の評価基準			
期末筆記試験。			
オフィスアワ -			
研究室在室中はいつでも可。			
アクティブ・ラーニング			
アクティブ・ラーニング(その他の内容)			

アクティブ・ラーニング (授業回数)

備考 (受講要件)

最新の研究成果や発掘調査情報を随時取り入れるため、当初の講義内容を変更する場合がある。

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
科目名			
中国文学概説A (旧 中国文学概説)			
英語名			
Introduction to Chinese Literature A			
開講学科		コース	
人文学科 新旧共通		多元地域文化コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
人文・多元地域文化コース / 選択科目	講義	2単位	1～4年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
高津孝		099-285-7562	gaojin@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
		前期	
授業概要			
この講義においては、学生が中国文学をよりよく理解し、中国文学についての個別的知識を体系化できるよう、中国文学史の全体像とその枠組みについて講義をし、世界文学の中におけるその特殊性と普遍性についての認識を深めることを目標とする。この講義においては、先秦から唐代の文学について述べる。			
学修目標			
(1) 中国文学についての基礎知識を習得する。 (2) 中国の詩歌についての深い理解に達する。 (3) 中国における社会と文学の関係を理解する。			
授業計画			
第1回 オリエンテーション：漢語と漢字 第2回 先秦の文学：詩経、楚辞 第3回 漢代の文学：史記 第4回 魏晋の文学：曹操、曹植 第5回 魏晋の文学：陶淵明 第6回 南北朝の文学：謝靈運 第7回 六朝志怪 第8回 六朝の文学批評 第9回 唐代の文学：王維 第10回 唐代の文学：李白 第11回 唐代の文学：杜甫 第12回 唐代の文学：韓愈、柳宗元 第13回 唐代の文学：白居易 第14回 唐代伝奇 第15回 日本への影響			
授業外学習 (予習・復習)			
予習：次の授業で扱う分野について、インターネット、図書館等を利用し、予習しておくこと。約1時間。 復習：授業中に学んだ内容について復習し、扱われた作品の意味、内容を十分に理解できるようにしておくこと。約30分			
教科書			
松原朗等著『教養のための中国古典文学史』(研文出版、2009年)			
参考書			
周勳初著『中国古典文学批評史』(高津孝訳、勉誠出版、2007年) 川合康三編訳『中国名詩選』(上・中・下)(岩波文庫、2015年)			
成績の評価基準			
期末試験。			
オフィスアワ -			
金曜日・2限目・高津研究室			
アクティブ・ラーニング			

学習の振り返り (ミニッツ・ペーパー等) ;

アクティブ・ラーニング (その他の内容)

アクティブ・ラーニング (授業回数)

備考 (受講要件)

特になし

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード

科目名

イギリス文学概説A (旧 イギリス文学)

英語名

Introduction to English Literature A

開講学科

コース

人文学科 新旧共通

多元地域文化コース

授業科目区分

授業形態

単位数

開講期

人文・多元地域文化コース
/ 選択科目

講義

2単位

1~4年

担当教員

連絡先 (TEL)

連絡先 (MAIL)

大和高行

amato@leh.kagoshima-u.ac.jp

共同担当教員

前後期

前期

授業概要

イギリス文学を研究するに際し必要とされる英文学史・研究方法についての知識ならびに論理的な文章を書く能力の涵養を図ります。

学修目標

- 1、イギリス文学史・研究方法の特徴を述べることができる
- 2、論理的な文章により、イギリス文学作品を批評することができる

授業計画

第1回 オリエンテーション (授業の目的、授業の進め方、評価基準等についての説明)

第2回 チョーサー

第3回 マロリー

第4回 スペンサー

第5回 マーロー

第6回 シェイクスピア

第7回 ダン

第8回 ミルトン

第9回 ドライデン

第10回 バニヤン

第11回 コングリーブ

第12回 ポープ

第13回 デフォー

第14回 スィフト

第15回 まとめと総合的評価。レポートを課し、最後にまとめの授業を行う。

授業中に小テストを課す場合がある。

授業外学習 (予習・復習)

教科書、授業中に配布されるプリント、参考文献などに予め目を通し、予習しておくこと

授業外学習 (予習・復習)

教科書、授業中に配布されるプリント、参考文献などに予め目を通し、予習しておくこと。また、毎回の講義を受けた後に、復習しておくこと。(学習に係る標準時間は約1時間)

教科書

中村邦生・大神田 丈二・木下 卓(編著)『たのしく読めるイギリス文学 - 作品ガイド150 (シリーズ・文学ガイド)』ミネルヴァ書房、1994年。

参考書

那須省一『イギリス文学紀 - デイクンズ、オーウェルからブロンテ姉妹まで - 名作ゆかりの地をさぐる2』、書肆侃侃房、2013年。

那須省一『アメリカ文学紀行 マーク・トウェイン、ヘミングウェイからサリンジャーまで - 名作ゆかりの地をさぐる』、書肆侃侃房、2012年。

その他、必要に応じて適宜、指定する。

成績の評価基準

授業中の討論等への積極的な参加態度等(30%)、授業内での小論文または小テスト(30%)、レポート(40%)とし、総合的に評価します。

オフィスアワ -

曜日・時間：毎週水曜日9:15～10:15、場所：大和研究室

アクティブ・ラーニング

学習の振り返り（ミニッツ・ペーパー等）；

アクティブ・ラーニング（その他の内容）

アクティブ・ラーニング（授業回数）

15回中14回

備考（受講要件）

教職（英語）の必修授業科目。私語厳禁。質問大歓迎。課題は提出期限を厳守すること。

実務経験のある教員による実践的授業

該当せず。

ナンバリングコード			
科目名			
英語学概説A (旧 英語学)			
英語名			
Introduction to English Linguistics A			
開講学科		コース	
人文学科 新旧共通		多元地域文化コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
人文・多元地域文化コース / 選択科目	講義	2単位	1～4年
担当教員		連絡先 (TEL)	
末松信子		099-285-7572	
共同担当教員		連絡先 (MAIL)	
		suematsu@leh.kagoshima-u.ac.jp	
		前後期	
		前期	
授業概要			
本講義では、「世界の英語」ができるまでの道筋を、英語にどのような歴史があったのか、英語の通用する地域はいつ頃どのようにして拡大していったのか、広まった先々でどのように発達したか、といった点から見ていく。			
学修目標			
英語が古英語から現代英語まで変化してきた流れを述べることができる。英語が世界に広まる過程および世界各地の英語の特徴を理解することができる。			
授業計画			
第1回：イングランドにおける英語盛衰史：黎明期 450年から1066年			
第2回：イングランドにおける英語盛衰史：試練の時代 1066年から1350年			
第3回：イングランドにおける英語盛衰史：復権の時代 1350年から1500年			
第4回：イングランドにおける英語盛衰史：試行錯誤の時代 1500年から1750年			
第5回：英語史のまとめ			
第6回：イギリス諸島における英語の広がり：イングランドの標準語と方言			
第7回：イギリス諸島における英語の広がり：スコットランド、アイルランド、ウェールズ英語			
第8回：英語の世界進出：アメリカ英語の歴史			
第9回：英語の世界進出：アメリカ英語の特徴			
第10回：英語の世界進出：カナダ英語			
第11回：南半球に伝わった英語：オーストラリア英語、ニュージーランド英語			
第12回：南半球に伝わった英語：南アフリカ英語			
第13回：英語から新たな言語へ：カリブ海地域およびアフリカの英語			
第14回：アジアに伝わった英語：南アジアの英語、東南アジアの英語			
第15回：総括			
授業外学習 (予習・復習)			
予習： 指定された箇所をあらかじめ読んで予習しておくこと。(学習に係る標準時間は約1時間)			
復習： 授業内容を基に各自参考文献を調べるなどして復習し、理解を深めておくこと。(学習に係る標準時間は約1時間)			
教科書			
唐澤一友『世界の英語ができるまで』亜紀書房、2016年			
参考書			
必要に応じて適宜、指示する。			
成績の評価基準			
英語史の流れ、英語拡散の過程および各地の英語の特徴を理解しているかについて、毎回のコメントシート(15%)および定期試験(85%)で評価する。			
オフィスアワー			
水曜日： 9:30～12:00			
アクティブ・ラーニング			
学習の振り返り(ミニッツ・ペーパー等)；			

アクティブ・ラーニング(その他の内容)

アクティブ・ラーニング(授業回数)

備考(受講要件)

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード

FHS-DHH2233

科目名

アジア歴史・文化演習C 1 (旧 アジア史演習2)

英語名

Asian History & Culture C1

開講学科

コース

人文学科 新旧共通

多元地域文化コース

授業科目区分

授業形態

単位数

開講期

人文・多元地域文化コース
/ 選択科目

演習

2単位

2~3年

担当教員

連絡先 (TEL)

連絡先 (MAIL)

大田由紀夫、福永善隆

大田 (099-285-7560)、福永 (099-285-7561)

大田 (ota@leh.kagoshima-u.ac.jp)、福永 (fukunaga@leh.kagoshima-u.ac.jp)

共同担当教員

前後期

前期

授業概要

テーマ：アジア史研究入門

本授業では、アジア史研究とはいかなる分野であり、現在そこでどんな研究が行われているのかを、初歩的な研究文献の読解・映像資料の鑑賞などを通して学ぶ。

学修目標

アジア史研究という分野に対する理解を深めていくと共に、とくに日本・中国を含めた東アジアの歴史に関する基礎的知識を獲得する。

授業計画

第1回	ガイダンス (福永・大田)
第2回	近世編(1) 韓国から東アジア諸社会を考える (大田)
第3回	近世編(2) なぜ世界史を学ぶのか (大田)
第4回	近世編(3) 古代：古代の文明・帝国と地域世界の形成 (大田)
第5回	近世編(4) 中世：地域世界の再編 (大田)
第6回	近世編(5) 近世(1)：海陸の交流 (大田)
第7回	近世編(6) 近世(2)：近世世界の始まり (大田)
第8回	近世編(7) 近世(3)：大航海時代 (大田)
第9回	古代中世編(1) 古代中世編ガイダンス (福永)
第10回	古代中世編(2) 中国文明と漢字 (福永)
第11回	古代中世編(3) 文字と古代国家 (福永)
第12回	古代中世編(4) 国家と行政と文字 (福永)
第13回	古代中世編(5) 漢字と書写 (福永)
第14回	古代中世編(6) 漢字と印刷 (福永)
第15回	古代中世編(7) 漢字と東アジア文化圏 (福永)

授業外学習 (予習・復習)

演習で学習する文献について事前に予習しておくことが望ましい。また、配布資料をもとに学習した部分について復習することが望ましい。

教科書

大阪大学歴史研究会編『市民のための世界史』(大阪大学出版会、2014)、阿辻哲次『漢字の社会史』(大修館書店、2002年)。

参考書

授業において適宜指示する。

成績の評価基準

演習における学習態度(20%)、発表内容(30%)、質疑応答(30%)、授業内容理解(20%)などから総合評価する。

オフィスアワー

授業・会議等以外であればいつでも可。

アクティブ・ラーニング

ディベート; プレゼンテーション;

アクティブ・ラーニング (その他の内容)

アクティブ・ラーニング (授業回数)

15回中13回

備考 (受講要件)

特になし。

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
FHS-DIH3103			
科目名			
英語コミュニケーションA			
英語名			
English Communication A			
開講学科		コース	
人文学科 新旧共通		多元地域文化コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
人文・多元地域文化コース / 選択科目	演習	2単位	2~3年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
スティーブ・コダ		285-7573	coke@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
		前期	
授業概要			
The primary goal of this class is discussion about sensitive social topics. You will improve your speaking skills.			
学修目標			
You will be given vocabulary and reading exercises about the topic overseas as homework to prepare you for the following week's discussion. Each class, you will discuss in small groups as well as work on different activities connected to the theme. Each week will look at a different topic. You will also be expected to continue your discussion practice outside of the classroom as well as look for data from Japan connected with the next topic.			
授業計画			
Week 1 Introduction			
Week 2 Cosmetic surgery			
Week 3 Cheating on your partner			
Week 4 Prostitution			
Week 5 Sexual harrassment			
Week 6 Animal rights			
Week 7 Get married or stay single			
Week 8 Immigration and racism			
Week 9 Abortion			
Week 10 Changing sex			
Week 11 Gays and jobs			
Week 12 Vanity			
Week 13 Euthansia			
Week 14 Drugs			
Week 15 Death penalty			
Week 16 Test			
授業外学習 (予習・復習)			
You will be expected to gather information to use in your discussions			
教科書			
Handouts will be given			
参考書			
Bring your dictionaries.			
成績の評価基準			
Classwork/Homework 50% (授業中の活動・課題 50%)			
Final test 50% (期末試験50%)			
オフィスアワ -			
Anytime is ok, but mail me to make sure I'm in!			

アクティブ・ラーニング

グループワーク; ディベート;

アクティブ・ラーニング (その他の内容)

アクティブ・ラーニング (授業回数)

15回中 15回

備考 (受講要件)

実務経験のある教員による実践的授業

文化人類学実習 1 (旧 フィールド学実習 (文化人類学))
ナンバリングコード

FHS-DGH2242

科目名

文化人類学実習 1 (旧 フィールド学実習 (文化人類学))

英語名

Cultural Anthropology Fieldwork 1

開講学科

コース

人文学科 新旧共通

多元地域文化コース

授業科目区分

授業形態

単位数

開講期

人文・多元地域文化コース
/ 選択科目

実習

2単位

2~3年

担当教員

連絡先 (TEL)

連絡先 (MAIL)

尾崎孝宏・兼城系絵

099-285-8902

itokane@leh.kagoshima-u.ac.jp

共同担当教員

前後期

前期

授業概要

韓国において実施するフィールドワークの準備作業および実習を行う。
本授業は前期授業期間に毎週行う準備作業と、8月下旬に行う実習の2部より構成される。
準備作業には、およそ以下のような項目が含まれる

- ・韓国に関する一般的な情報及び歴史に関する情報収集
- ・渡航に関する準備 (旅券、チケットの確保)
- ・現地での最低限のコミュニケーション手段の獲得
- ・具体的な調査地の選定
- ・現地での調査手段および項目に関する検討
- ・共同調査者 (全北大学校人文学部の学生) との事前連絡
- ・調査用具等の準備

実習では、全北大学校人文学部の学生と共同で全州市内で社会調査を行い、最終日に調査報告会を行う。

学修目標

韓国での現地調査に必要な渡航準備ができる。
現地調査を実施する地域の各種状況が把握できる。
現地調査の実施計画を立てられる。
社会調査に必要な一連のスキルを体得する。
異文化における社会調査を実施する。
異文化について包括的に理解する。

授業計画

夏季休暇期間中に、韓国全羅北全州市で4日間程度の現地調査を行なう。
調査時期および現地滞在日程の詳細については第1回目のガイダンスで説明する。
なお、本授業で行うのは第15回までの事前準備であり、第16回以降は夏季集中講義として別途開講するので注意すること。

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 調査グループ作成
- 第3回 渡航に関する準備作業
- 第4回 調査地域の一般情報の把握
- 第5回 調査地域の歴史に関して
- 第6回 現地調査に関する意義の確認
- 第7回 コミュニケーション手段について
- 第8回 共同調査者との事前連絡
- 第9回 実施計画案Aの発表
- 第10回 調査計画に関する実施可能性の検討
- 第11回 調査計画の修正作業 (1)
- 第12回 調査計画案Bの発表
- 第13回 調査計画の修正作業 (2)
- 第14回 最終計画案の確定と実施日時の調整

第15回 調査用具等の最終チェック

第16回～第19回：調査第1日目

第20回～第23回：調査第2日目

第24回～第27回：調査第3日目

第28回～第30回：調査第4日目 (調査報告会)

授業外学習 (予習・復習)

事前調査期間中の予習として、以下に挙げた教科書・参考書に目を通し、理解しておく必要がある。

事前調査期間中の復習として、各界の授業で示された課題を実践してみる必要がある。

調査中は、調査テーマや調査地について必要に応じ、予習・復習をすること。

教科書

佐藤郁哉 2002 『フィールドワークの技法』新曜社。

参考書

石坂 浩一ほか 2014 『現代韓国を知るための60章』明石書店

など、適宜授業中に紹介する。

成績の評価基準

授業への取り組み態度 (40%)、調査の質 (40%)、グループ作業への貢献 (20%) による。

オフィスアワ -

各教員に確認すること

アクティブ・ラーニング

グループワーク; フィールドワーク; プレゼンテーション;

アクティブ・ラーニング (その他の内容)

アクティブ・ラーニング (授業回数)

30回中25回

備考 (受講要件)

夏季集中講義「文化人類学実習」も受講可能であることを受講要件とする。

実習に要する費用は自己負担とする。

希望者多数の場合、引率等の関係から履修制限を行なう (上限20名)。その際、2年生を優先する。

実務経験のある教員による実践的授業

該当しない

ナンバリングコード			
科目名			
アジア言語研究B(旧 中国語学)			
英語名			
Asian Linguistics B			
開講学科		コース	
人文学科 新旧共通		多元地域文化コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
人文・多元地域文化コース / 選択科目	講義	2単位	2~4年
担当教員		連絡先(TEL)	連絡先(MAIL)
三木夏華			
共同担当教員		前後期	
		後期	
授業概要			
中国語の文法について項目ごとに日本語との比較、対照を行い、言語間の異同を考察することにより、中国語の文法の全体像を明らかにする。			
学修目標			
(1)中国語の文法について理解を深める。 (2)中国語と日本語の対照研究方法の基礎を身につける。			
授業計画			
第1回 ガイダンス			
第2回 中国語の文法単位1(形態素・語・フレーズ等)			
第3回 中国語の文法単位2(練習問題)			
第4回 中国語の語の構造			
第5回 中国語の実詞と虚詞			
第6回 中国語の実詞と虚詞(練習問題)、体詞と述詞			
第7回 中国語の体詞(名詞)/学生による発表			
第8回 中国語の体詞(名詞)と日本語との比較			
第9回 中国語の体詞(場所詞・方位詞)/学生による発表			
第10回 中国語の体詞(場所詞・方位詞)と日本語の比較			
第11回 中国語の体詞(数詞)/学生による発表			
第12回 中国語の体詞(数詞)と日本語の比較			
第13回 中国語の体詞(量詞)/学生による発表			
第14回 中国語の体詞(量詞)と日本語の比較			
第15回 中国語の体詞(時間詞)/学生による発表			
第16回 中国語の体詞(時間詞)と日本語の比較			
授業外学習(予習・復習)			
【復習】授業で扱った中国語の文法項目について、文法書、辞書などを参照に復習すること。 【予習】発表のための準備を予習として行い、授業に臨むこと。 (学習に係る標準時間は1時間)			
教科書			
随時プリントを配布する。			
参考書			
随時プリントを配布する。			
成績の評価基準			
授業への取り組み態度(講義における発表と質疑応答)100%			
オフィスアワ -			
木曜日2限			

アクティブ・ラーニング

プレゼンテーション; 学習の振り返り(ミニッツ・ペーパー等);

アクティブ・ラーニング(その他の内容)

アクティブ・ラーニング(授業回数)

15回中7回

備考(受講要件)

平成28年度以前入学生は「中国語学」に読み替え。

実務経験のある教員による実践的授業

西洋歴史・文化演習 B 1 (旧 西洋の歴史と社会演習B1)
ナンバリングコード

科目名

西洋歴史・文化演習 B 1 (旧 西洋の歴史と社会演習B1)

英語名

Western History & Culture B1

開講学科

コース

人文学科 新旧共通

多元地域文化コース

授業科目区分

授業形態

単位数

開講期

人文・多元地域文化コース
/ 選択科目

演習

2単位

2~4年

担当教員

連絡先 (TEL)

連絡先 (MAIL)

藤内哲也

099-285-8863

ttonai@leh.kagoshima-u.ac.jp

共同担当教員

前後期

後期

授業概要

中世から近世にかけてのヨーロッパ史に関する史料や文献を読んで、歴史研究における問題の立て方や論の進め方などを理解するとともに、西洋史研究の面白さと難しさを味わうことを主眼とします。おもに英語の論文をテキストとして、その読解を進める一方、関連するテーマや個々の関心に沿った自由報告と討論を随時行います。テキストの講読については毎回予習し、報告については決められた時まで準備を進めるなど、積極的な姿勢で授業に取り組むことを望みます。

学修目標

1. ヨーロッパの歴史研究の視点や問題意識を身につけることができる
2. ヨーロッパの歴史研究に必要な英語 (外国語) 文献の読解力を向上させることができる
3. レジユメの作成や、報告、討論などのスキルを向上させることができる

授業計画

- 第1回 オリエンテーション・テキスト決定
 第2回 テキスト配布・英語論文の読み方・文献検索の方法
 第3回 英語論文を読む(1): 1 2頁
 第4回 英語論文を読む(2): 3 4頁
 第5回 英語論文を読む(3): 5 6頁
 第6回 英語論文を読む(4): 7 8頁
 第7回 自由発表(1)
 第8回 英語論文を読む(5): 9 10頁
 第9回 英語論文を読む(6): 11 12頁
 第10回 英語論文を読む(7): 13 14頁
 第11回 英語論文を読む(8): 15 16頁
 第12回 自由発表(2)
 第13回 英語論文を読む(9): 17 18頁
 第14回 英語論文を読む(10): まとめ
 第15回 自由発表(3)

授業外学習 (予習・復習)

【予習】テキストを読み、疑問点などをまとめます。英語訳史料の場合には、テキストを読み、分からない単語や文法、用語などについて調べ、日本語訳を考えます。自由報告においては、資料を読み、レジユメを作成します。

【復習】テキストや討論の内容についてまとめます。また、参考文献を読んで、さらに理解を深めます。

教科書

指定しません (プリントを配布します)

参考書

服部良久・南川高志・小山哲・金沢周作編『人文学への接近法 西洋史を学ぶ』京都大学学術出版会、2010年
 井上浩一『私もできる西洋史研究』和泉書院、2012年
 このほかの文献については、授業中に適宜紹介します

成績の評価基準

- ・授業への取り組み (50%) : テキストの予習・発表、討論への積極的な参加
- ・レポート (50%) : 日本語テキストと英語訳史料のまとめ

オフィスアワ -

随時 (事前にメールでアポを取る)

アクティブ・ラーニング

ディベート; プレゼンテーション; その他;

アクティブ・ラーニング (その他の内容)

英文解釈の発表

アクティブ・ラーニング (授業回数)

15回中13回

備考 (受講要件)

実務経験のある教員による実践的授業

ドイツ言語・文化演習 1 a (旧 ヨーロッパ言語コミュニケーション)
ナンバリングコード

科目名

ドイツ言語・文化演習 1 a (旧 ヨーロッパ言語コミュニケーション)

英語名

German Language & Culture 1a

開講学科

コース

人文学科 新旧共通

多元地域文化コース

授業科目区分

授業形態

単位数

開講期

人文・多元地域文化コース
/ 選択科目

演習

2単位

2~4年

担当教員

連絡先 (TEL)

連絡先 (MAIL)

與倉アンドレーア

099-285-7578

yokura@leh.kagoshima-u.ac.jp

共同担当教員

前後期

後期

授業概要

1. テーマ：演習中心のドイツ語中級会話
2. 簡単なドイツ語を聞くと同時に話す能力を修得することを、第一の目標とする。そのために、ドイツ語の発音と文法の基本的知識を教授する。
3. これと平行して、受講者にはドイツ語圏における国々の現在の生活に関する展望を紹介する。

学修目標

1. ドイツ語を聞く中級程度の能力を修得できる。
2. ドイツ語でコミュニケーションする能力を修得できる。
3. ドイツ語による原典からの教材を読む能力を修得できる。
4. ドイツ語圏における国々の現在の生活を展望し、ドイツ文化に関する情報を入手できる。

授業計画

- 1 回：オリエンテーション
- 2 回：「贈り物と招待」いつ誰に何を贈るかを話す、など
- 3 回：「贈り物と招待」ドイツ語圏のお誕生日、など
- 4 回：「贈り物と招待」人称代名詞 3・4 格、不定冠詞 4 格、など
- 5 回：「履歴と学校制度」教育制度について話す、など
- 6 回：「履歴と学校制度」中学・高校時代のことを話す、など
- 7 回：「履歴と学校制度」話法の助動詞、完了形、副文、など
- 8 回：「ゴミと環境」ゴミ処理の仕方を尋ねる・教える、など
- 9 回：「ゴミと環境」ドイツ語圏の学校の環境プロジェクト、など
- 10 回：「ゴミと環境」話法の助動詞 sollen、命令形、など
- 11 回：「祝祭と祝日」イースター、クリスマスについて話す、など
- 12 回：「祝祭と祝日」年末、カーニバルについて話す、など
- 13 回：「祝祭と祝日」再帰動詞、副文、など
- 14 回：クリスマスクッキー、zu 不定詞、など
- 15 回：新年の幸福とシンボル、及び期末試験のための復習など、
- 16 回：期末試験

授業外学習 (予習・復習)

予習・復習については第一回の授業で指示する。また、適宜指示する。

教科書

適宜プリントを配布する。

参考書

必要に応じて適宜紹介する。

成績の評価基準

中間試験 (聴力テスト)、小テスト、5 ~ 10 分程度の発表 (1 回)、定期的な日記、および期末試験に基づき、総合的に評価する。

オフィスアワ -

月曜日3限目 (12:50 ~ 14:20)

アクティブ・ラーニング

グループワーク; ディベート; プレゼンテーション;

アクティブ・ラーニング (その他の内容)

アクティブ・ラーニング (授業回数)

15回中15回

備考 (受講要件)

?通教育科目「第2外国語コア」としてドイツ語の単位を取得していること。

?ドイツ語圏の諸国またはドイツ語に大きな関心を持っていることが望ましい。

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード

科目名

イギリス文学演習 1 (旧 イギリス文学演習)

英語名

English Literature 1

開講学科

コース

人文学科 新旧共通

多元地域文化コース

授業科目区分

授業形態

単位数

開講期

人文・多元地域文化コース
/ 選択科目

演習

2単位

2~4年

担当教員

連絡先 (TEL)

連絡先 (MAIL)

大和高行

099-285-7570

yamato@leh.kagoshima-u.ac.jp

共同担当教員

前後期

後期

授業概要

ロアルド・ダールの真骨頂は、なんといってもストーリーの奇抜さにあり、それは終盤に用意された意外な結末に向けて精巧に組み立てられており、まさに、'Unexpected Stories' と呼ぶのにふさわしい。本授業では、そのようなダールの文学世界を味読する。

学修目標

- 1 ロアルド・ダールのストーリーの奇抜さを味わうことができる。
- 2 'Unexpected Stories' の小気味よさを味読することができる。

授業計画

- 第1回 オリエンテーション (授業の目的、授業の進め方、評価基準等についての説明)
- 第2回 'Lamb to the Slaughter' の精読 1 (pp. 1-4)
- 第3回 'Lamb to the Slaughter' の精読 2 (pp. 5-8)
- 第4回 'Lamb to the Slaughter' の精読 3 (pp. 9-12)
- 第5回 'Lamb to the Slaughter' の精読 4 (pp. 13-16)
- 第6回 'Lamb to the Slaughter' の小テスト&ディスカッション
- 第7回 'Lamb to the Slaughter' のプレゼン
- 第8回 'Dip in the Pool' の精読 1 (pp. 17-20)
- 第9回 'Dip in the Pool' の精読 2 (pp. 22-25)
- 第10回 'Dip in the Pool' の精読 3 (pp. 26-29)
- 第11回 'Dip in the Pool' の精読 4 (pp. 30-33)
- 第12回 'Dip in the Pool' の精読 5 (p.34) と小テスト
- 第13回 'Dip in the Pool' ディスカッション
- 第14回 'Dip in the Pool' のプレゼン
- 第15回 'William and Mary' に関するレポートの提出

授業外学習 (予習・復習)

教科書、参考文献などに予め目を通し、予習しておくこと。また、毎回の講義を受けた後に、復習しておくこと。(学習に係る標準時間は約1時間)

教科書

田島松二(編注)『ダール珠玉短編集 改訂増補版』南雲堂、2012年

参考書

適宜紹介する・

成績の評価基準

授業中の討論等への積極的な参加態度等(30%)、小テストとプレゼン(40%)、期末レポート(30%)とし、総合的に評価します。

オフィスアワー

曜日・時間：毎週水曜日9:15~10:15、場所：大和研究室

アクティブ・ラーニング

プレゼンテーション; 学習の振り返り(ミニッツ・ペーパー等);

アクティブ・ラーニング(その他の内容)

アクティブ・ラーニング (授業回数)

15回中14回

備考 (受講要件)

私語厳禁。質問大歓迎。課題は提出期限を厳守すること。

実務経験のある教員による実践的授業

該当せず。

西洋歴史・文化演習 A 1 (旧 西洋の歴史と社会演習A1)
ナンバリングコード

科目名

西洋歴史・文化演習 A 1 (旧 西洋の歴史と社会演習A1)

英語名

Western History & Culture A1

開講学科

コース

人文学科 新旧共通

多元地域文化コース

授業科目区分

授業形態

単位数

開講期

人文・多元地域文化コース
/ 選択科目

演習

2単位

2~4年

担当教員

連絡先 (TEL)

連絡先 (MAIL)

細川道久

hos leh.kagoshima-u.ac.jp は
アットマーク

共同担当教員

前後期

後期

授業概要

【従来の授業とは、1)が異なるので、注意してください。】本授業では、1) 学術論文の個人発表、2) カナダ及びイギリス帝国の歴史に関する英語文献の講読、の2つを行ないます。1)では、各自が学術論文(近現代(19世紀以降)の西洋史、あるいは地域研究に関する学術論文(日本語論文))を選び、その内容についてレジュメを作成して報告し、それに基づき討論を行ないます。2)では、英語文献につき、担当箇所の訳文と要約の作成に加えて、関連事項について調べた内容も含めたレジュメも作成し報告します。(「成績評価基準」にも記していますが、「翻訳ソフトを使用したことが発覚した場合は成績評価を「不可」とします。)1)と2)を並行して実施します。

学修目標

1. 学術論文の読解・レジュメ作成、報告、討論の能力を養う。
2. カナダ及びイギリス帝国の歴史に関する理解を深めると同時に、英語文献の読解力を養う。
3. 歴史研究・地域研究のテーマで卒業論文を書くために必要な素養を磨く。

授業計画

- 第1回 授業全般についてのガイダンス
第2回 西洋史研究資料検索などについてのガイダンス
第3回 学術論文報告・英語文献講読(適宜、課題に関する報告)、討論(1)
第4回 学術論文報告・英語文献講読(適宜、課題に関する報告)、討論(2)
第5回 学術論文報告・英語文献講読(適宜、課題に関する報告)、討論(3)
第6回 学術論文報告・英語文献講読(適宜、課題に関する報告)、討論(4)
第7回 学術論文報告・英語文献講読(適宜、課題に関する報告)、討論(5)
第8回 学術論文報告・英語文献講読(適宜、課題に関する報告)、討論(6)
第9回 学術論文報告・英語文献講読(適宜、課題に関する報告)、討論(7)
第10回 学術論文報告・英語文献講読(適宜、課題に関する報告)、討論(8)
第11回 学術論文報告・英語文献講読(適宜、課題に関する報告)、討論(9)
第12回 学術論文報告・英語文献講読(適宜、課題に関する報告)、討論(10)
第13回 学術論文報告・英語文献講読(適宜、課題に関する報告)、討論(11)
第14回 学術論文報告・英語文献講読(適宜、課題に関する報告)、討論(12)
第15回 総括

授業外学習(予習・復習)

1) 学術論文の報告に備えて、十分な準備をすること。2) 英語文献講読では、訳文・要約文・関連事項調査を十分に行なう準備をしておくこと。また、授業内容について、配布資料や参考文献などで復習しておくことが望ましい。

教科書

英語文献については、プリントを準備します。

参考書

細川道久編著『カナダ史を知るための50章』明石書店、2017年、ヴァレリー・ノールズ(細川道久訳)『カナダ移民史 多民族社会の形成』明石書店、2014年。『はじめて出会うカナダ』有斐閣、2009年。木畑洋一編著

西洋歴史・文化演習 A 1 (旧 西洋の歴史と社会演習A1)

『大英帝国と帝国意識』ミネルヴァ書房、1998年、川北稔・木畑洋一編『イギリスの歴史 帝国=コモンウェルスへの歩み』有斐閣、2000年、秋田茂『イギリス帝国の歴史 アジアから考える』中公新書、2012年。その他は、授業時に適宜紹介します。

成績の評価基準

授業への取り組み態度(課題の準備、討論への参加度)。1)2)の2つとも担当しなければなりません。なお、英語文献の訳文作成にあたって翻訳ソフトを使用したことが発覚した場合は「不可」とします。

オフィスアワー

金曜10時～11時

アクティブ・ラーニング

ディベート; プレゼンテーション;

アクティブ・ラーニング(その他の内容)

アクティブ・ラーニング(授業回数)

備考(受講要件)

平成28年度以前の入学生については「西洋の歴史と社会演習A1」に読み替える。

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
科目名			
考古学演習 1 b (旧 考古学演習)			
英語名			
Archaeology 1b			
開講学科		コース	
人文学科 新旧共通		多元地域文化コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
人文・多元地域文化コース / 選択科目	演習	2単位	2～4年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
石田智子		099-285-7549	ishida@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
		後期	
授業概要			
考古学研究にかかわる基礎作業を実践することで、考古資料の取り扱い方や分析方法、表現方法を身につけることを目的とする。発表担当者はレジュメや図面・映像資料を作成して発表する。発表内容や発表方法に対して全員で議論し、理解を深める。2019年度は、鹿児島大学内および周辺地域の遺跡について調べる予定である。			
学修目標			
1) 考古学の基礎知識・方法論の使い方を実践的に学ぶことで、卒業論文に取り組む準備をすすめる。 2) 文章表現だけでなく、図面資料(地図、実測図、グラフなど)や映像資料(パワーポイントなど)を活用して成果をまとめることで、情報やデータを可視化するスキルを学び、自分の考えを効果的に表現する技能を修得する。 3) 鹿児島大学を中心とする自分の身近な歴史を説明できるようになる。			
授業計画			
第1回 ガイダンス 第2回 考古学に関する方法論の説明 第3回 考古学に関する基礎作業の実践(1) 第4回 考古学に関する基礎作業の実践(2) 第5回 考古学に関する基礎作業の実践(3) 第6回 考古学に関する基礎作業の実践(4) 第7回 考古学に関する基礎作業の実践(5) 第8回 考古学に関する分析の説明 第9回 考古学に関する分析の実践(1) 第10回 考古学に関する分析の実践(2) 第11回 考古学に関する分析の実践(3) 第12回 考古学に関する分析の実践(4) 第13回 考古学に関する分析の実践(5) 第14回 考古学に関する分析の実践(6) 第15回 まとめ			
授業外学習(予習・復習)			
受講にあたっての事前学習や発表準備が必要。授業の議論を踏まえた復習が望ましい。			
教科書			
特になし。			
参考書			
授業中に適宜紹介する。			
成績の評価基準			
発表内容と、授業にのぞむ姿勢(事前学習、授業中の発言など)を評価の基準とする。 なお、5分の1以上欠席した者は成績評価はしない。			
オフィスアワ -			
研究室在室中はいつでも可。			

アクティブ・ラーニング

グループワーク; プレゼンテーション;

アクティブ・ラーニング (その他の内容)

アクティブ・ラーニング (授業回数)

15回中15回

備考 (受講要件)

これまでに考古学演習や考古学実習を受講したことがなく、本演習の履修を希望する者は、事前に担当教員に相談に来ること。

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード

科目名

アジア歴史・文化演習 A 1 (旧 アジア史演習3)

英語名

Asian History & Culture A1

開講学科

コース

人文学科 新旧共通

多元地域文化コース

授業科目区分

授業形態

単位数

開講期

人文・多元地域文化コース
/ 選択科目

演習

2単位

2~4年

担当教員

連絡先 (TEL)

連絡先 (MAIL)

福永善隆

099 (285) 7561

fukunaga@leh.kagoshima-u.ac.jp

共同担当教員

前後期

後期

授業概要

テーマ：『史記』講読

『史記』は中国歴代王朝で編纂された正史のうち、最初のものである。その形式は以降の歴代正史に継承されている。本演習ではその漢代に関する部分の講読を通じ、司馬遷の歴史観などについて分析を行う予定である。なお、講読箇所については変更する場合もありうる。

学修目標

- 1) 基礎的な漢文読解能力を身につける
- 2) 中国古代に関する基礎知識を身につける
- 3) 史料講読を通して、中国史の基礎的な分析視角を身につける

授業計画

第1回：イントロダクション

第2回：『史記』講読及び史料分析(1) テキスト553頁

第3回：『史記』講読及び史料分析(2) テキスト554-555頁

第4回：『史記』講読及び史料分析(3) テキスト556頁

第5回：『史記』講読及び史料分析(4) テキスト557頁

第6回：『史記』講読及び史料分析(5) テキスト558頁

第7回：『史記』講読及び史料分析(6) テキスト559頁

第8回：『史記』講読及び史料分析(7) テキスト560頁

第9回：『史記』講読及び史料分析(8) テキスト561頁

第10回：『史記』講読及び史料分析(9) テキスト562-563頁

第11回：『史記』講読及び史料分析(10) テキスト565頁

第12回：『史記』講読及び史料分析(11)-テキスト567頁

第13回：『史記』講読及び史料分析(12) テキスト568頁

第14回：『史記』講読及び史料分析(13) テキスト569頁

第15回：総括

授業外学習 (予習・復習)

(予習) 授業中に指示する該当箇所を訓読及び現代日本語訳してこよう。

(復習) 授業中に挙げる参考文献を読むことを推奨する。

教科書

『史記会註考証』(上海古籍出版社、2015年)

参考書

成績の評価基準

授業における質疑応答(70%)、レポート(30%)

オフィスアワー

会議・講義の時間を除く。

アクティブ・ラーニング

その他;

アクティブ・ラーニング(その他の内容)

15回中15回

アクティブ・ラーニング(授業回数)

15回中15回

備考(受講要件)

必ず辞書を持参のこと。

平成22年度入学生版の『法文学部修学の手引』では、「アジア史演習」は「地理歴史」の教職免許取得のための「必修授業科目以外の授業科目」として記載されていませんが、平成23年度より教職科目として再記載されます。

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
科目名			
考古学研究C (旧 考古学地域論)			
英語名			
Archaeology C			
開講学科		コース	
人文学科 新旧共通		多元地域文化コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
人文・多元地域文化コース / 選択科目	講義	2単位	2～4年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
中村直子		099-285-7270	k8315479@kada i . jp
共同担当教員		前後期	
		後期	
授業概要			
南九州の古墳時代・古代の生産遺跡からその生産体制や特徴または変遷について説明し、古墳時代から古代における南九州の社会変化について解説する。			
学修目標			
(1) 南九州の古墳時代から古代の生産遺跡の種類について理解する。 (2) 生産遺跡から、それぞれの生産体制やその特徴について理解する。 (3) 古墳時代から古代の変化について理解する。			
授業計画			
第 1 回：イントロダクション 第 2 回：生産遺跡の種類 第 3 回：水田・畑遺構の種類 第 4 回：古墳時代の水田・畑遺構 第 5 回：古代の水田・畑遺構 第 6 回：家畜に関する遺跡 第 7 回：製塩関係の遺物・遺跡 第 8 回：古墳時代の製鉄遺跡 第 9 回：古代の製鉄遺跡 第10回：古墳時代・古代の焼き物の種類 第11回：土器生産の様相 第12回：須恵器窯跡遺跡 第13回：土師器製作遺跡 第14回：須恵器・土師器生産と管理システム 第15回：まとめ_生産遺跡からみた南九州社会の変化			
授業外学習 (予習・復習)			
講義資料による予習・復習が望ましい。			
教科書			
プリントを配布する			
参考書			
適宜、講義の中で紹介する。			
成績の評価基準			
期末試験 (ノート持込可) (70%)、授業への取り組み態度 (30%)			
オフィスアワ -			

アクティブ・ラーニング

プレゼンテーション; 学習の振り返り (ミニッツ・ペーパー等);

アクティブ・ラーニング (その他の内容)

アクティブ・ラーニング (授業回数)

15回

備考 (受講要件)

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
科目名			
考古学研究A (旧 物質文化研究)			
英語名			
Archaeology A			
開講学科		コース	
人文学科 新旧共通		多元地域文化コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
人文・多元地域文化コース / 選択科目	講義	2単位	2～4年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
渡辺芳郎		099-285-7539	watanabe@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
		後期	
授業概要			
豊臣秀吉の朝鮮出兵 (1592-98年) の際に連れてこられた朝鮮陶工たちによって、江戸時代、九州各地で多様な陶磁器が生産されるようになる。本授業では、これら九州各地の近世陶磁器の出現と展開について、近年蓄積されつつある考古学的資料を中心としながら講義する。			
学修目標			
(1)九州における近世陶磁器の歴史について理解する。 (2)近世陶磁器の考古学的研究について理解する。			
授業計画			
第1回 焼物とは何か 第2回 日本陶磁通史 第3回 焼き物の製作技術 第4回 肥前地方の陶器と磁器 第5回 肥前磁器の海外輸出 第6回 鍋島藩窯 第7回 福岡の陶磁器 第8回 山口・熊本の陶磁器 第9回 鹿児島島の陶磁器 (1) - 豎野系窯場 - 第10回 鹿児島島の陶磁器 (2) - 苗代川系窯場 - 第11回 鹿児島島の陶磁器 (3) - 龍門司・元立院系窯場 - 第12回 近世後期の磁器生産 第13回 沖縄の陶磁器 第14回 近世から近代へ 第15回 まとめ			
授業外学習 (予習・復習)			
授業中に配布したプリントによる復習がのぞましい。			
教科書			
授業において適宜紹介する			
参考書			
授業において適宜紹介する			
成績の評価基準			
平常点・期末試験			
オフィスアワ -			
授業・会議のない日時であればいつでも可 (土日・祝日は除く)			
アクティブ・ラーニング			
学習の振り返り (ミニッツ・ペーパー等);			
アクティブ・ラーニング (その他の内容)			
アクティブ・ラーニング (授業回数)			

備考(受講要件)

平成23年度以前入生は「物質文化研究」に読み替え。

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
科目名			
考古学研究B(旧 考古学講義)			
英語名			
Archaeology B			
開講学科		コース	
人文学科 新旧共通		多元地域文化コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
人文・多元地域文化コース / 選択科目	講義	2単位	2~4年
担当教員		連絡先(TEL)	連絡先(MAIL)
石田智子		099-285-7549	ishida@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
		後期	
授業概要			
<p>日本列島では多種多様な災害が高頻度で発生する/してきた。現代の人びとの体験・記憶にない過去の災害に対して、長期的・通時的視点から災害履歴を把握できる点で考古学は有効である。本講義では、自然災害(火山噴火・地震・水害)と人為災害(戦争)の両方に焦点をあて、現代社会で過去の災害痕跡を活用する方法と今後の課題を考える。特に、過去の災害痕跡の認識方法や被災状況、復興過程を把握する考古学的手法や隣接学問分野との連携状況を理解することを目的とする。</p>			
学修目標			
<p>1) データや情報を基に主体的に考え、状況に応じて適切な行動ができるようになる。 2) 考古資料から地域の歴史を復元する方法を理解する。自分の身の回りの歴史に関心をもつ。 3) 考古学と現代社会の関係を理解する。考古学の調査成果を今後の防災・減災対策に活用する方法を考える。</p>			
授業計画			
<p>第1回 イン트로ダクション：災害と考古学 第2回 災害考古学の基礎的研究方法 第3回 火山灰考古学1：火山噴火と考古学 第4回 火山灰考古学2：破局噴火と南九州の縄文文化 第5回 火山灰考古学3：埋没した古墳時代のムラ 第6回 火山灰考古学4：古代の開聞岳の噴火 第7回 地震考古学1：地震と考古学 第8回 地震考古学2：東日本大震災と文化財レスキュー 第9回 地震考古学3：熊本地震・南海トラフ地震 第10回 水害：洪水・高潮・大津波 第11回 戦跡考古学1：戦争と考古学 第12回 戦跡考古学2：鹿児島戦争関連遺跡 第13回 戦跡考古学3：奄美群島の戦争関連遺跡 第14回 差別と偏見：アイデンティティの喪失 第15回 過去の災害と現代社会</p>			
授業外学習(予習・復習)			
授業中に配布した資料を参考に予習・復習することが望ましい。			
教科書			
なし。授業中に資料を適宜配布する。			
参考書			
特になし。授業中に適宜紹介する。			
成績の評価基準			
期末レポート(50%)と授業にのぞむ姿勢(コメントペーパー50%)で評価する。			
オフィスアワ -			
研究室在室中はいつでも可。			
アクティブ・ラーニング			
学習の振り返り(ミニッツ・ペーパー等)；			

アクティブ・ラーニング(その他の内容)

アクティブ・ラーニング(授業回数)

15回中15回

備考(受講要件)

最新の研究成果や発掘調査情報を随時取り入れるため、当初の講義内容を変更する場合がある。

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
科目名			
英語学演習 1 (旧 英語学演習)			
英語名			
English Linguistics 1			
開講学科		コース	
人文学科 新旧共通		多元地域文化コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
人文・多元地域文化コース / 選択科目	演習	2単位	2~4年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
末松信子		099-285-7572	suematsu@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
		前期	
授業概要			
<p>David Crystal, The Cambridge Encyclopedia of Language (Cambridge University Press) からの抜粋を読み、英語の読解力をつけるとともに、「言語」の諸問題について考察をし、理解を深める。</p> <p>担当者は、ポイントとなる単語・熟語、文法、本文の内容、補足説明をまとめ、レジュメを作成する。授業では担当者によるプレゼンテーションの後、教員による補足説明を行っていく。</p>			
学修目標			
<p>英文を正確に読み、その内容を理解することができる。「言語」の諸問題に対する基礎的知識を踏まえた上で自らの考えを述べることができる。</p>			
授業計画			
<p>第1回： ガイダンス 第2回： Language and Thought 言語と思考 第3回： Dialect 方言 第4回： Black English 黒人英語 第5回： Language and Sex 言語と性 第6回： Conversation 会話 第7回： Speech Acts 発話行為 第8回： Translating and Interpreting 翻訳と通訳 第9回： Theories of Language Acquisition 言語習得の理論 第10回： Theories of Language Learning 言語学習の理論 第11回： Being Bilingual バイリンガルとは 第12回： Sign Language サイン言語 第13回： The Origins of Language 言語の起源 第14回： Chimp Communication チンパージ とことば 第15回： 総括</p>			
授業外学習 (予習・復習)			
<p>予習： 教科書にあらかじめ目を通し予習しておくこと。 復習： 配布されたプリント、辞書や参考書を利用して復習しておくこと。</p>			
教科書			
Crystal, David 著 / 成田 一 編註 『言語の世界 - The World of Language』 松柏社、2003年			
参考書			
必要に応じて適宜、指示する。			
成績の評価基準			
<p>2/3以上の出席者を評価対象とする。</p> <p>英文を正確に読み、内容を理解しているかについて、発表の準備・内容、プレゼンテーションから評価する (20%)。また、「言語」の諸問題に対する理解度について、毎回のコメントシート (15%) および小テスト (65%) で評価する。</p>			
オフィスアワ -			
水曜日 10:30~12:00			

木曜日 10:30 ~ 12:00

アクティブ・ラーニング

プレゼンテーション; 学習の振り返り (ミニッツ・ペーパー等);

アクティブ・ラーニング (その他の内容)

アクティブ・ラーニング (授業回数)

13回

備考 (受講要件)

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
科目名			
書籍文化演習 1			
英語名			
Book Culture 1			
開講学科		コース	
人文学科 新旧共通		多元地域文化コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
人文・多元地域文化コース / 選択科目	演習	2単位	2～4年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
竹岡健一		099-285-7577	takeoka@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
		後期	
授業概要			
<p>授業の概要</p> <p>この授業では、書籍の歴史に関する文献の講読と討論を行い、書籍研究における問題の立て方や論の進め方などを理解する。また、そこで得られた問題意識に基づいて、学習者自らが書籍文化に関するテーマを設定してレポートの作成と報告を行う。</p> <p>今学期の授業では、書籍と読書のかかわりをテーマとする専門書をテキストとし、書籍と読者の「つながり」に焦点をあてる。</p>			
学修目標			
<p>授業の到達目標及びテーマ</p> <p>この授業は、書籍文化をテーマとして、学習者が次の能力を身につけることを到達目標とする。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 書籍文化に対する視点や問題意識を身につける。 2. 先行文献の批判的な読解力を身につける。 3. レポートの作成や報告、および討論のスキルを身につける。 			
授業計画			
<p>授業計画</p> <p>第1回：オリエンテーション</p> <p>第2回：書籍文化に関する文献講読（1） ブリュノ・ブラセル 『本の歴史』 第1章</p> <p>第3回：書籍文化に関する文献講読（2） ブリュノ・ブラセル 『本の歴史』 第2章</p> <p>第4回：書籍文化に関する文献講読（3） ブリュノ・ブラセル 『本の歴史』 第3章</p> <p>第5回：書籍文化に関する文献講読（4） ブリュノ・ブラセル 『本の歴史』 第4章</p> <p>第6回：書籍文化に関する文献講読（5） ブリュノ・ブラセル 『本の歴史』 第5章</p> <p>第7回：書籍文化に関する文献講読（6） ブリュノ・ブラセル 『本の歴史』 資料編 1～2</p> <p>第8回：書籍文化に関する文献講読（7） ブリュノ・ブラセル 『本の歴史』 資料編 3～4</p> <p>第9回：書籍文化に関する文献講読（8） ブリュノ・ブラセル 『本の歴史』 資料編 5～7</p> <p>第10回：レポートの作成方法（1） テーマの設定</p> <p>第11回：レポートの作成方法（2） 文献調査</p> <p>第12回：レポートの作成方法（3） 全体の構成</p> <p>第13回：レポートの作成方法（4） 引用と注</p> <p>第14回：レポートの作成方法（5） レイアウト</p> <p>第15回：授業のまとめとふりかえり</p> <p>定期試験（レポート提出）</p>			
授業外学習（予習・復習）			
<p>予習： テキストの次の授業で扱われる範囲を講読し、質問等を考える。1時間程度。</p> <p>復習： 授業の内容を再確認し、興味を持った点や理解が不十分な点について自分なりの調査を行う。30分程度。</p>			
教科書			
<p>テキスト ブリュノ・ブラセル（荒俣宏監修・木村恵一訳）『本の歴史』（創元社）1998年。</p>			

参考書

参考書・参考資料等

樺山紘一『図説 本の歴史』（河出書房新社）2011年。

成績の評価基準

学生に対する評価

テキストの予習、討論への参加、レポートの作成と報告などにより総合的に評価する。

オフィスアワー

特に時間は設けない。質問等があれば随時申し出ること。

アクティブ・ラーニング

ディベート；

アクティブ・ラーニング（その他の内容）

アクティブ・ラーニング（授業回数）

備考（受講要件）

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
科目名			
哲学研究C			
英語名			
Western Philosophy C			
開講学科		コース	
人文学科 新旧共通		多元地域文化コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
人文・多元地域文化コース / 選択科目	講義	2単位	2～4年
担当教員	連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)	
共同担当教員		前後期 後期	
授業概要			
学修目標			
授業計画			
第1回			
第2回			
第3回			
第4回			
第5回			
第6回			
第7回			
第8回			
第9回			
第10回			
第11回			
第12回			
第13回			
第14回			
第15回			
授業外学習 (予習・復習)			
授業レジュメによる復習、参考書による予習			
教科書			
とくになし			
参考書			
成績の評価基準			
授業各回終了時にコメントペーパーを配布し、そこに書かれた授業内容に関するコメントをもとに評価する。評価基準は(1)授業内容を的確に理解できているか、(2)授業内容を受けて自らにとって身近な現象を捉え直すことができているか(3)授業内容を批判的に把握し自らの考察を付け加えることができているか、の三つを設定する。			
オフィスアワ -			
授業の前後			
アクティブ・ラーニング			
学習の振り返り(ミニッツ・ペーパー等);			
アクティブ・ラーニング(その他の内容)			
アクティブ・ラーニング(授業回数)			

15回

備考（受講要件）

とくになし

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
科目名			
多文化交流論演習1			
英語名			
Multicultural Relations 1			
開講学科		コース	
人文学科 新旧共通		多元地域文化コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
人文・多元地域文化コース / 選択科目	演習	2単位	2～4年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
中島 祥子		099-285-7664	sachikon@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
		後期	
授業概要			
<p>この授業では、日本人が外国に居住する場合や外国人留学生が日本で生活する場合などの異文化接触の場面において、どのようなコミュニケーション上の問題点があるのかについて、先行文献を探し、報告を行ってもらおう。また、海外在住者の話を聞く前に、当該地域に関する資料を収集し、事前調査等を行った上で、海外在住者の異文化接触について話を聞き、質問を行う。最終的に、異文化間のコミュニケーション上の問題点について解決方法を探る。</p>			
学修目標			
<ul style="list-style-type: none"> 異なる文化背景を持った人々が接触する場合、コミュニケーションにどのような問題が生じるのかについて理解する。 異文化接触の具体的な問題の把握・記述方法、考察、解決方法などについて学ぶ。 目的に沿った資料収集の仕方と資料の精査、「問い」の作り方を学ぶ 			
授業計画			
第1回：オリエンテーション（授業概要とスケジュール：受講生の人数により変更の可能性あり）			
第2回：今後のスケジュール グループ分け、資料収集など			
第3回：資料収集の方法、事前準備			
第4回：事前調べ			
第5回：事前調べ報告			
第6回：質問準備			
第7回：インタビュー調査1			
第8回：インタビュー調査2			
第9回：インタビュー結果 まとめ			
第10回：インタビュー結果 報告作成			
第11回：再インタビュー準備1			
第12回：再インタビュー準備2			
第13回：発表・質疑応答			
第14回：発表・質疑応答			
第15回：まとめ 解決方法について			
授業外学習（予習・復習）			
参考文献の収集やインタビュー調査の準備・実施などは授業外に取り組むこと。			
教科書			
特になし。			
参考書			
<p>参考書・参考資料等</p> <p>石井敏・久米昭元編『異文化コミュニケーション研究法』有斐閣ブックス、久米昭元・長谷川典子『ケースで学ぶ異文化コミュニケーション』有斐閣選書、八代京子他『異文化コミュニケーションハンドブック』三修社、大橋敏子ほか『外国人留学生とのコミュニケーションハンドブック』アルクなど</p>			
成績の評価基準			
(1) 毎回の授業で提出する振り返り(20%)、(2) 授業中の発言(20%)、(3) 先行文献発表・報告など(

20%)、(4)最終レポート(40%)で総合評価する。

オフィスアワ -

木曜日5限(研究室)。他の時間帯でも都合があれば適宜応じます。メールなどで連絡をとってください。

アクティブ・ラーニング

グループワーク; フィールドワーク; プレゼンテーション; 学習の振り返り(ミニッツ・ペーパー等);

アクティブ・ラーニング(その他の内容)

アクティブ・ラーニング(授業回数)

15回中10回

備考(受講要件)

平成29年度入学生のみ履修可。多文化交流論を履修していることが望ましい。課題が多いので積極的に取り組むこと。

なお、平成30年度後期のシラバスとはやや異なる内容である。

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
科目名			
多文化交流論			
英語名			
Multicultural Relations			
開講学科		コース	
人文学科 新旧共通		多元地域文化コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
人文・多元地域文化コース / 選択科目	講義	2単位	2～4年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
中島 祥子		099-285-7664	sachikon@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
		前期	
授業概要			
<p>グローバル化が進み、日本においても在日外国人や訪日外国人が増加している。社会の中で多様な文化背景を持った人々と関わり、コミュニケーションをとるにはどのようなことが必要なのだろうか。本授業では、日本に在住する外国人の多様性を理解するとともに、日本語を母語としない人々に対する日本語教育の実態を把握し、コミュニケーション上の問題点や課題を把握することを目的とする。さらに、具体的な異文化接触例について学ぶ。</p>			
学修目標			
<ol style="list-style-type: none"> 1. 日本に滞在する外国人の多様性を理解する。 2. 日本語を母語としない人々に対する日本語教育の実態を理解する。 3. 様々な環境における日本語教育の実態と課題について理解する。 4. 具体的な異文化接触例について学び、問題点や課題を把握する。 			
授業計画			
第1回：オリエンテーション（本授業の目的と概要） 第2回：多文化社会の様相 第3回：日本に滞在する外国人（1） 第4回：日本に滞在する外国人（2） 第5回：日本に滞在する外国人（3） 第6回：ことばとコミュニケーション（1） 第7回：ことばとコミュニケーション（2） 第8回：異文化接触の具体例（1） 第9回：異文化接触の具体例（2） 第10回：異文化接触の具体例（3） 第11回：外国語としての日本語教育（1） 第12回：外国語としての日本語教育（2） 第13回：外国語としての日本語教育（3） 第14回：外国語としての日本語教育（4） 第15回：まとめ			
授業外学習（予習・復習）			
次回の授業で使用するための宿題を課すことがあります。また、manabaも利用しますので、欠席した場合にはmanabaで課題を必ず確認してください。			
教科書			
特になし。			
参考書			
第2回の授業で紹介する			
成績の評価基準			
(1) 毎回の授業で提出する振り返り (30%)、(2) 中間レポート (30%)、(3) 期末試験 (40%) で総合評価する。			
オフィスアワ -			

木曜日5限（研究室）。他の時間帯でも都合があれば適宜応じます。メールなどで連絡をとってください。

アクティブ・ラーニング

グループワーク；学習の振り返り（ミニッツ・ペーパー等）；

アクティブ・ラーニング（その他の内容）

アクティブ・ラーニング（授業回数）

15回中15回

備考（受講要件）

平成29年度以降の入学生のみ履修可。

この授業では、グループワークやペアワークを取り入れるので、積極的に参加すること。

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
科目名			
現代文化論演習 1 (旧 現代文化論演習)			
英語名			
Culture In Modern Society 1			
開講学科		コース	
人文学科 新旧共通		多元地域文化コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
人文・多元地域文化コース / 選択科目	演習	2単位	2~4年
担当教員	連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)	
櫻井芳生	0992857544	yoshiosakuraig@gmail.com	
共同担当教員	前後期		
	後期		
授業概要			
メディア・風評・美辞麗句にだまされない「批判的知性」を身につける。			
学修目標			
メディア・風評・美辞麗句にだまされない「批判的知性」を身につける。性淘汰の理論を(感情的でなく)論理的に検討できるようなる。			
授業計画			
第1回	ガイダンス		
第2回	文献の探し方		
第3回	文献の批判		
第4回	下級生による発表		
第5回	履修生によるコメント		
第6回	コメントへのリプライ		
第7回	上級生による発表		
第8回	履修生によるコメントその2		
第9回	コメントへのリプライその2		
第10回	下級生による発表 その2		
第11回	履修生によるコメントその3		
第12回	コメントへのリプライその3		
第13回	全体討議その1		
第14回	全体討議その2		
第15回	総評		
授業外学習(予習・復習)			
期末に対応提出文(メール)を提出してもらうので、毎回の議論をよく復習しておくこと			
教科書			
とくになり			
参考書			
駿台文庫『論文ってどんなもんだい』。拙著『就活ぶっちゃけ成功ゼミ』(光文社)。桜井のHPの各文章			
成績の評価基準			
期末提出物(30%)、平常点(発表40%、発言30%)。黙って休む人には単位を認定しない。			
オフィスアワ -			
予約による			
アクティブ・ラーニング			
グループワーク; ディベート; プレゼンテーション; 学習の振り返り(ミニッツ・ペーパー等);			
アクティブ・ラーニング(その他の内容)			
アクティブ・ラーニング(授業回数)			
15回中15回			
備考(受講要件)			

黙って休む人には単位を認定しない。

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード

科目名

芸術文化論演習（旧 ポピュラーカルチャー論演習）

英語名

Art & Culture

開講学科

コース

人文学科 新旧共通

多元地域文化コース

授業科目区分

授業形態

単位数

開講期

人文・多元地域文化コース
/ 選択科目

演習

2単位

2～4年

担当教員

連絡先（TEL）

連絡先（MAIL）

太田純貴

099-285-7576

yota@leh.kagoshima-u.ac.jp

共同担当教員

前後期

なし

後期

授業概要

芸術文化を論じるために有益な手法である「メディア考古学」関連の論文を英語で読解する。また、英文読解のために必要な日本語文章の練磨を行う。

学修目標

1. 芸術文化を論じるためのメディア考古学という手法の輪郭を理解する
2. 翻訳（という仕事）の重要性・構造を多角的に理解する
3. 外国語（英語）と日本語の関係性を、翻訳という視点から理解する
4. 独力で必要な資料にアクセスできる力を身につける
5. 学術書・論文の骨組みを把握できるようになる。
6. 学術書・論文を読む自分なりの視点を獲得できるようになる。

授業計画

- 第1回：ガイダンス
 第2回：文献講読・発表・議論（1）メディア論
 第3回：文献講読・発表・議論（2）ヴァルター・ベンヤミン
 第4回：文献講読・発表・議論（3）マーシャル・マクルーハン
 第5回：文献講読・発表・議論（4）エルンスト・ローベルト・クルティウス
 第6回：文献講読・発表・議論（5）トポス
 第7回：文献講読・発表・議論（6）視覚文化論
 第8回：文献講読・発表・議論（7）エルキ・フータモ
 第9回：文献講読・発表・議論（8）ミュージアム
 第10回：中間総括
 第11回：文献講読・発表・議論（9）アン・フリードバーグ
 第12回：文献講読・発表・議論（10）ユッシ・パリッカ
 第13回：文献講読・発表・議論（11）ミーケ・バル
 第14回：文献講読・発表・議論（12）メディア考古学
 第15回：総括
 定期試験

授業外学習（予習・復習）

毎週英文の読解などの事前準備が必要である。提出がない場合は、欠席扱いとする。
 講読の担当範囲、また授業範囲には必ず目を通し、翻訳を作っておくこと。また、それに対して、自分はどのような感想や意見を持つか、短くても良いのできちんと文章化しておくこと。もしくは発言を求められたときに、発言できるようにしておくこと。なお、受講者は必ず発言を求められる。

教科書

Erkki Huhtamo "Obscured by the cloud". 購読用の英文のテキストに関しては配布する。他にも授業中に随時指示・紹介する。日本語の練磨に関しては、小林洋介『できる大人の文章力教室』（日本文芸社、2013）。

参考書

エルキ・フータモ『メディア考古学』（太田純貴編訳、NTT出版、2015）、アン・フリードバーグ『ウィンドウ・ショッピング』（井原慶一郎他訳、松柏社、2008）など。授業中に随時指示・紹介する。

成績の評価基準

- ・授業中の発言・態度（50%）
- ・授業中に指示された課題への取り組み（50%）

オフィスアワー

追って指示する。

アクティブ・ラーニング

グループワーク；ディベート；フィールドワーク；プレゼンテーション；学習の振り返り（ミニッツ・ペーパー等）；

アクティブ・ラーニング（その他の内容）

アクティブ・ラーニング（授業回数）

15回中15回

備考（受講要件）

初回の授業に出席しない場合は、以後の受講は認めない。授業計画や進行の度合いは、受講者の人数や理解度、議論の習熟度などによって適宜変更する可能性がある。また、授業の進度や人数等により、鹿児島市内の美術館やイベント、ワークショップ等の見学・参加といった学外実習に授業を振り替える可能性もある。なお、毎週課題を課す。課題の提出と授業の出席は連動しているため、未提出は欠席扱い。

実務経験のある教員による実践的授業

文化人類学実習 2 (旧 フィールド学実習 (文化人類学))
ナンバリングコード

科目名

文化人類学実習 2 (旧 フィールド学実習 (文化人類学))

英語名

Cultural Anthropology Fieldwork 2

開講学科

コース

人文学科 新旧共通

多元地域文化コース

授業科目区分

授業形態

単位数

開講期

人文・多元地域文化コース
/ 選択科目

実験

1単位

2~4年

担当教員

連絡先 (TEL)

連絡先 (MAIL)

尾崎孝宏・兼城系絵

099-285-8902 (兼城)

itokane@leh.kagoshima-u.ac.jp (兼城)

共同担当教員

前後期

後期

授業概要

前期の海外実習にて収集したデータをもとに、

- 1) 調査実習報告会のためのパワーポイントの作成。調査資料の整理、分析、報告書の作成、パワーポイントの作成などを、グループ単位で行う。
- 2) 実習報告会で、作成したパワーポイントを用いて報告を行う。
- 3) 国際交流モデルに関するテキストを作成する

学修目標

調査資料の整理やまとめ方、発表方法に関する一連のスキルを体得する。

授業計画

第1回 ガイダンス

第2回~第29回 グループ毎に実習調査資料の整理とパワーポイントの作成、報告会でのグループ発表、テキスト作成

第30回 反省とまとめ

授業外学習 (予習・復習)

それぞれの関心にもとづいた文献の収集・講読も合わせて行うこと。

教科書

指定しない。

参考書

授業時に適宜紹介する。

成績の評価基準

発表内容やレポート、テキスト作成への貢献度により総合的に評価する。

オフィスアワー

各教員に確認すること

アクティブ・ラーニング

グループワーク; ディベート; プレゼンテーション;

アクティブ・ラーニング (その他の内容)

アクティブ・ラーニング (授業回数)

30回中25回

備考 (受講要件)

文化人類学実習 1 (旧 フィールド学実習 (文化人類学)) の単位取得者に限る

また、授業時間外でのプレゼンテーション等もあるため、スケジュールには注意すること。

実務経験のある教員による実践的授業

該当しない

ナンバリングコード			
科目名			
考古学実習 2 (旧 フィールド学実験(考古学))			
英語名			
Practical Archaeology 2			
開講学科		コース	
人文学科 新旧共通		多元地域文化コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
人文・多元地域文化コース / 選択科目	実験	2単位	2~4年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
渡辺芳郎、石田智子		099-285-7539	watanabe@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
		前期	
授業概要			
考古学的調査に必要な技術を習得する。			
学修目標			
考古学調査に必要な技術を習得する。			
授業計画			
第1回 ガイダンス			
第2回 考古学的測量技術の習得(1) - オートレベル使用方法の基礎 -			
第3回 考古学的測量技術の習得(2) - オートレベル使用方法の応用 -			
第4回 考古学的測量技術の習得(3) - オートレベル使用方法の実践 -			
第5回 考古学的測量技術の習得(4) - 平板測量(地形測量)の基礎 -			
第6回 考古学的測量技術の習得(5) - 平板測量(地形測量)の応用 -			
第7回 考古学的測量技術の習得(6) - 平板測量(地形測量)の実践 -			
第8回 考古学的測量技術の習得(7) - 平板測量(等高線測量)の基礎 -			
第9回 考古学的測量技術の習得(8) - 平板測量(等高線測量)の応用 -			
第10回 考古学的測量技術の習得(9) - 平板測量(等高線測量)の実践 -			
第11回 考古学的測量技術の習得(10) - 光波トランシット使用方法の基礎 -			
第12回 考古学的測量技術の習得(11) - 光波トランシット使用方法の応用 -			
第13回 考古学的測量技術の習得(12) - 光波トランシット使用方法の実践 -			
第14回 考古学的測量技術の習得(13) - 測量図からの読み取り方法 -			
第15回 まとめ			
授業外学習 (予習・復習)			
習得技能の予習・復習が必須である。			
教科書			
授業中適宜紹介する			
参考書			
授業中適宜紹介する			
成績の評価基準			
平常点			
オフィスアワ -			
研究室在室時はいつでも可。			
アクティブ・ラーニング			
グループワーク; フィールドワーク;			
アクティブ・ラーニング (その他の内容)			
考古学調査に必要なさまざまな技術を共同で学ぶ			
アクティブ・ラーニング (授業回数)			
15回中14回			
備考 (受講要件)			
野外での実習になるので、動きやすい服装で参加すること。			

ドイツ言語・文化演習 1 b (旧 ドイツ語テキスト演習)
ナンバリングコード

科目名

ドイツ言語・文化演習 1 b (旧 ドイツ語テキスト演習)

英語名

German Language & Culture 1b

開講学科

コース

人文学科 新旧共通

多元地域文化コース

授業科目区分

授業形態

単位数

開講期

人文・多元地域文化コース
/ 選択科目

演習

2単位

2~4年

担当教員

連絡先 (TEL)

連絡先 (MAIL)

竹岡健一

099-285-7577

takeoka@leh.kagoshima-u.ac.jp

共同担当教員

前後期

後期

授業概要

- (1) 比較的やさしいドイツ語の文章を読みながら、ドイツ語の読解力を高めていきます。
- (2) また、ドイツ語圏の文化についても学びます。
- (3) 専門分野にかかわらず、ドイツ語の能力を伸ばしたいと思う人は、ぜひ履修して下さい。
- (4) 今学期の授業では、ドイツの子供向けニュースの記事をテキストとします。

学修目標

- (1) 比較的平易なドイツ語の長文を、辞書や文法書を使いながら訳読することができる。
- (2) ドイツ語文法の理解を確かなものにする。

授業計画

第1回 オリエンテーション
第2回~第13回 テキストの訳読とドイツ語圏の文化
第14・15回 ドイツ映画鑑賞

授業外学習 (予習・復習)

予習：毎回の授業で扱うテキストを訳すとともに、テキストを音読する。1時間程度。
復習：予習で訳や発音が間違っていた箇所について、再確認を行う。また、単語や慣用句を暗記する。30分程度。

教科書

使用しない。授業中にプリントを配布する。

参考書

授業中に紹介する。

成績の評価基準

「授業への取り組み態度」

オフィスアワー

特に時間は設けない。質問などがあれば、随時申し出ること。

アクティブ・ラーニング

アクティブ・ラーニング (その他の内容)

アクティブ・ラーニング (授業回数)

備考 (受講要件)

- (1) 基礎的なドイツ語文法の学習を終えていること。
- (2) 平成28年度以前入学生は、「ドイツ語テキスト演習」に読み替え。
- (3) プロジェクター、DVD使用。

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
科目名			
哲学演習 A 1 (旧 西洋の人間と思想A演習1)			
英語名			
Western Philosophy A1			
開講学科		コース	
人文学科 新旧共通		多元地域文化コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
人文・多元地域文化コース / 選択科目	演習	2単位	2~4年
担当教員	連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)	
柴田健志	7533	siba@leh.kagoshima-u.ac.jp	
共同担当教員		前後期	
		後期	
授業概要			
(1) 哲学的テキストの読解			
(2) レポートの作成			
学修目標			
古典的テキストを正確に読解し、レポートを作成する方法の習得を目標にします。			
授業計画			
授業計画			
第1回 テキスト読解ガイダンス			
第2回 テキスト読解：デカルト『第1省察』の概要			
第3回 テキスト読解：デカルト『第2省察』の概要			
第4回 テキスト読解：デカルト『第3省察』			
第5回 テキスト読解：デカルト『第3省察』			
第6回 テキスト読解：デカルト『第3省察』			
第7回 テキスト読解：デカルト『第3省察』			
第8回 テキスト読解：デカルト『第3省察』			
第9回 テキスト読解：デカルト『第3省察』			
第10回 テキスト読解：デカルト『第3省察』			
第11回 テキスト読解：デカルト『第3省察』			
第12回 テキスト読解：デカルト『第3省察』			
第13回 レポート作成法：テーマ			
第14回 レポート作成法：校正			
第15回 レポート作成法：引用			
授業外学習 (予習・復習)			
予習 テキストの指定された範囲を精読。			
復習 問題点の確認および検討。			
教科書			
デカルト『省察 情念論』中央公論			
参考書			
野田又夫『デカルト』岩波新書			
成績の評価基準			
以下の3点からおこなう。?読解の妥当性40% ?理解の発展性30% ?論理の整合性30%			
オフィスアワ -			
授業終了後			
アクティブ・ラーニング			
ディベート; プレゼンテーション;			
アクティブ・ラーニング (その他の内容)			
10回中3回			
アクティブ・ラーニング (授業回数)			

備考(受講要件)

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード

科目名

英語圏比較文化論（旧 異文化理解）

英語名

開講学科

コース

人文学科 新旧共通

多元地域文化コース

授業科目区分

授業形態

単位数

開講期

人文・多元地域文化コース
/ 選択科目

講義

2単位

2～4年

担当教員

連絡先（TEL）

連絡先（MAIL）

竹内勝徳

8874

takeutik@leh.kagoshima-u.ac.jp

共同担当教員

前後期

後期

授業概要

様々な意味で日本の長年のパートナー国と言えるアメリカの文化について、日本文化との比較において論じる。トランスナショナリズムとマルチカルチュラリズムの基礎を踏まえたうえで、アメリカ文化の起源から資本主義の進展によるその急速な発展、軍事増強と連動した文化の生成、グローバル経済と国際金融の動きに同期したアメリカ文化の国際展開、国力の一部に含まれるソフトパワーとしての文化の価値、さらには、アメリカ文化を構成する多国籍な要素とその越境性などについて講義を行う。また、アメリカ文化の理解を通じて日本文化の特色に目を開くと共に、両国の文化を相対的に捉えることを学ぶ。具体例としてはアメリカの映画作品や文学作品、音楽を取り上げ、それらを鑑賞する中でアメリカ文化の多様性や流動性を学ぶ。また、そうした文化を交換するための異文化コミュニケーションの現状と課題についてトランスナショナリズムとマルチカルチュラリズムの知見を生かして講義を行う。なお、授業内では異文化交流ワークショップの時間を設け、英語によるディスカッションの後、プレゼンテーションを行ってもらう。

学修目標

トランスナショナリズムとマルチカルチュラリズムに立脚した比較文化的観点からみたアメリカ文化の多様性・流動性をテーマとして講義を行う。到達目標は以下のとおりである。（１）日本文化との比較においてアメリカ文化の多様性や異文化コミュニケーションの現状と課題を理解する。（２）日米の文化交流をよりグローバルな視野から俯瞰し、二国間の関係に収れんされないよりダイナミックな異文化交流について理解を深める。（３）アメリカや日本で制作された映画作品や文学作品、音楽をそれぞれの国の歴史、社会、文化に照らして解釈すると共にその文脈を構成する諸要素について考える。（４）英語によるディスカッションを通して異文化交流のあり方を体験的に理解する力を高める。

授業計画

- 第1回 トランスナショナリズム、マルチカルチュラリズムとは何か。
 第2回 アメリカ文化の起源 19世紀の劇場文化
 第3回 日本の伝統文化 その国際的評価
 第4回 映画産業の発展 軍事、経済、ソフトパワー
 第5回 文学に表れた日米の戦後 フォークナーと大江健三郎、メルヴィルと宇能鴻一郎
 第6回 戦後エンターテインメント産業の変容 アメリカの場合
 第7回 戦後エンターテインメント産業の変容 日本の場合
 第8回 ディズニー映画と日本アニメ 表象構造の違い
 第9回 大衆音楽とメディア アメリカの場合
 第10回 大衆音楽とメディア 日本の場合
 第11回 グローバリゼーションと異文化コミュニケーション
 第12回 異文化交流ワークショップ：アメリカ人留学生とのグループ・ディスカッション（現代の日米文化について）
 第13回 異文化交流ワークショップ：アメリカ人留学生とのグループ・ディスカッション（映画と文学について）
 第14回 異文化交流ワークショップ：アメリカ人留学生とのグループ・ディスカッション（大衆音楽について）
 第15回 異文化交流ワークショップ：プレゼンテーション（グローバリゼーションの中の日米文化）

定期試験

授業外学習（予習・復習）

配布プリントの読解。

教科書

古矢旬『アメリカニズム 「普遍国家」のナショナリズム』（東京大学出版会）

参考書

亀井俊介『サーカスが来た アメリカ大衆文化覚書』（岩波書店）、竹内勝徳・高橋勤『環大西洋の想像力』（彩流社）、授業中に配布する文学作品からの抜粋のプリント

成績の評価基準

期末試験50%、中間レポート25%、ミニレポート25%の割合で成績評価を行う。

オフィスアワー

月曜昼休み

アクティブ・ラーニング

グループワーク；ディベート；プレゼンテーション；

アクティブ・ラーニング（その他の内容）

ディスカッションとプレゼンテーション

アクティブ・ラーニング（授業回数）

15回中4回

備考（受講要件）

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
科目名			
現代文化論			
英語名			
Culture In Modern Society			
開講学科		コース	
人文学科 新旧共通		多元地域文化コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
人文・多元地域文化コース / 選択科目	講義	2単位	2～4年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
櫻井芳生		0992857544	yoshiosakuraig@gmail.com
共同担当教員		前後期	
		後期	
授業概要			
<p>テーマ「現代文化についてのリサーチ（調査）リテラシーの涵養」。まるまる一期（半年）かけて、現代文化に関する調査をおこないます。「手をつかう」課題がおおくなるので、【覚悟！】して履修してください。「どんなヒトが恋愛に成功したか」「最近のスマホの使われ方」も調査するかもしれません。</p>			
学修目標			
<p>現代文化に関して、自分で、仮説を構築し、調査を設計し、その検証ができるようになる。性淘汰の理論を批判的に（感情的でなく）検討できるようになる</p>			
授業計画			
<p>第1回ガイダンス 第2回先輩学生のプレゼンテーション 第3回先行研究の検討 第4回先行研究への代案作成 第5回チームにわかれての、仮説構築・設問構築。文化チーム 第6回チームにわかれての、仮説構築・設問構築。流行チーム 第7回チームにわかれての、仮説構築・設問構築。メディアチーム 第8回チームにわかれての、仮説構築・設問構築。スマホチーム 第9回アンケートの作成 第10回アンケートの配布 第11回アンケートの回収 第12回収アンケートからのデータ入力 第13回データクリーニング 第14回データの分析 第15回各チームによる分析結果発表と相互評価</p>			
授業外学習（予習・復習）			
アンケート案の作成 分析			
教科書			
とくになし			
参考書			
拙著『就活ぶっちゃけ成功ゼミ』（光文社）。超初心者向けSPSS統計解析マニュアル 米川 和雄（著）、山崎貞政（著） 北大路書房			
成績の評価基準			
平常点50%、レポート50%。 履修者全員による共同プロジェクトですので、遅刻する人・黙って休む人には単位を認定しない。毎回の参加度・提出物による評価。			
オフィスアワ -			
予約にて			
アクティブ・ラーニング			
グループワーク；フィールドワーク；プレゼンテーション；学習の振り返り（ミニッツ・ペーパー等）；			

アクティブ・ラーニング（その他の内容）

アクティブ・ラーニング（授業回数）

15回中13回

備考（受講要件）

遅刻する人・黙って休む人には単位を認定しない。体調不調などの場合は事後でもいいので、必ずメール連絡すること。桜井に論文指導を受けたいひとは、每期とってください（同じコマに他の必修や教職関連がある場合をのぞく）。むずかしくはないですが、かなり課題はおおくなるとおもいます。ラクしたいヒトはとらないように。ITについての予備知識は不要です。繰り返しの履修も可。統計についてはこのコマで十分ご教示できません。ので、統計関係の他の科目の履修を強くおすすめします。

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード

科目名

日本歴史・文化演習 B 1 (旧 日本史演習V)

英語名

Japanese History & Culture B1

開講学科

コース

人文学科 新旧共通

多元地域文化コース

授業科目区分

授業形態

単位数

開講期

人文・多元地域文化コース
/ 選択科目

演習

2単位

2~4年

担当教員

連絡先 (TEL)

連絡先 (MAIL)

金井静香

099-285-7553

kanai@leh.kagoshima-u.ac.jp

共同担当教員

前後期

後期

授業概要

中世古記録の読解を行う。受講者は、テキストのなかから各自の担当箇所を割り当てられ、その箇所に見える語句や登場する人物などについて事前に調べる。授業においては、出席している受講者全員が数行ずつ読み下しと現代語訳を行い、授業担当教員がそれを点検する。また、各受講者は自分に割り当てられた部分のなかから興味深いテーマを見だし、それについて調べ考察したことを発表する。

下記の「授業計画」では、『看聞日記』応永26年正月30日条～同年5月23日条を読む開講期の授業計画を記す。

学修目標

- (1) 中世古記録の読解力を向上させる。
- (2) 史料を用いた研究の方法に習熟する。
- (3) 自ら課題を設定し、それについて考察することができる。

授業計画

第1回：ガイダンス

第2回：応永26年正月30日～2月12日条の読み下し及び現代語訳

第3回：応永26年正月30日～2月12日条の現代語訳及びテーマ考察発表

第4回：応永26年2月13日～同月27日条の読み下し及び現代語訳

第5回：応永26年2月13日～同月27日条の現代語訳及びテーマ考察発表

第6回：応永26年2月28日～3月10日条の読み下し及び現代語訳

第7回：応永26年2月28日～3月10日条の現代語訳及びテーマ考察発表

第8回：応永26年3月11日～同月18日条の担当箇所の読み下し及び現代語訳

第9回：応永26年3月11日～同月18日条の現代語訳及びテーマ考察発表

第10回：応永26年3月22日～4月6日条の読み下し及び現代語訳

第11回：応永26年3月22日～4月6日条の現代語訳及びテーマ考察発表

第12回：応永26年4月8日～同月20日条の読み下し及び現代語訳

第13回：応永26年4月8日～同月20日条の現代語訳及びテーマ考察発表

第14回：応永26年4月21日～5月23日条の読み下し及び現代語訳

第15回：応永26年4月21日～5月23日条の現代語訳及びテーマ考察発表

授業外学習 (予習・復習)

受講者は各自、予習としてテキストの読み下しと現代語訳を行う。発表を担当する受講者は、レジユメの作成も行う。

教科書

『玉葉』『看聞日記』などの中世古記録を予定している。

参考書

授業中に適宜紹介または配布する。

成績の評価基準

読み下し及び現代語訳 (35%)、テーマ考察の発表もしくはレポート (35%)、授業への取り組み態度 (30%)

オフィスアワ -

あらかじめアポイントをとること。

アクティブ・ラーニング

アクティブ・ラーニング (その他の内容)

アクティブ・ラーニング (授業回数)

備考 (受講要件)

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード

科目名

アジア歴史・文化演習 B 1 (旧 アジア史演習4)

英語名

Asian History & Culture B1

開講学科

コース

人文学科 新旧共通

多元地域文化コース

授業科目区分

授業形態

単位数

開講期

人文・多元地域文化コース
/ 選択科目

演習

2単位

2~4年

担当教員

連絡先 (TEL)

連絡先 (MAIL)

大田由紀夫

099-285-7560

ota@leh.kagoshima-u.ac.jp

共同担当教員

前後期

後期

授業概要

テーマ：『明史紀事本末』

明朝一代の歴史を簡潔にまとめた『明史紀事本末』の明朝成立史に関する部分を講読していく予定である。

学修目標

基礎的な漢文読解能力を養うことをめざす。

授業計画

第1回 ガイダンス

第2回 『明史紀事本末』巻14、開国規模-1「(洪武九年閏九月庚寅)乃上言曰」条の読解

第3回 『明史紀事本末』巻14、開国規模-2「今議者曰」条の読解

第4回 『明史紀事本末』巻14、開国規模-3「近者特旨」条の読解

第5回 『明史紀事本末』巻14、開国規模-4「唐太宗曰」条の読解

第6回 『明史紀事本末』巻14、開国規模-5「其始也」条の読解

第7回 『明史紀事本末』巻14、開国規模-6「竊見数年以來」条の読解

第8回 まとめ(1)第2~7回の読解部分の復習・確認など

第9回 『明史紀事本末』巻14、開国規模-7「賊人偽四大王」条の読解

第10回 『明史紀事本末』巻14、開国規模-8「夫有戸口而後田野闢」条の読解

第11回 『明史紀事本末』巻14、開国規模-9「昔者」条の読解

第12回 『明史紀事本末』巻14、開国規模-10「求治之道」条の読解

第13回 『明史紀事本末』巻14、開国規模-11「以農桑言之」条の読解

第14回 『明史紀事本末』巻14、開国規模-12「風紀之司」条の読解

第15回 まとめ(2)第9~14回の読解部分の復習・確認など

授業外学習(予習・復習)

演習で講読する史料の当該部分を事前に予習しておくことが望ましい。また、配布資料をもとに講読した部分について復習することが望ましい。

教科書

『明史紀事本末』(中華書局、1977年)。史料プリントを配布。

参考書

参考文献リストを配布。

成績の評価基準

史料理解度60%、発言評価点40%

オフィスアワー

授業・会議等以外であればいつでも可。

アクティブ・ラーニング

アクティブ・ラーニング(その他の内容)

アクティブ・ラーニング(授業回数)

備考 (受講要件)

必ず辞書持参のこと。

平成18年度以降の入学生は2単位、平成17年度以前の入学生は1単位となります。

平成22年度入学生版の『法文学部修学の手引』では、「アジア史演習」は「地理歴史」の教職免許取得のための「必修授業科目以外の授業科目」として記載されていませんが、平成23年度より教職科目として再記載されています。

実務経験のある教員による実践的授業

ポピュラーカルチャー論演習1 (旧 ポピュラーカルチャー論演習)
ナンバリングコード

FHS-DFH2530

科目名

ポピュラーカルチャー論演習1 (旧 ポピュラーカルチャー論演習)

英語名

Popular Culture 1

開講学科		コース	
人文学科 新旧共通		多元地域文化コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
人文・多元地域文化コース / 選択科目	演習	2単位	2~4年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
太田純貴		099-285-7576	yota@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
なし		前期	

授業概要

現在のポピュラーカルチャーに関する個別的な事例は無数に存在するが、その受容に際しては、スマートフォンやタブレットPCといったメディアテクノロジーが極めて大きな役割を果たしていることは間違いない。本講義では、エルキ・フータモ「モバイル・メディアの考古学」(吉岡洋訳、『叢書セミオトポス2』慶応大学出版会、2005)を読解し、受講生同士で発表・議論することで、スマートフォンなどのモバイル・メディアがポピュラーカルチャーやメディア文化においてどのように位置づけられるのかということ考察する。場合によっては、英書講読を行う。その際には適宜予習復習が求められる。

学修目標

- 1.ポピュラーカルチャーやそれと密接に結びつく哲学やメディア文化についての知識を幅広く修得する。
- 2.1で獲得した知識を深めると同時に、他の知識と結合させて、ポピュラーカルチャーについての有機的な知識のネットワークを構築する。
- 3.学術書・論文の骨組みを把握できるようになる。
- 4.学術書・論文を読む自分なりの視点を獲得できるようになる。
- 5.建設的な議論をするためのプレゼンテーションやディスカッションの方法を体得する。

授業計画

- 第1回：ガイダンス
 第2回：文献講読・発表・議論(1)エルキ・フータモ
 第3回：文献講読・発表・議論(2)メディア考古学
 第4回：文献講読・発表・議論(3)モバイル・メディア
 第5回：文献講読・発表・議論(4)ポール・ヴィリリオ
 第6回：文献講読・発表・議論(5)ポータブル
 第7回：文献講読・発表・議論(6)ウェアラブル
 第8回：文献講読・発表・議論(7)乗り物
 第9回：文献講読・発表・議論(8)ダゲレオタイプ
 第10回：中間総括
 第11回：文献講読・発表・議論(9)扇子・団扇
 第12回：文献講読・発表・議論(10)カメラ
 第13回：文献講読・発表・議論(11)腕時計
 第14回：文献講読・発表・議論(12)サイボーグ
 第15回：総括
 定期試験

授業外学習(予習・復習)

毎週課題の提出が求められる。提出がない場合は、欠席扱いとする。
 講読の担当範囲、また授業範囲には必ず目を通し、簡単に要約しておくこと。また、それに対して、自分はそのような感想や意見を持つか、短くても良いのできちんと文章化しておくこと。もしくは発言を求められたときに、発言できるようにしておくこと。なお、受講者は必ず発言を求められる。

教科書

エルキ・フータモ「モバイル・メディアの考古学」吉岡洋訳、『叢書セミオトポス2』、慶應義塾大学出版会、

2005 (配布予定)。他にも授業中に随時指示・紹介する。

参考書

授業中に随時指示・紹介する。

成績の評価基準

- ・授業中の発言・態度 (30%)
- ・授業中に指示された課題への取り組み (30%)
- ・授業中に課される発表と質疑応答 (40%)

オフィスアワー

追って指示する (ガイダンス時に指示する予定)

アクティブ・ラーニング

グループワーク; ディベート; プレゼンテーション; 学習の振り返り (ミニッツ・ペーパー等);

アクティブ・ラーニング (その他の内容)

アクティブ・ラーニング (授業回数)

15回中15回

備考 (受講要件)

授業計画や進行の度合いは、受講者の人数や理解度、議論の習熟度などによって適宜変更する可能性がある。また、授業の進度や人数等により、鹿児島市内の美術館やイベント等の見学・参加といった学外実習に授業を振り替える可能性もある。

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
FHS-DFH2518			
科目名			
ポピュラーカルチャー論			
英語名			
Popular Culture			
開講学科		コース	
人文学科 新旧共通		多元地域文化コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
人文・多元地域文化コース / 選択科目	講義	2単位	2～4年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
太田純貴		099-285-7576	yota@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
なし		前期	
授業概要			
ポピュラーカルチャーは様々な領域に渡り、その種類も多彩であるため、一言で括ることは極めて難しい。だが、映画やマンガ、アニメなど、ポピュラーカルチャーを構成する様々な領域において共通する表象も存在する。その一つが「身体」(の表象)である。本講義では、様々なポピュラーカルチャーの領域に登場する身体(の表象)について、解説・検討を行う。			
学修目標			
1.ポピュラーカルチャーを論じるための基礎知識を修得する。 2.メディアと現代文化を自らの問題意識に沿って分析・考察するための視点を確保する。 3.私たちを取り巻くポピュラーカルチャーや関連事象を、批判的に検証できるようになる。			
授業計画			
第1回：ガイダンス 第2回：ポピュラーカルチャーについて(1)大衆・群衆 第3回：ポピュラーカルチャーについて(2)文化 第4回：ポピュラーカルチャーと身体の間わり 第5回：ポピュラーカルチャーと身体(1)ピュグマリオン 第6回：ポピュラーカルチャーと身体(2)人形 第7回：中間総括 第8回：ポピュラーカルチャーと身体(3)『攻殻機動隊』 第9回：ポピュラーカルチャーと身体(4)SF 第10回：ポピュラーカルチャーと身体(5)ジャック・フィニイ 第11回：ポピュラーカルチャーと身体(6)『ボディ・スナッチャー』 第12回：ポピュラーカルチャーと身体(7)ファッション 第13回：ポピュラーカルチャーと身体(8)コム・デ・ギャルソン 第14回：ポピュラーカルチャーと身体(9)イメージ 第15回：総括 定期試験もしくはレポート			
授業外学習(予習・復習)			
授業中に指示する作品や文献について目を通しておくこと。最悪、作者/制作者名とどのようなことが書かれているか、どのような作品であったかということだけでも整理して覚えておくこと。			
教科書			
適宜、授業スライドやプリントを配布する。			
参考書			
・石岡良治『視覚文化「超」講義』(フィルムアート社) ・白井雅人他編『メディアアートの教科書』(フィルムアート社) ・葉口英子他編『知のリテラシー』(ナカニシヤ出版)など			
成績の評価基準			
1.受講態度(15%) 2.授業中のミニレポート(リフレクションシート)の提出(30%)			

3. 期末テストもしくはレポート (55%)

期末レポートは授業内容の習熟度および参加度などについて、総合的に判断する。

オフィスアワ -

追って指示する (ガイダンス時に指示する予定)

アクティブ・ラーニング

学習の振り返り (ミニッツ・ペーパー等);

アクティブ・ラーニング (その他の内容)

アクティブ・ラーニング (授業回数)

15回中15回

備考 (受講要件)

1. 授業予定・内容は、必要に応じて変更することがある。
2. 私語や携帯・スマートフォンなどの使用などは授業妨害と見なし、そうした学生の受講は認めない。該当する学生には退席を命じることがある。その場合、以後の受講は認めない。
3. レポートの剽窃・盗作に関しては、言うまでもなく認めない。剽窃・盗作行為が確認された場合は、何らかの処分がくだされる可能性がある。
4. 成績評価がレポートの場合、授業中に指示した形式や参考資料 (文献、ウェブ、映像含む) の提示の仕方を守っていないレポートに関しては、採点の対象外とする。
5. 受講制限あり (上限70名)
6. シラバスの内容を変更する可能性もあるので、その点を踏まえた上で受講すること。

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
FHS-DHH2115			
科目名			
日本古典文学研究A (旧 日本古典文学)			
英語名			
Classical Japanese Literature A			
開講学科		コース	
人文学科 新旧共通		多元地域文化コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
人文・多元地域文化コース / 選択科目	講義	2単位	2~4年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
富原カンナ		2 8 5 - 8 9 0 4 (丹羽)	niwa@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
		前期	
授業概要			
まず上代の文字表記の特質、万葉集の構成、語法について講義する。続いて万葉集の主要歌人の作品を取り上げ、諸本の本文、訓みを確認し、問題点を明らかにした上で、あるべき訓みを検討し、作品の解釈、文学史的意義について考察する。その方法を踏まえて、学生による発表を行う。			
学修目標			
<ul style="list-style-type: none"> ・上代の表記、語法についての知識、理解を深める。 ・万葉集の作品への理解を深める。 ・上代文学に影響を与えた中国文学についての関心を高める。 			
授業計画			
第1回：上代の表記 第2回：万葉集の諸本、訓みの歴史 第3回：額田王の作品 第4回：柿本人麻呂の作品 第5回：志貴皇子の作品 第6回：山上憶良の作品 第7回：大伴旅人の作品 第8回：山部赤人の作品 第9回：大伴坂上郎女の作品 第10回：大伴家持の作品 第11回：東歌・防人歌 第12回：学生による発表（1 万葉第一期の作品対象） 第13回：学生による発表（2 万葉第二期の作品対象） 第14回：学生による発表（3 万葉第三期の作品対象） 第15回：学生による発表（4 万葉第四期の作品対象）			
授業外学習（予習・復習）			
予習：講義で扱う作品に目を通しておく。 復習：参考としてあげた作品・文献を読むことで知識を広げ、考えを深める。			
教科書			
『新校注 万葉集』（和泉書院）			
参考書			
『万葉事始』（和泉書院）			
成績の評価基準			
最終レポート（80%）、授業中の態度（発表、質問、討論）（20%）			
オフィスアワー			
授業終了後、非常勤講師室			
アクティブ・ラーニング			
アクティブ・ラーニング（その他の内容）			

アクティブ・ラーニング (授業回数)

備考 (受講要件)

免許教科の必修授業科目：国語。

実務経験のある教員による実践的授業

ドイツ言語・文化演習 1 a (旧 ヨーロッパ言語コミュニケーション1)
ナンバリングコード

FHS-DIH2144

科目名

ドイツ言語・文化演習 1 a (旧 ヨーロッパ言語コミュニケーション1)

英語名

German Language & Culture 1a

開講学科

コース

人文学科 新旧共通

多元地域文化コース

授業科目区分

授業形態

単位数

開講期

人文・多元地域文化コース
/ 選択科目

演習

2単位

2~4年

担当教員

連絡先 (TEL)

連絡先 (MAIL)

與倉アンドレーア

099-285-7578

yokura@leh.kagoshima-u.ac.jp

共同担当教員

前後期

前期

授業概要

1. 演習中心のドイツ語初級作文の授業である。
2. 簡単なドイツ語文を書く能力を修得することを、第一の目標とする。そのために、ドイツ語による手紙や履歴書、日記等の書式に関する基本的技術を教授しながら、受講者にも実際に書く訓練を行なう。
3. その他に、ドイツ語の発音と文法の基本的知識を教授する。

学修目標

基本的な用語等を使って自己表現する能力および相手の話の概略をつかみ取る聞き取り能力など、基本的なコミュニケーション能力を身につけること。

授業計画

- 1回：オリエンテーション
- 2回：「レストランで」食事を注文する
- 3回：「レストランで」支払う
- 4回：「レストランで」話法の助動詞moechten, koennenなど
- 5回：「ホテルで」探す・予約する
- 6回：「ホテルで」直前予約のパック旅行
- 7回：「ホテルで」話法の助動詞moechten, koennen、及び指示代名詞
- 8回：ヨーロッパでの休暇
- 9回：「街で」道を尋ねる、両替する、
- 10回：「街で」切手を買う、タクシーに乗る
- 11回：「街で」定冠詞1・4格、不定冠詞4格、
- 12回：「旅行と交通」発車・到着時刻を訪ねる、
- 13回：「旅行と交通」駅で切符を買う、
- 14回：「旅行と交通」観光場所について話す、
- 15回：「旅行と交通」過去形 war, hatte、及び期末試験のための復習など、
- 16回：期末試験

授業外学習 (予習・復習)

予習・復習については第一回の授業で指示する。また、適宜指示する。

教科書

適宜プリントの配布

参考書

必要に応じて適宜紹介する

成績の評価基準

中間試験、小テスト、5~10分程度の発表(1回)、定期的な日記、および期末試験に基づき、総合的に評価する。

オフィスアワ -

月曜日3限目 (12:50 14:20)

アクティブ・ラーニング

グループワーク; ディベート; プレゼンテーション;

ドイツ言語・文化演習 1 a (旧 ヨーロッパ言語コミュニケーション1)
アクティブ・ラーニング (その他の内容)

アクティブ・ラーニング (授業回数)

15回中15回

備考 (受講要件)

?共通教育科目「第2外国語コア」としてドイツ語の単位を取得していること。

?ドイツ語圏の諸国またはドイツ語に大きな関心を持っていることが望ましい。

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード

科目名

英語学研究(旧 英語構造論)

英語名

English Linguistics

開講学科

コース

人文学科 新旧共通

多元地域文化コース

授業科目区分

授業形態

単位数

開講期

人文・多元地域文化コース
/ 選択科目

講義

2単位

2~4年

担当教員

連絡先(TEL)

連絡先(MAIL)

末松信子

099-285-7572

suematsu@leh.kagoshima-u.ac.jp

共同担当教員

前後期

後期

授業概要

英文法書を読みながら、文法用語を復習する。学習内容に関する問題について考えながら、英語の構造についての理解を深める。

学修目標

英語の構造について理解し、説明することができる。英文法の知識に則った正しい英文を書くことができる。

授業計画

- 第1回：ガイダンス
- 第2回：動詞と準動詞
- 第3回：名詞
- 第4回：冠詞
- 第5回：数量詞
- 第6回：形容詞
- 第7回：時制
- 第8回：進行形、完了形
- 第9回：時制の一致
- 第10回：話法
- 第11回：仮定法
- 第12回：関係節
- 第13回：比較構文
- 第14回：構文の書き換え
- 第15回：総括

授業外学習(予習・復習)

予習： 指定された箇所を予め読んで予習しておくこと。

復習： 授業内容を基に各自参考書を調べるなどして復習しておくこと。

教科書

畠山雄二『大学で教える英文法』くろしお出版、2011年

参考書

石黒昭博(監修)『総合英語 Forest 7th Edition』(桐原書店、2013)

綿貫陽、マーク・ピーターセン『表現のための実践ロイヤル英文法』(旺文社、2011)

江川泰一郎『英文法解説 改訂三版』(金子書房、1991)

成績の評価基準

文法用語および英語の構造について理解しているか、英文法の知識に則った正しい英文を書くことができるかについて、毎回のコメントシート(14%)および小テスト(86%)で評価する。

オフィスアワ -

水曜日 10:30~12:00

木曜日 10:30~12:00

アクティブ・ラーニング

学習の振り返り(ミニッツ・ペーパー等);

アクティブ・ラーニング(その他の内容)

アクティブ・ラーニング(授業回数)

備考(受講要件)

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード

FHS-DIH2217

科目名

西洋歴史・文化研究A(旧 西洋の歴史と社会A)

英語名

Western History & Culture A

開講学科

コース

人文学科 新旧共通

多元地域文化コース

授業科目区分

授業形態

単位数

開講期

人文・多元地域文化コース
/ 選択科目

講義

2単位

2~4年

担当教員

連絡先(TEL)

連絡先(MAIL)

細川道久

hos.leh.kagoshima-u.ac.jp は
アットマーク

共同担当教員

前後期

前期

授業概要

2017年に連邦結成150周年を迎えたカナダ。そのカナダの歴史を学びながら、それがイギリス帝国やアメリカ合衆国の影響をたえず受けてきた点を理解することで、カナダの歩みをイギリス帝国史・アメリカ合衆国史とつなぐ大西洋関係史的視点を修得する。さらに、大西洋関係史にとどまらず、太平洋関係史、さらにはグローバル・ヒストリーへと視野を広げることの重要性を理解する。

学修目標

カナダの歴史の大筋を説明したうえで、以下の点につき、具体的な事例を取り上げて解説する。1)カナダの対外的な関係の変容：他地域の影響、特に英米の外圧に対していかに対応してきたのか。イギリス帝国やアメリカ合衆国との関係がどのように変容したのか。2)対外的な関係の変容に応じたカナダ社会内部の変容：大西洋世界・太平洋世界・グローバルな社会変化の中で、カナダはどのような移民を受け入れ、それによって社会がどのように変化したのか。

授業計画

- 第1回：イントロダクション 授業のねらい；カナダに関する基礎データ
 第2回：タラと毛皮 ヨーロッパと北米
 第3回：フランス植民地期 英仏抗争のはざままで
 第4回：アメリカ独立戦争と1812年戦争 イギリス系カナダの成立
 第5回：連邦結成への道 外圧(イギリス帝国政策)からか？内なる運動(植民地自治)か？
 第6回：連邦結成後のカナダ 政治・経済・文化面での植民地性
 第7回：北大西洋世界におけるカナダ(1) 南アフリカ戦争
 第8回：北大西洋世界におけるカナダ(2) アラスカ国境紛争
 第9回：北大西洋世界におけるカナダ(3) 第1次世界大戦とイギリス帝国からの自立
 第10回：北大西洋世界におけるカナダ(4) 強まるアメリカ合衆国の影響
 第11回：北大西洋世界におけるカナダ(5) 第2次世界大戦
 第12回：北大西洋世界におけるカナダ(6) 真の独立へ向けて
 第13回：世界とカナダ(1) 移民の流入：包摂と排除(ヨーロッパ移民、アジア移民の処遇)
 第14回：世界とカナダ(2) 多文化主義への道
 第15回：まとめと補足：大西洋関係史から太平洋関係史へ、そしてグローバル・ヒストリーへ

授業外学習(予習・復習)

講義で扱う内容について、参考文献で事前に予習しておくことが望ましい。また、講義資料や参考文献をもとに講義内容について復習しておくことが望ましい。

教科書

特に指定しない。

参考書

以下のうち、最低1冊は読むこと。『カナダの歴史がわかる25話』細川道久著・明石書店、『カナダ史を知るための50章』細川道久編著・明石書店、2017年『新版 史料が語るカナダ』日本カナダ学会編・有斐閣、『カナダ史』木村和男編著・山川出版社。その他、適宜紹介する。

成績の評価基準

授業への取り組み態度、および、小テスト(複数回)。小テストの実施日は、授業中に事前に通知する。(通常の試験期間には試験は行わないので注意してください。)イギリス帝国やアメリカ合衆国、あるいは世界全体の動きとカナダの歩みを関連づけて理解することは、「一国史」的理解とくらべて、どのような意義(面白さ)と問題点があるのか。単にカナダ史の事件に関する理解度を試すのではなく、関係史的視点と「一国史」的視点の双方に対する自分なりの批判的見解が持てるようになったかどうかを問い、評価する。

オフィスアワ -

金曜10時~11時

アクティブ・ラーニング

学習の振り返り(ミニッツ・ペーパー等);

アクティブ・ラーニング(その他の内容)

小テスト2回

アクティブ・ラーニング(授業回数)

備考(受講要件)

平成28年度以前の入学生については「西洋の歴史と社会A」に読み替える。

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
FHS-DHI2140			
科目名			
書道実習（旧 書道）			
英語名			
Japanese Calligraphy			
開講学科		コース	
人文学科 新旧共通		多元地域文化コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
人文・多元地域文化コース / 選択科目	実習	1単位	2～4年
担当教員		連絡先（TEL）	連絡先（MAIL）
松元徳雄		099 - 285-8904（丹羽）	niwa@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
		前期	
授業概要			
<p>中学校における書写教育の現況を概観し、その指導法を学習する。また、中学校書写教材と同じ課題を練習し、その執筆法を習得することに努める。さらに、楷書・行書を中心とした書の古典を学ぶことにより、書道全般の様式の技法の特徴を把握してもらうが、あくまでも中学校書写教育との関連性を重視する。</p>			
学修目標			
<p>(1) 書写教育の内容と特徴を把握する。 (2) 書写教育の的確な指導法を見につける。 (3) 楷書の特徴と基本的な技法を習得する。 (4) 行書の特徴と基本的な技法を習得する。 (5) 仮名の特徴と基本的な技法を習得する。</p>			
授業計画			
<p>第1回：書について（書体の特徴とその変遷） 第2回：中学校における書写教育について 第3回：楷書の特徴とその技法（基本点画の書き方） 第4回：楷書の特徴とその技法（細字の書き方） 第5回：楷書の古典とその技法 第6回：中学校で学ぶ楷書の基本とその応用 第7回：行書の特徴とその技法（基本点画の書き方） 第8回：行書の特徴とその技法（細字の書き方） 第9回：行書の古典とその技法 第10回：中学校で学ぶ行書の基本とその応用 第11回：仮名の特徴とその技法（いろは単体） 第12回：仮名の特徴とその技法（連綿） 第13回：仮名の古典とその技法 第14回：漢字仮名交じり書（1） 第15回：漢字仮名交じり書（2）</p>			
授業外学習（予習・復習）			
<p>事前に中学校書写の教科書を通覧しておくこと。授業後は、実習した課題を確認しながら、繰り返し練習をすること。</p>			
教科書			
書写教育に関するプリントと実物大の手本を配布する。			
参考書			
中学校書写教科書・書道の古典・書林			
成績の評価基準			
課題作品の提出（70%）、書写の態度（30%）を総合して評価する。			
オフィスアワ -			

集中講義期間中の月曜日～金曜日 1限～5限 当該教室

アクティブ・ラーニング

アクティブ・ラーニング（その他の内容）

アクティブ・ラーニング（授業回数）

備考（受講要件）

教員免許（中学国語）の必修科目。

実務経験のある教員による実践的授業

現代ヨーロッパ・アメリカ文化演習 1 (旧 フランス語圏言語文化演習3)
ナンバリングコード

FHS-DIH3104

科目名

現代ヨーロッパ・アメリカ文化演習 1 (旧 フランス語圏言語文化演習3)

英語名

Modern Cultural History of Europe & America 1

開講学科

コース

人文学科 新旧共通

多元地域文化コース

授業科目区分

授業形態

単位数

開講期

人文・多元地域文化コース
/ 選択科目

演習

2単位

2~4年

担当教員

連絡先 (TEL)

連絡先 (MAIL)

梁川英俊

099-285-8891

yanagawa@leh.kagoshima-u.ac.jp

共同担当教員

前後期

なし

後期

授業概要

フランス語のテキストを読む。

学修目標

- (1) フランス語の文法的な知識を深める。
- (2) フランス語の聴き取り能力を向上させる。
- (3) フランス語による日常生活に必要な語彙を修得する。
- (4) フランス語圏の文化について知識を深める。

授業計画

第1回 ガイダンス
第2回~第14回 テキスト購読および指導助言
第15回 まとめ

授業外学習 (予習・復習)

予習は必ず行ってください (1時間)。授業後は復習として、単語・構文等の見直しを必ず行ってください (1時間)。

教科書

指定しません。

参考書

必要に応じて、適宜紹介します。

成績の評価基準

授業への取り組み態度 (50%) + 期末試験 (50%)

オフィスアワー

特に設けません。事情に応じて対応します。

アクティブ・ラーニング

プレゼンテーション;

アクティブ・ラーニング (その他の内容)

アクティブ・ラーニング (授業回数)

毎回

備考 (受講要件)

実務経験のある教員による実践的授業

ドイツ言語・文化演習 1 b (旧 ドイツ語テキスト演習)
ナンバリングコード

FHS-DIH2143

科目名

ドイツ言語・文化演習 1 b (旧 ドイツ語テキスト演習)

英語名

German Language & Culture 1b

開講学科

コース

人文学科 新旧共通

多元地域文化コース

授業科目区分

授業形態

単位数

開講期

人文・多元地域文化コース
/ 選択科目

演習

2単位

2~4年

担当教員

連絡先 (TEL)

連絡先 (MAIL)

竹岡健一

takeoka@leh.kagoshima-u.ac.jp

共同担当教員

前後期

前期

授業概要

比較的やさしいドイツ語の文章を読みながら、読解力を中心に、ドイツ語を読み・書き・聞く力を高めて行きます。また、ドイツ語圏の文化についても学びます。

専門分野(コース等)にかかわらず、ドイツ語の能力を伸ばしたいと思う人はぜひ履修して下さい。

学修目標

(1)比較的平易なドイツ語の長文を、辞書や文法書を使いながら訳読することができる。

(2)ドイツ語文法の理解を確かなものにする。

授業計画

第1回 オリエンテーション

第2回~第13回 テキストの訳読とドイツ語圏の文化

第14・15回 ドイツ映画鑑賞

授業外学習(予習・復習)

予習: 毎回の授業で扱うテキストを訳す。1時間程度。

復習: 予習で理解が不十分だった箇所について、確認を行う。また、基礎的な単語や慣用句を確認し、覚える。30分程度。

教科書

使用しない。授業中にプリントを配布する

参考書

授業中に紹介する。

成績の評価基準

「授業への取り組み態度」

オフィスアワー

特に時間は設けない。質問などがあれば、随時申し出ること。

アクティブ・ラーニング

アクティブ・ラーニング(その他の内容)

アクティブ・ラーニング(授業回数)

備考(受講要件)

共通教育における「初級独語?・?」と同じレベルのドイツ語文法の学習を終えていること。

平成28年度以前入学生は「ドイツ語テキスト演習」に読み替え。

プロジェクター、DVD使用

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
FHS-DHH2128			
科目名			
アジア言語研究A(旧 中国語学)			
英語名			
Asian Linguistics A			
開講学科		コース	
人文学科 新旧共通		多元地域文化コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
人文・多元地域文化コース / 選択科目	講義	2単位	2~4年
担当教員		連絡先 (TEL)	
三木夏華		sanmu@leh.kagoshima-u.ac.jp	
共同担当教員		連絡先 (MAIL)	
		前後期 前期	
授業概要			
中国語を共時的視点(地理的な差異)と通時的視点(歴史的変遷)の二つの視点から分析していく。共時的な面からは共通語と方言をテーマとして取り上げ、通時的側面からは漢語史(音韻史)の講義を行う。			
学修目標			
1) 中国語の地理的な観点から見た全体像を明らかにする。 2) 方言地図の分析を通して方言地理学の基礎を身につける。 3) 中国語の音韻史について理解を深める。			
授業計画			
第1回 ガイダンス 第2回 中国の地理的状況と中国語方言の分布 第3回 中国語の方言(北方方言) 第4回 中国語の方言(呉方言・?方言) 第5回 中国語の方言(客家方言・湘方言) 第6回 中国語の方言(粵方言・?方言) 第7回 中国語音韻学(声調) 第8回 中国語音韻学(韻母) 第9回 中国語音韻学(声母) 第10回 中国語の音韻変化と方言との関係(声調) 第11回 中国語の音韻変化と方言との関係(韻母) 第12回 中国語の音韻変化と方言との関係(声母) 第13回 方言地理学と方言地図(日本語) 第14回 方言地理学と方言地図(中国語) 第15回 方言地図作成演習 第16回 まとめ			
授業外学習(予習・復習)			
【予習】テキスト本文を日本語に訳し、十分予習をして授業に臨むこと。 (学習に係る標準時間は1時間)			
教科書			
随時プリントを配布する。			
参考書			
講義中に随時紹介する。			
成績の評価基準			
講義中のレポート50% + 学期末レポート(方言地図の作成)50%			
オフィスアワー			
木曜2限目			
アクティブ・ラーニング			
学習の振り返り(ミニッツ・ペーパー等); アクティブ・ラーニング(その他の内容)			

アクティブ・ラーニング(授業回数)

16回中7回

備考(受講要件)

受講においては中国語を一年以上履習していることが望ましい。

平成28年度以前入学生は「中国語学」に読み替え。

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
FHS-DFH2525			
科目名			
現代文化論演習 1 (旧 現代文化論演習)			
英語名			
Culture In Modern Society 1			
開講学科		コース	
人文学科 新旧共通		多元地域文化コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
人文・多元地域文化コース / 選択科目	演習	2単位	2~4年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
櫻井芳生		099-285-7544	sakurai.yoshio@nifty.com
共同担当教員		前後期	
		前期	
授業概要			
授業自体を一つのコミュニケーション・メディアと見なす。いろいろな問題意識をもった学生さんの相互啓発・批判の場を構築する。各自の自由研究発表を中心とする。どんなテーマを選んでもけっこうです。やり方は各人の境遇におうじて、くわしく説明します。就職や進学に関心の強い人も歓迎します。			
学修目標			
メディア・風評・美辞麗句にだまされない「批判的知性」を身につける。性淘汰の理論を(感情でなく)批判的に検討できるようになる			
授業計画			
第1回	ガイダンス		
第2回	文献の探し方		
第3回	文献の批判		
第4回	下級生による発表 現代文化的視点		
第5回	履修生によるコメント 現代文化的視点		
第6回	コメントへのリプライ 現代文化的視点		
第7回	上級生による発表 流行論的視点		
第8回	履修生によるコメント 流行論的視点		
第9回	コメントへのリプライ 流行論的視点		
第10回	下級生による発表 メディア論的視点		
第11回	履修生によるコメント メディア論的視点		
第12回	コメントへのリプライ メディア論的視点		
第13回	全体討議		
第14回	フューチャーワークへの示唆		
第15回	総評		
授業外学習 (予習・復習)			
期末に対応提出文を提出してもらうので、毎回の議論をよく復習しておくこと			
教科書			
なし			
参考書			
駿台文庫『論文ってどんなもんだい』。拙著『就活ぶっちゃけ成功ゼミ』(光文社)。桜井のHPの各文章			
成績の評価基準			
期末提出物(30%)、平常点(発表40%、発言30%)。黙って休む人には単位を認定しない。			
オフィスアワ -			
木曜 5 限			
アクティブ・ラーニング			
グループワーク; ディベート; プレゼンテーション;			
アクティブ・ラーニング (その他の内容)			
アクティブ・ラーニング (授業回数)			

15回中 15回

備考 (受講要件)

桜井に論文指導を受けたいひとは、毎年度必ずとってください(同じコマに他の必修や教職関連がある場合をのぞく)。むずかしくはないですが、かなり課題はおおくなるとおもいます。ラクしたいヒトはとらないように。
では、たのしみましょー！

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード

FHS-DIH2218

科目名

西洋歴史・文化研究B(旧 西洋の歴史と社会B)

英語名

Western History & Culture B

開講学科

コース

人文学科 新旧共通

多元地域文化コース

授業科目区分

授業形態

単位数

開講期

人文・多元地域文化コース
/ 選択科目

講義

2単位

2~4年

担当教員

連絡先(TEL)

連絡先(MAIL)

藤内哲也

099-285-8863

ttonai@leh.kagoshima-u.ac.jp

共同担当教員

前後期

後期

授業概要

テーマ：中近世ヨーロッパ都市の日常生活 イタリアを中心に

現代世界において、都市は政治や経済の中心地であるだけでなく、信仰や文化活動の場となり、豊かな消費生活や娯楽が展開されています。それでは、ローマやフィレンツェ、パリやロンドンのような中近世ヨーロッパの都市に暮らしていた人びとは、どのような日常生活が送っていたのでしょうか。本講義では、都市化の進んだ北中部イタリア諸都市をおもな対象として、都市の環境や政治・経済のしくみ、衣食住に関わる消費生活や信仰のかたちなど、具体的に考察します。

学修目標

- ・中近世ヨーロッパ都市における日常生活の諸相についての知識を得ます
- ・身近な視点から歴史世界について考える視座を獲得します

授業計画

- 第1回：都市の日常生活へのまなざし
- 第2回：都市の成立と発展
- 第3回：都市の空間と環境
- 第4回：支配のかたち
- 第5回：都市の社会構造：富者と貧者
- 第6回：商業と商人
- 第7回：外来者とマイノリティ
- 第8回：家と家族
- 第9回：労働の世界
- 第10回：食と健康
- 第11回：ファッションとモード
- 第12回：信仰のかたち
- 第13回：慈善と福祉
- 第14回：非日常の時間と空間
- 第15回：まとめと展望

授業外学習(予習・復習)

【予習】西洋史・都市史に関する知識が不足している場合には、参考書や初回授業時に紹介される概説書などを読んで基本的な事項について理解しておきます。

【復習】授業内容についてまとめ、授業時に紹介される参考文献などを読むことで、さらに理解を深めます。

教科書

指定しません

参考書

服部良久・南川高志・山辺規子編著『大学で学ぶ西洋史〔古代・中世〕』ミネルヴァ書房、2006年
 小山哲・上垣豊・山田史郎・杉本淑彦編著『大学で学ぶ西洋史〔近現代〕』ミネルヴァ書房、2011年
 齊藤寛海・山辺規子・藤内哲也編『イタリア都市社会史入門』昭和堂、2008年
 河原温『中世ヨーロッパの都市世界』山川出版社、1996年

河原温 『都市の創造力』岩波書店、2009年
 亀長洋子 『イタリアの中世都市』山川出版社、2011年
 その他の文献は、授業中に紹介します

成績の評価基準

定期試験（100%）：以下の問題を組み合わせた試験を行います

- (1) 語句に関する問題：重要なキーワードを理解していることを問います
- (2) 論述問題：授業全体にかかわるテーマを理解し、それを説明できることを問います

オフィスアワ -

随時（メールにてアポをとること）

アクティブ・ラーニング

アクティブ・ラーニング（その他の内容）

アクティブ・ラーニング（授業回数）

備考（受講要件）

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード

FHS-DHH2233

科目名

アジア歴史・文化演習 A 1 (旧 アジア史演習3)

英語名

Asian History & Culture A1

開講学科

コース

人文学科 新旧共通

多元地域文化コース

授業科目区分

授業形態

単位数

開講期

人文・多元地域文化コース
/ 選択科目

演習

2単位

2~4年

担当教員

連絡先 (TEL)

連絡先 (MAIL)

福永善隆

099(285)7561

fukunaga@leh.kagoshima-u.ac.jp

共同担当教員

前後期

前期

授業概要

テーマ：『史記』講読

『史記』は中国歴代王朝で編纂された正史のうち、最初のものである。その形式は以降の歴代正史に継承されている。本演習ではその秦代に関する部分の講読を通じ、司馬遷の歴史観などについて分析を行う予定である。

学修目標

- (1) 基礎的な漢文読解能力を身につける
- (2) 中国古代に関する基礎知識を身につける
- (3) 史料講読を通して、中国史の基礎的な分析視角を身につける

授業計画

第1回：イントロダクション

第2回：『史記』講読及び史料分析(1) テキスト312-313頁

第3回：『史記』講読及び史料分析(2) テキスト314頁

第4回：『史記』講読及び史料分析(3) テキスト317-318頁

第5回：『史記』講読及び史料分析(4) テキスト321頁

第6回：『史記』講読及び史料分析(5) テキスト322頁

第7回：『史記』講読及び史料分析(6) テキスト324頁

第8回：『史記』講読及び史料分析(7) テキスト325頁

第9回：『史記』講読及び史料分析(8) テキスト326頁

第10回：『史記』講読及び史料分析(9) テキスト327頁

第11回：『史記』講読及び史料分析(10) テキスト328頁

第12回：『史記』講読及び史料分析(11) テキスト328-329頁

第13回：『史記』講読及び史料分析(12) テキスト331頁

第14回：『史記』講読及び史料分析(13) テキスト333頁

第15回：総括

授業外学習 (予習・復習)

(予習) 毎回、テキストの指定箇所を前もって講読したうえで、出席することを求める。

(復習) 授業時に紹介した参考文献を読むことを推奨する

教科書

『史記会註考証』(上海古籍出版社、2015年)

参考書

適宜、参考論文を紹介する

成績の評価基準

レポート(70%)、受講態度(30%)

オフィスアワ -

授業・会議等以外であればいつでも可。

アクティブ・ラーニング

その他;

アクティブ・ラーニング (その他の内容)

アクティブ・ラーニング (授業回数)

15回中15回

備考 (受講要件)

必ず辞書を持参のこと。

平成22年度入学生版の『法文学部修学の手引』では、「アジア史演習」は「地理歴史」の教職免許取得のための「必修授業科目以外の授業科目」として記載されていませんが、平成23年度より教職科目として再記載されます。

実務経験のある教員による実践的授業

フランス言語・文化演習 2 (旧 フランス言語文化論演習 2)
ナンバリングコード

科目名

フランス言語・文化演習 2 (旧 フランス言語文化論演習 2)

英語名

French Language & Culture 2

開講学科

コース

人文学科 新旧共通

多元地域文化コース

授業科目区分

授業形態

単位数

開講期

人文・多元地域文化コース
/ 選択科目

演習

2単位

2~4年

担当教員

連絡先 (TEL)

連絡先 (MAIL)

鶴戸 聡

udo@leh.kagoshima-u.ac.jp

共同担当教員

前後期

前期

授業概要

フランス語会話に必要な発声の訓練を徹底的に行う。
一人一人、例文をクリアに発音する訓練を行い、聞き取ってもらうためのアドバイスを与える。

学修目標

- ・フランス語の発音を改善する。
- ・会話に必要なフレーズに習熟する。

授業計画

- ・声量、音素の弁別、イントネーションなどの観点からフランス語の発音を徹底的に訓練する。
- ・例文の解釈をする場ではないので、参加者は事前に予習しておくこと。その上で理解できないことがあれば授業中に説明する。
- ・例文の暗記は特に義務としないが、実際に話せるようになるためには出来るだけ記憶する努力が必要である。

授業外学習 (予習・復習)

予習：事前に該当ページを読み込んで文意を理解しておく (毎日 20 分程度)。
復習：文例の暗記に努める (毎日 20 分程度)。

教科書

仏アシミル社のサンペーヌ・シリーズから以下の『フランス語』(原文英語)を用いる。
"French", Assimil: Collection Sans peine, 2016.
ISBN-10: 2700507193
ISBN-13: 978-2700507195

参考書

開講時に指示する。

成績の評価基準

授業中の発言から評価するが、必要に応じて発表を課す。

オフィスアワ -

授業終了後。その他はメールにてアポをとること。

アクティブ・ラーニング

グループワーク; ディベート; プレゼンテーション;

アクティブ・ラーニング (その他の内容)

アクティブ・ラーニング (授業回数)

14回

備考 (受講要件)

教科書を共同購入するため、出来るだけ受講希望者は事前に連絡してほしい。
25ユーロ + 送料の実費を負担する必要がある。
フランス語の基礎文法を終えていること。
毎日フランス語の予習復習を行い、真剣に話せるようになるという目標を持つこと。

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
FHS-DIH2111			
科目名			
哲学研究A (旧 西洋の人間と思想A)			
英語名			
Western Philosophy A			
開講学科		コース	
人文学科 新旧共通		多元地域文化コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
人文・多元地域文化コース / 選択科目	講義	2単位	2~4年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
柴田健志		285-7533	siba@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
		前期	
授業概要			
哲学史上の重要問題を検討します。			
学修目標			
哲学史上の重要問題を理解し、それを明快な言語で叙述する方法を習得ことを到達目標とする。			
授業計画			
授業計画 第1回 ガイダンス 第2回 哲学史のストーリー 第3回 「魂」という原理 第4回 アテナイの哲学 第5回 地中海の哲学 第6回 科学革命の時代 第7回 デカルトの哲学 第8回 心身問題 第9回 経験論 第10回 超越論的観念論 第11回 生の哲学 第12回 ジェイムズ 第13回 ベルクソン 第14回 心の哲学 第15回 まとめ			
授業外学習 (予習・復習)			
予習 テキストの問題点を各自まとめる。			
復習 問題点の掘り下げと検討。			
教科書			
伊藤邦武 『物語 哲学の歴史』			
参考書			
授業の際に適宜紹介。			
成績の評価基準			
以下の3点からおこなう。?読解の妥当性40% ?理解の発展性30% ?論理の整合性30%			
オフィスアワ -			
授業終了後			
アクティブ・ラーニング			
学習の振り返り (ミニッツ・ペーパー等) ;			
アクティブ・ラーニング (その他の内容)			
アクティブ・ラーニング (授業回数)			

15回中3回

備考(受講要件)

受講要件:「哲学概論」および「倫理学概説」の単位を取得していることが望ましい。

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード

FHS-DIH2141

科目名

英語オーラルc (旧 英語コミュニケーション1D)

英語名

Oral English c

開講学科

コース

人文学科 新旧共通

多元地域文化コース

授業科目区分

授業形態

単位数

開講期

人文・多元地域文化コース
/ 選択科目

講義

2単位

2~4年

担当教員

連絡先 (TEL)

連絡先 (MAIL)

スティーブ コダ

285-7573

coke@leh.kagoshima-u.ac.jp

共同担当教員

前後期

前期

授業概要

Each week we will do discussions in English about a different social taboo topic. The course will contain authentic material and realistic tasks that will help prepare you for effective communication in everyday life. The topics will be chosen by the class at the beginning of semester

学修目標

This course will be focus on improving all of your English skills - listening, reading, writing and speaking. Although the course is not specifically designed as practice for English exams, it will include activities that will be helpful.

授業計画

Week 1 Introduction

Week 2 Unit from the course chosen by the class in Week 1

Week 3 Unit from the course chosen by the class in Week 1

Week 4 Unit from the course chosen by the class in Week 1

Week 5 Unit from the course chosen by the class in Week 1

Week 6 Unit from the course chosen by the class in Week 1

Week 7 Unit from the course chosen by the class in Week 1

Week 8 Unit from the course chosen by the class in Week 1

Week 9 Unit from the course chosen by the class in Week 1

Week 10 Unit from the course chosen by the class in Week 1

Week 11 Unit from the course chosen by the class in Week 1

Week 13 Unit from the course chosen by the class in Week 1

Week 14 Unit from the course chosen by the class in Week 1

Week 15 Unit from the course chosen by the class in Week 1

授業外学習 (予習・復習)

You will be given homework most weeks - this will include grammar practice and vocabulary building

教科書

Handouts will be given

参考書

Bring your dictionaries!

成績の評価基準

Homework 100%

オフィスアワ -

Anytime is ok, but to be sure mail me

アクティブ・ラーニング

グループワーク; ディベート;

アクティブ・ラーニング (その他の内容)

アクティブ・ラーニング (授業回数)

15回中15回

備考(受講要件)

You must have spent at least 6 months overseas in an English-speaking environment.

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード

FHS-DIH2122

科目名

イギリス演劇研究(旧 イギリス演劇論)

英語名

British Drama

開講学科

コース

人文学科 新旧共通

多元地域文化コース

授業科目区分

授業形態

単位数

開講期

人文・多元地域文化コース
/ 選択科目

講義

2単位

2~4年

担当教員

連絡先(TEL)

連絡先(MAIL)

大和高行

099-285-7570

yamato@leh.kagoshima-u.ac.jp

共同担当教員

前後期

後期

授業概要

イギリスの歴史を描いた映画について学んでゆきます。講義ではイギリスの歴史を描いた映画とその演出法の関係に焦点を当ながら、歴史がどのように表象されているか確認します。

学修目標

- 1、イギリスに歴史について述べることができる。
- 2、イギリスの歴史を描いた映画とその演出法の関係について述べるができる。

授業計画

第1回 ガイダンス(授業の目的、授業の進め方、評価基準等についての説明)

第2回 テューダー王朝「ヘンリー8世」『ブーリン家の姉妹』

第3回 テューダー王朝「トマス・モア」『わが命つきるとも』

第4回 テューダー王朝「ジェーン・グレイ」『レディ・ジェーン 愛と運命のふたり』

第5回 テューダー王朝「エリザベス1世」『エリザベス』

第6回 テューダー王朝「シェイクスピア」『恋におちたシェイクスピア』

第7回 テューダー王朝「メアリ・ステュアート」『メアリ・オブ・スコットランド』 第8回 17世紀「植民地」『テンペスト』

第9回 17世紀「ピューリタン革命」『クロムウェル』

第10回 17世紀「チャールズ2世」『恋の間 愛の光』

第11回 17世紀「貴族の生活」『リバティーン』

第12回 18世紀「英国と植民地」『レジェンド・オブ・ヒーロー ロブ・ロイ』

第13回 18世紀「七年戦争」『バリー・リンドン』

第14回 18世紀「イギリス海軍」『艦船バウンティ号の叛乱』

第15回 まとめと総合的評価。レポートを課し、最後にまとめの授業を行う。

授業中に小テストを課す場合がある。

授業外学習(予習・復習)

教科書に予め目を通し、予習しておくこと。また、毎回の講義を受けた後に、復習しておくこと。(学習に係る標準時間は約1時間)

教科書

吉田徹夫ほか編『映画で楽しむイギリスの歴史』金星堂、2010年

参考書

青山吉信(編)『世界歴史大系 イギリス史1 先世~中世』、山川出版社、1991年。

忍足欣四朗(訳)『ベーオルフ』(岩波文庫)、岩波書店、1990年。

中村邦生・大神田 丈二・木下 卓(編著)『たのしく読めるイギリス文学 - 作品ガイド150 (シリーズ・文学ガイド)』ミネルヴァ書房、1994年。

その他、必要に応じて適宜、指定する。

成績の評価基準

授業中の討論等への積極的な参加態度等(30%)、授業内での小論文または小テスト(40%)、レポート(30%)とし、総合的に評価します。

オフィスアワ -

曜日・時間：毎週水曜日9:15～10:15、場所：大和研究室

アクティブ・ラーニング

学習の振り返り(ミニッツ・ペーパー等)；

アクティブ・ラーニング(その他の内容)

アクティブ・ラーニング(授業回数)

15回中14回

備考(受講要件)

実務経験のある教員による実践的授業

該当せず。

ナンバリングコード

FHS-DHH2136

科目名

中国言語文化演習B1 (旧 中国言語文化論演習)

英語名

Chinese Language & Culture B1

開講学科

コース

人文学科 新旧共通

多元地域文化コース

授業科目区分

授業形態

単位数

開講期

人文・多元地域文化コース
/ 選択科目

演習

2単位

2~4年

担当教員

連絡先 (TEL)

連絡先 (MAIL)

中筋健吉

099-285-8893

gunshi@leh.kagoshima-u.ac.jp

共同担当教員

前後期

後期

授業概要

李白の擬古賦を讀んでみる」

李白は若年より詩賦の創作にはげみ、賦については生涯に8篇の作品を残している。隋唐期に勃興した「文選学」によりその存在がクローズアップされた梁・昭明太子撰『文選』は、唐代における官吏登用・科擧の開始と、試験科目に詩賦の制作が必須となったことも相まって、受験者のみならず詩文の創作を志す人々にとって「模範的」な総集となった。李白もこの『文選』の講読により、詩文の創作を学んだふしがある。

本授業では、梁・江淹「恨賦」(『文選』巻16)との比較を通じて、李白による「擬恨賦」を清・王?注、時翌晉荅爐 茲喙觀眈襪砲茲訝躄舛鬚發箸帽崙匹垢襦

学修目標

本作品および関連する作品の講読、またそれを通じて中国古典文学作品や注釈の読解方法、および関連する各種文献の取り扱い方を学ぶ。

授業計画

各受講者は割り振られた作品について読解発表を行なう。事前に配布するテキストプリントにもとづいて、詩の原文、書き下し、出典、語釈等をレジュメにまとめ、担当当日に受講者全員に配布すること。

受講者数またその他の事情により、授業計画を変更する場合がある。

第1回 ガイダンス

第2回 李白略歴

第3回 『文選』について

第4回 発表と討論(1) 梁・江淹「恨賦」(1)

第5回 発表と討論(3) 梁・江淹「恨賦」(2)

第6回 発表と討論(4) 梁・江淹「恨賦」(3)

第7回 発表と討論(5) 梁・江淹「恨賦」(4)

第9回 発表と討論(6) 李白「擬恨賦」(1)

第10回 発表と討論(7) 李白「擬恨賦」(2)

第11回 発表と討論(8) 李白「擬恨賦」(3)

第12回 発表と討論(9) 李白「擬恨賦」(4)

第13回 発表と討論(10) 李白「擬恨賦」(5)

第14回 発表と討論(11) 李白「擬恨賦」(6)

第15回 まとめと討論

授業外学習(予習・復習)

予習: 毎回の授業で講読する作品について、事前に辞書等を検索し、自らも読解して出席すること。

復習: 授業にもとづいて、自分の読解を再検討すること。

教科書

事前にテキストプリントを配布する。

参考書

梁・江淹「恨賦」については梁・昭明太子撰『文選』の日本語訳注本(集英社版、明治書院版あり)を参照のこと

と。李白については、武部利男『李白』(上・下)(岩波中国詩人選集)、松浦知久『李白詩選』(岩波文庫)、金文京『李白 漂泊の詩人 その夢と現実』(岩波書店)、宇野直人(他)『李白 巨大なる野放図』(平凡社)等を参照のこと。

成績の評価基準

授業中の発表報告とレジュメ(50%)および期末レポート(50%)の結果を考慮して総合的に評価する。

オフィスアワ -

不在時以外随時。但し、事前にメールにてご連絡下さい。

アクティブ・ラーニング

ディベート; プレゼンテーション; 学習の振り返り(ミニッツ・ペーパー等);

アクティブ・ラーニング(その他の内容)

アクティブ・ラーニング(授業回数)

15回中12回(予定)

備考(受講要件)

平成28年度以前の入学生については「中国言語文化論演習」に読み替える

本シラバスはあくまで計画であるので、受講者数その他の状況によって、適宜変更の可能性もある。変更の際は通知する。

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
FHS-DGH2233			
科目名			
考古学演習 1 a (旧 物質文化論演習)			
英語名			
Archaeology 1a			
開講学科		コース	
人文学科 新旧共通		多元地域文化コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
人文・多元地域文化コース / 選択科目	演習	2単位	2~4年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
渡辺芳郎		099-285-7539	watanabe@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
		前期	
授業概要			
<p>学術論文はどのような構成になっているか、を理解するために、考古学関係の論文を用いながら、受講生がその論文に関するレジюмеを作成し、発表する。また4年生は卒業論文の進捗状況について発表する。</p>			
学修目標			
<p>学術論文の構成を理解するとともに、自らが卒業論文を書くための基礎的知識と技能を修得する。</p>			
授業計画			
<p>第1回 ガイダンス 第2回 学生による発表とディスカッション1 第3回 学生による発表とディスカッション2 第4回 学生による発表とディスカッション3 第5回 学生による発表とディスカッション4 第6回 学生による発表とディスカッション5 第7回 学生による発表とディスカッション6 第8回 学生による発表とディスカッション7 第9回 学生による発表とディスカッション8 第10回 学生による発表とディスカッション9 第11回 学生による発表とディスカッション10 第12回 学生による発表とディスカッション11 第13回 学生による発表とディスカッション12 第14回 学生による発表とディスカッション13 第15回 学生による発表とディスカッション14</p>			
授業外学習 (予習・復習)			
<p>各学生による発表を主体とするので、そのための予習は必須。また授業での議論・指摘等をもとに復習が望ましい。</p>			
教科書			
参考書			
<p>授業中、適宜紹介する。</p>			
成績の評価基準			
<p>平常点・期末レポート</p>			
オフィスアワ -			
<p>授業・会議のない時間ならばいつでも可。</p>			
アクティブ・ラーニング			
<p>ディベート; プレゼンテーション;</p>			
<p>アクティブ・ラーニング (その他の内容)</p>			
<p>学生が選択した論文をレジюмеにまとめ発表し、その内容について議論する。</p>			
<p>アクティブ・ラーニング (授業回数)</p>			
<p>15回中14回</p>			

備考 (受講要件)

平成23年度以前の入学生は「物質文化論演習」に読み替える。

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
FHS-DFH4102			
科目名			
言語と文化演習			
英語名			
Language & Culture 1			
開講学科		コース	
人文学科 新旧共通		多元地域文化コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
人文・多元地域文化コース / 選択科目	演習	2単位	2～4年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
太田一郎			
共同担当教員		前後期	
		後期	
授業概要			
小説やドラマ, 電子ネットワークなどメディアの言語を資料として, コンピュータを利用したテキスト分析の方法を学び, 現代の日本語に観察される様々な現象を, 周辺分野の論考も参考にしながら実証・考察するための研究力を身につける。実習はグループワークによる。今年度はとくに社会現象と言語との関わりをテキスト分析により考察したい。			
学修目標			
1 コンピュータによるテキスト分析で, 小説やドラマ, 電子ネットワークなど多様な言語のあり方を計量的にとらえる手法を身につける 2 調査データから結論を導くことができるようになる 3 言語, 社会, 文化の様々な現象を捉える視点を養う			
授業計画			
第1回 ガイダンス 第2回 文献研究 1 大塚英志「感情化する社会」(予定) 第3回 文献研究 2 岡本真一郎「悪意の心理学」(予定) 第4回 テキスト分析概説(1) テキスト分析の目的 第5回 テキスト分析概説(2) 分析用アプリケーション使用法実習 第6回 グループワークによるテキスト分析の実習(1) 分析用テキストの作成 第7回 グループワークによるテキスト分析の実習(2) 分析手法の実習 第8回 グループワークによるテキスト分析の実習(3) データ収集 第9回 グループワークによるテキスト分析の実習(4) データ分析 第10回 中間発表 第11回 グループワークによるテキスト分析の実習(5) 調査分析の修正 第12回 グループワークによるテキスト分析の実習(6) 分析結果まとめ 第13回 分析結果の発表と討論 (1) グループ1～3 第14回 分析結果の発表と討論 (2) グループ4～6 第15回 まとめ			
(作業の進み具合などによって, 計画・内容は変更することがある)			
授業外学習(予習・復習)			
予習: 授業前に必ず教科書, 文献等に目を通しておくこと。関係図書が指定された場合は必ず目を通して授業に望むこと。(30-60分) 復習: 各回の内容を教科書等を読み確認すること(30分)			
教科書			
指定しない			
参考書			
大塚英志『感情化する社会』(太田出版) 岡本真一郎『悪意の心理学』(中公新書)			

ナンバリングコード			
FHS-DFH2114			
科目名			
言語と文化			
英語名			
Language & Culture			
開講学科		コース	
人文学科 新旧共通		多元地域文化コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
人文・多元地域文化コース / 選択科目	講義	2単位	2～4年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
太田一郎			
共同担当教員		前後期	
		前期	
授業概要			
テーマ：ことばの変化と社会的要因，新語の広がり，ことばのスタイル			
<p>言語学は「ことばの仕組み」とそれにまつわるさまざまな問題を考える。ことばにはさまざまなレベルでバリエーション（変異）が観察されるが，今回の講義では，ことばのバリエーション（言語変異）研究の考え方とその成果を通してことばと（文化を含めた）社会のつながりについて考える。分析の例には，インターネットを利用した研究や，「やばい」など若い人がよく使うことばも取り上げる。受講者自身が自分たちがつかうことばがどのように社会の中にひろがり，ことばがどのように変わっていくのかを科学的に考える機会にする。</p>			
学修目標			
<p>(1) 人間のことばの一般的な性質について述べることができる (2) ことばにかんする問題の本質をとらえて考えることができる (3) ことばの問題をとおして，社会を偏りなくとらえる視点を学ぶ</p>			
授業計画			
<p>第1回 ガイダンス(授業概要,成績評価,レポート提出方法の説明など) 第2回 ことばの多様性に目をひらく 第3回 年齢差をつかむ 第4回 時間からことばの変化をさぐる 第5回 国会会議録をつかう 第6回 英語のコーパスをつかう 第7回 『日本語話し言葉コーパス』をつかう 第8回 バリエーションを分析する 第9回 発音の変化を分析する 第10回 日本語のメロディを考える 第11回 強勢のバリエーションをとらえる 第12回 日本語動詞可能形の変遷をたどる 第13回 「やばい」の変化を分析する 第14回 「全然」の変化を分析する 第15回 ことばのスタイルを理解し応用する (予定と内容は変更することもある)</p>			
【重要な注意】			
<p>受講希望者が多数の場合は，レポートを書かせて受講者数を制限します。レポートに関する説明をしますので『初回は必ず出席』してください。出席していない場合は，受講を認めないことがあります。</p>			
授業外学習（予習・復習）			
<p>予習：指定された資料等に目を通して授業に参加すること（60分） 復習：毎回講義内容をまとめ，論点を整理し，疑問点等を確認すること（60分）</p>			
教科書			

日比谷潤子（編著）『はじめて学ぶ社会言語学』（ミネルヴァ書房）

参考書

中尾俊夫ほか『社会言語学概論』くろしお出版
 レズリー・ミルロイ『生きたことばをつかまえる』松柏社
 ピーター・トラッドギル『言語と社会』岩波書店
 Meyerhoff, Miriam. (2011) *Introducing Sociolinguistics*, Routledge.
 Labov, William (1972) *Sociolinguistic Patterns*, PUP.
 Tagliamonte, Sali. (2006) *Analysing Sociolinguistic Variation*, CUP.
 Tagliamonte, Sali. (2011) *Variationist Sociolinguistics*, Wiley-Blackwell.

成績の評価基準

毎授業後のレポート100%（出席していない者のレポートは提出しても採点対象外）

オフィスアワー

月曜5限 研究室

アクティブ・ラーニング

学習の振り返り（ミニッツ・ペーパー等）；

アクティブ・ラーニング（その他の内容）

アクティブ・ラーニング（授業回数）

15回中15回

備考（受講要件）

（１）ことばの問題に関心のある人。（２）授業予定，内容は必要に応じて変更することもあります。（３）この授業が選択科目である人文学科 旧「メディアと現代文化コース」と旧「日本とアジアコース」人たちは「無条件で」履修を認めます。（４）毎週レポートを読んで採点するためあまり多数の受講者をかかえることはできません。受講希望者が多い場合は，初回にレポートを書かせて全体で100名程度に絞ります。そのため「初回の授業は必ず出席すること」。出席していない場合はそれ以後の受講資格を失います。選考に漏れた場合も，個別に申し出れば受講を許可することがありますので，そのときは申し出てください。（５）レポートの提出は授業の翌日の夜20時。毎回のレポートはかなり負担になります。そのつもりで受講してください。（６）レポート提出はパソコン・メールによる（ケータイメールは不可）（７）出席，遅刻等のチェックは厳しく行います。（８）私語厳禁。（９）受講態度不良の者は減点します。

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
FHS-DIH2110			
科目名			
哲学研究B (旧 西洋の人間と思想B)			
英語名			
Western Philosophy B			
開講学科		コース	
人文学科 新旧共通		多元地域文化コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
人文・多元地域文化コース / 選択科目	講義	2単位	2~4年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
近藤和敬		099-285-8910	kondo@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
		後期	
授業概要			
形而上学にたいする批判と応答、およびその考え方について学びます			
学修目標			
1. 形而上学の諸問題について理解する。 2. いくつかの形而上学体系について理解する。			
授業計画			
第1回：形而上学の諸問題と方法 第2回：形而上学の歴史と批判 第3回：形而上学のいくつかの方法と課題 第4回：人間の知識、言語、思考 第5回：真理と証拠、論証と根拠 第6回：懐疑主義、問題、不可知性 第7回：思考、リアリティ、不可能性、必然性 第8回：存在について 第9回：時間、時制、無時制、無時間 第10回：因果法則、物理、物質 第11回：生命と個物 第12回：意識について、性質、知覚、意識、言語 第13回：言語と思考 第14回：形而上学を作る存在者 第15回：哲学的論証			
授業外学習 (予習・復習)			
授業中にレジュメを配りますので、授業前にレジュメと自分で作成したノートで復習しておくことが望ましいです。毎回授業後にmanaba上で授業の振り返りと感想を掲示板に書いてもらいます。			
教科書			
とくにありません。授業中に資料を配布します。			
参考書			
ドゥルーズ『スピノザと表現の問題』『スピノザ 実践の哲学』 カヴァイエス『構造と生成II 論理学と学知の理論について』 マシュレイ『ヘーゲルかスピノザか』 ドゥルーズ/ガタリ『アンチ・オイディプス』 スピノザ『エチカ』『書簡集』『神学・政治論』『政治論』 カント『純粋理性批判』『実践理性批判』『判断力批判』『プロレゴメナ』			
成績の評価基準			
・授業中に、レポートを提出してもらいます。 評価基準：1) まとめとしての適切さ、2) 論理的整合性、3) 追加資料などの自主的な学習の有無			
オフィスアワ -			
授業のあとなど随時			

アクティブ・ラーニング

アクティブ・ラーニング (その他の内容)

アクティブ・ラーニング (授業回数)

備考 (受講要件)

哲学概論および倫理学概説をすでに受講済みであることが望ましいです (そこで話された内容は知っているものとして講義します)。

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード

FHS-DHH2233

科目名

アジア歴史・文化演習 B 1 (旧 アジア史演習4)

英語名

Asian History & Culture B1

開講学科

コース

人文学科 新旧共通

多元地域文化コース

授業科目区分

授業形態

単位数

開講期

人文・多元地域文化コース
/ 選択科目

演習

2単位

2~4年

担当教員

連絡先 (TEL)

連絡先 (MAIL)

大田由紀夫

099-285-7560

ota@leh.kagoshima-u.ac.jp

共同担当教員

前後期

前期

授業概要

テーマ：『明史紀事本末』

明朝一代の歴史を簡潔にまとめた『明史紀事本末』の明朝成立史に関する部分を講読していく予定である。

学修目標

基礎的な漢文読解能力を養うことをめざす。

授業計画

第1回 ガイダンス

第2回 『明史紀事本末』巻14、開国規模-1「(洪武四年)秋八月」条の読解

第3回 『明史紀事本末』巻14、開国規模-2「(洪武)五年夏六月甲申」条の読解

第4回 『明史紀事本末』巻14、開国規模-3「(洪武五年)命仍祀孟子」条の読解

第5回 『明史紀事本末』巻14、開国規模-4「(洪武六年)二月甲午」条の読解

第6回 『明史紀事本末』巻14、開国規模-5「(洪武六年)夏四月」条の読解

第7回 『明史紀事本末』巻14、開国規模-6「(洪武六年)秋八月」条の読解

第8回 まとめ(1)第2~7回の読解部分の復習・確認など

第9回 『明史紀事本末』巻14、開国規模-7「(洪武六年)九月庚戌」条の読解

第10回 『明史紀事本末』巻14、開国規模-8「(洪武六年)十二月」条の読解

第11回 『明史紀事本末』巻14、開国規模-9「(洪武)七年春正月庚午」条の読解

第12回 『明史紀事本末』巻14、開国規模-10「(洪武八年正月)丁亥」条の読解

第13回 『明史紀事本末』巻14、開国規模-11「(洪武)九年夏六月」条の読解

第14回 『明史紀事本末』巻14、開国規模-12「(洪武九年)閏九月庚寅」条の読解

第15回 まとめ(2)第9~14回の読解部分の復習・確認など

授業外学習(予習・復習)

演習で講読する史料の当該部分を事前に予習しておくことが望ましい。また、配布資料をもとに講読した部分について復習することが望ましい。

教科書

『明史紀事本末』(中華書局、1977年)。史料プリントを配布。

参考書

参考文献リストを配布。

成績の評価基準

史料理解度60%、発言評価点40%

オフィスアワー

授業・会議等以外であればいつでも可。

アクティブ・ラーニング

アクティブ・ラーニング(その他の内容)

アクティブ・ラーニング(授業回数)

備考(受講要件)

必ず辞書持参のこと。

平成18年度以降の入学生は2単位、平成17年度以前の入学生は1単位となります。

平成22年度入学生版の『法文学部修学の手引』では、「アジア史演習」は「地理歴史」の教職免許取得のための「必修授業科目以外の授業科目」として記載されていませんが、平成23年度より教職科目として再記載されています。

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード

FHS-DHH2131

科目名

日本近現代文学演習A1 (旧 日本文学演習)

英語名

Modern Japanese Literature A1

開講学科

コース

人文学科 新旧共通

多元地域文化コース

授業科目区分

授業形態

単位数

開講期

人文・多元地域文化コース
/ 選択科目

演習

2単位

2~4年

担当教員

連絡先 (TEL)

連絡先 (MAIL)

多田蔵人

共同担当教員

前後期

前期

授業概要

テーマ： 幻想小説を読む

日本の近代文学のなかには、いわゆる幽霊や妖怪、超常現象、神、魔術といった領域を描いた作品が、少なからざる割合で存在する。これらの作品は、書かれることによって何を夢想し、何を呼び寄せようとし、結果としてどのような事態を引き起こしていたのか。優れた作品を読み、調べてゆく過程で、そのことのヒントを見つけたいと思っている。毎回一篇の短篇を読みあわせ、発表者は調べた上で自分の解釈を発表し、討論を行う。比較的著名な作家とともに、今日あまり顧みられることのないマイナー作家の作品も取り扱う。

学修目標

- ・日本近代文学の基礎知識を習得し、文学的想像力の問題に関する知見を深める。

授業計画

授業計画

- 第1回：ガイダンス
- 第2回：泉鏡花『蠅を憎む記』
- 第3回：三島由紀夫『志賀寺上人の恋』
- 第4回：夢野久作『人の顔』
- 第5回：澁澤龍彦『護法』
- 第6回：谷崎潤一郎『天鷲絨の夢』
- 第7回：石川淳『瓜喰ひの僧正』
- 第8回：宮澤賢治『双子の星』
- 第9回：幸田露伴『望樹記』
- 第10回：佐藤春夫『指紋』
- 第11回：江戸川乱歩『目羅博士の不思議な犯罪』
- 第12回：岡本かの子『過去世』
- 第13回：円地文子『かの子変相』
- 第14回：久生十蘭『新残酷物語』
- 第15回：牧野信一『繰舟で往く家』

授業外学習 (予習・復習)

指定したテキストを必ず読んでくること。

教科書

授業時に適宜配布する。

参考書

成績の評価基準

毎回の提出物 (20%)、発表 (40%)、期末レポート (40%) を総合して評価する。

オフィスアワ -

月曜3限

アクティブ・ラーニング

アクティブ・ラーニング (その他の内容)

アクティブ・ラーニング (授業回数)

備考 (受講要件)

特になし。

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード

FHS-DIH2133

科目名

哲学演習 A 1 (旧 西洋の人間と思想A演習1)

英語名

Western Philosophy A1

開講学科

コース

人文学科 新旧共通

多元地域文化コース

授業科目区分

授業形態

単位数

開講期

人文・多元地域文化コース
/ 選択科目

演習

2単位

2~4年

担当教員

連絡先 (TEL)

連絡先 (MAIL)

柴田健志

285-7533

siba@leh.kagoshima-u.ac.jp

共同担当教員

前後期

前期

授業概要

- (1) 哲学的テキストの読解
- (2) レポートの作成

学修目標

古典的テキストを正確に読解し、レポートを作成する方法の習得を目標にします。

授業計画

授業計画

- 第1回 テキスト読解ガイダンス
- 第2回 テキスト読解：デカルト『第1省察』の概要
- 第3回 テキスト読解：デカルト『第2省察』の概要
- 第4回 テキスト読解：デカルト『第3省察』の概要
- 第5回 テキスト読解：デカルト『第4省察』の概要
- 第6回 テキスト読解：デカルト『第5省察』物質の観念
- 第7回 テキスト読解：デカルト『第5省察』幾何学
- 第8回 テキスト読解：デカルト『第5省察』神の存在論的証明
- 第9回 テキスト読解：デカルト『第5省察』生得観念
- 第10回 テキスト読解：デカルト『第5省察』必然性
- 第11回 テキスト読解：デカルト『第5省察』確実性
- 第12回 レポート作成法ガイダンス
- 第13回 レポート作成法：テーマ
- 第14回 レポート作成法：校正
- 第15回 レポート作成法：引用

授業外学習 (予習・復習)

- 予習 テキストの指定された範囲を精読。
- 復習 問題点の確認および検討。

教科書

デカルト『省察 情念論』中央公論

参考書

野田又夫『デカルト』岩波新書

成績の評価基準

以下の3点からおこなう。?読解の妥当性40% ?理解の発展性30% ?論理の整合性30%

オフィスアワ -

授業終了後

アクティブ・ラーニング

ディベート;

アクティブ・ラーニング (その他の内容)

アクティブ・ラーニング (授業回数)

15回のうち3回

備考 (受講要件)

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
FHS-DHH2134			
科目名			
中国文学演習A1 (旧 中国文学演習)			
英語名			
Chinese Literature A1			
開講学科		コース	
人文学科 新旧共通		多元地域文化コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
人文・多元地域文化コース / 選択科目	演習	2単位	2~4年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
高津孝		099-285-7562	gaojin@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
		前期	
授業概要			
中国文学(詩)の入門編。中国文学を学習するうえでの基礎的知識の習得を目的とする。中国文学において特に重要なジャンルである詩を取り上げて、その詩形、平仄、韻律、押韻等の基本的な知識や文法的特徴を講義し、また、辞書の種類、その使い方、各種参考図書についての基本的知識についても、あわせて説明を行う。			
学修目標			
漢和辞典の歴史、基本的事項についての理解を深める。中国古典詩についての規則を理解した上で、近体詩(五言絶句)の作成を実際に行う。また、テキストに基づいて、中国古典詩の読解を行う。以上を通じて、漢文読解の基本的事項についての理解を深めることを目標とする。			
授業計画			
第1回	ガイダンス		
第2回	漢和辞典の歴史：字書		
第3回	漢和辞典の歴史：韻書		
第4回	近体詩の規則：詩形、平仄、韻律、押韻		
第5回	近体詩の規則：特殊例		
第6回	范成大：秋日二絶		
第7回	范成大：窓前木芙蓉		
第8回	范成大：浙江小磯春日		
第9回	范成大：賞心亭再題		
第10回	范成大：読史		
第11回	范成大：宴坐庵		
第12回	范成大：姑悪		
第13回	范成大：楽神曲		
第14回	范成大：線糸行		
第15回	范成大：田家留客行		
授業外学習(予習・復習)			
予習：次の授業で扱う詩について、テキストの注釈を参考に意味を理解し、訓読できるようにしておくこと。約1時間。			
復習：授業中に学んだ内容について復習し、原文から訓読できるようにしておくこと。約30分			
その他：時間内で学習する中国古典詩は極めて限られています。小川環樹『唐詩概説』(岩波文庫)を始め、中国古典詩の解説書は文庫本で簡単に手に入ります。出来るだけ多くの作品に触れるようにしてください。			
教科書			
三野豊浩編『范成大詩選』(幻冬舎、2018年)			
参考書			
小川環樹『唐詩概説』(岩波文庫、2005年)			
周勳初『中国古典文学批評史』(高津孝訳、勉誠出版、2007年)			
川合康三『新編中国名詩選』上中下(岩波文庫、2015年)			
成績の評価基準			
課題提出(40%)と授業内での発表(40%)、意欲的に授業に参加したか(20%)で評価を行う。			

オフィスアワ -

金曜日・2限・高津研究室

アクティブ・ラーニング

プレゼンテーション;

アクティブ・ラーニング(その他の内容)

アクティブ・ラーニング(授業回数)

15回中10回

備考(受講要件)

実務経験のある教員による実践的授業

多言語文化論演習1a (旧 フランス語圏言語文化演習1)
ナンバリングコード

FHS-DIH2146

科目名

多言語文化論演習1a (旧 フランス語圏言語文化演習1)

英語名

Multilingual Cultures 1a

開講学科

コース

人文学科 新旧共通

多元地域文化コース

授業科目区分

授業形態

単位数

開講期

人文・多元地域文化コース
/ 選択科目

演習

2単位

2~4年

担当教員

連絡先 (TEL)

連絡先 (MAIL)

鶴戸 聡

099-285-8883

udo@leh.kagoshima-u.ac.jp

共同担当教員

前後期

前期

授業概要

- ・世界の文学を読む

本演習は2種類の内容を交互に取り扱う。

- 1) 隔週で古典から現代に至るアラブ文学を概観する。
- 2) 別の隔週で世界各地の短編小説を読む。

アラブ文学史については講師が中心になって概説し、適宜翻訳テキストを読む。

短編小説については、各自が事前に作品を読んできて、担当者の発表と全体の討議を行う。作品は読みやすい韓国や台湾の最近のものから、パキスタンやチベット、ハンガリーなどの日本であまり知られていないものまで色々読んでみたい。

学修目標

- ・アラブ文学史の概観を得る
- ・現代世界の様々な短編作品を読むことで、文化や人間について考察を深める。
- ・文学作品の読み方に習熟する。

授業計画

- ・上記授業概要及び学習目標に即して演習形式で行う。
- ・アラブ文学史の講義を隔週で挟むことによって、2週間に一つ短編作品を読んでいくリズムを作る。

授業外学習 (予習・復習)

予習: 作品を事前に読み、自分自身の考えを準備する (2時間程度)。

復習: 授業中の議論で得られた新たな課題について調査・検討する (1時間程度)。

教科書

適宜資料を配布する。また、大同生命が無料公開しているアジア文学の翻訳シリーズ (e-book) も利用する。

参考書

授業中に指示する。

成績の評価基準

授業への参加度 (必要に応じて発表担当を課す)

オフィスアワー

授業終了後。それ以外は随時。メールでアポイントメントを取ること。

アクティブ・ラーニング

ディベート; プレゼンテーション;

アクティブ・ラーニング (その他の内容)

アクティブ・ラーニング (授業回数)

7回

備考 (受講要件)

積極的に議論に参加し、自分の意見を述べること。

実務経験のある教員による実践的授業

西洋歴史・文化演習 B 1 (旧 西洋の歴史と社会演習B1)
ナンバリングコード

FHS-DIH2236

科目名

西洋歴史・文化演習 B 1 (旧 西洋の歴史と社会演習B1)

英語名

Western History & Culture B1

開講学科		コース	
人文学科 新旧共通		多元地域文化コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
人文・多元地域文化コース / 選択科目	演習	2単位	2~4年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
藤内哲也		099-285-8863	ttonai@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
		前期	

授業概要

中近世ヨーロッパ史に関する5つのテーマを取り上げ、日本語論文と英語訳史料を合わせて読むことで、当該テーマに関する知見を深めるとともに、歴史研究における問題の立て方や史料の分析方法、論の進め方について理解します。

学修目標

- ・ヨーロッパの歴史研究に必要な資料や論文の読解力を習得します
- ・ヨーロッパの歴史研究の視点や問題意識を習得します

授業計画

- 第1回：オリエンテーション
 第2回：信仰のかたち(1)：日本語テキスト
 第3回：信仰のかたち(2)：英語訳史料
 第4回：商業と商人(1)：日本語テキスト
 第5回：商業と商人(2)：英語訳史料 1-2頁
 第6回：商業と商人(3)：英語訳史料 3-4頁
 第7回：女性・子ども・家(1)：日本語テキスト
 第8回：女性・子ども・家(2)：英語訳史料 1-2頁
 第9回：女性・子ども・家(3)：英語訳史料 3-4頁
 第10回：芸術活動とパトロネイジ(1)：日本語テキスト
 第11回：芸術活動とパトロネイジ(2)：英語訳史料 1-2頁
 第12回：芸術活動とパトロネイジ(3)：英語訳史料 3-4頁
 第13回：祭りとソシアビリテ(1)：日本語テキスト
 第14回：祭りとソシアビリテ(2)：英語訳史料
 第15回：まとめと展望

授業外学習(予習・復習)

【予習】テキストを読み、疑問点などをまとめます。英語訳史料の場合には、テキストを読み、分からない単語や文法、用語などについて調べ、日本語訳を考えます。

【復習】テキストや討論の内容についてまとめます。また、参考文献などを読んで、さらに理解を深めます

教科書

指定しません(プリントを配布します)

参考書

服部良久・南川高志・小山哲・金沢周作編『人文学への接近法 西洋史を学ぶ』京都大学学術出版会、2010年
 井上浩一『私もできる西洋史研究』和泉書院、2012年
 このほかの文献については授業中に適宜紹介します

成績の評価基準

- ・授業への取り組み(50%)：テキストの予習・発表、討論への積極的な参加
- ・レポート(50%)：日本語テキストと英語訳史料のまとめ

オフィスアワ -

随時(メールにてアポをとること)

アクティブ・ラーニング

プレゼンテーション; その他;

アクティブ・ラーニング (その他の内容)

英文解釈の発表

アクティブ・ラーニング (授業回数)

15回中13回

備考 (受講要件)

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード

FHS-DGH2244

科目名

考古学実習1 (旧 フィールド学実習(考古学))

英語名

Practical Archaeology 1

開講学科

コース

人文学科 新旧共通

多元地域文化コース

授業科目区分

授業形態

単位数

開講期

人文・多元地域文化コース
/ 選択科目

実習

1単位

2~4年

担当教員

連絡先 (TEL)

連絡先 (MAIL)

渡辺芳郎、石田智子

099-285-7539

watanabe@leh.kagoshima-u.ac.jp

共同担当教員

前後期

未定

前期

授業概要

分布調査、発掘調査等をおこなう過程の中で、踏査および資料の記録化の方法、遺跡調査の基本技術としての測量の仕方、機器の扱い方等を実践的に学習する。遺構・遺物に対する正確な認識と実測技術を養成する。

学修目標

考古学研究の前提となる諸技術の習得を目標とする。

授業計画

土・日、祝日、長期休暇中等に学外において実施する。

授業外学習 (予習・復習)

授業で実施する技法修得のための予習・復習が望ましい。

教科書

なし

参考書

なし

成績の評価基準

平常点・レポートなど

オフィスアワ -

授業・会議のないときはいつでも可

アクティブ・ラーニング

グループワーク; フィールドワーク;

アクティブ・ラーニング (その他の内容)

考古学調査に必要なさまざまな技術を共同で学ぶ

アクティブ・ラーニング (授業回数)

備考 (受講要件)

「考古学実習2」もあわせて必ず受講すること。
必要経費は自己負担。

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
FHS-DHH2212			
科目名			
日本歴史・文化研究B(旧 日本文化史)			
英語名			
Japanese History & Culture B			
開講学科		コース	
人文学科 新旧共通		多元地域文化コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
人文・多元地域文化コース / 選択科目	講義	2単位	2~4年
担当教員		連絡先(TEL)	連絡先(MAIL)
金井静香		099-285-7553	kanai@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
		後期	
授業概要			
<p>文化史は近年多様化しており、日本史においても様々な物事に関して文化史が叙述されている。また、文化史は政治史や社会史、経済史といった中世史の他の分野とも関わっている。こうした状況をふまえ、本授業では、幅広い日本文化のなかから具体的な事物・現象をテーマとして選び、主に中世を中心とするその変遷をたどるとともに、そこから見えてくる中世の政治・社会・経済の実態について考察する。</p> <p>下記の「授業計画」では、「日記」をテーマとする開講期の授業計画を記す。</p>			
学修目標			
<p>(1) 日本の歴史および日本文化についての知識を習得する。</p> <p>(2) 日本史の史料を読み、その内容を理解できる。</p> <p>(3) 日本中世史の研究動向について理解し、自分で説明できる。</p>			
授業計画			
<p>第1回：ガイダンス</p> <p>第2回：鎌倉前期の日記(1) 鎌倉前期の朝幕関係</p> <p>第3回：鎌倉前期の日記(2) 天皇・上皇の日記</p> <p>第4回：鎌倉前期の日記(3) 一般公家の日記</p> <p>第5回：鎌倉中期の日記(1) 鎌倉中期の朝幕関係</p> <p>第6回：鎌倉中期の日記(2) 撰関の日記</p> <p>第7回：鎌倉中期の日記(3) 実務官人の日記</p> <p>第8回：鎌倉後期の日記(1) 鎌倉後期の朝幕関係</p> <p>第9回：鎌倉後期の日記(2) 関東申次の日記</p> <p>第10回：鎌倉後期の日記(3) 旅の日記</p> <p>第11回：鎌倉後期の日記(4) 女性の日記</p> <p>第12回：鎌倉後期の日記(5) 両統迭立と日記</p> <p>第13回：建武期の日記(1) 建武新政</p> <p>第14回：建武期の日記(2) 建武期を記録した日記</p> <p>第15回：総括</p> <p>定期試験</p>			
授業外学習(予習・復習)			
<p>配布されたレジュメと受講者が取ったノートを基に、講義内容を復習すること。また、本講義に関連する書籍や論文を探して読んでみることも、授業内容を理解するために役立つ。</p>			
教科書			
特になし。			
参考書			
授業中に適宜紹介または配布する。			
成績の評価基準			
期末試験によって評価する。			
オフィスアワ -			
あらかじめアポイントをとること。			

アクティブ・ラーニング

アクティブ・ラーニング(その他の内容)

アクティブ・ラーニング(授業回数)

備考(受講要件)

学芸員資格取得のための単位となる。漢文読解能力を有することが望ましい。

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード

科目名

考古学実習1 (旧 フィールド学実習(考古学))

英語名

Practical Archaeology 1

開講学科

コース

人文学科 新旧共通

多元地域文化コース

授業科目区分

授業形態

単位数

開講期

人文・多元地域文化コース
/ 選択科目

実習

1単位

2~4年

担当教員

連絡先 (TEL)

連絡先 (MAIL)

渡辺芳郎、石田智子

099-285-7549

ishida@leh.kagoshima-u.ac.jp

共同担当教員

前後期

後期

授業概要

分布調査、発掘調査等をおこなう過程の中で、踏査および資料の記録化の方法、遺跡調査の基本技術としての測量の仕方、機器の扱い方等を実践的に学習する。遺構・遺物に対する正確な認識と実測技術を養成する。

学修目標

考古学研究の前提となる諸技術の習得を目標とする。

授業計画

土・日、祝日、長期休暇中等に学外において実施する。

授業外学習 (予習・復習)

授業で実施する技法修得のための予習・復習が望ましい。

教科書

なし

参考書

なし

成績の評価基準

平常点・レポートなど

オフィスアワー

授業・会議のないときはいつでも可

アクティブ・ラーニング

グループワーク; フィールドワーク;

アクティブ・ラーニング (その他の内容)

考古学調査に必要なさまざまな技術を共同で学ぶ

アクティブ・ラーニング (授業回数)

備考 (受講要件)

「考古学実習2」もあわせて履修すること。必要経費は自己負担。

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
FHS-DIH3103			
科目名			
英語コミュニケーションB			
英語名			
English Communication B			
開講学科		コース	
人文学科 新旧共通		多元地域文化コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
人文・多元地域文化コース / 選択科目	演習	2単位	2～4年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
スティーブ・コダ		285-7573	coke@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
		後期	
授業概要			
The primary goal of this class is to learn how to structure your ideas for discussions as well as learning how to hold a formal debate.			
学修目標			
This class will focus on discussion and debate. Each week we will do different tasks in class to build your discussion skills as well as learning how to organise and participate in a formal debate. You will also be expected to continue your discussion practice outside of the classroom. This class will be useful if you are taking the 教員採用試験			
授業計画			
Week 1 Introduction			
Week 2 Learning how to explain your ideas			
Week 3 Practice			
Week 4 Learning how to organise your ideas			
Week 5 Practice			
Week 6 Learning how to support your ideas			
Week 7 Practice			
Week 8 Learning how to challenge others' ideas			
Week 9 Practice			
Week 10 Learning how to defend your ideas			
Week 11 Practice			
Week 12 Feedback			
Week 13 Group research for final debate			
Week 14 Group preparation for final debate			
Week 15 Final debate and peer evaluation (1st group)			
Week 16 Final debate and peer evaluation (2nd group)			
授業外学習 (予習・復習)			
You will be expected to gather information to use in your discussions/debates. You will also be expected to watch debates on Youtube - more information will be given about this in class. You will need access to an English dictionary - using your smartphone is ok.			
教科書			
None			
参考書			
None			
成績の評価基準			
Classwork 50%			
Final debate 50%			
オフィスアワ -			

Anytime is ok, but to mail me to make sure I'm in!

アクティブ・ラーニング

ディベート;

アクティブ・ラーニング(その他の内容)

アクティブ・ラーニング(授業回数)

15回中15回

備考(受講要件)

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード

FHS-DHH2139

科目名

日本古典文学リテラシー実習（旧 書誌学実習）

英語名

Literacy of Classical Japanese Literature

開講学科

コース

人文学科 新旧共通

多元地域文化コース

授業科目区分

授業形態

単位数

開講期

人文・多元地域文化コース
/ 選択科目

実習

2単位

2～4年

担当教員

連絡先（TEL）

連絡先（MAIL）

丹羽謙治

099-285-8904

niwa@leh.kagoshima-u.ac.jp

共同担当教員

前後期

前期

授業概要

和漢の古典文学を研究する場合、くずし字を読むことができ、古典籍全般に対する知識があることは重要なことである。本実習では、書籍の部位の名称などの基礎知識を持ち書籍の調査法について習熟した後、実際に書籍の調査を行う。また、毎時間さまざまなタイプのくずし字を読む訓練を行う。

学修目標

1. 日本・アジアの古典籍およびその歴史についての基礎知識を持つ。
2. 書誌調査の基本的作業に熟達する。
3. 文学諸ジャンルの形態についての知識を持つ。
4. 基本的なくずし字が読解できる。

授業計画

第1回：導入

第2回：書籍の構造と名称

第3回：日本の書物の歴史 / くずし字の読解練習

第4回：日本の印刷の歴史 / くずし字の読解練習

第5回：近世以前の書物 / くずし字の読解練習

第6回：近世の文学ジャンルと書物の形態（1） 仮名草子と浮世草子 / グループによる書誌調査 / くずし字の読解練習

第7回：近世の文学ジャンルと書物の形態（2） 読本 / 書誌調査の実践 / くずし字の読解練習

第8回：近世の文学ジャンルと書物の形態（3） 滑稽本 / 書誌調査の実践 / くずし字の読解練習

第9回：近世の文学ジャンルと書物の形態（4） 中本 / 書誌調査の実践 / くずし字の試験（1）

第10回：近世の文学ジャンルと書物の形態（5） 草双紙 / 書誌調査の実践 / くずし字の読解練習

第11回：近世の文学ジャンルと書物の形態（6） 和歌・俳諧・漢詩文 / 書誌調査の実践 / くずし字の読解練習

第12回：書誌調査の実践 往来物 / くずし字の読解練習

第13回：書誌調査の実践 一枚物 / くずし字の読解練習

第14回：書誌調査の実践 唐本 / くずし字の読解練習

第15回：まとめとくずし字の試験（2）

授業外学習（予習・復習）

教科書を繰り返し読み、専門用語の習得を行う（予習）、読めなかったくずし字の確認を行う（復習）。

教科書

堀川貴司『書誌学入門』（勉誠出版、2010年）

参考書

廣庭基介・長友千代治『日本書誌学を学ぶ人のために』（世界思想社）

橋口侯之介『和本入門』（平凡社）

藤井隆『日本書誌学総説』（和泉書院）

中野三敏『江戸の板本』（岩波書店）

児玉幸多編『くずし字読解辞典』（東京堂出版）

成績の評価基準

授業および課外で調査した調査カードをレポートとして提出、これを評価する（70%）。また、くずしの読解能力の試験を第9回と第15回に行う（30%）。

オフィスアワ -

月曜3限

アクティブ・ラーニング

アクティブ・ラーニング（その他の内容）

アクティブ・ラーニング（授業回数）

備考（受講要件）

教員免許（国語）の選択科目。平成28年以前入学生は「書誌学実習」（2単位）に読み替え。

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
科目名			
現代文化論			
英語名			
Culture In Modern Society			
開講学科		コース	
人文学科 新旧共通		多元地域文化コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
人文・多元地域文化コース / 選択科目	講義	2単位	2～4年
担当教員		連絡先 (TEL)	
櫻井芳生		0992857544	
		連絡先 (MAIL)	
		yoshiosakuraig@gmail.com	
共同担当教員		前後期	
		前期	
授業概要			
<p>テーマ「現代文化についてのリサーチ（調査）リテラシーの涵養」。まるまる一期（半年）かけて、現代文化に関する調査をおこないます。「手をつかう」課題がおおくなるので、【覚悟！】して履修してください。「どんなひとが恋愛に成功したか」「最近のスマホの使い方」も調査するかもしれません。</p>			
学修目標			
<p>現代文化に関して、自分で、仮説を構築し、調査を設計し、その検証ができるようになる。性淘汰の理論を批判的に（感情でなく）検討できるようになる</p>			
授業計画			
<p>第1回ガイダンス 第2回先輩学生のプレゼンテーション 第3回先行研究の検討 第4回先行研究への代案作成 第5回チームにわかれての、仮説構築・設問構築。文化チーム 第6回チームにわかれての、仮説構築・設問構築。流行チーム 第7回チームにわかれての、仮説構築・設問構築。メディアチーム 第8回チームにわかれての、仮説構築・設問構築。スマホチーム 第9回アンケートの作成 第10回アンケートの配布 第11回アンケートの回収 第12回収アンケートからのデータ入力 第13回データクリーニング 第14回データの分析 第15回各チームによる分析結果発表と相互評価</p>			
授業外学習（予習・復習）			
アンケート案の作成 分析			
教科書			
とくになし			
参考書			
拙著『就活ぶっちゃけ成功ゼミ』（光文社）。『文系のためのSPSS超入門』（プレアデス出版）。			
成績の評価基準			
<p>平常点50%、レポート50%。 履修者全員による共同プロジェクトですので、遅刻する人・黙って休む人には単位を認定しない。毎回の参加度・提出物による評価。</p>			
オフィスアワ -			
予約にて			
アクティブ・ラーニング			
<p>グループワーク；フィールドワーク；プレゼンテーション；学習の振り返り（ミニッツ・ペーパー等）； アクティブ・ラーニング（その他の内容）</p>			

アクティブ・ラーニング（授業回数）

15回中13回

備考（受講要件）

遅刻する人・黙って休む人には単位を認定しない。体調不調などの場合は事後でもいいので、必ずメール連絡すること。桜井に論文指導を受けたいひとは、毎期とってください（同じコマに他の必修や教職関連がある場合をのぞく）。むづかしくはないですが、かなり課題はおおくなるとおもいます。ラクしたいヒトはとらないように。ITについての予備知識は不要です。繰り返しの履修も可。統計についてはこのコマで十分ご教示できません。ので、統計関係の他の科目の履修を強くおすすめします。

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
FHS-DHH2132			
科目名			
日本語学演習A1 (旧 日本語構造論演習)			
英語名			
Japanese Linguistics A1			
開講学科		コース	
人文学科 新旧共通		多元地域文化コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
人文・多元地域文化コース / 選択科目	演習	2単位	2~4年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
内山弘		pon@leh.kagoshima-u.ac.jp	099-285-8906
共同担当教員		前後期	
		前期	
授業概要			
『天正狂言本』は天正六年(1578)七月の奥書を持つ、現存最古の狂言本である。収録曲は重複曲を除けばわずかに103曲、しかも粗筋や歌謡部分を記した梗概本に過ぎないが、室町期に成立した唯一の狂言本であり、日本語学的にも文学的にも極めて重要な資料を提供してくれる文献として知られている。			
本演習では、この『天正狂言本』を中心資料として、詞章の比較や語句の解釈等の具体的な作業を通して、室町時代の日本語に関する知識を深めるとともに、文献日本語史研究の方法について実地に習熟を図っていく。			
学修目標			
<ul style="list-style-type: none"> ・ 翻字や語釈の作成、台本の比較等の具体的な作業を通して日本語資料の基礎的な研究方法を具体的に学ぶことができる。 ・ 狂言台本という親しみやすい文献を通して古典の世界に親しむ下地を養成できる。 			
授業計画			
第1回: ガイダンス			
第2回: 受講生による演習の実施(1)「鬼松風」その1 (受講生の人数によって以降の割り当てを変更する場合がある)			
第3回: 受講生による演習の実施(2)「鬼松風」その2			
第4回: 受講生による演習の実施(3)「鬼松風」その3			
第5回: 受講生による演習の実施(4)「野中のし水」その1			
第6回: 受講生による演習の実施(5)「野中のし水」その2			
第7回: 受講生による演習の実施(6)「野中のし水」その3			
第8回: 受講生による演習の実施(7)「鬼のぬけがら」その1			
第9回: 受講生による演習の実施(8)「鬼のぬけがら」その2			
第10回: 受講生による演習の実施(9)「西の宮参」その1			
第11回: 受講生による演習の実施(10)「西の宮参」その2			
第12回: 受講生による演習の実施(11)「西の宮参」その3			
第13回: 受講生による演習の実施(12)「いとより」その1			
第14回: 受講生による演習の実施(13)「いとより」その2			
第15回: 受講生による演習の実施(14)「いとより」その3			
授業外学習(予習・復習)			
予習: 演習担当者は事前に教員に連絡を取り、演習内容について相談すること(必須)。			
復習: 演習時に指摘された内容を整理し、問題点について再調査して解決を図ること。			
教科書			
『天正狂言本』法政大学能楽研究所所蔵原本の複写			
参考書			
特に定めない。			
成績の評価基準			
レポート(50%)、授業への取り組み態度(演習内容、50%)			
オフィスアワー			
原則として事前にメールでアポイントメントを取ることを。			

アクティブ・ラーニング

プレゼンテーション;

アクティブ・ラーニング (その他の内容)

アクティブ・ラーニング (授業回数)

15回中14回

備考 (受講要件)

本授業に続けて日本語学演習B1も受講することが望ましい。

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード

FHS-DHH2230

科目名

日本歴史・文化演習 B 1 (旧 日本史演習V)

英語名

Japanese History & Culture B1

開講学科

コース

人文学科 新旧共通

多元地域文化コース

授業科目区分

授業形態

単位数

開講期

人文・多元地域文化コース
/ 選択科目

演習

2単位

2~4年

担当教員

連絡先 (TEL)

連絡先 (MAIL)

金井静香

099-285-7553

kanai@leh.kagoshima-u.ac.jp

共同担当教員

前後期

前期

授業概要

中世古記録の読解を行う。受講者は、テキストのなかから各自の担当箇所を割り当てられ、その箇所に見える語句や登場する人物などについて事前に調べる。授業においては、出席している受講者全員が数行ずつ読み下しと現代語訳を行い、授業担当教員がそれを点検する。また、各受講者は自分に割り当てられた部分のなかから興味深いテーマを見だし、それについて調べ考察したことを発表する。

下記の「授業計画」では、『玉葉』寿永2年11月1日条終わり部分～同年12月7日条を読む開講期の授業計画を記す。

学修目標

- (1) 中世古記録の読解力を向上させる。
- (2) 史料を用いた研究の方法に習熟する。
- (3) 自ら課題を設定し、それについて考察することができる。

授業計画

第1回：ガイダンス

第2回：寿永2年11月1日終わり部分の読み下し及び現代語訳

第3回：寿永2年11月1日終わり部分の現代語訳及びテーマ考察発表

第4回：寿永2年11月2日～同月9日条の読み下し及び現代語訳

第5回：寿永2年11月2日～同月9日条の現代語訳及びテーマ考察発表

第6回：寿永2年11月10日～同月14日条前半の読み下し及び現代語訳

第7回：寿永2年11月10日～同月14日条前半の現代語訳及びテーマ考察発表

第8回：寿永2年11月15日～同月17日条の担当箇所の読み下し及び現代語訳

第9回：寿永2年11月15日～同月17日条の現代語訳及びテーマ考察発表

第10回：寿永2年11月18日～同月19日条前半の読み下し及び現代語訳

第11回：寿永2年11月18日～同月19日条前半の現代語訳及びテーマ考察発表

第12回：寿永2年11月19日後半～同月30日条の読み下し及び現代語訳

第13回：寿永2年11月19日後半～同月30日条の現代語訳及びテーマ考察発表

第14回：寿永2年12月1日～同月7日条の読み下し及び現代語訳

第15回：寿永2年12月1日～同月7日条の現代語訳及びテーマ考察発表

授業外学習 (予習・復習)

受講者は各自、予習としてテキストの読み下しと現代語訳を行う。発表を担当する受講者は、レジュメの作成も行う。

教科書

『玉葉』『看聞日記』などの中世古記録を予定している。

参考書

授業中に適宜紹介または配布する。

成績の評価基準

読み下し及び現代語訳 (35%)、テーマ考察の発表もしくはレポート (35%)、授業への取り組み態度 (30%)。

オフィスアワ -

あらかじめアポイントをとること。

アクティブ・ラーニング

アクティブ・ラーニング (その他の内容)

アクティブ・ラーニング (授業回数)

備考 (受講要件)

実務経験のある教員による実践的授業

フランス言語・文化演習 1 (旧 フランス言語文化論演習1)
ナンバリングコード

FHS-DIH2145

科目名

フランス言語・文化演習 1 (旧 フランス言語文化論演習1)

英語名

French Language & Culturea 1

開講学科

人文学科 新旧共通

コース

多元地域文化コース

授業科目区分

人文・多元地域文化コース
/ 選択科目

授業形態

演習

単位数

2単位

開講期

2~4年

担当教員

梁川英俊

連絡先 (TEL)

099-285-8891

連絡先 (MAIL)

yanagawa@leh.kagoshima-u.ac.jp

共同担当教員

なし

前後期

前期

授業概要

初級仏語で学んだフランス語の基本的な文法事項を確認しながら、フランスのニュースに出て来る生きたフランス語を学びます。

学修目標

- (1) フランス語の文法的な知識を深める。
- (2) フランス語の聴き取り能力を向上させる。
- (3) フランス語による日常生活に必要な語彙を修得する。
- (4) フランス語圏の文化について知識を深める。

授業計画

第1回 ガイダンス
第2回~第14回 テキスト購読および指導助言
第15回 まとめ

授業外学習 (予習・復習)

予習は必ず行ってください (1時間)。授業後は復習として、単語・構文等の見直しを必ず行ってください (1時間)。

教科書

未定

参考書

必要に応じて適宜、指定します。

成績の評価基準

授業への取り組み態度 (50%) + 期末試験 (50%)

オフィスアワー

特に指定しません。

アクティブ・ラーニング

プレゼンテーション;

アクティブ・ラーニング (その他の内容)

アクティブ・ラーニング (授業回数)

毎回

備考 (受講要件)

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
FHS-DGH2231			
科目名			
地理学演習 A 1a (旧 人文地域論演習)			
英語名			
Geography A1			
開講学科		コース	
人文学科 新旧共通		多元地域文化コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
人文・多元地域文化コース / 選択科目	演習	2単位	2~4年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
小林善仁		099-285-7557	zenjin@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
		前期	
授業概要			
<p>地域には、自然・人文の諸現象が存在し、地理学はそれらの分析を通じて地域の仕組みや特性を考える学問である。この授業では、人文地理学で取り扱う資料（地図・統計・名鑑）を用いて、地域の地理学的分析視角を解説すると共に、地図・統計類を用いて身近な地域を実際に分析することにより、地域の特性と地域に内在する諸問題の存在を明らかにする。</p>			
学修目標			
<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域に関する地理学的資料について理解し、取り扱うことができる。 ・ 地域に対する地理学の分析方法を理解することができる。 ・ 地域の地理的特性と地域に内在する諸問題を理解し、説明することができる。 			
授業計画			
<p>第1回 ガイダンス 第2回 地理学の諸分野 第3回 地理学の資料1（人口統計） 第4回 地理学の資料2（農業統計） 第5回 地理学の資料3（地形図） 第6回 地理学の資料4（名鑑） 第7回 地理学の文献講読・発表1（人口） 第8回 地理学の文献講読・発表2（集落） 第9回 地理学の文献講読・発表3（農業） 第10回 地理学の文献講読・発表4（工業） 第11回 地域の地理学的分析1（人口） 第12回 地域の地理学的分析2（集落） 第13回 地域の地理学的分析3（農業） 第14回 地域の地理学的分析4（工業） 第15回 総括 期末課題</p>			
授業外学習（予習・復習）			
興味を持った事柄は図書・インターネットなどで調べてみて下さい。			
教科書			
プリントを配布。			
参考書			
講義の中で適宜紹介する。			
成績の評価基準			
<ul style="list-style-type: none"> ・ 各回の発表内容（50%） ・ 期末レポート（50%） 			
オフィスアワ -			
講義・会議の時間以外ならいつでも可。			
アクティブ・ラーニング			

グループワーク; ディベート;

アクティブ・ラーニング (その他の内容)

アクティブ・ラーニング (授業回数)

備考 (受講要件)

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード

FHS-DHH2223

科目名

アジア歴史・文化研究B (旧 アジア文化史)

英語名

Asian History & Culture B

開講学科

コース

人文学科 新旧共通

多元地域文化コース

授業科目区分

授業形態

単位数

開講期

人文・多元地域文化コース
/ 選択科目

講義

2単位

2~4年

担当教員

連絡先 (TEL)

連絡先 (MAIL)

大田由紀夫

099-285-7560

ota@leh.kagoshima-u.ac.jp

共同担当教員

前後期

前期

授業概要

テーマ：中国近世の社会集団

宗族・村落などの諸社会集団を題材として取り上げ、現在に至るまでの中国史研究の成果に基づいてそれらの存在形態を論じていくことにより、近世中国社会が持っていた特質を概観する。その際、他の社会（日本・西欧）と中国とを対比させつつ、両者の差異なども浮き彫りにしていきたい。

学修目標

1. 社会集団のあり方から中国近世社会の特質について理解し、2. 東アジア諸社会のそれぞれの異同に関する体系的な歴史知識の獲得を目標とする。

授業計画

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 中国という歴史空間
- 第3回 旧中国の人間関係
- 第4回 旧中国の親族関係をめぐって
- 第5回 宗族のイメージ
- 第6回 族譜・宗祠・族産
- 第7回 中国の宗族と日本の同族
- 第8回 同業団体
- 第9回 旧中国の村落(1) 聚落の形態
- 第10回 旧中国の村落(2) 村落の領域
- 第11回 旧中国の村落(3) 村人の資格
- 第12回 旧中国の村落(4) 村の機構
- 第13回 中国の村と日本の「ムラ」(1) 村の領域について
- 第14回 中国の村と日本の「ムラ」(2) 開放性と閉鎖性
- 第15回 まとめ

授業外学習(予習・復習)

(予習) 10世紀宋代以降の中国史概説書に目を通しておくことが望ましい。(復習) 講義資料・ノートをもとに前回の講義内容について復習して理解を深めておくことが望ましい。

教科書

特になし。

参考書

授業中に適宜紹介する。

成績の評価基準

期末の試験ないしレポート(学習目標?40%、学習目標?60%)。

オフィスアワー

授業・会議等以外であればいつでも可。

アクティブ・ラーニング

その他;

アクティブ・ラーニング(その他の内容)

講義内容に関する学生の疑問・質問ならびにその応答

アクティブ・ラーニング(授業回数)

15回中1回ないし2回。

備考(受講要件)

アジア文化史に読み替え可。学芸員資格取得のための選択科目「文化史」の単位となる。

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
FHS-DGH2232			
科目名			
考古学演習 1 b (旧 考古学演習)			
英語名			
Archaeology 1b			
開講学科		コース	
人文学科 新旧共通		多元地域文化コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
人文・多元地域文化コース / 選択科目	演習	2単位	2～4年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
石田智子		099-285-7549	ishida@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
		前期	
授業概要			
考古学に関する基礎文献を読む。担当者は文献に関するレジュメを作成して発表する。文献内容や発表方法に対して、全員で議論し、理解を深める。			
学修目標			
考古学の基礎知識や方法論を理解する。情報を収集・整理し、論理的に説明し、議論する一連の過程を通じて、自分の考えを口頭表現・文章表現で他者に的確に伝える技能を修得する。卒業論文作成の基礎をつくる。			
授業計画			
第1回 ガイダンス			
第2回 資料の説明、役割分担			
第3回 学生の発表と議論(1)			
第4回 学生の発表と議論(2)			
第5回 学生の発表と議論(3)			
第6回 学生の発表と議論(4)			
第7回 学生の発表と議論(5)			
第8回 学生の発表と議論(6)			
第9回 学生の発表と議論(7)			
第10回 学生の発表と議論(8)			
第11回 学生の発表と議論(9)			
第12回 学生の発表と議論(10)			
第13回 学生の発表と議論(11)			
第14回 学生の発表と議論(12)			
第15回 学生の発表と議論(13)			
授業外学習(予習・復習)			
受講にあたっての事前学習や発表準備が必要。授業の議論を踏まえた復習が望ましい。			
教科書			
課題文献は初回ガイダンスで指示し、印刷配布する。 コリン・レンフルー & ポール・バーン(池田裕・常木晃・三宅裕監訳) 2007 『考古学 理論・方法・実践』東洋書林(予定)			
参考書			
授業中に適宜紹介する。			
成績の評価基準			
発表内容と、授業にのぞむ姿勢(事前学習、授業中の発言など)を評価の基準とする。 なお、5分の1以上欠席した者は成績評価はしない。			
オフィスアワー			
研究室在室中はいつでも可。			
アクティブ・ラーニング			
グループワーク; プレゼンテーション; 学習の振り返り(ミニッツ・ペーパー等); アクティブ・ラーニング(その他の内容)			

アクティブ・ラーニング (授業回数)

15回中15回

備考 (受講要件)

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
FHS-DFH2115			
科目名			
社会言語学演習 1 (旧 社会言語学演習)			
英語名			
Sociolinguistics 1			
開講学科		コース	
人文学科 新旧共通		多元地域文化コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
人文・多元地域文化コース / 選択科目	演習	2単位	2~4年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
太田一郎			
共同担当教員		前後期	
		前期	
授業概要			
<p>テキストの講読を通して、英語には音声や文法などに地域的・社会的に多様なバリエーションがあること、そしてその変異は人と社会の様々な側面の反映であることを学ぶことで、ことばから見た英語圏の社会のあり方についての知識を深め、英語圏の文化を理解する幅広い視野を涵養する。今学期はイギリスにおける言語変化の広がり（変異の平準化と拡散）と言語変異とアイデンティティの関連について学ぶ。</p>			
学修目標			
<p>(1) 人間のことばの一般的な性質について述べることができる (2) ことばにかんする問題の本質をとらえて考えることができる (3) ことばの問題をとおして、社会を偏りなくとらえる視点を学ぶ</p>			
授業計画			
<p>第1回 ガイダンス 第2回 平準化と拡散：イントロダクション 第3回 平準化 (1)：ミルトン・キーンズ 第4回 平準化 (2)：ニューカッスル 第5回 拡散 (1)：拡散のパターン 第6回 拡散 (2)：子音の変異形の広がり 第7回 変化へのあらい (1)：音韻の構造 第8回 変化へのあらい (2)：多様化 第9回 言語変異とアイデンティティ 第10回 初期の社会言語学研究でのアイデンティティへの関心 第11回 言語とアイデンティティの関連の理論化：ラボウ派の視点 第12回 英国でのケーススタディ(1) ミドルバラ 第13回 英国でのケーススタディ(2) コービー（スコットランド） 第14回 英国でのケーススタディ(3) サンダーランド 第15回 まとめ</p>			
授業外学習（予習・復習）			
<p>予習：指定された資料等に目を通して授業に参加すること（60分） 復習：毎回講義内容をまとめ、論点を整理し、疑問点等を確認すること（60分）</p>			
教科書			
指定しない			
参考書			
<p>日比谷潤子（編著）『はじめて学ぶ社会言語学 - ことばのバリエーション研究』ミネルヴァ書房 Labov, William (1972) Sociolinguistic Patterns, PUP. Tagliamonte, Sali. (2006) Analysing Sociolinguistic Variation, CUP. Tagliamonte, Sali. (2011) Variationist Sociolinguistics, Wiley-Blackwell. ミルロイ, L. (2000=1987) 『生きたことばをつかまえる』（太田一郎ほか訳）松柏社 トラッドギル, P (1975=1974) 『言語と社会』（土田滋訳）岩波新書 Trudgill, Peter. (1999) The Dialects of England, Blackwell.</p>			

成績の評価基準

授業中に指示する課題 (50%) , 期末レポート (50%)

オフィスアワ -

月曜 5 限 研究室

アクティブ・ラーニング

学習の振り返り (ミニッツ・ペーパー等) ;

アクティブ・ラーニング (その他の内容)

アクティブ・ラーニング (授業回数)

15回中15回

備考 (受講要件)

情報教育教室利用のため上限30名。受講生多数の場合、抽選等により調整することがある。

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
FHS-DHH2131			
科目名			
日本古典文学演習A1 (旧 日本文学演習)			
英語名			
Japanese Linguistics A1			
開講学科		コース	
人文学科 新旧共通		多元地域文化コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
人文・多元地域文化コース / 選択科目	演習	2単位	2~4年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
丹羽謙治		099 (285) 8904	niwa@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
		前期	
授業概要			
薩摩藩の郡奉行であり文人であった得能通昭の紀行文を、注を付けながら読み進め、当時の文人官僚のものの方や価値観について議論を行う。			
学修目標			
近世中期の薩摩藩士、得能通昭の紀行文 - 「大隅紀行」 (安永九年・1780年) 「勸農紀行」 - を、注を付けながら読解する。			
<ul style="list-style-type: none"> ・古典読解の基本である注釈の方法を身につける。 ・和歌を正しく理解し解釈する力を身につける。 ・くずし字を読む力を身につける。 			
授業計画			
第1回：導入			
第2回：得能通昭について			
第3回：近世紀行文の特徴について			
第4回：学生による発表と議論 (大隅紀行 上 安永九年～)			
第5回：学生による発表と議論 (同上 九月十日～)			
第6回：学生による発表と議論 (同上 九月十三夜～)			
第7回：学生による発表と議論 (同上 大根占鳥濱に～)			
第8回：学生による発表と議論 (同上 佐多間泊より～)			
第9回：学生による発表と議論 (大隅紀行 下 高山新留村～)			
第10回：学生による発表と議論 (同上 松山にて～)			
第11回：学生による発表と議論 (勸農紀行 安永庚子冬～)			
第12回：学生による発表と議論 (同上 坂元村の内～)			
第13回：学生による発表と議論 (同上 中村金光院に至れば～)			
第14回：学生による発表と議論 (同上 西田村山王社は～)			
第15回：学生による発表と議論 (同上 あけのあした～)			
授業外学習 (予習・復習)			
事前に翻字の練習をする。発表者のレジメに目を通し、疑問点を整理しておく。			
事後には発表に基づき、それぞれが発展的な調査を行う。			
教科書			
プリントを配布する。			
参考書			
『鹿児島県史料集 (54) 通昭録 (三)』 (鹿児島県立図書館)、『鹿児島県史料集 (57) 通昭録 (六)』 (同上)			
成績の評価基準			
発表態度 (30%) および期末レポート (70%) を合せて評価する。			
オフィスアワー			
月曜日13時30分～14時20分			
アクティブ・ラーニング			

ディベート; プレゼンテーション;

アクティブ・ラーニング(その他の内容)

アクティブ・ラーニング(授業回数)

15回中12回

備考(受講要件)

教職(国語)の選択科目。平成28年度以前入生は「日本文学演習」に読み替え。

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
FHS-DGH2214			
科目名			
地誌学講義（旧 テーマ地誌学I）			
英語名			
Regional Geography			
開講学科		コース	
人文学科 新旧共通		多元地域文化コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
人文・多元地域文化コース / 選択科目	講義	2単位	2～4年
担当教員		連絡先（TEL）	連絡先（MAIL）
吉田明弘		099-285-7543	aki tan@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
		前期	
授業概要			
この講義では日本・世界の地域を取り上げ、各地の自然環境と人々の暮らしを理解し、それらに関連させながら考える能力を身に着ける。さらに、これら各地の地誌を通して、地域における共通性や相違性、多様性を理解し、その背景となる人文・自然的要因について説明できる力を養う。			
学修目標			
本講義では日本・世界の様々な地域を取り上げ、各地の気候・地形・植生などの自然環境の特徴を捉えると共に、これらを背景にした人々の生活・文化との関連性を様々な視点から紹介する。この講義を通して、世界・日本の各地域における特徴を捉えることで、共通性や相違性、多様性を生み出す要因について理解する。			
授業計画			
第1回：授業ガイダンス - 地誌学の位置づけ			
第2回：東北地方の地誌（1） - 杜の都・仙台			
第3回：東北地方の地誌（2） - やませ			
第4回：東北地方の地誌（3） - リアス海岸と地震・津波			
第5回：関東地方の地誌（1） - 下町と山の手			
第6回：関東地方の地誌（2） - 治水と利水			
第7回：東南アジア海岸部の地誌（1） - 自然環境とマングローブ林の成り立ち			
第8回：東南アジア海岸部の地誌（2） - マングローブ破壊とえび養殖			
第9回：東南アジア海岸部の地誌（3） - 多島海と人々の暮らし			
第10回：東南アジア内陸部の地誌（1） - プランテーション農業			
第11回：東南アジア内陸部の地誌（2） - 天水田と灌漑			
第12回：東南アジア内陸部の地誌（3） - 土壌と石材			
第13回：西ヨーロッパの地誌（1） - 森林破壊と交易			
第14回：西ヨーロッパの地誌（2） - 気候と食文化			
第15回：授業の総括			
定期試験			
授業外学習（予習・復習）			
予習：配布された資料を事前に目を通し、専門用語などは辞典やインターネットで調べておくこと。			
復習：配布資料やノートを見返すと共に、授業でわからない点などは文献・インターネットで調べておくこと。			
なお、質問は随時受付ける。			
教科書			
毎回資料を配布する。配布資料はA4版のファイルやバインダーなどを用意して、各自で整理しておくこと。高校地図帳を必ず持つてくること。			
参考書			
授業中に適宜紹介する。			
成績の評価基準			
期末試験（60%）、レポート（30%）、授業への取り組む態度（10%）を総合的に評価する。			
オフィスアワ -			

質問等は、授業終了後や研究室にて随時受付ける。

アクティブ・ラーニング

アクティブ・ラーニング（その他の内容）

アクティブ・ラーニング（授業回数）

備考（受講要件）

この授業と合わせて、自然地理学概説を履修することが望ましい。

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード

科目名

考古学実習2 (旧 フィールド学実験 (考古学))

英語名

Practical Archaeology 2

開講学科

コース

人文学科 新旧共通

多元地域文化コース

授業科目区分

授業形態

単位数

開講期

人文・多元地域文化コース
/ 選択科目

実験

1単位

2~4年

担当教員

連絡先 (TEL)

連絡先 (MAIL)

渡辺芳郎、石田智子

099-285-7549

ishida@leh.kagoshima-u.ac.jp

共同担当教員

前後期

後期

授業概要

考古遺物の整理・観察・記録に対する正確な認識と表現力を養成するため、遺物（土器・石器・陶磁器など）の洗浄、注記、接合、実測、トレース、拓本等一連の作業をおこなう。

学修目標

考古学研究に必要な諸技術の習得を目標とする。

授業計画

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 遺物整理の基礎
- 第3回 遺物整理の実践1 (拓本)
- 第4回 遺物整理の実践2 (実測1)
- 第5回 遺物整理の実践3 (実測2)
- 第6回 遺物整理の実践4 (実測3)
- 第7回 遺物整理の実践5 (実測4)
- 第8回 遺物整理の実践6 (実測5)
- 第9回 遺物整理の実践7 (実測6)
- 第10回 遺物整理の実践8 (トレース1)
- 第11回 遺物整理の実践9 (トレース2)
- 第12回 遺物整理の実践10 (トレース3)
- 第13回 遺物整理の実践11 (トレース4)
- 第14回 遺物整理の実践12 (トレース5)
- 第15回 遺物整理の実践13 (トレース6)

授業外学習 (予習・復習)

初めて受講する学生は作業内容についてしっかり復習すること。
2回目以上受講の学生は、予習、復習を通じて習熟度を高めること。

教科書

プリントを適宜配布。

参考書

適宜紹介。

成績の評価基準

授業への取り組み態度で評価。5分の1以上欠席した者は成績評価はしない。

オフィスアワ -

研究室在室中はいつでも可。

アクティブ・ラーニング

フィールドワーク;

アクティブ・ラーニング (その他の内容)

アクティブ・ラーニング (授業回数)

全15回中15回

備考（受講要件）

2コマ連続登録とのこと。必要な道具類を事前に準備すること。準備できない者は不許可。

なお、これまでに考古学実習1および考古学実習2を受講したことがなく、本授業の履修を希望する者は、事前に担当教員に相談に来ること。

実務経験のある教員による実践的授業

西洋歴史・文化演習 A 1 (旧 西洋の歴史と社会演習A1)
ナンバリングコード

FHS-DIH2235

科目名

西洋歴史・文化演習 A 1 (旧 西洋の歴史と社会演習A1)

英語名

Western History & Culture A1

開講学科

コース

人文学科 新旧共通

多元地域文化コース

授業科目区分

授業形態

単位数

開講期

人文・多元地域文化コース
/ 選択科目

演習

2単位

2~4年

担当教員

連絡先 (TEL)

連絡先 (MAIL)

細川道久

hos leh.kagoshima-u.ac.jp は
アットマーク

共同担当教員

前後期

前期

授業概要

イギリス帝国史に関する英語文献（主要な分析概念・解釈と、それをめぐる最近の研究動向を扱った入門書。入門書ですが、少々難しいかもしれません。でも、近年のイギリス帝国史研究の状況がわかるはずです。）を読んでいきます。担当箇所の訳文と要約の作成に加えて、関連事項について調べた内容を含めたレジュメを作成して報告します。英語文献以外にも、適宜、課題を出しますので、それについても、レジュメを作成して報告します（個人発表か、グループ発表かは、受講者数によって決めます）。以上をふまえて、全体で討論をおこないます。（「成績評価基準」にも記していますが、訳文・要約作成で「翻訳ソフトを使用したことが発覚した場合は成績評価を「不可」とします。）

学修目標

1. イギリス帝国の歴史を分析する際の主要な概念が時代によって変わってきたことを知ることで、イギリス帝国史の近年の研究動向に対する理解を深めると同時に、グローバル・ヒストリーにも関心を持つ。
2. 1を通して、他の歴史研究や地域研究に対する関心も深める。
3. 文献読解、レジュメ作成、報告、討論の能力を養う。
4. 西洋史研究で卒業論文を書くために必要な素養を磨く。

授業計画

- 第1回 授業全般についてのガイダンス
- 第2回 西洋史研究資料検索などについてのガイダンス
- 第3回 文献講読（適宜、課題に関する報告）、討論（1）
- 第4回 文献講読（適宜、課題に関する報告）、討論（2）
- 第5回 文献講読（適宜、課題に関する報告）、討論（3）
- 第6回 文献講読（適宜、課題に関する報告）、討論（4）
- 第7回 文献講読（適宜、課題に関する報告）、討論（5）
- 第8回 文献講読（適宜、課題に関する報告）、討論（6）
- 第9回 文献講読（適宜、課題に関する報告）、討論（7）
- 第10回 文献講読（適宜、課題に関する報告）、討論（8）
- 第11回 文献講読（適宜、課題に関する報告）、討論（9）
- 第12回 文献講読（適宜、課題に関する報告）、討論（10）
- 第13回 文献講読（適宜、課題に関する報告）、討論（11）
- 第14回 文献講読（適宜、課題に関する報告）、討論（12）
- 第15回 総括

授業外学習（予習・復習）

与えられた課題について、訳文・要約文・関連事項調査を十分に行なう準備をしておくこと。また、授業内容について、配布資料や参考文献などで復習しておくことが望ましい。

教科書

英語文献については、プリントを準備します。

参考書

木畑洋一編著『大英帝国と帝国意識』ミネルヴァ書房、1998年、川北稔・木畑洋一編『イギリスの歴史 帝国

西洋歴史・文化演習 A 1 (旧 西洋の歴史と社会演習A1)

『コモンウェルスの歩み』有斐閣、2000年、秋田茂『イギリス帝国の歴史 アジアから考える』中公新書、2012年。その他は、授業時に適宜紹介します。

成績の評価基準

授業への取り組み態度(課題の準備、討論への参加度)。なお、訳文・要約作成にあたって翻訳ソフトを使用したことが発覚した場合は「不可」とします。

オフィスアワ -

金曜10時~11時

アクティブ・ラーニング

ディベート; プレゼンテーション;

アクティブ・ラーニング(その他の内容)

アクティブ・ラーニング(授業回数)

備考(受講要件)

平成28年度以前の入学生については「西洋の歴史と社会演習A1」に読み替える。

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード

FHS-DHH2136

科目名

中国言語文化演習A1 (旧 中国言語文化論演習)

英語名

Chinese Language & Culture A1

開講学科

コース

人文学科 新旧共通

多元地域文化コース

授業科目区分

授業形態

単位数

開講期

人文・多元地域文化コース
/ 選択科目

演習

2単位

2~4年

担当教員

連絡先 (TEL)

連絡先 (MAIL)

中筋健吉

099(285)8893

k9553471@kada i . jp

共同担当教員

前後期

前期

授業概要

本授業では唐・李白の「明堂賦」を講読する。

李白は同時代の杜甫とともに「李絶杜律」と併称され、中国古典詩史を代表する詩人として名高いが、生涯において8篇の賦作品を残している。

賦は中国古典文学の文体の一つであり、有韻無韻の文をとりまぜた長文の文芸である。漢代に盛行し、以後時代により様々に形を変化させて存続した。

本篇のタイトルにいう「明堂」とは、周代天子が政務や祭祀を行った場所であり、諸侯を参朝させたりした。

本篇は李白の長安出仕前後の作品と思料されるが、本作品の鑑賞を通じて、その政治主張を確認していく。

学修目標

作品の講読およびそれを通じて中国古典文学作品や注釈の読解方法、および関連する各種文献の取り扱い方を学ぶ

授業計画

各受講生が事前に指定された部分の本文および注について、読解発表を行う。発表にあたっては、本文原文、注を訓読し、現代日本語に訳したものを発表する。受講生は余力があれば、他の作品を読む。

- 第1回： オリエンテーション：
 第2回： 李白の経歴：『旧唐書』『新唐書』李白本傳
 第3回： 「明堂賦」講読：発表と討論（1）
 第4回： 「明堂賦」講読：発表と討論（2）
 第5回： 「明堂賦」講読：発表と討論（3）
 第6回： 「明堂賦」講読：発表と討論（4）
 第7回： 「明堂賦」講読：発表と討論（5）
 第8回： 「明堂賦」講読：発表と討論（6）
 第9回： 「明堂賦」講読：発表と討論（7）
 第10回： 「明堂賦」講読：発表と討論（8）
 第11回： 「明堂賦」講読：発表と討論（9）
 第12回： 「明堂賦」講読：発表と討論（10）
 第13回： 「明堂賦」講読：発表と討論（11）
 第14回： 「明堂賦」講読：発表と討論（12）
 第15回： まとめ

授業外学習（予習・復習）

予習：毎回の授業で講読する作品について、事前に辞書等を検索し、自らも読解して出席すること。

復習：授業にもとづいて、自分の読解を再検討すること。

教科書

授業に先立ってプリントを配布する。

プリントは清・王?注および瞿蛻園・朱金城校注のものを配布する。

参考書

武部利男『李白』(上・下)(岩波中国詩人選集)

松浦知久『李白詩選』(岩波文庫)

金文京『李白 漂泊の詩人 その夢と現実』(岩波書店)

宇野直人(他)『李白 巨大なる野放図』(平凡社)

成績の評価基準

授業中の発表報告とその際のレジюме(50%)および最終レポート(50%)の結果を考慮して総合的に評価する。

オフィスアワ -

授業以外の在室時(随時)。事前に連絡をください。

アクティブ・ラーニング

グループワーク; ディベート;

アクティブ・ラーニング(その他の内容)

アクティブ・ラーニング(授業回数)

15回中12回(予定)

備考(受講要件)

本シラバスはあくまで計画であるので、受講者数その他の状況によって、適宜変更の可能性もある。変更の際は通知する。

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
科目名			
社会言語学			
英語名			
Sociolinguistics			
開講学科		コース	
人文学科 新旧共通		多元地域文化コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
人文・多元地域文化コース / 選択科目	講義	2単位	2~4年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
太田一郎			
共同担当教員		前後期	
		後期	
授業概要			
<p>テーマ：社会との関係から「ことば」とは何かを考える</p> <p>言語学は「ことばの仕組み」とそれにまつわるさまざまな問題を考える。地域や年齢によることばのちがいなどのようにことばにはさまざまなレベルで多様性が観察される。このことばに見られるバリエーション（変異）をことばを操る能力のひとつとしてとらえようというのが社会言語学の課題のひとつとなる。</p> <p>今回の講義では、社会言語学という学問分野で取り扱われることばの多様性に関わる問題を、主に英語圏での研究成果をもとに、個人レベル、社会レベルで考える視点を学ぶ。ことばの問題は何かと誤解や偏見にもとづいて語られることが多いので、バランスのとれた考え方をもちきかけにしてほしい。</p>			
学修目標			
<p>(1) 人間のことばの一般的な性質について述べることができる</p> <p>(2) ことばにかんする問題の本質をとらえて考えることができる</p> <p>(3) ことばの問題をとおして、社会を偏りなくとらえる視点を学ぶ</p>			
授業計画			
<p>第1回 ガイダンス(授業概要,成績評価,レポート提出方法の説明など)</p> <p>第2回 社会言語学の課題：Who speaks What language to Whom and When?</p> <p>第3回 ことばの多様性とことばの変化</p> <p>第4回 ことばの選択：母語と母語話者</p> <p>第5回 多言語社会(1)：「多言語」という認識(米,英,加,豪など)</p> <p>第6回 多言語社会(2)：米大統領の英語が示すもの</p> <p>第7回 言語と方言：「標準」と「標準でないもの」</p> <p>第8回 バリエーション理論とその成果：Labov派による英語の変異研究</p> <p>第9回 バリエーション理論の限界：英語圏社会に見る民族、ジェンダーとの関連から</p> <p>第10回 場面と話しかた(1)：英語圏の研究成果(レジスター,スタイル,ドメイン)</p> <p>第11回 相手と話しかた(2)：英語圏の研究成果(ポライトネスとアコモデーション)</p> <p>第12回 言語とイデオロギー</p> <p>第14回 多言語社会と言語計画</p> <p>第15回 まとめ</p>			
授業外学習(予習・復習)			
<p>予習：指定された資料等に目を通して授業に参加すること(60分)</p> <p>復習：毎回講義内容をまとめ、論点を整理し、疑問点等を確認すること(60分)</p>			
教科書			
佐野直子『社会言語学のまなざし』(三元社)			
参考書			
<p>岩田祐子ほか『概説 社会言語学』ひつじ書房</p> <p>日比谷潤子(編著)『はじめて学ぶ社会言語学』(ミネルヴァ書房)</p> <p>中尾俊夫ほか『社会言語学概論』くろしお出版</p> <p>レズリー・ミルロイ『生きたことばをつかまえる』(太田一郎ほか訳)松柏社</p>			

ピーター・トラッドギル『言語と社会』岩波書店

Meyerhoff, Miriam. (2011) *Introducing Sociolinguistics*, Routledge.

Labov, William (1972) *Sociolinguistic Patterns*, PUP.

Tagliamonte, Sali. (2006) *Analysing Sociolinguistic Variation*, CUP.

Tagliamonte, Sali. (2011) *Variationist Sociolinguistics*, Wiley-Blackwell.

成績の評価基準

毎授業後のレポート100% (電子メールで提出すること)

オフィスアワ -

月曜 5 限

アクティブ・ラーニング

学習の振り返り (ミニッツ・ペーパー等);

アクティブ・ラーニング (その他の内容)

アクティブ・ラーニング (授業回数)

15回中15回

備考 (受講要件)

(1) ことばの問題に関心のある人。(2) 授業予定, 内容は必要に応じて変更することもあります。(3) H28年度以前の入学生で, この授業が選択科目である人文学科「メディアと現代文化コース」と「人間と文化コース」人たちは「無条件で」履修を認めます。(4) 毎週レポートを読んで採点するためあまり多数の受講者をかかえることはできません。受講希望者が多い場合は, 初回にレポートを書かせて全体で100名程度に絞ります。そのため「初回の授業は必ず出席すること」。出席していない場合はそれ以後の受講を認めないことがあります。(5) レポートの提出は授業の翌日の夜20時。毎回のレポートはかなり負担になります。そのつもりで受講してください。(6) レポート提出はパソコン・メールによる(ケータイメールは不可)(7) 出席, 遅刻等のチェックは厳しく行います。(8) 私語厳禁。(9) 受講態度不良の者は減点します。

実務経験のある教員による実践的授業

英語ライティングc (旧 英語コミュニケーション2D)
ナンバリングコード

FHS-DIH2142

科目名

英語ライティングc (旧 英語コミュニケーション2D)

英語名

Academic Writing in English c

開講学科

コース

人文学科 新旧共通

多元地域文化コース

授業科目区分

授業形態

単位数

開講期

人文・多元地域文化コース
/ 選択科目

講義

2単位

2~4年

担当教員

連絡先 (TEL)

連絡先 (MAIL)

スティーブ コダ

285-7573

coke@leh.kagoshima-u.ac.jp

共同担当教員

前後期

後期

授業概要

You will learn essay structure and how to analyse paragraphs and essays. You will also learn how to use discourse markers and conjunctives effectively. You will be expected to communicate actively with other students about your writing in and outside of the classroom

学修目標

This class is an introduction to academic writing in English concentrating on essay structure for explaining graphs, tables and charts. Classwork will be divided between discussion and writing. This class will be helpful if you are going to take the 教員採用試験 or IELTS or TOEFL.

授業計画

Week 1 Introduction
Week 2 Writing overviews
Week 3 Writing about graphs
Week 4 Writing about tables and bar graphs
Week 5 Making comparisons 1 : Vocabulary
Week 6 Making comparisons 2 : Data comparison
Week 7 Essay feedback
Week 8 Ranking information
Week 9 Writing about processes 1 : Vocabulary
Week 10 Writing about processes 2 : Explaining processes
Week 11 Writing about charts
Week 12 Writing about maps
Week 13 Grammar practice
Week 14 Vocabulary practice
Week 15 Essay feedback and test preparation
Week 16 Test essay

授業外学習 (予習・復習)

You will be given homework most weeks

教科書

Handouts will be given

参考書

Bring your dictionaries!

成績の評価基準

Classwork 50%
Final essay and test 50% (25% each)

オフィスアワ -

Anytime is ok, but mail me to be on the safe side.

アクティブ・ラーニング

グループワーク;

アクティブ・ラーニング (その他の内容)

アクティブ・ラーニング (授業回数)

15回中15回

備考 (受講要件)

This class is for students who have spent at least 6 months in an English-speaking environment.

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード

FHS-DGH2222

科目名

文化人類学研究（旧 宗教文化論）

英語名

Cultural Anthropology

開講学科

コース

人文学科 新旧共通

多元地域文化コース

授業科目区分

授業形態

単位数

開講期

人文・多元地域文化コース
/ 選択科目

講義

2単位

2～4年

担当教員

連絡先（TEL）

連絡先（MAIL）

兼城系絵

099-285-8902

itokane@leh.kagoshima-u.ac.jp

共同担当教員

前後期

後期

授業概要

文化人類学とは、主に異文化を理解するための学問である。本講義では、日本を含む東アジア社会を事例に、自文化や異文化に対する理解の仕方について考え方を深めてもらう。

学修目標

到達目標：日本を含む東アジアの身近な事例を通じて、文化人類学の基本的な考え方を学ぶと同時に、東アジア社会に対する理解を深める。

テーマ：東アジアで学ぶ文化人類学

授業計画

- 第1回：オリエンテーション
- 第2回：フィールドワークとエスノグラフィ
- 第3回：家族と親族 - 「つながり」を考える
- 第4回：ジェンダーとセクシュアリティ
- 第5回：宗教（1）東アジアの宗教的多様性
- 第6回：宗教（2）儀礼からみる世界観
- 第7回：宗教（3）日本社会と宗教
- 第8回：植民地主義（1）映画から考える植民地主義
- 第9回：植民地主義（2）ポスト植民地主義時代を生きること
- 第10回：人種・民族・エスニシティ
- 第11回：移民と多文化共生
- 第12回：観光と文化
- 第13回：経済と文化
- 第14回：医療と文化
- 第15回：自然環境と開発

講義内容は変わることもあります。

授業外学習（予習・復習）

予習：参考書を読むこと

復習：講義中に提示された文献を読むこと

教科書

特になし。教員の配布するレジュメを用いて授業を行う。

参考書

講義中に提示する。

成績の評価基準

毎回のコメントシート（50%）と期末レポート（50%）に基づき評価する。

オフィスアワ -

随時

アクティブ・ラーニング

学習の振り返り（ミニッツ・ペーパー等）；

アクティブ・ラーニング（その他の内容）

アクティブ・ラーニング（授業回数）

備考（受講要件）

特になし

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
FHS-DHH2135			
科目名			
アジア言語演習A1 (旧 中国語学演習)			
英語名			
Asian Linguistics A1			
開講学科		コース	
人文学科 新旧共通		多元地域文化コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
人文・多元地域文化コース / 選択科目	演習	2単位	2~4年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
三木夏華			
共同担当教員		前後期	
		前期	
授業概要			
中国語を一年以上履習した学生を対象とし、中国語検定試験の3級~2級レベルに相当する教材を用いて、現代中国語の文法知識、読解力、聴力などをより一層向上させることを目的とする。出席者は十分な予習を行っていることが前提となる。			
学修目標			
(1)初修外国語での中国語の基礎力を前提とした上で、更なる実践力を養う。 (2)中国語検定試験の3級~2級レベルに相当する学修を目指す。			
授業計画			
第1回ガイダンス 第2回小テスト、テキスト第一課 第3回小テスト、テキスト第一課 第4回小テスト、テキスト第一課 第5回小テスト、テキスト第二課 第6回小テスト、テキスト第二課 第7回小テスト、テキスト第二課 第8回小テスト、テキスト第三課 第9回小テスト、テキスト第三課 第10回小テスト、テキスト第三課 第11回小テスト、テキスト第四課 第12回小テスト、テキスト第四課 第13回小テスト、テキスト第四課 第14回小テスト、テキスト第五課 第15回小テスト、テキスト第五課 第16回まとめ			
授業外学習 (予習・復習)			
【予習】テキスト、及び配付された教材プリントを必ず十分予習した上で授業に臨むこと。 【復習】毎回授業で習った内容を復習すること。(学習に係る標準時間は1時間)			
教科書			
『聴聴説』 洪潔清等著、白帝社。			
参考書			
講義中にプリントを配布する。			
成績の評価基準			
平常点 (講義中の発表、毎回の小テストなど) : 50%、期末試験50%。			
オフィスアワ -			
木曜日 2 限目			
アクティブ・ラーニング			
プレゼンテーション; その他;			
アクティブ・ラーニング (その他の内容)			

課題についてのスピーキングトレーニング

アクティブ・ラーニング (授業回数)

16回中14回

備考 (受講要件)

中国語を母国語とする学生の受講は認めない。

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
FHS-DHH2134			
科目名			
中国文学演習B1 (旧 中国文学演習)			
英語名			
Chinese Literature B1			
開講学科		コース	
人文学科 新旧共通		多元地域文化コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
人文・多元地域文化コース / 選択科目	演習	2単位	2~4年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
高津孝		099-285-7562	gaojin@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
		後期	
授業概要			
漢文の基本的事項についての理解を深める。漢文訓読についての規則を理解した上で、和刻本を利用して、中国古典文の読解を行う。以上を通じて、漢文読解の基本的事項についての理解を深めることを目標とする。			
学修目標			
中国文学（散文）の入門編。中国文学を学習するうえでの基礎的知識の習得を目的とする。中国文学において特に重要なジャンルである散文を取り上げて、その基本的な知識や文法的特徴を講義し、また、各種参考図書についても、あわせて説明を行う。			
授業計画			
第1回	ガイダンス		
第2回	漢文訓読の基礎		
第3回	虚字の概説		
第4回	『史記』堯舜		
第5回	『史記』殷の湯王		
第6回	『史記』秦の始皇帝		
第7回	『史記』漢の高祖		
第8回	『史記』伍子胥		
第9回	『史記』蘇秦と張儀		
第10回	『史記』項羽		
第11回	『史記』廉頗・藺相如		
第12回	『史記』張良		
第13回	『史記』陳平		
第14回	『史記』韓信		
第15回	『史記』司馬相如		
授業外学習 (予習・復習)			
予習：次の授業で扱う詩について、テキストの注釈を参考に意味を理解し、訓読できるようにしておくこと。約1時間。			
復習：授業中に学んだ内容について復習し、原文から訓読できるようにしておくこと。約30分			
その他：授業では中国古典文のほんの一部しか紹介できません。授業で触れた文章、文学者についてより深い理解に達するために、文庫本で入手できる中国古典文を読んでください。背景知識を得ることで、詩の読み方は変化します。			
教科書			
大木康 訳・解説『現代語訳 史記』筑摩書房、ちくま新書			
参考書			
小川環樹・西田太一郎『漢文入門』（岩波書店）			
成績の評価基準			
課題提出、平常点（発表を評価する）			
オフィスアワ -			
金曜日・1限・高津研究室			

アクティブ・ラーニング

プレゼンテーション;

アクティブ・ラーニング (その他の内容)

アクティブ・ラーニング (授業回数)

15回中12回

備考 (受講要件)

漢和辞典を使用する。

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード

FHS-DHH2132

科目名

日本語学演習B1 (旧 日本語構造論演習)

英語名

Japanese Linguistics B1

開講学科

コース

人文学科 新旧共通

多元地域文化コース

授業科目区分

授業形態

単位数

開講期

人文・多元地域文化コース
/ 選択科目

演習

2単位

2~4年

担当教員

連絡先 (TEL)

連絡先 (MAIL)

内山弘

099-285-8906

pon@leh.kagoshima-u.ac.jp

共同担当教員

前後期

後期

授業概要

狂言台本は室町期の話し言葉の実態を知る上で極めて重要な資料として位置付けられているにも関わらず、現在残っている台本形式の狂言資料はすべて江戸期の成立になるものである。その意味では、狂言台本は中世語の資料としてはいろいろ問題が多いと言わざるを得ない。その中において「祝本」と呼ばれる狂言台本は、成立年代も筆者も不明ながら、内容的に見て虎明本(1642年成立)や天理本(1645年頃成立)等、江戸初期の他の狂言台本よりも古態を有しており、中世語の資料としてより貴重な資料であると認められる。

本演習では、この祝本狂言集を中心資料として取り上げ、詞章の比較や語句の解釈等の具体的な作業を通して、室町時代の日本語に関する知識を深めるとともに、文献日本語史研究の方法について実地に習熟を図っていく。

学修目標

- ・ 翻字や語釈の作成、台本の比較等の具体的な作業を通して日本語資料の基礎的な研究方法を具体的に学ぶことができる。
- ・ 狂言台本という親しみやすい文献を通して古典の世界に親しむ下地を養成できる。

授業計画

第1回: ガイダンス

第2回: 受講生による演習の実施(1)「おばが酒」その1
(受講生の人数によって以降の割り当てを変更する場合がある)

第3回: 受講生による演習の実施(2)「おばが酒」その2

第4回: 受講生による演習の実施(3)「おばが酒」その3

第5回: 受講生による演習の実施(4)「おばが酒」その4

第6回: 受講生による演習の実施(5)「おばが酒」その5

第7回: 受講生による演習の実施(6)「おばが酒」その6

第8回: 受講生による演習の実施(7)「おばが酒」その7

第9回: 受講生による演習の実施(8)「くわいちうむ子」その1

第10回: 受講生による演習の実施(9)「くわいちうむ子」その2

第11回: 受講生による演習の実施(10)「くわいちうむ子」その3

第12回: 受講生による演習の実施(11)「くわいちうむ子」その4

第13回: 受講生による演習の実施(12)「くわいちうむ子」その5

第14回: 受講生による演習の実施(13)「くわいちうむ子」その6

第15回: 受講生による演習の実施(14)「くわいちうむ子」その7

授業外学習(予習・復習)

予習: 演習担当者は事前に教員に連絡を取り、演習内容について相談すること(必須)。

復習: 演習時に指摘された内容を整理し、問題点について再調査して解決を図ること。

教科書

『祝本狂言集』法政大学能楽研究所蔵原本の複写

参考書

特になし。

成績の評価基準

レポート (50%)、授業への取り組み態度 (演習内容、50%)

オフィスアワ -

原則として事前にメールでアポイントメントを取ることを。

アクティブ・ラーニング

プレゼンテーション;

アクティブ・ラーニング (その他の内容)

アクティブ・ラーニング (授業回数)

15回中14回

備考 (受講要件)

日本語学演習A1を受講していることが望ましい。

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
FHS-DHH2131			
科目名			
日本古典文学演習B1 (旧 日本文学演習1)			
英語名			
Japanese Linguistics B1			
開講学科		コース	
人文学科 新旧共通		多元地域文化コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
人文・多元地域文化コース / 選択科目	演習	2単位	2~4年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
丹羽謙治		099 (285) 8904	
共同担当教員		前後期	
		後期	
授業概要			
西鶴の雑話ものに分類される浮世草子『西鶴諸国はなし』(貞享2年・1685年刊)を対象とする。学生は1話ずつ担当し、その話の研究史、解釈の問題点などを整理して発表を行い、西鶴の語りの特徴や素材、後世への影響について議論を行う。			
学修目標			
井原西鶴『西鶴諸国ばなし』読解 ・『西鶴諸国ばなし』を初めとする西鶴作品の研究史をたどる。 ・浮世草子についての知識を得る。			
授業計画			
第1回：導入 第2回：発表の方法について 第3回：西鶴とその時代について 第4回：学生による発表と議論 - 巻3の4 - 第5回：学生による発表と議論 - 巻3の5 - 第6回：学生による発表と議論 - 巻3の6 - 第7回：学生による発表と議論 - 巻3の7 - 第8回：学生による発表と議論 - 巻4の1 - 第9回：学生による発表と議論 - 巻4の2 - 第10回：学生による発表と議論 - 巻4の3 - 第11回：学生による発表と議論 - 巻4の4 - 第12回：学生による発表と議論 - 巻4の5 - 第13回：学生による発表と議論 - 巻4の6 - 第14回：学生による発表と議論 - 巻4の7 - 第15回：学生による発表と議論 - 巻5の1 -			
授業外学習 (予習・復習)			
事前に作品を通読する。発表者のレジメに目を通し、疑問点を整理しておく。 事後には発表に基づき、それぞれが発展的な調査を行う。			
教科書			
『新日本古典文学大系 76 好色二代男 西鶴諸国ばなし 本朝二十不孝』(岩波書店)			
参考書			
『新編西鶴全集 巻二』(勉誠出版)。その他は授業の中で紹介する。			
成績の評価基準			
発表態度(30%)および期末レポート(70%)を合せて評価する。			
オフィスアワー			
月曜日13時30分~14時20分			
アクティブ・ラーニング			
ディベート; プレゼンテーション; アクティブ・ラーニング(その他の内容)			

アクティブ・ラーニング (授業回数)

15回中12回

備考 (受講要件)

教職 (国語) の選択科目。平成28年度以前入生は「日本文学演習」に読み替え。

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード

FHS-DHH2131

科目名

日本近現代文学演習B1 (旧 日本文学演習)

英語名

Modern Japanese Literature B1

開講学科

コース

人文学科 新旧共通

多元地域文化コース

授業科目区分

授業形態

単位数

開講期

人文・多元地域文化コース
/ 選択科目

演習

2単位

2~4年

担当教員

連絡先 (TEL)

連絡先 (MAIL)

多田蔵人

ktada@leh.kagoshima-u.ac.jp

共同担当教員

前後期

後期

授業概要

テーマ：怪奇文学の諸問題

日本近代文学における、「異界」の表現を読み解いてゆく。近代文学はリアリズムの時代として整理されることが多いけれども、当時の出版物を実際に眺めてみると、いわゆるファンタジーに類する作品が数多く存在していること、また、後代の作品に影響を与えたのはこれらの非リアリスティックな作品であった可能性があることが見えてくるはずである。毎回一篇の短篇を読みあわせ、発表者は調べた上で自分の解釈を発表し、討論を行う。比較的著名な作家とともに、今日あまり顧みられないことのないマイナー作家の作品も取り扱う。

学修目標

日本近代文学研究の基礎的技術を習得し、異界表象についての知見を深める。

授業計画

- 第1回：宇野浩二『屋根裏の法学士』
- 第2回：花田清輝『歌』
- 第3回：坂口安吾『風と光と二十の私と』
- 第4回：内田百？『盡頭子』
- 第5回：小栗虫太郎『完全犯罪』
- 第6回：豊島与志雄『白蛾』
- 第7回：川端康成『篝火』
- 第8回：森鷗外『流行』
- 第9回：神西清『夜の鳥』
- 第10回：岡本綺堂『影を踏まれた女』
- 第11回：稲垣足穂『リビアの月夜』
- 第12回：夏目漱石『幻影の盾』
- 第13回：島尾敏雄『孤島夢』
- 第14回：中島敦『狐憑』
- 第15回：芥川龍之介『きりしとほろ上人伝』

授業外学習 (予習・復習)

指定したテキストは必ず読んでくること。

教科書

プリントを配布

参考書

特になし。

成績の評価基準

毎回の提出物 (20%)、発表 (40%)、期末レポート (40%) を総合して評価する。

オフィスアワ -

月曜3限

アクティブ・ラーニング

アクティブ・ラーニング (その他の内容)

アクティブ・ラーニング (授業回数)

備考 (受講要件)

特になし。

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード

FHS-DHH2224

科目名

アジア歴史・文化研究A (旧 アジア社会史)

英語名

Asian History & Culture A

開講学科

コース

人文学科 新旧共通

多元地域文化コース

授業科目区分

授業形態

単位数

開講期

人文・多元地域文化コース
/ 選択科目

講義

2単位

2~4年

担当教員

連絡先 (TEL)

連絡先 (MAIL)

福永善隆

099(285)7561

fukunaga@leh.kagoshima-u.ac.jp

共同担当教員

前後期

後期

授業概要

テーマ：秦漢史研究の諸問題

周知のように、秦・漢王朝は中国における最初の統一王朝である。ただし、その「統一」のあり方については近年、地域性・環境史などの面から再検討が行われてきている。本講義では、これら最新の秦漢史研究の成果に基づき、現時点において解明された、新たな秦漢帝国像を浮き彫りにしていきたい。

学修目標

- 1) 秦漢時代に関する研究の新たな視点を理解する。
- 2) 秦漢帝国の歴史展開における各地域の影響を環境史・地域史の視点から理解する。
- 3) 秦漢帝国がどのように各地域の地域性を克服し、統合したのか、儒学思想の展開を通して理解する。

授業計画

第1回: イントロダクション

第2回: 秦漢史概説 (1) 秦～前漢前半期

第3回: 秦漢史概説 (2) 前漢後半期～後漢

第4回: 秦漢史研究と環境史 (1) 環境史研究の意義・視点

第5回: 秦漢史研究と環境史 (2) 中国の風土

第6回: 秦漢史研究と環境史 (3) 黄河と中国社会

第7回: 秦漢史研究と環境史 (4) 前漢の歴史展開における黄河問題

第8回: 秦漢史研究と環境史 (5) 後漢の興起と黄河

第9回: 秦漢史研究における地域性の問題 (1) 齊魯文化と楚文化

第10回: 秦漢史研究における地域性の問題 (2) 秦漢帝国と地域

第11回: 秦漢史研究における地域性の問題 (3) 秦漢帝国における楚文化

第12回: 秦漢時代における儒学と統一 (1) 儒学

第13回: 秦漢時代における儒学と統一 (2) 漢代における儒学思想の展開

第14回: 秦漢時代における儒学と統一 (3) 儒学による改革の諸相

第15回: 総括

授業外学習 (予習・復習)

(予習) 理解を深めるために授業時に紹介する関係文献を読むことを推奨する。

(復習) 理解を深めるために授業時に紹介する関係文献を読むことを推奨する。

教科書

特になし

参考書

小島 毅『東アジアの儒教と礼』(山川出版社、2004年)

原 宗子『環境から解く古代中国』(大修館書店、2009年)

濱下 武志、平勢 隆郎編『中国の歴史：東アジアの周縁から考える』(有斐閣、2015年)

その他参考文献は適宜紹介する。

成績の評価基準

授業時間中のコメントカード、期末試験

オフィスアワ -

授業・会議以外であればいつでも可。

アクティブ・ラーニング

学習の振り返り (ミニッツ・ペーパー等) ;

アクティブ・ラーニング (その他の内容)

アクティブ・ラーニング (授業回数)

15回中15回

備考 (受講要件)

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード

FHS-DDG2506

科目名

英語圏比較文化論（旧 異文化理解）（海外研修）

英語名

English-Speaking Cultures

開講学科

コース

人文学科 新旧共通

多元地域文化コース

授業科目区分

授業形態

単位数

開講期

人文・多元地域文化コース
/ 選択科目

講義

2単位

2～4年

担当教員

連絡先（TEL）

連絡先（MAIL）

竹内勝徳、中谷純江

099-285-8874

takeutik@leh.kagoshima-u.ac.jp

共同担当教員

前後期

後期

授業概要

A program including one-week fieldworks and a two-week internship in a company in the Silicon Valley area of California, as well as study trips to places of professional interest in the Bay Area hosted by Kagoshima University North American Centre. The internship will enable you to see an American company from the inside. As an intern you will be placed in businesses with Japanese-speaking staff or in educational institutions that offer Japanese as first or second language. On the the seminar:

you will conduct cross cultural fieldworks around San Francisco
 you will visit IT companies in Silicon Valley
 you will meet Japanese expatriates who work in Silicon Valley
 you will visit places of interest in the Bay Area
 you will take part in the Japan-US Mirai Forum

学修目標

The programme has three main objectives:

1. You will be able to improve both your Japanese and English communication skills.
2. It will give you an introduction to the global society.
3. You will be able to improve your critical thinking and information processing skills. Finally you will gain valuable work experience that you will be able to use in the future.

授業計画

All dates subject to change

July 6th: Orientation 1

July 20th: Orientation 2

August 24th: Orientation 2

September 1st: Japan - San Francisco

2nd: Orientation

3rd: Fieldwork

4th: Workshop

5th: Volunteer orientation

6th: Visits to Hospital

7th-8th: Home stay program

9th-13th: Internship

14th-15th: Home stay program

16th-20th: Internship

21nd-22nd: San Francisco-Japan

October-November: Debriefing sessions, report-writing and presentation (five meetings)

Session 1: General feedback

Session 2: Report/presentation preparation

Session 3: Report/presentation preparation

Session 4: Presentation Session

5: Report submission

During these sessions you will give feedback on the programme, prepare your report, present your feedback and finally submit your report.

授業外学習（予習・復習）

The students need to study practical English every day.

教科書

None

参考書

None

成績の評価基準

You will be graded on:

participation on the programme (30%)

report/presentation (70%)

オフィスアワ -

月曜の昼休み。

アクティブ・ラーニング

グループワーク；ディベート；フィールドワーク；プレゼンテーション；学習の振り返り（ミニッツ・ペーパー等）；

アクティブ・ラーニング（その他の内容）

ディスカッションにおいてアクティブ・ラーニングを行う。

アクティブ・ラーニング（授業回数）

15回中5回。

備考（受講要件）

Only 5 people may participate. If there are more than 5 applicants there will be a selection process. This will include a written statement from you stating your motivation for participating and also a brief interview.

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード

FHS-DGH2213

科目名

地理学講義B (旧 テーマ地理学I)

英語名

Physical Geography

開講学科

コース

人文学科 新旧共通

多元地域文化コース

授業科目区分

授業形態

単位数

開講期

人文・多元地域文化コース
/ 選択科目

講義

2単位

2~4年

担当教員

連絡先 (TEL)

連絡先 (MAIL)

吉田明弘

099-285-7543

aki tan@leh.kagoshima-u.ac.jp

共同担当教員

前後期

前期

授業概要

地域における風景は自然・人文的な現象によって長い時間をかけて形成されてきた。とくに、地域の景観を特徴づける地形や植生は、第四紀の気候変動による産物である。この講義では地域の風景を自然地理学的な観点から読み解くための素養を身に着けるとともに、風景を生み出した第四紀の気候変動の原因や仕組みを理解する能力を養う。さらに、グローバルの視点から地域の風景を位置づけ、それらを自ら関連付けられる力を獲得することを目標とする。

学修目標

普段から我々が目にする身近な風景は、地域によって多種多様であり、長い時間をかけて形成されてきた。とくに、第四紀の気候変動は、地域の風景を代表する地形や植生などの形成に大きく関わってきた。この講義では「風景」をテーマとして取り上げ、1) 地域の風景を読み解くためのポイント、2) 風景を生み出した第四紀における環境変動の原因や仕組み、3) それらを調べる方法などについて解説する。

授業計画

- 第1回：授業ガイダンス - 授業のテーマと進め方
 - 第2回：地図の読み方と考え方
 - 第3回：風景を読み解く(1) - 気候と植生(垂直・水平分布)
 - 第4回：風景を読み解く(2) - 組織地形(花崗岩)
 - 第5回：風景を読み解く(3) - 環境破壊(はげ山)
 - 第6回：第四紀の気候変化(1) - 氷期の発見
 - 第7回：第四紀の気候変化(2) - 酸素同位体比変動と周期性
 - 第8回：第四紀の気候変化(3) - 熱塩循環と急激な気候変動
 - 第9回：第四紀の環境変動と人類
 - 第10回：地層の編年方法(1) - テフラとテフロクロロジー
 - 第11回：地層の編年方法(2) - 放射性同位体の半減期と年代測定法
 - 第12回：日本における地表環境の変遷(1) - 地形形成と気候変動
 - 第13回：日本における地表環境の変遷(2) - 植生変化
 - 第14回：日本における地表環境の変遷(3) - 文明・文化の盛衰
 - 第15回：授業の総括
- 定期試験

授業外学習(予習・復習)

予習：配布された資料を事前に目を通し、専門用語などは辞典やインターネットで調べておくこと。
復習：配布資料やノートを見返すと共に、授業でわからない点などは文献・インターネットで調べておくこと。
なお、質問は随時受付ける。

教科書

毎回資料を配布する。配布資料はA4版のファイルやバインダーなどを用意して、各自で整理しておくこと。高校地図帳を必ず持ってくること。

参考書

授業中に適宜紹介する。

成績の評価基準

期末試験 (80%) と授業への取り組む態度や姿勢 (20%) を総合的に評価する

オフィスアワ -

質問等は、授業終了後や研究室にて随時受付ける。

アクティブ・ラーニング

その他;

アクティブ・ラーニング (その他の内容)

地形図の読図, 空中写真判読

アクティブ・ラーニング (授業回数)

15回中5回

備考 (受講要件)

この講義は自然地理学における専門的な内容について講義する。そのため、すでに自然地理学の基礎となる自然地理学概説を履修していることが望ましい。

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
FHS-DGH2230			
科目名			
地理学演習 B 1 (旧 地理学演習 I)			
英語名			
Geography B			
開講学科		コース	
人文学科 新旧共通		多元地域文化コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
人文・多元地域文化コース / 選択科目	演習	2単位	2~4年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
吉田明弘		099-285-7543	aki tan@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
		後期	
授業概要			
自然・人文地理学では地域における様々なデータを収集し、それを地図化することで空間的・時間的な地域分析を行う。この演習では、これら地理学の基礎となる地図学や測量学の基礎知識を習得すると共に、地理情報システム (GIS) を用いて、地域における様々な主題図を作成し、空間分析の能力を養う。			
学修目標			
自然・人文地理学の両分野に共通事項であるが、様々な地域のデータを収集し、それを地図化することは地域分析における基礎となる。本演習では、地図学・測量学の基礎的な知識を習得するも共に、地理情報システム (GIS) を用いて、地域における様々な地理的データから主題図を作成することで、地理学の視点からの地域分析をする能力を養う。本演習における一連の作業を通じて、地域分析と言う応用力を身に着けると共に、学位論文の執筆に必要な研究能力を養うことを到達目標とする。			
授業計画			
第 1 回：授業ガイダンス - 履修条件の確認と授業の進め方			
第 2 回：GIS 関連ソフトのインストールとプラグインソフトの導入			
第 3 回：GIS による地図表示と属性データ (ベクタ地図)			
第 4 回：GIS による地図表示と属性データ (ラスタ地図)			
第 5 回：GPS の原理とハンディ GPS による位置測定			
第 6 回：ファイル変換と Google Earth による位置情報データの展開			
第 7 回：空間座標システム (測地系・投影法) とファイル形式			
第 8 回：GIS におけるポイント・ライン・ポリゴンの作成と属性データ統合			
第 9 回：アナログ地図のデジタル化			
第 10 回：DEM の地形表現による等高線と日射量の算出法			
第 11 回：農業地図の作成 植生データによる耕作放棄地の抽出と面積計算			
第 12 回：防災地図の作成：土石流危険流域の抽出			
第 13 回：学生のグループ分けと調査目的・計画の立案			
第 14 回：野外・室内調査による一次データの取得と GIS 解析			
第 15 回：学生による調査・解析結果の発表			
授業外学習 (予習・復習)			
授業中に適宜指示する。			
教科書			
毎回資料を配布する。配布資料は A4 版のファイルやバインダーなどを用意して、各自で整理しておくこと。高校地図帳を必ず持つてくること。			
参考書			
授業中に適宜紹介する。			
成績の評価基準			
期末レポート (40%) 及び毎週の課題における提出物 (40%)、授業への取り組む態度 (20%) を総合的に評価する。			
オフィスアワ -			
質問等は、授業終了後や研究室にて随時受付ける。			

アクティブ・ラーニング

その他;

アクティブ・ラーニング (その他の内容)

GIS及びその関連ソフトを使用したパソコン実習の形式で行う。また、必要に応じて野外にて測量や調査を実施する。

アクティブ・ラーニング (授業回数)

15回中15回

備考 (受講要件)

すでに自然地理学概説を必ず履修していること。なお、この演習では高度なパソコン操作を必要とするため受講希望者は初回の授業に必ず参加して下さい。

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード

科目名

多言語文化論演習1b (フランス言語文化論演習2)

英語名

Multilingual Cultures 1b

開講学科

コース

人文学科 新旧共通

多元地域文化コース

授業科目区分

授業形態

単位数

開講期

人文・多元地域文化コース
/ 選択科目

演習

2単位

2~4年

担当教員

連絡先 (TEL)

連絡先 (MAIL)

鶴戸 聡

099-285-8883

udo@leh.kagoshima-u.ac.jp

共同担当教員

前後期

中谷純江, 兼城系絵

後期

授業概要

本授業は、COIL(Collaborative Onlune International Learning)とよばれるオンラインを利用した新しい国際協働学習の方法を取り入れておこなう。米国の連携大学 (University of Wisconsin, La Crosse) の学生と共に、日本とアメリカの教育課題について比較検討する。授業は日本語で行うが、連携大学に配信する講義やプレゼンテーションは英語で行う。近年、特に重要な課題となっている「日本語を母語としない子どもの教育問題」、「バイリンガル子どもの教育やアイデンティティの問題」、「文化的均質性や同化圧力の強い社会における少数派が抱える問題」などをテーマに議論や発表をおこなう。

学修目標

1. To identify the influence of Globalization in education (教育分野におけるグローバル化の影響を特定する)
2. To explain the Japanese educationl issues from global perspective (日本の教育課題についてグローバルな視点から説明する)
3. To compare education issues between US and Japan (米国と日本の教育課題を比較する)
4. To analyse roles of education in building a multicultural society. (多文化社会を築くために教育が果たす役割を考える)
5. To demonstrate greater openness and willingness to interact with those from different background. (異なる背景を持つ人々と接する際に心を開いて積極的な態度をしめす)

授業計画

1. Orientation: What is COIL? Topics to be learned. Class outcome, Requirement, Evaluation, How to edite video and where upload.
2. COIL Ice Breaking: Watching UWL introduction video flips and make comments. Think about what is relevant to introduce yourself to your US partners. Prepare video-flips for self-introduction of family and educational background.
3. Watching Introction videos by US students and make discussions in Japanese about the difference of educational background. Then, lecture by KU professor about Increasing numbers of non-native Japanese children and educational Issues among the minorities in Japan
4. Educational Issues in Japan: Japanese Students Group Presentation (English and Contents Check)
5. Educational Issues in US: Havig comments from UWL students of Japanese educational issues. Viewing US presentations.
6. Comparison between US and Japan: Group discussion and alalysis to compare educational issues in US and Japan. Based on the analysis, decide a topic for online group discussion with US students.
7. Onlline Group Discussion in English about their finding based on comparison between US and Japan
8. Lecture: Japanese Brazilians (in Japanese)
9. Lecture: Ethnic/ Regional Culture and Identity in France (in Japanese)
10. Drafting of the students project on Education, Culture and Identity, and presenting in Japanese, having comments,

11. Finalizing of the students project on Education, Culture and Identity and presenting in English.
12. Global teaching Plan Presentation Video by US team
13. Collaborative Workshop with US students
14. Collaborative Workshop with US students
15. Summary

授業外学習 (予習・復習)

1. Recording and uploading vidos for introducing our campus /city by 10/6 Sunday
2. Each student record and upload a video flip within 2 minnutes to introduce oneself by 10/13 Sunday.
3. KU students make questions and comments to US students's self-introduction videos by 10/20
4. Prepare for the Grpup presentations by 22. and presentation practice by 28
5. Makes questions and comments on US group presentation
6. Submit Discussion Summary in Japanese
7. Submit Comments in Japanese
8. Submit Comments in Japanese
9. Submit Comments in Japanese
10. Prepare for the project in winter holidays.
11. Drafting of the students project on Education, Culture and Identity
12. Student Project Activity
13. Collaborative Workshop
14. Collaborative Workshop
15. Preparre for Presentation

教科書

無し

参考書

- 田中宏 (2013) 『在日外国人 (第三版) : 法の壁、心の溝』岩波新書
 望月優大 (2019) 『ふたつの日本「移民国家」の建前と現実』講談社現代新書
 宮島喬 (2014) 「 6章 マイグレーションと子ども」 『多文化であることとは：新しい市民の条件』岩波現代全書
 宮島喬 (2014) 『外国人の子どもの教育』東京大学出版会
 宮島喬他 (2019) 『開かれた移民社会へ 別冊 環』24
 小島祥美 (2016) 『外国人の就学と不就学：社会で「見えない」子どもたち』大阪大学出版会
 下地ローレンス吉孝 (2019) 「日本人と外国人の二分法を問い直す」 『現代思想 特集：新移民時代』2019年4月号
 ナディ (2019) 『ふるさとって呼んでもいいですか：6歳で移民になった私の物語』大月書店
 佐久間孝正 (2015) 『多国籍化する日本の学校：教育グローバル化の衝撃』勁草書房
 徳田剛他 (2019) 『地方発 外国人住民との地域づくり：多文化共生の現場から』晃洋書房

成績の評価基準

プレゼンテーション、プロジェクトの成果、ディスカッション・サマリー

オフィスアワ -

アクティブ・ラーニング

グループワーク; プレゼンテーション;

アクティブ・ラーニング (その他の内容)

Collaborative Online International Learning

アクティブ・ラーニング (授業回数)

10

備考 (受講要件)

米国との学生との交流で英語を使用する。

受講者数を最大18名に制限するため、希望者が多い場合はセレクションを行う可能性がある。

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード

FHS-DHH2214

科目名

日本古典文学研究B (旧 日本近世文学)

英語名

Classical Japanese Literature B

開講学科

コース

人文学科 新旧共通

多元地域文化コース

授業科目区分

授業形態

単位数

開講期

人文・多元地域文化コース
/ 選択科目

講義

2単位

2~4年

担当教員

連絡先 (TEL)

連絡先 (MAIL)

丹羽謙治

099 - 285-8904

niwa@leh/kagoshima-u.ac.jp

共同担当教員

前後期

前期

授業概要

テーマ：浄瑠璃の世界

18世紀は浄瑠璃の世紀とも言われるほど、現在に上演される名作が数多く生み出された。本講義では浄瑠璃の歴史をたどりながら、作品を読解し、浄瑠璃作者の描こうとしたものを考える。特に今回は、<若者>に焦点を当てて考えていく。とりあげる作品『出世景清』『仮名手本忠臣蔵』『義経千本桜』

学修目標

- ・近世演劇の歴史についての理解を深める。
- ・浄瑠璃の上演形態や技法についての理解を深める。
- ・浄瑠璃が歌舞伎などに与えた影響について正しく理解する。

授業計画

- 第一回 イントロダクション
 第二回 古浄瑠璃の歴史
 第三回 近松登場 『出世景清』
 第四回 近松世話ものの世界
 第五回 黄金期の浄瑠璃 (1) 竹本義太夫
 第六回 黄金期の浄瑠璃 (2) 並木宗輔
 第七回 黄金期の浄瑠璃 (3) 三好松洛
 第八回 作品鑑賞 『仮名手本忠臣蔵』 五段目
 第九回 作品鑑賞 『仮名手本忠臣蔵』 六段目
 第十回 作品鑑賞 『義経千本桜』 すし屋の段
 第十一回 戯作と浄瑠璃 (1) 馬琴 『化競丑満鐘』 (前段)
 第十二回 戯作と浄瑠璃 (2) 馬琴 『化競丑満鐘』 (後段)
 第十三回 戯作と浄瑠璃 (3) 読本の中の浄瑠璃
 第十四回 『南総里見八犬伝』
 第十五回 まとめ

授業外学習 (予習・復習)

授業で扱うテキストは事前に予習しておくことが望ましい。また、授業資料をもとに、授業内容について毎時復習することが望ましい。

教科書

プリントを配布。

参考書

内山美樹子『浄瑠璃史の十八世紀』(勉誠出版)、その他は授業の中で紹介する。

成績の評価基準

レポートの成績によって評価する。

オフィスアワ -

月曜日3限 共通教育棟2号館3階 日本近世文学研究室

アクティブ・ラーニング

アクティブ・ラーニング (その他の内容)

アクティブ・ラーニング (授業回数)

備考 (受講要件)

教職免許 (国語) の必修授業科目。

28年度以前入学生は、「日本近世文学」に読み替え。

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード

FHS-DIH2139

科目名

アメリカ文学演習1(旧 アメリカ文学演習)

英語名

American Literature 1

開講学科

コース

人文学科 新旧共通

多元地域文化コース

授業科目区分

授業形態

単位数

開講期

人文・多元地域文化コース
/ 選択科目

演習

2単位

2~4年

担当教員

連絡先 (TEL)

連絡先 (MAIL)

竹内勝徳

285-8874

takeutik@leh.kagoshima-u.ac.jp

共同担当教員

前後期

後期

授業概要

前半は米国サンノゼ州立大学日本学科の学生と、スカイプ等のテレコミュニケーション・ソフトを使って、遠隔合同授業を行う。具体的には、日本人学生とアメリカ人学生が合同チームを編成し、それぞれのテーマについてディスカッションを行う。調査結果はグループ・プレゼンテーションにより発表する。それを踏まえて後半の授業では、アメリカ作家の短編小説を精読し、テーマに応じたディスカッションやさらなる調査を行う。

学修目標

- (1) アメリカ文学と文化の特徴を掴む。
- (2) アメリカ文化を理解した上で、日本の社会や歴史についてより深く考える力を身に付ける。
- (3) 資料読解やディスカッションを英語でこなすことで、英語力を向上させる。
- (4) 就職活動や教員試験、海外留学などグローバルな視野からキャリア・ビジョンを描く。

授業計画

- 第1回 サンノゼ州立大学との合同授業ーグループ紹介
 第2回 サンノゼ州立大学との合同授業ーアイスブレイキング
 第3回 サンノゼ州立大学との合同授業ーことわざについて
 第4回 サンノゼ州立大学との合同授業ーサンノゼ側のリサーチ・クエスチョン
 第5回 サンノゼ州立大学との合同授業ー鹿大側のリサーチ・クエスチョン
 第6回 プレゼンテーション準備
 第7回 プレゼンテーション
 第8回 ヘンリー・ミラーの短編を読むーカリフォルニアの環境
 第9回 ヘンリー・ミラーの短編を読むーカリフォルニアとジェンダー
 第10回 ヘンリー・ミラーの短編を読むーカリフォルニアとヒッピー文化
 第11回 ヘンリー・ミラーの短編を読むー先端都市としてのシリコンバレー
 第12回 ヘンリー・ミラーの短編を読むー夢の国としてのカリフォルニア
 第13回 ヘンリー・ミラーの短編を読むーセクシュアリティについて
 第14回 ヘンリー・ミラーの短編を読むー先進性と対抗文化
 第15回 ディスカッション
 第16回 試験

授業外学習(予習・復習)

- ・予習：授業中に配ったプリントを読み、英文を訳しておく。
- ・復習：ノートに書いたことを整理し、授業中になされた指示に従って調査等を行う。
- ・英語教材を各自で決定して、毎日決まったペースで学習すること(予習・復習とも)。

教科書

授業中に指示する。

参考書

授業中に指示する。

成績の評価基準

プレゼンテーション30%、授業中の発表30%、試験40%。

オフィスアワ -

月曜昼休み

アクティブ・ラーニング

グループワーク; ディベート; プレゼンテーション;

アクティブ・ラーニング (その他の内容)

アクティブ・ラーニング (授業回数)

15回中14回。

備考 (受講要件)

英語力の向上に意欲をもっていること。

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード

FHS-DIH2137

科目名

イギリス文学演習 1 (旧 イギリス文学演習1)

英語名

English Literature 1

開講学科

コース

人文学科 新旧共通

多元地域文化コース

授業科目区分

授業形態

単位数

開講期

人文・多元地域文化コース
/ 選択科目

演習

2単位

2~4年

担当教員

連絡先 (TEL)

連絡先 (MAIL)

大和高行

099-285-7570

yamato@leh.kagoshima-u.ac.jp

共同担当教員

前後期

前期

授業概要

本授業では、イギリスのロマン派の詩人たちの代表作を精読し、それぞれの英詩のテーマや技法や個性を確認しながら鑑賞します。一口に「ロマン派の詩人」と言っても、詩作のテーマは様々で、異なる詩形や韻律で対象を描いています。授業では教員が個々の詩について、(1)試訳、(2)英語のワンポイント、(3)詩的技法、(4)その詩の素晴らしいところ、を記したレジュメを配って全体的な説明を行います。その後、受講者全員による議論を通じ、理解を深めます。

学修目標

- 1、イギリスのロマン派の詩人たちの代表作を正確に読解することができる。
- 2、イギリスのロマン派の詩人たちの代表作を鑑賞・批評することができる。

授業計画

- 第1回 オリエンテーション (授業の目的、授業の進め方、評価基準等についての説明)
- 第2回 William Blake: 'Infant Joy', 'Night', 'Infant Sorrow'
- 第3回 William Blake: 'Garden of Love', 'London', 'The Tyger'
- 第4回 William Blake: 'The Sick Rose', 'Love's Secret', 'Ah! Sun-Flower'
- 第5回 William Wordsworth: 'The Table Turned', 'To the Cuckoo', 'There was a Boy'
- 第6回 William Wordsworth: 'Lucy': "Strange Fits of Passion have I Known", 'Lucy': "She dwelt among the Untrodden Ways", 'Lucy': "A slumber did my spirit seal"
- 第7回 William Wordsworth: 'The Daffodils', 'Resolution and Independence', 'Stepping Westward'
- 第8回 William Wordsworth: 'Composed upon Westminster Bridge Sept 3, 1802', 'The Reaper', 'The Rainbow'
- 第9回 Samuel Taylor Coleridge: 'To the River Otter', 'Kubla Khan', 'Love'
- 第10回 George Gordon Byron: 'I would I were a careless child', 'The Ocean', 'Prometheus'
- 第11回 George Gordon Byron: 'She walks in Beauty', 'When We Two Parted', 'So, We'll go No More a Roving', 'On this Day I complete My Thirty-Sixth Year'
- 第12回 Percy Bysshe Shelley: 'Hymn to Intellectual Beauty', 'To a Skylark'
- 第13回 Percy Bysshe Shelley: 'Ode to the West Wind', 'To Night'
- 第14回 John Keats: 'To Autumn', 'Ode to A Nightingale', 'Ode to the West Wind'
- 第15回 John Keats: 'Ode on Melancholy', 'La belle dame sans merci', 'Ode on a Grecian Urn' など

授業外学習 (予習・復習)

教科書、授業中に配布されるプリント、参考文献などに予め目を通し、予習しておくこと。また、毎回の講義を受けた後に、復習しておくこと。(学習に係る標準時間は約1時間)

教科書

上島健吉 (編注) 『ロマン派詩選』 (研究社小英文叢書, 189)、研究社、2006年、1,680円 (税込)

参考書

- 磯田光一 『イギリス・ロマン派詩人』 河出書房新社 1979年
- イギリス・ロマン派学会 (編) 『イギリス・ロマン派研究: 思想・人・作品』 桐原書店 1985年
- 片岡甚太郎・佐竹龍照 (編注) English Poetry (2) 『英詩 (2)』 三修社 1991年
- 平井正穂 (編) 『イギリス名詩選』 (岩波文庫)、岩波書店、1990年

その他、適宜紹介します。

成績の評価基準

授業中の発言および態度(30%)、プレゼン(30%)、期末レポート(40%)

オフィスアワ -

曜日・時間：毎週水曜日9:15～10:15、場所：大和研究室

アクティブ・ラーニング

ディベート；プレゼンテーション；学習の振り返り（ミニッツ・ペーパー等）；

アクティブ・ラーニング（その他の内容）

アクティブ・ラーニング（授業回数）

15回中15回

備考（受講要件）

実務経験のある教員による実践的授業

該当せず。

ナンバリングコード

科目名

中国言語文化研究B(旧 中国言語文化論)

英語名

Chinese Language & Culture B

開講学科

コース

人文学科 新旧共通

多元地域文化コース

授業科目区分

授業形態

単位数

開講期

人文・多元地域文化コース
/ 選択科目

講義

2単位

2~4年

担当教員

連絡先(TEL)

連絡先(MAIL)

中筋健吉

099-285-8893

k9553471@kadai.jp

共同担当教員

前後期

後期

授業概要

テーマ

「中国詩人論」(曹植の巻 Season4)

三国・魏・曹植は曹操の三男です。聡明かつ豊かな文学的才能を持っていた。曹操は自らの後嗣として長男曹丕と曹植のいずれを立てるべきかに苦悩したが、このことから彼に対する思いの深さをほどを知ることができる。曹丕が後嗣ときまり、曹操亡き後魏帝国における彼の人生は暗転し、失意のうちにその生涯をおける。

今季の授業では後漢・三国の時代背景に目を向けながら、彼の伝記、作品を鑑賞することで、彼の賢性と文学を見ていく。

学修目標

1. 本授業は中国古典文学史上の著名な作家、作品をとりあげ、作家の人生との関わりを中心にその文学の特色および思想を理解することを目的とする。
2. 今季は曹植を取り上げ、彼の人生と文学の本質を考えていく。

授業計画

- 第1回: ガイダンス/授業計画
 第2回: 建安文学について(1)
 第3回: 建安文学について(2)
 第4回: 曹植の伝記(1): 『三国志』魏書曹植傳
 第5回: 曹植の伝記(2): 『三国志』魏書曹植傳
 第6回: 曹植の作品鑑賞 詩篇(1)
 第7回: 曹植の作品鑑賞 詩篇(2)
 第8回: 曹植の作品鑑賞 詩篇(3)
 第9回: 曹植の作品鑑賞 詩篇(4)
 第10回: 曹植の作品鑑賞 詩篇(5)
 第11回: 曹植の作品鑑賞 文篇(1)
 第12回: 曹植の作品鑑賞 文篇(2)
 第13回: 曹植の作品鑑賞 文篇(3)
 第14回: 曹植の作品鑑賞 文篇(4)
 第15回: 授業総括

授業の過程で、本計画は変更することもある。

授業外学習(予習・復習)

予習: 講義で配布した資料、紹介された参考文献等を事前に確認し出席することが望ましい。

復習: 講義資料にもとづいて授業の復習をすることが望ましい。

教科書

授業中に適宜資料を配布する。

参考書

伊藤正文『中国詩人選集 曹植』。

他は授業中に適宜紹介する。

成績の評価基準

「学期末レポート」(70%)「ミニッツ・ペーパー」(30%)による。
ただし、授業状況によって変更の可能性あり。その際には通知する。

オフィスアワ -

不在時以外随時。但し事前にメールにてご連絡下さい。

アクティブ・ラーニング

学習の振り返り(ミニッツ・ペーパー等);

アクティブ・ラーニング(その他の内容)

アクティブ・ラーニング(授業回数)

15回中10回(予定)

備考(受講要件)

授業計画は状況に応じて変更することもある。

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
科目名			
書籍文化研究			
英語名			
Book Culture			
開講学科		コース	
人文学科 新旧共通		多元地域文化コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
人文・多元地域文化コース / 選択科目	講義	2単位	2～4年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
竹岡健一		099-285-7577	takeoka@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
		前期	
授業概要			
<p>授業の概要</p> <p>この授業では、聖職者や王侯貴族の特権であった本の所有と読書が市民や労働者といった一般の人々の間にも普及して行く「読書の民主化」がどのように生じたのかについて理解を深める。そのため、前半では西洋における中世以降の「読書の民主化」を主要4段階に分けて論じ、後半では、主に20世紀のドイツにおいて「読書の民主化」の大きな推進力となった廉価図書販売組織「ブッククラブ」について詳しく考察する。</p>			
学修目標			
<p>授業の到達目標及びテーマ</p> <p>この授業は、書籍文化をテーマとして、学習者が次の能力を身につけることを到達目標とする。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 「読書の民主化」とはどのようなものかを説明できる。 2. 「読書の民主化」の発展過程について説明できる。 3. 「読書の民主化」における「ブッククラブ」の役割を説明できる。 			
授業計画			
<p>授業計画</p> <p>第1回：オリエンテーション</p> <p>第2回：「読書の民主化」の概念規定</p> <p>第3回：「読書の民主化」の発展過程（1）宗教改革期</p> <p>第4回：「読書の民主化」の発展過程（2）第一次読書革命期</p> <p>第5回：「読書の民主化」の発展過程（3）第二次読書革命期</p> <p>第6回：「読書の民主化」の発展過程（4）第三の飛躍期</p> <p>第7回：「ブッククラブ」の概念規定</p> <p>第8回：書籍販売における「ブッククラブ」の特異性</p> <p>第9回：ワイマール共和国時代のドイツにおける「ブッククラブ」の隆昌</p> <p>第10回：伝統的な書籍販売と「ブッククラブ」（1）対立</p> <p>第11回：伝統的な書籍販売と「ブッククラブ」（2）対立から共存へ</p> <p>第12回：1945年以前のドイツにおける「ブッククラブ」（1）市民的ブッククラブ</p> <p>第13回：1945年以前のドイツにおける「ブッククラブ」（2）保守的ブッククラブ</p> <p>第14回：1945年以前のドイツにおける「ブッククラブ」（3）左翼的ブッククラブ</p> <p>第15回：授業のまとめとふりかえり</p> <p>定期試験（レポート提出）</p>			
授業外学習（予習・復習）			
<p>予習：授業内容に関連する事柄について、読書や情報収集を行う。1時間程度。</p> <p>復習：授業内容を振り返り、理解を深め、さらに読書や情報収集を行う。30分程度。</p>			
教科書			
<p>テキスト</p> <p>授業中に資料を配布する。</p>			
参考書			
<p>参考書・参考資料等</p>			

- ・戸叶勝也『ドイツ出版の社会史　グーテンベルクから現代まで』（三修社）1992年。
- ・ロジェ・シャルティエ/グリエルモ・カヴァッロ編『読むことの歴史　ヨーロッパ読書史』田村毅他共訳（大修館書店）2000年。
- ・マーティン・ライアンズ『本の歴史文化図鑑』蔵持不三也/三芳康義訳（柘風舎）2012年。

成績の評価基準

学生に対する評価

授業中に課すミニレポート（50％）と期末試験（50％）に基づいて、総合的に評価する。

オフィスアワ -

特に時間は設けない。質問等があれば、随時申し出ること。

アクティブ・ラーニング

学習の振り返り（ミニッツ・ペーパー等）；

アクティブ・ラーニング（その他の内容）

アクティブ・ラーニング（授業回数）

15回中10回

備考（受講要件）

プロジェクター

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
科目名			
書籍文化演習 1			
英語名			
Book Culture 1			
開講学科		コース	
人文学科 新旧共通		多元地域文化コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
人文・多元地域文化コース / 選択科目	演習	2単位	2～4年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
竹岡健一		099-285-7577	takeoka@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
		前期	
授業概要			
<p>授業の概要</p> <p>この授業では、書籍の歴史に関する文献の講読と討論を行い、書籍研究における問題の立て方や論の進め方などを理解する。また、そこで得られた問題意識に基づいて、学習者自らが書籍文化に関するテーマを設定してレポートの作成と報告を行う。</p>			
学修目標			
<p>授業の到達目標及びテーマ</p> <p>この授業は、書籍文化をテーマとして、学習者が次の能力を身につけることを到達目標とする。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 書籍文化に対する視点や問題意識を身につける。 2. 先行文献の批判的な読解力を身につける。 3. レポートの作成や報告、および討論のスキルを身につける。 			
授業計画			
<p>授業計画</p> <p>第1回：オリエンテーション</p> <p>第2回：書籍文化に関する文献講読（1） ブリュノ・ブラセル『本の歴史』 第1章</p> <p>第3回：書籍文化に関する文献講読（2） ブリュノ・ブラセル『本の歴史』 第2章</p> <p>第4回：書籍文化に関する文献講読（3） ブリュノ・ブラセル『本の歴史』 第3章</p> <p>第5回：書籍文化に関する文献講読（4） ブリュノ・ブラセル『本の歴史』 第4章</p> <p>第6回：書籍文化に関する文献講読（5） ブリュノ・ブラセル『本の歴史』 第5章</p> <p>第7回：書籍文化に関する文献講読（6） ブリュノ・ブラセル『本の歴史』 資料編 1～2</p> <p>第8回：書籍文化に関する文献講読（7） ブリュノ・ブラセル『本の歴史』 資料編 3～4</p> <p>第9回：書籍文化に関する文献講読（8） ブリュノ・ブラセル『本の歴史』 資料編 5～7</p> <p>第10回：レポートの作成方法（1） テーマの設定</p> <p>第11回：レポートの作成方法（2） 文献調査</p> <p>第12回：レポートの作成方法（3） 全体の構成</p> <p>第13回：レポートの作成方法（4） 引用と注</p> <p>第14回：レポートの作成方法（5） レイアウト</p> <p>第15回：授業のまとめとふりかえり</p> <p>定期試験（レポート提出）</p>			
授業外学習（予習・復習）			
<p>予習： テキストの次の授業で扱われる範囲を講読し、質問等を考える。1時間程度。</p> <p>復習： 授業の内容を再確認し、興味を持った点や理解が不十分な点について自分なりの調査を行う。30分程度。</p>			
教科書			
<p>テキスト</p> <p>ブリュノ・ブラセル（荒俣宏監修・木村恵一訳）『本の歴史』（創元社）1998年。</p>			
参考書			
<p>参考書・参考資料等</p>			

樺山紘一『図説 本の歴史』（河出書房新社）2011年。

成績の評価基準

学生に対する評価

テキストの予習、討論への参加、レポートの作成と報告などにより総合的に評価する。

オフィスアワー

特に時間は設けない。質問等があれば随時申し出ること。

アクティブ・ラーニング

ディベート;

アクティブ・ラーニング（その他の内容）

アクティブ・ラーニング（授業回数）

15回中10回

備考（受講要件）

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
科目名			
考古学演習 1 a (旧 物質文化論演習)			
英語名			
Archaeology 1a			
開講学科		コース	
人文学科 新旧共通		多元地域文化コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
人文・多元地域文化コース / 選択科目	演習	2単位	2～4年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
渡辺芳郎		099-285-7549	watanabe@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
		後期	
授業概要			
<p>学術論文はどのような構成になっているか、を理解するために、考古学関係の論文を用いながら、受講生がその論文に関するレジюмеを作成し、発表する。また4年生は卒業論文の進捗状況について発表する。</p>			
学修目標			
<p>学術論文の構成を理解するとともに、自らが卒業論文を書くための基礎的知識と技能を修得する。</p>			
授業計画			
第1回 ガイダンス			
第2回 学生による発表とディスカッション1			
第3回 学生による発表とディスカッション2			
第4回 学生による発表とディスカッション3			
第5回 学生による発表とディスカッション4			
第6回 学生による発表とディスカッション5			
第7回 学生による発表とディスカッション6			
第8回 学生による発表とディスカッション7			
第9回 学生による発表とディスカッション8			
第10回 学生による発表とディスカッション9			
第11回 学生による発表とディスカッション10			
第12回 学生による発表とディスカッション11			
第13回 学生による発表とディスカッション12			
第14回 学生による発表とディスカッション13			
第15回 学生による発表とディスカッション14			
授業外学習 (予習・復習)			
<p>各学生による発表を主体とするので、そのための予習は必須。また授業での議論・指摘等をもとに復習が望ましい。</p>			
教科書			
参考書			
授業中、適宜紹介する。			
成績の評価基準			
平常点・期末レポート			
オフィスアワ -			
授業・会議のない日時であればいつでも可(土日・祝日は除く)			
アクティブ・ラーニング			
ディベート; プレゼンテーション;			
アクティブ・ラーニング (その他の内容)			
学生が選択した論文をレジюмеにまとめ発表し、その内容について議論する。			
アクティブ・ラーニング (授業回数)			
14回			

備考 (受講要件)

平成23年度以前の入学生は「物質文化論演習」に読み替える。

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
科目名			
中国古典文学(旧 中国文学)			
英語名			
開講学科		コース	
人文学科 新旧共通		多元地域文化コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
人文・多元地域文化コース / 選択科目	講義	2単位	2~4年
担当教員		連絡先(TEL)	連絡先(MAIL)
土肥克己			
共同担当教員		前後期	
		前期	
授業概要			
<p>テーマは「中国の歌の文化史」。中国は2000年以上にわたって礼楽制度(れいがくせいど)を採用し、音楽は社会秩序を維持するための装置とみなされてきた。そのため音楽や歌を楽しむときも、あまり風紀を乱さないように常に抑制的な態度が求められる。それにもかかわらず、いつの時代でも音楽や歌は既成の秩序から逸脱する傾向があり、体制を悩ませつづけてきた。その様子を時代ごとに見ていきたい。</p>			
学修目標			
歌という日常的な行為を、前近代の中国における社会秩序の維持と逸脱という観点から理解する。			
授業計画			
第1回 歌の文化史について	第10回 自然との調和	漢代2(1)	
第2回 中国の歌(1)	第11回 同上(2)		
第3回 同上(2)	第12回 同上(3)		
第4回 歌の発生 漢代以前(1)	第13回 心のあり方	漢代3(1)	
第5回 同上(2)	第14回 同上(2)		
第6回 同上(3)	第15回 まとめ		
第7回 楽(がく)の時代 漢代1(1)			
第8回 同上(2)			
第9回 同上(3)			
授業外学習(予習・復習)			
予習: 授業前にプリントを一読してきてください。			
復習: 次の授業までに前回のプリントを一読してきてください。			
教科書			
プリントを配布する。			
参考書			
授業中に紹介する。			
成績の評価基準			
期末試験(プリント, ノート持込み可)			
オフィスアワ -			
アクティブ・ラーニング			
アクティブ・ラーニング(その他の内容)			
アクティブ・ラーニング(授業回数)			
備考(受講要件)			
過去に担当教員の「中国文学」「中国古典文学」を単位取得済みの場合、履修はできません。			
実務経験のある教員による実践的授業			

ナンバリングコード			
科目名			
考古学研究B (旧 考古学講義)			
英語名			
Archaeology B			
開講学科		コース	
人文学科 新旧共通		多元地域文化コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
人文・多元地域文化コース / 選択科目	講義	2単位	2~4年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
石田智子		099-285-7549	ishida@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
		前期	
授業概要			
人間が生活を営む上で、道具は不可欠な存在である。本講義では、旧石器時代から古墳時代を中心とする先史時代の道具を対象に、どのような観察視点や手続きで過去の人間活動や社会を復元するか、具体的な事例に基づいて論じる。特に、考古学的手法だけでなく、多様な自然科学的分析方法や最新技術を適用することで、モノからひきだすことができる豊かな情報を提示する。			
学修目標			
1) 考古資料の観察・分析方法の基礎を学ぶことで、モノから情報をひきだす力を身につける。 2) 考古学と関連諸科学の関係を理解する。 3) 日常生活で触れ合うモノの存在を意識して、考える機会をもつ。 4) 人類史の視野を身につける。			
授業計画			
第1回 インTRODクシヨン 第2回 道具とはなにか：考古学における研究方法 第3回 道具の作りかた・使いかた1：石器 第4回 道具の作りかた・使いかた2：木器 第5回 道具の作りかた・使いかた3：骨角器・貝器 第6回 道具の作りかた・使いかた4：土器 第7回 道具の作りかた・使いかた5：青銅器・ガラス 第8回 道具の作りかた・使いかた6：鉄器 第9回 道具と社会1：社会の複雑化と道具の関係 第10回 道具と社会2：分業 第11回 道具と社会3：威信財 第12回 おまつりの道具1：図像表現 第13回 おまつりの道具2：模造品・破壊行為 第14回 道具のリサイクル：再利用・転用 第15回 まとめ：道具の考古学			
授業外学習 (予習・復習)			
授業中に配布した資料を参考に復習することが望ましい。			
教科書			
特になし。授業中に適宜紹介する。			
参考書			
特になし。授業中に資料を適宜配布する。			
成績の評価基準			
授業の取り組み態度 (50%) と期末レポート (50%) で評価する。			
オフィスアワ -			
研究室在室中はいつでも可。			
アクティブ・ラーニング			
学習の振り返り (ミニッツ・ペーパー等) ;			

アクティブ・ラーニング(その他の内容)

アクティブ・ラーニング(授業回数)

15回中15回

備考(受講要件)

最新の研究成果や発掘調査情報を随時取り入れるため、当初の講義内容を変更する場合がある。

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
科目名			
言語文学実習			
英語名			
開講学科		コース	
人文学科 新旧共通		多元地域文化コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
人文・多元地域文化コース / 選択科目	実習	1単位	2～4年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
内山弘・三木夏華・多田蔵人		内山：099-285-8906 三木： 099-285-8900 多田：099-285-7556	内山：pon@leh.kagoshima-u.ac.jp 三木： sanmu@leh.kagoshima-u.ac.jp 多 田：ktada@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
		後期	
授業概要			
本実習では、日本語学・日本近現代文学・中国語学を専門とする各教員がそれぞれの専門分野で普段行なっている研究を学生の前で実践した上で、学生にも実践させることで、各々の研究方法を実地に学ばせる。			
学修目標			
・日本語・日本文学および中国語学の各領域の具体的な研究方法について実践的な知識を得ることができる。			
授業計画			
第1回：導入 日本語学編(1) 外国資料を読む(『魏志倭人伝』『天草版伊曾保物語』)			
第2回：日本語学編(2) 上代文献を読む(『古事記』古写本)			
第3回：日本語学編(3) 訓点資料を読む(『日本書紀』古写本)			
第4回：日本語学編(4) くずし字文献を読む(幕末期狂言台本)			
第5回：日本語学編(5) 方言資料を読む(『於知与物語』)			
第6回：日本文学編(1) 鈴木天眼『千里風煙 政事上之放逐人』を読む			
第7回：日本文学編(2) 原著英訳本The Exiles: A Russian Storyとの比較			
第8回：日本文学編(3) 原著Vie en Sibirie. Aventures de trois fugitifsとの比較			
第9回：日本文学編(4) 『政事上之放逐人』と森田思軒『警使者』との比較			
第10回：日本文学編(5) 『警使者』と原著Michele Strogoffとの比較			
第11回：中国語学編(1) 日本語のオノマトペを考える			
第12回：中国語学編(2) 中国語のオノマトペを考える			
第13回：中国語学編(3) 漢語由来の畳音語について			
第14回：中国語学編(4) オノマトペに関するアクティブラーニング1			
第15回：中国語学編(5) オノマトペに関するアクティブラーニング2			
授業外学習(予習・復習)			
予習：担当教員が授業中に適宜指示			
復習：担当教員が授業中に適宜指示			
教科書			
授業中に適宜配布。			
参考書			
授業時に適宜指定。			
成績の評価基準			
授業への取り組み態度(100%)			
オフィスアワー			
個々の担当教員に事前にメールで問い合わせること。			
アクティブ・ラーニング			
その他;			
アクティブ・ラーニング(その他の内容)			

実習

アクティブ・ラーニング（授業回数）

15回中15回

備考（受講要件）

特に定めない。

実務経験のある教員による実践的授業

科目名

ドイツ語圏文化研究 (旧 ドイツ語圏の文学と文化)

英語名

German-Speaking Cultures

開講学科

コース

人文学科 新旧共通

多元地域文化コース

授業科目区分

授業形態

単位数

開講期

人文・多元地域文化コース
/ 選択科目

講義

2単位

2~4年

担当教員

連絡先 (TEL)

連絡先 (MAIL)

與倉アンドレーア

099-285-7578

yokura@leh.kagoshima-u.ac.jp

共同担当教員

前後期

後期

授業概要

This class will be held in English and Japanese. The topic is Austrian literature in the 20th century. As an introduction a general overview of Austrian history and literature during that period will be given. As most students will not be able to read texts in the original German, translations into English or Japanese will be used. Texts by 3 authors (Zweig, Aichinger, Haslinger) will be the material to show trends in Austrian literature.

学修目標

- (1) Understanding history and trends in Austrian literature during the 20th century.
- (2) Reading representative texts in English and Japanese.
- (3) Gaining understanding into the literary world of 3 authors.

授業計画

- 第1回 Orientation. Introduction into the subject.
 第2回 History of Austria in the 20th century.
 第3回 Stefan Zweig (1881-1942): His life and major works.
 第4回 Zweig: "チェスのゲーム" "Die Schachnovelle" (1942) :setting, characters
 第5回 Zweig: "チェスのゲーム" "Die Schachnovelle" :reading the text
 第6回 Zweig: "チェスのゲーム" "Die Schachnovelle": interpretation
 第7回 Ilse Aichinger (1921-2016) Her life and major works.
 第8回 Aichinger: "Window-theater" "Das Fenster-Theater"(1963):setting,imagery
 第9回 Aichinger: "Window-theater": reading the text
 第10回 Aichinger: "Window-theater": interpretation
 第11回 Josef Haslinger (*1955) His life and major works.
 第12回 Haslinger: "オペラ座" "Opernball"(1995) historical background
 第13回 Haslinger: "オペラ座" "Opernball": reading the text
 第14回 Haslinger: "オペラ座" "Opernball": interpretation
 第15回 Conclusion: trends in Austrian literature of the 20th century

授業外学習 (予習・復習)

予習: 授業内容に関連する事柄について、読書や情報収集を行う。1時間程度。

復習: 授業内容を振り返り、理解を深め、さらに読書や情報収集を行う。30分程度。

教科書

特になし。資料プリントを配布予定。

参考書

授業中に紹介する。

成績の評価基準

「授業への取り組み態度 (コメントペーパー) 」 (50%) と 「期末レポート」 (50%) に基づいて、総合的に評価する。

オフィスアワ -

Questions always welcome. Make an appointment please.

アクティブ・ラーニング

グループワーク; ディベート;

アクティブ・ラーニング(その他の内容)

アクティブ・ラーニング(授業回数)

15回中15回

備考(受講要件)

プロジェクター(パソコン、ビデオ、DVD)。

実務経験のある教員による実践的授業

多言語文化論演習 2 (旧 ヨーロッパ言語文化演習A5)
ナンバリングコード

科目名

多言語文化論演習 2 (旧 ヨーロッパ言語文化演習A5)

英語名

Multilingual Cultures 2

開講学科

コース

人文学科 新旧共通

多元地域文化コース

授業科目区分

授業形態

単位数

開講期

人文・多元地域文化コース
/ 選択科目

演習

2単位

3~4年

担当教員

連絡先 (TEL)

連絡先 (MAIL)

鶴戸 聡

udo@leh.kagoshima-u.ac.jp

共同担当教員

前後期

後期

授業概要

卒論準備・執筆のための指導を行う。

学修目標

卒論のテーマを絞り込み、資料の収集・分析を行う。

授業計画

個別指導を中心に、適宜全体で報告会を開催する。

授業外学習 (予習・復習)

教科書

戸田山和久『新版 論文の教室』NHK出版、2012年

参考書

成績の評価基準

作業の進捗状況に拠る。

オフィスアワ -

随時。メールにてアポをとること。

アクティブ・ラーニング

プレゼンテーション;

アクティブ・ラーニング (その他の内容)

アクティブ・ラーニング (授業回数)

備考 (受講要件)

ゼミ生対象

実務経験のある教員による実践的授業

西洋歴史・文化演習 2 B (旧 西洋の歴史と社会演習B2)
ナンバリングコード

科目名

西洋歴史・文化演習 2 B (旧 西洋の歴史と社会演習B2)

英語名

Western History & Culture 2B

開講学科

コース

人文学科 新旧共通

多元地域文化コース

授業科目区分

授業形態

単位数

開講期

人文・多元地域文化コース
/ 選択科目

演習

2単位

3~4年

担当教員

連絡先 (TEL)

連絡先 (MAIL)

藤内哲也

099-285-8863

ttonai@leh.kagoshima-u.ac.jp

共同担当教員

前後期

後期

授業概要

本演習では、ヨーロッパの歴史世界に関するテキストを講読し、研究の視点や手法についての理解を深めます。また、卒業論文の作成に向けて、各自で研究テーマを設定し、レジュメやパワーポイントを使って発表します。それぞれの発表後には、全体でディスカッションを行います。

学修目標

1. ヨーロッパの歴史世界に関する知見や研究の視座を獲得します
2. 「人文学基礎 1、2」や「コース基礎演習 1、2」で培った技能をもとに、ヨーロッパの歴史世界を研究するうえで必要な情報分析力、批判的思考力、自己表現力などを身につけます
3. 卒業論文の作成に向けて、各自のテーマについての知見や理解を深めます

授業計画

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 研究テーマの設定・テキストの決定
- 第3回 テキスト講読(1)
- 第4回 テキスト講読(2)
- 第5回 テキスト講読(3)
- 第6回 テキスト講読(4)
- 第7回 テキスト講読(5)
- 第8回 個人発表(1)
- 第9回 個人発表(2)
- 第10回 個人発表(3)
- 第11回 個人発表(4)
- 第12回 個人発表(5)
- 第13回 個人発表(6)
- 第14回 個人発表(7)
- 第15回 まとめと課題

授業外学習 (予習・復習)

【予習】テキストをあらかじめ講読し、疑問点などをまとめます。個人発表に際しては、資料を広く読み、レジュメを作成します。

【復習】個人発表において受けた質問やコメントをまとめ、今後の研究の展開過程について考えます。

教科書

指定しません

参考書

服部良久・南川高志・小山哲・金沢周作編『人文学への接近法 西洋史を学ぶ』京都大学学術出版会、2010年
井上浩一『私もできる西洋史研究』和泉書院、2012年
このほかの文献については、授業中に適宜紹介します

成績の評価基準

発表の準備・内容、プレゼンテーション、ディスカッションへの積極的な参加、レポートなどにより総合的に判断します

随時 (メールにてアポを取る)

アクティブ・ラーニング

ディベート; プレゼンテーション;

アクティブ・ラーニング (その他の内容)

アクティブ・ラーニング (授業回数)

15回中12回

備考 (受講要件)

ゼミ所属生に限ります

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード

科目名

イギリス文学演習2 (旧 イギリス演劇論演習)

英語名

English Literature 2

開講学科

コース

人文学科 新旧共通

多元地域文化コース

授業科目区分

授業形態

単位数

開講期

人文・多元地域文化コース
/ 選択科目

演習

2単位

3~4年

担当教員

連絡先 (TEL)

連絡先 (MAIL)

大和高行

0 9 9 - 2 8 5 - 7570

yamato@leh.kagoshima-u.ac.jp

共同担当教員

前後期

後期

授業概要

本授業では卒業論文執筆に向けた指導を行う。各人のテーマに沿った参考文献を収集したり、ゼミでの中間発表、最終発表に向けた論文の執筆を行う。

学修目標

- 1 卒業論文のテーマにかかわる先行研究論文を集め、自分の言葉でまとめなおすことができる。
- 2 卒業論文にふさわしいロジックを持った説得的な論文を書くことができる。

授業計画

- 第1回 ガイダンス (授業の目的、授業の進め方、評価基準等についての説明)
- 第2回 良い論文についての説明
- 第3回 参考文献の渉猟、卒業論文の執筆1
- 第4回 参考文献の渉猟、卒業論文の執筆2
- 第5回 卒論中間発表 アクティブラーニング1 (プレゼンテーションとディベート)
- 第6回 卒論中間発表 アクティブラーニング2 (プレゼンテーションとディベート)
- 第8回 卒論中間発表 アクティブラーニング3 (プレゼンテーションとディベート)
- 第9回 ディベートでの指摘を受けての卒業論文の執筆1
- 第10回 ディベートでの指摘を受けての卒業論文の執筆2
- 第11回 ディベートでの指摘を受けての卒業論文の執筆3
- 第12回 卒論中間発表 アクティブラーニング4 (プレゼンテーションとディベート)
- 第13回 卒論中間発表 アクティブラーニング5 (プレゼンテーションとディベート)
- 第14回 卒論中間発表 アクティブラーニング6 (プレゼンテーションとディベート)
- 第15回 まとめと総合的評価。レポートを課し、最後にまとめの授業を行う。

授業外学習 (予習・復習)

各自で用意した教科書や指導教員から指示された参考書などに予め目を通し、予習しておくこと。また、毎回の授業を受けた後や添削済みの卒論草稿レポートが返却された時など、指導教員から指摘された点を中心に、復習しておくこと。(学習に係る標準時間は約1時間)

教科書

各人で用意する。

参考書

各人ごとに必要なものを図書館やインターネット等で集める。

成績の評価基準

ディベート(50%)とプレゼンテーション(50%)の出来具合で評価する。

オフィスアワ -

曜日・時間：毎週水曜日9:15~10:15、場所：大和研究室

アクティブ・ラーニング

ディベート; プレゼンテーション;

アクティブ・ラーニング (その他の内容)

アクティブ・ラーニング (授業回数)

15回中 15回

備考 (受講要件)

ゼミ生に限る

実務経験のある教員による実践的授業

該当せず。

西洋歴史・文化演習 2 A (旧 西洋の歴史と社会演習A2)
ナンバリングコード

科目名

西洋歴史・文化演習 2 A (旧 西洋の歴史と社会演習A2)

英語名

Western History & Culture 2A

開講学科

コース

人文学科 新旧共通

多元地域文化コース

授業科目区分

授業形態

単位数

開講期

人文・多元地域文化コース
/ 選択科目

演習

2単位

3~4年

担当教員

連絡先 (TEL)

連絡先 (MAIL)

細川道久

hos leh.kagoshima-u.ac.jp は
アットマーク

共同担当教員

前後期

後期

授業概要

卒業論文を作成するための実践的な授業です。テーマ設定、文献検索、レジюме作成、報告、討論、レポート作成を進めながら、実際の卒業論文執筆に必要な能力を養います。

学修目標

1. 卒業論文作成に必要な研究能力を養う。
2. 卒業論文作成を通して、歴史学研究への理解を深める。

授業計画

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 卒論とは何か
- 第3回 卒論テーマの選び方
- 第4回 参考文献の探し方
- 第5回 文献の読み方
- 第6回 報告の仕方
- 第7回 個々のテーマに応じた助言指導 (3年生)
- 第8回 個々のテーマに応じた助言指導 (4年生)
- 第9回 個々のテーマに応じた助言指導 (2年生)
- 第10回 ディスカッションの仕方
- 第11回 報告 (3年生) とディスカッション
- 第12回 報告 (4年生) とディスカッション
- 第13回 報告 (2年生) とディスカッション
- 第14回 論文執筆の作法
- 第15回 総括

授業外学習 (予習・復習)

卒論作成に向けて、予習、復習は必須です。

教科書

なし。

参考書

特になし。

成績の評価基準

授業への取り組み態度 (課題の準備、討論への参加度)。

オフィスアワ -

金曜10時~11時

アクティブ・ラーニング

ディベート; プレゼンテーション;

アクティブ・ラーニング (その他の内容)

アクティブ・ラーニング (授業回数)

備考(受講要件)

ゼミ所属生は必ず受講してください。平成28年度以前の入学生については、「西洋の歴史と社会演習A2」に読み替える。

実務経験のある教員による実践的授業

現代ヨーロッパ・アメリカ文化演習 2 (旧 ヨーロッパ言語文化演習A3)
ナンバリングコード

科目名

現代ヨーロッパ・アメリカ文化演習 2 (旧 ヨーロッパ言語文化演習A3)

英語名

Modern Cultural History of Europe & America 2

開講学科

コース

人文学科 新旧共通

多元地域文化コース

授業科目区分

授業形態

単位数

開講期

人文・多元地域文化コース
/ 選択科目

演習

2単位

3~4年

担当教員

連絡先 (TEL)

連絡先 (MAIL)

梁川英俊

099-285-8891

yanagawa@leh.kagoshima-u.ac.jp

共同担当教員

前後期

なし

後期

授業概要

この授業では、基本文献の講読と受講生が自らの関心に基づいて選んだテーマによる報告や討論を通じて、ヨーロッパ・アメリカ文化を研究する上での基本的な姿勢や方法について学び、併せてより良い卒業論文の作成に向けた準備をします。

学修目標

1. ヨーロッパ・アメリカ文化に関する基本的な知識を習得する。
2. 自らの関心に合わせたテーマ設定と文献等の調査ができる。
3. 自分の知識や思考を適切な言葉で伝えることができる。

授業計画

第1回 オリエンテーション
第2回~第11回 基本文献の講読および助言指導
第12回~第14回 報告および討論
第15回 まとめ

授業外学習 (予習・復習)

報告に際しては、必ず事前の予習をし(1時間)、また報告後はプレゼンの手直しを行ってください(1時間)。

教科書

特に指定しない。

参考書

特に指定しない。

成績の評価基準

授業に取り組む姿勢という観点から総合的に判断します。

オフィスアワー

特に設けません。事情に応じて対応します。

アクティブ・ラーニング

プレゼンテーション;

アクティブ・ラーニング(その他の内容)

アクティブ・ラーニング(授業回数)

毎回

備考(受講要件)

受講生はゼミ所属生に限ります。

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード

科目名

書籍文化演習 2 (旧 ヨーロッパ言語文化演習A2)

英語名

Book Culture 2

開講学科

コース

人文学科 新旧共通

多元地域文化コース

授業科目区分

授業形態

単位数

開講期

人文・多元地域文化コース
/ 選択科目

演習

2単位

3~4年

担当教員

連絡先 (TEL)

連絡先 (MAIL)

竹岡健一

099-285-7577

takeoka@leh.kagosisima-u.ac.jp

共同担当教員

前後期

後期

授業概要

授業の概要

この授業では、書籍の歴史に関する文献の講読と討論を行い、書籍研究における問題の立て方や論の進め方などを理解する。また、そこで得られた問題意識に基づいて、学習者自らが書籍文化に関するテーマを設定してレポートの作成と報告を行う。これらを通じて、「書籍文化演習1」で修得した知見や能力をさらにレベルアップする。

今学期の授業では、ドイツの「レクラム文庫」を扱った専門書をテキストとし、いわゆる文庫本やペーパーバックといった普及版の歴史に焦点をあてる。

学修目標

授業の到達目標およびテーマ

この授業は、書籍文化をテーマとして、学習者が次の3つの能力を身につけることを到達目標とする。また、いずれの点でも、「書籍文化演習1」におけるよりもより専門的かつ高度なレベルに達することを目指す。

1. 書籍文化に対する視点や問題意識を身につける。
2. 先行文献の批判的な読解力を身につける。
3. レポートの作成や報告、および討論のスキルを身につける。

授業計画

授業計画

第1回：オリエンテーション

第2回：書籍文化に関する文献講読(1)

第3回：書籍文化に関する文献講読(2)

第4回：書籍文化に関する文献講読(3)

第5回：書籍文化に関する文献講読(4)

第6回：書籍文化に関する文献講読(5)

第7回：書籍文化に関する文献講読(6)

第8回：書籍文化に関する文献講読(7)

第9回：書籍文化に関する文献講読(8)

第10回：レポートの作成方法(1) テーマの設定

第11回：レポートの作成方法(2) 文献調査

第12回：レポートの作成方法(3) 全体の構成

第13回：レポートの作成方法(4) 引用と注

第14回：レポートの作成方法(5) レイアウト

第15回：授業のまとめとふりかえり

定期試験(レポート提出)

授業外学習(予習・復習)

予習： テキストの次の授業で扱われる範囲を講読し、質問等を考える。1時間程度。

復習： 授業の内容を再確認し、興味を持った点や理解が不十分な点について自分なりの調査を行う。30分程度。

教科書

教科書は使用せず、授業中にプリントを配布する。

参考書

村上一郎『岩波茂雄と出版文化：近代日本の教養主義』（講談社学術文庫）2013年。
その他、授業中に適宜紹介する。

成績の評価基準

学生に対する評価

テキストの予習、討論への参加、レポートの作成と報告などにより総合的に評価する。

オフィスアワー

特に時間は設けない。質問などがあれば、随時申し出ること。

アクティブ・ラーニング

アクティブ・ラーニング（その他の内容）

アクティブ・ラーニング（授業回数）

備考（受講要件）

ゼミ所属生に限る。

平成28年度以前入学生は「ヨーロッパ言語文化演習A2」に読み替え。

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード

科目名

アメリカ文学演習2 (旧 アメリカ文学演習)

英語名

American Literature 2

開講学科

コース

人文学科 新旧共通

多元地域文化コース

授業科目区分

授業形態

単位数

開講期

人文・多元地域文化コース
/ 選択科目

演習

2単位

3~4年

担当教員

連絡先 (TEL)

連絡先 (MAIL)

竹内勝徳

285-8874

takeutik@leh.kagoshima-u.ac.jp

共同担当教員

前後期

後期

授業概要

卒論に向けての個別研究をゼミ生全員で共有・議論することで授業を進めていく。4年性は12月10日までに卒論を一旦提出してもらおう。12月5日からの発表では、卒論の概要を提示するとともに、卒論で用いた参考文献のうち、自分の研究方法を学ぶうえで最適と思えるものを選んで、その理論の骨子まとめる。レジメの様式としては、A4で4ページをB4で2枚に縮小コピーして受講生全員に配布。3年生は、前期と同じ作家について研究するか、新たに作家を選定し、教員と相談しながら自分の研究テーマを決定する。その後、参考文献のリストを作成し、自分の発表の日までに文献を読みこなし、テーマに応じた発表を行う。文献は教員から推奨する場合もある。文献リストの提出は10月31日まで。11月中に文献を読みこなし、発表に備える。レジメの様式としては、A4で4ページをB4で2枚に縮小コピーして受講生全員に配布。また、パワーポイントで議論の要点や資料、参考となる写真等を提示する。

学修目標

- (1) グローバルな想像力とコミュニケーション能力を養う。
- (2) 実戦的な英語力を向上させる。
- (3) 批判的思考力とディスカッション能力を向上させる。
- (4) 構造化された文章表現力を養う。
- (5) キャリア・ビジョンを高める。

授業計画

- 第1回 オリエンテーション
 - 第2回 テーマ決定
 - 第3回 調査法
 - 第4回 調査法
 - 第5回 テキスト輪読
 - 第6回 テキスト輪読
 - 第7回 テキスト輪読
 - 第8回 テキスト輪読
 - 第9回 テキスト輪読
 - 第10回 3年生発表
 - 第11回 3年生発表
 - 第12回 3年生発表
 - 第13回 4年生発表
 - 第14回 4年生発表
 - 第15回 4年生発表
- レポート提出

授業外学習 (予習・復習)

課題となった図書を精読し、分析してくる。研究課題について継続的に取り組む。

教科書

授業中に指示する。

参考書

授業中に指示する。

成績の評価基準

授業中の発表25%、小テスト25%、レポート50%。

オフィスアワ -

月曜の昼休み

アクティブ・ラーニング

グループワーク; ディベート; フィールドワーク; プレゼンテーション;

アクティブ・ラーニング (その他の内容)

ディスカッションにおいてアクティブ・ラーニングを行う。

アクティブ・ラーニング (授業回数)

15回中15回。

備考 (受講要件)

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
科目名			
哲学演習 2 A (旧 西洋の人間と思想A演習2)			
英語名			
Western Philosophy 2A			
開講学科		コース	
人文学科 新旧共通		多元地域文化コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
人文・多元地域文化コース / 選択科目	演習	2単位	3~4年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
柴田健志		7533	siba@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
		後期	
授業概要			
ゼミ生各人の研究を共同で検討し、討議する。			
学修目標			
自分の研究テーマにかんする文献の検討およびまとめが的確におこなえること。			
授業計画			
第1回 ガイダンス			
第2回 発表および討論：4年生(1)			
第3回 発表および討論：4年生(2)			
第4回 発表および討論：4年生(3)			
第5回 発表および討論：4年生(4)			
第6回 発表および討論：4年生(5)			
第7回 反省会(1)			
第8回 発表および討論：3年生(1)			
第9回 発表および討論：3年生(2)			
第10回 発表および討論：3年生(3)			
第11回 発表および討論：3年生(4)			
第12回 発表および討論：3年生(5)			
第13回 反省会(2)			
第14回 まとめ(1)			
第15回 まとめ(2)			
授業外学習(予習・復習)			
予習：発表者はレジメを準備すること。			
復習：問題点の確認と再検討。			
教科書			
なし			
参考書			
なし			
成績の評価基準			
発表レジメ(100%)。評価基準は(1)問題点が明確であること。(2)言語パフォーマンスが的確であること。			
オフィスアワ -			
随時			
アクティブ・ラーニング			
ディベート; プレゼンテーション;			
アクティブ・ラーニング(その他の内容)			
アクティブ・ラーニング(授業回数)			
15回のうち15回			

備考 (受講要件)

ゼミの授業です。ゼミ生は必ず受講して下さい。

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード

科目名

アジア歴史・文化演習 2 (旧 アジア史演習2)

英語名

Asian History & Culture 2

開講学科

コース

人文学科 新旧共通

多元地域文化コース

授業科目区分

授業形態

単位数

開講期

人文・多元地域文化コース
/ 選択科目

演習

2単位

3~4年

担当教員

連絡先 (TEL)

連絡先 (MAIL)

大田由紀夫、福永善隆

大田 (099-285-7560)、福永 (099-285-7561)

大田 (ota@leh.kagoshima-u.ac.jp)、福永 (fukunaga@leh.kagoshima-u.ac.jp)

共同担当教員

前後期

後期

授業概要

テーマ：研究発表 2

この授業は、卒業論文作成の準備を目的とした演習であり、前期の「研究発表 1」の継続授業である。参加者は、前期の発表を踏まえて自分の研究テーマを掘り下げた上で研究発表をし、参加者全員による討論を行う。

学修目標

卒業論文作成のための準備を目的とする。

授業計画

- 第 1 回 ガイダンス
- 第 2 回 予備 (事前) 報告
- 第 3 回 4 年生の卒論構想発表 (1)
- 第 4 回 4 年生の卒論構想発表 (2)
- 第 5 回 4 年生の卒論構想発表 (3)
- 第 6 回 4 年生の卒論構想発表 (4)
- 第 7 回 4 年生の卒論構想発表 (5)
- 第 8 回 東洋史研究法レクチャー (1)
- 第 9 回 東洋史研究法レクチャー (2)
- 第 10 回 3 年生の研究発表 (1)
- 第 11 回 3 年生の研究発表 (2)
- 第 12 回 3 年生の研究発表 (3)
- 第 13 回 3 年生の研究発表 (4)
- 第 14 回 3 年生の研究発表 (5)
- 第 15 回 まとめ

授業外学習 (予習・復習)

演習での発表のため、自分の発表テーマに関する事前の文献調査・発表内容の検討などの十分な準備をしておくことが望ましい。

教科書

特になし。

参考書

特になし。

成績の評価基準

演習における発表内容、受講態度、質疑応答およびレポートから総合評価する。

オフィスアワー

授業・会議以外であればいつでも可。

アクティブ・ラーニング

アクティブ・ラーニング (その他の内容)

アクティブ・ラーニング (授業回数)

備考 (受講要件)

福永・大田 (由) ゼミの所属学生に限る。福永・大田 (由) ゼミに所属して卒業論文を書こうとする3、4年生は必ず受講すること。

平成22年度入学生版の『法文学部修学の手引』では、「アジア史演習」は「地理歴史」の教職免許取得のための「必修授業科目以外の授業科目」として記載されていませんが、平成23年度より教職科目として再記載されます。

。

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
科目名			
社会言語学演習 2 (旧 社会言語学演習)			
英語名			
Sociolinguistics 2			
開講学科		コース	
人文学科 新旧共通		多元地域文化コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
人文・多元地域文化コース / 選択科目	演習	2単位	3~4年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
太田一郎			iota@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
		後期	
授業概要			
学生個人の研究指導および研究成果(進捗状況を含む)の発表を行い、卒業論文作成の指導をおこなう。授業は学生の研究発表と討論を中心に進める。			
学修目標			
<ol style="list-style-type: none"> 1. 研究テーマを自分で発見, 設定できるようになる 2. 研究のための調査・分析の手法を身につける 3. 先行研究を批判的にとらえ, 多角的に問題を考察する力を養う 4. 研究成果を論文にまとめ, 成果を発表するための方法を身につける 			
授業計画			
第1回 ガイダンス 第2回 研究発表と討論 第3回 研究発表と討論 第4回 研究発表と討論 第5回 研究発表と討論 第6回 研究発表と討論 第7回 研究発表と討論 第8回 中間での講評 第9回 研究発表と討論 第10回 研究発表と討論 第11回 研究発表と討論 第12回 研究発表と討論 第13回 研究発表と討論 第14回 研究発表と討論 第15回 授業のまとめと講評			
授業外学習(予習・復習)			
<ol style="list-style-type: none"> 1. 面談により研究テーマ, 問題点の絞り込みをおこなうため, 下調べを十分におこなうこと 2. 発表後は質疑等への回答を付してレポートを提出すること 			
教科書			
指定しない			
参考書			
適宜指示する			
成績の評価基準			
研究発表(70%) + 発表後のレポート(30%)			
オフィスアワー			
月曜 5 限			
アクティブ・ラーニング			
ディベート; フィールドワーク; プレゼンテーション; その他;			
アクティブ・ラーニング(その他の内容)			

個人の研究テーマによる研究活動

アクティブ・ラーニング (授業回数)

15回中13回

備考 (受講要件)

太田一郎ゼミ生のみ

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
科目名			
現代文化論演習 2 (旧 現代文化論演習)			
英語名			
Culture In Modern Society 2			
開講学科		コース	
人文学科 新旧共通		多元地域文化コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
人文・多元地域文化コース / 選択科目	演習	2単位	3~4年
担当教員	連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)	
櫻井芳生	0992857544	yoshiosakuraig@gmail.com	
共同担当教員	前後期		
	前期		
授業概要			
メディア・風評・美辞麗句にだまされない「批判的知性」を身につける。			
学修目標			
メディア・風評・美辞麗句にだまされない「批判的知性」を身につける。			
授業計画			
第1回	ガイダンス		
第2回	文献の探し方		
第3回	文献の批判		
第4回	下級生による発表		
第5回	履修生によるコメント		
第6回	コメントへのリプライ		
第7回	上級生による発表		
第8回	履修生によるコメントその2		
第9回	コメントへのリプライその2		
第10回	下級生による発表 その2		
第11回	履修生によるコメントその3		
第12回	コメントへのリプライその3		
第13回	全体討議その1		
第14回	全体討議その2		
第15回	総評		
授業外学習 (予習・復習)			
期末に対応提出文を提出してもらうので、毎回の議論をよく復習しておくこと			
教科書			
とくになし			
参考書			
駿台文庫『論文ってどんなもんだい』。拙著『就活ぶっちゃけ成功ゼミ』(光文社)。桜井のHPの各文章			
成績の評価基準			
期末提出物(30%)、平常点(発表40%、発言30%)。黙って休む人には単位を認定しない。			
オフィスアワ -			
予約による			
アクティブ・ラーニング			
グループワーク; ディベート; プレゼンテーション;			
アクティブ・ラーニング (その他の内容)			
アクティブ・ラーニング (授業回数)			
15回中15回			
備考 (受講要件)			
黙って休む人には単位を認定しない。			

ポピュラーカルチャー論演習2 (旧 ポピュラーカルチャー論演習)
ナンバリングコード

科目名

ポピュラーカルチャー論演習2 (旧 ポピュラーカルチャー論演習)

英語名

Popular Culture 2

開講学科

コース

人文学科 新旧共通

多元地域文化コース

授業科目区分

授業形態

単位数

開講期

人文・多元地域文化コース
/ 選択科目

演習

2単位

3~4年

担当教員

連絡先 (TEL)

連絡先 (MAIL)

太田純貴

099-285-7576

yota@leh.kagoshima-u.ac.jp

共同担当教員

前後期

なし

後期

授業概要

【前期のポピュラーカルチャー論演習2と合わせて】

ゼミ生のみ受講可。卒論執筆を見据えた演習で、ゼミ生の発表により授業を進める。文章と視覚資料の両方を準備・配布したうえでの、口頭によるプレゼンテーションが基本となる。ゼミ生は自身の興味関心に従って資料を収集し自身の意見を体系化し、自身の主張を述べることが求められる。

学修目標

1. 卒業論文執筆に関わる、形式の重要性を理解し修得できるようにする
2. オーラルと文章両方のレベルで、自身の主張を明確にできるようにする。
3. 自らの主張を他者へと明確に伝達できるようになる。
4. 卒論に必要な資料に目配りができるようになる。

授業計画

- 第1回 ガイダンス
第2回 学生による発表(1)
第3回 学生による発表(2)
第4回 学生による発表(3)
第5回 学生による発表(4)
第6回 学生による発表(5)
第7回 中間総括
第8回 学生による発表(7)
第9回 学生による発表(8)
第10回 学生による発表(9)
第11回 学生による発表(10)
第12回 学生による発表(11)
第13回 学生による発表(12)
第14回 学生による発表(13)
第15回 学生による発表(14)

授業外学習(予習・復習)

自身の卒業論文に必要な資料を継続的に収集し、整理しておくこと。また、自身の主張したい意見や論点について簡潔に述べるができるように、考えを巡らせておくこと。

教科書

授業中に指示する。

参考書

授業中に指示する。

成績の評価基準

出席、プレゼンテーション資料の作成など、複数の観点から総合的に評価を行う。

オフィスアワ -

追って指示する(ガイダンス時に指示する予定)

ポピュラーカルチャー論演習2 (旧 ポピュラーカルチャー論演習)
アクティブ・ラーニング

ディベート; プレゼンテーション;

アクティブ・ラーニング (その他の内容)

アクティブ・ラーニング (授業回数)

15回中15回

備考 (受講要件)

1. 太田純ゼミに所属する学生のみ受講可。
2. 発表の順番は、受講生との協議の上で決定する。

実務経験のある教員による実践的授業

ドイツ言語・文化演習 2 (旧 ヨーロッパ言語文化演習A4)
ナンバリングコード

科目名

ドイツ言語・文化演習 2 (旧 ヨーロッパ言語文化演習A4)

英語名

German Language & Culture 2

開講学科

コース

人文学科 新旧共通

多元地域文化コース

授業科目区分

授業形態

単位数

開講期

人文・多元地域文化コース
/ 選択科目

演習

2単位

3~4年

担当教員

連絡先 (TEL)

連絡先 (MAIL)

與倉アンドレーア

099-285-7578

yokura@leh.kagoshima-u.ac.jp

共同担当教員

前後期

後期

授業概要

ヨーロッパ言語文化演習A4(前期)の続きとして開講する。学生の興味に応じてテーマを定め、それに基づき文献検索をする。外国語の文献の場合は、文献の読み方などを学習する。4年次の卒業論文に向けて、論文の書き方なども学習し、適宜レポート作成を行う。

学修目標

文献検索の仕方、文献、特に外国語の文献の読み方、論文の書き方等を習得すること。

授業計画

第1回 ゼミの進め方など概要の説明
第2回 第14回 発表および討論
第15回 まとめ

授業外学習 (予習・復習)

予習・復習については第一回の授業で指示する。また、適宜指示する。

教科書

適宜参考文献やプリントの配布。

参考書

必要に応じて適宜紹介する。

成績の評価基準

発表とレポートに基づき総合的に評価する。

オフィスアワー

月曜日 2限(10:30 - 12:00)

アクティブ・ラーニング

グループワーク; ディベート; プレゼンテーション;

アクティブ・ラーニング (その他の内容)

アクティブ・ラーニング (授業回数)

15回中15回

備考 (受講要件)

特になし。

実務経験のある教員による実践的授業

西洋歴史・文化演習 2 A (旧 西洋の歴史と社会演習A2)
ナンバリングコード

FHS-DIH2235

科目名

西洋歴史・文化演習 2 A (旧 西洋の歴史と社会演習A2)

英語名

Western History & Culture 2A

開講学科

コース

人文学科 新旧共通

多元地域文化コース

授業科目区分

授業形態

単位数

開講期

人文・多元地域文化コース
/ 選択科目

演習

2単位

3~4年

担当教員

連絡先 (TEL)

連絡先 (MAIL)

細川道久

hos leh.kagoshima-u.ac.jp は
アットマーク

共同担当教員

前後期

前期

授業概要

卒業論文を作成するための実践的な授業です。テーマ設定、文献検索、レジュメ作成、報告、討論、レポート作成を進めながら、実際の卒業論文執筆に必要な能力を養います。

学修目標

1. 卒業論文作成に必要な研究能力を養う。
2. 卒業論文作成を通して、歴史学研究への理解を深める。

授業計画

第1回~第3回 ガイダンス
第4回~第6回 個々のテーマに応じた助言指導
第7回~第14回 報告と討論
第15回 総括

授業外学習 (予習・復習)

卒論作成に向けて、予習、復習は必須です。

教科書

なし。

参考書

特になし。

成績の評価基準

授業への取り組み態度 (課題の準備、討論への参加度)。

オフィスアワ -

金曜10時~11時

アクティブ・ラーニング

ディベート; プレゼンテーション;

アクティブ・ラーニング (その他の内容)

アクティブ・ラーニング (授業回数)

備考 (受講要件)

ゼミ所属生は必ず受講してください。平成28年度以前の入学生については、「西洋の歴史と社会演習A2」に読み替える。

実務経験のある教員による実践的授業

ドイツ言語・文化演習 2 (旧 ヨーロッパ言語文化演習A4)
ナンバリングコード

FHS-DIH3104

科目名

ドイツ言語・文化演習 2 (旧 ヨーロッパ言語文化演習A4)

英語名

German Language & Culture 2

開講学科

コース

人文学科 新旧共通

多元地域文化コース

授業科目区分

授業形態

単位数

開講期

人文・多元地域文化コース
/ 選択科目

演習

2単位

3~4年

担当教員

連絡先 (TEL)

連絡先 (MAIL)

與倉アンドレーア

099-285-7578

yokura@leh.kagoshima-u.ac.jp

共同担当教員

前後期

前期

授業概要

学生の興味に応じてテーマを定め、それに基づき文献検索をする。外国語の文献の場合は、文献の読み方などを学習する。4年次の卒業論文に向けて、論文の書き方なども学習し、適宜レポート作成を行う。

学修目標

文献検索の仕方、文献、特に外国語の文献の読み方、論文の書き方等を習得すること。

授業計画

第1回 ゼミの進め方など概要の説明
第2回 第14回 発表および討論
第15回 まとめ

授業外学習 (予習・復習)

予習・復習については第一回の授業で指示する。また、適宜指示する。

教科書

適宜参考文献やプリントの配布。

参考書

必要に応じて適宜紹介する。

成績の評価基準

発表とレポートに基づき総合的に評価する。

オフィスアワ -

月曜日 3限(12:50 - 14:20)

アクティブ・ラーニング

グループワーク; フィールドワーク; プレゼンテーション;

アクティブ・ラーニング (その他の内容)

アクティブ・ラーニング (授業回数)

15回中15回中15回

備考 (受講要件)

特になし。

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
FHS-DFH2127			
科目名			
社会言語学演習 2 (旧 社会言語学演習)			
英語名			
Sociolinguistics 2			
開講学科		コース	
人文学科 新旧共通		多元地域文化コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
人文・多元地域文化コース / 選択科目	演習	2単位	3~4年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
太田一郎			
共同担当教員		前後期	
		前期	
授業概要			
学生個人の研究指導および研究成果(進捗状況を含む)の発表を行い、卒業論文作成の指導をおこなう。授業は学生の研究発表と討論を中心に進める。			
学修目標			
<ol style="list-style-type: none"> 1. 研究テーマを自分で発見, 設定できるようになる 2. 研究のための調査・分析の手法を身につける 3. 先行研究を批判的にとらえ, 多角的に問題を考察する力を養う 4. 研究成果を論文にまとめ, 成果を発表するための方法を身につける 			
授業計画			
第1回 ガイダンス 第2回 研究発表と討論 第3回 研究発表と討論 第4回 研究発表と討論 第5回 研究発表と討論 第6回 研究発表と討論 第7回 研究発表と討論 第8回 中間での講評 第9回 研究発表と討論 第10回 研究発表と討論 第11回 研究発表と討論 第12回 研究発表と討論 第13回 研究発表と討論 第14回 研究発表と討論 第15回 授業のまとめと講評			
授業外学習(予習・復習)			
<ol style="list-style-type: none"> 1. 面談により研究テーマ, 問題点の絞り込みをおこなうため, 下調べを十分におこなうこと 2. 発表後は質疑等への回答を付してレポートを提出すること 			
教科書			
指定しない			
参考書			
適宜指示する			
成績の評価基準			
研究発表(70%) + 発表後のレポート(30%)			
オフィスアワ -			
月曜 5 限			
アクティブ・ラーニング			
ディベート; フィールドワーク; その他;			

アクティブ・ラーニング (その他の内容)

個人の研究テーマによる研究活動

アクティブ・ラーニング (授業回数)

15回中13回

備考 (受講要件)

太田一郎ゼミ生のみ

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード

FHS-DIH2138

科目名

イギリス文学演習2 (旧 イギリス演劇論演習)

英語名

English Literature 2

開講学科		コース	
人文学科 新旧共通		多元地域文化コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
人文・多元地域文化コース / 選択科目	演習	2単位	3~4年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
大和高行		099-285-7570	yamato@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
		前期	

授業概要

本授業では卒業論文執筆に向けた指導を行う。各人のテーマに沿った参考文献を収集したり、ゼミでの中間発表、最終発表に向けた論文の執筆を行う。

学修目標

- 1 卒業論文のテーマにかかわる専攻研究論文を集め、自分の言葉でまとめなおすことができる。
- 2 卒業論文にふさわしいロジックを持った説得的な論文を書くことができる。

授業計画

- 第1回 ガイダンス (授業の目的、授業の進め方、評価基準等についての説明)
- 第2回 良い論文についての説明
- 第3回 参考文献の渉猟、卒業論文の執筆1
- 第4回 参考文献の渉猟、卒業論文の執筆2
- 第5回 卒論中間発表 アクティブラーニング1 (プレゼンテーションとディベート)
- 第6回 卒論中間発表 アクティブラーニング2 (プレゼンテーションとディベート)
- 第8回 卒論中間発表 アクティブラーニング3 (プレゼンテーションとディベート)
- 第9回 ディベートでの指摘を受けての卒業論文の執筆1
- 第10回 ディベートでの指摘を受けての卒業論文の執筆2
- 第11回 ディベートでの指摘を受けての卒業論文の執筆3
- 第12回 卒論中間発表 アクティブラーニング4 (プレゼンテーションとディベート)
- 第13回 卒論中間発表 アクティブラーニング5 (プレゼンテーションとディベート)
- 第14回 卒論中間発表 アクティブラーニング6 (プレゼンテーションとディベート)
- 第15回 まとめと総合的評価。レポートを課し、最後にまとめの授業を行う。

授業外学習 (予習・復習)

各自で用意した教科書や指導教員から指示された参考書などに予め目を通し、予習しておくこと。また、毎回の授業を受けた後や添削済みの卒論草稿レポートが返却された時など、指導教員から指摘された点を中心に、復習しておくこと。

教科書

各自で用意する。

参考書

各人ごとに必要なものを図書館やインターネット等で集める。

成績の評価基準

ディベート(50%)とプレゼンテーション(50%)の出来具合で評価する。

オフィスアワ -

曜日・時間：毎週水曜日9:15~10:15、場所：大和研究室

アクティブ・ラーニング

ディベート;

アクティブ・ラーニング (その他の内容)

アクティブ・ラーニング (授業回数)

15回中 15回

備考 (受講要件)

ゼミ生に限る。

実務経験のある教員による実践的授業

該当せず。

ナンバリングコード			
FHS-DFH3501			
科目名			
現代文化論演習 2 (現代文化論演習)			
英語名			
Culture In Modern Society 2			
開講学科		コース	
人文学科 新旧共通		多元地域文化コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
人文・多元地域文化コース / 選択科目	演習	2単位	3~4年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
櫻井芳生		099-285-7544	yoshiosakuraig@gmail.com
共同担当教員		前後期	
		後期	
授業概要			
各自の自由研究発表を中心とする。どんなテーマを選んでもけっこうです。やり方は各人の境遇におうじて、くわしく説明します。就職や進学に関心の強い人も歓迎します。			
学修目標			
メディア・風評・美辞麗句にだまされない「批判的知性」を身につける。			
授業計画			
コマ的には「講義」のコマですが、履修者の発表、聴講者による議論の形式ですすすめます			
授業計画：			
第1回	ガイダンス		
第2回	文献の探し方		
第3回	文献の批判		
第4回	下級生による発表		
第5回	履修生によるコメント		
第6回	コメントへのリプライ		
第7回	上級生による発表		
第8回	履修生によるコメントその2		
第9回	コメントへのリプライその2		
第10回	下級生による発表 その2		
第11回	履修生によるコメントその3		
第12回	コメントへのリプライその3		
第13回	全体討議その1		
第14回	全体討議その2		
第15回	総評		
授業外学習 (予習・復習)			
期末に対応提出文を提出してもらうので、毎回の議論をよく復習しておくこと			
教科書			
参考書			
駿台文庫『論文ってどんなもんだい』。拙著『就活ぶっちゃけ成功ゼミ』(光文社)。桜井のHPの各文章。 http://homepage3.nifty.com/sakuraiyoshio/			
成績の評価基準			
期末提出物(30%)、平常点(発表40%、発言30%)。黙って休む人には単位を認定しない。			
オフィスアワ -			
木曜午後5時40分より、桜井研究室もしくは本授業の教室。メールで予約ください。			
アクティブ・ラーニング			
グループワーク; ディベート; プレゼンテーション; 学習の振り返り(ミニッツ・ペーパー等);			
アクティブ・ラーニング(その他の内容)			

アクティブ・ラーニング (授業回数)

15回中15回

備考 (受講要件)

関心をひく教員の授業に参加して、ガシガシ「個人指導」を受けましょう。そうしないと「間にあいません!!」。本授業はやる気のある人なら、誰でも参加できます。他学部生、理系学生も歓迎。非履修者の「飛び入り・野次馬」も歓迎する。桜井に論文指導うけるつもりの方は【每期必ず】出席してください。就活・進学・メイトサーチング・留学・トイックなどについてもふれるかも。繰り返しの履修も可。同時開講の社会調査もいっしょに受講できると好都合です(むりはしなくてOK)。

履修人数が多く、コマ内で、全員が発表出来ない場合には、期末の週末などに、補講時間をとり発表をする場合があるのであらかじめ覚悟しておいてください。理由なく欠席遅刻するひとは単位認定できません。

別に、『就活ゼミ』メーリングリストもしていますので、こちらもぜひどうぞ!! (無料。所属学年など不問)

。

実務経験のある教員による実践的授業

英語オーラルb (旧 英語コミュニケーション1B・C)
ナンバリングコード

FHS-DIH2141

科目名

英語オーラルb (旧 英語コミュニケーション1B・C)

英語名

Oral English b

開講学科

コース

人文学科 新旧共通

多元地域文化コース

授業科目区分

授業形態

単位数

開講期

人文・多元地域文化コース
/ 選択科目

講義

2単位

3~4年

担当教員

連絡先 (TEL)

連絡先 (MAIL)

スティーブ コダ

099-285-7573

coke@leh.kagoshima-u.ac.jp

共同担当教員

前後期

前期

授業概要

This class will focus on discussion and debate. Each week we will do different tasks in class to build your discussion skills on social issues as well as learning how to organise and participate in a formal debate. You will also be expected to continue your discussion practice outside of the classroom.

This class will be useful if you are taking the 教員採用試験

学修目標

The primary goal of this class is to learn how to structure your ideas for discussions as well as learning how to hold a formal debate

授業計画

Week 1 Introduction
Week 2 Social issue 1: Smartphones
Week 3 Discussion/Debate Practice
Week 4 Social issue 2: University education
Week 5 Discussion/Debate Practice
Week 6 Social issue 3: Population growth
Week 7 Discussion/Debate Practice
Week 8 Social issue 4: Work-Life balance
Week 9 Discussion/Debate Practice
Week 10 Social issue 5: Internet
Week 11 Discussion/Debate Practice
Week 12 Social issue 6: Equality in the workplace
Week 13 Discussion/Debate Practice
Week 14 Social issue 7: Robots
Week 15 Discussion/Debate Practice

授業外学習 (予習・復習)

You will be expected to gather information to use in your discussions/debates.

You will also be expected to watch speeches and debates on Youtube - more information will be given about this in class

教科書

None - handouts will be given in class

参考書

You will need access to an English dictionary - using your smartphone is ok.

成績の評価基準

100% Homework: Vocabulary tests, Written work

オフィスアワ -

Anytime is ok, but to be sure please mail me

アクティブ・ラーニング

グループワーク; ディベート;

アクティブ・ラーニング (その他の内容)

アクティブ・ラーニング (授業回数)

Every week

備考 (受講要件)

None

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード

FHS-DIH3104

科目名

書籍文化演習 2 (旧 ヨーロッパ言語文化演習A2)

英語名

Book Culture 2

開講学科

コース

人文学科 新旧共通

多元地域文化コース

授業科目区分

授業形態

単位数

開講期

人文・多元地域文化コース
/ 選択科目

演習

2単位

3~4年

担当教員

連絡先 (TEL)

連絡先 (MAIL)

竹岡健一

099-285-7577

takeoka@leh.kagoshima-u.ac.jp

共同担当教員

前後期

前期

授業概要

授業の概要

この授業では、書籍の歴史に関する文献の講読と討論を行い、書籍研究における問題の立て方や論の進め方などを理解する。また、そこで得られた問題意識に基づいて、学習者自らが書籍文化に関するテーマを設定してレポートの作成と報告を行う。これらを通じて、「書籍文化演習1」で学習する知見や能力をさらにレベルアップする。

学修目標

授業の到達目標及びテーマ

この授業は、書籍文化をテーマとして、学習者が次の3つの能力を身につけることを到達目標とする。また、いずれの点でも、「書籍文化演習1」におけるよりもより専門的かつ高度なレベルに達することを旨とする。

1. 書籍文化に対する視点や問題意識を身につける。
2. 先行文献の批判的な読解力を身につける。
3. レポートの作成や報告、および討論のスキルを身につける。

授業計画

授業計画

- 第1回：オリエンテーション
 第2回：書籍文化に関する文献講読(1)
 第3回：書籍文化に関する文献講読(2)
 第4回：書籍文化に関する文献講読(3)
 第5回：書籍文化に関する文献講読(4)
 第6回：書籍文化に関する文献講読(5)
 第7回：書籍文化に関する文献講読(6)
 第8回：書籍文化に関する文献講読(7)
 第9回：書籍文化に関する文献講読(8)
 第10回：レポートの作成方法(1) テーマの設定
 第11回：レポートの作成方法(2) 文献調査
 第12回：レポートの作成方法(3) 全体の構成
 第13回：レポートの作成方法(4) 引用と注
 第14回：レポートの作成方法(5) レイアウト
 第15回：授業のまとめとふりかえり
 定期試験(レポート提出)

授業外学習(予習・復習)

予習： テキストの次の授業で扱われる範囲を講読し、質問等を考える。1時間程度。

復習： 授業の内容を再確認し、興味を持った点や理解が不十分な点について自分なりの調査を行う。30分程度。

教科書

教科書は使用せず、授業中にプリントを配布する。

参考書

授業中に適宜紹介する。

成績の評価基準

学生に対する評価

テキストの予習、討論への参加、レポートの作成と報告などにより総合的に評価する。

オフィスアワ -

特に時間は設けない。質問等があれば、随時申し出ること。

アクティブ・ラーニング

ディベート;

アクティブ・ラーニング (その他の内容)

アクティブ・ラーニング (授業回数)

備考 (受講要件)

ゼミ所属生に限る。

平成28年度以前入学生は「ヨーロッパ言語文化演習A2」に読み替え。

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
FHS-DGH2230			
科目名			
地理学演習 2 b (旧 地理学演習III)			
英語名			
Geography 2b			
開講学科		コース	
人文学科 新旧共通		多元地域文化コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
人文・多元地域文化コース / 選択科目	演習	2単位	3~4年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
吉田明弘		099-285-7543	aki tan@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
		後期	
授業概要			
受講者が地理学に関する内外の研究論文を収集・整理し、主要論文を読んで発表し、その内容について討議する。これによって、受講者は自分に興味のあるテーマに関する研究の傾向を把握することができる。自分がどのようなテーマで卒業論文をまとめるかを判断する上で、重要な作業である。			
学修目標			
1) 研究とはいかなるものなのかを理解できる。			
授業計画			
第1回	オリエンテーション		
第2回	事前講習 地理学の研究論文		
第3回	講読論文の選定		
第4回	地形に関する地理学の文献講読・発表と討論		
第5回	気候に関する地理学の文献講読・発表と討論		
第6回	植生に関する地理学の文献講読・発表と討論		
第7回	災害に関する地理学の文献講読・発表と討論		
第8回	人口に関する地理学の文献講読・発表と討論		
第9回	都市に関する地理学の文献講読・発表と討論		
第10回	村落に関する地理学の文献講読・発表と討論		
第11回	農業に関する地理学の文献講読・発表と討論		
第12回	漁業に関する地理学の文献講読・発表と討論		
第13回	交通に関する地理学の文献講読・発表と討論		
第14回	観光に関する地理学の文献講読・発表と討論		
第15回	まとめ		
授業外学習 (予習・復習)			
予習：発表者は事前に発表論文を探し、発表内容をまとめること。他の受講生は発表者より事前に渡された論文コピーを読み、討論内容をまとめておくこと。復習：発表・討論内容にかかわる問題を他の文献やインターネットで調べること。			
教科書			
なし			
参考書			
適宜紹介する。			
成績の評価基準			
授業への取り組み態度			
オフィスアワ -			
演習終了後、フィールド学実験室にて対応。			
アクティブ・ラーニング			
グループワーク; ディベート; フィールドワーク; プレゼンテーション;			
アクティブ・ラーニング (その他の内容)			

アクティブ・ラーニング (授業回数)

15回中15回

備考 (受講要件)

実務経験のある教員による実践的授業

現代ヨーロッパ・アメリカ文化演習 2 (旧 ヨーロッパ言語文化演習A3)
ナンバリングコード

FHS-DIH3104

科目名

現代ヨーロッパ・アメリカ文化演習 2 (旧 ヨーロッパ言語文化演習A3)

英語名

Modern Cultural History of Europe & America 2

開講学科

コース

人文学科 新旧共通

多元地域文化コース

授業科目区分

授業形態

単位数

開講期

人文・多元地域文化コース
/ 選択科目

演習

2単位

3~4年

担当教員

連絡先 (TEL)

連絡先 (MAIL)

梁川英俊

099-285-8891

yanagawa@leh.kagoshima-u.ac.jp

共同担当教員

前後期

なし

前期

授業概要

この授業では、基本文献の講読と受講生が自らの関心に基づいて選んだテーマによる報告や討論を通じて、ヨーロッパ・アメリカ文化を研究する上での基本的な姿勢や方法について学び、併せてより良い卒業論文の作成に向けた準備をします。

学修目標

1. ヨーロッパ・アメリカ文化に関する基本的な知識を習得する。
2. 自らの関心に合わせたテーマ設定と文献等の調査ができる。
3. 自分の知識や思考を適切な言葉で伝えることができる。

授業計画

第1回 オリエンテーション
第2回~第11回 基本文献の講読および助言指導
第12回~第14回 報告および討論
第15回 まとめ

授業外学習 (予習・復習)

報告に際しては、必ず事前の予習をし (1時間)、また報告後はプレゼンの手直しを行ってください (1時間)。

教科書

指定しません。

参考書

必要に応じて、適宜紹介します。

成績の評価基準

授業に取り組む姿勢という観点から総合的に判断します。

オフィスアワ -

特に設けません。事情に応じて対応します。

アクティブ・ラーニング

プレゼンテーション;

アクティブ・ラーニング (その他の内容)

アクティブ・ラーニング (授業回数)

毎回

備考 (受講要件)

受講生はゼミ所属生に限ります。

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
科目名			
報道論演習2 (旧 マスコミ論演習)			
英語名			
Journalism Studies 2			
開講学科		コース	
人文学科 新旧共通		多元地域文化コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
人文・多元地域文化コース / 選択科目	演習	2単位	3~4年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
宮下正昭		090-8295-6853	mk-miya@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
		後期	
授業概要			
<p>日々のニュースを新聞、テレビ、ネットから検証し、報道の仕方の違いなどを確認し、メディアのありようを考える。</p> <p>社会のさまざまな課題を提示し、社会問題へのアプローチの仕方、視点を学ぶ。</p> <p>随時、課題図書を与え、その要旨、感想を発表する。</p> <p>その積み重ねのなかから卒論のテーマを探り、どのように展開するか話し合う。</p>			
学修目標			
社会の動きを日々、追いながら、社会に対する自らの関心を探り、研究課題を見つける。			
授業計画			
第1 - 5回	身近な現象から社会のありようを考える		
第6回	記者の役割、存在意義		
第7回	1面コラムの妙		
第8 - 10回	小論文作成		
第11 - 15回	研究テーマ指導		
授業外学習 (予習・復習)			
日々のニュースを常にチェック。新聞各紙、テレビ各局の論調の違いを確認する			
教科書			
特に指定しない。興味があれば以下の参考書を読むこと。			
参考書			
『ドキュメント新聞記者』読売新聞大阪社会部著 (角川文庫) 『隠された風景』福岡賢正著 (南方新社)			
『河北新報のいちばん長い日』河北新報社著 (文芸春秋) 『ホットスポット』NHK ETV特集取材班 (講談社)			
『事実が私を鍛える』斎藤茂男著 (太郎次郎社) 『夢追い人よ』斎藤茂男著 (築地書館)			
『間に消えた怪人』一橋文哉著 (新潮社) 『不当逮捕』本田靖春著 (講談社)			
成績の評価基準			
毎回の授業態様などを総合評価			
オフィスアワー			
金曜午後			
アクティブ・ラーニング			
ディベート; フィールドワーク; プレゼンテーション;			
アクティブ・ラーニング (その他の内容)			
アクティブ・ラーニング (授業回数)			
15回中15回			
備考 (受講要件)			
実務経験のある教員による実践的授業			

ナンバリングコード			
FHS-DFH2530			
科目名			
ポピュラーカルチャー論演習 2			
英語名			
Popular Culture 2			
開講学科		コース	
人文学科 新旧共通		多元地域文化コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
人文・多元地域文化コース / 選択科目	演習	2単位	3~4年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
太田純貴		099-285-7576	yota@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
なし		後期	
授業概要			
【後期のポピュラーカルチャー論演習2と合わせて】 ゼミ生のみ受講可。卒論執筆を見据えた演習で、ゼミ生の発表により授業を進める。文章と視覚資料の両方を準備・配布したうえでの、口頭によるプレゼンテーションが基本となる。ゼミ生は自身の興味関心に従って資料を収集し自身の意見を体系化し、自身の主張を述べる事が求められる。			
学修目標			
1. 卒業論文執筆に関わる、形式の重要性を理解し修得できるようにする 2. オーラルと文章両方のレベルで、自身の主張を明確にできるようにする。 3. 自らの主張を他者へと明確に伝達できるようになる。 4. 卒論に必要な資料に目配りができるようになる。			
授業計画			
第1回 ガイダンス 第2回 学生による発表 (1) 第3回 学生による発表 (2) 第4回 学生による発表 (3) 第5回 中間総括 第6回 学生による発表 (5) 第7回 学生による発表 (6) 第8回 学生による発表 (7) 第9回 学生による発表 (8) 第10回 学生による発表 (9) 第11回 学生による発表 (10) 第12回 学生による発表 (11) 第13回 学生による発表 (12) 第14回 学生による発表 (13) 第15回 学生による発表 (14)			
授業外学習 (予習・復習)			
自身の卒業論文に必要な資料を継続的に収集し、整理しておくこと。また、自身の主張したい意見や論点について簡潔に述べる事ができるように、考えを巡らせておくこと。			
教科書			
授業中に指示する。			
参考書			
授業中に指示する。			
成績の評価基準			
出席、プレゼンテーション資料の作成など、複数の観点から総合的に評価を行う。			
オフィスアワ -			
追って指示する (ガイダンス時に指示する予定)			

アクティブ・ラーニング

ディベート; プレゼンテーション;

アクティブ・ラーニング (その他の内容)

アクティブ・ラーニング (授業回数)

15回中15回

備考 (受講要件)

1. ゼミ生のみ受講可。
2. 発表の順番は、受講生との協議の上で決定する。

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
科目名			
中国言語文化演習 2			
英語名			
開講学科		コース	
人文学科 新旧共通		多元地域文化コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
人文・多元地域文化コース / 選択科目	演習	2単位	3~4年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
中筋健吉		099-285-8893	k9553471@kadai.jp
共同担当教員		前後期	
		後期	
授業概要			
<p>後漢・張衡「歸田賦」を読んでみる。</p> <p>張衡(78-139)は後漢の政治家であり、天文学者、また文人としても有名で、長安・洛陽を描いた「二京賦」は前後漢を通じても代表的な作品である。</p> <p>本授業では梁・昭明太子撰『文選』巻十五に収録されている「歸田賦」を唐・李善の注釈に基づいて講読していく。当該作品は新元号「令和」の出典とされる、大伴旅人「梅花歌三十二首序」(『万葉集』巻五)に基づいたであろう作品であり、後漢期の宦官勢力が政治を専横する状況の中で、官を辞して帰郷せんとする思いを述べたものである。</p>			
学修目標			
<p>作品および関連する文章の講読、またそれらを通じて中国古典文学や注釈の読解方法、および各種文献の取り扱い方を学ぶ。</p>			
授業計画			
<p>各担当者は割り振られた部分について読解発表を行なう。事前に配布するテキストプリントにもとづいて、原文、書き下し、出典、語釈等をレシユメにまとめ、担当当日に受講者全員に配布すること。</p> <p>受講者数またその他の事情により、授業計画を変更する場合があります。</p> <p>第1回 カイタンス</p> <p>第2回 張衡伝記講読(『後漢書』巻59張衡傳)</p> <p>第3回 張衡伝記講読(『後漢書』巻59張衡傳)</p> <p>第4回 『文選』について</p> <p>第5回 発表と討論(1)</p> <p>第6回 発表と討論(2)</p> <p>第7回 発表と討論(3)</p> <p>第8回 発表と討論(4)</p> <p>第9回 発表と討論(5)</p> <p>第10回 発表と討論(6)</p> <p>第11回 発表と討論(7)</p> <p>第12回 発表と討論(8)</p> <p>第13回 発表と討論(9)</p> <p>第14回 発表と討論(10)</p> <p>第15回 まとめと討論</p>			
授業外学習(予習・復習)			
<p>予習:毎回の授業で講読する部分を、事前に辞書等を検索し、自らも読解して出席すること。</p> <p>復習:授業にもとづいて、自分の読解を再検討すること。</p>			
教科書			
<p>事前にテキストプリントを配布する。manabaにもUP予定。</p>			

参考書

梁・昭明太子撰『文選』の日本語訳注本(集英社版、明治書院版あり)を参照のこと。

成績の評価基準

発表および成果物(担当部分のレジュメ)、ミニッツ・ペーパー等により総合的に評価する。

オフィスアワ -

特に設けていませんが、事前に連絡をいただければ対応します。アポ無しの来室には対応できない場合があります。

アクティブ・ラーニング

ディベート; プレゼンテーション; 学習の振り返り(ミニッツ・ペーパー等);

アクティブ・ラーニング(その他の内容)

アクティブ・ラーニング(授業回数)

15回中10回(予定)

備考(受講要件)

平成28年度以前の入学生については「中国言語文化論演習」に読み替える 本シラハ?スはあくまで?計画で?ある
ので?、受講者数その他の状況によって、適宜変更の可能性もある。変更の際は 通知する。

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード

FHS-DHH2233

科目名

アジア歴史・文化演習2 (旧 アジア史演習2)

英語名

Asian History & Culture 2

開講学科

コース

人文学科 新旧共通

多元地域文化コース

授業科目区分

授業形態

単位数

開講期

人文・多元地域文化コース
/ 選択科目

演習

2単位

3~4年

担当教員

連絡先 (TEL)

連絡先 (MAIL)

大田由紀夫、福永善隆

大田 (099-285-7560)、福永 (099-285-7561)

大田 (ota@leh.kagoshima-u.ac.jp)、福永 (fukunaga@leh.kagoshima-u.ac.jp)

共同担当教員

前後期

前期

授業概要

テーマ：研究発表1

この授業は、卒業論文作成を目的とした演習である。演習参加者は、自分の研究テーマを決めて研究発表し、その報告をめぐり参加者全員による討論を行う。

学修目標

卒業論文作成のための準備を目的とする。

授業計画

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 予備(事前)報告
- 第3回 卒論作成レクチャー(1)
- 第4回 卒論作成レクチャー(2)
- 第5回 4年生の卒論構想発表(1)
- 第6回 4年生の卒論構想発表(2)
- 第7回 4年生の卒論構想発表(3)
- 第8回 4年生の卒論構想発表(4)
- 第9回 4年生の卒論構想発表(5)
- 第10回 3年生の研究発表(1)
- 第11回 3年生の研究発表(2)
- 第12回 3年生の研究発表(3)
- 第13回 3年生の研究発表(4)
- 第14回 3年生の研究発表(5)
- 第15回 まとめ

授業外学習(予習・復習)

演習での発表のため、自分の発表テーマに関する事前の文献調査・発表内容の検討などの十分な準備をしておくことが望ましい。

教科書

特になし。

参考書

特になし。

成績の評価基準

演習における発表内容、受講態度、質疑応答およびレポートから総合評価する。

オフィスアワー

授業・会議以外であればいつでも可。

アクティブ・ラーニング

アクティブ・ラーニング(その他の内容)

アクティブ・ラーニング (授業回数)

備考 (受講要件)

福永・大田(由)ゼミ所属学生に限る。福永・大田(由)ゼミに所属して卒業論文を書こうとする3、4年生は必ず受講すること。

平成22年度入学生版の『法文学部修学の手引』では、「アジア史演習」は「地理歴史」の教職免許取得のための「必修授業科目以外の授業科目」として記載されていませんが、平成23年度より教職科目として再記載されます。

実務経験のある教員による実践的授業

西洋歴史・文化演習 2 B (旧 西洋の歴史と社会演習B2)
ナンバリングコード

FHS-DIH2236

科目名

西洋歴史・文化演習 2 B (旧 西洋の歴史と社会演習B2)

英語名

Western History & Culture 2B

開講学科		コース	
人文学科 新旧共通		多元地域文化コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
人文・多元地域文化コース / 選択科目	演習	2単位	3~4年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
藤内哲也			ttonai@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
		前期	

授業概要

本演習では、ヨーロッパの歴史世界に関するテキストを講読し、研究の視点や手法についての理解を深めます。また、卒業論文の作成に向けて、各自で研究テーマを設定し、レジュメやパワーポイントを使って発表します。それぞれの発表後には、全体でディスカッションを行います。

学修目標

1. ヨーロッパの歴史世界に関する知見や研究の視座を獲得します
2. 「人文学基礎 1、2」や「コース基礎演習 1、2」で培った技能をもとに、ヨーロッパの歴史世界を研究するうえで必要な情報分析力、批判的思考力、自己表現力などを身につけます
3. 卒業論文の作成に向けて、各自のテーマについての知見や理解を深めます

授業計画

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 研究テーマの設定・テキストの決定
- 第3回 テキスト講読(1)
- 第4回 テキスト講読(2)
- 第5回 テキスト講読(3)
- 第6回 テキスト講読(4)
- 第7回 テキスト講読(5)
- 第8回 テキスト講読(6)
- 第9回 テキスト講読(7)
- 第10回 個人発表(1)
- 第11回 個人発表(2)
- 第12回 個人発表(3)
- 第13回 個人発表(4)
- 第14回 個人発表(5)
- 第15回 まとめと課題

授業外学習 (予習・復習)

- 【予習】テキストをあらかじめ講読し、疑問点などをまとめます。個人発表に際しては、資料を広く読み、レジュメを作成します。
- 【復習】個人発表において受けた質問やコメントをまとめ、今後の研究の展開過程について考えます。

教科書

指定しません

参考書

服部良久・南川高志・小山哲・金沢周作編『人文学への接近法 西洋史を学ぶ』京都大学学術出版会、2010年
井上浩一『私もできる西洋史研究』和泉書院、2012年
このほかの文献については、授業中に適宜紹介します

成績の評価基準

発表の準備・内容、プレゼンテーション、ディスカッションへの積極的な参加、レポートなどにより総合的に判断します

随時 (メールにてアポをとること)

アクティブ・ラーニング

ディベート; プレゼンテーション;

アクティブ・ラーニング (その他の内容)

アクティブ・ラーニング (授業回数)

15回中12回

備考 (受講要件)

ゼミ所属生に限ります

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード

FHS-DIH2139

科目名

アメリカ文学演習2 (旧 アメリカ文学演習)

英語名

American Literature 2

開講学科

コース

人文学科 新旧共通

多元地域文化コース

授業科目区分

授業形態

単位数

開講期

人文・多元地域文化コース
/ 選択科目

演習

2単位

3~4年

担当教員

連絡先 (TEL)

連絡先 (MAIL)

竹内勝徳

共同担当教員

前後期

前期

授業概要

この演習では、19世紀アメリカの小説家ハーマン・メルヴィルの長編の中から代表的なものを選んで一緒に精読する。併せてそれについての批評にも目を通す。担当あり。

学修目標

- 1) 文学的な英語を読み解く力をつける。
- 2) 創作の経緯、ソース、主題、他の作品との関連などを明らかにする。
- 3) メルヴィル文学の特質を理解する。

授業計画

第1回 ガイダンス (授業の進め方、ハーマン・メルヴィルと彼の文学についての説明)

第2回~14回

Billy Budd, Sailorという小説とその批評を一緒に精読する。

第15回 まとめ

第16回 期末テスト

授業外学習 (予習・復習)

授業時に報告をしてもらいますので、丹念に予習をしておくこと。また復習をしっかりしてもらうために小レポートを課すことがあります。

教科書

プリントを使用

参考書

授業時に紹介する

成績の評価基準

期末テスト (70%)、授業時の報告・担当等 (30%)

オフィスアワー

授業終了後

アクティブ・ラーニング

アクティブ・ラーニング (その他の内容)

アクティブ・ラーニング (授業回数)

備考 (受講要件)

なし

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
FHS-DGH2235			
科目名			
文化人類学演習2			
英語名			
Cultural Anthropology 2			
開講学科		コース	
人文学科 新旧共通		多元地域文化コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
人文・多元地域文化コース / 選択科目	演習	2単位	3~4年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
尾崎孝宏、兼城系絵		099-285-8878 (尾崎)	ozakit@leh.kagoshima-u.ac.jp (尾崎)
共同担当教員		前後期	
		後期	
授業概要			
文化人類学の卒業論文ライティング=アップセミナー。各自のテーマに即し、資料収集・方法論・具体的な論述方法について指導を行う。			
学修目標			
卒業論文論文作成に必要なスキルを体得する。			
授業計画			
第1回 授業ガイダンス			
第2回 卒業論文作成に関わる個別的な質疑応答			
第3回 卒業論文作成に関わる個別的な質疑応答			
第4回 卒業論文作成に関わる個別的な質疑応答			
第5回 卒業論文作成に関わる個別的な質疑応答			
第6回 卒業論文作成に関わる個別的な質疑応答			
第7回 卒業論文作成に関わる個別的な質疑応答			
第8回 卒業論文作成に関わる個別的な質疑応答			
第9回 卒業論文作成に関わる個別的な質疑応答			
第10回 卒業論文作成に関わる個別的な質疑応答			
第11回 卒業論文作成に関わる個別的な質疑応答			
第12回 卒業論文作成に関わる個別的な質疑応答			
第13回 卒業論文作成に関わる個別的な質疑応答			
第14回 卒業論文作成に関わる個別的な質疑応答			
第15回 卒業論文作成に関わる個別的な質疑応答			
授業外学習 (予習・復習)			
卒論に関わる現地調査、文献整理、文献リストの作成などが要求される。			
教科書			
指定しない。			
参考書			
各自の研究テーマに応じて紹介する。			
成績の評価基準			
授業への取り組み態度 (60%)、研究成果の質 (40%)			
オフィスアワー			
金曜日昼休み、研究室 (尾崎)			
アクティブ・ラーニング			
ディベート; プレゼンテーション;			
アクティブ・ラーニング (その他の内容)			
アクティブ・ラーニング (授業回数)			
15回中14回			

備考（受講要件）

尾崎ゼミ・兼城ゼミ所属の学生に限る。

実務経験のある教員による実践的授業

該当しない

ナンバリングコード			
FHS-DGH2235			
科目名			
文化人類学演習2			
英語名			
Cultural Anthropology 2			
開講学科		コース	
人文学科 新旧共通		多元地域文化コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
人文・多元地域文化コース / 選択科目	演習	2単位	3~4年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
尾崎孝宏、兼城系絵		099-285-8878 (尾崎)	ozakit@leh.kagoshima-u.ac.jp (尾崎)
共同担当教員		前後期	
		前期	
授業概要			
文化人類学の卒業論文ライティング=アップセミナー。各自のテーマに即し、資料収集・方法論・具体的な論述方法について指導を行う。			
学修目標			
卒業論文論文作成に必要なスキルを体得する。			
授業計画			
第1回 授業ガイダンス			
第2回 卒業論文作成に関わる個別的な質疑応答			
第3回 卒業論文作成に関わる個別的な質疑応答			
第4回 卒業論文作成に関わる個別的な質疑応答			
第5回 卒業論文作成に関わる個別的な質疑応答			
第6回 卒業論文作成に関わる個別的な質疑応答			
第7回 卒業論文作成に関わる個別的な質疑応答			
第8回 卒業論文作成に関わる個別的な質疑応答			
第9回 卒業論文作成に関わる個別的な質疑応答			
第10回 卒業論文作成に関わる個別的な質疑応答			
第11回 卒業論文作成に関わる個別的な質疑応答			
第12回 卒業論文作成に関わる個別的な質疑応答			
第13回 卒業論文作成に関わる個別的な質疑応答			
第14回 卒業論文作成に関わる個別的な質疑応答			
第15回 卒業論文作成に関わる個別的な質疑応答			
授業外学習 (予習・復習)			
卒論に関わる現地調査、文献整理、文献リストの作成などが要求される。			
教科書			
指定しない。			
参考書			
各自の研究テーマに応じて紹介する。			
成績の評価基準			
授業への取り組み態度 (60%)、研究成果の質 (40%)			
オフィスアワー			
金曜日昼休み、研究室 (尾崎)			
アクティブ・ラーニング			
ディベート; プレゼンテーション;			
アクティブ・ラーニング (その他の内容)			
アクティブ・ラーニング (授業回数)			
15回中14回			

備考（受講要件）

尾崎ゼミ・兼城ゼミ所属の学生に限る。

実務経験のある教員による実践的授業

該当しない

ナンバリングコード			
FHS-DIH2133			
科目名			
哲学演習 2 A (旧 西洋の人間と思想A演習2)			
英語名			
Western Philosophy 2A			
開講学科		コース	
人文学科 新旧共通		多元地域文化コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
人文・多元地域文化コース / 選択科目	演習	2単位	3~4年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
柴田健志		285-7533	siba@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
		前期	
授業概要			
ゼミ生各人の研究を共同で検討し、討議する。			
学修目標			
自分の研究テーマにかんする文献の検討およびまとめが的確におこなえること。			
授業計画			
第1回 ガイダンス			
第2回 発表および討論：4年生(1)			
第3回 発表および討論：4年生(2)			
第4回 発表および討論：4年生(3)			
第5回 発表および討論：4年生(4)			
第6回 発表および討論：4年生(5)			
第7回 反省会(1)			
第8回 発表および討論：3年生(1)			
第9回 発表および討論：3年生(2)			
第10回 発表および討論：3年生(3)			
第11回 発表および討論：3年生(4)			
第12回 発表および討論：3年生(5)			
第13回 反省会(2)			
第14回 まとめ(1)			
第15回 まとめ(2)			
授業外学習(予習・復習)			
予習：発表者はレジメを準備すること。			
復習：問題点の確認と再検討。			
教科書			
なし			
参考書			
なし			
成績の評価基準			
発表レジメ(100%)。評価基準は(1)問題点が明確であること。(2)言語パフォーマンスが的確であること。			
オフィスアワ -			
随時			
アクティブ・ラーニング			
ディベート;			
アクティブ・ラーニング(その他の内容)			
アクティブ・ラーニング(授業回数)			
15回のうち15回			

備考 (受講要件)

ゼミの授業です。ゼミ生は必ず受講して下さい。

実務経験のある教員による実践的授業

多言語文化論演習 2 (旧 ヨーロッパ言語文化演習A5)
ナンバリングコード

FHS-DIH3104

科目名

多言語文化論演習 2 (旧 ヨーロッパ言語文化演習A5)

英語名

Multilingual Cultures 2

開講学科

コース

人文学科 新旧共通

多元地域文化コース

授業科目区分

授業形態

単位数

開講期

人文・多元地域文化コース
/ 選択科目

演習

2単位

3~4年

担当教員

連絡先 (TEL)

連絡先 (MAIL)

鶴戸 聡

共同担当教員

前後期

前期

授業概要

卒論準備・執筆のための指導を行う。

学修目標

卒論のテーマを絞り込み、資料の収集・分析を行う。

授業計画

個別指導を中心に、適宜全体で報告会を開催する。

授業外学習 (予習・復習)

教科書

戸田山和久『新版 論文の教室』NHK出版、2012年

参考書

なし

成績の評価基準

作業の進捗状況に拠る。

オフィスアワ -

随時。メールにてアポをとること。

アクティブ・ラーニング

プレゼンテーション;

アクティブ・ラーニング (その他の内容)

アクティブ・ラーニング (授業回数)

備考 (受講要件)

ゼミ生対象

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
科目名			
考古学演習 2			
英語名			
Archaeology 2			
開講学科		コース	
人文学科 新旧共通		多元地域文化コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
人文・多元地域文化コース / 選択科目	演習	2単位	3～4年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
渡辺芳郎・石田智子		099-285-7539	watanabe@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
		前期	
授業概要			
考古学における卒業論文を書くために必要な資料の収集と整理の方法、分析の方法、記述の方法などのスキルを修得するためのトレーニングを行う。前期と後期とで通年でいき、前期では主として資料の収集・整理の方法について学ぶ。			
学修目標			
卒業論文を書くための基礎的知識と技能を修得する。			
授業計画			
第1回 ガイダンス			
第2回 考古学における資料とその収集方法1			
第3回 考古学における資料とその収集方法2			
第4回 考古学における資料とその収集方法3			
第5回 学生による資料収集の実践1			
第6回 学生による資料収集の実践2			
第7回 学生による資料収集の実践3			
第8回 考古学における資料の整理方法1			
第9回 考古学における資料の整理方法2			
第10回 考古学における資料の整理方法3			
第11回 学生による資料整理の実践1			
第12回 学生による資料整理の実践2			
第13回 学生による資料整理の実践3			
第14回 学生による資料の収集・整理についてのディスカッション1			
第15回 学生による資料の収集・整理についてのディスカッション2			
授業外学習 (予習・復習)			
本授業は方法のレクチャーとその実践よりなるので、実践のための予習・復習は必要不可欠である			
教科書			
参考書			
授業中、適宜紹介する。			
成績の評価基準			
授業への取り組み態度 (50%)、期末レポート (50%)			
オフィスアワー			
授業・会議のないときはいつでも可。			
アクティブ・ラーニング			
ディベート; プレゼンテーション;			
アクティブ・ラーニング (その他の内容)			
学生がみずから調べた内容について報告し、議論する。			
アクティブ・ラーニング (授業回数)			
15回中8回			

備考（受講要件）

考古学で卒業論文を書きたい学生のみ。

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
科目名			
考古学演習 2			
英語名			
Archaeology 2			
開講学科		コース	
人文学科 新旧共通		多元地域文化コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
人文・多元地域文化コース / 選択科目	演習	2単位	3～4年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
渡辺芳郎・石田智子		099-285-7539	watanabe@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
		後期	
授業概要			
考古学における卒業論文を書くために必要な資料の収集と整理の方法、分析の方法、記述の方法などのスキルを修得するためのトレーニングを行う。前期と後期とで通年でい、後期では主として資料の分析、記述の方法について学ぶ。			
学修目標			
卒業論文を書くための基礎的知識と技能を修得する。			
授業計画			
第1回 ガイダンス			
第2回 考古学における分析方法1			
第3回 考古学における分析方法2			
第4回 考古学における分析方法3			
第5回 学生による分析の実践1			
第6回 学生による分析の実践2			
第7回 学生による分析の実践3			
第8回 考古学における記述の方法1			
第9回 考古学における記述の方法2			
第10回 考古学における記述の方法3			
第11回 学生による記述の実践1			
第12回 学生による記述の実践2			
第13回 学生による記述の実践3			
第14回 学生による分析・記述についてのディスカッション1			
第15回 学生による分析・記述についてのディスカッション2			
授業外学習 (予習・復習)			
本授業は方法のレクチャーとその実践よりなるので、実践のための予習・復習は必要不可欠である			
教科書			
参考書			
授業中、適宜紹介する。			
成績の評価基準			
授業への取り組み態度 (50%)、期末レポート (50%)			
オフィスアワ -			
授業・会議のないときはいつでも可。			
アクティブ・ラーニング			
ディベート; プレゼンテーション;			
アクティブ・ラーニング (その他の内容)			
学生がみずから調べた内容について報告し、議論する。			
アクティブ・ラーニング (授業回数)			
15回中8回			

備考（受講要件）

考古学で卒業論文を書きたい学生のみ。

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
科目名			
アジア言語演習 2 (旧 中国語学演習)			
英語名			
Asian Linguistics 2			
開講学科		コース	
人文学科 新旧共通		多元地域文化コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
人文・多元地域文化コース / 選択科目	演習	2単位	3~4年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
三木夏華			
共同担当教員		前後期	
		後期	
授業概要			
2年以上中国語の学習経験がある受講者を対象とし、中国語で書かれた小説や時事論などの難易度の高い文章の講読を行い、読解力の向上を目指す。			
学修目標			
最終的に、中国語の論文の読解や小説などのコーパスの分析が可能になる程度の能力向上を目指す。			
授業計画			
第1回ガイダンス 第2回テキスト第一課 第3回テキスト第一課 第4回テキスト第一課 第5回テキスト第二課 第6回テキスト第二課 第7回テキスト第二課 第8回テキスト第三課 第9回テキスト第三課 第10回テキスト第三課 第11回テキスト第四課 第12回テキスト第四課 第13回テキスト第四課 第14回テキスト第五課 第15回テキスト第五課 第16回まとめ			
授業外学習 (予習・復習)			
【予習】テキスト、及び配付された教材プリントを必ず十分予習した上で授業に臨むこと。 【復習】毎回授業で習った内容を復習すること。(学習に係る標準時間は1時間)			
教科書			
『時事中国語の教科書 2019年度版』朝日出版社、その他。			
参考書			
講義中に紹介する。			
成績の評価基準			
平常点 (講義中の発表、課題の取り組み、受講態度など) : 100%、			
オフィスアワ -			
木曜2限			
アクティブ・ラーニング			
プレゼンテーション; その他;			
アクティブ・ラーニング (その他の内容)			
課題についてのスピーキングトレーニング			
アクティブ・ラーニング (授業回数)			

16回中14回

備考 (受講要件)

2年以上中国語の学習経験があることを前提とする。

中国語を母国語とする学生の受講は認めない。

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
科目名			
日本語学演習 2 (旧 日本語構造論演習)			
英語名			
Japanese Linguistics 2			
開講学科		コース	
人文学科 新旧共通		多元地域文化コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
人文・多元地域文化コース / 選択科目	演習	2単位	3~4年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
内山弘		099-285-8906	pon@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
		後期	
授業概要			
<p>本演習は、ゼミの三・四年生を対象とした卒業論文作成指導を目的とした授業である。四年生は自身の卒業論文のテーマに基づき調査研究した内容を逐次報告することで、卒論執筆のためのステップアップを図る。三年生は将来の卒論執筆に向けて現在最も興味関心をもっているテーマについて自分なりに調べてきたことを発表することで、将来の卒業論文のテーマ設定のための下準備を行う。</p>			
学修目標			
・卒業論文の執筆に向けて着実に前進することができる。			
授業計画			
<p>第1回：ガイダンス 第2回：受講生による演習の実施（1）四年生A1・A2・A3による中間発表 第3回：受講生による演習の実施（2）四年生A4・A5・A6による中間発表 第4回：受講生による演習の実施（3）四年生A1・A2による中間発表 第5回：受講生による演習の実施（4）四年生A3・A4による中間発表 第6回：受講生による演習の実施（5）四年生A5・A6による中間発表 第7回：受講生による演習の実施（6）三年生B1・B2・B3による発表 第8回：受講生による演習の実施（7）三年生B4・B5による発表 第9回：受講生による演習の実施（8）三年生B1・B2による発表 第10回：受講生による演習の実施（9）三年生B3・B4による発表 第11回：受講生による演習の実施（10）三年生B5・B1による発表 第12回：受講生による演習の実施（11）三年生B2・B3による発表 第13回：受講生による演習の実施（12）三年生B4・B5による発表 第14回：受講生による演習の実施（13）四年生A1・A2・A3による卒論報告 第15回：受講生による演習の実施（14）四年生A4・A5・A6による卒論報告</p>			
授業外学習（予習・復習）			
<p>予習：演習担当者は事前に教員に連絡を取り、演習内容について相談すること（必須）。 復習：演習時に指摘された内容を整理し、問題点について再調査して解決を図ること。</p>			
教科書			
特になし。			
参考書			
特になし。			
成績の評価基準			
授業への取り組み態度（演習内容、100%）			
オフィスアワー			
原則として事前にメールでアポイントメントを取ること。			
アクティブ・ラーニング			
プレゼンテーション；			
アクティブ・ラーニング（その他の内容）			

アクティブ・ラーニング (授業回数)

15回中14回

備考 (受講要件)

内山ゼミのゼミ生に限る。

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
科目名			
日本古典文学演習 2 (旧 日本文学演習)			
英語名			
Japanese Linguistics 2			
開講学科		コース	
人文学科 新旧共通		多元地域文化コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
人文・多元地域文化コース / 選択科目	演習	2単位	3~4年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
丹羽謙治		099 (285) 8904	niwa@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
		後期	
授業概要			
日本近世文学および日本近世文化を専攻する学生に対して、基本図書から学問の方法ジャンルに即した研究方法などについて教授する。また、学生は数あるジャンルから自分の興味のある作品ないしは事象をとりあげ、調査したことを発表する。			
学修目標			
日本近世文学・近世文化に関する広汎かつ正確な知識を有する。 日本近世文学。近世文化の特色を理解し、問題点を発見する能力を身につける。			
授業計画			
第1回：導入			
第2回：近世文学のジャンル			
第3回：近世文学の特質			
第4回：基本文献の講読 『近世初期文藝の研究』前半			
第5回：基本文献の講読 『近世初期文藝の研究』後半			
第6回：基本文献の講読 『浮世草子の研究』前半			
第7回：基本文献の講読 『浮世草子の研究』後半			
第8回：基本文献の講読 『戯作論』前半			
第9回：基本文献の講読 『戯作論』後半			
第10回：学生による発表 (1)			
第11回：学生による発表 (2)			
第12回：学生による発表 (3)			
第13回：学生による発表 (4)			
第14回：学生による発表 (5)			
第15回：卒論作成の方法			
授業外学習 (予習・復習)			
与えられたプリントを熟読する。			
教科書			
プリントを配布する			
参考書			
授業計画で挙げたものの他は、授業中に紹介する。			
成績の評価基準			
発表態度 (50%) とレポート (50%)			
オフィスアワ -			
月曜日 13:00~14:20			
アクティブ・ラーニング			
プレゼンテーション;			
アクティブ・ラーニング (その他の内容)			
アクティブ・ラーニング (授業回数)			

15回中5回

備考(受講要件)

人文学科の丹羽ゼミ所属の学生に限る。

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
科目名			
多文化交流論演習 2			
英語名			
開講学科		コース	
人文学科 新旧共通		多元地域文化コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
人文・多元地域文化コース / 選択科目	演習	2単位	3~4年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
中島 祥子		099-285-7664	sachikon@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
		後期	
授業概要			
<p>本授業では、多文化社会の実態を紹介した文献について、内容を批判的に読み、他者に説明することを目的とする。また、各自が卒業論文等に向けて、具体的なテーマを探索し、課題を発見することを目的とする。そのために、各自のテーマに沿ったフィールドワークも行う。</p>			
学修目標			
<ol style="list-style-type: none"> 1. 多文化社会の実態を紹介した文献を読み、内容を理解し、説明することができる。 2. 具体的なテーマに沿った文献を批判的に読み、問題点を指摘することができる。 3. 文献の要点を適切な表現で文章としてまとめ、さらに口頭で説明することができる。 4. フィールドワークから得られたデータをまとめることができる 			
授業計画			
<p>第1回：オリエンテーション（授業概要とスケジュールについて。受講生の人数とフィールドワークの日程により変更の可能性あり）</p> <p>第2回：基本図書の見直しと分担について</p> <p>第3回：多文化社会とコミュニケーション</p> <p>第4回：学生による発表（1）</p> <p>第5回：学生による発表（2）</p> <p>第6回：学生による発表（3）</p> <p>第7回：学生による発表（4）</p> <p>第8回：フィールドワーク準備（予定）</p> <p>第9回：フィールドワーク（予定）</p> <p>第10回：フィールドワーク総括（予定）</p> <p>第11回：学生による発表（5）</p> <p>第12回：学生による発表（6）</p> <p>第13回：学生による発表（7）</p> <p>第14回：学生による発表（8）</p> <p>第15回：まとめ</p>			
授業外学習（予習・復習）			
<p>予習：文献についての読解、疑問点の抽出</p> <p>復習：毎回の授業の振り返り（紙媒体もしくはmanabaで提出）</p> <p>その他の宿題</p> <p>なお、授業時間外にフィールドワークを予定している。</p>			
教科書			
授業中に適宜紹介する。			
参考書			
第1回の授業で紹介する。			
成績の評価基準			
(1) 学習への取り組み（宿題、毎回の授業で提出する振り返りなど）（20%）、(2) 発表（20%）、(3) 中			

間レポート(30%)、(4)最終レポート(30%)で総合評価する。

オフィスアワ -

木曜日5限(研究室)。他の時間帯でも都合があれば適宜応じる。メールで連絡をとること。

アクティブ・ラーニング

グループワーク; ディベート; フィールドワーク; プレゼンテーション; 学習の振り返り(ミニッツ・ペーパー等);

アクティブ・ラーニング(その他の内容)

アクティブ・ラーニング(授業回数)

15回中15回

備考(受講要件)

ゼミ生に限る。繰り返し受講可能。

課題が多いので積極的に参加すること。

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
FHS-DDF1502			
科目名			
人文科学基礎I			
英語名			
Humanities I			
開講学科		コース	
人文学科 新旧共通		心理学コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
人文・心理学コース / 必修科目	演習	2単位	1年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
榑原良太 (共同; 金井静香・多田蔵人・石田智子)		099-285-7518	sakakibara@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
		前期	
授業概要			
学年全体の合同授業とグループワークを組み合わせで行います。合同授業は大学における修学や学生生活から大学卒業後の進路までを視野に入れた大学四年間の過ごし方について自覚的に取り組むためのレクチャーです。			
学修目標			
人文科学諸分野を研究するために必要な人文系共通技能を習得する。			
授業計画			
第1回	オリエンテーション・グループ分け		
第2回	人文レクチャー		
第3回	グループワーク(1)		
第4回	グループワーク(2)		
第5回	二年次以降の学びについて(1)		
第6回	二年次以降の学びについて(2)		
第7回	グループワーク(3)		
第8回	グループワーク(4)		
第9回	二年次以降の学びについて(3)		
第10回	二年次以降の学びについて(4)		
第11回	発表会(1)		
第12回	発表会(2)		
第13回	二年次以降の学びについて(5)		
第14回	資格関係ガイダンス		
第15回	夏休みの課題等について		
授業外学習(予習・復習)			
成果発表に向けた準備のため、予習・復習が必要です。また随時課題を課しますので、課題についても授業外学習が必要となります。			
教科書			
必要に応じてプリント等を配布します。			
参考書			
授業中に適宜紹介します。			
成績の評価基準			
グループワークの成果：60%、諸課題：40%。			
オフィスアワー			
授業後。随時。事前にメールで教員と連絡をとること。			
アクティブ・ラーニング			
グループワーク; プレゼンテーション;			
アクティブ・ラーニング(その他の内容)			
アクティブ・ラーニング(授業回数)			

備考（受講要件）

前もって指定されたクラスの授業を受講してください。

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
FHS-DDF1503			
科目名			
人文科学基礎II			
英語名			
Humanities II			
開講学科		コース	
人文学科 新旧共通		心理学コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
人文・心理学コース / 必修科目	演習	2単位	1年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
榑原良太 (共同: 金井静香・多田蔵人・石田智子)		099-285-7518	sakakibara@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
		後期	
授業概要			
学年全体の合同授業とグループワークを組み合わせで行います。合同授業は大学における修学や学生生活から大学卒業後の進路までを視野に入れた大学四年間の過ごし方について自覚的に取り組むためのレクチャーです。			
学修目標			
人文科学諸分野を研究するために必要な人文系共通技能を習得する。			
授業計画			
第1回 オリエンテーション			
第2回 留学関係ガイダンス			
第3回 グループワーク(1)			
第4回 グループワーク(2)			
第5回 グループワーク(3)			
第6回 グループワーク(4)			
第7回 キャリアレクチャー			
第8回 グループワーク(5)			
第9回 グループワーク(6)			
第10回 グループワーク(7)			
第11回 グループワーク(8)			
第12回 成果発表(1)			
第13回 成果発表(2)			
第14回 成果発表(3)			
第15回 全体発表			
授業外学習(予習・復習)			
取材の下準備、取材の実施、集めた資料のまとめなど、綿密な計画を立てて行ってもらいます。調査やグループワークなどで、授業外学習が必要になる場合があります。			
教科書			
適宜授業中にプリント等を配布します。			
参考書			
適宜授業中に紹介します。			
成績の評価基準			
グループワークの成果: 60%、グループへの貢献度: 40%			
オフィスアワー			
授業後。随時。事前にメールで教員と連絡をとること。			
アクティブ・ラーニング			
グループワーク; プレゼンテーション;			
アクティブ・ラーニング(その他の内容)			
アクティブ・ラーニング(授業回数)			

備考（受講要件）

前もって指定されたクラスの授業を受講して下さい。

実務経験のある教員による実践的授業

心理学コース基礎I (旧 コース基礎演習1 (人間と文化))
ナンバリングコード

FHS-DDF2408

科目名

心理学コース基礎I (旧 コース基礎演習1 (人間と文化))

英語名

Course Basics 1

開講学科

コース

人文学科 新旧共通

心理学コース

授業科目区分

授業形態

単位数

開講期

人文・心理学コース / 必修
科目

演習

2単位

2年

担当教員

連絡先 (TEL)

連絡先 (MAIL)

菅野康太、大園博記

canno@leh.kagoshima-u.ac.jp
ozono@leh.kagoshima-u.ac.jp

共同担当教員

前後期

前期

授業概要

心理学においては、研究内容の公表に際して収集したデータの適切な統計処理が必須とされる。本基礎演習では「心理学実験」や「卒業研究」の実施の際に必須とされるデータの集約法と統計処理法について、SPSSやAmos、HADなどの統計処理ソフトを実際に用いながら演習を行うことで、その意味と利用法についての確かな理解と修得を目指す。

学修目標

- (1) 心理学における一般的な統計手法に関する知識と技能を修得する。
- (2) 心理学の分析手続きに則ってデータを分析し、その結果を適切な形で表現できる。
- (3) 現象を統計データに基づき科学的・客観的に理解し、論理的に批評できる能力を養う。

授業計画

- 第1回 統計分析のためのデータ入力の注意点およびExcelの基本機能 (菅野)
- 第2回 統計ソフトの基本操作とt検定 (菅野)
- 第3回 ノンパラメトリック分析 (菅野)
- 第4回 1要因の分散分析 (菅野)
- 第5回 2要因の分散分析1 (菅野)
- 第6回 2要因の分散分析2 (菅野)
- 第7回 因子分析1 (大園)
- 第8回 因子分析2 (大園)
- 第9回 因子分析3 (大園)
- 第10回 重回帰分析1 (大園)
- 第11回 重回帰分析2 (大園)
- 第12回 重回帰分析3 (大園)
- 第13回 統計的有意性と効果量 (大園)
- 第14回 発展的分析 (大園)
- 第15回 データ分析の実習 (大園)

授業外学習 (予習・復習)

毎回データ分析の課題が授業中に課される。授業内での小テストやレポートも出題されるので、授業内容についての復習をしっかりと行うこと。

教科書

小宮あすか / 布井 雅人・著 『Excelで今すぐはじめる心理統計 簡単ツールHADで基本を身につける』 (講談社サイエンティフィク)

参考書

小塩真司 著 『SPSSとAmosによる心理・調査データ解析 因子分析・共分散構造分析まで 第2版』 2011年 東京図書

成績の評価基準

各回のレポート (50%)、および最終レポート (50%) による。

オフィスアワ -

事前にメールにて確認すること。

アクティブ・ラーニング

グループワーク; プレゼンテーション;

アクティブ・ラーニング (その他の内容)

アクティブ・ラーニング (授業回数)

15回

備考 (受講要件)

教科書のサイトです。こちらから講義で使うデータもダウンロードできます。

<https://www.kspub.co.jp/book/detail/1548121.html>

実務経験のある教員による実践的授業

心理学コース基礎II (旧 コース基礎演習2 (人間と文化)) (公認心理師の職責1)
ナンバリングコード

FHS-DDF2409

科目名

心理学コース基礎II (旧 コース基礎演習2 (人間と文化)) (公認心理師の職責1)

英語名

Course Basics 2

開講学科		コース	
人文学科	新旧共通	心理学コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
人文・心理学コース / 必修科目	演習	2単位	2年

担当教員	連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
飯田昌子・平田祐太郎	099-285-8884 (飯田研究室)	m_iida@leh.kagoshima-u.ac.jp

共同担当教員	前後期
	後期

授業概要

講義とグループワークを組み合わせで行います。講義では主に、心理学分野における情報の取り扱いについて学び、実際に研究計画を作成しながら、心理学における研究手法を学びます。そして、公認心理師の職責に関して、情報の適切な取り扱いと自己課題発見、解決能力の手段などについてグループワークを通して公認心理師の実践やその職責に関する理解を深めることを目指します。

学修目標

- (1) 心理学の諸分野における研究手法を習得する
- (2) 情報の適切な取り扱いについて習得する
- (3) 自己課題発見・解決能力の手段についての知識を習得する

授業計画

- 第1回：オリエンテーション (授業概要の説明)
- 第2回：情報の適切な取り扱いについての概説
- 第3回：情報の適切な取り扱いについて：グループ・ワーク (1)
- 第4回：情報の適切な取り扱いについて：グループ・ワーク (2)
- 第5回：支援者としての自己課題発見
- 第6回：支援者としての解決能力
- 第7回：自己理解体験
- 第8回：研究計画書作成の概説
- 第9回：研究計画の作成 (1)
- 第10回：研究計画の作成 (2)
- 第11回：さまざまな研究発表について
- 第12回：研究計画の発表 (1)
- 第13回：研究計画の発表 (2)
- 第14回：研究計画の発表 (3)
- 第15回：総括

授業外学習 (予習・復習)

予習：授業で扱う内容について、事前に予習しておくことが望ましい (標準時間60分)。
復習：体験学習した内容について復習することが望ましい。(標準時間60分)

教科書

特になし

参考書

「公認心理師入門 知識と技術」 こころの科学編 野島一彦編 2017
「公認心理師の基礎と実践 - 公認心理師の職責」 野島一彦編 2018

成績の評価基準

授業への参加姿勢25%、ミニレポート25%、最終レポートの成績50%から総合的に評価を行う。

オフィスアワ -

事前にメールにて確認のこと。

アクティブ・ラーニング

グループワーク; プレゼンテーション;

アクティブ・ラーニング(その他の内容)

アクティブ・ラーニング(授業回数)

10回

備考(受講要件)

心理学コースの学生に限る。

平成22年度以降入生はコース必修。平成21年度以前入生は「心理学基礎演習2」に読み替え。

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード

科目名

心理学実験実習（旧 心理学実験1）（心理学実験）

英語名

Psychological Experiment

開講学科

コース

人文学科 新旧共通

心理学コース

授業科目区分

授業形態

単位数

開講期

人文・心理学コース / 必修
科目

実習

2単位

2年

担当教員

連絡先（TEL）

連絡先（MAIL）

大園博記・山崎真理子・横山春彦・
菅野康太・富原一哉

099-285-7538(大園)

ozono@leh.kagoshima-u.ac.jp

共同担当教員

前後期

前期

授業概要

心理学諸分野における実験手法の中で基礎的かつ習得することが望ましいテーマについて実験を行い、その結果についてレポートを作成することにより、心理学の実証的な研究方法について学ぶ。

学修目標

1. 心理学における実験の基本的知識を習得する。
2. 実験の適切な運用方法を修得し、自立的にそれらを実施することができる。
3. 実験によって得られたデータについて、様々な統計的手法を用いて適切に処理できる。
4. 心理学の研究論文の構成を理解し、書式に従った研究レポートを作成できる。

授業計画

各回のテーマや実施順序は変更される場合もあるので、各担当教員の指示に従うこと。

- 第1回：ガイダンス（レポートの作成方法）
- 第2回：社会的ジレンマ（担当：大園）
- 第3回：鏡映描写（担当：横山）
- 第4回：パーソナルスペース（担当：山崎）
- 第5回：触2点域の測定（担当：横山）
- 第6回：保存概念の獲得（担当：富原）
- 第7回：これまでのレポート課題へのフィードバック1
- 第8回：行動神経科学講義（担当：菅野）
- 第9回：行動薬理（担当：菅野）
- 第10回：神経組織（担当：菅野）
- 第11回：学習1（担当：富原）
- 第12回：学習2（担当：富原）
- 第13回：これまでのレポート課題へのフィードバック2
- 第14回：ポスターによる発表
- 第15回：まとめ

授業外学習（予習・復習）

実験で扱う資料、参考文献の当該部分を事前に予習しておくことが望ましい。また、配布資料等について復習することが望ましい。

教科書

参考書

成績の評価基準

レポート（80%）と最終ポスター発表（20%）による。また、各担当教員から課されるレポートのうち1つでも未提出のものがあつた場合、単位は認めない。

オフィスアワ -

火曜3限（大園）。ただし事前に研究室に連絡すること。

アクティブ・ラーニング

グループワーク；プレゼンテーション；学習の振り返り（ミニッツ・ペーパー等）；

アクティブ・ラーニング（その他の内容）

アクティブ・ラーニング（授業回数）

15回中15回

備考（受講要件）

「心理学コース」所属生に限る。

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード

科目名

心理統計法（心理学統計法）

英語名

Statistical Methods in Psychology

開講学科

コース

人文学科 新旧共通

心理学コース

授業科目区分

授業形態

単位数

開講期

人文・心理学コース / 必修
科目

講義

2単位

1～4年

担当教員

連絡先（TEL）

連絡先（MAIL）

富原 一哉

099-285-7536

tomihara@leh.kagoshima-u.ac.jp

共同担当教員

前後期

後期

授業概要

現代心理学では、データの分析においても、論文の講読においても、統計法の知識を欠かすことはできない。本講義では、心理学研究に多く用いられる統計技法の基礎的な解説を行い、さらにデータ分析の演習を実施することでその理解と修得を目指す。

学修目標

- ・収集したデータに対して、簡単な統計処理を行える。
- ・心理学の研究論文を講読するに際して、その統計処理について正確に理解できる。
- ・各種統計データに対する客観的な評価が可能となる。

授業計画

- 第1回：測定と4つの尺度
 第2回：データの集計法 -代表値と散布度-
 第3回：標準化と正規分布
 第4回：相関と回帰
 第5回：推測統計の基礎知識 -母集団の推定と仮説検定-
 第6回：1つの平均値の検定 -効果量と検定力-
 第7回：2つの平均値の差の検定 -対応のあるt検定-
 第8回：2つの平均値の差の検定 -対応のないt検定-
 第9回：3つ以上の平均値の差の検定 -級間1要因分散分析-
 第10回：3つ以上の平均値の差の検定 -級内1要因分散分析-
 第11回：2要因の分散分析 -級間2要因分散分析-
 第12回：2要因の分散分析 -級間1級内1の2要因分散分析-
 第13回：2要因の分散分析 -級内1 2要因分散分析-
 第14回：ノン・パラメトリック検定
 第15回：多変量解析とは
 第16回：定期試験

授業外学習（予習・復習）

毎回宿題を出すので必ず実施するとともに、これに加えて授業内容の予習・復習をしっかりと行うこと。

教科書

川端・荘島著『心理学のための統計学入門 -ココロのデータ分析-』 2014年 誠信書房

橋本・荘島著『実験心理学のための統計学 -t検定と分散分析-』 2016年 誠信書房

参考書

森・吉田編著『心理学のためのデータ解析テクニカルブック』 1990年 北大路書房

佐藤著『推計学のすすめ』 1968年 講談社ブルーバックス

小塩著『SPSSとAmosによる心理・調査データ解析 第3版』 2018年 東京図書

小宮・布井著『Excelで今すぐはじめる心理統計 簡単ツールHADで基本を身につける』 2018年 講談社

成績の評価基準

毎回の宿題（小テスト）30%，期末試験70%

オフィスアワ -

月曜2限・研究室（できるだけメールにて事前に連絡ください）

アクティブ・ラーニング

その他；

アクティブ・ラーニング（その他の内容）

毎回データ分析の演習を行う

アクティブ・ラーニング（授業回数）

15回中15回

備考（受講要件）

授業には必ず電卓（ルート計算、標準偏差計算のできる物が望ましい）を持参すること。

平成28年度以前入生は「心理学統計演習」に読み替え。

この授業の単位を既に修得している者の繰り返しての単位修得は認めない。

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
FHS-DEH2410			
科目名			
心理学概論			
英語名			
Introduction to Psychology			
開講学科		コース	
人文学科 新旧共通		心理学コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
人文・心理学コース / 必修科目	講義	2単位	1～4年
担当教員	連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)	
大園博記	099-258-3578 (大園研究室)	ozono@leh.kagoshima-u.ac.jp	
共同担当教員		前後期	
		前期	
授業概要			
<p>本講義では、心理学の基礎的な内容について理解するために、知覚、認知、学習、感情、脳、社会関係、発達、臨床、人格などについて、様々なトピックを取り上げて講義を行う。また、心に関する多様な視点を提供するために、他動物の心やロボットの心についても取り上げる。さらにまとめとして、心理学の成り立ち(心理学史)についても学ぶ。授業後には毎回、短い意見・感想を書いてもらい、ブログ上でフィードバックするなど、双方向的な講義を目指す。また、実感の伴った理解を促すために、実験デモや動画視聴を適宜取り入れながら講義を行う。</p>			
学修目標			
<ol style="list-style-type: none"> 1.心理学の成り立ちについて理解し、人の心の基本的な仕組み及び働きを理解する。 2.心理学の多様な各領域について理解を深め、今後の心理学関係の授業の基礎を養う。 3.自らの体験や現代社会の問題と関連づけて、心や社会について多様な側面から考察できる能力を培う。 			
授業計画			
<p>第1回：オリエンテーション 第2回：認知心理学1：知覚と潜在的過程 第3回：認知心理学2：認知バイアスとヒューリスティック 第4回：学習心理学：記憶の仕組み 第5回：感情心理学：感情のメカニズムと機能 第6回：神経科学：脳と心の関係 第7回：認知哲学：ロボットに"心"はあるか？ 第8回：社会心理学：いじめを抑制するには？ 第9回：発達心理学：赤ちゃんの持つ力 第10回：青年心理学：アイデンティティとモラトリアム 第11回：比較心理学：他動物の心を探る 第12回：超心理学：「超能力研究」は科学なのか？ 第13回：人格心理学：性格と性格検査法 第14回：臨床心理学：カウンセリングと心理療法 第15回：心理学史と講義のまとめ 第16回：期末試験</p>			
授業外学習 (予習・復習)			
<p>授業中に配布した資料を基に復習をし、知識を確かなものとする。また、予習、復習のための小レポートを複数回課す。</p>			
教科書			
指定しない。			
参考書			
内容に合わせて、毎回の講義で提示する。			
成績の評価基準			
複数回の小レポート(30%)と期末試験(70%)の成績による。			

オフィスアワ -

火曜3限。ただし、なるべく事前にメールにて連絡すること。

アクティブ・ラーニング

学習の振り返り（ミニッツ・ペーパー等）；

アクティブ・ラーニング（その他の内容）

アクティブ・ラーニング（授業回数）

15回中15回

備考（受講要件）

すでに心理学概論の単位を取得している学生は再履修ができない。

初回の講義で、本講義における進め方やルールについて説明するので、受講希望者は特別な理由がない限り必ず出席すること。

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード

科目名

心理アセスメント実習（旧 心理学実験2）

英語名

Exercises in Psychological Assessment

開講学科

コース

人文学科 新旧共通

心理学コース

授業科目区分

授業形態

単位数

開講期

人文・心理学コース / 必修
科目

実習

2単位

2～4年

担当教員

連絡先（TEL）

連絡先（MAIL）

榑原良太、安部幸志、飯田昌子、平
田祐太郎、米田孝一

099-285-7815

sakakibara@leh.kagoshima-u.ac.jp

共同担当教員

前後期

後期

授業概要

心理アセスメントに関する基礎的な知識や技能を習得すること、またアセスメントに基づいて適切なレポートを作成する能力を身に付けることを目的とする。

学修目標

1. 心理アセスメントの基本的知識を習得する。
2. 心理アセスメントの適切な運用方法を修得し、自律的にそれらを実施することができる。
3. 心理アセスメントによって得られたデータについて、適切に解釈することができる。

授業計画

各回のテーマや実施順序は変更される場合もあるので、ガイダンス時の指示や、各担当教員の指示に従うこと。

第1回：オリエンテーション・アセスメントにおける倫理

第2回：田中ビネー式知能検査の概説と実施

第3回：バウムテストの概説と実施

第4回：知能検査1：WAISの概説と実施

第5回：知能検査2：WISCの概説と実施

第6回：認知症のスクリーニング：HDS-R, MMSE-J

第7回：記憶の評価：ウェクスラー記憶検査

第8回：調査票を用いた測定の基礎

第9回：YG性格検査

第10回：内田クレペリン検査

第11回：心の健康の検査

第12回：アセスメント実践1

第13回：アセスメント実践2

第14回：アセスメント実践3

第15回：まとめ

授業外学習（予習・復習）

予習：授業で扱う検査法について、事前に予習しておくことが望ましい（標準時間60分）。

復習：配布資料等について復習することが望ましい。（標準時間60分）

教科書

その都度プリントを配布する。

参考書

適宜紹介する。

成績の評価基準

レポートと授業への取り組み態度による。また、各担当教員から課されるレポートのうち1つでも未提出のものがあつた場合、単位は認めない。

オフィスアワ -

月曜の昼休み。ただし事前に連絡すること。

アクティブ・ラーニング

グループワーク；

アクティブ・ラーニング（その他の内容）

アクティブ・ラーニング（授業回数）

備考（受講要件）

「心理学コース」の所属学生に限る。

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
科目名			
社会心理学（社会・集団・家族心理学）			
英語名			
Social Psychology			
開講学科		コース	
人文学科 新旧共通		心理学コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
人文・心理学コース / 選択科目	講義	2単位	2～4年
担当教員		連絡先（TEL）	連絡先（MAIL）
大園 博記		099-285-7538	ozono@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
		後期	
授業概要			
この授業では社会心理学の代表的な研究を、インターネットや友人関係、幸福感といった身近な問題や、格差や差別、環境破壊といった社会問題と結びつけながら、紹介する。授業後には毎回、短い意見・感想を書いてもらい、その次の授業でフィードバックするなど、双方向的な講義を目指す。さらに、講義の中で実際に社会心理学の実験を体験してもらうことによって、直感的理解と理論的理解の結合を図る。			
学修目標			
1. 対人関係並びに集団における人の意識、態度及び行動についての心の過程に関する、社会心理学の基礎的な知識と研究法を習得する。			
2. 家族、集団及び文化が個人に及ぼす影響について、理解する。			
3. 社会での人間関係などの個人の問題から、環境破壊や文化摩擦などの社会問題までを、多面的な視点から考察できるようになる。			
授業計画			
1. オリエンテーション			
2. 原因帰属とステレオタイプ：差別を生み出す心理			
3. 自己と態度：自己欺瞞の心理			
4. 格差と公正：平等な社会を阻む心理			
5. 潜在的過程の影響：意識できない自分の心			
6. メディアの影響：社会のフィルターを知る			
7. 進化してきた心：ヒトの社会性の起源			
8. 身近な人間関係：恋愛と家族			
9. 友人関係とネットワーク：絆としがらみが作る社会			
10. 社会的ジレンマ：集団での協力と裏切り			
11. 集団間葛藤：ウチとソトの対立			
12. 西洋と東洋の心の違い：文化的自己観と認知スタイル			
13. 文化と適応：文化差の起源を求めて			
14. 幸福感と社会：幸せとは何か？			
15. まとめ：変遷する人間観			
16. 期末試験			
授業外学習（予習・復習）			
授業前には、次の授業のキーワードを調べてくること。授業後は、授業中に配布した資料や提示した参考文献を基に復習をし、知識を確かなものとする。			
教科書			
指定しない。			
参考書			
社会心理学（池田謙一ほか 有斐閣）			
複雑さに挑む社会心理学（亀田達也・村田光二著 有斐閣）			
社会心理学キーワード（山岸俊男編 有斐閣）			
その他、適宜授業中に提示する。			

成績の評価基準

期末試験（100％）の成績による

オフィスアワ -

月曜1限

アクティブ・ラーニング

学習の振り返り（ミニッツ・ペーパー等）；その他；

アクティブ・ラーニング（その他の内容）

実験デモンストレーション

アクティブ・ラーニング（授業回数）

15回中15回

備考（受講要件）

実務経験のある教員による実践的授業

心理査定学（心理的アセスメント）（旧 臨床援助論）
ナンバリングコード

CHX2404

科目名

心理査定学（心理的アセスメント）（旧 臨床援助論）

英語名

Psychological Assessment

開講学科

コース

人文学科 新旧共通

心理学コース

授業科目区分

授業形態

単位数

開講期

人文・心理学コース / 選択
科目

講義

2単位

2～4年

担当教員

連絡先（TEL）

連絡先（MAIL）

米田孝一

内線7663

yoneda@leh.kagoshima-u.ac.jp

共同担当教員

前後期

後期

授業概要

心理査定の方法を理解し、代表的な心理検査法について知る。心理状態、精神状態、認知機能を把握するために行われる検査について概説し、明らかにしたいことに応じて、どのようにアプローチすればよいかを考えられるようにするのが本授業の目的である。更に一歩進めて、どのようにして治療するのかという臨床的な入り口を学んでいただきたい。臨床場面においては、患者・クライアントと話す一瞬一瞬が検査なき査定でもある。公認心理師や臨床心理士を目指す学生にとっては国家試験や認定試験のみならず、業務の骨格をなすものとなる。

学修目標

1. 心理的アセスメントの目的及び倫理を理解する。
2. 心理的アセスメントの観点及び展開を理解する。
3. 心理的アセスメントの方法（観察、面接及び心理検査）を理解する。
4. 心理アセスメントの結果についての適切な記録及び報告の意義を理解する。

授業計画

- 1回 心理査定とは
- 2回 認知症
- 3回 知能
- 4回 記憶
- 5回 気分(1)
- 6回 気分(2)
- 7回 ストレス
- 8回 トラウマ
- 9回 パーソナリティ(1)
- 10回 パーソナリティ(2)
- 11回 発達障害
- 12回 身体症状症
- 13回 高次脳機能障害
- 14回 総論
- 15回 まとめ

授業外学習（予習・復習）

予習は必要としない。授業で理解した検査の適応について自分なりに深く調べてみる。

教科書

特に指定しない

参考書

授業中に紹介する

成績の評価基準

期末試験（100％）

出席率が2/3に満たない者は試験を受けられず単位が与えられない。

オフィスアワ -

月曜2限：要予約

アクティブ・ラーニング

アクティブ・ラーニング（その他の内容）

アクティブ・ラーニング（授業回数）

備考（受講要件）

平成28年度以前入生は「臨床援助論」に読み替え。

実務経験のある教員による実践的授業

担当教員が医師（心療内科専門医）として診療に従事している経験を活かし、心、精神について、その働き、健康な状態、歪み、疾病を学生は学ぶ。代表的な心療内科、精神科領域の疾患とともに、心理状態、精神状態、認知機能を把握するために行われる検査、その治療に用いられる心理療法にも言及する。担当教員が日頃臨床現場で行なっていることを「生の教科書」として伝える。

ナンバリングコード			
科目名			
発達心理学			
英語名			
Developmental Psychology			
開講学科		コース	
人文学科 新旧共通		心理学コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
人文・心理学コース / 選択科目	講義	2単位	2～4年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
島 義弘		099-285-7788	shima@edu.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
		前期	
授業概要			
本講義では生涯にわたる人の発達を心理学の観点から概説する。全体は3部構成となっており、第I部は生涯発達心理学の概論、第II部、第III部は主として幼児期、児童期の発達の各論を解説する。受講者には事前の調べ学習と講義の振り返りを通して一般的な発達の特徴を理解し、発達支援の在り方について考察することを求める。			
学修目標			
<ol style="list-style-type: none"> 1. 発達研究の基本的な方法論を理解することができる 2. 発達を支える社会的・文化的環境について理解することができる 3. 認知の発達について理解することができる 4. 社会性の発達について理解することができる 5. 発達と教育の関係について理解することができる 			
授業計画			
第I部：発達心理学概論 <ol style="list-style-type: none"> 1. 「三歳児神話」は本当か？ 2. 身体と運動の発達 3. 乳児期から青年期の発達 4. 成人期・老年期の発達 5. 発達の遅れと障害 第II部：認知の発達 <ol style="list-style-type: none"> 6. 認知 7. 言葉 8. 記憶 9. 知能 10. 学習 第III部：社会性の発達 <ol style="list-style-type: none"> 11. 動機づけ 12. 感情・情動 13. パーソナリティ 14. 対人関係 15. 遊び 			
授業外学習 (予習・復習)			
【予習】 毎時出される課題について書籍等を調べてレポートとして提出する (学修に係る標準時間は約1時間)			
【復習】 講義資料や心理学関連の書籍等を読み、講義内容の理解を深める (学修に係る標準時間は約30分)			
教科書			
使用しない			
参考書			
『シードブック発達心理学 保育・教育に活かす子どもの理解』 本郷一夫 (編著) 建帛社			
『よくわかる発達心理学』 無藤隆 他 (編著) ミネルヴァ書房			
『発達科学入門』 (全3巻) 高橋恵子 他 (編) 東京大学出版会			

成績の評価基準

事前・事後レポート（毎時）：40%

期末レポート：50%

授業への積極的参加（関心・意欲・態度）：10%

理由の如何を問わず，出席が12回に満たない場合，事前レポートが3回以上提出されない場合，期末レポートが期限内に提出されない場合は評価の対象としない

一定時間を超える遅刻は「出席」と認定しない

オフィスアワ -

水曜日の午前中

アクティブ・ラーニング

学習の振り返り（ミニッツ・ペーパー等）；

アクティブ・ラーニング（その他の内容）

アクティブ・ラーニング（授業回数）

15回中15回

備考（受講要件）

教育学部の「児童心理学」と共同開設

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード

科目名

認知心理学（知覚・認知心理学）

英語名

Cognitive Psychology

開講学科

コース

人文学科 新旧共通

心理学コース

授業科目区分

授業形態

単位数

開講期

人文・心理学コース / 選択
科目

講義

2単位

2～4年

担当教員

連絡先（TEL）

連絡先（MAIL）

横山春彦

099-285-7535

yokoyama@leh.kagoshima-u.ac.jp

共同担当教員

前後期

後期

授業概要

授業の概要は以下の通りである。

ヒト・動物にとって感覚は行動の手掛かりであり、唯一の情報の入り口であり、また自身を実体のあるものとして感知させる重要な働きである。一方、そうした感覚の活動を生み出すのは神経系の作用であるが、インパルスの伝導・伝達を基本とするニューロンがどのようにそれを可能とするのか、そこには依然として大きな謎がある。本講義ではこうした感覚に関するトピックを毎回キーワードとして取り上げ解説する。それにより受講生自身、人の認知機能の機序及びその障害に関して理解を深め、基本的な説明ができることが目標となる。同様に、認知に関する身近な事象に様々な仮説が提起でき、その検証方法等が立案できることもまた目標となる。なお、私たちを取り巻く身近な環境に生息する動植物等についても具体的な観察記録をまじえつつ話題を提供する。

学修目標

学修目標は以下の通りである。

1. 人の感覚・知覚等の機序及びその障害に関して理解を深め、基本的な説明ができる。
2. 人の認知・思考等の機序及びその障害に関して理解を深め、基本的な説明ができる。
3. 認知に関する身近な事象に様々な仮説が提起でき、その検証方法等が立案できる。

授業計画

授業計画は以下の通りである。

1. 感覚の役割と不思議（「クオリア問題」等）
2. 身近な認知現象（「意味飽和」「ポジティブ・イリュージョン」等）
3. 認知の概念（「感覚」「知覚」「認知」等）
4. 刺激の受容細胞（「受容器」等）
5. 視覚の成立条件（「可視光線」「光受容器」「視覚野」等）
6. 網膜の機能（「視野」「盲点」「網膜像」等）
7. 眼球運動の機能（「眼球運動」「静止網膜像」「視覚経路」等）
8. 色の属性（「色相」「明度」「彩度」等）
9. 色覚の法則（「ベツォルト・ブリュッケ現象」「進出色」「後退色」等）
10. 運動の知覚（「仮現運動」「誘導運動」「自動運動」等）
11. 形の知覚要因（「ゲシュタルト要因」等）
12. 恒常現象（「形の恒常性」「色の恒常性」「明るさの恒常性」等）
13. 錯視現象（「幾何学的錯視」等）
14. 視覚認知機能の障害 1（「視覚性定位障害」「視覚失認」「立体視障害」等）
15. 視覚認知機能の障害 2（「半側空間無視」「反復視」「相貌失認」等）
16. 期末試験

授業外学習（予習・復習）

予習：次回の講義時に配布されるコメントペーパー（出席表の裏）に記載出来るよう、次回のテーマに関して疑問・質問等を整理しておくこと。

復習：授業で扱ったテーマに関する疑問・質問等をまとめておくこと。

教科書

特に指定しない。適宜紹介する。

参考書

特に指定しない。適宜紹介する。

成績の評価基準

コメントペーパーへの記載（20%次週の講義テーマに関する疑問・質問の整理（予習）、授業で扱ったテーマに関する疑問・質問の整理（復習）に基づく授業内での作業）、受講態度（20%）、期末試験の成績（60%）により総合的に評価する。

オフィスアワ -

毎週月曜日 5 限の時間帯（16:10～17:40）。

アクティブ・ラーニング

アクティブ・ラーニング（その他の内容）

アクティブ・ラーニング（授業回数）

備考（受講要件）

特になし。

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
FHS-DEH3402			
科目名			
比較心理学(旧 比較行動心理学)			
英語名			
Comparative Psychology			
開講学科		コース	
人文学科 新旧共通		心理学コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
人文・心理学コース/選択科目	講義	2単位	2~4年
担当教員		連絡先(TEL)	連絡先(MAIL)
富原一哉		285-7536	tomihara@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
		前期	
授業概要			
比較心理学は、ヒトを含めた様々な動物種の行動を比較することで、ヒトのヒトとしての特性(生物としての一般性と種としての特異性)を明らかとすることを目指している。本講義では、比較心理学における主な知見を紹介するなかで、生物学的・科学的な人間観の形成を目指す。			
学修目標			
<ul style="list-style-type: none"> ・比較心理学についての基礎知識を習得する。 ・人間を1つの動物種として客観的・科学的に理解する視点を養う。 ・心と行動の進化についての正確な理解と適切な考察が行える。 			
授業計画			
第1回: 比較心理学とは何か 第2回: 比較心理学の方法論 第3回: 進化論の誤解と遺伝学の基礎知識 第4回: 学習1(定義と分類) 第5回: 学習2(基礎理論) 第6回: 学習3(遺伝と生理的機構) 第7回: 学習4(系統発生と生態学的機能) 第8回: 繁殖行動1(分類と調節機構) 第9回: 繁殖行動2(雌雄の繁殖戦略) 第10回: 繁殖行動3(性淘汰と行動進化) 第11回: 繁殖行動4(親的投資と母性発現) 第12回: 認知・思考1(認知地図と概念学習) 第13回: 認知・思考2(言語と心の理論) 第14回: 系統発生と個体発生 第15回: まとめ 第16回: 定期試験			
授業外学習(予習・復習)			
毎回の講義内容を復習し、参考書としてあげた本を読んで、自分なりにまとめること。			
教科書			
適宜プリントを配布する。			
参考書			
M. R. パピーニ著 比較心理学研究会訳 2005 『パピーニの比較心理学』 北大路書房 長谷川真理子 2005 クジャクの雄はなぜ美しい? <増補改訂版> 紀伊國屋書店 近藤他編 2010 『脳とホルモンの行動学 ?行動神経内分泌学への招待?』 西村書店 藤田和生 1998 『比較認知科学への招待 「こころ」の進化学』 ナカニシヤ出版 藤田統 編著 1991 『動物の行動と心理学』 教育出版			
成績の評価基準			
授業内容に関する論述式の期末試験により評価する。			
オフィスアワ -			

月曜2限(研究室)。ただし,できるだけ事前にメールで連絡のこと。

アクティブ・ラーニング

アクティブ・ラーニング(その他の内容)

アクティブ・ラーニング(授業回数)

備考(受講要件)

平成28年度以前入生は「比較行動心理学」に読み替え。

すでにこの単位を修得している者および平成28年度に「比較行動心理学」の単位を修得している者の、重ねての単位修得は認めない。

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
FHS-DEH2416			
科目名			
臨床心理学（臨床心理学概論）			
英語名			
Clinical Psychology			
開講学科		コース	
人文学科 新旧共通		心理学コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
人文・心理学コース / 選択科目	講義	2単位	2～4年
担当教員		連絡先（TEL）	連絡先（MAIL）
飯田昌子		099-285-8884	m_iida@leh.kagoshima-u.a.jp
共同担当教員		前後期	
なし		前期	
授業概要			
臨床心理学は、人々が抱える困難を心理学的な観点から理解し、援助するための理論と方法を追求する学問である。本授業では、臨床心理学の成り立ちと、日本における臨床心理学の発展及び独自性について概説する。また、支援を必要とする人々に実際に関わる際に必要な専門的援助実践を学ぶための導入として、臨床心理学の主要な理論について概説する。			
学修目標			
<ul style="list-style-type: none"> 臨床心理学の成り立ちを説明できる。 臨床心理学の代表的な理論を説明できる。 			
授業計画			
第1回：ガイダンス及び臨床心理学の全体構造について 第2回：臨床心理学の成り立ち 第3回：臨床心理学の発展 第4回：日本における臨床心理学の発展と独自性 第5回：臨床心理学の代表的な理論（1）：力動論 第6回：臨床心理学の代表的な理論（2）：精神分析の技法 第7回：臨床心理学の代表的な理論（3）：行動論・認知論 第8回：臨床心理学の代表的な理論（4）：行動療法と認知行動療法 第9回：臨床心理学の代表的な理論（5）：人間性心理学 第10回：臨床心理学の代表的な理論（6）：クライアント中心療法の歴史的発展 第11回：臨床心理学の代表的な理論（7）：自己理論 第12回：臨床心理学の代表的な理論（8）：システム論 第13回：親子のカウンセリング 第14回：被害者相談 第15回：まとめ：臨床心理学のこれからの方向性 定期試験			
授業外学習（予習・復習）			
予習：講義内容について自ら文献学習する。 復習：講義内容について自ら文献学習する。			
教科書			
指定しない			
参考書			
よくわかる臨床心理学 下山晴彦編 ミネルヴァ書房 2003年			
成績の評価基準			
臨床心理学を学ぶ上での必要な知識や概念を習得したか等の観点から試験問題を作成し、定期試験（100％）で成績を付す。（持ち込み不可）			
オフィスアワ -			
月曜4限。ただし事前に研究室に連絡すること。連絡方法については授業中に指示する。授業直後であれば質問			

に応じます。

アクティブ・ラーニング

学習の振り返り（ミニッツ・ペーパー等）；

アクティブ・ラーニング（その他の内容）

アクティブ・ラーニング（授業回数）

15回中2回

備考（受講要件）

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード

FHS-DED2432

科目名

神経科学（神経・生理心理学）

英語名

Neuroscience

開講学科

コース

人文学科 新旧共通

心理学コース

授業科目区分

授業形態

単位数

開講期

人文・心理学コース / 選択科目

講義

2単位

2～4年

担当教員

連絡先（TEL）

連絡先（MAIL）

菅野康太

099-285-7624

canno@leh.kagoshima-u.ac.jp

共同担当教員

前後期

後期

授業概要

本講義は、行動を制御する脳の機能に的を絞り解説を行う。脳はあまりに広大で、私の知識もまだまだ及ばないし、神経科学のすべての分野を網羅的に解説することは時間的にも不可能である。一方、神経科学は、心理学、生物学、医学、工学、情報科学、認知科学など、多岐にわたる学問分野の融合領域であるため、教えるべきスタンダードというものがない。通常は、脳の構造や細胞の構造などをはじめに教え、その後、様々な分野のトピックを少しずつ取り上げる。しかし本講義では、序盤に偏りがあることを承知の上で、初学者が知識の大海で溺れてしまわないための一つの道標・ストーリーとして、人間を含む様々な動物の行動、とくに後半では他個体との間で起こる行動に的を絞り、脳を理解するための一つのストーリーを提示したい。各章のトピックごとに話を進めながら、その都度、基本知識を補足するスタイルをとり、第10回を過ぎたあたりで基本事項が一通り解説されているように設計をしている。分子・細胞生物学的な基本知識や脳の構造と機能については主に第13回で復習もかねてまとめ、実験技術、歴史的背景などについても最後の2回でまとめる。

さらに、本講義では、近年の神経科学や生物学の発展とともに生じると考えられる社会問題なども取り上げ、課題図書（小説など）を通じて未来の社会を考えるレポートなども実施する。

学修目標

- (1) 脳や生物学の面白さに触れ、以後、自学できるようになる。
- (2) 私たちを客観的に「見る」ということを考察し、体現する姿勢を持つ。
- (3) 自分と他人、ヒトと動物を比較し、異質な他者と「自分」の間に存在する、共通性と差異に対する感性を意識的に維持できるようになる。
- (4) 学問と私たちの生活、そして社会との繋がりについて考えられるようになる。

授業計画

- 第1回 ガイダンスおよび、1章 我々は世界をどのように感じているか（視覚）
- 第2回 1章 我々は世界をどのように感じているか（視覚の多様性、遺伝子と進化）
- 第3回 1章 我々は世界をどのように感じているか（嗅覚および外部刺激の受容機構の基本）
- 第4回 2章 本能的な対他者行動（母子関係、養育行動、触覚、ストレス、ホルモン）
- 第5回 2章 本能的な対他者行動（性特異的行動、性分化、攻撃性）
- 第6回 2章 本能的な対他者行動（雌雄間コミュニケーション）
- 第7回 3章 そして生まれた私たち（遺伝的個性）
- 第8回 3章 そして生まれた私たち（遺伝子・神経の疾患1：神経発生と脳の基本要素）
- 第9回 3章 そして生まれた私たち（遺伝子・神経の疾患2：精神疾患、発達障害、精神薬理）
- 第10回 4章 形成されるコミュニティ（社会性とは？）
- 第11回 4章 形成されるコミュニティ（親和性、家畜化、共感、モラル）
- 第12回 4章 形成されるコミュニティ（言語と音、記憶）
- 第13回 5章 神経科学の基本事項まとめ、復習と補足（神経伝達と内分泌、脳の構造と機能）
*ここでレポート提出
- 第14回 6章 社会的な課題（神経・生命倫理、遺伝子・再生医療やBMIなど先端技術、人工知能など）
- 第15回 6章 社会的な課題（全体のまとめと授業を通して伝えたかったこと）

授業外学習（予習・復習）

レポートのための引用文献を探して読む。興味を持ったことがあれば随時調べて、質問としてぶつけて欲しい。

教科書

なし。資料をmanabaを通じて配布する。一部の資料は、後日websiteを通して公開することがある。補足資料等もブログとして同サイトにupすることがある。

<https://cannonolab.com>

参考書

1. 脳神経科学イラストレイテッド（羊土社）
2. 脳-分子・遺伝子・生理-（裳華房）
3. カールソン神経科学テキスト（丸善）
4. 分子脳科学（化学同人）
5. 脳とホルモンの行動学（西村書店）
6. その他、配布資料に記載する（含む原著論文）。

成績の評価基準

レポート（50%）、期末テスト（50%）

オフィスアワ -

授業が火曜3限なので、そのあとの4限（研究室）でどうでしょうか。
出来れば事前のメールか、授業後に話しかけて確認して下さい。

アクティブ・ラーニング

ディベート；学習の振り返り（ミニッツ・ペーパー等）；

アクティブ・ラーニング（その他の内容）

アクティブ・ラーニング（授業回数）

1

備考（受講要件）

高校生物や共通教育の生物学関連科目など、前提知識は必要としない。

*履修上の注意

旧科目名「神経科学」です。心理学コース（人間と文化）の学生にとっては「選択科目」、その他のコース・学科の学生にとっては「自由科目」です。

重複履修は不可です。

*公認心理師対応

公認心理師試験受験資格に必要な「神経・生理心理学」に対応します。

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
科目名			
生涯発達心理学（旧 発達心理学）			
英語名			
Life Span Developmental Psychology			
開講学科		コース	
人文学科 新旧共通		心理学コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
人文・心理学コース / 選択科目	講義	2単位	2～4年
担当教員		連絡先（TEL）	
安部幸志			
共同担当教員		前後期	
		前期	
授業概要			
<p>人間は誕生から死に至るまで常に発達を続け、変化していく生物である。本授業では、人間の生涯のうち、老年期における課題と特性に着目し、具体的なエピソードを交えて概説する。また、それぞれの発達段階における課題について、よりよく理解するためにグループワークにおけるディスカッションを積極的に実施する。</p>			
学修目標			
<p>1．老年期の心理的発達課題について理解し、説明できる。 2．老年期の心理的諸問題と地域における解決方法について関心を持ち、対処方法を考えることができる。</p>			
授業計画			
<p>第1回 本授業のねらいと進め方 第2回 超高齢社会の現状と課題 第3回 身体機能の老化 第4回 認知機能の老化 第5回 高齢者と交通事故 第6回 老年期を対象とした研究アプローチ 第7回 認知機能のリハビリテーション 第8回 認知機能のリハビリ体験と報告 第9回 老年期の心理的問題 第10回 認知症とは何か 第11回 介護ストレス 第12回 介護スタッフのストレス 第13回 終末期の心理 第14回 高齢者を支えるためのグループワーク 第15回 期末試験</p>			
授業外学習（予習・復習）			
<p>第5回 授業外グループワーク（180分） 第8回 授業外グループワークとまとめ（240分） 第14回 授業外グループワーク（300分）</p>			
教科書			
特に指定しない			
参考書			
授業中に適宜紹介する			
成績の評価基準			
<p>グループワーク 40% 期末試験 60%</p>			
オフィスアワ -			
アクティブ・ラーニング			
グループワーク；プレゼンテーション；学習の振り返り（ミニッツ・ペーパー等）；			

アクティブ・ラーニング（その他の内容）

アクティブ・ラーニング（授業回数）

15回中14回

備考（受講要件）

グループワークをほぼ毎回の授業で実施するため、積極的にコミュニケーションすることが必要である。

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
科目名			
社会心理学演習			
英語名			
Social Psychology 1			
開講学科		コース	
人文学科 新旧共通		心理学コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
人文・心理学コース / 選択科目	演習	2単位	3~4年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
大園博記		099-255-7438	ozono@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
		後期	
授業概要			
社会心理学の研究アプローチについて理解し、自ら研究計画を立てられるようになることを目指す。具体的には、毎週担当者が本や論文の発表をして、全体でディスカッションをする中で、「面白い研究とは何か」「どのようにしたら知りたいことがわかるのか」について理解を深める。その上で、それぞれが自らの研究アイデアを持ち寄り、議論する中でアイデアを洗練させていく。			
学修目標			
社会心理学の諸理論と研究手法について、研究論文を講読する中で理解できるようになることを目指す。そして、自ら問題を発見し、それを探求していく方法論や思考法を身につけることを目標とする。			
授業計画			
第1回 オリエンテーション 第2回：英語論文発表：inter-group competition 第3回：英語論文発表：aggressive behavior 第4回：英語論文発表：social dilemma 第5回：英語論文発表：fairness 第6回：英語論文発表：cultural differences 第7回：英語論文発表：sexual differences 第8回：英語論文発表：mating behavior 第9回：英語論文発表：religious behavior 第10回：英語論文発表：parental behavior 第11回：英語論文発表：happiness 第12回：英語論文発表：behavioral economics 第13回：英語論文発表：reputation 第14回：英語論文発表：punishment and reward 第15回 まとめ			
授業外学習（予習・復習）			
予習：発表の準備 複数：議論の中で提示された問題点について再考			
教科書			
指定しない。			
参考書			
適宜紹介する。			
成績の評価基準			
発表と討論への取り組み態度（発表内容への評価点70%、討論における発言の評価点30%）による。			
オフィスアワ -			
木曜5限			
アクティブ・ラーニング			
グループワーク；ディベート；プレゼンテーション；			

アクティブ・ラーニング（その他の内容）

アクティブ・ラーニング（授業回数）

15回中15回

備考（受講要件）

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード

科目名

比較心理学演習（旧 比較行動心理学演習）

英語名

Comparative Psychology 1

開講学科

コース

人文学科 新旧共通

心理学コース

授業科目区分

授業形態

単位数

開講期

人文・心理学コース / 選択
科目

演習

2単位

3～4年

担当教員

連絡先（TEL）

連絡先（MAIL）

富原一哉

099-285-7536

tomihara@leh.kagoshima-u.ac.jp

共同担当教員

前後期

前期

授業概要

比較行動心理学に関する最近の内外の論文や概説書を講読することを通して、心理学研究に必要な知識と技能の修得を目指す。授業においては、毎週授業で取り扱う論文等（英文）を指定し、自習すべき課題を設定する。授業では、英文和訳、内容の概説、課題内容の発表、討論等を行ってもらうため、事前の十分な予習を必要とする。

学修目標

- ・比較心理学と行動神経科学に関する基礎知識を修得する。
- ・心理学における実験的研究技法についての最新の知識を得る。
- ・心理学の原著論文を講読する力を付ける。
- ・自ら問題設定を行い、それを心理学的に研究するための方法を身につける。

授業計画

- 第1回：ガイダンス
- 第2回：行動研究の基礎（観察法）
- 第3回：行動研究の基礎（実験法）
- 第4回：行動研究の基礎（生理的研究法）
- 第5回：個体行動の基盤（反射と走性）
- 第6回：個体行動の基盤（学習と記憶）
- 第7回：個体行動の基盤（不安と恐怖）
- 第8回：社会行動の基盤（攻撃行動）
- 第9回：社会行動の基盤（性行動）
- 第10回：社会行動の基盤（養育行動）
- 第11回：行動の適応と進化
- 第12回：遺伝子と淘汰
- 第13回：協力と競争
- 第14回：性差と発達
- 第15回：まとめ

授業外学習（予習・復習）

毎回の論文訳と課題発表準備のための予習を必要とする。

教科書

適宜指定する。

参考書

授業中に紹介する。

成績の評価基準

毎回の授業における課題の達成度（70%）と討論への参加（30%）により評価する。

オフィスアワー

月曜2限・研究室（できるだけ事前にメールで連絡をください）

アクティブ・ラーニング

ディベート；

アクティブ・ラーニング（その他の内容）

アクティブ・ラーニング（授業回数）

15回中15回

備考（受講要件）

平成28年度以前入生は「比較行動心理学演習」に読み替え。

心理学コース生（平成28年度以前入生は「人間と文化コース」生）に限る。

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
科目名			
神経科学演習（旧 比較行動心理学演習）			
英語名			
Neuroscience 1			
開講学科		コース	
人文学科 新旧共通		心理学コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
人文・心理学コース / 選択科目	演習	2単位	3～4年
担当教員		連絡先（TEL）	連絡先（MAIL）
菅野康太		099-285-7624	canno@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
		後期	
授業概要			
行動神経科学研究の過去から近年の動向をゼミナール形式で概説し、ディスカッションする。主たるテーマは、マウスの音声コミュニケーション、雌雄間コミュニケーション、情動行動、社会行動。読む文献はだいたい英語。前期の内容を引き継ぎ、より実践的な内容を議論する。			
学修目標			
(1) 生物学的神経科学研究の文献の探し方と読み方を理解する。 (2) 生物学的神経科学研究の実験技術を理解し、実施するための知識を準備をする。 (3) 自ら問題設定を行い、良い研究とは何かを考える。 (4) 卒業論文の構想を具現化する。			
授業計画			
第1回	ガイダンス		
第2～4回	マウスの社会行動研究の動向		
第5～7回	ヒトの疾患モデルとしての動物研究の動向		
第8～10回	実践的プレゼン		
第11～14回	自分独自の研究計画の立案と実行		
第15回	まとめ		
授業外学習（予習・復習）			
課題となる文献の読み込み、その内容説明のためのプレゼン資料作成			
教科書			
適宜指定する。			
参考書			
授業中に紹介する。また、講義科目「神経科学」の資料を活用。			
成績の評価基準			
授業への取り組み態度（発表内容とそのレジュメの評価点70%、授業での発言の評価点30%）による。			
オフィスアワ -			
木曜2限（研究室）など。ただし、前もってメール等で連絡することが望ましい。			
アクティブ・ラーニング			
グループワーク；ディベート；プレゼンテーション；			
アクティブ・ラーニング（その他の内容）			
アクティブ・ラーニング（授業回数）			
15回中15回			
備考（受講要件）			
「人間と文化コース」もしくは「心理学コース」所属のゼミ生に限る。			
実務経験のある教員による実践的授業			

ナンバリングコード

科目名

コミュニティ援助論演習（旧 臨床援助論演習）

英語名

Community Psychology 1

開講学科

コース

人文学科 新旧共通

心理学コース

授業科目区分

授業形態

単位数

開講期

人文・心理学コース / 選択科目

演習

2単位

3～4年

担当教員

連絡先（TEL）

連絡先（MAIL）

平田祐太郎

099-285-7540

hirata@leh.kagoshima-u.ac.jp

共同担当教員

前後期

後期

授業概要

心理学・臨床心理学をはじめとした心理学に関する研究について、各自リサーチ・クエスチョンを設定し、そのテーマに基づき研究計画を立案する。研究計画や実際の調査やデータの整理・分析、考察を行い研究としてまとめる。

学修目標

- ・研究計画に基づき、適切に調査の実施が出来る
- ・収集したデータについて、心理学的手法を用いて分析・考察 できる
- ・論文・報告書としてまとめ、適切な方法で周囲に伝えることができる

授業計画

- 第1回：オリエンテーション
- 第2回：調査実施計画の立案について
- 第3回：文献購読
- 第4回：調査実施上の方法・ならびに留意点について
- 第5回：グループワーク（1）：リサーチクエスチョンの設定
- 第6回：グループワーク（2）：データ収集
- 第7回：グループワーク（3）：データ分析
- 第8回：グループワーク（4）：結果のまとめと考察
- 第9回：論文の構成作成
- 第10回：結果と先行研究との対比による検討
- 第11回：論文作成とプレゼンテーションの準備
- 第12回：研究結果/研究計画に関するプレゼンテーション
- 第13回：研究結果/研究計画に関するディスカッション
- 第14回：研究結果のフィードバックの方法
- 第15回：総括

授業外学習（予習・復習）

予習：発表者が事前に適宜参考文献を熟読し、レジュメを作成すること（標準時間60分）

復習：ディスカッションを受け、各自で研究計画や調査、考察の修正を行うこと（標準時間60分）

教科書

特に指定しない

参考書

授業中に適宜紹介する

成績の評価基準

レポート及び授業への取り組み態度

オフィスアワ -

月曜4限。ただし事前に連絡すること、連絡方法については授業中に指示する。授業直後であれば適宜質問に応じる。

アクティブ・ラーニング

グループワーク；ディベート；

アクティブ・ラーニング（その他の内容）

アクティブ・ラーニング（授業回数）

備考（受講要件）

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
科目名			
司法・犯罪心理学			
英語名			
Forensic and Criminal Psychology			
開講学科		コース	
人文学科 新旧共通		心理学コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
人文・心理学コース/選択科目	講義	2単位	3～4年
担当教員		連絡先 (TEL)	
石井 利文			
共同担当教員		前後期	
なし		前期	
授業概要			
<p>1. 目的：犯罪や非行、犯罪被害、家事事件についての基本的知識を学び、犯罪・非行の原因や対策、再犯防止に関する心理的支援、さらに犯罪被害者に対する心理的支援等について考える機会を与えることを目指す。</p> <p>2. 内容：犯罪・非行や犯罪者、犯罪被害、家事事件に関する「実証的な研究」について概観する。再犯防止に関する心理的支援や犯罪被害者に対する心理的支援について考える。また、プロファイリングについても触れる。</p> <p>3. 方法：司法精神鑑定事例や文献上の事例、判例を中心に紹介、説明する。</p>			
学修目標			
<p>1. 犯罪・非行の原因や対策、犯罪被害、家事事件についての基本的知識が得られる。</p> <p>2. 再犯防止に関する心理的支援、犯罪被害者に対する心理的支援に関する知識が得られる。</p>			
授業計画			
授業のスケジュールは概ね次のとおりであるが、都合により入れかえ等を行う場合がある。			
<p>第1回 わが国における犯罪・非行の動向について</p> <p>第2回 少年鑑別所について</p> <p>第3回 精神鑑定について</p> <p>第4回 犯罪者の典型例 - 危険な常習的犯罪者</p> <p>第5回 殺人累犯者について</p> <p>第6回 間接自殺について</p> <p>第7回 知的障害者の犯罪</p> <p>第8回 窃盗癖について</p> <p>第9回 殺人加害者に転じたDV被害者の事例</p> <p>第10回 詐病の事例</p> <p>第11回 プロファイリングについて</p> <p>第12回 再犯防止に関する心理的支援について</p> <p>第13回 犯罪被害者に対する支援、とくに心理的支援について</p> <p>第14回 家事事件について</p> <p>第15回 まとめ</p>			
授業外学習 (予習・復習)			
<p>予習：次回の授業に関する資料を収集し、知識を得ておく。</p> <p>復習：配付した資料をもとに他の論文や著書等を参考にして知識を深める。</p>			
教科書			
必要に応じてレジメを配布する。			
参考書			
講義中に適宜指示する。			
成績の評価基準			
期末レポート(70%)、授業への参加態度(30%)とし、評価する。犯罪・非行の原因や対策、犯罪被害、家事事件に関する基本的知識、司法・犯罪分野における問題に対して必要な心理に関する支援について理解したものを合			

格とする。

オフィスアワ -

アクティブ・ラーニング

アクティブ・ラーニング（その他の内容）

アクティブ・ラーニング（授業回数）

備考（受講要件）

受講制限：心理学コース（平成30年度は人間と文化コース）に限る。

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
科目名			
心理査定学演習（旧 心理療法演習）			
英語名			
Psychological Assessment 1			
開講学科		コース	
人文学科 新旧共通		心理学コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
人文・心理学コース / 選択科目	演習	2単位	3～4年
担当教員		連絡先（TEL）	連絡先（MAIL）
米田孝一		研究室099 - 285-7663	yonedat@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
		後期	
授業概要			
前期の同演習授業を基に各自の卒業研究を進めていく。また、同時に心理検査、心理療法、実験手技についての修練を行う。			
学修目標			
<ol style="list-style-type: none"> 1. 心身医学、認知神経科学の領域の英語論文が読める。 2. 研究テーマに必要な心理検査・心理療法が実施できる。 3. 自分が取得したデータを分析するための統計解析ができる。 4. 統計結果を解釈できる。 			
授業計画			
第1回	テキスト輪読 / 論文報告 / データミーティング 1		
第2回	テキスト輪読 / 論文報告 / データミーティング 2		
第3回	テキスト輪読 / 論文報告 / データミーティング 3		
第4回	テキスト輪読 / 論文報告 / データミーティング 4		
第5回	テキスト輪読 / 論文報告 / データミーティング 5		
第6回	テキスト輪読 / 論文報告 / データミーティング 6		
第7回	テキスト輪読 / 論文報告 / データミーティング 7		
第8回	テキスト輪読 / 論文報告 / データミーティング 8		
第9回	テキスト輪読 / 論文報告 / データミーティング 9		
第10回	テキスト輪読 / 論文報告 / データミーティング 10		
第11回	テキスト輪読 / 論文報告 / データミーティング 11		
第12回	テキスト輪読 / 論文報告 / データミーティング 12		
第13回	テキスト輪読 / 論文報告 / データミーティング 13		
第14回	テキスト輪読 / 論文報告 / データミーティング 14		
第15回	研究報告プレゼンテーション		
授業外学習（予習・復習）			
教科書			
参加者の関心領域に応じて決定する。			
参考書			
授業でその都度紹介する。			
成績の評価基準			
オフィスアワー			
要予約：月曜日2限及び4限、水曜日2限			
アクティブ・ラーニング			
ディベート；プレゼンテーション；			
アクティブ・ラーニング（その他の内容）			

アクティブ・ラーニング（授業回数）

備考（受講要件）

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード

科目名

精神医学（精神疾患とその治療）

英語名

Psychiatry

開講学科

コース

人文学科 新旧共通

心理学コース

授業科目区分

授業形態

単位数

開講期

人文・心理学コース / 選択
科目

講義

2単位

3～4年

担当教員

連絡先（TEL）

連絡先（MAIL）

中村雅之・佐々木なつき 他

共同担当教員

前後期

鹿児島大学医歯学総合研究科精神機能学分野教員及び
鹿児島大学病院メンタルケアセンター教員

前期

授業概要

本講では精神医学において、代表的な精神疾患についての成因、症状、診断法、治療法を学ぶとともに、本人や家族への支援を含む精神障害への対応を論考する。治療法においては、向精神薬をはじめとする薬剤による症状や心身の変化についても学ぶ。また、医療機関としての役割や連携についても理解を深める。

学修目標

代表的な精神疾患について成因、症状、診断法、治療法、経過、本人や家族への支援の観点から説明できる。向精神薬をはじめとする薬剤による心身の変化について概説できる。どのような場合に医療機関への紹介が必要か説明できる。

授業計画

- 第1回 精神医学総論
- 第2回 症候論
- 第3回 統合失調症
- 第4回 気分障害
- 第5回 神経症性障害・ストレス関連障害および身体表現性障害
- 第6回 症状性および器質性精神障害
- 第7回 認知症
- 第8回 精神作用物質使用による精神および行動障害とてんかん
- 第9回 パーソナリティ障害および行動の障害
- 第10回 知的障害および心理発達の障害
- 第11回 心身症および摂食障害
- 第12回 睡眠医学
- 第13回 コンサルテーション・リエゾン精神医学、緩和ケアおよび多職種連携
- 第14回 精神保健福祉法
- 第15回 精神薬理
- 第16回 期末試験

授業外学習（予習・復習）

教科書・参考図書のみならず、適宜文献を検索し、知識を深めていく。

教科書

現代臨床精神医学 改訂第12版（大熊輝雄著、金原出版）

参考書

成績の評価基準

期末試験、ただし3分の2以上の出席がないと受験資格がない。

オフィスアワー

非常勤講師による授業であるので、授業時間外の対応はしない

アクティブ・ラーニング

アクティブ・ラーニング（その他の内容）

アクティブ・ラーニング（授業回数）

備考（受講要件）

人間と文化コース及び心理学コースの学生に限る

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
科目名			
心理査定学演習（旧 心理療法演習）			
英語名			
Psychological Assessment 1			
開講学科		コース	
人文学科 新旧共通		心理学コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
人文・心理学コース / 選択科目	演習	2単位	3～4年
担当教員		連絡先（TEL）	連絡先（MAIL）
米田孝一		099-285-7663	yonedat@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
		前期	
授業概要			
心身医学、神経心理学、認知神経科学の領域における知見、検査・心理療法・研究手技を習得しながら、各自の卒業研究の土台を築く。			
学修目標			
<ol style="list-style-type: none"> 1. 心身医学の基礎知識の習得 2. 医学一般の基礎知識の習得 3. 論文読解力の養成 4. 研究手法（臨床研究・実験研究）の習得 5. 臨床技法（心理検査・心理療法）の習得 6. 論文作成力の養成 			
授業計画			
第1回	オリエンテーション / ゼミ員の関心領域発表		
第2回	テキスト輪読 / 研究論文の探し方		
第3回	テキスト輪読 / 研究テーマ探索 1		
第4回	テキスト輪読 / 研究テーマ探索 2		
第5回	テキスト輪読 / 研究テーマ発表		
第6回	テキスト輪読 / 論文報告 / 研究計画 1		
第7回	テキスト輪読 / 論文報告 / 研究計画 2		
第8回	テキスト輪読 / 論文報告 / 研究計画 3		
第9回	テキスト輪読 / 論文報告 / 研究計画 4		
第10回	テキスト輪読 / 論文報告 / データミーティング 1		
第11回	テキスト輪読 / 論文報告 / データミーティング 2		
第12回	テキスト輪読 / 論文報告 / データミーティング 3		
第13回	テキスト輪読 / 論文報告 / データミーティング 4		
第14回	テキスト輪読 / 論文報告 / データミーティング 5		
第15回	研究報告（中間発表）		
授業外学習（予習・復習）			
教科書			
参加者の関心領域に応じて決定する。			
参考書			
その都度紹介する。			
成績の評価基準			
演習への積極性（50％）、レポート（50％）			
オフィスアワー			
メールで要予約：月曜日2限及び4限、水曜日2限			
アクティブ・ラーニング			
ディベート；プレゼンテーション；			

アクティブ・ラーニング（その他の内容）

アクティブ・ラーニング（授業回数）

備考（受講要件）

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
科目名			
パーソナリティ論（感情・人格心理学）			
英語名			
Theories of Personality			
開講学科		コース	
人文学科 新旧共通		心理学コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
人文・心理学コース / 選択科目	講義	2単位	3～4年
担当教員		連絡先（TEL）	連絡先（MAIL）
金坂弥起、大石英史		金坂：099-285-7642 大石：099-285-7052	金坂：kanesaka@leh.kagoshima-u.ac.jp 大石：eoishi@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
なし		前期	
授業概要			
心理学の中でもパーソナリティに関する内容について講義します。パーソナリティについて、心理学、特に臨床心理学や発達心理学の観点から見た理論や歴史、心理アセスメントのあり方、現代社会における心の問題をめぐる基本的な事象について、パワーポイントや資料を用いながら詳細に解説いたします。第1回目は金坂と大石による合同のオリエンテーションですが、2回目から8回目は金坂が、9回目から15回目は大石が、それぞれ単独で担当いたします。			
学修目標			
パーソナリティ心理学の理論や歴史、評価方法、現代社会における心の諸問題などに関する、基本的な理解を深めるとともに、パーソナリティの多様性や多面性を知り、パーソナリティの持つ意味や、柔軟かつ人間学的なとらえ方を身につけることを目標とします。その上で、人間の多様性や個別性、独自性を尊重する態度の涵養を目指します。			
授業計画			
第1回 オリエンテーション（金坂・大石）			
第2回 パーソナリティ心理学入門：パーソナリティとは？（金坂）			
第3回 パーソナリティの理論と諸側面：類型論・特性論・人間関係（金坂）			
第4回 ライフサイクルとパーソナリティ（1）：乳幼児期・児童期・青年期（金坂）			
第5回 ライフサイクルとパーソナリティ（2）：成人期・中年期・老年期（金坂）			
第6回 パーソナリティと精神病理：さまざまな心のトラブル（金坂）			
第7回 パーソナリティの測定：観察法・面接法・質問紙法（金坂）			
第8回 前半のまとめ（金坂）			
第9回 愛着とパーソナリティ形成（1）：パーソナリティ形成と家族の役割（大石）			
第10回 愛着とパーソナリティ形成（2）：親子関係と愛着形成、虐待（大石）			
第11回 発達特性からみたパーソナリティ理解：発達障害の理解と援助（大石）			
第12回 人間理解の方法としてのパーソナリティ論：人間性心理学（大石）			
第13回 学校領域での心の問題への援助（1）：スクールカウンセラーの役割（大石）			
第14回 学校領域での心の問題への援助（2）：思春期特性と現代型不登校（大石）			
第15回 後半のまとめ（大石）			
第16回 期末試験			
授業外学習（予習・復習）			
事前に下記参考書のいずれかを一読することを推奨します。また、授業後は配布資料を丁寧に読み返すとともに、不明な点は下記参考書などを参照し、復習してください。			
教科書			
なし			
参考書			
・詫摩武俊・瀧本孝雄・鈴木乙史・松井豊共著 『性格心理学への招待（改訂版）』		新心理学ライブラリ9	

(サイエンス社 改訂2003年)

- ・鈴木公啓編『パーソナリティ心理学概論 性格理解への扉』(ナカニシヤ出版 2012年)
- ・松井豊・櫻井茂男編『スタンダード自己心理学・パーソナリティ心理学』 ライブラリストANDARD心理学 9 (サイエンス社 2015年)
- ・金坂弥起著『あなたはこども? それともおとな? 思春期心性の理解に向けて』(学芸みらい社 2016年)
- ・キース・スタノヴィッチ著(金坂弥起監訳)『心理学をまじめに考える方法 真実を見抜く批判的思考』(誠信書房 2016年)
- ・村山正治・滝口俊子編『事例に学ぶスクールカウンセリング』(創元社 2007年)
- ・大石由起子編著『青年期の危機とケア』(ふくろう出版 2009年)
- ・福田廣・名島潤慈監修『心理学へのいざない 研究テーマから語るその魅力』(北大路書房 2012年)
- ・大塚類・遠藤野ゆり編著、大石英史・川崎徳子・磯崎祐介著『エピソード 教育臨床』(創元社 2014年)

成績の評価基準

期末試験(70%), 授業への取り組み態度(授業内2回のミニレポート30%)。

オフィスアワ -

金坂: 毎週木曜日 5 限 (共通教育棟 3 号館 4 階)

大石: 毎週火曜日 15時から17時 (法文棟 1 号館 3 階)

アクティブ・ラーニング

グループワーク; 学習の振り返り(ミニッツ・ペーパー等); その他;

アクティブ・ラーニング(その他の内容)

パーソナリティの測定に関する体験学習

アクティブ・ラーニング(授業回数)

15回中5回

備考(受講要件)

第1回目の授業時に, 単位認定の要件について詳細を説明するので必ず出席してください。講義の進捗状況によって各回の内容や順番を若干変更する場合があります。

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
FHS-DEH3409			
科目名			
社会心理学演習			
英語名			
Social Psychology 1			
開講学科		コース	
人文学科 新旧共通		心理学コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
人文・心理学コース / 選択科目	演習	2単位	3～4年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
大園博記		099-285-7538	ozono@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
		前期	
授業概要			
社会心理学の研究アプローチについて理解し、自ら研究計画を立てられるようになることを目指す。具体的には、毎週担当者が本や論文の発表をして、全体でディスカッションをする中で、「面白い研究とは何か」「どのようにしたら知りたいことがわかるのか」について理解を深める。その上で、それぞれが自らの研究アイデアを持ち寄り、議論する中でアイデアを洗練させていく。			
学修目標			
社会心理学の諸理論と研究手法について、研究論文を講読する中で理解できるようになることを目指す。そして、自ら問題を発見し、それを探求していく方法論や思考法を身につけることを目標とする。			
授業計画			
第1回 オリエンテーション			
第2回：日本語論文発表1：社会的認知			
第3回：日本語論文発表2：潜在的過程			
第4回：日本語論文発表3：帰属理論			
第5回：日本語論文発表4：自己正当化			
第6回：日本語論文発表5：協力関係			
第7回：日本語論文発表6：集団感葛藤			
第8回：日本語論文発表7：進化と適応			
第9回：日本語論文発表8：文化			
第10回：英語論文発表1：Social Cognition			
第11回：英語論文発表2：Cooperation			
第12回：英語論文発表3：Group			
第13回：英語論文発表4：Evolutionary Psychology			
第14回：英語論文発表5：Cultural Psychology			
第15回 まとめ			
授業外学習（予習・復習）			
予習：発表の準備			
複数：議論の中で提示された問題点について再考			
教科書			
指定しない。			
参考書			
適宜紹介する。			
成績の評価基準			
発表と討論への取り組み態度（発表内容への評価点70%，討論における発言の評価点30%）による。			
オフィスアワ -			
アクティブ・ラーニング			
アクティブ・ラーニング（その他の内容）			

アクティブ・ラーニング（授業回数）

備考（受講要件）

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード

科目名

学習心理学（学習・言語心理学）

英語名

Psychology of Learning

開講学科

コース

人文学科 新旧共通

心理学コース

授業科目区分

授業形態

単位数

開講期

人文・心理学コース / 選択科目

講義

2単位

3～4年

担当教員

連絡先（TEL）

連絡先（MAIL）

横山春彦

099-285-7535

yokoyama@leh.kagoshima-u.ac.jp

共同担当教員

前後期

後期

授業概要

授業の概要は以下の通りである。

心理学の研究対象である人・動物（生活体）の本質である行動のメカニズムに関して、基本的かつ普遍的な事項を中心に授業を進める。それにより受講生自身、学習の機序及びその障害等に関して理解を深め、基本的な説明ができることが目標となる。同様に、行動や学習に関する身近な事象に様々な仮説が提起でき、その検証方法等が立案できることもまた目標となる。なお、人や動物を取り囲む身近な環境に生息する動植物等についても具体的な観察記録をまじえつつ話題を提供する。

学修目標

学習目標は以下の通りとする。

1. 人の行動変化の機序及びその過程に関して理解を深め、基本的な説明ができる。
2. 言語習得の機序及びその過程に関して理解を深め、基本的な説明ができる。
3. 行動及び学習に関する身近な事象に様々な仮説が提起でき、その検証方法が立案できる。

授業計画

授業の計画は以下の通りである。

1. 行動の基礎的理解（レスポナント、オペラント）、身近な動植物、のらねこ研究
2. レスポナント行動(1)（自律神経系、内分泌等）、身近な動植物、のらねこ研究
3. レスポナント行動(2)（体性神経系等）、身近な動植物、のらねこ研究
4. ニューロンの構造と機能、身近な動植物、のらねこ研究
5. 行動に関する障害等（自律神経失調症、神経症等）、身近な動植物、のらねこ研究
6. 学習現象（目標勾配、逃避・回避、学習性無力等）身近な動植物、のらねこ研究
7. 人類の進化等、身近な動植物、のらねこ研究
8. 言語獲得の機序等、身近な動植物、のらねこ研究
9. 古典的条件づけ、身近な動植物、のらねこ研究
10. オペラント条件づけ、身近な動植物、のらねこ研究
11. 記憶の機能など、身近な動植物、のらねこ研究
12. 系列効果と記憶の構造（感覚記憶、作業記憶等）、
13. 意味記憶・エピソード記憶、身近な動植物、のらねこ研究
14. 手続き記憶等、身近な動植物、のらねこ研究
15. 行動理論とその問題等、身近な動植物、のらねこ研究
16. 期末

授業外学習（予習・復習）

予習：授業時に配布するコメントペーパー（出席表の裏）に毎回記載出来るよう、次回の講義で扱うテーマに関して興味・関心のある出来事や現象をまとめておくこと。

復習：授業で扱ったテーマに関して、理解が深まった点、さらに疑問が生じた点などについてまとめておくこと。

教科書

指定しない。

参考書

適宜紹介する。

成績の評価基準

コメントペーパーへの記載（20%：次週の講義テーマに関する問・質問の整理（予習）、授業で扱ったテーマに関する疑問・質問の整理（復習）に基づく授業内での作業）、受講態度（20%）、期末試験の成績（60%）等により総合的に評価する。

オフィスアワ -

毎週月曜日16：00～17：00

アクティブ・ラーニング

アクティブ・ラーニング（その他の内容）

アクティブ・ラーニング（授業回数）

備考（受講要件）

なし

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
FHS-DEH2428			
科目名			
心理療法演習（心理演習）			
英語名			
Psychotherapy 1			
開講学科		コース	
人文学科 新旧共通		心理学コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
人文・心理学コース / 選択科目	演習	2単位	3～4年
担当教員		連絡先（TEL）	連絡先（MAIL）
飯田昌子・平田祐太郎・安部幸志		099 285 8884	m_iida@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
		前期	
授業概要			
<p>心理などの対人援助職においては、心理に関する支援を要する者等へのコミュニケーションのもちかたや、多職種及び地域連携のとりかたが重要になる。本授業では心理支援を行う際に必要な知識及び技能の基本的な水準の修得を目指す。また、心理に関する支援を要する者等へのチームアプローチや連携のありかた等について学ぶ。</p>			
学修目標			
<p>1. 心理に関する支援を要する者等に関する以下の基本的な知識および技能を修得する。（1）心理に関する支援を必要とする者ならびに多職種連携に必要なコミュニケーション力，（2）代表的な心理検査の技能，（3）様々な分野における心理面接の技能，（4）多様な地域支援の実際について説明する技能。</p> <p>2. 心理に関する支援を要する者等の理解とニーズの把握し，彼らの現実生活を視野に入れた支援計画の作成ができる。</p> <p>3. 多職種の業務及び地域における様々な職種と業種について理解し，効果的なチームアプローチや連携のありかた及び心理師の果たすべき役割について説明できる。</p> <p>4. 公認心理師としての職業倫理及び法的義務を説明できる。</p>			
授業計画			
<p>第1回オリエンテーション</p> <p>第2回傾聴訓練およびインテーク・ロールプレイ</p> <p>第3回人格検査（質問紙法など）の概説および体験学習</p> <p>第4回人格検査（投影法など）の概説および体験学習</p> <p>第5回人格検査（描画法など）の概説および体験学習</p> <p>第6回知能検査概説および体験学習</p> <p>第7回支援計画の作成に関する概説</p> <p>第8回児童期及び青年期の心理的問題に関する心理面接のロールプレイ</p> <p>第9回児童期及び青年期の支援計画作成</p> <p>第10回成人期及び老年期の心理的問題に関する心理面接のロールプレイ</p> <p>第11回成人期及び老年期の支援計画の作成</p> <p>第12回チームアプローチと多職種連携の概説とロールプレイ</p> <p>第13回地域支援に必要な心理教育的手法の概説およびロールプレイ</p> <p>第14回公認心理師としての職業倫理および法的義務について</p> <p>第15回まとめと総括</p>			
授業外学習（予習・復習）			
<p>予習：グループワーク等の発表のための論文講読や資料作成等</p> <p>復習：体験学習等の振り返り</p>			
教科書			
適宜授業内で紹介をする			
参考書			
適宜授業内で紹介をする			
成績の評価基準			

授業後のミニレポート10 %，中間レポート30%，最終レポート60%

オフィスアワ -

授業後、随時。事前に教員へメールで連絡をとること

アクティブ・ラーニング

グループワーク；プレゼンテーション；学習の振り返り（ミニッツ・ペーパー等）；

アクティブ・ラーニング（その他の内容）

アクティブ・ラーニング（授業回数）

11回

備考（受講要件）

人間と文化コース（心理学コース）の学生に限る

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード

FHS-DEH3408

科目名

比較心理学演習（旧 比較行動心理学演習）

英語名

Comparative Psychology 1

開講学科

コース

人文学科 新旧共通

心理学コース

授業科目区分

授業形態

単位数

開講期

人文・心理学コース / 選択
科目

演習

2単位

3～4年

担当教員

連絡先（TEL）

連絡先（MAIL）

富原一哉

099-285-7536

tomihara@leh.kagoshima-u.ac.jp

共同担当教員

前後期

後期

授業概要

比較行動心理学に関する最近の内外の論文や概説書を講読することを通して、心理学研究に必要な知識と技能の修得を目指す。授業においては、毎週授業で取り扱う論文等（英文）を指定し、自習すべき課題を設定する。授業では、英文和訳、内容の概説、課題内容の発表、討論等を行ってもらうため、事前の十分な予習を必要とする。

学修目標

- (1)比較心理学と行動神経科学に関する基礎知識を修得する。
- (2)心理学における実験的研究技法についての最新の知識を得る。
- (3)心理学の原著論文を講読する力を付ける。
- (4)自ら問題設定を行い、それを心理学的に研究するための方法を身につける。

授業計画

授業計画

- 第1回：ガイダンス
- 第2回：行動の生理学的基礎（脳と神経系）
- 第3回：行動の生理学的基礎（シナプスと神経伝達物質）
- 第4回：行動の生理学的基礎（ホルモンと神経調節因子）
- 第5回：個体行動の神経内分泌的基盤（学習と記憶）
- 第6回：個体行動の神経内分泌的基盤（不安と恐怖）
- 第7回：個体行動の神経内分泌的基盤（睡眠と覚醒）
- 第8回：社会行動の神経内分泌的基盤（攻撃行動）
- 第9回：社会行動の神経内分泌的基盤（性行動）
- 第10回：社会行動の神経内分泌的基盤（養育行動）
- 第11回：適応と進化のメカニズム（社会生物学と進化心理学）
- 第12回：適応と進化のメカニズム（自然淘汰と性淘汰）
- 第13回：適応と進化のメカニズム（親的投資と繁殖戦略）
- 第14回：適応と進化のメカニズム（遺伝子と行動）
- 第15回：まとめ

授業外学習（予習・復習）

毎回の論文訳と課題発表のための予習を必要とする。

教科書

適宜指定する。

参考書

授業中に紹介する。

成績の評価基準

毎回の授業における課題の達成度（70%）と討論への参加（30%）により評価する。

オフィスアワ -

月曜2限(研究室)。ただし、できるだけ事前にメールで連絡のこと。

アクティブ・ラーニング

ディベート;

アクティブ・ラーニング（その他の内容）

アクティブ・ラーニング（授業回数）

15回中15回

備考（受講要件）

平成28年度以前入生は「比較行動心理学演習」に読み替え。

心理学コース生（平成28年度以前入生は「人間と文化コース生」）に限る。

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
FHS-DEH3408			
科目名			
神経科学演習（旧 比較行動心理学演習）			
英語名			
Neuroscience 1			
開講学科		コース	
人文学科 新旧共通		心理学コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
人文・心理学コース / 選択科目	演習	2単位	3～4年
担当教員		連絡先（TEL）	連絡先（MAIL）
菅野康太		099-285-7624	canno@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
		前期	
授業概要			
行動神経科学研究の過去から近年の動向をゼミナール形式で概説し、ディスカッションする。主たるテーマは、マウスの音声コミュニケーション、雌雄間コミュニケーション、情動行動、社会行動。読む文献はだいたい英語。ただし、基礎知識を日本語ベースで与えるところから始める。			
学修目標			
(1) 生物学的神経科学研究の文献の探し方と読み方を理解する。 (2) 生物学的神経科学研究の実験技術を理解し、実施するための知識を準備をする。 (3) 自ら問題設定を行い、良い研究とは何かを考える。			
授業計画			
第1回	ガイダンス		
第2～4回	研究とはどのようなものか？（論文の書き方、読み方、実験の基礎知識）		
第5～7回	マウスの社会行動		
第8～10回	ヒトの疾患モデルとしての動物研究		
第11～14回	自分独自の研究をするための実験計画の進め方		
第15回	まとめ		
授業外学習（予習・復習）			
課題となる文献の読み込み、その内容説明のためのプレゼン資料作成			
教科書			
適宜指定する。			
参考書			
授業中に紹介する。また、講義科目「神経科学」の資料を活用。			
成績の評価基準			
授業への取り組み態度（発表内容とそのレジュメの評価点70%、授業での発言の評価点30%）による。			
オフィスアワ -			
木曜2限（研究室）など。ただし、前もってメール等で連絡することが望ましい。			
アクティブ・ラーニング			
グループワーク；ディベート；プレゼンテーション；			
アクティブ・ラーニング（その他の内容）			
アクティブ・ラーニング（授業回数）			
15回中15回			
備考（受講要件）			
「人間と文化コース」もしくは「心理学コース」所属のゼミ学生に限る。			
実務経験のある教員による実践的授業			

ナンバリングコード

FHS-DEH3410

科目名

コミュニティ援助論演習（旧 臨床援助論演習）

英語名

Community Psychology 1

開講学科

コース

人文学科 新旧共通

心理学コース

授業科目区分

授業形態

単位数

開講期

人文・心理学コース / 選択科目

演習

2単位

3～4年

担当教員

連絡先（TEL）

連絡先（MAIL）

平田祐太郎

099-285-7540

hirata@leh.kagoshima-u.ac.jp

共同担当教員

前後期

前期

授業概要

心理学・臨床心理学をはじめとした心理学の国内外の論文を講読することを通して、研究動向と手法の理解を目指す。受講生が各自の関心に基づき、テーマを設定し、先行研究について調べ、グループでディスカッションを行う。ディスカッションを通して、批判的に理解・検討を行う中で、研究計画作成を目指す。

学修目標

- ・心理学論文等を適切に参照できる。
- ・先行研究を批判的に理解・検討できる。
- ・心理学的研究計画を作成できる。

授業計画

- 第1回：オリエンテーション
- 第2回：心理学研究法について
- 第3回：文献検索方法について
- 第4回：研究計画書の書き方について
- 第5回：文献講読（1）：テーマ設定について
- 第6回：文献講読（2）：データ収集の技法（集合調査法）
- 第7回：文献講読（3）：データ収集の技法（インターネット調査法）
- 第8回：文献講読（4）：データ収集の技法（構造化面接法）
- 第9回：質問紙等の調査プロセスについて
- 第10回：研究倫理ガイドラインの概説：倫理的配慮の必要性
- 第11回：インフォームド・コンセントの取り方
- 第12回：匿名性の保障と回答者の権利
- 第13回：倫理ガイドラインに関するまとめ
- 第14回：研究発表の方法
- 第15回：総括

授業外学習（予習・復習）

予習：発表者が事前に適宜参考文献を熟読し、レジュメを作成すること（標準時間60分）

復習：発表レジュメに沿って各自で参考文献等を精読すること（標準時間60分）

教科書

特に指定しない

参考書

授業中に適宜紹介する

成績の評価基準

レポート及び授業への取り組み態度

オフィスアワ -

月曜4限。ただし事前に連絡すること。連絡方法については授業中に指示する。授業直後であれば適宜質問に応じる。

アクティブ・ラーニング

ディベート；プレゼンテーション；

アクティブ・ラーニング（その他の内容）

アクティブ・ラーニング（授業回数）

備考（受講要件）

心理学コース所属生のみ

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード

科目名

多変量データ解析演習(旧 心理学統計法演習)

英語名

開講学科

コース

人文学科 新旧共通

心理学コース

授業科目区分

授業形態

単位数

開講期

人文・心理学コース/選択
科目

演習

2単位

3~4年

担当教員

連絡先(TEL)

連絡先(MAIL)

榊原良太・山崎真理子

099-285-7519

sakakibara@leh.kagoshima-u.ac.jp

共同担当教員

前後期

後期

授業概要

統計ソフト(HAD)を用いて、これまでに学習した基礎的な分析から、近年盛んに用いられるようになった応用的な分析まで、多変量データの分析手法を広く習得する。

学修目標

- ・HADの基本的な操作法を身につける
- ・データの特性に応じた適切な分析手法を選択、実行することができる
- ・分析結果を適切に読み解き、解釈することができる
- ・卒業論文に向けて、独力でデータを解析できる力を身につける

授業計画

- 第1回 オリエンテーション(授業の概要とHADの基本操作)
 第2回 t検定とノンパラメトリック検定
 第3回 1要因分散分析
 第4回 2要因分散分析
 第5回 実際のデータを用いた解析演習(実験計画法、t検定、分散分析)
 第6回 探索的因子分析
 第7回 重回帰分析
 第8回 共分散構造分析(確認的因子分析、モデル検証と適合度)
 第9回 共分散構造分析(多母集団同時分析、媒介分析)
 第10回 マルチレベル分析(階層性のあるデータの特徴、級内相関)
 第11回 マルチレベル分析(階層性のあるデータの分析手法)
 第12回 一般化線形モデル(ポアソン回帰)
 第13回 一般化線形モデル(ロジスティック回帰)
 第14回 欠損値推定、エフェクトコーディング、ベイズ推定の概要
 第15回 まとめ

授業外学習(予習・復習)

HADの基本操作を習得するために、教科書や配布資料を授業前や授業後に適宜読んでおくこと。

教科書

『Excelで今すぐはじめる心理統計 簡単ツールHADで基本を身につける』 著:小宮あすか・布井雅人

参考書

成績の評価基準

授業内課題(100%)

オフィスアワー

火曜2限、事前にメールにて連絡すること。

アクティブ・ラーニング

学習の振り返り(ミニッツ・ペーパー等);

アクティブ・ラーニング(その他の内容)

15

備考（受講要件）

卒業研究で多変量データを扱う予定がある場合は、積極的に受講することが望ましい。

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
FHS-DDF4401			
科目名			
卒業科目（人間と文化）			
英語名			
Graduation Thesis			
開講学科		コース	
人文学科 新旧共通		人間と文化コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
人文学科/必修科目	演習	8単位	4年
担当教員	連絡先（TEL）	連絡先（MAIL）	
富原一哉	285-7536	tomihara@leh.kagoshima-u.ac.jp	
共同担当教員		前後期	
安部幸志、飯田昌子、大園博記、菅野康太、榊原良太、平田祐太郎、山崎真理子、横山春彦、米田孝一		後期	
授業概要			
指導教員との綿密な打合せに基づき卒業論文を作成する。まず、学部における心理学の学習成果をもとに研究テーマを設定する。次に、研究テーマとなった問題の解決のために、実験・調査等の科学的手法を用いてデータを収集する。さらに、これを統計等の実証的手法によって分析し、結論を得て、論文としてまとめる。			
学修目標			
実証的手法に基づく科学的な人間理解を実践し、その結果を適確に表現できる能力を身につける。			
授業計画			
1．研究テーマの設定 2．文献の収集 3．研究デザイン的设计 4．データ収集 5．データ分析と考察 6．論文の作成			
授業外学習（予習・復習）			
先行研究のレビュー、研究方法の検討、実験・調査の実施、データの分析と考察、論文の作成など。			
教科書			
特になし。			
参考書			
適宜紹介する。			
成績の評価基準			
論文作成過程および提出論文の評価。			
オフィスアワー			
各指導教員に確かめること。			
アクティブ・ラーニング			
アクティブ・ラーニング（その他の内容）			
アクティブ・ラーニング（授業回数）			
備考（受講要件）			
指導教員との綿密な打合せを行うこと。 実務経験のある教員による実践的授業			

ナンバリングコード			
FHS-DDF4401			
科目名			
卒業科目(人間と文化)			
英語名			
Graduation Thesis			
開講学科		コース	
人文学科 新旧共通		人間と文化コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
人文学科/必修科目	演習	8単位	4年
担当教員	連絡先 (TEL)		連絡先 (MAIL)
富原一哉	285-7536		tomihara@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員			前後期
横山春彦、飯田昌子、大園博記、榊原良太、平田祐太朗			前期
授業概要			
指導教員との綿密な打合せに基づき卒業論文を作成する。まず、学部における心理学の学習成果をもとに研究テーマを設定する。次に、研究テーマとなった問題の解決のために、実験・調査等の科学的手法を用いてデータを収集する。さらに、これを統計等の実証的手法によって分析し、結論を得て、論文としてまとめる。			
学修目標			
実証的手法に基づく科学的な人間理解を実践し、その結果を適確に表現できる能力を身につける。			
授業計画			
1. 研究テーマの設定 2. 文献の収集 3. 研究デザインの設計 4. データ収集 5. データ分析と考察 6. 論文の作成			
授業外学習 (予習・復習)			
先行研究のレビュー、研究方法の検討、実験・調査の実施、データの分析と考察、論文の作成など。			
教科書			
特になし。			
参考書			
適宜紹介する。			
成績の評価基準			
論文作成過程および提出論文の評価。			
オフィスアワー			
各指導教員に確認すること。			
アクティブ・ラーニング			
アクティブ・ラーニング (その他の内容)			
アクティブ・ラーニング (授業回数)			
備考 (受講要件)			
指導教員との綿密な打合せを行うこと。			
実務経験のある教員による実践的授業			

ナンバリングコード			
科目名			
臨床心理学演習			
英語名			
Clinical Psychology 1			
開講学科		コース	
人文学科 新旧共通		人間と文化コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
人文・心理学コース / 選択科目	演習	2単位	3～4年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
飯田昌子		099-285-8884	m_iida@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
		後期	
授業概要			
臨床心理学に関する国内外の論文の講読を行い、研究計画に基づいたデータ収集及び解析、論文作成を行う。			
学修目標			
1. 研究テーマに沿った研究方法、データ収集及び解析方法を理解する 2. 研究論文としてのまとめ方を学ぶ			
授業計画			
<p>授業計画</p> <p>第1回：ガイダンス</p> <p>第2回：調査デザイン（1）：調査テーマ、目的、タイトルの決定</p> <p>第3回：調査デザイン（2）：仮説、スケジュール、予算の決定</p> <p>第4回：調査デザイン（3）：調査対象者、データ収集法</p> <p>第5回：調査デザイン（4）：データの編集・集計・分析デザインの検討</p> <p>第6回：研究レポートの構想発表会（1）：テーマ、仮説、デザインについて</p> <p>第7回：質問紙の構成と体裁</p> <p>第8回：質問紙の書式やレイアウト</p> <p>第9回：研究レポートの構想発表会（2）：自作質問紙の体裁について</p> <p>第10回：データ解析（1）：データの形式、入力と代表値</p> <p>第11回：データ解析（2）：データの関連をみる</p> <p>第12回：データ解析（3）：2変数以上の相違をみる</p> <p>第13回：研究レポートの構想発表（1）：総合ディスカッション</p> <p>第14回：研究レポートの構想発表（2）：研究倫理について</p> <p>第15回：総括</p>			
授業外学習（予習・復習）			
予習：研究テーマに沿った先行研究を講読しておくこと			
復習：授業で指摘された事項をもとに、再度先行研究を検索し、研究テーマを構築すること			
教科書			
特に指定しない			
参考書			
特に指定しない			
成績の評価基準			
臨床心理学に基づいて説明できる技術を習得したか等の観点から、平常の学習状況（10%）、発表資料（20%）、プレゼンテーション力（30%）。レポート（40%）により、総合的に評価する。			
オフィスアワ -			
月曜4限。ただし事前に連絡すること。			
アクティブ・ラーニング			
ディベート；プレゼンテーション；			
アクティブ・ラーニング（その他の内容）			

アクティブ・ラーニング（授業回数）

15回中13回

備考（受講要件）

人間と文化コース（心理学コース）の学生に限る

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード

科目名

生涯発達心理学演習（旧 臨床心理学演習）

英語名

Life Span Developmental Psychology 1

開講学科

コース

人文学科 新旧共通

人間と文化コース

授業科目区分

授業形態

単位数

開講期

人文・心理学コース / 選択
科目

演習

2単位

3～4年

担当教員

連絡先（TEL）

連絡先（MAIL）

安部幸志

共同担当教員

前後期

後期

授業概要

生涯発達心理学に関する卒業論文作成に必要なスキルを身に付けることを目標とし、関連する文献を調べ、報告していく形で授業を進行する。また、研究を理解するために必要な統計スキル等については、実際のデータを収集・分析する等、一連の研究に参加することで、実践的に身に付けることを目指す。

学修目標

1. 生涯発達心理学分野における最新の研究について理解する
2. 卒業論文作成に必要な研究計画を作成することができる
3. 実際の調査研究に参加することで、高齢者やその家族の諸問題を体験・体感する

授業計画

- 第1回 オリエンテーション
 第2回 調査研究への参加とふり返し
 第3回 調査データへの基礎的解析
 第4回 調査データへの多変量解析
 第5回 調査データ分析結果の報告準備
 第6回 調査データ分析結果の報告
 第7回 結果から見えてきた問題に関する文献検索
 第8回 結果に関連する文献発表
 第9回 結果に関連する複数文献レビュー
 第10回 複数の文献データのメタ分析
 第11回 メタ分析結果からの問題抽出
 第12回 卒業論文で使用する測度候補の抽出
 第13回 卒業論文における調査のパイロットスタディ立案
 第14回 卒業論文の構想発表
 第15回 まとめ

授業外学習（予習・復習）

- 第2回 発表準備（300分）
 第3回 発表準備（300分）
 第4回 発表準備（300分）
 第5回 発表準備（300分）
 第6回 発表準備（300分）
 第8回 発表準備（300分）
 第9回 発表準備（300分）
 第10回 発表準備（300分）
 第11回 発表準備（300分）
 第12回 発表準備（300分）
 第13回 発表準備（300分）
 第14回 発表準備（300分）

教科書

参考書

成績の評価基準

授業における発表：40%

卒業論文における調査計画：60%

オフィスアワー

アクティブ・ラーニング

フィールドワーク；プレゼンテーション；

アクティブ・ラーニング（その他の内容）

アクティブ・ラーニング（授業回数）

備考（受講要件）

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード

科目名

生涯発達心理学演習（旧 臨床心理学演習）

英語名

Life Span Developmental Psychology 1

開講学科

コース

人文学科 新旧共通

人間と文化コース

授業科目区分

授業形態

単位数

開講期

人文・心理学コース / 選択
科目

演習

2単位

3～4年

担当教員

連絡先（TEL）

連絡先（MAIL）

安部幸志

共同担当教員

前後期

前期

授業概要

生涯発達心理学に関する卒業論文作成に必要なスキルを身に付けることを目標とし、関連する文献を調べ、報告していく形で授業を進行する。また、研究を理解するために必要な統計スキル等については、実際のデータを収集・分析する等、一連の研究に参加することで、実践的に身に付けることを目指す。

学修目標

1. 生涯発達心理学分野における最新の研究について理解する
2. 卒業論文作成に必要な研究計画を作成することができる
3. 実際の調査研究に参加することで、高齢者やその家族の諸問題を体験・体感する

授業計画

- 第1回 オリエンテーション
 第2回 研究論文の検索手法について
 第3回 研究論文における統計手法について
 第4回 老年期の諸問題に関する論文紹介
 第5回 老年期の諸問題に関するレビュー作成
 第6回 日本における介護者の問題に関する論文紹介
 第7回 欧米における介護者の問題に関する論文紹介
 第8回 実際の調査研究への参加
 第9回 実際の調査研究の振り返り
 第10回 実際のデータから見えてきた現状と課題報告
 第11回 調査研究データの分析と傾向
 第12回 調査研究データに対する多変量解析結果
 第13回 研究における考察とまとめの記述方法
 第14回 次期調査計画の立案
 第15回 まとめ

授業外学習（予習・復習）

- 第3回 調べ学習（180分）
 第4回 発表準備（300分）
 第5回 発表準備（300分）
 第6回 発表準備（300分）
 第7回 発表準備（300分）
 第8回 発表準備（120分）
 第9回 発表準備（120分）
 第10回 発表準備（120分）
 第14回 発表準備（300分）

教科書

参考書

成績の評価基準

授業における発表：20%

調査への参加：20%

研究計画：60%

オフィスアワ -

アクティブ・ラーニング

フィールドワーク；プレゼンテーション；

アクティブ・ラーニング（その他の内容）

アクティブ・ラーニング（授業回数）

備考（受講要件）

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
FHS-DEH3411			
科目名			
臨床心理学演習			
英語名			
Clinical Psychology 1			
開講学科		コース	
人文学科 新旧共通		人間と文化コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
人文・心理学コース/選択科目	演習	2単位	3~4年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
飯田昌子		099-285-8884	m_iida@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
		前期	
授業概要			
臨床心理学に関する国内外の論文の講読を通して、臨床心理学領域で扱うデータの収集と解析方法を学び、それに基づいた研究レポートの作成方法を学ぶ。			
学修目標			
1. 臨床心理学における論理の構築及び研究法を理解する 2. 研究テーマに沿った研究方法、データ収集及び解析方法を理解する			
授業計画			
<p>授業計画</p> <p>第1回：ガイダンス</p> <p>第2回：調査デザイン（1）：調査テーマ，目的，タイトルの決定</p> <p>第3回：調査デザイン（2）：仮説，スケジュール，予算の決定</p> <p>第4回：調査デザイン（3）：調査対象者，データ収集法</p> <p>第5回：調査デザイン（4）：データの編集・集計・分析デザインの検討</p> <p>第6回：研究レポートの構想発表会（1）：テーマ，仮説，デザインについて</p> <p>第7回：質問紙の構成と体裁</p> <p>第8回：質問紙の書式やレイアウト</p> <p>第9回：研究レポートの構想発表会（2）：自作質問紙の体裁について</p> <p>第10回：回答法について</p> <p>第11回：質問作成について（1）：ワーディング</p> <p>第12回：質問作成について（2）：回答バイアスについて</p> <p>第13回：研究レポートの構想発表（3）：質問項目について</p> <p>第14回：研究レポートの構想発表（4）：倫理的ガイドラインについて</p> <p>第15回：総括</p>			
授業外学習（予習・復習）			
予習：研究テーマに沿った先行研究を講読しておくこと 復習：授業で指摘された事項をもとに，再度先行研究を検索し，研究テーマを構築すること			
教科書			
特になし			
参考書			
特になし			
成績の評価基準			
臨床心理学に基づいて説明できる技術を習得したか等の観点から，平常の学習状況（10%），発表資料（20%），プレゼンテーション力（30%）。レポート（40%）により，総合的に評価する。			
オフィスアワ -			
月曜4限。ただし事前に連絡すること。			
アクティブ・ラーニング			
ディベート；プレゼンテーション；			
アクティブ・ラーニング（その他の内容）			

アクティブ・ラーニング（授業回数）

13回

備考（受講要件）

人間と文化コースの学生に限る

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
科目名			
産業心理支援実習			
英語名			
Exercises in Psychological Support in Industry			
開講学科		コース	
人文学科 新旧共通		人間と文化コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
人文・心理学コース / 選択科目	実習	1単位	3～4年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
大園 博記・山崎 真理子・榊原 良太		099-258-3578 (大園研究室)	ozono@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
		後期	
授業概要			
この実習では、心理学の知識や方法論を、産業分野に応用させるための実践的な知識、技能を修得する。具体的には、地域の企業と連携し、その企業の実態や抱える課題を把握した上で、その解決方法を心理学の知識や方法を元にして提言し、企業からのフィードバックを得て、実践性を養う。			
学修目標			
<ol style="list-style-type: none"> 1. 企業が抱える課題に対して、心理学の知識や方法をどのように活用できるかを実践的に考えることができるようになる。 2. 課題に対する解決策を模索し、説得的・客観的な提言ができるようになる。 3. 地域の企業との関わりを通して、地域や企業の現状に触れ、進路に対するイメージを具体的に抱けるようになる。 			
授業計画			
第1回: オリエンテーション 第2回: 連携先を知る 第3回: 心理学の実践1: 文献研究 第4回: 心理学の実践2: 討論 第5回: 企業インタビューに向けて1: 企業研究 第6回: 企業インタビューに向けて2: 質疑の整理 第7回: 企業インタビュー 第8回: 提案に向けて1: 討論 第9回: 提案に向けて2: 調査準備 第10回: 提案に向けて3: 調査結果分析 第11回: 提案に向けて4: 結果考察 第12回: 成果報告準備1: 資料作成 第13回: 成果報告準備2: 発表練習 第14回: 成果報告会 第15回: 成果報告後の振り返り、まとめ			
授業外学習 (予習・復習)			
企業研究、調査の分析、プレゼンの作成など、各授業の前後に予習・復習が必要となる			
教科書			
特になし。			
参考書			
適宜授業中に提示する。			
成績の評価基準			
授業への取り組み態度 (100%) による			
オフィスアワー			
火曜3限 (大園)。ただし事前に研究室に連絡すること。			
アクティブ・ラーニング			

グループワーク; ディベート; フィールドワーク; プレゼンテーション; 学習の振り返り(ミニッツ・ペーパー等);

アクティブ・ラーニング(その他の内容)

アクティブ・ラーニング(授業回数)

15回中15回

備考(受講要件)

人間と文化コースの学生のみ、履修可能。

なお、企業下見の交通費や施設見学料がかかる可能性がある。

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
FHS-DDF4501			
科目名			
卒業科目(メディアと現代文化)			
英語名			
Graduation Thesis			
開講学科		コース	
人文学科 新旧共通		メディアと現代文化コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
人文学科/必修科目	演習	8単位	4年
担当教員	連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)	
太田一郎			
共同担当教員		前後期	
櫻井芳生, 宮下正昭, 太田純貴, 中路武士		前期	
授業概要			
各人のテーマに応じた卒論指導を行う			
学修目標			
1. 卒業論文作成に必要な能力、技術を修得する			
2. 卒業論文作成を通して、現代の社会、文化現象の本質への理解を深める			
授業計画			
第1回	ガイダンス		
第2回~第14回	個々のテーマに応じた助言指導	報告と討論	
第15回	報告と討論		
授業外学習(予習・復習)			
指導教員との綿密な打合せを行うこと			
教科書			
特になし			
参考書			
適宜紹介する			
成績の評価基準			
提出された論文の評価による			
オフィスアワ -			
各教員に確認すること			
アクティブ・ラーニング			
アクティブ・ラーニング(その他の内容)			
アクティブ・ラーニング(授業回数)			
備考(受講要件)			
実務経験のある教員による実践的授業			

ナンバリングコード			
FHS-DDF4501			
科目名			
卒業科目（メディアと現代文化）			
英語名			
Graduation Thesis			
開講学科		コース	
人文学科 新旧共通		メディアと現代文化コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
人文学科/必修科目	演習	8単位	4年
担当教員	連絡先（TEL）	連絡先（MAIL）	
太田一郎			
共同担当教員		前後期	
櫻井芳生，宮下正昭，太田純貴，中路武士		後期	
授業概要			
各人のテーマに応じた卒論指導を行う			
学修目標			
1．卒業論文作成に必要な能力、技術を修得する			
2．卒業論文作成を通して、現代の社会，文化現象の本質への理解を深める			
授業計画			
第1回	ガイダンス		
第2回～第14回	個々のテーマに応じた助言指導		
第15回	報告と討論		
授業外学習（予習・復習）			
指導教員との綿密な打合せを行うこと			
教科書			
特になし			
参考書			
適宜紹介する			
成績の評価基準			
提出された論文の評価による			
オフィスアワ -			
アクティブ・ラーニング			
アクティブ・ラーニング（その他の内容）			
アクティブ・ラーニング（授業回数）			
備考（受講要件）			
実務経験のある教員による実践的授業			

ナンバリングコード			
科目名			
報道論演習 2 (マスコミ論演習)			
英語名			
Journalism Studies 2			
開講学科		コース	
人文学科 新旧共通		メディアと現代文化コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
人文・多元地域文化コース / 選択科目	演習	2単位	3~4年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
宮下正昭		090-8295-6853	mk-miya@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
宮下正昭		前期	
授業概要			
4年生はそれぞれの卒論テーマに向けて、随時、質疑を重ね、構想を固める。 3年生は、まずは社会の現状を幅広く知る。ネットだけでなく、新聞、テレビの報道の中身、番組の中身、メディアのありようを探る。課題図書も随時、与える。			
学修目標			
4年生は卒論の構想を固めて、さらに必要な調べは何なのか詰める。 3年生は自分のやりたい卒論テーマを探り、固める。			
授業計画			
4年生は卒論の進捗状況を報告し、数回、ゼミ内で発表も行う。 3年生とは日々のマスコミの動向を一緒に確認しながら、自分なりの社会的な関心事を決めていく。			
授業外学習 (予習・復習)			
図書館で新聞各紙を見る。見出しから、時に j は記事まで読み進み、あらためて見出しを吟味する。			
教科書			
特になし。			
参考書			
随時、提示する。			
成績の評価基準			
毎回の授業の態様と研究成果の発表内容から総合的に判断する。			
オフィスアワー			
金曜午後			
アクティブ・ラーニング			
ディベート; フィールドワーク; プレゼンテーション;			
アクティブ・ラーニング (その他の内容)			
アクティブ・ラーニング (授業回数)			
15回中15回			
備考 (受講要件)			
実務経験のある教員による実践的授業			

ナンバリングコード			
FHS-DDF4201			
科目名			
卒業科目（比較地域環境）			
英語名			
Graduation Thesis			
開講学科		コース	
人文学科 新旧共通		比較地域環境コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
人文学科/必修科目	演習	8単位	4年
担当教員	連絡先（TEL）	連絡先（MAIL）	
小林善仁	099-285-7557	zenjin@leh.kagoshima-u.ac.jp	
共同担当教員		前後期	
		後期	
授業概要			
卒業論文の構想から執筆に至る過程、最終的な完成までを指導します。			
学修目標			
卒業論文のテーマの決定。論文作成に足るまでの資料収集とその整理、論理的解釈ができるようにする。最終的には卒業論文を完成させる。			
授業計画			
1．卒業論文完成までのプロセスについて 2．～15．各自の進行状況をみながら、助言、指導をおこなう。			
授業外学習（予習・復習）			
卒業論文完成のために学内、学外での資料収集を積極的におこなうこと。			
教科書			
使いません。			
参考書			
適宜紹介します。			
成績の評価基準			
卒業論文の質を評価します。			
オフィスアワー			
授業・会議の時間以外			
アクティブ・ラーニング			
ディベート；フィールドワーク；プレゼンテーション；その他；			
アクティブ・ラーニング（その他の内容）			
アクティブ・ラーニング（授業回数）			
備考（受講要件）			
後期に卒業論文を提出する者			
実務経験のある教員による実践的授業			

ナンバリングコード			
FHS-DDF4201			
科目名			
卒業科目（比較地域環境）			
英語名			
Graduation Thesis			
開講学科		コース	
人文学科 新旧共通		比較地域環境コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
人文学科/必修科目	演習	8単位	4年
担当教員	連絡先（TEL）		連絡先（MAIL）
小林善仁	099-285-7557		zenjin@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
		前期	
授業概要			
卒論を提出する学生のために登録が必要である。			
学修目標			
比較地域環境コースで卒論を書くものは指導が受けられる。			
授業計画			
卒論指導を順次提示したスケジュールでおこなう。			
授業外学習（予習・復習）			
卒論執筆の準備と調査、執筆が必要			
教科書			
特になし、自分で調べること。			
参考書			
特になし、自分で調べること			
成績の評価基準			
卒論を提出した場合、その卒論を評価する。			
オフィスアワ -			
授業・会議の時間以外			
アクティブ・ラーニング			
フィールドワーク；プレゼンテーション；その他；			
アクティブ・ラーニング（その他の内容）			
アクティブ・ラーニング（授業回数）			
備考（受講要件）			
実務経験のある教員による実践的授業			

ナンバリングコード

FHS-DGH2711

科目名

自然地理学概説

英語名

Introduction to Physical Geography

開講学科

コース

人文学科 新旧共通

比較地域環境コース

授業科目区分

授業形態

単位数

開講期

人文・多元地域文化コース
/ 選択科目

講義

2単位

1～4年

担当教員

連絡先 (TEL)

連絡先 (MAIL)

吉田明弘

099-285-7543

aki tan@leh.kagoshima-u.ac.jp

共同担当教員

前後期

後期

授業概要

我々を取り巻く自然環境は、過去から現在まで様々な時間・空間スケールの自然現象が複雑に組み合わさって形成されている。この講義では自然環境の原因・仕組み、さらには人々の生活や文化の背景にある自然環境について関係づけながら解説する。とくに、この講義では地形学の基礎を中心にして、世界・日本、そして九州の各地の事例を取り上げ、地域的・歴史的な幅広い視点から紹介する。

学修目標

我々を取り巻く自然環境は、過去から現在まで様々な時間・空間スケールの自然現象が複雑に組み合わさって形成されている。この講義では自然環境の原因・仕組み、さらには人々の生活や文化の背景にある自然環境について関係づけながら解説する。とくに、この講義では地形学の基礎を中心にして、世界・日本、そして九州の各地の事例を取り上げ、地域的・歴史的な幅広い視点から紹介する。

授業計画

- 第1回：授業ガイダンス - 自然地理学の目的と周辺科学
 第2回：地形スケールと年代
 第3回：内作用と外作用
 第4回：プレートテクトニクス(1) - 移動する世界の大陸
 第5回：プレートテクトニクス(2) - 世界と日本の地震分布と仕組み
 第6回：プレートテクトニクス(3) - 九州の大地形と巨大カルデラ群
 第7回：第四紀の環境変動
 第8回：世界・日本の地形(1) - 河川地形1(自然堤防・後背湿地など)
 第9回：世界・日本の地形(2) - 河川地形2(河成段丘)
 第10回：世界・日本の地形(3) - 海岸地形1(海成段丘など)
 第11回：世界・日本の地形(4) - 海岸地形2(さんご礁など)
 第12回：世界・日本の地形(5) - 氷河・周氷地形(カール, モレーンなど)
 第13回：世界・日本の地形(6) - カルスト地形
 第14回：世界・日本の地形(7) - 地すべりと崩壊
 第15回：授業の総括
 定期試験

授業外学習(予習・復習)

予習：配布された資料を事前に目を通し、専門用語などは辞典やインターネットで調べておくこと。
 復習：配布資料やノートを見返すと共に、授業でわからない点などは文献・インターネットで調べておくこと。
 なお、質問は随時受付ける。

教科書

毎回資料を配布する。高校地図帳を必ず持ってくる。配布資料はA4版のファイルやバインダーなどを用意して、各自で整理しておいて下さい。

参考書

授業中に適宜紹介する。

成績の評価基準

期末試験（80％）と授業への取り組む態度や姿勢（20％）を総合的に評価する。

オフィスアワ -

質問等は、授業終了後や研究室にて随時受付ける。

アクティブ・ラーニング

アクティブ・ラーニング（その他の内容）

アクティブ・ラーニング（授業回数）

備考（受講要件）

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード

科目名

地理学実習（旧 フィールド学実習(地理学)）

英語名

Geographical Fieldwork

開講学科

コース

人文学科 新旧共通

比較地域環境コース

授業科目区分

授業形態

単位数

開講期

人文・多元地域文化コース
/ 選択科目

実習

2単位

2～4年

担当教員

連絡先（TEL）

連絡先（MAIL）

吉田 明弘・小林 善仁

099-285-7543

aki tan@leh.kagoshima-u.ac.jp

共同担当教員

前後期

前期

授業概要

地理学の醍醐味は野外実習にあるといっても良い。野外で見られる様々な人文・自然地理学の諸現象の観察やヒヤリングなどを1週間程度の長期エクスカージョンと日帰りのエクスカージョンにて行う。

学修目標

- ・実際の地理学の調査はどのように行われるかを理解することができる。
- ・文献に書かれている事柄が野外ではどのように見られるかを修得することができる。

授業計画

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 事前講習 地域の調査法
- 第3回 事前準備1 対象地域の概括
- 第4回 事前準備2 調査対象の選定と関連文献の収集
- 第5回 事前準備3 調査項目の選定と統計資料の収集・分析
- 第6回 事前準備4 対象地域の地形図判読
- 第7回 野外実習1 対象地域の自然環境の理解
- 第8回 野外実習2 対象地域の人文・社会環境の理解
- 第9回 野外実習3 地域調査に関する基礎的技能の習得
- 第10回 野外実習4 地域調査に関する基礎的技能の実践（景観観察）
- 第11回 野外実習5 地域調査に関する基礎的技能の実践（聞き取り調査）
- 第12回 野外実習6 地域調査に関する基礎的技能の実践（質問票調査）
- 第13回 事後調査1 調査成果の作図・分析
- 第14回 事後調査2 報告書の作成
- 第15回 調査成果報告

授業外学習（予習・復習）

授業時間内に適宜指示する。なお、本授業はエクスカージョン（5～7日間）を実施する。そのため、現地での調査計画や調査準備などの予習が必要である。また、エクスカージョン後における報告書の作成に伴った復習や調査成果の整理を行うこと。

教科書

特になし。

参考書

授業中に適宜紹介する。

成績の評価基準

- 事前学習と野外調査の準備状況ならびに取り組み態度（30%）
- 野外実習への取り組み態度（40%）
- 調査報告（レポート）の作成状況・内容（30%）
- なお、野外実習不参加の場合や調査報告が未提出の場合は、不可とする。

オフィスアワー

質問等は、授業終了後や研究室にて随時受付ける。

アクティブ・ラーニング

グループワーク；ディベート；フィールドワーク；プレゼンテーション；

アクティブ・ラーニング（その他の内容）

アクティブ・ラーニング（授業回数）

15回中15回

備考（受講要件）

この授業と共に、前期に開講される地理学実験（フィールド学実験（地理学））を履修すること。また、自然地理学概説、人文地理学概説などの地理学関係の講義を履修することが望ましい。

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード

FHS-DGH2740

科目名

地理学実験(旧 フィールド学実験(地理学))

英語名

Geographical Experiments

開講学科

コース

人文学科 新旧共通

比較地域環境コース

授業科目区分

授業形態

単位数

開講期

人文・多元地域文化コース
/ 選択科目

実験

2単位

2~4年

担当教員

連絡先(TEL)

連絡先(MAIL)

吉田 明弘・小林 善仁

099-285-7543

aki tan@leh.kagoshima-u.ac.jp

共同担当教員

前後期

前期

授業概要

この実験では、地理学の実践的な調査法を修得することを目的とする。様々な機器を使って以下の作業をすることによって、受講者は地理学の著書や論文がどのような方法・技法で作成されたかを知ることができる。また、地理学関係の卒業論文をまとめるのにも、ここでの調査法の受講は必須条件である。

学修目標

地理学の調査・研究に必要な方法・技法を修得することができる。

授業計画

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 平板測量
- 第3回 水準測量
- 第4回 地形観察
- 第5回 気温観測
- 第6回 地形図判読1 - 地形
- 第7回 地形図判読2 - 土地利用
- 第8回 テフラ分析
- 第9回 空中写真判読1 - 山地
- 第10回 空中写真判読2 - 平野
- 第11回 地形分類図作成
- 第12回 土地利用図作成
- 第13回 花粉分析
- 第14回 地形分類図発表会
- 第15回 まとめ

授業外学習(予習・復習)

予習:各時間で行われる実験,実習の内容を事前に文献等で把握しておくこと。復習:実験・実習で得られた結果を整理し,その意味について文献等で把握すること。

教科書

毎回、プリントを配布する。

参考書

授業のなかで適宜紹介する。

成績の評価基準

授業終了後に,その回の実験結果をまとめたレポートを課す。この実験レポート(70%)と授業へ取り組む態度(30%)を総合的に評価する。なお,実験レポートを未提出の場合は欠席とみなす。

オフィスアワ -

実験終了後,フィールド学実験室にて対応。

アクティブ・ラーニング

その他;

アクティブ・ラーニング(その他の内容)

測量,化学実験,写真判読など

アクティブ・ラーニング（授業回数）

15回中15回

備考（受講要件）

室内での実験と野外での実習は相互に深く関わっている．受講者はフィールド学実習（地理学）を受けることが望ましい．

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
FHS-DGH2213			
科目名			
地理学講義A(旧 テーマ地理学III)			
英語名			
Physical Geography			
開講学科		コース	
人文学科 新旧共通		比較地域環境コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
人文・多元地域文化コース / 選択科目	講義	2単位	2~4年
担当教員		連絡先(TEL)	連絡先(MAIL)
小林善仁		099-285-7557	zenjin@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
		後期	
授業概要			
歴史地理学は、現在の景観を出発点として、過去の地域の仕組みや景観などを考えるものである。本講義では、歴史地理学の問題・関心から研究手法、資料などを概説し、身近な地域である鹿児島(薩摩国・大隅国・鹿児島城下など)や九州各地の事例を日本の他地域の事例と比較しながら、その地域性を考えていく。			
学修目標			
1. 歴史地理学の研究方法を理解できる。 2. 歴史地理学的な問題の発見及びその考察と説明ができる。 3. 鹿児島の歴史地理を理解できる。			
授業計画			
第1回 ガイダンス 第2回 歴史地理学の研究手法1 - 地理学の中での歴史地理学 第3回 歴史地理学の研究手法2 - 地理学の研究視角 第4回 歴史地理学の研究資料1 - 城下町絵図 第5回 歴史地理学の研究資料2 - 旧版地形図 第6回 土地の呼び方1 - 自然地名 第7回 土地の呼び方2 - 人文地名 第8回 土地の呼び方3 - 鹿児島の地名 第9回 近代鹿児島の歴史地理1 - 旧城下町 鹿児島 第10回 近代鹿児島の歴史地理2 - 近代初頭における鹿児島の都市景観 第11回 近代鹿児島の歴史地理3 - 近代鹿児島の商工業 第12回 近代鹿児島の歴史地理4 - 近代鹿児島の交通・観光 第13回 フィールドワーク1 - 上方 第14回 フィールドワーク2 - 下方 第15回 まとめ			
授業外学習(予習・復習)			
講義で配布する資料の内容・図表を熟読し、興味を持った事例は図書・インターネットなどで調べてみて下さい。			
教科書			
とくに無し。			
参考書			
授業中に適宜紹介する。			
成績の評価基準			
レポート(フィールドワーク・期末)、授業への取り組み態度。			
オフィスアワー			
講義・会議の時間以外ならいつでも可。			
アクティブ・ラーニング			
フィールドワーク;			
アクティブ・ラーニング(その他の内容)			

アクティブ・ラーニング(授業回数)

備考(受講要件)

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
FHS-DGH2235			
科目名			
文化人類学演習1			
英語名			
Cultural Anthropology 1			
開講学科		コース	
人文学科 新旧共通		比較地域環境コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
人文・多元地域文化コース / 選択科目	演習	2単位	2～4年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
兼城 系絵		099-285-8902	itokane@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
		前期	
授業概要			
フィールドワーク論に関する本を輪読する。議論を通じて、フィールドワークの方法について学ぶと共に、調査方法のスキルアップを目指す。			
学修目標			
調査対象地域へのアプローチ方法やテーマ設定の仕方を習得する。			
授業計画			
第1回: ガイダンス 第2回: 教員によるレジュメ作成に関するレクチャー 第3回: 文献紹介・コメント・ディスカッション(1) 第4回: 文献紹介・コメント・ディスカッション(2) 第5回: 文献紹介・コメント・ディスカッション(3) 第6回: 文献紹介・コメント・ディスカッション(4) 第7回: 文献紹介・コメント・ディスカッション(5) 第8回: 文献紹介・コメント・ディスカッション(6) 第9回: 文献紹介・コメント・ディスカッション(7) 第10回: 文献紹介・コメント・ディスカッション(8) 第11回: 文献紹介・コメント・ディスカッション(9) 第12回: 文献紹介・コメント・ディスカッション(10) 第13回: 文献紹介・コメント・ディスカッション(11) 第14回: 研究計画に関する議論 (1) 第15回: 研究計画に関する議論 (2)			
進度によって予定を変更することがある。			
授業外学習 (予習・復習)			
予習: 課題本や課題論文を精読すること			
復習: 授業中に提示される参考文献を読むこと			
教科書			
小田博志 2010 『エスノグラフィー入門 <現場>を質的研究する』春秋社。			
参考書			
授業の中に適宜紹介する。			
成績の評価基準			
授業への参加度 (分担発表・議論) により評価。 評価基準はガイダンス時に提示する。			
オフィスアワー			
随時 (事前にアポをとること)			

アクティブ・ラーニング

ディベート; プレゼンテーション; 学習の振り返り(ミニッツ・ペーパー等);

アクティブ・ラーニング(その他の内容)

アクティブ・ラーニング(授業回数)

15回中13回

備考(受講要件)

旧カリキュラム生向けアナウンス: 比較地域環境コース所属生に限る。それ以外のコース所属生で履修を希望する者は、教員と要相談。また、H30年度前期「文化人類学演習」を履修した者は履修にあたって教員と相談すること。

また、manabaを使って課題のやり取りを行うので、各自で利用可能な状態にしておくこと。

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
科目名			
文化人類学演習 1			
英語名			
Cultural Anthropology 1			
開講学科		コース	
人文学科 新旧共通		比較地域環境コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
人文・多元地域文化コース / 選択科目	演習	2単位	2~4年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
兼城系絵		099-285-8902	itokane@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
		後期	
授業概要			
<p>テーマ：戦争記憶論 その2</p> <p>アジア・太平洋戦争から70年以上が経過した現在、戦争を直接経験した世代が少なくなり、当時の状況を知る「生」の声が失われようとしている。それゆえ、近年戦争を知らない世代にいかん戦争の記憶を継承するのが問われている。</p> <p>このような状況を踏まえ、本演習では「戦争」がいかん経験され、記憶され、かつそれがいかん活用（あるいは消費）されてきたのかという問題をとりあげた文献を読んでいく。今年度は特に「記憶」を「遺産」として残す意義について議論をすすめるべく、関連する文献を読み込んでいきたい。</p>			
学修目標			
<ol style="list-style-type: none"> 1. 「記憶論」に関する研究の基本的知識を修得することができる。 2. 自分なりに「記憶」を残す意義や方法について考えることができる。 3. 「記憶」を収集するためのフィールドワークの方法を考えることができる。 			
授業計画			
<p>第1回: ガイダンス</p> <p>第2回: 教員によるレジュメ作成に関するレクチャー、割り振り</p> <p>第3回: 文献紹介・コメント・ディスカッション(1)</p> <p>第4回: 文献紹介・コメント・ディスカッション(2)</p> <p>第5回: 文献紹介・コメント・ディスカッション(3)</p> <p>第6回: 文献紹介・コメント・ディスカッション(4)</p> <p>第7回: 文献紹介・コメント・ディスカッション(5)</p> <p>第8回: 文献紹介・コメント・ディスカッション(6)</p> <p>第9回: 文献紹介・コメント・ディスカッション(7)</p> <p>第10回: 文献紹介・コメント・ディスカッション(8)</p> <p>第11回: 文献紹介・コメント・ディスカッション(9)</p> <p>第12回: 文献紹介・コメント・ディスカッション(10)</p> <p>第13回: 文献紹介・コメント・ディスカッション(11)</p> <p>第14回: 文献紹介・コメント・ディスカッション(12)</p> <p>第15回: 本演習のまとめ</p>			
<p>進度によって予定を変更することがある。</p>			
授業外学習 (予習・復習)			
<p>予習: 課題本や課題論文を精読すること</p> <p>復習: 授業中に提示される参考文献を読むこと</p>			
教科書			
初回講義の際に提示する			
参考書			
初回講義の際に提示する			

成績の評価基準

授業への参加度（発表内容や議論）、レポートにより評価。
評価基準はガイダンス時に提示する。

オフィスアワ -

随時（事前にメール等でアポを取ること）

アクティブ・ラーニング

ディベート；フィールドワーク；プレゼンテーション；

アクティブ・ラーニング（その他の内容）

アクティブ・ラーニング（授業回数）

備考（受講要件）

（1）旧カリキュラム生向け：比較地域環境コース所属生に限る。それ以外のコース所属生で履修を希望する者は、教員と事前に相談すること。

（2）全学生向け：manabaを使って課題のやり取りを行うので、各自で利用可能な状態にしておくこと。

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード

科目名

地理学実習（旧 フィールド学実習(地理学)）

英語名

Geographical Fieldwork

開講学科

コース

人文学科 新旧共通

比較地域環境コース

授業科目区分

授業形態

単位数

開講期

人文・多元地域文化コース
/ 選択科目

実習

2単位

2～4年

担当教員

連絡先（TEL）

連絡先（MAIL）

小林 善仁・吉田 明弘

099-285-7557

zenjin@leh.kagoshima-u.ac.jp

共同担当教員

前後期

後期

授業概要

地理学の醍醐味は野外実習にあるといっても良い。野外で見られる様々な人文・自然地理学の諸現象の観察やヒヤリングなどを1週間程度の長期エクスカージョンと日帰りのエクスカージョンにて行う。

学修目標

- ・実際の地理学の調査はどのように行われるかを理解することができる。
- ・文献に書かれている事柄が野外ではどのように見られるかを修得することができる。

授業計画

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 事前講習 地域の調査法
- 第3回 事前準備1 対象地域の概括
- 第4回 事前準備2 調査対象の選定と関連文献の収集
- 第5回 事前準備3 調査項目の選定と統計資料の収集・分析
- 第6回 事前準備4 対象地域の地形図判読
- 第7回 野外実習1 対象地域の自然環境の理解
- 第8回 野外実習2 対象地域の人文・社会環境の理解
- 第9回 野外実習3 地域調査に関する基礎的技能の習得
- 第10回 野外実習4 地域調査に関する基礎的技能の実践（景観観察）
- 第11回 野外実習5 地域調査に関する基礎的技能の実践（聞き取り調査）
- 第12回 野外実習6 地域調査に関する基礎的技能の実践（質問票調査）
- 第13回 事後調査1 調査成果の作図・分析
- 第14回 事後調査2 報告書の作成
- 第15回 調査成果報告

授業外学習（予習・復習）

授業時間内に適宜指示する。なお、本授業はエクスカージョン（5～7日間）を実施する。そのため、現地での調査計画や調査準備などの予習が必要である。また、エクスカージョン後における報告書の作成に伴った復習や調査成果の整理を行うこと。

教科書

特になし。

参考書

授業中に適宜紹介する。

成績の評価基準

- 事前学習と野外調査の準備状況ならびに取り組み態度（30%）
- 野外実習への取り組み態度（40%）
- 調査報告（レポート）の作成状況・内容（30%）
- なお、野外実習不参加の場合や調査報告が未提出の場合は、不可とする。

オフィスアワ -

質問等は、授業終了後や研究室にて随時受付ける。

アクティブ・ラーニング

グループワーク；ディベート；フィールドワーク；プレゼンテーション；学習の振り返り（ミニッツ・ペーパー等）；その他；

アクティブ・ラーニング（その他の内容）

アクティブ・ラーニング（授業回数）

15回中15回

備考（受講要件）

この授業と共に，前期に開講される地理学実験（フィールド学実験（地理学））を履修すること。また，自然地理学概説，人文地理学概説などの地理学関係の講義を履修することが望ましい。

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
FHS-DGH2230			
科目名			
地理学演習 2 a (旧 地理学演習II)			
英語名			
Geography 2a			
開講学科		コース	
人文学科 新旧共通		比較地域環境コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
人文・多元地域文化コース / 選択科目	演習	2単位	3~4年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
小林 善仁		099-285-7557	zenjin@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
		後期	
授業概要			
受講者が地理学に関する内外の研究論文を収集・整理し、主要論文を読んで発表し、その内容について討議する。これによって、受講者は自分に興味のあるテーマに関する研究の傾向を把握することができる。自分がどのようなテーマで卒業論文をまとめるかを判断する上で、重要な作業である。			
学修目標			
地理学の研究対象・資料と分析視角・方法を理解できる。			
授業計画			
第1回	オリエンテーション		
第2回	事前講習 地理学の研究論文		
第3回	講読論文の選定		
第4回	地形に関する地理学の文献講読・発表と討論		
第5回	気候に関する地理学の文献講読・発表と討論		
第6回	植生に関する地理学の文献講読・発表と討論		
第7回	災害に関する地理学の文献講読・発表と討論		
第8回	人口に関する地理学の文献講読・発表と討論		
第9回	都市に関する地理学の文献講読・発表と討論		
第10回	村落に関する地理学の文献講読・発表と討論		
第11回	農業に関する地理学の文献講読・発表と討論		
第12回	漁業に関する地理学の文献講読・発表と討論		
第13回	交通に関する地理学の文献講読・発表と討論		
第14回	観光に関する地理学の文献講読・発表と討論		
第15回	まとめ		
授業外学習 (予習・復習)			
予習：発表者は事前に発表論文を探し、発表内容をまとめること。他の受講生は発表者より事前に渡された論文コピーを読み、討論内容をまとめておくこと。復習：発表・討論内容にかかわる問題を他の文献やインターネットで調べること。			
教科書			
なし			
参考書			
適宜紹介する。			
成績の評価基準			
授業への取り組み態度			
オフィスアワ -			
演習終了後、フィールド学実験室にて対応。			
アクティブ・ラーニング			
ディベート; プレゼンテーション;			
アクティブ・ラーニング (その他の内容)			

アクティブ・ラーニング (授業回数)

15回中15回

備考 (受講要件)

地理学演習2b (旧 ; 地理学演習?) と深く関連している。受講者は必ず地理学演習?を受講すること。

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
科目名			
社会科学基礎演習（旧 基礎演習）			
英語名			
Preliminary Seminar for Social Science			
開講学科		コース	
法経社会学科（2017年度入学生以降）			
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会・法学コース/選択科目	講義	2単位	1年
担当教員	連絡先（TEL）	連絡先（MAIL）	
伊藤周平			
共同担当教員	前後期 後期		
授業概要			
学修目標			
授業計画			
授業外学習（予習・復習）			
教科書			
参考書			
成績の評価基準			
オフィスアワ -			
アクティブ・ラーニング			
アクティブ・ラーニング（その他の内容）			
アクティブ・ラーニング（授業回数）			
備考（受講要件）			
実務経験のある教員による実践的授業			

ナンバリングコード			
科目名			
社会科学基礎			
英語名			
開講学科		コース	
法経社会学科 (2017年度入学生以降)			
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会学科 / 必修科目	講義	2単位	1年
担当教員	連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)	
松川太一郎	099-285-7601	matsukawa@leh.kagoshima-u.ac.jp	
共同担当教員		前後期	
「授業計画」に記載の法学コース5名、地域社会コース3名、経済コース6名の教員		後期	
授業概要			
法経社会学科のすべての学生を対象としたもので、法学、地域社会、経済の各コースの分野に関連する内容を複数の教員がオムニバス形式で講義する。講義の内容は、コースの各専門分野について入門的・基礎的な内容や考え方、トピックを紹介するもので、受講生はそれぞれの講義を受講することによって各教育コースの特徴を知り、自身の興味・関心のあるテーマを見つけるきっかけを得ることができる。			
学修目標			
1. 社会科学を学ぶ学生として、社会科学の多様な学問分野の導入的知見や基礎的な考え方を幅広く身に付けることができる。			
2. 現代社会の抱える諸問題について関心をもち、様々な社会科学的アプローチによって解決策を考えることができる。			
授業計画			
第1回 (10月4日)	ガイダンス	(経済コース: 松川太一郎)	
第2回 (10月11日)	憲法を学ぶ意義	(法学コース: 大野友也)	
第3回 (10月18日)	税財政法	(法学コース: 鳥飼貴司)	
第4回 (10月25日)	刑事法	(法学コース: 中島宏)	
第5回 (11月1日)	海商法	(法学コース: 松田忠大)	
第6回 (11月8日)	民事裁判権の免除	外国国家を相手に日本の裁判所へ訴えを起こすことは許されるのか? (法学コース: 齋藤善人)	
第7回 (11月22日)	社会学の視点	(地域社会コース: 桑原司)	
第8回 (11月29日)	社会学の研究領域	(地域社会コース: 桑原司)	
第9回 (12月6日)	地域における学びの位相	(地域社会コース: 金子満)	
第10回 (12月13日)	地域計画論	(経済コース: 北崎 浩嗣)	
第11回 (12月20日)	日本経済史	(経済コース: 三浦 壮)	
第12回 (1月10日)	国際経済学	(経済コース: 日野 道啓)	
第13回 (1月16日)	情報マネジメント	(経済コース: 馬場 武)	
第14回 (1月24日)	経営管理論	(経済コース: 王 鏡凱)	
第15回 (1月31日)	財務会計論	(経済コース: 澤田 成章)	
授業外学習 (予習・復習)			
復習: 各回の授業で配布される資料や紹介された参考文献を読んで、当該分野についての知見を深めること。			
教科書			
指定しない。			
参考書			
授業中に適宜指示する。			
成績の評価基準			
毎回の授業の際に提出する小レポートに基づき評価する。			
オフィスアワ -			

アクティブ・ラーニング

学習の振り返り（ミニッツ・ペーパー等）；

アクティブ・ラーニング（その他の内容）

アクティブ・ラーニング（授業回数）

15回中15回

備考（受講要件）

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
FHS-CCD1302			
科目名			
エンドユーザ実習I			
英語名			
End-User Computing I			
開講学科		コース	
法経社会学科 (2017年度入学生以降)			
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会学科 / 必修科目	実習	1単位	1年
担当教員	連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)	
馬場武	099-285-7582	baba@leh.kagoshima-u.ac.jp	
共同担当教員		前後期	
		前期	
授業概要			
エンドユーザとは、ソフトウェアの最終的な使用者のことを意味しています。エンドユーザ実習Iでは、文書作成ソフト (MS Office Word) を使用した演習を通じて、文書作成の基本的な知識や技能について学修します。			
学修目標			
1. 文書作成ソフトの基本的な機能を理解し、目的に合わせて活用することができる。			
2. レポート(論文)の構造と必要な要素を理解し、文書作成ソフトで実現することができる。			
授業計画			
第1回：学術情報基盤センター提供のサービス利用の基礎知識と学内ネットワークについて			
第2回：メールの利用やセキュリティについて			
第3回：文章の入力と効果的なキー操作			
第4回：小テスト(1)【予定】			
第5回：文章の配置			
第6回：文章の装飾			
第7回：表の作成			
第8回：図の作成			
第9回：小テスト(2)【予定】			
第10回：文章のレイアウト			
第11回：レポート(論文)構成の基本			
第12回：スタイルとアウトライン			
第13回：セッション区切り・ページ番号と目次・参考文献一覧の自動生成			
第14回：小テスト(3)【予定】			
第15回：まとめ			
授業外学習 (予習・復習)			
予習：次回授業範囲を教科書で確認してください (30分)。			
復習：授業課題を中心に復習してください (30分)。			
教科書			
『できるWord2016 Windows7/Vista/XP対応』インプレス社			
参考書			
授業内で適宜紹介します。			
成績の評価基準			
授業内で実施する小テストと授業課題を総合的に評価します。			
なお、必修科目および実習科目のため全ての授業に出席することが前提です。3回以上欠席した場合には単位を認めません。			
オフィスアワ -			
メールにてアポイントをとってください。			
アクティブ・ラーニング			
アクティブ・ラーニング (その他の内容)			

アクティブ・ラーニング（授業回数）

15回中15回

備考（受講要件）

学術情報基盤センターの利用証を毎回持参すること。また，必修科目および実習科目なので欠席は厳禁であることに十分留意すること（出校停止や公欠は除く）。

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
FHS-CCD1901			
科目名			
社会科学基礎演習（旧 基礎演習）			
英語名			
Preliminary Seminar for Social Science			
開講学科		コース	
法経社会学科（2017年度入学生以降）			
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会学科 / 必修科目	演習	2単位	1年
担当教員	連絡先（TEL）	連絡先（MAIL）	
王 鏡凱		kyogaiw@leh.kagoshima-u.ac.jp	
共同担当教員		前後期	
		前期	
授業概要			
コーポレート・ファイナンス（経営財務）、経営学、行動経済学に関する問題について様々な角度から討論することにより、資金調達についての理解を深める。テーマごとに担当者が報告を行い、全員で討論する。テーマ等の詳細については受講生と相談の上、決める。			
学修目標			
(1) コーポレート・ファイナンス（経営財務）、経営学、行動経済学の基礎知識を修得し、主な研究手法について理解する。			
(2) 研究手法に沿って資料収集、報告、ディスカッションの仕方を身につける。			
(3) 物事を論理的にかつ直感的に捉える能力を養う。			
授業計画			
第1回 ガイダンス			
第2回～第14回 発表と討論			
第15回 総括			
授業外学習（予習・復習）			
ニュースに目を通す、講義で勉強したものを現実の事例に当てはめる。興味ある企業や就職したい企業に当てはめるのは最も効果的である。			
教科書			
特定の教科書は指定せず、適宜プリントを配布する。			
参考書			
砂川伸幸 『コーポレート・ファイナンス入門<第2版>』 2017年（日経文庫）			
石野雄一 『ざっくり分かるファイナンス 経営センスを磨くための財務』 2007年（光文社）			
白石俊輔 『経済学で出る数学 ワークブックでじっくりせめる』 2013年（日本評論社）			
成績の評価基準			
個々人の努力、発言、発想の転換等を総合的に判断する。			
オフィスアワ -			
特に設けないので、必要な場合は事前にメールでアポイントをとること。			
アクティブ・ラーニング			
アクティブ・ラーニング（その他の内容）			
アクティブ・ラーニング（授業回数）			
備考（受講要件）			
実務経験のある教員による実践的授業			

ナンバリングコード			
FHS-CCD1303			
科目名			
エンドユーザ実習II			
英語名			
End-User Computing II			
開講学科		コース	
法経社会学科 (2017年度入学生以降)			
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会学科 / 必修科目	実習	1単位	1年
担当教員	連絡先 (TEL)		連絡先 (MAIL)
馬場武	099-285-7582		baba@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
		後期	
授業概要			
<p>エンドユーザとは、ソフトウェアの最終的な使用者のことを意味しています。エンドユーザ実習?では、表計算ソフト (MS Office Excel) を使用した演習を通じて、表計算の基本的な知識や技能について学修します。</p>			
学修目標			
<p>1) 表計算の基本技術を習得する。 2) 表計算で表を効率的に作成できる技術を身に着ける。 3) 表計算を修正し、目的にあった表を加工できる技術を身に着ける</p>			
授業計画			
<p>基本的にテキストに沿って、各回に1章を習得するようにする。</p> <p>第1回～第3回 表をつくる 第4回～第6回 計算に基づいた表の作成 第7回～第9回 グラフなどのプレゼンテーション 第10回～第12回 より高度な処理とオプション機能について 第12回～第15回 表計算のマクロ機能と一般理論</p>			
授業外学習 (予習・復習)			
<p>予習：教科書の次回授業範囲を確認する (30分) 復習：授業で実施した範囲をPC上で再度確認する (30分)</p>			
教科書			
『できるExcel2016』インプレス社			
参考書			
なし			
成績の評価基準			
<p>授業内で実施する小テストと授業課題を総合的に評価します。 なお、必修科目および実習科目のため全ての授業に出席することが前提です。3回以上欠席した場合には単位を認めません。</p>			
オフィスアワ -			
機器がないと説明できないため、講義の後、開講教室で受け付けることにします。			
アクティブ・ラーニング			
アクティブ・ラーニング (その他の内容)			
アクティブ・ラーニング (授業回数)			
15回中15回			
備考 (受講要件)			
<p>必修科目および実習科目なので欠席は厳禁であることに十分留意すること (出校停止や公欠は除く)。 実務経験のある教員による実践的授業</p>			

ナンバリングコード			
FHS-CCD1303			
科目名			
エンドユーザ実習II			
英語名			
End-User Computing II			
開講学科		コース	
法経社会学科 (2017年度入学生以降)			
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会学科 / 必修科目	実習	1単位	1年
担当教員	連絡先 (TEL)		連絡先 (MAIL)
下園幸一	099-285-7477		simotozono@cc.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
		後期	
授業概要			
現代社会では、さまざまなビジネスシーンでコンピュータが利用されています。その最も基本となるものが、文書作成、表計算、プレゼンテーションです。本実習では、マイクロソフト社製 Excel を利用し、表計算ソフトの基礎を学びます。			
学修目標			
<ul style="list-style-type: none"> ・マイクロソフト社製 Excel を利用して、表作成、グラフ作成ができる。 ・Excel を利用した簡単なデータベースが作成できる。 ・Excel を利用してデータの分析ができる。 			
授業計画			
第01回 チュートリアル 第02回 Excelの基本 第03回 表のレイアウトと印刷 第04回 Excelでの表計算(1) 第05回 Excelでの表計算(2) 第06回 Excelでの表計算(3) 第07回 Excelでのグラフ作成(1) 第08回 Excelでのグラフ作成(2) 第09回 ワークシート間でのセル参照 第10回 総合練習 第11回 データベース(テーブル) 第12回 その他 Excel の機能 第13回 総合練習 第14回 ピボットテーブル 第15回 総合練習および授業の総括			
授業外学習 (予習・復習)			
<ul style="list-style-type: none"> ・ e-Learning システム上に、授業で使用するスライドおよび課題を事前にアップしています。これを見て予習および復習をしてください。(予習30分、復習30分) 			
教科書			
『できる Excel 2019 Office 2019/Office365両対応』, インプレス社			
参考書			
授業中適宜紹介します			
成績の評価基準			
授業の受講態度(30点)、授業中に作成した課題 (30点)、宿題(40点) (4回以上欠席した学生には単位を認めない)			
オフィスアワ -			
木曜 13:30 ~ 15:30 学術情報基盤センター4F研究室 事前にメールで予定確認を行っておくこと			
アクティブ・ラーニング			

アクティブ・ラーニング（その他の内容）

アクティブ・ラーニング（授業回数）

備考（受講要件）

- ・ 毎回、授業中に作成した課題および宿題をe-Learning システムを利用して提出してもらいます。
- ・ PCを利用するためには「鹿児島大学ID」が必要です。

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
FHS-CCD1303			
科目名			
エンドユーザ実習II			
英語名			
End-User Computing II			
開講学科		コース	
法経社会学科 (2017年度入学生以降)			
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会学科 / 必修科目	実習	1単位	1年
担当教員	連絡先 (TEL)		連絡先 (MAIL)
市川英孝			ichikawa@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
		後期	
授業概要			
<p>表計算ソフトの基本的な技術を習得する。表計算ソフトは、ビジネスではもっとも広く頻繁に使用されているアプリケーションである。</p> <p>受講生は、社会に出た時を想定して受講をする。実践的な実習となる。</p> <p>Excelを利用することで、資料作成が容易にできることを実感し、作業の効率化を図れるようにする。</p>			
学修目標			
<p>1) 表計算の基本技術を習得する。</p> <p>2) 表計算で表を効率的に作成できる技術を身に着ける。</p> <p>3) 表計算を修正し、目的にあった表を加工できる技術を身に着ける</p>			
授業計画			
<p>基本的にテキストに沿って、各回に1章を習得するようにする。</p> <p>第1回 文章の入力</p> <p>第2回 表を作る (1)</p> <p>第3回 表を作る (2)</p> <p>第4回 見た目のよい表を作る (1)</p> <p>第5回 見た目のよい表を作る (2)</p> <p>第6回 計算式を作成する</p> <p>第7回 関数の利用 (1)</p> <p>第8回 関数の利用 (2)</p> <p>第9回 グラフなどのプレゼンテーション (1)</p> <p>第10回 グラフなどのプレゼンテーション (2)</p> <p>第11回 より高度な処理とオプション機能について (1)</p> <p>第12回 より高度な処理とオプション機能について (2)</p> <p>第13回 より高度な処理とオプション機能について (3)</p> <p>第14回 より高度な処理とオプション機能について (4)</p> <p>第15回 最終レポート作成</p>			
授業外学習 (予習・復習)			
<p>Excelでは特に関数について学んでもらいます。予習ではテキストの内容を、復習では毎回の課題を再度実施するように。</p>			
教科書			
『できるExcel 2016 Windows 10/8.1/7対応』インプレス社			
参考書			
なし			
成績の評価基準			
<p>毎回のレポートと最終レポートにより評価。 (4回以上欠席した学生は単位を認めない)</p> <p>授業中に必要な学生についてはタイピングのテストを実施する。詳細は授業中に説明します。</p>			
オフィスアワ -			
<p>機器がないと説明できないため、講義の後で受け付ける。</p>			

アクティブ・ラーニング

アクティブ・ラーニング（その他の内容）

アクティブ・ラーニング（授業回数）

備考（受講要件）

必修科目なので無断欠席は厳禁であることに十分留意すること。なお、成績評価については、授業初回でアナウンスする。

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
FHS-CCD1901			
科目名			
社会科学基礎演習（旧 基礎演習）			
英語名			
Preliminary Seminar for Social Science			
開講学科		コース	
法経社会学科（2017年度入学生以降）			
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会学科 / 必修科目	演習	2単位	1年
担当教員	連絡先（TEL）	連絡先（MAIL）	
山本一哉	099-285-7595	yamamoto@leh.kagoshima-u.ac.jp	
共同担当教員		前後期	
なし		前期	
授業概要			
本演習では、テキストを分担して報告してもらい、その内容について議論を行う。			
学修目標			
1) テキストの読み方を身につける。 2) レジюме（報告内容のまとめ方）を身につける。 3) 資料収集の仕方を身につける。 4) 資料やデータの分析の仕方を身につける。 5) プレゼンテーションのやり方（報告の仕方）を身につける。 6) ディスカッションの仕方を身につける。			
授業計画			
第1回 ガイダンス 第2回～第14回 報告とディスカッション 第15回 まとめ			
授業外学習（予習・復習）			
事前にテキストをしっかりと読んでくること。また復習については、報告者のレジюмеとテキストを読み返すこと。			
教科書			
最初の講義の際に説明する			
参考書			
講義の際に紹介する			
成績の評価基準			
授業への取り組み態度			
オフィスアワー			
曜日・時間：毎週火曜日5限、場所：研究室			
アクティブ・ラーニング			
アクティブ・ラーニング（その他の内容）			
アクティブ・ラーニング（授業回数）			
備考（受講要件）			
特になし			
実務経験のある教員による実践的授業			

ナンバリングコード			
FHS-CCD1901			
科目名			
社会科学基礎演習（旧 基礎演習）			
英語名			
Preliminary Seminar for Social Science			
開講学科		コース	
法経社会学科（2017年度入学生以降）			
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会学科 / 必修科目	演習	2単位	1年
担当教員	連絡先（TEL）	連絡先（MAIL）	
城戸秀之	099-285-7611	kido@leh.kagoshima-u.ac.jp	
共同担当教員		前後期	
		前期	
授業概要			
現代の日本社会を理解するために必要な、戦後日本の経済構造と社会意識の変化についての知識を習得し、現代と比較することから社会認識と問題意識を深める。また、各時間の報告と質疑応答を通して、報告の仕方や自分の意見を持って討論することを身につける。			
学修目標			
1. 自分の考えを発言できる。 2. 他者の発言を聞いて討論できる。 3. テキストを読み、報告資料として整理できる。 4. 自分の関心に仕掛けてデータを集め、報告できる。			
授業計画			
第1回 ガイダンス 授業の進め方の説明、担当決定			
第2回～第9回 発表と討論（テキストをもとに討論をおこなう）			
第10回 中間討論			
第11回～第14回 自由報告			
第15回 まとめ			
授業外学習（予習・復習）			
【予習】次週のテキストを読む。			
【復習】復習レポートを提出する（30分）。			
そのほか授業中に適宜指示をする。			
教科書			
大平健『やさしさの精神病理』（岩波書店 1995年）ほか。			
参考書			
授業中に適宜紹介する。			
成績の評価基準			
平常点（出席、発表、事業態度）			
オフィスアワー			
火曜日3時限（研究室）			
アクティブ・ラーニング			
アクティブ・ラーニング（その他の内容）			
アクティブ・ラーニング（授業回数）			
備考（受講要件）			
基礎演習は各人の意見をふまえた討論でなりたつので、積極的な態度で授業に参加してほしい。			
実務経験のある教員による実践的授業			

ナンバリングコード			
FHS-CCD1302			
科目名			
エンドユーザ実習I			
英語名			
End-User Computing I			
開講学科		コース	
法経社会学科 (2017年度入学生以降)			
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会学科 / 必修科目	実習	1単位	1年
担当教員	連絡先 (TEL)		連絡先 (MAIL)
下園幸一	099-285-7477		simotozono@cc.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
		前期	
授業概要			
現代社会では、さまざまなビジネスシーンでコンピュータが利用されています。その最も基本となるものが、文書作成、表計算、プレゼンテーションです。本実習では、パーソナルコンピュータ操作の基礎を学ぶと共に、マイクロソフト社製 Word を利用し、文書作成の基礎を学びます。			
学修目標			
<ul style="list-style-type: none"> ・マイクロソフト社製 Word によりさまざま文章を作成することができる。 ・パソコンによる文書作成は、どのような利点、欠点があるのかを理解する。 			
授業計画			
第01回 チュートリアル(授業の進め方の説明、学術情報基盤センターについて)			
第02回 Wordの基礎1			
第03回 Wordの基礎2			
第04回 文書の装飾と再利用			
第05回 図の作成			
第06回 表作成			
第07回 文章のレイアウト			
第08回 表作成の練習			
第09回 総合練習1			
第10回 年賀状作成			
第11回 差し込み文書			
第12回 数式の入力			
第13回 章立て、目次の作成			
第14回 総合練習2			
第15回 授業の総括			
授業外学習 (予習・復習)			
・e-Learningシステム上に、授業で利用するスライドや課題を事前にアップしていただきますので、それを見て予習および復習を行ってください(予習30分、復習30分)			
教科書			
『できる Word 2016』, インプレス社			
参考書			
授業中適宜紹介します			
成績の評価基準			
・授業の受講態度(30点)、授業中に作成した課題(40点)、宿題(30点) (4回以上欠席した学生には単位を認めない)			
オフィスアワー			
<ul style="list-style-type: none"> ・基本的にメールでは随時受け付けます。 ・木曜日 13:30 ~ 15:00, 金曜日 13:30 ~ 15:00, 学術情報基盤センター4F研究室 			
アクティブ・ラーニング			
アクティブ・ラーニング (その他の内容)			

アクティブ・ラーニング（授業回数）

備考（受講要件）

- ・毎回、授業中に作成した課題および宿題をe-Learning システム)を利用して提出してもらいます。
- ・PCを利用するためには「鹿児島大学ID」が必要です。

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
FHS-CCD1302			
科目名			
エンドユーザ実習I			
英語名			
End-User Computing I			
開講学科		コース	
法経社会学科 (2017年度入学生以降)			
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会学科 / 必修科目	実習	1単位	1年
担当教員	連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)	
市川英孝			
共同担当教員		前後期	
		前期	
授業概要			
<p>近年、あらゆる職種の企業において、コンピュータは導入されています。『コンピュータなんか嫌い』とは言っていない状況です。ようは『慣れ』です。とにかくパソコンを日常的に使えるというレベルにするのが、この実習です。まずは、コンピュータで動くワープロソフトを使いこなします。授業ではテキストに沿ってその内容を入力したり、いくつかレポートとして自分で「メニュー表」や「パンフレット」等を作成します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・エンドユーザ実習では、Wordというアプリケーションを使って、さまざまな情報通信技術を修得することをめざしている。 ・パソコン初心者が、広いコンピュータの世界に接する機会をつくり、大学生活に必要な技能を学ぶことになる。 			
学修目標			
<ol style="list-style-type: none"> 1. Wordによる詳細な文書の作り方を学ぶ 2. インターネットに関するマナーを修得する 3. パソコン全般の知識を修得する。 			
授業計画			
第1回 学術情報基盤センター利用の基礎知識 第2回 基盤センターでの電子メール利用法 基盤センターでのWEBブラウジング 第3回 日本語入力について 第4回 基本的な文章作成 (1) 第5回 基本的な文章作成 (2) 第6回 基本的な文章作成 (3) 第7回 高度な文章作成 (1) 第8回 高度な文章作成 (2) 第9回 高度な文章作成 (3) 第10回 高度な文章作成 (4) 第11回 高度な文章作成 (5) 第12回 高度な文章作成 (6) 第13回 高度な文章作成 (7) 第14回 高度な文章作成 (8) 第15回 最終レポート作成			
授業外学習 (予習・復習)			
基本的なパソコンの操作を行います。前期終了までにタッチタイピングができるようになってください。そのための自己学習を求めます。			
教科書			
『できるWord 2016 Windows 10/8.1/7対応』インプレス社			
参考書			
授業中適宜紹介します。			
成績の評価基準			
毎回のレポートと最終レポートにより評価。 (4回以上欠席した学生は単位を認めない)			

タイピングのテストを実施する。詳細は授業中に説明します。
オフィスアワ -
機器がないと説明できないため、講義のあと受け付けることにします。
アクティブ・ラーニング
アクティブ・ラーニング（その他の内容）
アクティブ・ラーニング（授業回数）
備考（受講要件）
実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
科目名			
エンドユーザ実習III			
英語名			
End-User Computing III			
開講学科		コース	
法経社会学科 (2017年度入学生以降)			
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会学科 / 必修科目	講義	1単位	1年
担当教員	連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)	
澤田成章	099-285-8888	sawada@leh.kagoshima-u.ac.jp	
共同担当教員	前後期		
	後期		
授業概要			
PowerPointの使い方については、(1)ビジネス目的、(2)アカデミック目的、(3)ポスター・チラシの作成など、様々な目的が存在しうる。こうした目的に応じて適切にスライドのデザインを工夫し、効果的なプレゼンテーションを行う能力を身に付けることが本講義の最終目標となる。			
学修目標			
?パワーポイントの使い方を身に付ける			
?プレゼンテーションの経験を積む			
?TP0に合わせたスライドデザインができるようになる			
授業計画			
第1回：ガイダンス			
第2回：テキスト実習(1)			
第3回：テキスト実習(2)			
第4回：テキスト実習(3)			
第5回：テキスト実習(4)			
第6回：都道府県紹介ポスター制作(1) テーマ決定			
第7回：都道府県紹介ポスター制作(2) データ収集・レイアウト作成			
第8回：都道府県紹介ポスター制作(3) ポスター作製			
第9回：都道府県紹介ポスター発表・グループ分け			
第10回：グループプレゼンテーション制作(1)			
第11回：グループプレゼンテーション制作(2)			
第12回：グループプレゼンテーション制作(3)			
第13回：グループプレゼンテーション制作(4)			
第14回：プレゼンテーション実演(1)			
第15回：プレゼンテーション実演(2)			
授業外学習(予習・復習)			
教科書			
『できる PowerPoint2013』インプレス			
参考書			
成績の評価基準			
ポスター(50%)、グループレポート(50%)の総合評価による。			
オフィスアワ -			
メールにてアポイントメントをお願いします。			
アクティブ・ラーニング			
グループワーク; プレゼンテーション;			
アクティブ・ラーニング(その他の内容)			
アクティブ・ラーニング(授業回数)			

15回中7回

備考（受講要件）

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
科目名			
社会科学基礎演習（旧 基礎演習）			
英語名			
Preliminary Seminar for Social Science			
開講学科		コース	
法経社会学科（2017年度入学生以降）			
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会学科 / 必修科目	演習	2単位	1年
担当教員	連絡先（TEL）	連絡先（MAIL）	
林田吉恵			
共同担当教員		前後期	
		前期	
授業概要			
<p>本演習の目的は、社会科学分野を学習する上で必要な基本的な考え方や方法を学ぶことである。具体的には、文献資料の収集方法、レジュメの作り方、プレゼンテーションの方法等を通して、大学生活において必要なスキルの習得を行う。</p>			
<ol style="list-style-type: none"> 1、グループを決め、研究テーマを設定する。 2、研究テーマについて情報収集して分析をする 3、演習時間ないに報告（プレゼンテーション）、ディスカッションを行う 			
学修目標			
<ol style="list-style-type: none"> 1、文献資料の収集方法を身につける 2、レジュメの作成方法を身につける <p>問題発見能力：わが国における問題を発見する 情報収集能力：必要な情報を収集する 分析能力：データ分析手法を身につける プレゼンテーション能力：分析したことを発表できるようにする ディスカッション能力：議論する力を身につける</p>			
授業計画			
第1回 ガイダンス 自己紹介 第2回～第12回 研究指導、報告、ディスカッション 第13回～第14回 合同ゼミで発表会 第15回 総括			
授業外学習（予習・復習）			
本演習は授業時間外のグループ研究に基づいて進行していくことから、必ず授業外にグループで集まって研究することが必要になる。 （学修に係る標準時間は約2時間）			
教科書			
研究テーマに応じて適宜指定する。			
参考書			
研究テーマに応じて適宜指定する。			
成績の評価基準			
演習中の研究報告およびレポートによって評価する。			
オフィスアワー			
火曜日 必ずメールにて事前連絡をすること			
アクティブ・ラーニング			
アクティブ・ラーニング（その他の内容）			

アクティブ・ラーニング（授業回数）

備考（受講要件）

欠席するときは必ず連絡すること。

無断欠席3回すると、単位認定はしませんので、必ず連絡すること。

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
科目名			
社会科学基礎演習（旧 基礎演習）			
英語名			
Preliminary Seminar for Social Science			
開講学科		コース	
法経社会学科（2017年度入学生以降）			
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会・法学コース/必修科目	演習	2単位	1年
担当教員	連絡先（TEL）	連絡先（MAIL）	
上原大祐	099-285-7626	embryo@leh.kagoshima-u.ac.jp	
共同担当教員	前後期		
	前期		
授業概要			
現代社会で生じている諸問題について様々な角度から討論することにより、現代社会についての理解を深め、その現状と課題について考える。テーマごとに担当者が報告を行い、全員で討論する。テーマ等の詳細については受講生と相談の上、決める。			
学修目標			
(1) 社会問題を法的な視点から検討することができる。 (2) レジユメの書き方を身につける。 (3) 報告の仕方と討論の仕方を身につける。			
授業計画			
第1回 ガイダンス 第2回～第4回 法律系データベースの使い方・資料検索の仕方・レポートの書き方 第5回～第14回 報告と討論 第15回 まとめ			
授業外学習（予習・復習）			
鹿児島地方裁判所、鹿児島刑務所などへの見学を実施することもあります。基礎演習開講時間以外に行くこともありますので、その場合は自由参加となる場合もあります。実施時に別の講義が入っている受講生については、その講義の担当教員宛に「欠席願」を作成します（ただし公欠扱いになるかどうかは当該科目の担当教員次第です）。また見学の際には、「学研災」、「生協」いずれかの保険に加入する必要があります。また、生協の保険加入の際には、大学生協への加入が前提となりますので、滞りなく手続きを済ませておいてください。			
教科書			
西南法学基礎教育研究会『法学部ゼミガイドブック』（法律文化社、2012年）			
参考書			
授業中に適宜、指示します。			
成績の評価基準			
報告、報告レジユメ及び授業への取り組み態度を総合的に評価します。			
オフィスアワ -			
研究室在室時			
アクティブ・ラーニング			
グループワーク；ディベート；プレゼンテーション；			
アクティブ・ラーニング（その他の内容）			
アクティブ・ラーニング（授業回数）			
備考（受講要件）			
1年生については、学籍番号順に担当者を振り当てるので、その担当者について履修を行ってください。 平成24年度入学生より履修は2年生まで、1度きりという制約があります（修学の手引をご覧ください）。しかし、平成23年度以前の入学生については、そのような制約がありませんので、履修年度が1～4年生となっています。			

社会科学基礎演習（旧 基礎演習）とは申せ、この授業は、入学したばかりの1年生に法学コースの学生としての基本的な素養を学んでもらうものですので、平成23年度以前入学の4年生は特に履修を控えてください。2年生以上の学生がこの基礎演習を履修する場合には、掲示された期限までに所定の手続きにしたがい、「なぜ基礎演習の履修を志望したのか」という題目で1500字「以上」のレポートを提出いただいくことになります。その後、教務委員によるレポートの内容についての審査を経て、意欲的であると判断された場合に限り、履修を認めることとなります。履修許可があるまで履修はできません。3年次以上の学生については特に厳格に審査いたします。

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
科目名			
社会科学基礎演習（旧 基礎演習）			
英語名			
Preliminary Seminar for Social Science			
開講学科		コース	
法経社会学科（2017年度入学生以降）			
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会・法学コース/必修科目	演習	2単位	1年
担当教員		連絡先（TEL）	連絡先（MAIL）
鳥飼貴司		099-285-7623	torikai@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
		前期	
授業概要			
現代社会で生じている諸問題について様々な角度から討論することにより、現代社会についての理解を深め、その現状と課題について考える。テーマごとに担当者が報告を行い、全員で討論する。テーマ等の詳細については受講生と相談の上、決める。			
学修目標			
(1)社会問題を法的な視点から検討することができる。 (2)レジュメとレポートの書き方を身につける。 (3)報告の仕方と討論の仕方を身につける。			
授業計画			
第1回 ガイダンス 第2回～第4回 法律系データベースの使い方・資料検索の仕方・レポートの書き方 第5回～第14回 報告と討論 第15回 まとめ			
授業外学習（予習・復習）			
【予習】 報告担当者以外の受講生も、テーマに関する意見や質問を事前に考え、調べておくこと 【復習】 提示されたレジュメ、意見や質問を踏まえて、もう一度テーマ全体について考えること 鹿児島地方裁判所、鹿児島刑務所などへの見学を実施することもあります。基礎演習開講時間以外に行くこともありますので、その場合は自由参加となる場合もあります。実施時に別の講義が入っている受講生については、その講義の担当教員宛に「欠席願」を作成します（ただし公欠扱いになるかどうかは当該科目の担当教員次第です）。 また見学の際には、「学研災」、「生協」いずれかの保険に加入している必要があります。また、生協の保険加入の際には、大学生協への加入が前提となりますので、滞りなく手続きを済ませておいてください。			
教科書			
manabaに講義資料をアップします。			
参考書			
蛭原健介,高橋文彦,畑宏樹（編集）『フレッシューズ法学演習』中央経済社（2016年） 道垣内弘人『プレップ法学を学ぶ前に <第2版>』弘文堂（2017年）			
成績の評価基準			
報告、報告レジュメ及び授業への取り組み態度を総合的に評価します。			
オフィスアワ -			
講義後に話かけるのは自由です。 その他の場合、事前にメールで面会交渉をしてください。			
アクティブ・ラーニング			
グループワーク；ディベート；プレゼンテーション；学習の振り返り（ミニッツ・ペーパー等）； アクティブ・ラーニング（その他の内容）			

アクティブ・ラーニング（授業回数）

15回中15回

備考（受講要件）

1年生については、学籍番号順に担当者を振り当てるので、その担当者について履修を行ってください。
平成24年度入学生より履修は2年生まで、1度きりという制約があります（修学の手引をご覧ください）。しかし、平成23年度以前の入学生については、そのような制約がありませんので、履修年度が1～4年生となっています。

とは申せ、この授業は、入学したばかりの1年生に法政策学科の学生としての基本的な素養を学んでもらうものですので、平成23年度以前入学の4年生は特に履修を控えてください。

2年生以上の学生がこの基礎演習を履修する場合には、掲示された期限までに所定の手続きにしたがい、「なぜ基礎演習の履修を志望したのか」という題目で1500字「以上」のレポートを提出いただいくことになります。その後、教務委員によるレポートの内容についての審査を経て、意欲的であると判断された場合に限り、履修を認めることとなります。履修許可があるまで履修はできません。3年次以上の学生については特に厳格に審査いたします。

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
科目名			
社会科学基礎演習			
英語名			
Preliminary Seminar for Social Science			
開講学科		コース	
法経社会学科 (2017年度入学生以降)			
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会・法学コース / 必修科目	講義	2単位	1年
担当教員	連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)	
阿部純一	099-285-7645	jave@leh.kagoshima-u.ac.jp	
共同担当教員		前後期	
なし		前期	
授業概要			
現代社会で生じている諸問題について様々な角度から討論することにより、現代社会についての理解を深め、その現状と課題について考える。テーマごとに担当者が報告を行い、全員で討論する。テーマ等の詳細については受講生と相談の上、決める。			
学修目標			
(1) 社会問題を法的な視点から検討することができる。 (2) レジュメの書き方を身につける。 (3) 報告の仕方と討論の仕方を身につける。			
授業計画			
第1回 ガイダンス 第2回～第4回 法律系データベースの使い方・資料検索の仕方・レポートの書き方 第5回～第14回 報告と討論 第15回 まとめ			
授業外学習 (予習・復習)			
鹿児島地方裁判所、鹿児島刑務所などへの見学を実施することもあります。基礎演習開講時間以外に行くこともありますので、その場合は自由参加となる場合もあります。実施時に別の講義が入っている受講生については、その講義の担当教員宛に「欠席願」を作成します (ただし公欠扱いになるかどうかは当該科目の担当教員次第です)。 また見学の際には、「学研災」、「生協」いずれかの保険に加入している必要があります。また、生協の保険加入の際には、大学生協への加入が前提となりますので、滞りなく手続きを済ませておいてください。			
教科書			
西南法学基礎教育研究会『法学部ゼミガイドブック』(法律文化社、2012年)			
参考書			
授業中に適宜、指示します。			
成績の評価基準			
報告、報告レジュメ及び授業への取り組み態度を総合的に評価します。			
オフィスアワー			
木曜日 2限 (研究室)			
アクティブ・ラーニング			
グループワーク; ディベート; プレゼンテーション;			
アクティブ・ラーニング (その他の内容)			
アクティブ・ラーニング (授業回数)			
15回中15回			
備考 (受講要件)			
1年生については、学籍番号順に担当者を振り当てるので、その担当者について履修を行ってください。 実務経験のある教員による実践的授業			

ナンバリングコード			
FHS-BBC1301			
科目名			
社会科学基礎演習（旧 基礎演習）			
英語名			
Preliminary Seminar for Social Science			
開講学科		コース	
法経社会学科（2017年度入学生以降）			
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会・法学コース / 必修科目	演習	2単位	1年
担当教員		連絡先（TEL）	連絡先（MAIL）
南由介			minamiy@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
		前期	
授業概要			
現代社会で生じている諸問題について様々な角度から討論することにより、現代社会についての理解を深め、その現状と課題について考える。テーマごとに担当者が報告を行い、全員で討論する。テーマ等の詳細については受講生と相談の上、決める。			
学修目標			
(1)社会問題を法的な視点から検討することができる。 (2)レジュメの書き方を身につける。 (3)報告の仕方と討論の仕方を身につける。			
授業計画			
第1回 ガイダンス 第2回～第4回 法律系データベースの使い方・資料検索の仕方・レポートの書き方 第5回～第14回 報告と討論 第15回 まとめ			
授業外学習（予習・復習）			
鹿児島地方裁判所、鹿児島刑務所などへの見学を実施することもあります。基礎演習開講時間以外に行くこともありますので、その場合は自由参加となる場合もあります。実施時に別の講義が入っている受講生については、その講義の担当教員宛に「欠席願」を作成します（ただし公欠扱いになるかどうかは当該科目の担当教員次第です）。 また見学の際には、「学研災」、「生協」いずれかの保険に加入している必要があります。また、生協の保険加入の際には、大学生協への加入が前提となりますので、滞りなく手続きを済ませておいてください。			
教科書			
西南法学基礎教育研究会『法学部ゼミガイドブック』（法律文化社、2012年）			
参考書			
授業中に適宜、指示します。			
成績の評価基準			
報告、報告レジュメ及び授業への取り組み態度を総合的に評価します。			
オフィスアワー			
研究室在室時			
アクティブ・ラーニング			
グループワーク；ディベート；プレゼンテーション； アクティブ・ラーニング（その他の内容）			
アクティブ・ラーニング（授業回数）			
備考（受講要件）			
1年生については、学籍番号順に担当者を振り当てるので、その担当者について履修を行ってください。 平成24年度入学生より履修は2年生まで、1度きりという制約があります（修学の手引をご覧ください）。しか			

し、平成23年度以前の入学生については、そのような制約がありませんので、履修年度が1～4年生となっています。

とは申せ、この授業は、入学したばかりの1年生に法政策学科の学生としての基本的な素養を学んでもらうものですので、平成23年度以前入学の4年生は特に履修を控えてください。

2年生以上の学生がこの基礎演習を履修する場合には、掲示された期限までに所定の手続きにしたいがい、「なぜ基礎演習の履修を志望したのか」という題目で1500字「以上」のレポートを提出いただたくことになります。その後、教務委員によるレポートの内容についての審査を経て、意欲的であると判断された場合に限り、履修を認めることとなります。履修許可があるまで履修はできません。3年次以上の学生については特に厳格に審査いたします。

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
科目名			
社会科学基礎演習（旧 基礎演習）			
英語名			
Preliminary Seminar for Social Science			
開講学科		コース	
法経社会学科（2017年度入学生以降）			
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会・法学コース/必修科目	演習	2単位	1年
担当教員	連絡先（TEL）	連絡先（MAIL）	
松田忠大			
共同担当教員	前後期		
	前期		
授業概要			
現代社会で生じている諸問題について様々な角度から討論することにより、現代社会についての理解を深め、その現状と課題について考える。テーマごとに担当者が報告を行い、全員で討論する。テーマ等の詳細については受講生と相談の上、決める。			
学修目標			
(1)社会問題を法的な視点から検討することができる。 (2)レジュメの書き方を身につける。 (3)報告の仕方と討論の仕方を身につける。			
授業計画			
第1回 ガイダンス 第2回～第4回 法律系データベースの使い方・資料検索の仕方・レポートの書き方 第5回～第14回 報告と討論 第15回 まとめ			
授業外学習（予習・復習）			
鹿児島地方裁判所、鹿児島刑務所などへの見学を実施することもあります。基礎演習開講時間以外に行くこともありますので、その場合は自由参加となる場合もあります。実施時に別の講義が入っている受講生については、その講義の担当教員宛に「欠席願」を作成します（ただし公欠扱いになるかどうかは当該科目の担当教員次第です）。			
教科書			
西南法学基礎教育研究会『法学部ゼミガイドブック』（法律文化社、2012年）			
参考書			
授業中に適宜、指示します。			
成績の評価基準			
報告、報告レジュメ及び授業への取り組み態度を総合的に評価します。			
オフィスアワ -			
アクティブ・ラーニング			
アクティブ・ラーニング（その他の内容）			
アクティブ・ラーニング（授業回数）			
備考（受講要件）			
1年生については、学籍番号順に担当者を振り当てるので、その担当者について履修を行ってください。 実務経験のある教員による実践的授業			

ナンバリングコード			
FHS-BBB4301			
科目名			
演習II(家族法)(旧 課題研究)			
英語名			
Seminar II:Family Law			
開講学科		コース	
法経社会学科(2017年度入学生以降)			
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法政策学科/必修科目	演習	2単位	4年
担当教員	連絡先(TEL)		連絡先(MAIL)
阿部純一	099-285-7645		jave@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
なし		前期	
授業概要			
報告者の関心に基づいて決定された「家族と法」に関するテーマについて、報告と検討を重ねることで、「課題研究報告書」の作成に向けた準備作業を行う。			
学修目標			
<ul style="list-style-type: none"> ・「家族と法」に関する個別テーマについて理解を深める ・論文執筆の技法を修得する 			
授業計画			
第01回:ガイダンス			
第02回:報告と検討1			
第03回:報告と検討2			
第04回:報告と検討3			
第05回:報告と検討4			
第06回:報告と検討5			
第07回:報告と検討6			
第08回:報告と検討7			
第09回:報告と検討8			
第10回:報告と検討9			
第11回:報告と検討10			
第12回:報告と検討11			
第13回:報告と検討12			
第14回:報告と検討13			
第15回:まとめ			
* 授業計画については、授業の進行状況に応じて若干変更する場合がある。			
授業外学習(予習・復習)			
【予習】報告者以外の者も事前にテーマについて調べ、議論に参加するための準備をすること(45分)			
【復習】授業後に各自で内容を復習すること(1時間)			
教科書			
各自の所有している家族法の教科書を持参すること			
参考書			
授業中に指示する			
成績の評価基準			
授業への出席及び議論への参加状況によって評価する			
オフィスアワー			
木曜日2限(研究室)			
アクティブ・ラーニング			
グループワーク; ディベート; プレゼンテーション;			
アクティブ・ラーニング(その他の内容)			

アクティブ・ラーニング(授業回数)

15回中15回

備考(受講要件)

・履修者には、各テーマについて、議論への積極的な参加が求められる。

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
科目名			
地域社会を学ぶ			
英語名			
Introduction To Community Studies			
開講学科		コース	
法経社会学科 (2017年度入学生以降)			
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会学科 / 選択科目	講義	2単位	1~3年
担当教員	連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)	
金子満	099-285-7598	k-326@leh.kagoshima-u.ac.jp	
共同担当教員		前後期	
城戸秀之、桑原司、片桐資津子、井原慶一郎、本田豊洋、金子満、農中至、酒井佑輔、中島大輔		後期	
授業概要			
住民の生活の場として地域社会を捉え、地域社会コースや法経社会学科での学習の基礎となる、コミュニティ研究の観点からのアプローチと知見を紹介する。地域社会コースの担当教員による総合講義である。			
学修目標			
1. 地域社会について問題意識をもつ 2. 地域社会についてのアプローチについての知識を習得する 3. 現代の地域社会の課題を捉えることができる			
授業計画			
第1回 「地域社会を学ぶ」とは (金子満) 第2回 国際比較の視点から地域社会を学ぶ (社会学 片桐資津子) 第3回 行為の観点から社会を学ぶ (社会学 桑原 司) 第4回 現代社会の視点から地域社会を学ぶ (社会学 城戸秀之) 第5回 社会学からとらえる地域社会 (城戸秀之) 第6回 自治体政策の現状と課題を学ぶ (鹿児島県の施策を中心に) (自治体政策 本田豊洋) 第7回 ヨーロッパとの比較の視点から地域社会を学ぶ (文化研究 中島大輔) 第8回 芸術文化の視点から地域社会を学ぶ (文化研究 井原慶一郎) 第9回 地域社会における自治体政策・文化研究 (本田・中島・井原) 第10回 社会教育・生涯学習を学ぶ1 (原論・制度) (社会教育 農中 至) 第11回 社会教育・生涯学習を学ぶ2 (地域課題・主体形成) (社会教育 金子 満) 第12回 社会教育・生涯学習を学ぶ3 (社会教育計画・方法) (社会教育 金子・農中・酒井) 第13回 社会教育・生涯学習を学ぶ4 (比較社会教育・学習論) (社会教育 酒井佑輔) 第14回 地域社会における社会教育・生涯学習の研究 (まとめ) (金子・農中・酒井) 第15回 地域社会を学ぶ (金子満)			
授業外学習 (予習・復習)			
予習については適宜指示をする。復習として毎回の資料にある参考文献などにより理解を深めること。			
教科書			
授業時間ごとに資料を配付する			
参考書			
授業において適宜紹介する			
成績の評価基準			
授業の際に提出する小レポートに基づき評価する			
オフィスアワ -			
各時間の担当教員に確認すること			
アクティブ・ラーニング			
グループワーク; 学習の振り返り (ミニッツ・ペーパー等);			
アクティブ・ラーニング (その他の内容)			
アクティブ・ラーニング (授業回数)			

15回中14回

備考（受講要件）

2年次に地域社会コースを希望する1年生は受講することが望ましい

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
科目名			
家族社会学			
英語名			
Sociology of the Family			
開講学科		コース	
法経社会学科 (2017年度入学生以降)			
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会学科 / 選択科目	講義	2単位	1~4年
担当教員	連絡先 (TEL)		連絡先 (MAIL)
片桐資津子	なし		katagiri@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
なし		後期	
授業概要			
<p>家族は、私たちにとってきわめて身近な存在である。そんな「家族」は、社会学という学問においてどのように研究されているのか？ それがいいたい私たちの生活や人生にどんなふうに役立つのか？ 経済活動、会社組織、学校、地域社会等とどんな関係があるのか？ 本講義では、家族研究の歴史と現状、そして学問的な見通しを紹介するなかで、こういった受講生の素朴な疑問に答える。</p>			
学修目標			
<p>(1) 研究対象としての家族を理解する。 (2) 家族問題の視点から日本の時事問題に迫る。 (3) 私的な家族の在り方が、実は、軍国主義や経済優先主義といった公的な事柄に規定されていることを知る。 (4) 家族の在り方が社会的要請で決まることを学ぶ。</p>			
授業計画			
<p>第1回：少子社会と家族 第2回：超高齢社会と家族 第3回：家族社会学の学説史の概要(1) 第4回：家族社会学の学説史の概要(2) 第5回：古代の家族と結婚 第6回：中世の家族と結婚 第7回：近世の家族と結婚 歴史人口学の「宗門改帳」のミクロ分析から 第8回：近代化と家族 家長的家族、近代家族、ポスト近代家族 第9回：戦前の家長的家族 イエ・ムラとの関係から 第10回：戦前の家長的家族 軍国主義・富国強兵イデオロギーへの転用 第11回：戦後の近代家族 高度経済成長とフェミニズム 第12回：ポスト近代家族 世帯単位から個人単位へ 第13回：自然村と同族団 日本人の規範 第14回：社会的ネットワークと家族 ボット論文とアジアの家族の紹介 第15回：日米国際比較からみる家族 日本の家族の独自性を探る</p>			
授業外学習 (予習・復習)			
<p>〔予習〕前週に配付された次回のプリントをみて、流れをつかむ。知らない言葉等を事前に調べる。 〔復習〕manabaに更新されたプリントを閲覧し、知識の定着をはかる。</p>			
教科書			
テキストは使用しない。毎回、未完成のプリントを配付する。			
参考書			
適宜、授業中に紹介する。			
成績の評価基準			
授業への取り組み態度 (25%)、中間報告書 (30%)、期末試験 (45%) による。			
オフィスアワー			
木曜日の4時限目、研究室にて。			
アクティブ・ラーニング			

その他;

アクティブ・ラーニング(その他の内容)

期間中, 4回程度, 近所の受講生と話し合ってもらい, 出席レポートを提出してもらいます

アクティブ・ラーニング(授業回数)

15回中4回

備考(受講要件)

なし

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
科目名			
司法制度論			
英語名			
Judicial System			
開講学科		コース	
法経社会学科 (2017年度入学生以降)			
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会学科 / 選択科目	講義	2単位	1~4年
担当教員	連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)	
上原大祐	099-285-7626	embryo@leh.kagoshima-u.ac.jp	
共同担当教員		前後期	
		前期	
授業概要			
法学を学ぶ上での基礎的知識となる、現代日本における裁判の仕組みについて概観する。			
学修目標			
裁判の仕組みについて学び、紛争解決の役割を担う司法について、大まかなイメージを得る。			
授業計画			
第1回 ガイダンス 法と裁判の役割			
第2回 法と裁判の種類			
第3回 裁判所制度			
第4回 法律家の役割			
第5回 民事裁判・壹 (民事訴訟の基本構造)			
第6回 民事裁判・貳 (民事裁判手続の概要)			
第7回 家事裁判			
第8回 行政裁判			
第9回 刑事裁判・壹 (刑事裁判手続の概要)			
第10回 刑事裁判・貳 (刑事裁判における諸問題)			
第11回 憲法裁判			
第12回 裁判を受ける権利			
第13回 国民の司法参加			
第14回 司法制度改革			
第15回 まとめ			
その他、適宜ゲストスピーカーによる講義を行う場合もある。			
授業外学習 (予習・復習)			
積み重ね式の知識の修得となるため、特に復習が必要である。毎回の講義の後に、復習をして知識を定着させておくことが望ましい(30分程度)。			
教科書			
授業において適宜資料を配布する。			
参考書			
成績の評価基準			
期末試験			
オフィスアワー			
研究室在室時、適宜対応。			
アクティブ・ラーニング			
学習の振り返り (ミニッツ・ペーパー等) ;			
アクティブ・ラーニング (その他の内容)			
アクティブ・ラーニング (授業回数)			

備考（受講要件）

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
FHS-BBC1301			
科目名			
社会科学基礎演習（旧 基礎演習）			
英語名			
Preliminary Seminar for Social Science			
開講学科		コース	
法経社会学科（2017年度入学生以降）		法学コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会・法学コース/必修科目	演習	2単位	1年
担当教員		連絡先（TEL）	連絡先（MAIL）
大野友也		099-285-7640	onotomoy@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
		前期	
授業概要			
現代社会で生じている諸問題について様々な角度から討論することにより、現代社会についての理解を深め、その現状と課題について考える。テーマごとに担当者が報告を行い、全員で討論する。テーマ等の詳細については受講生と相談の上、決める。			
学修目標			
(1)社会問題を法的な視点から検討することができる。 (2)レジュメの書き方を身につける。 (3)報告の仕方と討論の仕方を身につける。			
授業計画			
第1回 ガイダンス 第2回～第4回 法律系データベースの使い方・資料検索の仕方・レポートの書き方 第5回～第14回 報告と討論 第15回 まとめ			
授業外学習（予習・復習）			
【予習】講義の一週間前に配布する予告レジュメ・資料を読んでおくこと（30分程度） 【復習】講義で配布したレジュメを再読し、論点について再考すること（60分程度）			
【課外活動】鹿児島地方裁判所、鹿児島刑務所などへの見学を実施することもあります。基礎演習開講時間以外に行くこともありますので、その場合は自由参加となる場合もあります。実施時に別の講義が入っている受講生については、その講義の担当教員宛に「欠席願」を作成します（ただし公欠扱いになるかどうかは当該科目の担当教員次第です）。 また見学の際には、「学研災」、「生協」いずれかの保険に加入している必要があります。また、生協の保険加入の際には、大学生協への加入が前提となりますので、滞りなく手続きを済ませておいてください。			
教科書			
西南法学基礎教育研究会『法学部ゼミガイドブック』（法律文化社、2012年）			
参考書			
授業中に適宜、指示します。			
成績の評価基準			
報告、報告レジュメ及び授業への取り組み態度を総合的に評価します。			
オフィスアワー			
火曜5限目（研究室）			
アクティブ・ラーニング			
グループワーク；ディベート；プレゼンテーション；			
アクティブ・ラーニング（その他の内容）			
アクティブ・ラーニング（授業回数）			
15回中15回			
備考（受講要件）			

学籍番号順に担当者を振り当てるので、その担当者について履修を行ってください。

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
科目名			
社会科学基礎演習（旧 基礎演習）			
英語名			
Preliminary Seminar for Social Science			
開講学科		コース	
法経社会学科（2017年度入学生以降）		法学コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会・法学コース/必修科目	演習	2単位	1年
担当教員	連絡先（TEL）	連絡先（MAIL）	
米田憲市	099-285-7569	kenyone@leh.kagoshima-u.ac.jp(subject欄に、科目名、氏名、学籍番号を必ず記載すること)	
共同担当教員		前後期	
		前期	
授業概要			
現代社会で生じている諸問題について様々な角度から討論することにより、現代社会についての理解を深め、その現状と課題について考える。テーマごとに担当者が報告を行い、全員で討論する。テーマ等の詳細については受講生と相談の上、決める。			
学修目標			
(1)社会問題を法的な視点から検討することができる。 (2)レジュメの書き方を身につける。 (3)報告の仕方と討論の仕方を身につける。			
授業計画			
第1回 ガイダンス 第2回～第4回 法律系データベースの使い方・資料検索の仕方・レポートの書き方 第5回～第14回 報告と討論 第15回 まとめ			
授業外学習（予習・復習）			
【予習】講義の一週間前に配布する予告レジュメ・資料を読んでおくこと（30分程度） 【復習】講義で配布したレジュメを再読し、論点について再考すること（60分程度） 【課外活動】鹿児島地方裁判所、鹿児島刑務所などへの見学を実施することもあります。基礎演習開講時間以外に行くこともありますので、その場合は自由参加となる場合もあります。実施時に別の講義が入っている受講生については、その講義の担当教員宛に「欠席願」を作成します（ただし公欠扱いになるかどうかは当該科目の担当教員次第です）。 また見学の際には、「学研災」、「生協」いずれかの保険に加入している必要があります。また、生協の保険加入の際には、大学生協への加入が前提となりますので、滞りなく手続きを済ませておいてください。			
教科書			
西南法学基礎教育研究会『法学部ゼミガイドブック』（法律文化社、2012年）			
参考書			
授業中に適宜、指示します。			
成績の評価基準			
報告、報告レジュメ及び授業への取り組み態度を総合的に評価します。			
オフィスアワ -			
アクティブ・ラーニング			
グループワーク；ディベート；プレゼンテーション； アクティブ・ラーニング（その他の内容）			
アクティブ・ラーニング（授業回数）			
15回中15回			

備考（受講要件）

学籍番号順に担当者を振り当てるので、その担当者について履修を行ってください

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
FHS-BBC2337			
科目名			
法学の基礎			
英語名			
Introduction to Law			
開講学科		コース	
法経社会学科 (2017年度入学生以降)		法学コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会学科 / 選択科目	講義	2単位	1~4年
担当教員	連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)	
松田忠大、阿部純一			
共同担当教員		前後期	
		前期	
授業概要			
この授業では、法律学の初学者向けにその入門的な講義を行う。法律学を学ぶにあたって、必要となる基礎的事項を講義するとともに、法の概念およびその目的を踏まえ、法がいかなる効力を有し、現実の社会においてどのように機能するのかについて講義する。また、第10回以降は各論として、私法分野の基本的な事項について具体例を挙げつつ講義する。			
学修目標			
(1) 法律学を学ぶために必要な基礎知識の定着をはかる。 (2) 法的な思考方法、表現方法を身につける。 (3) 私法の基本構造を理解する。			
授業計画			
第1回 ガイダンス (阿部純一、松田忠大) 第2回 法規の構造と条文の読み方 (松田忠大) 第3回 法の概念 (松田忠大) 第4回 法の構造 (松田忠大) 第5回 法の目的と使命 (松田忠大) 第6回 法の効力 (松田忠大) 第7回 法の分類 (松田忠大) 第8回 法の運用1 (法解釈の必要性和法の執行・適用) (松田忠大) 第9回 法の運用2 (法解釈の手法) (松田忠大) 第10回 私法入門1 (法体系の中の私法の位置づけ、私法の世界) (阿部純一) 第11回 私法入門2 (私法の基本原則) (阿部純一) 第12回 私法入門3 (私法と法の解釈、日本における私法の歴史) (阿部純一) 第13回 私法入門4 (民事裁判の概要) (阿部純一) 第14回 私法入門5 (私法の主体としての「人」1: 権利能力、意思能力) (阿部純一) 第15回 私法入門6 (私法の主体としての「人」2: 行為能力と制限行為能力者制度) (阿部純一)			
授業外学習 (予習・復習)			
予習として、教科書の該当箇所を読み、自らの疑問点を明確にした上で講義を受講すること。			
教科書			
岩志和一郎編著『新版 法学の基礎』(成文堂、2010年)			
参考書			
潮見佳男=道垣内弘人編『民法判例百選1 総則・物権(第8版)』(有斐閣、2018年)			
成績の評価基準			
授業への出席(20%)及び期末試験の結果(80%)によって評価する			
オフィスアワー			
主に授業後の次の時限に実施する。			
アクティブ・ラーニング			
学習の振り返り(ミニッツ・ペーパー等);			
アクティブ・ラーニング(その他の内容)			

アクティブ・ラーニング（授業回数）

15回中14回

備考（受講要件）

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
科目名			
エンドユーザ実習III			
英語名			
End-User Computing III			
開講学科		コース	
法経社会学科 (2017年度入学生以降)		地域社会コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会学科 / 必修科目	講義	1単位	1年
担当教員	連絡先 (TEL)		連絡先 (MAIL)
農中至	0992857603		nounaka@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
		後期	
授業概要			
現代社会において求められる能力のなかに、プレゼンテーション能力がある。これは大学内外、就労の場において必須の力である。本授業では、パワーポイント (マウロソフト) の基本的な操作およびパワーポイントの機能について学習し、プレゼンテーション能力の向上において必要なことを理解する。			
学修目標			
パワーポイントによるプレゼンテーションの方法を身につけ、人に伝わるプレゼンテーションとはなにかについて理解できるようになる。			
授業計画			
<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. パワーポイントはどこが便利なのか 3. プレゼンテーションの方法 4. プレゼンテーションはなんのための手段なのか 5. いいプレゼンテーションとはなにか 6. プレゼンテーションの準備 なにをプレゼンテーションするのか 7. プレゼンテーションの準備 どうプレゼンテーションするのか 8. プレゼンテーションの問題点とはなにか 9. 中間まとめ 10. プレゼンテーションをしてみる よりよいプレゼンテーションを目指して 11. プレゼンテーションをしてみる よくないプレゼンテーションの理解する 12. グループプレゼンテーション1 グループによる報告 13. グループプレゼンテーション2 グループによる報告と討議 14. プレゼンテーションにおいてパワーポイントはなぜ役に立つといえるのか 15. プレゼンテーションとパワーポイントのこれから 			
授業外学習 (予習・復習)			
TEDなどのプレゼンテーション番組は巷に溢れています。大切なことを人に伝え、自分の大切なことを理解してもらうためにはなにが重要な要素となってくるのか、大手動画サイトなどで情報収集に努めてください (予習・復習)。また、伝えるべき情報をいかに興味を持って聞いてもらうかという観点から、ドキュメンタリ番組 (viceなどのデジタルメディア) などの視聴・分析も進めてください (予習・復習)。さらに、実際にプレゼンテーションをおこなった際には、必ず振り返りを忘れずに進めるようにしてください (復習)。			
教科書			
授業中に提示			
参考書			
上野千鶴子『情報生産者になる』ちくま新書、2018			
成績の評価基準			
授業への参加・参画状況 (20%) 授業後のレポート (50%) プレゼンテーション (30%)			
オフィスアワ -			
随時対応します。			
アクティブ・ラーニング			

グループワーク;

アクティブ・ラーニング(その他の内容)

アクティブ・ラーニング(授業回数)

15回中8回を予定

備考(受講要件)

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
科目名			
社会科学基礎演習（旧 基礎演習）			
英語名			
Preliminary Seminar for Social Science			
開講学科		コース	
法経社会学科（2017年度入学生以降）		地域社会コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会学科 / 必修科目	演習	2単位	1年
担当教員	連絡先（TEL）		連絡先（MAIL）
桑原司			kuwa3@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
		前期	
授業概要			
レジュメの作成方法を指導する。 プレゼンテーションの方法を指導する。 社会科学（中でも社会学）の発想について解説する。			
学修目標			
適切なレジュメを作成できるようになる。 適切にプレゼンテーションを行うことができるようになる。 社会科学的な思考方法が身につく。			
授業計画			
第1回 ガイダンス			
第2回 社会学とは何か			
第3回 行為論の世界			
第4回 相互作用論の世界			
第5回 集団論の世界			
第6回 社会の構造			
第7回 全体としての社会			
第8回 社会の変動			
第9回 社会学アラカルト			
第10回 社会学のあゆみ			
第11回 グループ分け、各グループの課題設定			
第12回 仮設形成			
第13回 資料収集			
第14回 仮説検証・資料増補			
第15回 各グループの報告（発表）			
授業外学習（予習・復習）			
<ul style="list-style-type: none"> ・報告担当者は、レジュメを作成し「授業の前日」までに桑原までメール添付で提出すること。 ・報告担当者以外の受講者は、当該授業日の該当箇所の予習を必ず行っておくこと。 			
教科書			
森下伸也（2000）『社会学がわかる事典』日本実業出版社。 必ず生協書籍部で購入のこと（既に人数分手配済み）。			
参考書			
久恒啓一（2010）『図解で身につく！ドラッカーの理論』[https://archive.is/ZKLZo]。			
成績の評価基準			
<ul style="list-style-type: none"> ・レジュメの完成度 ・プレゼンテーションの適切さ ・上記以外の授業への取り組み、態度 			
オフィスアワ -			

授業後

アクティブ・ラーニング

グループワーク；プレゼンテーション；

アクティブ・ラーニング（その他の内容）

アクティブ・ラーニング（授業回数）

14回

備考（受講要件）

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
FHS-CCD1901			
科目名			
社会科学基礎演習（旧 基礎演習）			
英語名			
Preliminary Seminar for Social Science			
開講学科		コース	
法経社会学科（2017年度入学生以降）		地域社会コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会学科 / 必修科目	演習	2単位	1年
担当教員	連絡先（TEL）	連絡先（MAIL）	
片桐資津子		katagiri@leh.kagoshima-u.ac.jp	
共同担当教員		前後期	
なし		前期	
授業概要			
<p>高校までの授業では、学校側が作った問題を解くことに力点が置かれていたが、大学では、学生が自ら問題を出したうえで、解決に向けて複数の案を導き出すことが要請される。本基礎演習では、この点を認識し、問題発見能力を習得することを目指す。</p> <p>この演習では、少子高齢化の社会問題を素材に、テキストを輪読する。まずは各自、予習で、自分で考えた問いを準備する。そして基礎演習では、グループごとに問いを出して、グループ成員が協力して解決策を話し合うことになる。受け身の姿勢が許されない、全員参加型の授業である。</p>			
学修目標			
(1) 時事問題に敏感になる。 (2) 読解力を身につける（input）。 (3) 思考力を身につける（process）。 (4) 表現力を身につける（output）。 (5) 文献収集力・情報収集力を獲得する。			
授業計画			
第1回 オリエンテーション 第2～14回 テキストを素材にレジュメ発表と討論 第15回 まとめ			
授業外学習（予習・復習）			
必要に応じて、適宜指示する。			
教科書			
講義時まで知らせる。			
参考書			
適宜、授業中に指示する。			
成績の評価基準			
授業への取り組み態度（100%）			
オフィスアワー			
火曜日の4時限目、研究室にて。			
アクティブ・ラーニング			
グループワーク；ディベート；学習の振り返り（ミニッツ・ペーパー等）；			
アクティブ・ラーニング（その他の内容）			
アクティブ・ラーニング（授業回数）			
15回中15回			
備考（受講要件）			
無断欠席、厳禁。			
実務経験のある教員による実践的授業			

ナンバリングコード			
科目名			
エンドユーザ実習III			
英語名			
End-User Computing III			
開講学科		コース	
法経社会学科 (2017年度入学生以降)		地域社会コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会学科 / 必修科目	演習	1単位	1年
担当教員	連絡先 (TEL)		連絡先 (MAIL)
酒井佑輔	099-285-7292		sakai@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
		後期	
授業概要			
<p>2年次以降の演習や卒業後の職場等での業務において、プレゼンテーションをする機会が多い。プレゼンテーションでしばしば用いるソフトとして、Microsoft社のPowerPointがある。そこで本実習では、PowerPointの使い方を身に付け、実際にプレゼンテーションしてもらいプレゼンテーション能力を向上させることを目標とする。また、メールの送り方やプレゼンテーションのマナー、質疑応答の方法を学ぶことで、社会人としての基礎的な素養を身に付けることができる。</p>			
学修目標			
<p>1. Microsoft社のPowerPointの操作方法を身に付ける。 2. プレゼンテーションの技法を身に付ける。 3. 社会人としての基礎的な素養を身に付ける。</p>			
授業計画			
<p>第1回 オリエンテーション 第2回 プレゼンテーション準備 第3回 紙芝居プレゼンテーション 第4回 プレゼンテーション準備 第5回 紙芝居プレゼンテーション 第6回 プレゼンテーション準備 第7回 紙芝居プレゼンテーション 第8回 プレゼンテーション準備 第9回 PPTを用いたプレゼンテーション 第10回 プレゼンテーション準備 第11回 PPTを用いたプレゼンテーション 第12回 プレゼンテーション準備 第13回 PPTを用いたプレゼンテーション 第14回 PPTを用いたプレゼンテーション 第15回 まとめ+最終レポート</p>			
授業外学習 (予習・復習)			
予習：プレゼンテーション前には予行練習をする必要がある。			
教科書			
なし。			
参考書			
<ul style="list-style-type: none"> ・井上香緒里『できるPowerPoint 2013』インプレス、2013 ・川嶋直『KP法 シンプルに伝える紙芝居プレゼンテーション』みくに出版、2013 			
成績の評価基準			
授業への取り組み態度 (40点) + プレゼンテーション (40点) + レポート (20点)			
オフィスアワ -			
メール等で事前に連絡があれば随時対応。			
アクティブ・ラーニング			
グループワーク；プレゼンテーション；学習の振り返り (ミニッツ・ペーパー等)；			

アクティブ・ラーニング（その他の内容）

アクティブ・ラーニング（授業回数）

全て

備考（受講要件）

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
科目名			
社会教育実習Ⅳ			
英語名			
Practical of Social Education Ⅳ			
開講学科		コース	
法経社会学科 (2017年度入学生以降)		地域社会コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会・地域社会コース / 選択科目	実習	1単位	3～4年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
金子満		099-285-7598	k-326@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
		後期	
授業概要			
教育基本法第13条を根拠に、学区を中心とした地域の文化や歴史を教育活動にとりいれたり、保護者・地域住民・地域組織と連携する取り組みが広がっている。本講義では、上記のような取り組みについて、「政策動向」を踏まえつつ、具体的な活動に参加しながらそれらの活動の意義や問題点について理解を深める。			
学修目標			
1、近年における校区コミュニティを取り巻く社会状況について理解する 2、校区コミュニティを核とした社会教育実践について理解を深める 3、具体的に校区コミュニティ活動に参加し、課題や展望について明らかにできるようにする			
授業計画			
1、オリエンテーション 2、校区を取り巻く社会状況についての理解 3、校区コミュニティに対する政策動向についての整理 4 - 7、校区コミュニティの選定と調査の準備 8 - 14、校区コミュニティ活動への参加 (調査) 15、まとめ			
授業外学習 (予習・復習)			
講義内で課題を提示する			
教科書			
講義内で指示			
参考書			
成績の評価基準			
出席 20% 授業態度 30% レポート 50%			
オフィスアワー			
随時			
アクティブ・ラーニング			
フィールドワーク;			
アクティブ・ラーニング (その他の内容)			
アクティブ・ラーニング (授業回数)			
7回			
備考 (受講要件)			
実務経験のある教員による実践的授業			

ナンバリングコード			
科目名			
社会科学基礎演習（旧 基礎演習）			
英語名			
Preliminary Seminar for Social Science			
開講学科		コース	
法経社会学科（2017年度入学生以降）		経済コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会学科 / 必修科目	演習	2単位	1年
担当教員	連絡先（TEL）	連絡先（MAIL）	
日野道啓		hino@leh.kagoshima-u.ac.jp	
共同担当教員	前後期		
なし	前期		
授業概要			
大学での学習に必要な基礎的な考え方や能力を習うことを目的とする。主として「スタディスキル」の基礎学習を目的とし、「ソーシャルスキル」の確認および獲得を副次的な目的とする。			
学修目標			
1. 文献資料の収集ができるようになる。 2. レジユメを作成できるようになる。 3. クリティカルシンキングについて理解できる。 4. プレゼンテーションおよび討論の仕方について理解できる。			
授業計画			
第1回：ガイダンス/自己紹介（1） 第2回：自己紹介（2） 第3回：文献資料の収集方法（1） 第4回：文献資料の収集方法（2） 第5回：文献資料の収集方法（3） 第6回：発表と質問（1） 第7回：発表と質問（2） 第8回：クリティカルシンキングを学ぶ（1） 第9回：クリティカルシンキングを学ぶ（2） 第10回：クリティカルシンキングを学ぶ（3） 第11回：輪読と報告（1） 第12回：輪読と報告（2） 第13回：輪読と報告（3） 第14回：輪読と報告（4） 第15回：輪読と報告（5）			
授業外学習（予習・復習）			
必要に応じて適宜指示をする。			
教科書			
講義中に指定する			
参考書			
とくになし			
成績の評価基準			
出席・報告内容（レジユメ作成・プレゼンテーション）・討論への積極性を総合的に判断する。			
オフィスアワ -			
火曜日・4限目			
アクティブ・ラーニング			
グループワーク；ディベート；プレゼンテーション；			
アクティブ・ラーニング（その他の内容）			
アクティブ・ラーニング（授業回数）			

15回中14回

備考（受講要件）

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード

科目名

社会科学基礎演習（旧 基礎演習）

英語名

Preliminary Seminar for Social Science

開講学科

法経社会学科（2017年度入学生以降）

コース

経済コース

授業科目区分

法経社会学科 / 必修科目

授業形態

演習

単位数

2単位

開講期

1年

担当教員

松川 太郎

連絡先（TEL）

連絡先（MAIL）

matsukawa@leh.kagoshima-u.ac.jp

共同担当教員

前後期

前期

授業概要

文章の論理をその形式から読み取る方法を学び、実際にその方法を使って論理を正確に理解することを演習する。また、思考の形式について、平易に解説した資料に基づいて学び、実際にその形式を使って物事を考えてみる。

毎回、事前に課題を出すので、その出来に応じた指導を行う。したがって、課題提出が受講の前提である。

学修目標

- 1) 文章の論理を、形式から正確に読み取る。
- 2) 本の読み方を身につける。
- 3) 議論の仕方を身につける。
- 4) 思考の方法論に触れる。

授業計画

教科書の各章を下記のように分割して、授業概要に挙げた事項を演習する。

- 第1回 「論理トレーニング」と「国語」教育
- 第2回 「生活の中の論理」
- 第3回 「対」と「言い換え」(1)
- 第4回 「対」と「言い換え」(2)
- 第5回 「比較」と「譲歩」(1)
- 第6回 「比較」と「譲歩」(2)
- 第7回 「分類」と「矛盾」(1)
- 第8回 「分類」と「矛盾」(2)
- 第9回 「分類」と「矛盾」(3)
- 第10回 「媒介」(1)
- 第11回 「媒介」(2)
- 第12回 「媒介」(3)
- 第13回 文の流れ[文脈]を読む(1)
- 第14回 文の流れ[文脈]を読む(2)
- 第15回 文の流れ[文脈]を読む(3)

授業外学習（予習・復習）

第1回を除いて、毎回、事前に課題プリントを渡す。課題をといて、日曜日までに経済統計論研究室（法文学部1号館5階エレベーターを出て正面）入口にて提出すること。締め切り厳守のこと。遅れた提出は原則として受け付けない。

教科書

中井浩一『正しく読み、深く考える 日本語論理トレーニング』講談社現代新書、2009年。

参考書

プリントを毎回配布する。

成績の評価基準

課題の出来具合と演習時間中のパフォーマンスを総合評価する。

オフィスアワ -

水曜 1 限 経済統計論研究室

アクティブ・ラーニング

その他；

アクティブ・ラーニング（その他の内容）

課題プリントによる学習事項の実践。

アクティブ・ラーニング（授業回数）

14回

備考（受講要件）

授業の第1回時には、あらかじめ教科書の第1～2章を読んでおくこと。

課題を毎回提出すること。

部活動の試合等で演習に出席できない場合でも、課題だけは提出のこと。

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
FHS-CCD1302			
科目名			
エンドユーザ実習I			
英語名			
End-User Computing I			
開講学科		コース	
法経社会学科 (2017年度入学生以降)		経済コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会学科 / 必修科目	実習	1単位	1年
担当教員	連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)	
萩野誠	7605	mhagino@leh.kagoshima-u.ac.jp	
共同担当教員		前後期	
		前期	
授業概要			
<p>コンピュータを学習に本格的に使い出すのは、大学生になってからです。 エンドユーザという表現は、仕事等でパソコンを使っている人のことを意味します。 講義では、エンドユーザとして、社会にでるために、必要なスキルを身につけます。</p>			
学修目標			
<p>学術情報基盤センターの学生へ対するサービスを理解し、利用できるようになる。 パソコンのアプリケーションの代表であるWordを通じて、スキルの大切さを理解し、修得する。</p>			
授業計画			
<ol style="list-style-type: none"> 1. エンドユーザとは何か：学生として、社会人としてのスキル 2. インターネット関連ソフトの使い方：メール：セキュリティについて 3. Wordを通じてみるパソコンの特徴：日本語入力 (これ以降は教科書にしたがって授業をします。) 4. 小テスト(1) 5. 簡単な文書作成(1)：文章の配置と印刷 6. 簡単な文書作成(2)：文字の修飾 7. 簡単な文書作成(3)：表について 8. 簡単な文書作成(4)：図の作成 9. 簡単な文書作成(5)：基本的な文書レイアウト 10. 小テスト(2) 11. レポートの作成(1)：アウトライン 12. レポートの作成(2)：参考文献と引用 13. レポートの作成(3)：目次とセッション 14. レポートの作成(4)：よりよいレポートを書くために 15. 小テスト(3) 16. まとめ：コンピュータと生活する方法 			
授業外学習 (予習・復習)			
<p>適時指導しますが、とくに復習は必ず技能をマスターしてください。 予習：課題をだすので、調べること。(30分) 復習：実際のデータを使って書くにすること(30分)</p>			
教科書			
<p>できるWord 2013 Windows 10/8.1/7対応 大学生協で販売している</p>			
参考書			
なし			
成績の評価基準			
小テスト(1)：30点、小テスト(2)：30点、小テスト(3)：40点			
オフィスアワ -			
授業終了後、センターでおこなう			
アクティブ・ラーニング			

アクティブ・ラーニング（その他の内容）

アクティブ・ラーニング（授業回数）

15回中0回

備考（受講要件）

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
科目名			
社会科学基礎演習（旧 基礎演習）			
英語名			
Preliminary Seminar for Social Science			
開講学科		コース	
法経社会学科（2017年度入学生以降）		経済コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会学科 / 必修科目	演習	2単位	1年
担当教員	連絡先（TEL）	連絡先（MAIL）	
北崎浩嗣	099 - 285-7592	kitazaki@leh.kagoshima-u.ac.jp	
共同担当教員	前後期		
なし。	前期		
授業概要			
本演習では、社会科学の基礎的テキストを輪読しながら、社会科学の基礎的知識を学び、併せて文献資料の収集方法、レジュメの作成方法、発表の方法、討論の方法などを学ぶ。			
学修目標			
<ol style="list-style-type: none"> 1. 文献資料の収集方法を身につける。 2. レジュメの作成方法を身につける。 3. プレゼンテーションの方法を身につける。 4. 討論の仕方を身につける。 5. 社会科学の基礎知識を身につける。 			
授業計画			
第1回 ガイダンス 第2回～第14回 発表と討論 第15回 まとめ			
授業外学習（予習・復習）			
必要に応じて、適宜指導する。			
教科書			
事前に、オリジナル資料を配布する。			
参考書			
演習の進展に応じ、適宜指示する。			
成績の評価基準			
授業への取組態度（発表内容、討論への積極性など）による。			
オフィスアワ -			
金曜日1時間目、研究室			
アクティブ・ラーニング			
ディベート；			
アクティブ・ラーニング（その他の内容）			
アクティブ・ラーニング（授業回数）			
15回中13回。			
備考（受講要件）			
特になし。			
実務経験のある教員による実践的授業			

ナンバリングコード			
科目名			
社会科学基礎演習（旧 基礎演習）			
英語名			
Preliminary Seminar for Social Science			
開講学科		コース	
法経社会学科 新旧共通			
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会・経済コース/必修科目	演習	2単位	1年
担当教員	連絡先（TEL）	連絡先（MAIL）	
三浦壮	099-285-8905	miura@leh.kagoshima-u.ac.jp	
共同担当教員		前後期	
		前期	
授業概要			
前半45分は、社会科学に関する著作をもとに、社会科学の手法や考え方を学習する。後半45分は、日経新聞を購読することによって、政治・経済・文化の時事問題をサーベイする。			
学修目標			
<ul style="list-style-type: none"> ・社会科学の基礎的な素養を身につけること ・経済新聞の読み方を身につけること 			
授業計画			
1回目 オリエンテーション（自己紹介・購読する本の決定・授業の進め方の説明）			
2回～15回 社会科学（経済学）の著作を題材にした議論・日経新聞記事のサーベイ			
16回 まとめ			
授業外学習（予習・復習）			
その都度指示する			
教科書			
第1回目の授業で受講者の意見を聞いて選択			
参考書			
その都度指示する			
成績の評価基準			
議論への参加度（50点）とレポート（50点）。3回休むと、単位認定の対象外となる。			
オフィスアワー			
金曜3限			
アクティブ・ラーニング			
ディベート;			
アクティブ・ラーニング（その他の内容）			
アクティブ・ラーニング（授業回数）			
16回中14回			
備考（受講要件）			
実務経験のある教員による実践的授業			

ナンバリングコード			
科目名			
マクロ経済学I (旧 マクロ経済学)			
英語名			
Macroeconomics I I			
開講学科		コース	
法経社会学科 新旧共通			
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会学科 / 選択科目	講義	2単位	1~4年
担当教員	連絡先 (TEL)		連絡先 (MAIL)
金丸哲			kanemaru@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
		後期	
授業概要			
マクロ経済学Iでは、マクロ経済学の理論的学習をする際の前提条件となる基礎知識を取り扱う。具体的には、日本経済の簡単な歴史（平成元年以降）、日本の主要な経済集値とその推移、GDPに関する知識、現金、預金等の貨幣に関する知識、債券（国債）市場、株式市場、外国為替市場の基本事項を解説する。時間的な余裕があれば、時事的な話題（マイナス金利政策など）も紹介したい。			
学修目標			
<ol style="list-style-type: none"> 1. 日本の主要な経済集計値を把握する。 2. GDPの基本的事項を理解する。 3. 現金、預金から成る貨幣の供給を理解する。 4. 債券市場、株式市場、外国為替市場を理解する。 			
授業計画			
第1回：日本経済の年表（平成以降） 第2回：日本経済の主要集計値 第3回：フローとストック 第4回：日本の経済循環 第5回：GDPの3面等価 第6回：名目GDPと実質GDP 第7回：貨幣の機能 第8回：ハイパワード・マネーと預金の創造 第9回：マネーストック統計 第10回：貨幣供給のコントロール 第11回：債券（国債）市場 第12回：債券価格と利子率 第13回：利回りと債券価格 第14回：株式市場 第15回：外国為替市場 第16回：期末試験			
授業外学習（予習・復習）			
必要に応じて適宜指示をする			
教科書			
使用しない（コピー配布）			
参考書			
総務省統計局・統計研修所『日本の統計』日本統計協会2016. 金森・荒・森口編『経済辞典（第5版）』有斐閣2013. 滝川好夫『マクロ経済学の要点整理』税務経理協会1999.			
成績の評価基準			
中間試験または小レポート、期末試験、授業への取り組み態度			
オフィスアワー			
授業終了後			

アクティブ・ラーニング

アクティブ・ラーニング (その他の内容)

アクティブ・ラーニング (授業回数)

備考 (受講要件)

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
FHS-CCE1415			
科目名			
社会学概論			
英語名			
Outline of Sociology			
開講学科		コース	
法経社会学科 新旧共通			
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会学科 / 選択科目	講義	2単位	1～4年
担当教員	連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)	
城戸秀之	099-285-7611	kido@leh.kagoshima-u.ac.jp	
共同担当教員		前後期	
		前期	
授業概要			
<p>本講義では、社会学の基礎的な考え方を紹介し、身近な個別のテーマをもとに問題設定や状況分析の例を示して具体的な社会的思考にふれることを主眼とする。はじめに社会の理解や社会の変化に関する社会学の基礎的な概念や考え方について紹介し、次に1950年代以降の日本社会を対象に現代社会システムのあり方を考察する。</p>			
学修目標			
<ol style="list-style-type: none"> 1. 社会学の基礎的な考え方や用語を理解する。 2. 現代日本の生活様式の変化について基礎的な知識を理解をする。 3. 現代社会について関心を持ち、それに基づいて情報を収集する。 4. 現代社会の特徴について自分の考えを述べるができる。 			
授業計画			
<p>第1回 はじめに 講義のガイダンス 第2回 I. 社会学の誕生 第3回 II. 社会学の考え方 (1) 「社会」はいかに理解できるか(行為からの理解) 第4回 II. 社会学の考え方 (2) 「社会」はいかに理解できるか(関係からの理解) 第5回 II. 社会学の考え方 (3) 「社会」はいかに理解できるか(集団・システムからの理解) 第6回 II. 社会学の考え方 (4) 変化する社会 第7回 II. 社会学の考え方 (5) 分析の道具としての概念(理念型・4象限図式) 第8回 II. 社会学の考え方 (6) 分析の道具としての概念(社会意識の類型論) 第9回 小レポート 第10回 課題レポートの説明、小レポートの解説・講評 第11回 IV. 消費社会としての現代 (1) 高度経済成長と生活様式の消費化 第12回 IV. 消費社会としての現代 (2) バブル景気と消費社会 第13回 IV. 消費社会としての現代 (3) 現代的「豊かさ」のゆくえ 第14回 V. 現代社会の諸相 現代社会の自己存在 第15回 おわりに 講義のまとめと期末試験の説明 第16回 期末試験</p>			
授業外学習(予習・復習)			
<p>予習については、授業中適宜指示をする(30分-60分) 復習については、各回の授業内容を整理した「復習レポート」を提出することができる(30分) このほか指定された図書を読んで期末試験までに「課題レポート」を提出する</p>			
教科書			
授業時間ごとに資料を配布する。			
参考書			
授業中に指示する。			
成績の評価基準			
期末試験、課題レポート、小レポート、復習レポートを総合して評価する			
オフィスアワ -			
木曜日 2 時限 (研究室)			
アクティブ・ラーニング			

アクティブ・ラーニング(その他の内容)

新聞記事を題材とするレポートと文献を題材とするレポートをそれぞれ課す

アクティブ・ラーニング(授業回数)

15回中13回

備考(受講要件)

社会学概論は、教職免許「社会」「公民」の必修科目である

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード

FHS-CCE1311

科目名

統計作成論(旧 統計学総論)

英語名

Analysis of Compiling Statistics

開講学科

コース

法経社会学科 新旧共通

授業科目区分

授業形態

単位数

開講期

法経社会学科 / 選択科目

講義

2単位

1~4年

担当教員

連絡先(TEL)

連絡先(MAIL)

松川太一郎

matsukawa@leh.kagoshima-u.ac.jp

共同担当教員

前後期

前期

授業概要

社会・経済現象の認識材料として用いられる統計資料は、認識が客観的根拠を備えるための経験的情報として不可欠である。しかし、そうした統計情報そのものに何らかの誤りがあるならば、それをを用いて導き出された社会・経済現象の認識にも誤りが備わってしまう。そのような状況に陥らないためには、社会・経済現象の認識に先立ち、統計情報の妥当性を吟味することが必要である。そのためのポイントを学習することが本講義のテーマである。具体的には、統計資料の作成過程の内容を理解していく。統計作成過程について、以下の事項を学ぶ。

1) 学習の対象である統計の概念を明確にする。2) 統計が捉える対象と、そのために必要な社会科学理論との関係。3) 統計作成に必要な情報の収集・集計過程の技術的内容。4) 統計作成方法の技術的内容と、その実践的運用を支える統計制度との関係。以上の事項の中で逐次、統計が社会現象を反映する仕方と真実性を検討して、統計情報の妥当性を吟味する。

学修目標

1. 統計学の学問的性質を理解する。
2. 社会的な集団の性質を示す数値情報 = 統計値の真実性を判断する。
3. 統計の利用を、社会現象の認識過程における経験的な基礎として位置付ける。

授業計画

第1回 統計学史

第2~3回 統計とは何か(1~2) 統計の背後にあるもの 社会的集団

第4回 統計とは何か(3) 社会的集団の認識方法、統計的方法的枠組み(1) 統計集団

第5回 統計とは何か(4) 統計的方法的枠組み(2) 統計単位の標識

第6回 統計とは何か(5) 統計的方法的枠組み(3) 統計集団の分類

第7回 統計とは何か(6) 統計的方法的枠組み(4) 統計値、(5) 統計調査と実態調査

第8回 統計とは何か(7) 統計方法における記述と解析、社会認識の中の統計利用

第9回 統計調査の実践と社会的な制約

第10回 統計調査の諸形態(1) 全数調査

第11回 統計調査の諸形態(2) 一部調査、ランダム・サンプリング

第12~13回 統計制度と統計体系

第14回 統計分類

第15回 統計資料の理解と検討

第16回 期末試験

授業外学習(予習・復習)

毎週、宿題プリントを与えて、予習と復習のための課題問題を解答させる。

教科書

毎回事前にプリントを配布する。

参考書

大屋・野村・広田・是永編著『統計学』産業統計研究社、1984年。

成績の評価基準

毎週の課題全体を30点満点とし、授業に取り組む普段の態度を見る。

また、期末試験で70点満点の評価をする。ここでは授業内容の理解と応用力を見る。

オフィスアワ -

火曜日1限 経済統計論研究室

アクティブ・ラーニング

学習の振り返り(ミニッツ・ペーパー等);

アクティブ・ラーニング(その他の内容)

アクティブ・ラーニング(授業回数)

15回中14回

備考(受講要件)

社会・経済現象と社会・経済理論との関係性を理解できていない者は、そのような関係性を理解できてからから受講することを勧める。

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード

科目名

統計利用論（旧 統計学総論）

英語名

Analysis of Using Statistics

開講学科

コース

法経社会学科 新旧共通

授業科目区分

授業形態

単位数

開講期

法経社会学科 / 選択科目

講義

2単位

1～4年

担当教員

連絡先（TEL）

連絡先（MAIL）

松川太一郎

matsukawa@leh.kagoshima-u.ac.jp

共同担当教員

前後期

後期

授業概要

社会・経済現象は、個人が自由意志の下で様々な行為を行った結果の総体的な現れに思われるが、個人の意識レベルを超えた社会・経済そのものの規則性ないし法則性というものがある。こうした規則性・法則性にアプローチする一つの仕方は、社会科学の理論を基礎として一定の統計数字の集合を構成し、そこから統計的な規則性を見出すということである。そのために必要な統計の利用方法について基本を学ぶのが、本講義のテーマである。そこでは、統計値が数字の形をした情報だからといって、自分勝手に四則演算を施すことはできず、社会科学の理論の下で用いるべき統計の系列と用いるべき分析手法が定まることが理解されてくるはずである。

学修目標

自分が抱く社会・経済理論の下で、社会・経済現象の在り方を定めている社会・経済の法則性をとらえるためのアプローチとして、統計値の系列に適切な解析方法を施し統計的規則性を見出すこと。そのために必要な統計情報をインターネットを通じて収集し、収集した情報にエクセルによる計算処理を施す実践に慣れること。

授業計画

- 第1回 統計の利用と加工
- 第2回 度数分布
- 第3回 統計値の諸形態 総量と平均
- 第4回 平均の意味と性質
- 第5回 度数分布のばらつきの尺度
- 第6回 統計比率 (1)静的比率
- 第7回 統計比率 (2)動的比率：個別指数
- 第8回 統計比率 (3)動的比率：総合指数
- 第9回 相関(1)意味と基本形式
- 第10回 相関(2)応用
- 第11回 回帰(1)意味と基本形式
- 第12回 回帰(2)重回帰
- 第13回 回帰(3)統計系列に対する回帰のあてはまり
- 第14回 回帰(4)統計系列における非線形関係と回帰
- 第15回 時系列解析；移動平均法

授業外学習（予習・復習）

毎週、宿題プリントを与えて、予習と復習のための課題問題を解答させる。

教科書

田中勝人『経済統計』（第3版）岩波書店、2009年。

参考書

適宜指定する。

成績の評価基準

毎週の課題全体を30点満点とし、授業に取り組む普段の態度を見る。
また、期末試験で70点満点の評価をする。ここでは授業内容の理解と応用力を見る。

オフィスアワ -

火曜日1限 経済統計論研究室

アクティブ・ラーニング

学習の振り返り（ミニッツ・ペーパー等）；

アクティブ・ラーニング（その他の内容）

アクティブ・ラーニング（授業回数）

15回中14回

備考（受講要件）

数学の演算記号 を用いるので、高校の数学で が理解できなかったものは、この授業の理解も困難である。また、宿題では統計値系列に対して計算を施すが、その際には、エクセルを表計算ソフトとして操作するための基本的知識が必要である。

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
科目名			
経済史入門			
英語名			
Introduction to Economic History			
開講学科		コース	
法経社会学科 新旧共通			
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会学科 / 選択科目	講義	2単位	1～4年
担当教員	連絡先 (TEL)		連絡先 (MAIL)
三浦壮	099-285-8905		miura@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
		前期	
授業概要			
<p>経済史は、理論・政策・歴史に分化される経済学の基幹分野のひとつである。本講義では、経済史の基本的な考え方を紹介したうえで、古代から近代初期の日本を対象とし、経済の側面を中心に、わが国の史的展開を講義することで、世界・国家・社会・人間の関係性、在り方を理解できるように努める。講義にあたっては、最新の研究成果を取り入れる。講義を理解するにあたっては、経済学の初歩的な知識が必要とされる。適宜、講義で振り返る。時々映像資料を使用し、理解を深める。</p>			
学修目標			
<ul style="list-style-type: none"> ・経済史の考え方を理解できること ・古代から近代初期までの日本経済の歴史を体系的に理解できるようになること 			
授業計画			
1回 オリエンテーション（経済史とは） 2回 封建性社会・資本制社会とは何か 3回 歴史研究の手法とアーカイブズ学 4回 律令制国家の誕生（国際社会の中の古代日本） 5回 律令制国家の展開（土地制度史を中心に） 6回 中世社会の誕生（室町幕府と有力大名） 6回 中世社会の展開1（寺社勢力の経済） 7回 中世社会の展開2（織田信長の経済力） 8回 中世社会の展開3（二重政権論） 9回 中世社会の展開4（織田信長と他地域の有力大名） 10回 中世社会のおわり（秀吉と太閤検地） 11回 近世社会の展開（幕藩制社会の成立） 11回 近世社会の展開（近世の経済水準） 12回 近世社会の終焉（開講と世界貿易） 13回 近代国家の成立1（明治維新期の改革，廃藩置県，身分制の廃止と社会間移動） 14回 近代国家の成立2（大久保利通，地租改正，秩禄処分） 15回 まとめ（日本史の捉え方） 16回 定期試験			
授業外学習（予習・復習）			
その都度指示する			
教科書			
なし。レジュメを配布する			
参考書			
その都度指示する			
成績の評価基準			
試験100点のみ。相対評価を意識した採点を行うので、4人に1人は25%は不可となる。			
オフィスアワ -			
金曜3限目			
アクティブ・ラーニング			

アクティブ・ラーニング（その他の内容）

アクティブ・ラーニング（授業回数）

16回中0回

備考（受講要件）

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
科目名			
マクロ経済学II (旧 マクロ経済学)			
英語名			
Macroeconomics II			
開講学科		コース	
法経社会学科 新旧共通			
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会学科 / 選択科目	講義	2単位	2~4年
担当教員	連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)	
金丸哲	7583	kanemaru@leh.kagoshima-u.ac.jp	
共同担当教員		前後期	
		前期	
授業概要			
マクロ経済学IIでは、国民所得、雇用量、物価水準等のマクロ集計値がどのように導き出されるのか、理論的な説明を試みる。はじめに、財貨・サービス（生産物）市場と、貨幣市場の需給バランスを考察する、IS-LM分析をおこない、均衡国民所得、均衡利子率を求める。ついで、この両市場と、労働市場の需給バランスを考察するAD-AS分析をおこない、均衡国民所得、物価水準を導く。			
学修目標			
<ol style="list-style-type: none"> 1. 国民所得決定の種々のモデルを理解する。 2. IS-LM分析を理解する。 3. AD-AS分析を理解する。 			
授業計画			
第1回：生産物市場 第2回：消費関数 第3回：投資関数 第4回：付加価値と国民所得 第5回：国民所得決定の基本モデル 第6回：貯蓄・投資バランスモデル 第7回：政府モデル 第8回：資産の現在価値 第9回：資本の限界効率 第10回：IS曲線の導出 第11回：貨幣の供給と需要 第12回：LM曲線の導出 第13回：IS曲線とLM曲線 第14回：労働市場の需給曲線 第15回：AD曲線とAS曲線 定期試験			
授業外学習 (予習・復習)			
必要に応じて適宜指示をする			
教科書			
使用しない (コピー配布)			
参考書			
金森・荒・森口編『経済辞典 (第5版)』有斐閣、2013。 滝川好夫『マクロ経済学の要点整理』税務経理協会、1999。			
成績の評価基準			
中間試験または小レポート、期末試験、授業への取り組み態度			
オフィスアワー			
授業終了後			
アクティブ・ラーニング			

アクティブ・ラーニング (その他の内容)

アクティブ・ラーニング (授業回数)

備考 (受講要件)

マクロ経済学?を受講していることが望ましい。

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
FHS-BBC1301			
科目名			
社会科学基礎演習（旧 基礎演習）			
英語名			
Preliminary Seminar for Social Science			
開講学科		コース	
法経社会学科 新旧共通		法学コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会・法学コース/必修科目	演習	2単位	1年
担当教員		連絡先（TEL）	連絡先（MAIL）
志田惣一		0992857637	icns@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
		前期	
授業概要			
現代社会で生じている諸問題について様々な角度から討論することにより、現代社会についての理解を深め、その現状と課題について考える。テーマごとに担当者が報告を行い、全員で討論する。テーマ等の詳細については受講生と相談の上、決める。			
学修目標			
(1)社会問題を法的な視点から検討することができる。 (2)レジュメとレポートの書き方を身につける。 (3)報告の仕方と討論の仕方を身につける。			
授業計画			
第1回 ガイダンス 第2回～第4回 法律系データベースの使い方・資料検索の仕方・レポートの書き方 第5回～第14回 報告と討論 第15回 まとめ			
授業外学習（予習・復習）			
【予習】 報告担当者以外の受講生も、テーマに関する意見や質問を事前に考え、調べておくこと 【復習】 提示されたレジュメ、意見や質問を踏まえて、もう一度テーマ全体について考えること			
教科書			
西南法学基礎教育研究会『法学部ゼミガイドブック』（法律文化社、2012年）			
参考書			
授業中に適宜、指示します。			
成績の評価基準			
報告、報告レジュメ及び授業への取り組み態度を総合的に評価します。			
オフィスアワー			
火曜2限			
アクティブ・ラーニング			
アクティブ・ラーニング（その他の内容）			
アクティブ・ラーニング（授業回数）			
備考（受講要件）			
平成29年度入学生、平成30年度入学生、平成23年度入学生に限られる。 実務経験のある教員による実践的授業			

ナンバリングコード			
FHS-BBC1306			
科目名			
憲法人権I (旧 人権論)			
英語名			
Constitutional Law :Human Rights I			
開講学科		コース	
法経社会学科 新旧共通		法学コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会学科 / 選択科目	講義	2単位	1~4年
担当教員	連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)	
大野友也	099-285-7640	onotomoy@leh.kagoshima-u.ac.jp	
共同担当教員		前後期	
		前期	
授業概要			
立憲主義思想を基盤とした人権条項について、その歴史的成り立ちや、日本における各条項の解釈・判例についての講義を行います。			
学修目標			
(1) 人権思想について理解する。 (2) 日本国憲法の人権条項の意義を学ぶ。			
授業計画			
第1回	オリエンテーション		
第2回	人権総論		
第3回	人権共有主体 / 私人間効力論		
第4回	平等権		
第5回	幸福追求権		
第6回	思想・良心の自由 / 信教の自由		
第7回	表現の自由1		
第8回	表現の自由2		
第9回	表現の自由3		
第10回	学問の自由		
第11回	経済的自由		
第12回	人身の自由		
第13回	社会権1 (生存権)		
第14回	社会権2 (労働基本権)		
第15回	社会権3 (労働関係法)		
第16回	試験		
<p>ゲストスピーカーによる講演が入る可能性もあります。その場合、授業計画通りにすまないこととなります。</p>			
授業外学習 (予習・復習)			
【予習】参考文献の該当箇所を読んでおく (30分程度)			
【復習】講義レジュメや参考文献の該当箇所を再読する (60分程度)			
教科書			
使用しない。レジュメを配布する。 なお、最低でも憲法条文を用意すること。六法を持参することが望ましいが、ネットなどで憲法条文だけを入手して印刷した上で持参してもよい。また、参考書に挙げているテキストを一冊準備しておくことが望ましい。			
参考書			
<ul style="list-style-type: none"> ・辻村みよ子『憲法 [第5版]』(日本評論社、2016年) ・樋口陽一『憲法 [第3版]』(創文社、2007年) ・芦部信喜『憲法 [第6版]』(岩波書店、2015年) ・長谷部恭男『憲法 [第6版]』(新世社、2014年) ・佐藤幸治『日本国憲法論』(成文堂、2011年) 			

- ・浦部法穂『憲法学教室 [第3版]』(日本評論社、2016年)
- ・高橋和之『立憲主義と日本国憲法 [第3版]』(有斐閣、2013年)
- ・渋谷秀樹『憲法 [第2版]』(有斐閣、2013年)
- ・野中俊彦・中村睦男ほか『憲法I [第5版]』(有斐閣、2012年)
- ・奥平康弘『憲法III 憲法が保障する権利』(有斐閣、1993年)など。各自で読み比べ、もっとも自分に合っていると思ったものを入手してください。また版が新しくなっている場合があるので、書店などで各自確認してください。

成績の評価基準

期末試験で評価します。

オフィスアワー

火曜日5限目(研究室)

アクティブ・ラーニング

グループワーク; ディベート;

アクティブ・ラーニング(その他の内容)

アクティブ・ラーニング(授業回数)

15回中14回

備考(受講要件)

「憲法とはなにか」というテーマで、1000字程度のレポートを書いてきて下さい。用紙はA4で、パソコンを用いて書いて下さい。また、表紙も付け、タイトル、学籍番号、氏名を明記して下さい。なお、パソコンを使えない場合は手書きでも構いません。締切は4月16日(月)午後5時。

提出に際しては、大野研究室(法文棟1号館6階)に持参すること。研究室に大野が在室の場合は直接提出していただいてもいいですし、それに抵抗を覚える場合や、大野不在の場合は、研究室ドアの横にボックスが設置してあるので、そこに入れておいていただいても構いません。

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
科目名			
社会教育概論			
英語名			
Introduction to Social Education			
開講学科		コース	
法経社会学科 新旧共通		地域社会コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会学科 / 選択科目	講義	2単位	1～4年
担当教員	連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)	
農中至	0992857785	nounaka@leh.kagoshima-u.ac.jp	
共同担当教員		前後期	
なし		後期	
授業概要			
<p>本講義は、日本における社会教育の歴史と現代的動向について、法制度、国際的な観点なども含めながら解説するものである。第一に、歴史的な成立経緯に焦点をあてる。第二に、現在につづく戦後日本の社会教育実践の動向と特色を確認する。第三に、国際的な関係のなかで、日本の社会教育が有する特性を示す。このほか、現代社会における地域課題に対して、どのような社会教育の取り組みが全国で生じているのかに関する、最新の情報についても提供していく。授業の方法は、リアクションペーパーを準備し、それを活用しながら進めるものであり、発問に対する応答を基本としながら、双方向的な受講生中心型の講義をおこなう。</p>			
学修目標			
<p>日本社会における教育の大きな二つの体系である、学校教育と社会教育の関係について理解し、日本の教育を統一的かつ構造的に理解できるようになることを目指す。また、学校教育とは異なる社会教育にはどのような固有の価値があるのか、社会教育の地域社会にとっての意味とはなにかについて考えることができるようになる。</p>			
授業計画			
<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション (社会教育とはなにか) 2. 社会教育の誕生と成立 (近代教育制度・国民国家・戦時体制・民主国家建設と社会教育) 3. 戦後社会教育の動向と推移 (敗戦から1960年代まで) 4. 戦後社会教育の動向と推移 (1970年代から1990年代まで) 5. 戦後社会教育の動向と推移 (2000年代から現在まで) 6. 社会教育の対象とはだれか (社会教育の主体について) 7. 社会教育の方法とはなにか (学習内容・編成について) 8. 社会教育の施設とはどこか (社会教育の固有の空間について) 9. 社会教育の法と行財政に関する諸問題 10. 戦後社会教育実践の特色 (女性・ジェンダーと社会教育のかかわりについて) 11. 戦後社会教育実践の特色 (子ども・学校外教育と社会教育のかかわりについて) 12. 戦後社会教育実践の特色 (地域課題解決・地域づくりと社会教育のかかわりについて) 13. 戦後社会教育実践の特色 (高齢者の生きがいと社会教育のかかわりについて) 14. 戦後社会教育実践の特色 (若者・青年の発達課題・自己形成と社会教育のかかわりについて) 15. 戦後社会教育実践の特色 (文化・公害・人権問題と社会教育のかかわりについて)・確認試験 			
授業外学習 (予習・復習)			
事前配布資料等に目を通し、授業にのぞみ、提示された課題について準備を進めること。			
教科書			
千野陽一監修・社会教育推進全国協議会編『現代日本の社会教育【増補版】』エイデル研究所、2015			
参考書			
<ul style="list-style-type: none"> ・牧野篤『「つくる生活」がおもしろい』さくら舎、2017 ・佐藤一子編著『地域学習の創造』東京大学出版会、2015 			
成績の評価基準			
授業中レポート40%・期末確認試験50%・予習課題の遂行状況10%			

オフィスアワ -

適宜応じます。

アクティブ・ラーニング

グループワーク；学習の振り返り（ミニッツ・ペーパー等）；

アクティブ・ラーニング（その他の内容）

発問に対するグループ検討およびそれに基づくグループ・個人による発表

アクティブ・ラーニング（授業回数）

15回中8回

備考（受講要件）

社会教育主事資格取得を目指すもの。

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
科目名			
ミクロ経済学I (旧 ミクロ経済学)			
英語名			
Microeconomics I			
開講学科		コース	
法経社会学科 新旧共通		経済コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会学科 / 選択科目	講義	2単位	1~4年
担当教員	連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)	
石塚孔信	099-285-7586	ishiduka@leh.kagoshima-u.ac.jp	
共同担当教員		前後期	
なし		後期	
授業概要			
<p>現在、ほとんどの先進諸国においては、資源配分、所得分配といった問題を基本的には市場機構に委ねている。市場経済では、資源配分や所得分配のルールは、各経済主体間の取り決めによってつくられている。企業は、自分の責任の下に生産活動を行い、各家計は自らの選択によって労働に従事し、消費を行っている。これらのそれぞれの意思決定を社会的に調整するものが市場メカニズムである。市場経済は、市場における需要と供給を調整する価格メカニズムを組み込んだ経済であり、このメカニズムを解明するのがミクロ経済学の第一の目的である。したがって、ミクロ経済学は、「価格理論」といわれるのである。</p> <p>本講義では、ミクロ経済学の消費者行動と企業行動の基本的考え方とその理論を講義する。</p>			
学修目標			
<p>ミクロ経済学の学習は、経済モデルを用いて数量的に分析する事が多いために文科系の学生にとってはハードルが高く思われがちである。しかし、そのハードルを超える事ができれば自分で考える事が容易になるという特徴も持っている。</p> <p>この講義では、そのハードルを受講生全員が超えることを目標に進めていく。したがって、多くのことをやるよりも教材を厳選して、それを時間をかけて解説することにより、受講生諸君が自分で理解する能力をつけることが出来るようにしたい。</p>			
授業計画			
<p>次のようなスケジュールで講義を行なう。</p> <ul style="list-style-type: none"> 第1回：イントロダクション 第2回：消費者行動の理論-消費者と需要(1) 第3回：消費者行動の理論-消費者と需要(2) 第4回：消費者行動の理論-消費者と需要(3) 第5回：消費者行動の理論-消費者と需要(4) 第6回：消費者行動の理論-消費者行動と需要曲線(1) 第7回：消費者行動の理論-消費者行動と需要曲線(2) 第8回：消費者行動の理論-消費者行動と需要曲線(3) 第9回：生産者行動の理論-企業行動と生産関数(1) 第10回：生産者行動の理論-企業行動と生産関数(1) 第11回：生産者行動の理論-企業行動と生産関数(2) 第12回：生産者行動の理論-企業行動と生産関数(3) 第13回：生産者行動の理論-企業行動と費用関数(1) 第14回：生産者行動の理論-企業行動と費用関数(2) 第15回：生産者行動の理論-企業行動と費用関数(3) 			
授業外学習(予習・復習)			
<p>ミクロ経済学は積み重ねが必要な分野なので、途中で分からなくなるとその後の学習が困難になるために復習をこまめにやるが必要になる。また、予習をして受講してもらうと講義への理解が効果的である。とにかく、理解を先送りしないように努力して欲しい。</p>			
教科書			
江副、是枝編『ミクロ経済学講義・演習』勁草書房、2005年。			
参考書			

江副、是枝編『ミクロ経済学』勁草書房、2001年。
西村和雄『ミクロ経済学入門』岩波書店、1995年。

成績の評価基準

筆記試験(80%)と宿題の提出(20%)による。

オフィスアワー

月曜日の2時限目

アクティブ・ラーニング

学習の振り返り(ミニッツ・ペーパー等);

アクティブ・ラーニング(その他の内容)

アクティブ・ラーニング(授業回数)

15回中5回

備考(受講要件)

この講義を受講した後、ミクロ経済学IIを受講することが望ましい。
適宜、演習問題を解いて理解を深める。関連科目として、マクロ経済学I・IIを受講することをお勧めする。

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード

科目名

企業会計論（旧 会計学総論）

英語名

Corporate Accounting

開講学科

コース

法経社会学科 新旧共通

経済コース

授業科目区分

授業形態

単位数

開講期

法経社会学科 / 選択科目

講義

2単位

1～4年

担当教員

連絡先（TEL）

連絡先（MAIL）

北村浩一

099-285-6296

kitamura@leh.kagoshima-u.ac.jp

共同担当教員

前後期

後期

授業概要

企業において「会計」はなくてはならない重要なツールであり、企業の根幹を支えるものである。この講義ではその企業における会計＝企業会計に関して、その基礎である会計・企業・社会・経済・経営といった関連事象と結びつけながら学んでいく。

学修目標

企業会計とは何であるのか、企業会計が何故企業においてなくてはならない重要なツールであるのか、それを会計・企業・社会・経済・経営といった関連の事象と、自ら結びつけられる様な理解の修得を目指す。

授業計画

第1回 ガイダンス～会計から企業会計へ
 第2回～第5回 道具としての会計
 第6回～第10回 企業会計とは
 第11回～第13回 企業会計を取り巻く関連事象
 第14回・第15回 講義まとめ～企業会計論とは

授業外学習（予習・復習）

授業中、適宜指示をする。

教科書

特に定めない

参考書

授業中に適宜紹介をする。

成績の評価基準

期末試験、レポート（レポートは授業時間中に数回行う予定）

オフィスアワ -

水曜・12時半?16時・研究室

アクティブ・ラーニング

学習の振り返り（ミニッツ・ペーパー等）；

アクティブ・ラーニング（その他の内容）

アクティブ・ラーニング（授業回数）

全15回中3回

備考（受講要件）

当講義は北村担当の講義「管理会計論」「工業簿記・原価計算論の内容へと密接に関わっていくので、企業・経営・会計に興味のある場合は、関連して受講することが望ましい。

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
科目名			
経済学概論			
英語名			
Outline of Economics			
開講学科		コース	
法経社会学科 新旧共通		経済コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会学科 / 選択科目	講義	2単位	1～4年
担当教員	連絡先 (TEL)		連絡先 (MAIL)
日野道啓			hino@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
		前期	
授業概要			
<p>本講義では、われわれに身近な事例やテーマを利用しながら、経済学の基礎知識および考え方を学習する。経済原理は、現代社会を構成する基本原理の1つとなっている。市場メカニズムは国境を越えて浸透し、かつ、消費の単位が細分化されることであるいは調整方法として利用されることで、現在、社会の隅々まで行き渡っているためである。経済学を学ぶことで、現代社会の基本構造がより良く理解できるようになる。</p> <p>本講義の特徴は次の2点である。第1に、本講義では、数学を使用しない。通常、経済学では、数学を用いて概念を説明するが、本講義では、分かりやすさを優先するため、それをしない。第2に、本講義は、経済学を学ぶ上でのファーストステップになるものである。経済学は積み上げの学問であり、「基礎（例：「ミクロ経済学」や「マクロ経済学」等）」を学んだ後、「発展・応用（例：「環境経済学」や「国際経済学」等）」を学習する。本講義は、「基礎」を学ぶための「導入」に該当する。</p>			
学修目標			
<ol style="list-style-type: none"> 1. 経済学の基礎用語が理解できる。 2. 理論の基礎的な知識が理解できる。 3. 経済学の考え方を利用して、身近な問題にアプローチできるようになる。 			
授業計画			
<p>第1回：ガイダンス 第2回：経済学へのいざない(1) - 経済学の意義と概要 第3回：経済学へのいざない(2) - 法則と考え方 第4回：経済学へのいざない(3) - 合理性と経済指標(上) 第5回：経済学へのいざない(4) - 合理性と経済指標(下) 第6回：経済学の歴史(1) - 古典派経済学(上) 第7回：経済学の歴史(2) - 古典派経済学(下) 第8回：経済学の歴史(3) - その後の経済学 第9回：ミクロ経済学の基礎(1) 第10回：ミクロ経済学の基礎(2) 第11回：ミクロ経済学の基礎(3) 第12回：マクロ経済学の基礎(1) 第13回：マクロ経済学の基礎(2) 第14回：マクロ経済学の基礎(3) 第15回：総括 定期試験</p>			
授業外学習(予習・復習)			
配布資料および参考図書を用いて予習および復習をすること。			
教科書			
指定しない。テーマ毎に、講義資料を配布する。			
参考書			
多岐にわたるため、講義中に説明する。			
成績の評価基準			
期末試験 [70%] + 課題レポート [30%]			

オフィスアワ -

金曜日3限目

アクティブ・ラーニング

その他;

アクティブ・ラーニング(その他の内容)

アクティブ・ラーニング(授業回数)

15回中3回ほど

備考(受講要件)

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
科目名			
企業論			
英語名			
開講学科		コース	
法経社会学科 新旧共通		経済コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会学科 / 選択科目	講義	2単位	1～4年
担当教員	連絡先 (TEL)		連絡先 (MAIL)
櫻木理江			rie.sakuraki@fwu.ac.jp
共同担当教員		前後期	
		前期	
授業概要			
企業を取り巻く環境変化は近年スピードを増し、企業は様々な課題に直面しています。本講義では、企業経営に関連する様々な理論を紹介し、企業活動の実態についての理解を深めます。			
学修目標			
1. 経営戦略論や経営組織論の理論を理解すること			
2. 講義内で紹介した分析枠組みを使いこなせるようになること			
授業計画			
1. イントロダクション：企業とは何か			
2. 「財・サービスの提供機関」としての企業			
3. 「株式会社」としての企業			
4. グループワーク			
5. 「組織」としての企業			
6. 組織デザインの原理?分業			
7. 組織デザインの原理?標準化			
8. 組織デザインの原理?作業の流れ			
9. 業界の構造分析?			
10. 業界の構造分析?			
11. SWOT分析			
12. グループワーク発表会			
13. 企業の社会的責任?			
14. 企業の社会的責任?			
15. 授業のまとめ			
授業外学習 (予習・復習)			
教科書			
特に指定しません。			
参考書			
授業内で適宜示します。			
成績の評価基準			
グループワーク：60点			
期末テスト：40点			
オフィスアワー			
アクティブ・ラーニング			
グループワーク；学習の振り返り（ミニッツ・ペーパー等）；			
アクティブ・ラーニング（その他の内容）			
アクティブ・ラーニング（授業回数）			

備考（受講要件）

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
科目名			
ミクロ経済学II (旧 ミクロ経済学)			
英語名			
MicroeconomicsII			
開講学科		コース	
法経社会学科	新旧共通	経済コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会学科 / 選択科目	講義	2単位	2~4年
担当教員	連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)	
王 鏡凱			
共同担当教員		前後期	
		前期	
授業概要			
学修目標			
授業計画			
第1回 イン트로ダクション			
第15回 総括と質疑応答			
第16回 期末試験			
*基本的には講義計画に沿って授業を進めるが、受講生の理解度を考え調整することもある。			
授業外学習 (予習・復習)			
教科書			
必要に応じて適宜、プリントを配布する。			
参考書			
成績の評価基準			
オフィスアワ -			
アクティブ・ラーニング			
その他;			
アクティブ・ラーニング (その他の内容)			
アクティブ・ラーニング (授業回数)			
備考 (受講要件)			
実務経験のある教員による実践的授業			

ナンバリングコード			
科目名			
人文社会総合論			
英語名			
開講学科		コース	
法文学部共通（2017年度入学生以降）			
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法文学部・法文スタンダード科目（必修）	講義		全て
担当教員		連絡先（TEL）	連絡先（MAIL）
渡辺芳郎・桑原季雄		099-285-7539	watanabe@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
桑原司ほか			
授業概要			
<p>人文社会科学系総合学部としての特性を踏まえ、法文学部の全ての学生が共通して身につけてほしい人文科学や社会科学の基礎的な問題や多様な問題について考えるための視点を学びます。</p> <p>授業では、人文科学や社会科学を専門分野とする担当者が、オムニバス形式で導入的講義を行います。共通のテーマとして「時代と社会」を掲げており、それに沿う授業を聴くことができます。また、マナバの利用による双方向の授業が展開され、授業内容について振り返る小レポートを毎回作成してもらいます。</p>			
学修目標			
<ul style="list-style-type: none"> ・人文社会科学系総合学部に学ぶ学生として、人文科学及び社会科学の多様な学問分野の導入的知見や視点を身につける。 ・人文科学と社会科学における幅広い視野を身につけ、現代社会に諸問題について考える視座を獲得する。 			
授業計画			
<p>学科によって教室・授業編成が異なるので注意すること。</p> <p><法経社会学科></p> <p>第1回 ガイダンス</p> <p>第2回 馬場武（経済）AI・IoT時代の企業経営</p> <p>第3回 澤田成章（経済）社会・産業の発展と会計の役割</p> <p>第4回 三浦 壮（経済）天皇家と日本人の歴史</p> <p>第5回 城戸秀之（地域）日本社会の変容と豊かさの変化</p> <p>第6回 木村 朗（法）核（原爆と原発）と基地をめぐる平和問題</p> <p>第7回 宇那木正寛（法）防犯カメラとプライバシーの保護</p> <p>第8回 志田惣一（法） 時代・社会と法律 平成の法改正を契機として -</p> <p>第9回 渡辺芳郎（多元）考古学 モノから見た時代と社会の変化(1)</p> <p>第10回 渡辺芳郎（多元）考古学 モノから見た時代と社会の変化(2)</p> <p>第11回 竹内勝徳（多元）アメリカ文学 文学に描かれる社会と時代の関係（1）</p> <p>第12回 竹内勝徳（多元）アメリカ文学 文学に描かれる社会と時代の関係（2）</p> <p>第13回 宮下正昭（多元）マスコミ論 時代と社会の情報を読み取る（1）</p> <p>第14回 宮下正昭（多元）マスコミ論 時代と社会の情報を読み取る（2）</p> <p>第15回 安部幸志（心理）心理学 平成における災害と心理学</p> <p><人文学科></p> <p>第1回 ガイダンス</p> <p>第2回 竹内勝徳（多元）アメリカ文学 文学に描かれる社会と時代の関係（1）</p> <p>第3回 竹内勝徳（多元）アメリカ文学 文学に描かれる社会と時代の関係（2）</p> <p>第4回 渡辺芳郎（多元）考古学 モノから見た時代と社会の変化(1)</p> <p>第5回 渡辺芳郎（多元）考古学 モノから見た時代と社会の変化(2)</p>			

- 第6回 宮下正昭（多元）マスコミ論 時代と社会の情報を読み取る（1）
 第7回 宮下正昭（多元）マスコミ論 時代と社会の情報を読み取る（2）
 第8回 安部幸志（心理）心理学 平成における災害と心理学
 第9回 馬場武（経済）AI・IoT時代の企業経営
 第10回 澤田成章（経済）社会・産業の発展と会計の役割
 第11回 三浦 壮（経済）天皇家と日本人の歴史
 第12回 城戸秀之（地域）日本社会の変容と豊かさの変化
 第13回 木村 朗（法）核（原爆と原発）と基地をめぐる平和問題
 第14回 宇那木正寛（法）防犯カメラとプライバシーの保護
 第15回 志田惣一（法）時代・社会と法律 平成の法改正を契機として -

授業外学習（予習・復習）

復習：参考文献などを読み、当該分野についての知見を深めること。

教科書

指定しない

参考書

授業中に適宜指示する

成績の評価基準

毎回の授業の際に提出する小レポートに基づき評価する。

オフィスアワ -

随時（メールにてアポを取ること）

アクティブ・ラーニング

学習の振り返り（ミニッツ・ペーパー等）；

アクティブ・ラーニング（その他の内容）

アクティブ・ラーニング（授業回数）

15回中15回

備考（受講要件）

2017年度以降の入学生に限る。

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
科目名			
社会教育実習I			
英語名			
Practical of Social Education I			
開講学科		コース	
法経社会学科地域社会コース(2017年度入学生以降)		地域社会コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会・地域社会コース / 選択科目	実習	1単位	3年
担当教員		連絡先(TEL)	連絡先(MAIL)
小栗有子		099-285-7293	yoguri@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
なし		前期	
授業概要			
<p>本実習では、社会教育・生涯学習行政に携わる職員、及び、その他の社会教育関係労働者がいかなる業務を担っているのかについて、主に鹿児島県下の県や市町村自治体をフィールドに理解を深めます。実習に先立ち、社会教育・生涯学習行政の仕事についての基礎知識を身につけ、実習を行うにあたっての事前準備を行います。実習では、県、及び、市町村行政の現場に赴き、各々の課題に取り組みます。実習地は、受講生の間で分担して選択することになります。また、実習後は、レポート作成と報告会を予定しています。</p>			
学修目標			
<ul style="list-style-type: none"> ・社会教育・生涯学習行政の仕事について理解する ・社会教育・生涯学習行政に携わることの意義について理解する ・社会教育・生涯学習行政の仕事をめぐる課題と改善の方向性について考察できる 			
授業計画			
<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. 社会教育・生涯学習行政の仕事 1 3. 社会教育・生涯学習行政の仕事 2 4. 調査計画 1 5. 調査計画 2 6. 調査実習 1 7. 調査実習 2 8. 調査実習 3 9. 調査実習 4 10. 調査実習 5 11. 調査実習 6 12. 調査実習報告書の作成 1 13. 調査実習報告書の作成 2 14. 調査実習報告会 15. 総括 16. レポート提出 			
授業外学習(予習・復習)			
<p>授業中に指定する課題図書や資料等を事前に読み、また、地域情報や資料の収集を行う(予習)。 調査実習小レポートなどの振りかえり活動を行う(復習)。</p>			
教科書			
授業の中で紹介する			
参考書			
社会教育行政研究会編『社会教育行政読本 「協働」時代の道しるべ』第一法規、2013			
成績の評価基準			
調査準備と調査(50%) 調査報告(25%)、最終レポート(25%)			
オフィスアワー			
メールにて事前に連絡の上、随時対応			

アクティブ・ラーニング

グループワーク; フィールドワーク; プレゼンテーション; 学習の振り返り (ミニッツ・ペーパー等);

アクティブ・ラーニング (その他の内容)

アクティブ・ラーニング (授業回数)

14回

備考 (受講要件)

社会教育主事資格取得を希望するもの

社会教育演習 1、又は、2 を受講しているもの

社会教育計画論 1、又は、2 を受講していることが望ましい

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
科目名			
社会教育実習II			
英語名			
Practical of Social Education II			
開講学科		コース	
法経社会学科地域社会コース(2017年度入学生以降)		地域社会コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会・地域社会コース / 選択科目	実習	1単位	3年
担当教員		連絡先(TEL)	連絡先(MAIL)
酒井佑輔		099-285-7292	sakai@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
		後期	
授業概要			
<p>本実習では、義務教育未修了者等の学ぶ機会を得られなかった(ないしは現在も得られずにいる)人びとの学習権保障の現状や課題を理解したうえで、社会教育行政の役割やその可能性について学ぶことを目的とする。授業内容としては、1事前学習、2地域実習(フィールドワーク)、3事後学習(学習権保障に向けたワークショップや講座の企画立案)の3段階に分けられる。事前学習では、日本や鹿児島県における学習権保障の取り組みやその課題について、文献購読やゲストスピーカーの講義などを通じて学習し理解を深める。地域実習では、鹿児島県内で実践されている学習権保障に向けた取り組みに参加し、取り組みの現状や課題、社会教育行政との関係性について把握する。事後学習では、地域実習で抽出した課題を踏まえたうえで、学習権保障に向けた講座やワークショップの企画立案を行う。</p>			
学修目標			
<p>1)鹿児島県における学習権保障の現状や課題について理解する。 2)学習権を保障するための社会教育行政の意義や可能性、その限界について批判的に考えることができる。 3)学習権を保障するための講座やワークショップなどを構想することができる。</p>			
授業計画			
<ol style="list-style-type: none"> オリエンテーション 学習権保障における社会教育行政の役割 文献購読(学習権保障における社会教育) 文献購読(社会的排除の諸相) 文献購読(社会的排除に抗する社会教育実践) グループワーク(鹿児島県の学習権保障に向けた社会教育実践に関する調査) グループワーク(上記調査結果の発表・情報共有) 地域実習準備(聴くこと・メタファシリテーションの理解) 地域実習(フィールドワーク) 地域実習(フィールドワーク) 地域実習(フィールドワーク) 地域実習の振り返り・課題の抽出 講座・ワークショップの企画立案1 講座・ワークショップの企画立案2 講座・ワークショップの企画発表 総括 期末試験は行わない(指定期日までに期末レポートを提出) 			
授業外学習(予習・復習)			
<p>予習:授業ごとに提示する資料(新聞記事や論文)を必ず事前に読んでおくこと。 復習:授業で学んだ内容を振り返りまとめること。</p>			
教科書			
特になし。			
参考書			
<p>・パウロ・フレイレ(三砂ちづる訳)『被抑圧者の教育学』亜紀書房、2011。</p>			

- ・日本社会教育学会編『社会的排除と社会教育 日本の社会教育 第50集』東洋館出版社、2006。
- ・和田信明・中田豊一『途上国の人々との話し方 国際協力メタファシリテーションの方法』みずのわ出版、2010。
- ・宮本常一・安溪遊地『調査されるという迷惑 フィールドに出る前に読んでおく本』みずのわ出版、2008。

成績の評価基準

授業毎の小レポートと予習課題(25%)
 授業(グループワークや実習)への能動的参加・貢献度(50%)
 期末レポート(25%)

オフィスアワー

メール等で事前に連絡があれば随時対応

アクティブ・ラーニング

グループワーク; フィールドワーク; プレゼンテーション; 学習の振り返り(ミニッツ・ペーパー等);

アクティブ・ラーニング(その他の内容)

受講生には、授業やフィールドワーク、ワークショップの企画立案等への能動的な参加が求められます。

アクティブ・ラーニング(授業回数)

全て

備考(受講要件)

- ・社会教育主事資格取得を希望するもの

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
科目名			
地域社会実習			
英語名			
Practical of Community Studies			
開講学科		コース	
法経社会学科地域社会コース（2017年度入学生以降）		地域社会コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会・地域社会コース / 選択科目	実習	1単位	3年
担当教員		連絡先（TEL）	連絡先（MAIL）
本田 豊洋		099-285-8872	t-honda@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
		後期	
授業概要			
<p>地域社会の現状・課題や現在実施されている自治体の政策等について、各自が調査し、分析した上で、新たな提案としてまとめることにより、地域社会が抱える様々な課題について把握し、自ら解決策を検討することを実践する。</p>			
学修目標			
<ol style="list-style-type: none"> 1 地域社会の現状や課題について、自ら調査し、把握することができる。 2 県や市町村の政策等について、自ら調査し、把握することができる。 3 自ら調査した内容をまとめ、分析し、新たな提案を行うことができる。 			
授業計画			
<p>第1回（10月1日） オリエンテーション、地域社会をめぐる現状と課題 第2回（10月8日） 地域社会の現状と課題の調査、分析方法 第3回（10月15日） 新聞の活用方法 1 第4回（10月29日） 新聞の活用方法 2 第5回（11月12日） 役所等への調査依頼（メール、電話及び訪問）の方法 第6回（11月19日） 個人課題の設定 第7回（11月26日） 県庁等の訪問 1 第8回（12月3日）・第9回（12月10日） 個人課題の検討 第10回（12月17日） 県庁等の訪問 2 第11回（12月24日） 個人課題の中間まとめ 第12回（1月7日）・13回（1月14日） 政策提案の検討 第14回（1月21日）・15回（1月28日） 政策提案発表、まとめ</p> <p>鹿児島県庁等に出向いて2回程度現地調査を行うので、時間割上の時間より活動時間が長くなることもある。 その他、県庁や市役所等に自らアポイントを取って、自分の設定した課題について調査を行う。 授業のスケジュール及び内容は、訪問先等の都合により変更することがある。</p>			
授業外学習（予習・復習）			
<ul style="list-style-type: none"> ・授業中の指示に従い、10月中の1週間指定する新聞を購読し、それを活用した課題に取り組むこと。（新聞購読は自宅への配達による。費用はかからない。） ・その他、必要に応じて適宜指示する。 			
教科書			
なし。			
参考書			
なし。			
成績の評価基準			
受講態度、調査内容、政策提案の内容について総合的に評価する。			
オフィスアワー			
他の予定が入っていない時はなるべく対応するので、事前にメール等で問い合わせること。			

アクティブ・ラーニング

アクティブ・ラーニング（その他の内容）

アクティブ・ラーニング（授業回数）

備考（受講要件）

受講生の上限を20人とし、地域社会コースの学生に限定する。

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
科目名			
外国書研究			
英語名			
Studies on Foreign Works			
開講学科		コース	
法経社会学科地域社会コース(2017年度入学生以降)		地域社会コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会・地域社会コース /経済コース/選択科目	講義	2単位	2~4年
担当教員		連絡先(TEL)	連絡先(MAIL)
桑原司			kuwa3@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
		後期	
授業概要			
<p>社会学の学術文献を読了する。 1970年代後半の社会科学の諸前提を理解する。 社会学の観点について解説する。 適切な訳語の当て方について指導する。</p>			
学修目標			
<p>学術論文を独力で読む力を身につける。 社会学の視点を習得する。 適切な訳し方を身につける。</p>			
授業計画			
<p>第1回 ガイダンス</p> <p>第2回 テキスト及びその著者について</p> <p>第3回 パースペクティブとは何か</p> <p>第4回 「観点」：十人十色</p> <p>第5回 パースペクティブの変化と現実の変化との関係</p> <p>第6回 パースペクティブを比較する基準について</p> <p>第7回 パースペクティブの種類</p> <p>第8回 中間考察</p> <p>第9回 パースペクティブの一つとしての社会科学</p> <p>第10回 社会科学と自由の問題</p> <p>第11回 パースペクティブの一つとしての社会学</p> <p>第12回 パースペクティブの一つとしての心理学</p> <p>第13回 パースペクティブの一つとしての社会心理学</p> <p>第14回 社会学と社会心理学</p> <p>第15回 シンボリック相互作用論とは</p> <p>第16回 期末試験</p>			
授業外学習(予習・復習)			
必要に応じて適宜指示をする。			
教科書			
J. M. Charon, 1979, Symbolic Interactionism 1st edition, Prentice Hall(第1章、第2章)。			
参考書			
授業中に適宜指導。			
成績の評価基準			

授業への取り組み態度 (50%)

期末試験 (50%)

ただし、出席日数が全講義日数の2/3に満たない場合には、単位取得資格を失うものとする。
講義中の無断退出 (中途退出) を禁止する。無断退出は欠席扱いとする。

オフィスアワ -

講義後

アクティブ・ラーニング

アクティブ・ラーニング (その他の内容)

アクティブ・ラーニング (授業回数)

備考 (受講要件)

- 1) 「報告」は毎回「ランダムに」当ててゆく。予めその週の報告者を決めるという方法は採らない。従って「毎回」「全員が」訳の報告を出来るように予習してくること。
- 2) 「四年生・卒業生等」への特別措置 (救済措置) はない。

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
科目名			
社会教育実習III			
英語名			
Practical of Social Education III			
開講学科		コース	
法経社会学科地域社会コース（2017年度入学生以降）		地域社会コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会・地域社会コース / 選択科目	実習	1単位	3～4年
担当教員		連絡先（TEL）	連絡先（MAIL）
農中至			
共同担当教員		前後期	
		後期	
授業概要			
社会教育の実践や現場の理解に向けた切り口は多様です。本実習では住民の基層組織としての自治公民館活動の実態に着目し、自治公民館施設の在り様と地域住民によるそれらの受容の程度、自治公民館を拠点とした学びの実際について探究し、自治公民館の地域的機能と現代地域社会において果たしている役割について理解することを目指します。鹿児島県内の複数地域または特定地域における調査実習を予定しています。			
学修目標			
現代社会教育の解釈において欠くことのできない自治公民館の役割と機能、そこで生成する学びについて理解し、行政組織や公的社会教育、学校、住民組織、住民生活とのかかわりについて探究することを目的とします。			
授業計画			
<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 社会教育実習?事前指導 2. 地域社会教育実践報告書の読解と分析 長野県の事例を中心に考える自治公民館理解の観点 3. 地域社会教育実践報告書の読解と分析 遠隔地の事例のなかから考える自治公民館の役割と住民組織 4. 調査仮説と探究課題の設定 5. 鹿児島大学周辺自治公民館の予備的調査 どこにあるのか? 6. 鹿児島市内の自治公民館の定点観測および成果報告 だれがそこへいくのか? 7. 鹿児島県内自治公民館における訪問調査 活用の実際と実態調査 8. 鹿児島県内自治公民館における訪問調査 9. 鹿児島県内自治公民館における訪問調査 10. 鹿児島県内自治公民館における訪問調査 11. 鹿児島県内自治公民館における訪問調査 12. 鹿児島県内自治公民館における訪問調査 13. 調査成果の確認と成果報告の作成 14. 調査成果の報告 15. 調査成果の現場への還元可能性の検討 社会教育実習?事後指導 16. 確認試験 			
授業外学習（予習・復習）			
社会教育職員を希望する人は、具体的な実践を多く知るとともに（予習）、社会教育学の理論・歴史に関する知識も求められます。質の高い豊富な学習量こそ実践現場で生きてくるということを十分に理解してください（復習）。また、専門領域にとどまらず関連諸学問との接点を見つけ出す努力を進めるようにしてください（予習・復習）。			
教科書			
授業中に提示します。			
参考書			
牧野篤 『生きることとしての学び』（東京大学出版会、2014） 牧野篤 『社会づくりとしての学び』（東京大学出版会、2018） 牧野篤 『公民館はどう語られてきたのか』（東京大学出版会、2018）			
成績の評価基準			
授業後の小レポート（25%）・課題の準備状況と内容（35%）・参加・参画状況（40%）			

オフィスアワ -

アクティブ・ラーニング

グループワーク; ディベート; フィールドワーク; プレゼンテーション; 学習の振り返り (ミニッツ・ペーパー等);

アクティブ・ラーニング (その他の内容)

アクティブ・ラーニング (授業回数)

16回中15回を予定

備考 (受講要件)

社会教育主事資格取得を希望するもの。

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
科目名			
外国書研究			
英語名			
Studies on Foreign Works			
開講学科		コース	
法経社会学科地域社会コース（2017年度入学生以降）		地域社会コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会・地域社会コース /経済コース/選択科目	演習	2単位	3～4年
担当教員		連絡先（TEL）	連絡先（MAIL）
酒井佑輔		099-285-7292	sakai@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
		前期	
授業概要			
・多文化共生、移民・難民、国際化に関連する事象をあつかった英語もしくは他のロマンス語（スペイン語かポルトガル語等）のテキストを読み進める。			
学修目標			
1．英語もしくは他の言語の文法体系を理解する。 2．まとまった外国語の文章を読めるようになる。 3．日本国内の多文化共生、移民・難民、国際化の事象について理解を深める。			
授業計画			
授業は原則テキストに沿って進めることとする。 全ての学生は授業までに担当箇所の和訳を作成し授業に持参する。 授業ではその予習課題を踏まえて議論をしながら内容理解を進める。			
第1回：オリエンテーション 第2回～第15回：テキストに関する議論 期末試験は行わない。			
授業外学習（予習・復習）			
予習・復習を必ず実施すること。			
教科書			
受講者の語学力や関心領域に配慮してテキストを検討する。			
参考書			
成績の評価基準			
予習課題の提出（50%） 授業への参加（50%）			
オフィスアワー			
メール等で事前に連絡があれば随時対応。			
アクティブ・ラーニング			
グループワーク；ディベート；プレゼンテーション；学習の振り返り（ミニッツ・ペーパー等）；			
アクティブ・ラーニング（その他の内容）			
全て			
アクティブ・ラーニング（授業回数）			
全て			
備考（受講要件）			
実務経験のある教員による実践的授業			

法政特殊講義（憲法特論）（旧 法律学特殊講義（憲法特論））
ナンバリングコード

科目名

法政特殊講義（憲法特論）（旧 法律学特殊講義（憲法特論））

英語名

Special Lecture on Law, Policy and Political Science : Special Lecture on Constitutional Law

開講学科

コース

法経社会学科法学コース 新旧共通

授業科目区分

授業形態

単位数

開講期

法経社会・法学コース/選
択科目

講義

2単位

2年

担当教員

連絡先（TEL）

連絡先（MAIL）

大野友也

099-285-7640

onotomoy@leh.kagoshima-u.ac.jp

共同担当教員

前後期

後期

授業概要

この講義は、法学コースの2年生しか履修できません。1・3・4年生は履修できませんので注意して下さい。

「講義」の形を取っていますが、実質的には、演習形式で、憲法に関する様々な問題を討論します。受講生は、少なくとも1度は報告を担当してもらいます（受講生の人数次第で個人またはグループでの報告となります）。

なお、この講義は「演習Ⅰ（憲法）」の受講生と合同で行います。また、そのこととの関係で、5限の「演習Ⅰ（憲法）」の時間帯も引き続き議論を行います。したがって、本講義の受講生はできる限り5限の「演習Ⅰ」にも参加をしてください（もちろん強制ではありませんし、5限に参加しなくても単位認定に際して不利益はありません）。

学修目標

- 1 憲法の問題について判例・学説を踏まえて自身の見解を展開できる。
- 2 他者の意見を批判的に検討できる。

授業計画

- 1回 オリエンテーション、自己紹介
2～14回 受講生による報告及び討論
15回 まとめ

1回目に受講生同士の自己紹介をしますので、各自、3分程度の自己紹介をできるよう準備しておいて下さい。

授業外学習（予習・復習）

- 予習：事前に配布する資料を読む（1時間）
復習：当日の議論を踏まえ、改めて自己の見解を検討し直す（30分）

教科書

講義時に指示します。

参考書

講義時に指示します。

成績の評価基準

討論に積極的に参加したかどうか、自身の見解を論理的に展開できているかどうかで判断します。試験は行いません。

オフィスアワー

火曜5限（研究室）

アクティブ・ラーニング

グループワーク；ディベート；プレゼンテーション；

アクティブ・ラーニング（その他の内容）

アクティブ・ラーニング（授業回数）

15回中13回

備考（受講要件）

1年時前期「憲法人権I」の単位を修得していることを前提とします。

この講義（木曜4限）の後に行われる、木曜5限の「演習（憲法）」にも可能な限り参加してください。

また、学外での課外活動も予定しています。その際、生協の保険に入ることになりますので、受講生は必ず生協に加入しておいて下さい（生協の組合員でないと生協の保険に加入できませんので）。

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
FHS-BBB2301			
科目名			
演習I(家族法)(旧 演習)			
英語名			
Seminar I:Family Law			
開講学科		コース	
法経社会学科法学コース 新旧共通			
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会・法学コース/必修科目	演習	2単位	3年
担当教員		連絡先(TEL)	連絡先(MAIL)
阿部純一		099-285-7645	jave@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
なし		後期	
授業概要			
<p>本演習では、相続法に関する民法の重要判例及びテーマについて検討する。検討する判例・テーマは、報告者(報告グループ)の関心に応じて選択する。</p> <p>近年、相続法に関する重要判例が公表されていることから、これら最新の判例も検討対象となる。検討を通じて、法解釈の方法及び判例研究の方法について理解するだけでなく、必要に応じて法制度論・立法論的な議論にも目を向ける。この他に家族社会学等の知見にも触れることで、「家族と法」の諸問題を多角的に分析する視座を得ることも目標としたい。報告者には、各テーマについて具体的問題を発見し、その問題の解決策を提示することが求められる。</p> <p>本年度後期は、1 相続問題に関連する文献購読(吉原祥子『人口減少時代の土地問題:「所有者不明化」と相続、空き家、制度のゆくえ』(中公新書、2017年)を予定)、2 相続法に関する判例研究、3 相続法上の諸問題に関するテーマ報告を柱とする。</p>			
学修目標			
<ul style="list-style-type: none"> ・相続法に関する問題を発見する ・相続法の重要判例及び諸問題について理解を深める ・法解釈の方法、判例研究の方法を学ぶ ・各問題に対する具体的解決策を考える 			
授業計画			
第01回:ガイダンス 第02回:報告と検討1 第03回:報告と検討2 第04回:報告と検討3 第05回:報告と検討4 第06回:報告と検討5 第07回:報告と検討6 第08回:報告と検討7 第09回:報告と検討8 第10回:報告と検討9 第11回:報告と検討10 第12回:報告と検討11 第13回:報告と検討12 第14回:報告と検討13 第15回:まとめ			
* 授業計画については、授業の進行状況に応じて若干変更する場合がある。			
授業外学習(予習・復習)			
【予習】報告者以外の者も事前にテーマについて調べ、議論に参加するための準備をすること(45分)			
【復習】授業後に各自で内容を復習すること(1時間)			
教科書			

- ・水野紀子=大村敦志編『民法判例百選3 親族・相続(第2版)』(有斐閣、2018年)
- ・吉原祥子『人口減少時代の土地問題:「所有者不明化」と相続、空き家、制度のゆくえ』(中公新書、2017年)

*以下は、授業の内容をより深く理解するための参考書であり、必要に応じて図書館で確認すること(各参考書については、初回授業で説明する)。

- ・中野次雄編『判例とのその読み方(三訂版)』(有斐閣、2009年)
- ・田高寛貴=原田昌和=秋山靖浩『リーガル・リサーチ&レポート』(有斐閣、2015年)
- ・いしかわまりこ他『リーガル・リサーチ(第5版)』(日本評論社、2016年)
- ・弥永真生『法律学習マニュアル(第4版)』(有斐閣、2016年)
- ・井田良ほか『法を学ぶ人のための文章作法』(有斐閣、2016年)
- ・木山泰嗣『法学ライティング』(弘文堂、2015年)
- ・山下純司ほか『法解釈入門(補訂版)』(有斐閣、2018年)

参考書

各自の所有している家族法の教科書を持参すること

成績の評価基準

授業への出席及び議論への参加状況によって評価する

オフィスアワー

火曜日2限(研究室)

アクティブ・ラーニング

グループワーク; ディベート; プレゼンテーション;

アクティブ・ラーニング(その他の内容)

アクティブ・ラーニング(授業回数)

15回中15回

備考(受講要件)

- ・履修者には、各テーマについて、議論への積極的な参加が求められます。
- ・9月にゼミ合宿を予定しているのでできるだけ積極的に参加してください(実施の有無や具体的な日程等については、履修者が確定した後に相談の上で決定します)。
- ・課外で見学等を企画する場合があります(参加は任意)。

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
FHS-BBB2301			
科目名			
演習I(家族法)(旧 演習)			
英語名			
Seminar I:Family Law			
開講学科		コース	
法経社会学科法学コース 新旧共通			
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会・法学コース/必修科目	演習	2単位	3年
担当教員		連絡先(TEL)	連絡先(MAIL)
阿部純一		099-285-7645	jave@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
なし		前期	
授業概要			
<p>本演習では、親族法に関する民法の重要判例及びテーマについて検討する。検討する判例・テーマは、報告者(報告グループ)の関心に応じて選択する。</p> <p>近年、親族法に関する重要判例が公表されていることから、これら最新の判例も検討対象となる。検討を通じて、法解釈の方法及び判例研究の方法について理解するだけでなく、必要に応じて法制度論・立法論的な議論にも目を向ける。この他に家族社会学等の知見にも触れることで、「家族と法」の諸問題を多角的に分析する視座を得ることも目標としたい。報告者には、各テーマについて具体的問題を発見し、その問題の解決策を提示することが求められる。</p> <p>本年度前期は、1 家族社会学に関する文献購読(筒井淳也『仕事と家族：日本はなぜ働きづらく、産みにくいのか』(中公新書、2015年)を予定)、2 親族法に関する判例研究、3 親族法上の諸問題に関するテーマ報告を柱とする。</p>			
学修目標			
<ul style="list-style-type: none"> ・親族法に関する問題を発見する ・親族法の重要判例及び諸問題について理解を深める ・法解釈の方法、判例研究の方法を学ぶ ・各問題に対する具体的解決策を考える 			
授業計画			
<p>第01回：ガイダンス、情報検索講習(図書館)</p> <p>第02回：報告と検討1</p> <p>第03回：報告と検討2</p> <p>第04回：報告と検討3</p> <p>第05回：報告と検討4</p> <p>第06回：報告と検討5</p> <p>第07回：報告と検討6</p> <p>第08回：報告と検討7</p> <p>第09回：報告と検討8</p> <p>第10回：報告と検討9</p> <p>第11回：報告と検討10</p> <p>第12回：報告と検討11</p> <p>第13回：報告と検討12</p> <p>第14回：報告と検討13</p> <p>第15回：まとめ</p>			
* 授業計画については、授業の進行状況に応じて若干変更する場合がある。			
授業外学習(予習・復習)			
【予習】報告者以外の者も事前に判例を読み、議論に参加するための準備をすること(45分)			
【復習】授業後に各自で内容を復習すること(1時間)			
教科書			

各自の所有している家族法の教科書を持参すること

参考書

- ・水野紀子=大村敦志編『民法判例百選3 親族・相続(第2版)』(有斐閣、2018年)
- ・筒井淳也『仕事と家族:日本はなぜ働きづらく、産みにくいのか』(中公新書、2015年)

*以下は、授業の内容をより深く理解するための参考書であり、必要に応じて図書館で確認すること(各参考書については、初回授業で説明する)。

- ・中野次雄編『判例とのその読み方(三訂版)』(有斐閣、2009年)
- ・田高寛貴=原田昌和=秋山靖浩『リーガル・リサーチ&レポート』(有斐閣、2015年)
- ・いしかわまりこ他『リーガル・リサーチ(第5版)』(日本評論社、2016年)
- ・弥永真生『法律学習マニュアル(第4版)』(有斐閣、2016年)
- ・井田良ほか『法を学ぶ人のための文章作法』(有斐閣、2016年)
- ・木山泰嗣『法学ライティング』(弘文堂、2015年)
- ・山下純司ほか『法解釈入門(補訂版)』(有斐閣、2018年)

成績の評価基準

授業への出席及び議論への参加状況によって評価する

オフィスアワー

木曜日2限(研究室)

アクティブ・ラーニング

グループワーク; ディベート; プレゼンテーション;

アクティブ・ラーニング(その他の内容)

アクティブ・ラーニング(授業回数)

15回中15回

備考(受講要件)

- ・履修者には、各テーマについて、議論への積極的な参加が求められます。
- ・9月にゼミ合宿を予定しているのでできるだけ積極的に参加してください(実施の有無や具体的な日程等については、履修者が確定した後に相談の上で決定します)。
- ・課外で見学等を企画する場合があります(参加は任意)。

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
FHS-BBB2301			
科目名			
演習I (社会保障法) (旧 演習)			
英語名			
Seminar I: Social Security Law			
開講学科		コース	
法経社会学科法学コース 新旧共通			
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会・法学コース / 必修科目	演習	2単位	3年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
伊藤周平			
共同担当教員		前後期	
		前期	
授業概要			
日本の社会保障法の現状と課題について、テーマごと(生活保護、年金、医療、介護保険、労災、雇用保険、社会福祉など)に各人の報告を中心に行う。福祉現場へのインタビューや施設見学なども予定している。			
学修目標			
小冊子の作成を義務づけ、自分たちの言葉で社会保障の仕組みをわかりやすく説明できるようにすることを目標とする。			
授業計画			
前期集中：社会保障法関係の文献を読み、各自報告、討論。および判例研究 後期：小冊子の作成、および判例研究			
授業外学習 (予習・復習)			
教科書			
特に定めない。授業の中で適宜指示する。			
参考書			
別冊ジュリスト『社会保障判例百選(第5版)』(有斐閣)、『社会福祉六法』(ミネルヴァ書房)など			
成績の評価基準			
授業への取り組み態度(報告書の内容)			
オフィスアワー			
アクティブ・ラーニング			
アクティブ・ラーニング(その他の内容)			
アクティブ・ラーニング(授業回数)			
備考(受講要件)			
特になし。			
実務経験のある教員による実践的授業			

ナンバリングコード			
FHS-BBB2301			
科目名			
演習I (法政策論・行政法務論) (旧 演習)			
英語名			
Seminar I: Public Policy and Administrative Practice			
開講学科		コース	
法経社会学科法学コース 新旧共通			
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会・法学コース / 必修科目	演習	2単位	3年
担当教員	連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)	
宇那木正寛	285-7628	unaki@leh.kagoshima-u.ac.jp メールには、必ず学籍番号と氏名を明記し、パソコンからのメール拒否設定を解除しておいて下さい。	
共同担当教員		前後期	
		後期	
授業概要			
<p>演習参加者は、各行政分野における重要判例あるいは文献を選択し、報告します。報告後は、当該報告に基づいて全員で討論を行います。</p> <p>この演習では、判例研究だけではなく、そこで問題となる法令、条例の構造・仕組みを丹念に分析することも重視します。</p> <p>なお、報告方法については、原則として個人報告とします。</p>			
学修目標			
<p>(基本的学修目標)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. プレゼンテーション能力の基礎を養う。 2. リーガル・コミュニケーション能力の基礎を養う。 3. 思考言語化能力の基礎を養う。 <p>(専門的学修目標)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 現実の社会に惹起する様々な問題を行政法学的視点で議論できる能力を養う。 2. 公共政策立案に必要な法的基礎を構築する。 			
授業計画			
第1回から15回まで報告及び討論を行います。			
授業外学習 (予習・復習)			
<p>【予習】</p> <p>本ゼミでは、報告者以外の参加者についても、能動的かつ積極的に討論に参加することを求めます。したがって、参加者全員が報告課題について十分な予習をすることが必要です。なお、報告者が、他の参加者からの質問等に答えられなかった場合には、当該質問事項等について再度報告する必要があります。</p> <p>【復習】</p> <p>報告テーマに関連して、確認すべき事項がある場合、これを指示します。必ず確認して下さい。</p>			
教科書			
<p>亘理格・北村喜宣編著『重要判例とともに読み解く個別行政法』(有斐閣、2013年)</p> <p>宇賀克也・交告尚史・山本隆司編『行政判例百選1〔第7版〕』(有斐閣、2017年)</p> <p>宇賀克也・交告尚史・山本隆司編『行政判例百選2〔第7版〕』(有斐閣、2017年)</p>			
参考書			
<p>大橋洋一『行政法1〔第3版〕』(有斐閣、2016年)</p> <p>大橋洋一『行政法2〔第3版〕』(有斐閣、2018年)</p> <p>宇賀克也『行政法概説1〔第6版〕』(有斐閣、2017年)</p> <p>宇賀克也『行政法概説2〔第6版〕』(有斐閣、2018年)</p>			

宇賀克也『行政法概説3〔第4版〕』(有斐閣, 2015年)
 櫻井敬子・橋本博之『行政法〔第5版〕』(弘文堂, 2016年)
 宇那木正寛『自治体政策立案入門』(ぎょうせい, 2015年)

成績の評価基準

演習における(1)出席状況、(2)報告内容、(3)討論への参加の積極性を中心として、ゼミ運営についての関与度なども含めて総合的に評価します。

なお、報告をしない場合はもちろん、欠席が多い場合、事前の連絡なく欠席した場合も単位を与えないことがあるので注意して下さい。

オフィスアワー

オフィスアワーは特に設けず、研究室在室中はできる限り対応したいと思います。ただし、不在の場合もあるので、事前にメールで日程調整をすることを勧めます。

アクティブ・ラーニング

プレゼンテーション;

アクティブ・ラーニング(その他の内容)

アクティブ・ラーニング(授業回数)

15回中15回

備考(受講要件)

公共課題における課題解決において行政法がいかなる役割を果たしているかについて真剣に学びたいという意欲のある学生の参加を歓迎します。

ゼミ参加者は、報告・討論については、もちろん、ゼミの運営についても主体的かつ能動的な役割を果たすことを求めます。

ゼミが共に学ぶ者の組織である以上、ゼミ参加者は、ゼミ運営における約束を守り、挨拶や連絡といった最低限のマナーを守ることはもちろん、自己の行動や発言に責任を持たなければなりません。

ゼミの主役は参加者ひとりひとりです。共に学び、共に悩み、共に成長しましょう。

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
FHS-BBB2301			
科目名			
演習I(刑法)(旧 演習)			
英語名			
Seminar I:Criminal Law			
開講学科		コース	
法経社会学科法学コース 新旧共通			
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会・法学コース/必修科目	演習	2単位	3年
担当教員		連絡先(TEL)	連絡先(MAIL)
上原大祐		099-285-7626	embryo@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
		前期	
授業概要			
刑法に関する文献を分析し、全員で討論を行う。基本的に、毎回発表者を決め、各自担当の文献に関して分析・報告し、その後、全員で討論を行う、という形を採る。報告の仕方に関しては、授業の最初に指示する。また、模擬裁判等のアクティブ・ラーニングを通じて、刑事法学の知識を体験的に修得することを目指す。			
学修目標			
文献の分析の仕方およびその報告の仕方を習得する。講義等で得た知識を手実際に適用する方法を学ぶ。			
授業計画			
(前期)			
第1回 ガイダンス。各自担当する文献の決定。報告の仕方に関する指導。			
第2回～第15回 報告と討論(模擬裁判等を行うこともある)			
授業外学習(予習・復習)			
報告者・司会者は報告/司会の準備に努力を要する。			
教科書			
特になし			
参考書			
必要に応じて指示する。			
成績の評価基準			
授業への取り組み態度(報告, 討論中の発言等)を総合的に評価する。			
オフィスアワー			
研究室在室時			
アクティブ・ラーニング			
グループワーク; ディベート;			
アクティブ・ラーニング(その他の内容)			
15回中15回			
アクティブ・ラーニング(授業回数)			
備考(受講要件)			
刑法理論に関する基本的な知識を備えていることが望ましい。			
実務経験のある教員による実践的授業			

ナンバリングコード			
FHS-BBB2301			
科目名			
演習I(租税法)(旧 演習)			
英語名			
Seminar I:Tax Law			
開講学科		コース	
法経社会学科法学コース 新旧共通			
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会・法学コース/必修科目	演習	2単位	3年
担当教員		連絡先(TEL)	連絡先(MAIL)
鳥飼貴司		099-285-7623	torikai@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
		前期	
授業概要			
前期は、重要租税判例の報告・討論を通じて各人の問題提起力と議論展開力を養成する。			
学修目標			
1. 主要な租税法規・租税判例を知る。 2. 卒業論文作成における基礎力を養う。			
授業計画			
(前期)			
第1回	ガイダンス		
第2回~第14回	発表と討論		
第15回	まとめ		
授業外学習(予習・復習)			
【予習】 報告担当者以外の受講生も、テーマに関する意見や質問を事前に考え、調べておくこと			
【復習】 提示されたレジュメ、意見や質問を踏まえて、もう一度テーマ全体について考えること			
教科書			
特にない。			
参考書			
『租税判例百選 第6版』有斐閣 『租税法判例六法』有斐閣 金子宏『租税法』弘文堂 三木義一『よくわかる税法入門』有斐閣 三木義一・中村芳昭編『演習ノート租税法〔第3版〕』法学書院			
成績の評価基準			
授業への取り組み態度			
オフィスアワー			
講義後に話かけるのは自由。 その他の場合、事前にメールで面会交渉をすること。			
アクティブ・ラーニング			
ディベート; プレゼンテーション;			
アクティブ・ラーニング(その他の内容)			
アクティブ・ラーニング(授業回数)			
15回中15回			
備考(受講要件)			

特になし

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
科目名			
演習I(商法)(旧 演習)			
英語名			
Seminar I:Business Law			
開講学科		コース	
法経社会学科法学コース 新旧共通			
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会・法学コース/必修科目	演習	2単位	3年
担当教員	連絡先(TEL)	連絡先(MAIL)	
志田惣一	285-7637	icns@leh.kagoshima-u.ac.jp	
共同担当教員	前後期 後期		
授業概要			
会社法に関する具体的な事例を分析しいかなる法的問題点があるか、その解決策はどうかを検討する。			
学修目標			
会社法に触れる。条文をよむ。			
1 基本的な法的知識の習得			
2 基本的な思考法の習得の準備			
3 自学自習で条文・教科書を読み進められる読解力の涵養			
授業計画			
1 から 15 回			
会社法の個別問題についての検討			
授業外学習(予習・復習)			
学生の報告を中心に演習を進める。			
教科書			
伊藤靖史他編『事例で考える会社法』(有斐閣)			
参考書			
岩原神作他編『会社法判例百選』(有斐閣)			
成績の評価基準			
平常点			
オフィスアワ -			
火曜 2 限			
アクティブ・ラーニング			
アクティブ・ラーニング(その他の内容)			
アクティブ・ラーニング(授業回数)			
備考(受講要件)			
実務経験のある教員による実践的授業			

ナンバリングコード			
科目名			
演習I(社会保障法)(旧 演習)			
英語名			
Seminar I:Social Security Law			
開講学科		コース	
法経社会学科法学コース 新旧共通			
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会・法学コース/必修科目	演習	2単位	3年
担当教員	連絡先(TEL)	連絡先(MAIL)	
伊藤周平	099-285-7652		
共同担当教員	前後期 後期		
授業概要			
小冊子の作成を行う。			
学修目標			
前期と同じ。			
授業計画			
第1回～第15回：グループに分かれ、社会保障法に関するテーマをひとつとりあげ(昨年は改正介護保険法をとりあげた)、討議し、わかりやすい小冊子をつくる。 ガイダンス1回 小冊子の作成に向けた発表13回 打ち合わせ1回			
授業外学習(予習・復習)			
教科書			
特になし。			
参考書			
特になし。			
成績の評価基準			
平常点			
オフィスアワ -			
アクティブ・ラーニング			
アクティブ・ラーニング(その他の内容)			
アクティブ・ラーニング(授業回数)			
備考(受講要件)			
実務経験のある教員による実践的授業			

ナンバリングコード			
FHS-BBB2301			
科目名			
演習I (国際関係論) (旧 演習)			
英語名			
Seminar I: International Relations			
開講学科		コース	
法経社会学科法学コース 新旧共通			
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会・法学コース / 必修科目	演習	2単位	3年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
木村朗		099-285-7654	kimura@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
なし		前期	
授業概要			
過去と現在の重要な国際問題 (特に紛争および戦争) を取り上げ、その背景・原因を探るとともに、国際社会のあるべき対応や解決の方向性などを検討する。前期はテキスト・サブテキストを中心に統一テーマで毎回報告者・討論者を決めて全員参加で報告・討論を行う。後期は、前半では前期を継続する形で行い、後半では各自あるいはグループ別の報告・討論を実施する。			
学修目標			
(1) 国際問題に対する基本的な知識と分析視角・方法を学ぶことができる。			
(2) 各自の問題意識に従って主体にテーマを選択し、具体的な国際紛争の解決策を体現できるようにする。			
授業計画			
< 前期 >			
第 1 回	授業の進め方の説明		
第 2 回 ~ 第 1 4 回	報告および討論		
第 1 5 回	まとめ		
< 後期 >			
第 1 回	授業の進め方の説明		
第 2 回 ~ 第 1 4 回	報告および討論		
第 1 5 回	まとめ		
授業外学習 (予習・復習)			
9月にゼミ研修旅行・ゼミ合宿を行う予定。			
教科書			
テキストは、演習開始時に指示する。サブテキストとして、雑誌『世界』を用いる。			
参考書			
適宜授業の中で紹介する。			
成績の評価基準			
授業への取り組み態度、報告書 (総合的に評価)			
オフィスアワ -			
毎週月曜日 3 限目			
アクティブ・ラーニング			
アクティブ・ラーニング (その他の内容)			
アクティブ・ラーニング (授業回数)			
備考 (受講要件)			
特になし			
実務経験のある教員による実践的授業			

ナンバリングコード			
FHS-BBB2301			
科目名			
演習I(刑法)(旧 演習)			
英語名			
Seminar I:Criminal Law			
開講学科		コース	
法経社会学科法学コース 新旧共通			
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会・法学コース/必修科目	演習	2単位	3年
担当教員	連絡先(TEL)	連絡先(MAIL)	
上原大祐	099-285-7626	embryo@leh.kagoshima-u.ac.jp	
共同担当教員		前後期	
		後期	
授業概要			
刑法/刑事政策に関し、文献を分析し、討論を行う。また、刑事政策分野に関して、特定の問題点に関する現状をまず分析し、その上で、問題を解決するための解決方法としてどのようなものが考えられるか、議論を行い、政策立案を行う。			
学修目標			
1. 文献の分析の仕方およびその報告の仕方を習得する。 2. 現状を踏まえた上での、政策立案能力を養う			
授業計画			
(後期) 第1回 ガイダンス。各自担当する文献の決定。 第2回~第15回 報告と討論			
授業外学習(予習・復習)			
報告者・司会者は報告/司会の準備に努力を要する。			
教科書			
特になし			
参考書			
必要に応じて指示する。			
成績の評価基準			
授業への取り組み態度(報告, 討論中の発言等)を総合的に評価する。			
オフィスアワ -			
研究室在室時			
アクティブ・ラーニング			
グループワーク; ディベート;			
アクティブ・ラーニング(その他の内容)			
アクティブ・ラーニング(授業回数)			
15回中15回			
備考(受講要件)			
刑法理論に関する基本的な知識を備えていることが望ましい。 実務経験のある教員による実践的授業			

ナンバリングコード			
FHS-BBB2301			
科目名			
演習I(租税法)(旧 演習)			
英語名			
Seminar I:Tax Law			
開講学科		コース	
法経社会学科法学コース 新旧共通			
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会・法学コース/必修科目	演習	2単位	3年
担当教員	連絡先(TEL)	連絡先(MAIL)	
烏飼貴司	099-285-7623	torikai@leh.kagoshima-u.ac.jp	
共同担当教員		前後期	
		後期	
授業概要			
後期は、鹿児島税務署の「租税教室」への参加及びプレ卒業論文の作成。			
学修目標			
1. 主要な租税法規・租税判例を知る。 2. 卒業論文作成における基礎力を養う。			
授業計画			
(後期)			
第1回~第14回	発表と討論		
第15回	まとめ		
授業外学習(予習・復習)			
【予習】 報告担当者以外の受講生も、テーマに関する意見や質問を事前に考え、調べておくこと			
【復習】 提示されたレジュメ、意見や質問を踏まえて、もう一度テーマ全体について考えること			
教科書			
特になし。			
参考書			
中里実・増井良啓編『租税判例六法』有斐閣 『租税判例百選』有斐閣 『憲法判例百選』有斐閣 金子宏『租税法』弘文堂 三木義一『よくわかる税法入門』有斐閣			
成績の評価基準			
3分の2以上の出席			
オフィスアワー			
講義後に話かけるのは自由。 その他の場合、事前にメールで面会交渉をすること。			
アクティブ・ラーニング			
グループワーク; ディベート; プレゼンテーション;			
アクティブ・ラーニング(その他の内容)			
アクティブ・ラーニング(授業回数)			
15回中15回			
備考(受講要件)			
特になし			
実務経験のある教員による実践的授業			

キャリア体験実習（旧 行政・企業体験実習（法政策学科））
ナンバリングコード

科目名

キャリア体験実習（旧 行政・企業体験実習（法政策学科））

英語名

Internship

開講学科

コース

法経社会学科法学コース 新旧共通

授業科目区分

授業形態

単位数

開講期

法経社会・法学コース/選
択科目

実習

1単位

3年

担当教員

連絡先（TEL）

連絡先（MAIL）

未定

共同担当教員

前後期

前期

授業概要

学生が、県内の行政機関又は企業等において1週間程度の実務体験を行い、その成果を実習後の学習や就職活動に生かすことを目的とする。

学修目標

就職について、自分なりの指針を見つける。

授業計画

学生に対する説明会（実習先希望調査等）を実施後、受入実施機関と調整の上、インターンシップ・ガイダンスを開催し、各学生は実習機関で実習を行う。

詳細については、後日掲示する。

授業外学習（予習・復習）

（予習・復習）実習先での指示による

教科書

参考書

成績の評価基準

レポート（具体的には、後日掲示する。）

オフィスアワ -

アクティブ・ラーニング

アクティブ・ラーニング（その他の内容）

アクティブ・ラーニング（授業回数）

備考（受講要件）

南九州税理士会でのインターンシップを希望する学生については、実習時までに簿記3級程度の知識と、税法に関する科目を履修していることが望ましい。

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
FHS-BBC1308			
科目名			
民法総則（旧 民法総論）			
英語名			
General Provisions of Civil Code			
開講学科		コース	
法経社会学科法学コース 新旧共通			
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会・法学コース/選択科目	講義	2単位	1～4年
担当教員	連絡先（TEL）	連絡先（MAIL）	
阿部純一	099-285-7645	jave@leh.kagoshima-u.ac.jp	
共同担当教員		前後期	
なし		後期	
授業概要			
<p>本講義では、民法の共通ルールである民法総則の各制度及びこれに関連する判例・学説の状況について学習する。民法は、私たちの生活の中でも最も身近な法分野である一方で、その対象となる社会現象の多さや抽象的な規定振りに戸惑う者も少なくない。そこで、本講義では、受講者が具体的なイメージを持てるように、できる限り具体的な事例を中心に据えて検討を加えていきたい。</p>			
学修目標			
<ul style="list-style-type: none"> ・民法の全体的なイメージを把握する ・民法総則に関する基本的な制度を理解する 			
授業計画			
第01回：ガイダンス・民法の世界			
第02回：民法の主体と客体1（権利能力、意思能力）			
第03回：民法の主体と客体2（行為能力と制限行為能力者制度、物）			
第04回：法律行為1（法律行為と意思表示、契約の成立）			
第05回：法律行為2（公序良俗、契約の解釈）			
第06回：意思表示1（心裡留保、通謀虚偽表示）			
第07回：意思表示2（錯誤）			
第08回：意思表示3（詐欺、強迫）			
第09回：代理制度1（代理の意義、代理人、代理行為）			
第10回：代理制度2（無権代理）			
第11回：代理制度3（表見代理）			
第12回：時効制度1（時効制度の概要）			
第13回：時効制度2（取得時効と消滅時効）			
第14回：民法の主体と客体3（法人制度、権利能力なき社団）			
第15回：まとめ			

* 授業計画については、授業の進行状況に応じて若干変更する場合がある。

授業外学習(予習・復習)

【予習】事前にレジュメ・参考書等に目を通してから授業に臨むこと(45分)

【復習】授業後に「確認テスト」によって理解を確認すること(1時間)

教科書

・佐久間毅『民法の基礎1 総則(第4版)』(有斐閣、2018年)

参考書

・潮見佳男=道垣内弘人編『民法判例百選1 総則・物権(第8版)』(有斐閣、2018年)

* 以下は、授業の内容をより深く理解するための参考書であり、必要に応じて図書館で確認すること(各参考書については、初回授業で説明する)。

【民法の入門書】

- ・我妻榮『民法案内1 私法の道しるべ(第2版)』(勁草書房、2013年)
- ・道垣内弘人『リーガルベイス民法入門(第3版)』(日本経済新聞出版社、2019年)
- ・潮見佳男『民法(全)(第2版)』(有斐閣、2019年)
- ・山本敬三『民法の基礎から学ぶ民法改正』(岩波書店、2017年)
- ・潮見佳男ほか編『18歳からはじめる民法(第3版)』(法律文化社、2017年)

【総則】

- ・池田真朗『スタートライン民法総論(第3版)』(日本評論社、2018年)
- ・近江幸治『民法講義1 民法総則(第7版)』(成文堂、2018年)
- ・遠藤研一郎『基本テキスト 民法総則』(中央経済社、2018年)
- ・大村敦志『新基本民法 総則編』(有斐閣、2017年)
- ・山野目章夫『民法概論1 民法総則』(有斐閣、2017年)
- ・原田昌和=寺川永=吉永一行『民法総則(補訂版)』(日本評論社、2018年)
- ・四宮和夫=能見善久『民法総則(第9版)』(弘文堂、2018年)
- ・池田真朗編『民法Visual Materials(第2版)』(有斐閣、2017年)

【民法(債権法)改正関係】

- ・潮見佳男『民法(債権関係)改正法の概要』(きんざい、2017年)
- ・中田裕康ほか『講義 債権法改正』(商事法務、2017年)
- ・筒井健夫=松村秀樹編『一問一答 民法(債権関係)改正』(商事法務、2018年)
- ・山野目章夫『新しい債権法を読みとく』(商事法務、2017年)

成績の評価基準

授業への取り組み態度: 20%

期末試験: 80%

オフィスアワー

火曜日2限(研究室)

アクティブ・ラーニング

学習の振り返り(ミニッツ・ペーパー等);

アクティブ・ラーニング(その他の内容)

アクティブ・ラーニング(授業回数)

15回中14回

備考(受講要件)

授業には六法を必ず持参すること。

教科書・参考書については初回授業で説明する(説明を聞いてから購入を検討すればよい)。

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
FHS-BBC2324			
科目名			
債権法II(旧 現代不法行為法)			
英語名			
Debtor and Creditor II			
開講学科		コース	
法経社会学科法学コース 新旧共通			
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会・法学コース/選択科目	講義	2単位	2~4年
担当教員		連絡先(TEL)	連絡先(MAIL)
阿部純一		099-285-7645	jave@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
なし		後期	
授業概要			
<p>本講義では、民法の事務管理・不当利得・不法行為(法定債権)に関する基本的な制度の理解を目指す。これらの制度については、民法697条から724条の2までのわずか29条において規律される一方で、判例・学説による理論が展開されてきた分野の一つでもある。本講義では、法の解釈を通じた法形成の実際の展開について理解することも目標とする。</p>			
学修目標			
<ul style="list-style-type: none"> ・事務管理・不当利得・不法行為の基本的知識を習得する ・関連する法解釈の実際について学ぶ 			
授業計画			
第01回: ガイダンス、法定債権総説(法定債権とは何か?、財産法における法定債権の位置づけ)			
第02回: 事務管理(事務管理総説、事務管理の成立要件・効果、準事務管理)			
第03回: 不当利得1(不当利得とは何か?、一般不当利得の成立要件)			
第04回: 不当利得2(一般不当利得の効果、特殊の不当利得)			
第05回: 不法行為法総説(不法行為制度の意義と機能、不法行為法の基本原理、不法行為法の構造)			
第06回: 不法行為の要件1(故意・過失、権利・法益侵害)			
第07回: 不法行為の要件2(損害、因果関係)			
第08回: 不法行為の要件3(責任能力、不法行為阻却事由)			
第09回: 不法行為の効果1(損害賠償の範囲、損害の金銭的評価、損害額の調整)			
第10回: 不法行為の効果2(損害賠償請求権者、損害賠償請求権と時効、差止請求)			
第11回: 不法行為の効果3(損害賠償請求権と相殺、後遺症と示談、請求権の競合)			
第12回: 特殊な不法行為1(責任無能力者の監督義務者の責任、使用者責任)			
第13回: 特殊な不法行為2(工作物責任、製造物責任)			
第14回: 共同不法行為			
第15回: まとめ			

* 授業計画については、授業の進行状況に応じて若干変更する場合がある。

授業外学習(予習・復習)

【予習】事前にレジュメ・教科書等に目を通してから授業に臨むこと(45分)

【復習】授業後に各自で内容を復習すること(1時間)

教科書

指定しない(参考書の中から一冊を各自で選択して準備すること)

参考書

・窪田充見=森田宏樹編『民法判例百選2 債権(第8版)』(有斐閣、2018年)

* 以下は、授業の内容をより深く理解するための参考書である(各参考書については、初回授業で説明する)。

- ・窪田充見『不法行為法 民法を学ぶ(第2版)』(有斐閣、2018年)
- ・大村敦志『新基本民法6 不法行為編』(有斐閣、2015年)
- ・吉村良一『不法行為法(第5版)』(有斐閣、2017年)
- ・前田陽一『債権各論2 不法行為法(第3版)』(弘文堂、2017年)
- ・野澤正充『事務管理・不当利得・不法行為(第2版)』(日本評論社、2017年)
- ・潮見佳男『債権各論1 契約法・事務管理・不当利得(第3版)』(新世社、2017年)
- ・潮見佳男『債権各論2 不法行為法(第3版)』(新世社、2017年)
- ・近江幸治『民法講義6 事務管理・不当利得・不法行為(第3版)』(成文堂、2018年)
- ・潮見佳男『民法(債権関係)改正法の概要』(きんざい、2017年)
- ・大村敦志=道垣内弘人編『解説 民法(債権法)改正のポイント』(有斐閣、2017年)
- ・中田裕康ほか『講義 債権法改正』(商事法務、2017年)

成績の評価基準

授業への取り組み態度: 20%

期末試験: 80%

オフィスアワー

火曜日2限(研究室)

アクティブ・ラーニング

学習の振り返り(ミニッツ・ペーパー等);

アクティブ・ラーニング(その他の内容)

アクティブ・ラーニング(授業回数)

15回中14回

備考(受講要件)

授業には六法を必ず持参すること。

テキスト・参考書については初回授業で説明する。

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード

科目名

物権法II(旧 法律学特殊講義(担保物権法))

英語名

Ownership, Possession, Various Tenancy and Collateral II

開講学科

コース

法経社会学科法学コース 新旧共通

授業科目区分

授業形態

単位数

開講期

法経社会・法学コース/選
択科目

講義

2単位

2~4年

担当教員

連絡先(TEL)

連絡先(MAIL)

植本幸子

kagoshima-u.ac.jp(下記と組み合
わせよ。タイトル部分に必ず授業名
と学年・氏名を表記のこと。)

uemt05@leh.

共同担当教員

前後期

後期

授業概要

・担保物権を中心に、担保物権と担保物権以外の他物権についての講義を行う。

学修目標

- ・他物権に関するテクニカルタームを理解する。
- ・他物権に関連する主要な問題について、登場する当事者の利害関係と権利関係をイメージすることができる。
- ・他物権に関する主要な問題点を理解するために、学説や判例についての基本書や学習用判例集の記述を正確に読みとる能力を身につける。

授業計画

- 第1回 ガイダンス、物権の種類、担保物権以外の他物権
- 第2回 人的担保と物的担保、相殺の概要、担保物権の意義と性質
- 第3回 留置権その1
- 第4回 留置権その2
- 第5回 先取特権その1
- 第6回 先取特権その2
- 第7回 優先権相互の順位
- 第8回 質権
- 第9回 抵当権1(被担保債権)
- 第10回 抵当権2(目的物の範囲、物上代位)
- 第11回 抵当権3(法定地上権と一括競売)
- 第12回 抵当権4(実行前の効力、順位の変更)
- 第13回 抵当権5(実行、消滅、根抵当、抵当証券)
- 第14回 譲渡担保権その1
- 第15回 譲渡担保権その2

- 第5回 物権変動、対抗要件その1 (概要、公示と公信)
- 第6回 対抗要件その2 (登記)、登記と時効等
- 第7回 即時取得
- 第8回 占有その1 (占有、占有訴権)
- 第9回 占有その2 (占有移転の対応)
- 第10回 所有権
- 第11回 相隣関係
- 第12回 共有
- 第13回 区分所有
- 第14回 用益物権その1 (地上権、借地借家法)
- 第15回 用益物権その2 (永小作権、地役権)

授業外学習 (予習・復習)

(予習)

上記「授業計画」やレジメに照らして教科書と条文に目を通す。その際には、どの部分に何が書いてあるのかを前後の頁を開ける程度に把握し、自分で読んでわからない部分をチェックしておく。

(復習)

プリントとノートを見直し、教科と条文に照らし合わせ、テストで再現することを念頭において記憶の定着を図る (授業直後、一週間後、テスト対策期間の3回が望ましい)。

教科書

道垣内弘人・担保物権法 [第4版] 有斐閣 2017年(2019年8月5日時点)

上記時点以降に最新版が出た場合にはそちらを推奨する。

参考書

- ・六法を必ず用意すること。有斐閣、岩波、三省堂のものから判例や解説のついていないものを選ぶこと。(期末試験においては、判例のついていない六法の持ち込みを認める。)
- ・授業中は判例付の六法を用いて差し支えない。

・物権法?で使用した教科書等。

成績の評価基準

- ・授業への取り組み態度 (発言について無言はマイナス。正答は加点。)
- ・小テスト等への取り組み態度 (正誤は問わない))。
- ・期末試験

オフィスアワ -

追って指示する。

アクティブ・ラーニング

学習の振り返り (ミニッツ・ペーパー等) ;

アクティブ・ラーニング (その他の内容)

アクティブ・ラーニング (授業回数)

備考 (受講要件)

- ・債権法?を同時履修か履修済みが望ましい。
- ・債権法?と本物権法?は、実世界で使われる重要なものでありながら、基本的に当事者関係が複雑で難しいため、とにかくめげずに挑戦されたい。

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
FHS-BBC2334			
科目名			
国際関係論			
英語名			
International Relations			
開講学科		コース	
法経社会学科法学コース 新旧共通			
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会・法学コース/選択科目	講義	2単位	2～4年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
木村朗		099-285-7654	kimura@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
なし		前期	
授業概要			
第二次世界大戦直後に開始された冷戦や朝鮮戦争、ヴェトナム戦争、湾岸戦争などのなどの国際紛争を取り上げ、その問題の背景・原因を分析・考察する。その際、特に、過去と現在との関連、政府と国民の区別、権力とメディアの関係といった視点を重視しながら、国際関係の基本的構造と特徴・問題点を明らかにする。 また、必要に応じて適宜日本内外の時事問題を取り上げて解説する。			
学修目標			
(1) 国際問題に対する基本的な知識を身に修得することができる。 (2) 国際問題に対する分析視角・方法を学ぶことができる。 (3) 独自の問題意識を育成することができる。			
授業計画			
第1回	入門 - 授業方法の確認		
第2回	冷戦の起源		
第3回	ヤルタ会談		
第4回	沖縄戦の記録		
第5回	朝鮮戦争		
第6回	日米安全保障条約の成立		
第7回	ヴェトナム戦争		
第8回	沖縄返還		
第9回	冷戦の終焉		
第10回	湾岸戦争		
第11回	ボスニア紛争		
第12回	NATO空爆		
第13回	9・11事件の衝撃		
第14回	新しい帝国秩序		
第15回	総括 - 新しい戦争と新世界秩序		
授業外学習 (予習・復習)			
教科書			
テキストは、演習開始時に指示する。			
参考書			
適宜授業の中で紹介する。			
成績の評価基準			
授業への取り組み態度、レポート 小テストなどを含めて総合的に評価			
オフィスアワー			
月曜日・3時限・研究室			
アクティブ・ラーニング			
学習の振り返り (ミニッツ・ペーパー等) ;			
アクティブ・ラーニング (その他の内容)			

アクティブ・ラーニング（授業回数）

15回のうち14回行う

備考（受講要件）

適宜関連したビデオ・DVDの視聴を行う

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
FHS-BBC2321			
科目名			
刑法総論II (旧 刑法特論)			
英語名			
Criminal Law:General PartII			
開講学科		コース	
法経社会学科法学コース 新旧共通			
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会・法学コース/選択科目	講義	2単位	2～4年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
上原大祐		099-285-7626	embryo@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
		後期	
授業概要			
<p>刑法学は、犯罪行為を行った者に刑罰を科すための要件としての犯罪がどのように成立するか、を学ぶ学問であるが、その内容として、刑法総論と各論とに大別される。本講義では、刑法総論の後半部分について講義する。</p>			
学修目標			
<p>(1) 刑法総論の基礎的知識を学ぶ。 (2) 犯罪論の体系的理論構造を理解する。 (3) 犯罪論における基礎理論を理解する。</p>			
授業計画			
第1回	違法論総論		
第2回	違法性阻却事由・壹 (正当行為)		
第3回	違法性阻却事由・貳 (正当防衛)		
第4回	違法性阻却事由・参 (緊急避難)		
第5回	責任論・総論および責任能力		
第6回	責任論・故意 壹 (故意論総論)		
第7回	責任論・故意 貳 (錯誤論? 事実の錯誤)		
第8回	責任論・故意 参 (錯誤論? 違法性の錯誤)		
第9回	責任論・故意 四 (錯誤論? 規範的事実の錯誤)		
第10回	責任論・過失 壹 (過失犯総論)		
第11回	責任論・過失 貳 (過失犯の諸問題)・期待可能性		
第12回	共犯論・壹 (共犯総論)		
第13回	共犯論・貳 (共同正犯)		
第14回	共犯論・参 (教唆犯と幫助犯)		
第15回	共犯論・四 (共犯における諸問題)		
期末試験			
授業外学習 (予習・復習)			
予習: シラバスの次回の講義内容について扱った判例につき、教科書に目を通す。特に事実関係を把握しておく (所要時間30分)			
復習: 毎回、配布資料等を復習する (所要時間30分)			
教科書			
井田良・城下裕二編『刑法総論判例インデックス』(2011・商事法務)			
【『刑法総論』受講時に購入している場合は、改めて購入する必要はない】			
参考書			
木村光江『刑法 第3版』(2010・東京大学出版会)			
成績の評価基準			
<p>通常の授業の履修態度および期末試験を総合して評価する。 なお、法学コースの学生については、秀(90点以上)とする人数の上限を成績評価対象者(他コース・他学科に所属する学生を除く)の20%以内とする。</p>			

オフィスアワ -

研究室在室時

アクティブ・ラーニング

学習の振り返り(ミニッツ・ペーパー等);

アクティブ・ラーニング(その他の内容)

アクティブ・ラーニング(授業回数)

備考(受講要件)

刑法総論?を受講していることが望ましい。なお、授業には必ず六法を持参すること。

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
FHS-BBC2327			
科目名			
会社法I (旧 企業の法システム)			
英語名			
Corporation Law I			
開講学科		コース	
法経社会学科法学コース 新旧共通			
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会・法学コース/選択科目	講義	2単位	2~4年
担当教員	連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)	
志田惣一	099-285-7653	icns@leh.kagoshima-u.ac.jp	
共同担当教員		前後期	
		後期	
授業概要			
この授業では、第4期に開講される「企業組織法」との接続を考慮して、会社の概念、会社の類型と種類、会社法の総則規定、株式会社の特質、株式会社の設立、株式、新株の発行、新株予約権などを中心に講義します。			
学修目標			
(1) 商取引に関する法律および会社法の基本的な考え方を理解する。 (2) 会社の概念、その種類と特質を理解する。 (3) 会社の設立手続を理解する。 (4) 株式会社における株式の意義と機能を理解する。 (5) 会社に関する法律問題を題材に、法的な思考能力を身につける。			
授業計画			
第1回 ガイダンス 第2回 会社の意義・種類 第3回 会社の法人性(権利能力、法人格否認) 第4回 会社法総則 第5回 株式会社の設立(設立手続き) 第6回 株式会社の設立(設立に関する責任) 第7回 株式会社の設立(設立中の法律関係) 第8回 株式(株式の意義) 第9回 株式(株式の内容と種類) 第10回 株式(株式の流通) 第11回 株式(株式の消却・分割・併合、単元株) 第12回 株式会社の資金調達 第13回 募集株式の発行 第14回 株式発行の瑕疵 第15回 新株予約権			
授業外学習(予習・復習)			
予習として、各回の講義項目につき、教科書の該当する部分を読むこと。また、復習として、講義で話したことを参考に、各講義項目につきまとめをすること。			
教科書			
神田秀樹『会社法』(弘文堂)			
参考書			
江頭憲治郎・岩原伸作・神作裕之・藤田友編『会社法判例百選』(有斐閣)			
成績の評価基準			
期末試験(70%)、レポート点(20%)、授業への参加度(10%)を総合的に評価する。			
オフィスアワ -			
火曜日2限(研究室)			
アクティブ・ラーニング			

ディベート; 学習の振り返り (ミニッツ・ペーパー等);

アクティブ・ラーニング (その他の内容)

アクティブ・ラーニング (授業回数)

15回中5回

備考 (受講要件)

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
科目名			
刑法総論I (旧 刑法総論)			
英語名			
Criminal Law:General PartII			
開講学科		コース	
法経社会学科法学コース 新旧共通			
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会・法学コース/選択科目	講義	2単位	2~4年
担当教員	連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)	
上原大祐	099-285-7626	embryo@leh.kagoshima-u.ac.jp	
共同担当教員		前後期	
		前期	
授業概要			
<p>刑法学は、犯罪行為を行った者に刑罰を科するための要件としての犯罪がどのように成立するか、を学ぶ学問であるが、その内容として、刑法総論と各論とに大別される。本講義では、刑法総論の前半部分について講義する。</p>			
学修目標			
<p>(1) 刑法総論の基礎的知識を学ぶ。 (2) 犯罪論の体系を学ぶ。 (3) 犯罪論における基礎理論を学ぶ。</p>			
授業計画			
第1回	ガイダンス、刑法の意義および機能 (刑罰正当化根拠論)		
第2回	罪刑法定主義 壹(罪刑法定主義の古典的原理)		
第3回	罪刑法定主義 貳(罪刑法定主義の派生的原理)		
第4回	犯罪論体系		
第5回	構成要件論・概論		
第6回	構成要件論・正犯性		
第7回	構成要件論・不作為犯		
第8回	構成要件論・因果関係 壹(条件関係)		
第9回	構成要件論・因果関係 貳(因果関係を巡る学説状況)		
第10回	構成要件論・主観的構成要件要素		
第11回	構成要件論・未遂犯		
第12回	構成要件論・不能犯		
第13回	構成要件論・中止犯		
第14回	罪数論		
第15回	まとめ		
授業外学習 (予習・復習)			
<p>予習：シラバスの次回の講義内容について扱った判例につき、教科書に目を通す。特に事実関係を把握しておく (所要時間30分) 復習：毎回、配布資料等を復習する (所要時間30分)</p>			
教科書			
井田良・城下裕二編『刑法総論判例インデックス』(2011・商事法務)			
参考書			
木村光江『刑法 第3版』(2010・東京大学出版会)			
成績の評価基準			
通常の授業の履修態度および期末試験を総合して評価する。			
オフィスアワ -			
研究室在室時			
アクティブ・ラーニング			

アクティブ・ラーニング (その他の内容)

アクティブ・ラーニング (授業回数)

備考 (受講要件)

六法を必ず持参すること

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
FHS-BBC2310			
科目名			
社会保障法			
英語名			
Social Security Law			
開講学科		コース	
法経社会学科法学コース 新旧共通			
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会・法学コース/選択科目	講義	2単位	2～4年
担当教員		連絡先 (TEL)	
伊藤周平		099-258-7652	
共同担当教員		連絡先 (MAIL)	
授業概要			
1・2回の総論部分では、日本の社会保障をめぐる現状と課題をあきらかにし、憲法と社会保障法にかかわる問題を、いくつかの判例をもとに検討する。3回以降は、各論で、生活保護法、年金法、社会手当、労災保険法、雇用保険法などについて現状と課題を解説する。			
学修目標			
日本の社会保障の法体系の知識を学ぶだけでなく、政策提言ができるような応用力を修得することを目標とする。			
授業計画			
1 社会保障をめぐる現状と法体系 2 社会保障法と憲法 3 生活保護法(その1) 4 生活保護法(その2) 5 年金法(その1) 6 年金法(その2) 7 社会手当 8 労災保険法 9 雇用保険法 10 医療保障法(その1) 11 医療保障法(その2) 12 社会福祉法総論 13 介護保険法 14 児童福祉法 15 障害者福祉の法			
授業外学習(予習・復習)			
教科書			
伊藤周平『「保険化」する社会保障の法政策』法律文化社、2019年9月			
参考書			
『社会保障判例百選(第6版)』有斐閣、2016年、その他適宜指示する。			
成績の評価基準			
期末試験のみで評価。とくに出席はとらない。			
オフィスアワ -			
アクティブ・ラーニング			
ディベート;			
アクティブ・ラーニング(その他の内容)			

アクティブ・ラーニング（授業回数）

15回の授業のうち5回目、8回目、15回目の計3回で実施予定

備考（受講要件）

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード

FHS-BBC2337

科目名

刑法各論I (旧 犯罪と刑罰)

英語名

Criminal Law: Specific Offences I

開講学科

コース

法経社会学科法学コース 新旧共通

授業科目区分

授業形態

単位数

開講期

法経社会・法学コース/選
択科目

講義

2単位

2~4年

担当教員

連絡先 (TEL)

連絡先 (MAIL)

南由介

minamiy@leh.kagoshima-u.ac.jp

共同担当教員

前後期

後期

授業概要

刑法各論のうち財産犯を除く個人的法益、主要な社会的法益、国家的法益に関する犯罪についての講義を行います。刑法は法規範の一つですが、刑罰という峻厳な強制力を有する点に他の法規範には見られない特徴があり、それ故、条文解釈においては場当たり的にならないよう緻密な議論がなされています。他方、法益侵害が発生したならば適切な規定を適用し、社会秩序を維持して法益の保護が図られなければならないのも当然です。条文を解釈するにあたっては、メリット・デメリットを意識しながら結論を導くことが求められます。

刑法各論での学修は、各犯罪の法益および成立要件を明らかにしていくことが主たる目的となります。法益の捉え方次第によって、犯罪の成立要件が異なってきますので、その解釈は重要ですし、また、一つ一つの要件は犯罪の成否に直結するため、丁寧に解釈されなければなりません。本講義では、事例を頻繁に用いつつ、各犯罪の法益および成立要件を考察し、各犯罪を網羅的に解明していきます。

なお、講義はレジュメを配布し、それに従って進めていきます。

学修目標

以下の点の修得を目標とします。

1. 財産犯を除く個人的法益、主要な社会的法益、国家的法益に関する各犯罪の法益、成立要件を理解する。
2. 各犯罪の相違を理解し、区別ができるようにする。
3. 判例や主要な学説を理解し、多角的視野に基づいて結論を導くことができるようにする。

授業計画

- 第1回 生命に対する罪(1): 人の始期・終期
- 第2回 生命に対する罪(2): 自殺幇助・同意殺人罪と殺人罪の区別
- 第3回 身体に対する罪(1): 傷害罪・暴行罪
- 第4回 身体に対する罪(2): 凶器準備集合罪等
- 第5回 生命・身体に対する危険犯(1): 墮胎罪
- 第6回 生命・身体に対する危険犯(2): 遺棄罪
- 第7回 自由に対する罪(1): 脅迫罪・強要罪、逮捕・監禁罪
- 第8回 自由に対する罪(2): 略取誘拐罪、性的犯罪
- 第9回 個人の私的領域を侵す罪
- 第10回 名誉に対する罪
- 第11回 業務に対する罪
- 第12回 放火罪
- 第13回 文書偽造罪
- 第14回 公務執行妨害罪
- 第15回 賄賂の罪
- 第16回 試験

授業外学習(予習・復習)

【予習】 授業で扱う内容につき、教科書の該当箇所を読み、概要を把握する(約1時間)。

【復習】 授業で扱った内容につき、レジュメで復習し、理解が十分でない箇所は教科書で再確認する(約1時間)。

教科書

井田良 = 佐藤拓磨 『新論点講義シリーズ刑法各論・第3版』 (2017年) 弘文堂

参考書

井田良 = 佐藤拓磨編 『よくわかる刑法・第3版』 (2018年) ミネルヴァ書房

井田良 『入門刑法学・各論』 (2013年) 有斐閣

井田良 = 城下裕二 『刑法各論判例インデックス』 (2016年) 商事法務

井田良 『講義刑法学・各論』 (2016年) 有斐閣

成績の評価基準

期末試験 (100%) (持込み一切不可)

オフィスアワ -

研究室在室時

アクティブ・ラーニング

その他;

アクティブ・ラーニング (その他の内容)

適宜学生に質問し、教員と学生とで応答を重ねて、理解を促進を図ります。

アクティブ・ラーニング (授業回数)

全回

備考 (受講要件)

授業には六法を持参すること。刑法総論を並行して受講していることが望ましいですが、必要に応じて総論に関する事項につき補足しますので、それらの科目を受講していない人でも本講義を受講して構いません。

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
FHS-BBC2308			
科目名			
政治学			
英語名			
Political Science			
開講学科		コース	
法経社会学科法学コース 新旧共通			
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会・法学コース/選択科目	講義	2単位	2～4年
担当教員		連絡先 (TEL)	
平井一臣		8855	
共同担当教員		連絡先 (MAIL)	
		isshin@leh.kagoshima-u.ac.jp	
		前後期	
		後期	
授業概要			
政治学の基本的な知識や情報を踏まえたうえで、国際的に生起している出来事や日本政治の現在について理解する。			
学修目標			
本授業は、政治及び政治学についての基本的な考え方を学ぶとともに、先進社会の政治を理解することを基本的な課題としています。そのために、権力と権威、デモクラシーなどの基本的な概念や議会、政党、政治制度、国家などの政治学の用語の意味を理解し、それに基づいて、様々な政治現象について考えてみることを目標にしています。グローバル化、ポピュリズム、政治的無関心、国の内外で生起している出来事を政治学の知識や情報でより立体的・有機的に理解することができるはずです。			
授業計画			
<p>授業計画</p> <p>第1回：政治と政治学</p> <p>第2回：権力と権威</p> <p>第3回：国民国家とナショナリズム</p> <p>第4回：政治体制</p> <p>第5回：選挙と政治</p> <p>第6回：官僚制</p> <p>第7回：政党政治</p> <p>第8回：税と政治</p> <p>第9回：核と政治</p> <p>第10回：労働と政治</p> <p>第11回：性と政治</p> <p>第12回：グローバル化のなかの国民国家</p> <p>第13回：現代政治とポピュリズム</p> <p>第14回：日本政治の課題</p> <p>第15回：まとめ</p> <p>定期試験</p>			
授業外学習 (予習・復習)			
教科書や授業ノート等の該当箇所を読み返して、授業の内容を確認してください。			
教科書			
なし			
参考書			
授業の中で適宜紹介します。			
成績の評価基準			
定期試験により評価します。			
オフィスアワ -			
授業の後に相談に応じます。			
アクティブ・ラーニング			

学習の振り返り（ミニッツ・ペーパー等）；

アクティブ・ラーニング（その他の内容）

アクティブ・ラーニング（授業回数）

15回

備考（受講要件）

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
FHS-BBC2309			
科目名			
家族法（旧 家族の法と政策）			
英語名			
Family Law			
開講学科		コース	
法経社会学科法学コース 新旧共通			
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会・法学コース/選択科目	講義	2単位	2～4年
担当教員		連絡先（TEL）	連絡先（MAIL）
阿部純一		099-285-7645	jave@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
なし		前期	
授業概要			
本講義では、家族に関する問題が法的にどのように扱われているのかを理解するとともに、近年の家族を取り巻く社会状況や価値観の変化を踏まえた法政策的議論にも目を向け、家族と法の問題を多角的に検討する。			
学修目標			
<ul style="list-style-type: none"> ・親族法の基本的知識を習得する ・家族をめぐる現代的諸課題について考える 			
授業計画			
第01回：ガイダンス・家族法の世界（家族法の歴史、家事事件の手続、親族の範囲）			
第02回：婚姻の成立（婚姻意思、婚姻障害事由、婚姻の無効・取消）			
第03回：婚姻の効果1（夫婦の氏、同居協力扶助義務（貞操義務））			
第04回：婚姻の効果2（夫婦の財産）			
第05回：離婚の成立（離婚法総論、離婚原因、離婚の種類、有責配偶者からの離婚請求）			
第06回：有責配偶者からの離婚請求			
第07回：離婚の効果1（財産分与）			
第08回：離婚の効果2（子の監護・養育費）			
第09回：婚姻外の男女関係（内縁、事実婚、婚約）			
第10回：実親子関係（親子関係法総論、嫡出親子関係、非嫡出親子関係、準正）			
第11回：養親子関係（養子制度総論、普通養子縁組、特別養子縁組）			
第12回：虚偽の届出と親子関係			
第13回：生殖補助医療と親子法			
第14回：親権・扶養（親権者、親権の内容、親権の制限（児童虐待への法的対応）、扶養制度の概要）			
第15回：まとめ			
* 授業計画については、授業の進行状況に応じて若干変更する場合がある。			

授業外学習（予習・復習）

【予習】事前にレジュメ・教科書等に目を通してから授業に臨むこと（４５分）

【復習】授業後に各自で内容を復習すること（１時間）

教科書

指定しない（参考書の中から一冊を各自で選択して準備すること）

参考書

・水野紀子＝大村敦志編『民法判例百選３ 親族・相続（第２版）』（有斐閣、２０１８年）

* 以下は、授業の内容をより深く理解するための参考書である（各参考書については、初回授業で説明する）。

・高橋朋子＝床谷文雄＝棚村政行『民法７ 親族・相続（第５版）』（有斐閣、２０１７年）

・二宮周平『家族法（第５版）』（新世社、２０１９年）

・犬伏由子＝石井美智子＝常岡史子＝松尾知子『親族・相続法（第２版）』（弘文堂、２０１６年）

・窪田充見『家族法 民法を学ぶ（第３版）』（有斐閣、２０１７年）

・前田陽一＝本山敦＝浦野由紀子『民法６ 親族・相続（第４版）』（有斐閣、２０１７年）

・本山敦＝青竹美佳＝羽生香織＝水野貴浩『家族法（第２版）』（日本評論社、２０１９年）

・青竹美佳ほか『民法５ 親族・相続 判例３０！』（有斐閣、２０１７年）

成績の評価基準

授業への取り組み態度：２０％

期末試験：８０％

オフィスアワー

木曜日２限（研究室）

アクティブ・ラーニング

学習の振り返り（ミニッツ・ペーパー等）；

アクティブ・ラーニング（その他の内容）

アクティブ・ラーニング（授業回数）

１５回中１４回

備考（受講要件）

授業には六法を必ず持参すること。

テキスト・参考書については初回授業で説明する。

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
科目名			
法哲学（旧 法理論）			
英語名			
Legal Philosophy			
開講学科		コース	
法経社会学科法学コース 新旧共通			
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会・法学コース/選択科目	講義	2単位	2～4年
担当教員		連絡先（TEL）	連絡先（MAIL）
石川英昭			
共同担当教員		前後期	
		後期	
授業概要			
歴史的に変化してきた科学論を踏まえ、主に20世紀以降の法理論を講義する。			
学修目標			
様々な法理論を知ること、様々な法の理解が可能であることを認識させ、法についての各自自身の考えを深めることを目的とする。			
授業計画			
1. 法哲学とは何か？ 2. 法概念の定義の難しさ 3. 言葉の問題 4. 法哲学者の定義 5. 科学論の展開 6. 理論について 7. 法理論の科学化 (Austin) 8. 経験主義法理論 1 9. 経験主義法理論 2 (リアリズム法学) 10. 社会科学独自の方法 1 11. 社会科学独自の方法 2 (Kelsen) 12. HartおよびRaz 13. is/ought区別への対応 14. Dworkinn、及びその再考 15. 批判的法理論 16. 期末試験			
計画は、1単元1コマとは限らない。又、特に単元の1から6迄は、適宜変更もある。()内は、内容の例示。			
授業外学習（予習・復習）			
参考文献を読むこと。 レポートには十分な時間を準備すること。			
教科書			
特になし。			
参考書			
適宜指示する。			
成績の評価基準			
質問（10点）、レポート（テーマ及び締切は授業中に示す。）またはミニ・テスト（40点）、期末試験（50点）の総合点の判定による。尚、配点は、変更もある。 欠席は、理由の如何を問わず3回まで。欠席4回で自動的に評価の対象としない。尚、遅刻3回は欠席1回とする。また、欠席1回は総合点から3点減点する。			
オフィスアワ -			
授業中及び授業後に適宜行う。			

アクティブ・ラーニング

アクティブ・ラーニング(その他の内容)

アクティブ・ラーニング(授業回数)

備考(受講要件)

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
科目名			
国際法			
英語名			
International Law			
開講学科		コース	
法経社会学科法学コース 新旧共通			
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会・法学コース/選択科目	講義	2単位	2～4年
担当教員	連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)	
河野真理子	04-7147-3207	mkawano@waseda.jp	
共同担当教員		前後期	
		後期	
授業概要			
<p>国際法は、原則として国家間の関係を規律する法として、発展してきました。しかし、今日の国際社会では、国際法は国際社会全体の利益を保護するための法や、個人の権利義務を規律する法としての機能も担うようになっています。この授業では、国家間関係を規律する法としての国際法の基本的な原則について講義するとともに、新しい国際法の機能についても扱っていきたいと思います。それぞれの分野に関連する具体的な国際問題にも言及しつつ授業を行いたいと考えています。</p>			
学修目標			
<p>国際法の基本的な規則を学ぶことが主要な目的です。また、国際問題に国際法がどのように適用されるかを学ぶことを通じて、国際社会における国際法の役割を考えることができるようになることも目標とします。</p>			
授業計画			
<p>第1回：序（国際社会における国際法の機能） 第2回：国際法の主体としての国家 第3回：個人と国際組織の国際法上の地位 第4回：国際法の法源としての慣習国際法 第5回：国際法の法源としての条約 第6回：その他の国際法の法源 第7回：国際法と国内法 第8回：国際法上の責任 第9回：陸の国際法 第10回：海洋法 第11回：人と国際法 第12回：国際刑事法 第13回：国際環境法 第14回：国際社会の平和と安全の維持 第15回：国際社会における国際裁判の意義 第16回：試験</p>			
授業外学習（予習・復習）			
教科書			
<p>中谷和弘他『アルマ国際法』（有斐閣、2016年） 岩沢雄司編集代表『国際条約集2019』（有斐閣、2019年）</p>			
参考書			
成績の評価基準			
授業の最後に試験を行い、その結果に基づいた評価を行う			
オフィスアワー			
アクティブ・ラーニング			

アクティブ・ラーニング（その他の内容）

アクティブ・ラーニング（授業回数）

備考（受講要件）

令和元年度後期集中講義

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
科目名			
外国法特論（中国法）			
英語名			
開講学科		コース	
法経社会学科法学コース 新旧共通			
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会・法学コース/選択科目	講義	2単位	2～4年
担当教員		連絡先（TEL）	連絡先（MAIL）
張 秀娟			
共同担当教員		前後期	
		前期	
授業概要			
<p>中国と日本は一衣帯水の隣国であり、歴史的・文化的なつながりも深い。今日では、人や物の往来がますます盛んになり、両国は経済分野でも相互にきわめて重要な存在になってきており、中国の法制度を学ぶ意義と必要性も高まっている。この授業では、日本法との比較を視野に入れて、中国の法制度の構造、内容及び運用実態について講義する。</p>			
学修目標			
<p>中国の法制度の基礎知識について学び、中国法の全体像を理解するとともに、比較法的考察の素養を身につける。</p>			
授業計画			
第1回	現代中国法の歴史		
第2回	（中国）法と国家		
第3回	（中国）憲法		
第4回	（中国）裁判制度		
第5回	（中国）民法		
第6回	（中国）契約法（1）		
第7回	（中国）契約法（2）		
第8回	（中国）不法行為法（1）		
第9回	（中国）不法行為法（2）		
第10回	（中国）物権法（1）		
第11回	（中国）物権法（2）		
第12回	（中国）企業活動と法（1）		
第13回	（中国）企業活動と法（2）		
第14回	（中国）知的財産関係法		
第15回	まとめ		
<p>授業計画については、授業の進行状況に応じて若干変更する場合がある。</p>			
授業外学習（予習・復習）			
授業の際に指示する。			
教科書			
なし。レジュメを配布する。			
参考書			
高見澤磨＝鈴木賢＝宇田川幸則・現代中国法入門[第7版]（有斐閣,2016）			
田中信行・入門中国法（弘文堂,2013）			
小口彦太＝田中信行・現代中国法[第2版]（成文堂,2012）			
西村幸次郎・現代中国法講義〔第3版〕（法律文化社,2008）			
成績の評価基準			
期末試験による。			
オフィスアワ -			

アクティブ・ラーニング

学習の振り返り（ミニッツ・ペーパー等）；

アクティブ・ラーニング（その他の内容）

アクティブ・ラーニング（授業回数）

備考（受講要件）

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
科目名			
国際行動論			
英語名			
開講学科		コース	
法経社会学科法学コース 新旧共通			
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法政策学科/選択科目	講義	2単位	3～4年
担当教員	連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)	
平井一臣			
共同担当教員		前後期	
		後期	
授業概要			
戦後東アジアの国際関係の変化を、日韓関係を中心に考察する。			
学修目標			
戦後東アジアの国際関係がどのような歴史をたどったのか、そして現在どのような課題を抱えているのかを理解する。			
授業計画			
第1回：東アジア世界の戦後史			
第2回：日韓関係の時期区分			
第3回：植民地支配			
第4回：「解放」と分断			
第5回：大韓民国の成立			
第6回：朝鮮戦争			
第7回：韓国の政治変動			
第8回：日韓基本条約の締結			
第9回：70～80年代の日韓関係			
第10回：民主体制への移行			
第11回：日韓パートナー宣言			
第12回：日韓交流の拡大と摩擦			
第13回：変動する東アジアのなかの日韓関係			
第14回：文在寅政権と日本			
第15回：まとめ			
定期試験			
授業外学習 (予習・復習)			
授業のなかで適宜、授業外学習の課題と教材を紹介します。			
教科書			
教科書は使用しません。			
参考書			
授業中に紹介します。			
成績の評価基準			
定期試験をもとに評価します。			
オフィスアワー			
授業の終了後にオフィスアワーについては相談に応じます。			
アクティブ・ラーニング			
学習の振り返り (ミニッツ・ペーパー等) ;			
アクティブ・ラーニング (その他の内容)			
アクティブ・ラーニング (授業回数)			
15回			
備考 (受講要件)			

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
FHS-BBC2328			
科目名			
会社法II(旧 企業組織法)			
英語名			
Corporation Law II			
開講学科		コース	
法経社会学科法学コース 新旧共通			
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会・法学コース/選択科目	講義	2単位	3~4年
担当教員		連絡先(TEL)	連絡先(MAIL)
志田惣一		099-285-7637	icns@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
		前期	
授業概要			
会社法のうち、前期開講の「企業の法システム」において取り扱わなかった株式会社の機関、計算、組織再編などについて講義します。			
学修目標			
(1) 会社法の基本的な考え方を理解する。 (2) 株式会社の機関の特質を理解する。 (3) 株式会社の役員の責任を理解する。 (4) 株式会社の計算、社債、組織再編に関する基本的な事項を理解する。			
授業計画			
第1回 会社の機関 総説 第2回 株主総会? 第3回 株主総会?(決議瑕疵) 第4回 役員等の選解任 第5回 取締役・取締役会・代表取締役 第6回 取締役・取締役会・代表取締役 第7回 取締役と会社との関係取締役の責任 第8回 取締役の責任 第9回 監査役・監査役会・会計監査人 第10回 監査等委員会設置会社、指名委員会等設置会社および執行役 第11回 計算 第12回 社債 第13回 組織再編? 第14回 組織再編? 第15回 会社訴訟			
*小テストを実施する(2回程度)			
授業外学習(予習・復習)			
予習として、各回の講義項目につき、教科書の該当する部分を読むこと。また、復習として、講義で話したことを参考に、各講義項目につきまとめをすること			
教科書			
神田秀樹『会社法』(弘文堂)			
参考書			
岩原紳作他編『会社法判例百選』(有斐閣)			
成績の評価基準			
期末試験(70%)、レポート点(20%)、授業への参加度(10%)を総合的に評価する。			
オフィスアワ -			
火曜日2限(研究室)			

アクティブ・ラーニング

アクティブ・ラーニング(その他の内容)

アクティブ・ラーニング(授業回数)

備考(受講要件)

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
科目名			
行政争訟法（旧 行政救済法）			
英語名			
開講学科		コース	
法経社会学科法学コース 新旧共通			
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会・法学コース/選択科目	講義	2単位	3～4年
担当教員	連絡先（TEL）	連絡先（MAIL）	
宇那木正寛	285-7628	unaki@leh.kagoshima-u.ac.jp メールには、必ず学籍番号と氏名を明記し、パソコンからのメール拒否設定を解除しておいて下さい。	
共同担当教員		前後期	
		前期	
授業概要			
<p>行政法学を構成する分野として、行政法総論、行政組織法及び行政救済法があります。このうち、行政救済法は、行政活動に対する私人の権利救済をどのように実現していくのかという学問領域ですが、この分野はさらに、行政行為をめぐる救済制度について定める行政争訟法と国家補償法に分かれます。この授業では、特に、行政争訟法の全体像及び行政訴訟の典型である「取消訴訟」について、その訴訟要件、審理及び判決の効力について扱います。その後、取消訴訟以外の訟類型の順にとりあげます。最後に、行政不服申立制度を概観します。</p>			
学修目標			
<p>(1)行政争訟法の全体像を理解する。 (2)行政事件訴訟法の論点について理解する。 (3)行政不服審査法の基本構造を分析する。 (4)行政訴訟法と行政不服審査法との関係を理解する。 (5)主要な判例の内容を理解する。</p>			
授業計画			
<p>第1回 ガイダンス 第2回 裁判を受ける権利と多様な行政訴訟 第3回 取消訴訟の基本構造 第4回 訴訟要件(1) - 被告適格など 第5回 訴訟要件(2) - 処分性 第6回 訴訟要件(3) - 原告適格 第7回 訴訟要件(4) - 狭義の訴えの利益 第8回 取消訴訟の審理方法 第9回 取消訴訟の終了 第10回 出訴期間経過後の救済方法 - 処分の無効等管区人訴訟，争点訴訟，公法上の当事者訴訟 第11回 義務付け訴訟 第12回 差止訴訟 第13回 公法上の当事者訴訟 第14回 行政不服申立制度(1) 第15回 行政不服申立制度(2) 第16回 期末テスト</p>			
授業外学習（予習・復習）			
<p>【予習】 1．授業で取り上げられる予定の法律の条文や判決文について、あらかじめ入手し、予習しておくことが必要です。 2．授業で取り上げる法律の多くは、小型の六法には掲載されていません。受講に当たって、法令データ</p>			

提供システム (<http://law.e-gov.go.jp/cgi-bin/idxsearch.cgi>) などに アクセスし、
 あらかじめ当該法令をダウンロードするなどし、予習を行い、授業に出席することが必要です。
 3. 授業では、裁判例を多く取り上げます。受講に当たって、判例データ・ベースなどにアクセスし、
 あらかじめ、当該裁判例をダウンロードするなどし、予習を行い、授業に出席することが必要です。

【復習】

授業中に指示する事項について、自主学習を行って下さい。

教科書

大橋洋一『行政法2〔第3版〕』（有斐閣、2018年）
 宇賀克也=交告尚史=山本隆司編『行政判例百選1〔第7版〕』（有斐閣、2017年）
 宇賀克也=交告尚史=山本隆司編『行政判例百選2〔第7版〕』（有斐閣、2017年）

参考書

大橋洋一『行政法1〔第3版〕』（有斐閣、2016年）
 宇賀克也『行政法概説1〔第6版〕』（有斐閣、2017年）
 宇賀克也『行政法概説2〔第6版〕』（有斐閣、2018年）
 宇賀克也『行政法概説3〔第5版〕』（有斐閣、2019年）

成績の評価基準

期末試験（100％）で評価します。ただし出題の範囲は、教科書だけではなく、授業で扱う法令や条例、
 そして裁判例も含まれます。

したがって、期末試験に対応するには、毎回、必要な条文や裁判例を各自で入手し、授業に臨むことが
 必要です。

オフィスアワー

オフィスアワーは特に定めず対応します。メールであらかじめ訪問の内容と希望訪問日時を連絡して下さい。

アクティブ・ラーニング

学習の振り返り（ミニッツ・ペーパー等）；

アクティブ・ラーニング（その他の内容）

アクティブ・ラーニング（授業回数）

15回中5回

備考（受講要件）

1. 行政法総論1及び行政法総論2を受講していることを前提として授業を進めます。
2. 六法の持参は当然ですが、授業で取り上げる法律や条例の条文を各自、事前に用意して授業に臨んで
 ください。
3. 授業で取り上げる裁判例は、各自、事前に予習して講義に臨んでください。
4. シラバスの内容は若干変更することがあります。
5. 第1回目の授業の際に講義の進め方などについて説明をするので、受講希望者は必ず出席して下さい。
6. 授業中、理解度や基本知識を確認するため、口頭で質問を行います。
7. 授業中、数回、コメントシート（授業についての質問、感想等）の提出を求めます。
8. 期末試験で合格点が得られない場合、再テストやレポート提出による救済措置は実施しません。

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
FHS-BBC3310			
科目名			
有価証券法			
英語名			
Negotiable Instrument Law			
開講学科		コース	
法経社会学科法学コース 新旧共通			
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会・法学コース/選択科目	講義	2単位	3～4年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
志田惣一		099-285-7637	icns@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
		後期	
授業概要			
有価証券制度の基礎的な理論を理解するために、特に、手形・小切手の経済的機能を念頭に置きつつ、手形法および小切手法の基本的事項を中心に講義を行う。			
学修目標			
(1) 手形法および小切手法についての基礎的知識を修得する。			
(2) 商法的なものの見方、考え方を修得する。			
(3) 具体的な裁判例の分析を通して法的思考能力を定着させる。			
授業計画			
第1回 有価証券制度の概要			
第2回 手形行為・手形抗弁論			
第3回 手形要件・振り出し			
第4回 他人による手形行為			
第5回 手形の偽造と変造			
第6回 白地手形			
第7回 手形の裏書			
第8回 裏書の連続			
第9回 善意取得			
第10回 人的抗弁の切断			
第11回 特殊の裏書			
第12回 手形保証			
第13回 支払・遡求			
第14回 為替手形			
第15回 小切手			
*小テストを実施する(2回程度)			
授業外学習(予習・復習)			
予習として、各回の講義項目につき、教科書の該当部分を読むこと。また、復習として、講義で話したことを参考に、各講義項目につきまとめをすること			
教科書			
神田秀樹他編『手形小切手判例百選』(有斐閣)			
参考書			
自習用 早川徹『基本講義 手形・小切手法(ライブラリ法学基本講義)』(新世社)			
その他			
成績の評価基準			
期末試験(70%)、小テスト(10%)、授業への参加度(20%)を総合的に評価する。			
*授業での質疑・討論等の評価の割合を高くした。			

オフィスアワ -

火曜 2 限

アクティブ・ラーニング

アクティブ・ラーニング（その他の内容）

アクティブ・ラーニング（授業回数）

備考（受講要件）

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード

FHS-BBC3315

科目名

租税法（旧 税の法システム）

英語名

Tax Law

開講学科

コース

法経社会学科法学コース 新旧共通

授業科目区分

授業形態

単位数

開講期

法経社会・法学コース/選
択科目

講義

2単位

3～4年

担当教員

連絡先（TEL）

連絡先（MAIL）

鳥飼貴司

099-285-7623

torikai@leh.kagoshima-u.ac.jp

共同担当教員

前後期

後期

授業概要

税務争訟（異議申立・審査請求・訴訟）分野について、その制度や手続、訴訟となった場合の留意点や「闘いかた」を解説し、「納税者の権利」を重視した税法の適用・解釈について講義する。

「基本原理編」では、勝訴のコツとして、税務争訟に必要な民事訴訟法の四つの基本原理を説明する。

とくに、税法解釈（一般の法学における趣旨解釈と文理解釈、税法における文理解釈優先の原則、借用概念の解釈と固有概念の解釈との違い等）、及び事実認定（要件事実の主張、間接事実の主張、立証責任の分配、証明の程度 本証と反証等）のポイントを解説する。

「事例編」では、「基本原理編」で述べたポイント、勝訴のコツを、民法総則～家族法までの具体的事例にあてはめて体得してもらう。

学修目標

1. 各税法の基本的な仕組みを理解する。
2. 税法の諸問題について理解を深める。

授業計画

第1回 ガイダンス/税法の全体構造

第2回 租税とは。

第3回 税法の法体系

第4回 所得税法

第5回 法人税法

第6回 相続税法

第7回 消費税法

第8回 地方税法

第9回 税務行政法

第10回 勝訴のコツ 基本原理編

1 税法・税務争訟に必要な「民事訴訟法の基本原理」

2 民事訴訟法の基本原理の第1（法の世界は「要件 効果システム」）

3 民事訴訟法の基本原理の第2（訴訟の三段構造）

4 民事訴訟法の基本原理の第3（「法律上の主張」の三つのポイント）

5 民事訴訟法の基本原理の第4（「事実上の主張」と「立証」の四つのポイント）

第11回 事例で学ぶ税法解釈と事実認定

事例1 - 売買契約の存否：その1（売買と譲渡担保）

事例2 - 売買契約の存否：その2（売買と虚偽表示等）

事例3 - 契約の錯誤

事例4 - 契約の解除

第12回 事例で学ぶ税法解釈と事実認定

事例5 - 取得時効

事例6 - 消滅時効

事例7 - 無資力者の資産の譲渡と非課税

事例8 - 保証人の資産の譲渡と非課税

第13回 事例で学ぶ税法解釈と事実認定

事例9 - 相続に関する民事上の判断と税務上の判断の基準

事例10 - 課税相続財産と要件事実

事例11 - 課税控除債務と要件事実

現場の税法解釈と事実認定

実例1 - 妻名義の預金が夫の相続財産として課税された事件

第14回 現場の税法解釈と事実認定

実例2 - 譲渡契約で納めた税金を解除によって取り戻せるか争った事件

実例3 - 企業買収に法人税・所得税・贈与税が課税された事件

実例4 - 法人の滞納法人税について清算人に第二次納税義務の課税がされた事件

実例5 - 税額控除規定と更正の請求の可否が争われた事件

第15回 現場の税法解釈と事実認定

実例6 - 船舶の権利の買受けが課税仕入れに当たらないとされた事件

実例7 - 先物取引被害の回復金に課税できるかが争われた事件

実例8 - ライブドア株取引被害の回復金に課税できるかが争われた事件

実例9 - 弁護士必要経費事件 / まとめ（税法学の特質と課題）

期末試験は行わない（指定期日までにレポートを提出）

授業外学習（予習・復習）

授業計画の当該部分の民法の範囲を事前に予習すること。講義内容について他者に伝えられるように復習すること。予習・復習の標準的な所用時間は約1時間。

教科書

manabaにアップする。

参考書

金子宏・清永敬次・宮谷俊胤・畠山武道『税法入門 第7版(有斐閣新書)』有斐閣

中里実・増井良啓(編集)『租税法判例六法 第4版』有斐閣

成績の評価基準

3分の2以上の出席（レポート提出要件）と期末レポート（100%）

期末レポートはA4で1枚。2枚以上は減点（場合によっては不可）。表紙は必要なし。

遅刻は、30分以内は認める。30分を超えての遅刻は欠席とする。

オフィスアワー

講義後に話かけるのは自由。

その他の場合、事前にメールで面会交渉をすること。

アクティブ・ラーニング

学習の振り返り（ミニッツ・ペーパー等）；

アクティブ・ラーニング（その他の内容）

アクティブ・ラーニング（授業回数）

15回中15回

備考（受講要件）

特になし。

実務経験のある教員による実践的授業

法政特殊講義（相続法の基本問題）（旧 法律学特殊講義（相続法の基本問題））
ナンバリングコード

科目名

法政特殊講義（相続法の基本問題）（旧 法律学特殊講義（相続法の基本問題））

英語名

Special lecture on law, policy and political science : The Law of Succession

開講学科

コース

法経社会学科法学コース 新旧共通

授業科目区分

授業形態

単位数

開講期

法経社会・法学コース/選
択科目

講義

2単位

3～4年

担当教員

連絡先（TEL）

連絡先（MAIL）

阿部純一

099-285-7645

jave@leh.kagoshima-u.ac.jp

共同担当教員

前後期

なし

後期

授業概要

本講義では、相続法の基本的な諸制度について理解するとともに、関連する重要判例を詳解する。相続法を理解するためには、民法全編の諸制度の理解が必要となる。受講者は、民法の各編について既に授業を履修しているか、履修中であることが望ましいが、必須の履修要件ではない。本講義では、2018年相続法改正の内容や、近時の所有者不明土地問題に関する議論にも目を向けたい。

学修目標

- ・相続法の基本的知識を習得する
- ・相続法をめぐる現代的諸課題について考える

授業計画

第01回：ガイダンス、相続法の基礎

第02回：相続人の種類と相続分

第03回：相続資格の剥奪（相続欠格、相続廃除）

第04回：相続の放棄と承認

第05回：相続財産の範囲

第06回：遺産共有・相続財産の管理

第07回：特別受益と寄与分

第08回：遺産分割

第09回：相続回復請求権

第10回：相続人の不存在

第11回：相続と登記

第12回：遺言の方式と効力

第13回：「相続させる旨」の遺言

第14回：遺留分

第15回：まとめ

* 授業計画については、授業の進行状況に応じて若干変更する場合がある。

授業外学習（予習・復習）

【予習】事前にレジュメ・教科書等に目を通してから授業に臨むこと（45分）

【復習】授業後に各自で内容を復習すること（1時間）

教科書

指定しない（参考書の中から一冊を各自で選択して準備すること）

参考書

・水野紀子＝大村敦志編『民法判例百選3 親族・相続（第2版）』（有斐閣、2018年）

* 以下は、授業の内容をより深く理解するための参考書である（各参考書については、初回授業で説明する）。

【基本書】

- ・高橋朋子＝床谷文雄＝棚村政行『民法7 親族・相続（第5版）』（有斐閣、2017年）
- ・二宮周平『家族法（第5版）』（新世社、2019年）
- ・犬伏由子＝石井美智子＝常岡史子＝松尾知子『親族・相続法（第2版）』（弘文堂、2016年）
- ・窪田充見『家族法 民法を学ぶ（第3版）』（有斐閣、2017年）
- ・前田陽一＝本山敦＝浦野由紀子『民法6 親族・相続（第5版）』（有斐閣、2019年）
- ・大村敦志『新基本民法8 相続編』（有斐閣、2017年）
- ・潮見佳男『詳解 相続法』（弘文堂、2018年）
- ・青竹美佳ほか『民法5 親族・相続 判例30!』（有斐閣、2017年）

【2018年相続法改正関係】

- ・堂園幹一郎＝神吉康二『概説 改正相続法』（きんざい、2019年）
- ・堂園幹一郎＝野口宣大『一問一答 新しい相続法』（商事法務、2019年）
- ・大村敦志＝窪田充見編『解説 民法（相続法）改正のポイント』（有斐閣、2019年）
- ・潮見佳男ほか編『Before/After 相続法改正』（弘文堂、2019年）

成績の評価基準

期末試験：100%

オフィスアワー

火曜日2限（研究室）

アクティブ・ラーニング

学習の振り返り（ミニッツ・ペーパー等）；その他；

アクティブ・ラーニング（その他の内容）

ワークシート

アクティブ・ラーニング（授業回数）

15回中14回

備考（受講要件）

民法総則、物権法、債権法1～3、家族法を履修した（又は履修中である）ことが望ましい（但し、必須の受講要件ではない）。

授業には六法を必ず持参すること。

テキスト・参考書については初回授業で説明する。

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
科目名			
司法政策論			
英語名			
開講学科		コース	
法経社会学科法学コース 新旧共通			
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会・法学コース/選択科目	講義	2単位	3～4年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
中島宏・米田憲市・原田いづみ		099-585-7633(中島)	h-nakaji@leh.kagoshima-u.ac.jp(中島)
共同担当教員		前後期	
		後期	
授業概要			
この授業では、わが国の司法制度がいかにあるべきかについて、法政策的な広い視野から深く議論し検討することを目的とする。日本における司法政策論の基本的な視点を踏まえた上で、いわゆる平成の司法制度改革の起点となった『司法制度審議会意見書』に挙げられた具体的な項目について、その目指したところと今日における状況を個別的に検討し、司法と法曹のあるべき姿について学ぶことを目的とする。			
学修目標			
1) 司法制度改革の理念や具体的方策について理解する。 2) 司法制度改革が目指した内容の実現過程および現実の達成状況を分析する。 3) 司法制度が直面している現在の課題を認識し、それに対する自分の意見を形成する。			
授業計画			
1.法と政策：司法と政策 2.司法制度改革の理念：21世紀の司法の姿 3.法曹の歴史と司法制度改革 4.21世紀を担う法曹像 5.法曹養成制度(法科大学院)」 6.法曹養成制度(司法試験から修習修了まで) 7.司法へのアクセスおよびADR等の改革 8.知財改革 9.労働関係事件への総合的な対応強化 10.個別労働紛争の行政型ADRによる解決 11.刑事司法手続の改革 12.裁判員制度 13.裁判官・検察官制度の改革 14.国民と司法：法テラスの活動と課題 15.国民と司法：司法過疎の現状			
授業外学習(予習・復習)			
予習：事前に指定する資料を熟読し、あらかじめ支持した簡単な課題を行った上で講義に出席すること(60分)。 課題：講義内容を踏まえて毎回示される課題についてレポートを作成する。(60分)。			
教科書			
司法制度改革審議会意見書 http://www.kantei.go.jp/jp/sihouseido/report/ikensyo/index.html その他は、講義等を通じて紹介する。			
参考書			
手軽な参考図書としては、市川正人ほか『現代の裁判(第5版)』(有斐閣,2008)、宮澤節生ほか『ブリッジブック法システム入門』(信山社,2008)、村山眞維、濱野亮『法社会学』(有斐閣,2003)があげられる。			
成績の評価基準			
複数回提出するレポートによる(100%)			

オフィスアワ -

未定。追って指示する。

アクティブ・ラーニング

グループワーク；ディベート；プレゼンテーション；学習の振り返り（ミニッツ・ペーパー等）；

アクティブ・ラーニング（その他の内容）

アクティブ・ラーニング（授業回数）

15回中13回

備考（受講要件）

特になし。将来、法曹（裁判官、検察官、弁護士）や隣接士業（司法書士、行政書士、税理士、社会保険労務士など）、司法関係機関の職員（裁判所書記官・事務官・調査官、検察事務官、警察官など）を目指す学生には履修をお勧めする。

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード

科目名

国家補償法(旧 法律学特殊講義(行政救済法特論))

英語名

開講学科

コース

法経社会学科法学コース 新旧共通

授業科目区分

授業形態

単位数

開講期

法経社会・法学コース/選
択科目

講義

2単位

3~4年

担当教員

連絡先(TEL)

連絡先(MAIL)

宇那木正寛

285-7628

unaki@leh.kagoshima-u.ac.jp
メールには、必ず学籍番号と氏名を
明記し、パソコンからのメール拒否
設定を解除しておいて下さい。

共同担当教員

前後期

前期

授業概要

行政法学を構成する分野として、行政法総論、行政組織法及び行政救済法があります。このうち、行政救済法は、行政活動に対する私人の権利救済をどのように実現していくのかという学問領域ですが、この分野はさらに、行政行為をめぐる救済制度について定める行政争訟法と国家補償法に分かれます。この授業では、行政作用にかかわって市民に生じた不利益を金銭により償う制度であり、損失補償に関する法や国家賠償法をその内容とします。授業では、国家補償法についてその全体像を概観したのち、国家補償と損失補償について検討します。

学修目標

- (1)国家補償法の全体像を理解する。
- (2)国家賠償法の論点について理解する。
- (3)損失補償の論点について理解する。
- (4)主要な判例の内容を理解する。

授業計画

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 国家補償の全体像(1)
- 第3回 国家補償の全体像(2)
- 第4回 国家賠償法1条 - 責任成立要件(1)
- 第5回 国家賠償法1条 - 責任成立要件(2)
- 第6回 国家賠償法1条 - 責任成立要件(3)
- 第7回 国家賠償法2条 - 責任成立要件(1)
- 第8回 国家賠償法2条 - 責任成立要件(2)
- 第9回 国家賠償法2条 - 責任成立要件(3)
- 第10回 賠償責任をめぐる諸問題
- 第11回 損失補償の基本問題 - 法的構造及び補償の要否
- 第12回 損失補償の基本問題 - 補償内容
- 第13回 損失補償の基本問題 - 補償手続
- 第14回 国家賠償と損失補償の谷間
- 第15回 まとめ
- 第16回 期末テスト

授業外学習(予習・復習)

【予習】

1. 授業で取り上げられる予定の法律の条文や判決文について、あらかじめ入手し、予習しておくことが必要です。
2. 授業で取り上げる法律の多くは、小型の六法には掲載されていません。受講に当たって、法令データ提供システム(<http://law.e-gov.go.jp/cgi-bin/idxsearch.cgi>)などにアクセスし、

あらかじめ当該法令をダウンロードするなどし、予習を行い、授業に出席することが必要です。
 3. 授業では、裁判例を多く取り上げます。受講に当たって、判例データ・ベースなどにアクセスし、あらかじめ、当該裁判例をダウンロードするなどし、予習を行い、授業に出席することが必要です。

【復習】

授業中に指示する事項について、自主学習を行って下さい。

教科書

大橋洋一『行政法2〔第3版〕』（有斐閣、2018年）
 宇賀克也=交告尚史=山本隆司編『行政判例百選1〔第7版〕』（有斐閣、2017年）
 宇賀克也=交告尚史=山本隆司編『行政判例百選2〔第7版〕』（有斐閣、2017年）

参考書

大橋洋一『行政法1〔第3版〕』（有斐閣、2016年）
 宇賀克也『行政法概説1〔第6版〕』（有斐閣、2017年）
 宇賀克也『行政法概説2〔第6版〕』（有斐閣、2018年）
 宇賀克也『行政法概説3〔第5版〕』（有斐閣、2019年）

成績の評価基準

期末試験（100％）で評価します。ただし出題の範囲は、教科書だけではなく、授業で扱う法令や条例、そして裁判例も含まれます。

したがって、期末試験に対応するには、毎回、必要な条文や裁判例を各自で入手し、授業に臨むことが必要です。

オフィスアワー

オフィスアワーは特に定めず対応します。メールであらかじめ訪問の内容と希望訪問日時を連絡して下さい。

アクティブ・ラーニング

学習の振り返り（ミニッツ・ペーパー等）；

アクティブ・ラーニング（その他の内容）

アクティブ・ラーニング（授業回数）

15回中3回

備考（受講要件）

1. 行政法総論1及び行政法総論2を受講していることを前提として授業を進めます。
2. 六法の持参は当然ですが、授業で取り上げる法律や条例の条文を各自、事前に用意して授業に臨んでください。
3. 授業で取り上げる裁判例は、各自、事前に予習して講義に臨んでください。
4. シラバスの内容は若干変更することがあります。
5. 第1回目の授業の際に講義の進め方などについて説明をするので、受講希望者は必ず出席して下さい。
6. 授業中、理解度や基本知識を確認するため、口頭で質問を行います。
7. 授業中、数回、コメントシート（授業についての質問、感想等）の提出を求めます。
8. 期末試験で合格点が得られない場合、再テストやレポート提出による救済措置は実施しません。

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
FHS-BBB2301			
科目名			
演習I(財産法)(旧 演習)			
英語名			
Seminar I:Property and Contract			
開講学科		コース	
法経社会学科法学コース 新旧共通		法学コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会・法学コース/必修科目	演習	2単位	3年
担当教員	連絡先(TEL)	連絡先(MAIL)	
植本幸子	kagoshima-u.ac.jp (下記と組み合わせること)	uemt05@leh.	
共同担当教員	前後期		
	前期		
授業概要			
民法総則と財産法に関連する問題を中心に、法律学習の基本を身につける。			
学修目標			
<ul style="list-style-type: none"> ・法解釈に関する記述を正確に読みとり説明する能力を身につける。 ・事実関係の記述から、関係する法的な論点を見つけ出し説明することが出来る。 ・主要な判例を調べ事実と判旨を説明することが出来る。 ・論点に関連する主要な学説を調べ説明することが出来る。 ・民法上の問題に関して私見を説明し報告することが出来る。 			
授業計画			
<p>第1回 ガイダンス 第2回～第15回 発表と討論</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ゼミの人数によるが、最低でも1回の課題について報告することが必要である。 ・報告を担当しない課題については質問票を提出した上で議論に参加する。例年、A4で1枚程度に判例通説による解決を示した上で質問する人が多いが、2～3行でも構わない。ただし、欠席の際に出席に替えるものとしては前者によること。 ・設例の事実関係から論点を見つけ出すことから課題となるが、テーマについて希望のある場合には尊重するの で適宜相談すること。 <p>ゼミの人数1～3名 ：個別の進度に応じて、一人ずつ特定の問題について、資料の収集と配布、レジメの作成、板書による説明などを報告者が行う。報告担当以外の者も、板書による説明や私見の説明により、積極的に授業に参加すること。</p> <p>ゼミの人数4～7名 ：1人1つずつ特定の問題について、資料の収集と配布、レジメの作成、板書による説明を行うが、報告の機会 は最低1つのテーマについて1回、進度によって2回までの報告が認められる。報告担当以外の者には、段階に 応じて質問票の提出が求められ、板書による説明や私見の説明により、積極的に授業に参加する。</p> <p>ゼミの人数8名以上 ：1人1つずつ特定の問題について、資料の収集と配布、レジメの作成、板書による説明を行い、報告の機会 は1回である。それ以上の指導は、事後レポートの作成により受けることができる。報告担当以外の者には、段階 に応じて質問票の提出が求められ、板書による説明や私見の説明により、積極的に授業に参加する。</p>			
授業外学習(予習・復習)			
<p>(予習) 演習は予習がメインとなる。前の週までに、報告者は報告用レジメ、報告者以外は質問票を提出する。 資料室や図書館を利用しできる限りの予習を行う。本演習は、演習の準備自体を授業時間中に行うことは無い。</p> <p>(復習) 報告した課題についてのみ、議論を反映させた事後レポートを作成し提出する。</p>			

教科書

手持ちの教科書を持参すること。

参考書

- ・六法を必ず携行すること。
- ・教材は初回到相談して以下より決める。
松久三四彦他『事例で学ぶ民法演習』(成文堂2014年)
民法判例百選?、?
その他教科書で気になる論点や裁判例

成績の評価基準

- ・授業への取り組み態度(発言内容、報告回数、質問票提出、報告部分の事後レポートによる。)
- ・演習なのですべての回に出席することが原則となる。事情のある場合も無い場合にも、必ず連絡相談すること。

オフィスアワー

追って指示する。

アクティブ・ラーニング

ディベート; プレゼンテーション;

アクティブ・ラーニング(その他の内容)

アクティブ・ラーニング(授業回数)

15回中14回

備考(受講要件)

・民法を通じて基本的な解釈学、裁判例の読み方、文献収集スキル等の基礎を身につけることになる。例年の受講生もLSなど大学院進学者もいれば、司法書士を中心に様々な資格取得する者、各種公務員、民間就職者等様々、進路や理解度も様々である。年度によって雰囲気や全く違うがいかなる状況にも流されることなく、批判を前提に自らの能力を伸ばすよう努力する態度が望まれる。

・高校卒業程度の国語力は当然の前提である。苦手な者は授業に関連した予習等で多くの努力が必要となろう。科目として無関係であると思いきみ、スタートラインが違うのに努力無しに履修可能と思わないこと。例えば、大審院の判例に当たる場合には当然に旧字体の漢字を調べ、古語に近い言い回しについて辞書等を使って理解することが必要となる。逆に今までの差は少しの差に過ぎない。今後の努力や勉強が、年を経るごとに実力の蓄積となることを意識してあらゆる勉強に励んでもらいたい。

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
FHS-BBB2301			
科目名			
演習I (理論刑法学) (旧 演習)			
英語名			
Seminar I: Criminal Law Dogmatic			
開講学科		コース	
法経社会学科法学コース 新旧共通		法学コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会・法学コース / 必修科目	演習	2単位	3年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
南由介			minamiy@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
		前期	
授業概要			
<p>本演習は、理論刑法学の学修を内容とする。理論刑法学とは、論理・体系に裏づけられた学問としての刑法学である。そこでは、通説であるから、判例であるから、結論が妥当であるから、という理由づけは通用せず、論理的に正当化し得るのか、矛盾を内包していないか、他の見解と比較し理論的により優れた見解といえるのか、という観点から、学説を整理し、自説を展開することが求められる。そして、受講者は、相互に各見解を検討・批判して、止揚し、各自、一定の結論を得ることが目指される。</p> <p>具体的には、刑法総論分野および刑法各論分野の判例を題材として、あらかじめ決めておいた担当者が、判例の分析・検討およびその判例にまつわる学説の検討・批判を内容とする報告を行い、受講者全員で、さらに相互に検討・批判することを通して、理論刑法学の学修を図りたい。</p> <p>上記を内容とする演習を実現するには、受講者全員の高い意識と協力が不可欠である。報告者は、当然のことであるが多くの判例・裁判例、文献の読み込みが、他の受講者は、予習が必須である。また、必要に応じて、受講者同士で時間外の学修（いわゆるサブゼミ）が行われることがあっても良いであろう。</p>			
学修目標			
<p>以下の点の修得を目標とする。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 法的・論理的思考力を涵養する。 2. 刑法総論・各論を体系的に理解し、それらにおいて問題となる論点を検討し、批判的に考察することができる能力を涵養する。 			
授業計画			
第1回 ガイダンス			
第2回～第15回 報告・検討			
授業外学習 (予習・復習)			
教科書			
<p>松原芳博編『刑法の判例〔総論〕』（成文堂）</p> <p>松原芳博編『刑法の判例〔各論〕』（成文堂）</p> <p>（本演習では、今年度は総論を扱うので、演習開始時までに〔総論〕を用意しておいてもらいたい。各論は次年度の?で扱う予定である。）</p>			
参考書			
井田良＝佐藤拓磨編『よくわかる刑法・第3版』（2018年）ミネルヴァ書房			
成績の評価基準			
演習への参加度（報告の内容、発言などの積極性）を総合的に考慮して評価する。			
オフィスアワー			
研究室在室時			
アクティブ・ラーニング			
ディベート；プレゼンテーション；			
アクティブ・ラーニング（その他の内容）			

アクティブ・ラーニング (授業回数)

15回中15回

備考 (受講要件)

刑法に関心のある者、議論をすることが好きな者、考えることが好きな者を歓迎したい。また、ロースクールの進学を考えている者については、課題の提示等、個別に対応する。

なお、演習の内容については、受講者の意見を取り入れながら運営したいので、積極的に提言してもらいたい。合宿等も、要望があれば実施したい。

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
FHS-BBB2301			
科目名			
演習I (国際私法) (旧 演習)			
英語名			
Seminar I: Private International Law			
開講学科		コース	
法経社会学科法学コース 新旧共通		法学コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会・法学コース / 必修科目	演習	2単位	3年
担当教員	連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)	
眞砂康司	285-7630 (国際私法研究室)	masago@leh.kagoshima-u.ac.jp 件名 (題名) に、必ず学籍番号、氏名を入れてください。	
共同担当教員	前後期		
	前期		
授業概要			
受講生は、教員の助言と指導のもとに、各自が選択したテーマで研究報告を行い、それに基づく討論を行う。かかる報告と討論を通して、国際私法の諸問題を考察する。			
学修目標			
国際私法的観点からなす法的思考の修得。			
授業計画			
(前期)			
第1回 ガイダンス			
第2回 国際私法の基本問題 (問題解説と討論)?			
第3回 国際私法の基本問題 (問題解説と討論)?			
第4回 国際私法の基本問題 (問題解説と討論)?			
第5回 国際私法の基本問題 (問題解説と討論)?			
第6回 国際私法の基本問題 (問題解説と討論)?			
第7回 国際私法の基本問題 (問題解説と討論)?			
第8回 国際私法の基本問題 (問題解説と討論)?			
第9回 国際私法の基本問題 (問題解説と討論)?			
第10回 国際私法の基本問題 (問題解説と討論)?			
第11回 個別報告と討論 ?			
第12回 個別報告と討論 ?			
第13回 個別報告と討論 ?			
第14回 個別報告と討論 ?			
第15回 個別報告と討論 ?			
授業外学習 (予習・復習)			
あらかじめ理解している報告者のタイトルについて予習することが望ましい。授業後は、報告者でなくとも、質問することが望ましい。			
教科書			
適宜、指示する。			
参考書			
適宜、指示する。			
成績の評価基準			
授業への取り組み態度			
オフィスアワ -			

ナンバリングコード			
科目名			
演習I (政治学)			
英語名			
開講学科		コース	
法経社会学科法学コース 新旧共通		法学コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会・法学コース / 必修科目	演習	2単位	3年
担当教員		連絡先 (TEL)	
平井一臣		8855	
共同担当教員		連絡先 (MAIL)	
		isshin@leh.kagoshima-u.ac.jp	
		前後期	
		後期	
授業概要			
文献講読を中心に、政治学の基本的な考え方を学ぶ。			
学修目標			
政治学の基本的な考え方を理解し、文献の読解、読解に基づく発表、討論の能力を身につける。			
授業計画			
第1回 ガイダンス			
第2回 文献講読			
第3回 文献講読			
第4回 文献講読			
第5回 文献講読			
第6回 文献講読			
第7回 文献講読			
第8回 文献講読			
第9回 文献講読			
第10回 文献講読			
第11回 文献講読			
第12回 文献講読			
第13回 文献講読			
第14回 文献講読			
第15回 総括			
授業外学習 (予習・復習)			
事前に指定された箇所を読み授業に臨む。 授業で出された論点について、図書館等で関連資料・文献にあたり復習する。			
教科書			
授業開始時に指定する			
参考書			
授業中に適宜紹介する			
成績の評価基準			
平常点			
オフィスアワ -			
授業終了後			
アクティブ・ラーニング			
ディベート; プレゼンテーション;			
アクティブ・ラーニング (その他の内容)			
アクティブ・ラーニング (授業回数)			
15回			
備考 (受講要件)			

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
FHS - BBB2301			
科目名			
演習I(海商法)(旧 演習)			
英語名			
Seminar I:Maritime Law			
開講学科		コース	
法経社会学科法学コース 新旧共通		法学コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会・法学コース/必修科目	演習	2単位	3年
担当教員		連絡先(TEL)	連絡先(MAIL)
松田忠大		099-285-7653	tmatsuda@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
		前期	
授業概要			
<p>この演習では、海商法分野の法的諸問題を取り扱います。 前半は船荷証券(Bill of Lading)の裏面約款(英文の運送約款)を輪読して海上運送契約についての理解を深めます。後半は、海商法分野の判例研究を行います。 なお、演習の進め方および研究の対象とする判例は学生と相談して決定します。</p>			
学修目標			
<p>(1) 海商法に関する基本的な知識を定着させる。 (2) 商取引の基本的な考え方を理解し、商法的な視点から法解釈を行うことができる能力を身につける。 (3) コミュニケーション能力、プレゼンテーション能力および討論の能力を身につける。</p>			
授業計画			
<p>第1回：オリエンテーション 第2～第11回：船荷証券裏面約款の輪読 第12～14回：海事判例研究報告および討論 第15回：まとめ</p>			
授業外学習(予習・復習)			
<p>この演習では、国内または国外における学外研修の実施を予定しています。また、他大学ゼミとの合同研究会を実施する計画もあります。</p>			
教科書			
中村眞澄＝箱井崇史『海商法』(成文堂・2010年)			
参考書			
その他の参考文献等は適宜指示します。			
成績の評価基準			
発表の内容・討論への参加態度および出席状況を総合的に勘案して評価します。			
オフィスアワ -			
月曜3限(研究室)			
アクティブ・ラーニング			
グループワーク; ディベート; プレゼンテーション;			
アクティブ・ラーニング(その他の内容)			
アクティブ・ラーニング(授業回数)			
15回中15回			
備考(受講要件)			
商取引法IIを必ず受講してください。			
実務経験のある教員による実践的授業			

ナンバリングコード

科目名

演習I (刑事訴訟法) (旧 演習)

英語名

Seminar I: Criminal Procedure

開講学科

コース

法経社会学科法学コース 新旧共通

法学コース

授業科目区分

授業形態

単位数

開講期

法経社会・法学コース / 必修科目

演習

2単位

3年

担当教員

連絡先 (TEL)

連絡先 (MAIL)

中島宏

099-285-7633

h-nakaji@leh.kagoshima-u.ac.jp

共同担当教員

前後期

後期

授業概要

この演習では、刑事訴訟（捜査・公訴・公判・証拠・裁判・上訴・非常救済）の諸問題について、学生の報告と討論による共同研究を行う。刑事訴訟は、いわゆる「平成の司法制度改革」を経て、近年その姿を大きく変容させたところであるが（裁判員制度の導入、検察審査会の権限強化、公判前整理手続の導入など。また、司法制度改革後の動きとして、被害者参加制度の導入があった）、2016年には更なる刑事訴訟法の改正が行われ、捜査や公訴の質的な大転換がもたらされようとしている（取調べの可視化、いわゆる司法取引の導入など）。他方では、冤罪事件などを通じて、わが国の刑事訴訟の伝統的な問題点が今なお明みに出て続けている。今まさに激動期を迎えている刑事訴訟法は、学習・研究の対象として、最もホットな領域と言ってよいだろう（意見には個人差があります）。

講義科目である「刑事訴訟法」や「法律学特殊講義（捜査法）」では、刑事訴訟法を体系的に解説し、解釈論上の争点をほぼ網羅的に取り扱っている【体系的アプローチ】。これに対して、演習では、刑事訴訟に関する具体的な問題点に着目し、その内容を掘り下げつつ、解決のための方法を明らかにするし、それを通じて刑事訴訟全体の構造や特質の理解を獲得することを目指す【問題解決型アプローチ】。

具体的なテーマは、教員のアドバイスを踏まえつつ、学生が自分の興味関心に従って自由に設定する。法解釈の枠にとどまらず、立法論や運用論にかかるテーマも積極的に扱う（たとえば、別件逮捕、科学的捜査、取調べ可視化、代用監獄、司法取引、被害者の権利、検察審査会、裁判員制度、証拠開示など）。また、ケース研究として、具体的な事件に注目し、掘り下げてもよい（たとえば、志布志事件、大崎事件など）。

学期末には、各人のテーマについての研究成果を小論文にまとめて、インターネットで公開する。これを通じて他大学の刑事訴訟法ゼミとの交流を促進する。

なお、学生の関心および研究上の必要性に応じて、裁判所、検察庁、刑務所などの参観を行う。また、実務家などをゲストに招いてお話を伺うこともある（かもしれない）。

学修目標

- 1) 刑事訴訟法の基本的な概念や制度を正しく理解する。
- 2) 刑事訴訟における様々な問題について、その背景と本質を正しく分析する。
- 3) 刑事訴訟における判例の機能について考察を深める。
- 4) 刑事訴訟の具体的な問題をどのように解決すべきか、自説を形成できるようになる。
- 5) 文献調査の手法を身につける。
- 6) 研究成果を文章および口頭で伝える手法を身につける。

授業計画

- 第1回 今後の方針決定
- 第2回 研究報告と討論
- 第3回 研究報告と討論
- 第4回 研究報告と討論
- 第5回 研究報告と討論

- 第6回 研究報告と討論
- 第7回 研究報告と討論
- 第8回 研究報告と討論
- 第9回 研究報告と討論
- 第10回 研究報告と討論
- 第11回 研究報告と討論
- 第12回 研究報告と討論
- 第13回 研究報告と討論
- 第14回 研究報告と討論
- 第15回 まとめ

施設見学等やゲストによる講演を上記のいずれかに行う場合がある。

授業外学習 (予習・復習)

各自の研究テーマについて授業外で調査・分析を進める。したがって、報告を担当する週だけでなく、恒常的に研究に取り組む必要がある。授業時間は、研究成果を発表するためのものであり、むしろ授業外学習こそが学習(研究)のメインであると心得てほしい(いわゆる「反転授業」の考え方)。

さらに、自分の研究報告以外についても、以下の予習・復習が必要である。まず、予習として、報告担当者による指示に従って、判決文や基本的な知識を得るための文献に目を通すことが必要である(30~60分程度)。また、復習として、報告を終えた担当者に対して感想や評価をフィードバックすることが求められる(共同研究のマナー)(15~30分程度)。

教科書

刑事訴訟法の教科書を最低1冊は手元に置くこと。たとえば以下のようなものがある。

[入門書]

- ・大野正博ほか『刑事訴訟法教室』(法律文化社、2013年) 講義科目での指定教科書
- ・亀井源太郎ほか『プロセス講義刑事訴訟法』(信山社、2016年)
- ・三井誠・酒巻匡『刑事手続法入門 [第7版]』(有斐閣、2017年)

[体系書]

- ・酒巻匡『刑事訴訟法』(2016年、有斐閣)
- ・白取祐司『刑事訴訟法 [第9版]』(日本評論社、2017年)
- ・池田修・前田雅英『刑事訴訟法講義 [第5版]』(東大出版会、2015年)
- ・上口裕『刑事訴訟法 [第4版]』(成文堂、2015年)
- ・宇藤崇ほか『刑事訴訟法』(リーガルクエスト・シリーズ)(有斐閣、2013年)
- ・田口守一『刑事訴訟法 [第7版]』(弘文堂、2017年)

法令集は当然ながら必携である。ボールなしにサッカーはできないのと同じ。

参考書

学生の研究テーマに応じて随時案内する。

成績の評価基準

研究報告の水準、発言の頻度と内容、学期末に作成する論文などを踏まえて評価する。

なお、演習は共同作業をその本質とするものであり、欠席は「Give & Take」の関係からの一方的な離脱を意味する。したがって、無断欠席や理由のない欠席は厳禁である。複数回繰り返した学生は、その時点で直ちに参加資格を喪失することになるので注意すること。

オフィスアワー

追って指定する。なお、指定された時間以外でも質問等のため必要があれば研究室を随時来訪することを歓迎する。

アクティブ・ラーニング

グループワーク; ディベート; フィールドワーク; プレゼンテーション; 学習の振り返り(ミニッツ・ペーパー等);

アクティブ・ラーニング(その他の内容)

アクティブ・ラーニング(授業回数)

15回中15回

備考 (受講要件)

楽しく厳しいゼミを目指したい。司法に関わる仕事を目指す者はもちろんであるが、そうでなくても犯罪捜査や刑事裁判に関心がある学生の参加を期待する。

主体的に学び問う意欲を持った学生のみ歓迎する。

その他、ゼミの指導方針などはこちらを参照のこと。

<http://www.ceres.dti.ne.jp/h-nakaji/news17.html#01092018>

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード

科目名

演習I (民事手続法) (旧 演習)

英語名

Seminar I: Civil Procedure

開講学科

コース

法経社会学科法学コース 新旧共通

法学コース

授業科目区分

授業形態

単位数

開講期

法経社会・法学コース / 必修科目

演習

2単位

3年

担当教員

連絡先 (TEL)

連絡先 (MAIL)

齋藤善人

099-285-3526

saito@leh.kagoshima-u.ac.jp

共同担当教員

前後期

後期

授業概要

前期の学習の継続。基本判例をベースとした問題演習の手法によって、基礎学力を検証しつつ、議論・思考できることを目標としたい。

演習の場では、受講生全員が対象判例等に関し、十分な予習を尽くしていることを前提に、適宜、教員の側からの質疑を交えながら双方向の遣り取りをしつつ、受講生相互間の多方向の議論まで展開することを旨とする。

学修目標

判例を正確に「読み解く」ことができる。

問題演習やケース・スタディを通じて、帰納的に民事訴訟法の基礎理論を学習する。

民事訴訟法の基礎学力に依拠して思考回路を設計し、それを説明することができる。

授業計画

具体的な問題演習の実施形態等、その方法や内容に関しては、その都度、事前に告知したい。

因みに、前年度の内容等は、以下のとおり……

第1講 / 第2講 即日起案 / 検討解題【信義則違反への弁論主義の適否 / 先行自白 / 原被告間の主張共通】

第3講 / 第4講 事前提示課題の考察解題 / 起案内容の比較検討【不特定概念への弁論主義の適用 / 不利益陳述 / 文書成立の真正と自白の成否】

第5講 / 第6講 即日起案 / 検討解題【自白の撤回 / 時機に後れた攻撃防御方法】

第7講 / 第8講 事前提示課題の考察解題 / 起案内容の比較検討【主張共通と相手方の援用しない自己に不利益な事実の陳述 / 法的観点指摘義務違反と既判力の縮小】

第9講 / 第10講 即日起案 / 検討解題【陳述擬制と証拠調べの要否 / 間接事実の自白】

第11講 / 第12講 事前提示課題の考察解題 / 起案内容の比較検討【主張準則と裁判所の認定】

第13講 / 第14講 事前提示課題の考察解題 / 起案内容の比較検討【令和1年度司法試験問題】

第15講 学習の総括【弁論主義と自白】

受講生は、日々の問題演習や判例学習を契機として、より本格的な判例研究に進展したり、民訴の論点研究へと深化することが期待される。

授業外学習 (予習・復習)

毎回、事前に提示される「論点と考えるヒント」を考察・検討する作業を経由して、演習の現場に臨むこと。多様な質疑や議論の展開を把握するには、相応の事前学習、すなわち、参考となる判例の法理、その事案の概要や判旨を読んで、分からないところや不明確な部分を抽出し、それを読解するために、適宜、参考文献にあたって調べておくことが、演習参加の必要条件となる。

教科書

野村秀敏=佐野裕志=伊東俊明=齋藤善人=柳沢雄二=大内義三・民事訴訟法(北樹出版・平成30年)

参考書

民事訴訟法の授業で指定された教科書や参考文献など。たとえば、幾つか挙げるとすれば...

【1】概説書

- 高橋宏志・民事訴訟法概論(有斐閣・平成28年)
- 川嶋四郎・民事訴訟法概説[第2版](弘文堂・平成28年)
- 山本弘=長谷部由起子=松下淳一・民事訴訟法[第3版](有斐閣・平成30年)
- 和田吉弘・基礎からわかる民事訴訟法(商事法務・平成24年)

【2】定評のある体系書

- 高橋宏志・重点講義民事訴訟法(上)[第2版補訂版]、(下)[第2版補訂版](有斐閣・平成25、26年)
- 伊藤眞・民事訴訟法[第6版](有斐閣・平成30年)
- 川嶋四郎・民事訴訟法(日本評論社・平成25年)
- 河野正憲・民事訴訟法(有斐閣・平成21年)
- 小島武司・民事訴訟法(有斐閣・平成25年)
- 新堂幸司・民事訴訟法[第5版](弘文堂・平成23年)
- 中野貞一郎=松浦馨=鈴木正裕編・新民事訴訟法講義[第3版](有斐閣・平成30年)
- 藤田広美・講義民事訴訟[第3版](東大出版会・平成25年)
- 藤田広美・解析民事訴訟[第2版](東大出版会・平成25年)
- 松本博之=上野泰男・民事訴訟法[第8版](弘文堂・平成27年)
- 三木浩一=笠井正俊=垣内秀介=菱田雄郷・LEGAL QUEST民事訴訟法[第2版](有斐閣・平成27年)

【3】注釈書

- 秋山幹男=伊藤眞=加藤新太郎=高田裕成=福田剛久=山本和彦・コンメンタール民事訴訟法1[第2版追補版]、2[第2版]、3、4、5、6(日本評論社・平成26、18、20、22、24、26年)
- 松浦馨=新堂幸司=竹下守夫=高橋宏志=加藤新太郎=上原敏夫=高田裕成・条解民事訴訟法[第2版](弘文堂・平成23年)
- 加藤新太郎=松下淳一編・新基本法コンメンタール民事訴訟法1、2(日本評論社・平成30年)
- 笠井正俊=越山和広編・新コンメンタール民事訴訟法[第2版](日本評論社・平成25年)

成績の評価基準

演習の場における受講生各位のパフォーマンス(報告や質疑応答の頻度、その内容等)により評価する。その際、即日起案やレポート起案といった成果も評価の対象に含まれる。
 演習に出席することは義務であり、出席したことで評価されることはない。演習に“参加”して、はじめて評価される(いわんや、欠席をや...)。すなわち、演習の現場で、自学自習した内容を積極的に検証すること、他者の考えを批判的に検討すること、議論を総括し集約する作業を試みることなど、能動的な学習姿勢を貫徹することが要求される。

オフィスアワ -

アクティブ・ラーニング

ディベート; プレゼンテーション; その他;

アクティブ・ラーニング(その他の内容)

質疑応答を契機とした双方向および多方向の議論。

アクティブ・ラーニング(授業回数)

授業内容の進捗に応じて、適宜臨機応変に...

備考 (受講要件)

手続法は円環的構造をもつといわれる。民事訴訟法についてみれば、たとえば、訴えの提起という訴訟の最初の段階で設定される、その訴訟のテーマたる「訴訟物」の範囲で、訴訟の最後の段階である、判決の効力、すなわち、「既判力」が生ずるとされており、訴訟手続の最初の段階の概念である訴訟物が、訴訟手続の最後の段階の既判力の範囲に大きく影響する。逆にいえば、既判力の生ずる範囲を明らかにするには、訴訟物を理解しなければならない。このように、訴訟法では、ある概念が、実は別のところで重要な意義をもち、訴訟手続の局面に応じて登場してくるということが多。かような構造が、初学者にとっては学習の全体像が見えないことも相俟って、理解を難しくしている。その意味で、訴訟法の学習には、分からないことに耐えて継続する力が不可欠だろう。分からないからといって、すぐに投げ出さず、努力を続けていれば、やがて必ず視界が開けてくる。

ただし、判例の事案を把握するためには、民事実体法、とくに民法、具体的には民法総則、物権法、担保物権法、債権総論、契約法、不法行為法の基礎を理解している必要がある。

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
FHS-BBB2301			
科目名			
演習I(商法)(旧 演習)			
英語名			
Seminar I:Business Law			
開講学科		コース	
法経社会学科法学コース 新旧共通		法学コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会・法学コース/必修科目	演習	2単位	3年
担当教員		連絡先(TEL)	連絡先(MAIL)
志田惣一		0992857637	icns@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
		前期	
授業概要			
会社法に関する具体的な事例を分析しいかなる法的問題点があるか、その解決策はどうかを検討する。授業は、基礎的なついきを確認した後、学生の報告をもとに検討する。			
学修目標			
会社法に触れる。条文をよむ。 1 基本的な法的知識の習得 2 基本的な思考法の習得の準備 3 自学自習で条文・教科書を読み進められる読解力の涵養			
授業計画			
1から15回 会社法の個別問題についての検討			
授業外学習(予習・復習)			
学生の報告を中心に講義を進める。			
教科書			
伊藤靖史他編『事例で考える会社法』(有斐閣)			
参考書			
神田秀樹・会社法 会社法判例百選			
成績の評価基準			
平常点			
オフィスアワー			
火2限			
アクティブ・ラーニング			
アクティブ・ラーニング(その他の内容)			
アクティブ・ラーニング(授業回数)			
備考(受講要件)			
とくになし			
実務経験のある教員による実践的授業			

ナンバリングコード			
FHS-BBB2301			
科目名			
演習I (刑事訴訟法) (旧 演習)			
英語名			
Seminar I:Criminal Procedure			
開講学科		コース	
法経社会学科法学コース 新旧共通		法学コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会・法学コース / 必修科目	演習	2単位	3年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
中島宏		099-285-7633 (研究室)	h-nakaji@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
		前期	
授業概要			
<p>この演習では、刑事訴訟（捜査・公訴・公判・証拠・裁判・上訴・非常救済）の諸問題について、学生の報告と討論による共同研究を行う。刑事訴訟は、いわゆる「平成の司法制度改革」を経て、近年その姿を大きく変容させたところであるが（裁判員制度の導入、検察審査会の権限強化、公判前整理手続の導入など。また、司法制度改革後の動きとして、被害者参加制度の導入があった）、2016年には更なる刑事訴訟法の改正が行われ、捜査や公訴の質的な大転換がもたらされようとしている（取調べの可視化、いわゆる司法取引の導入など）。他方では、冤罪事件などを通じて、わが国の刑事訴訟の伝統的な問題点が今なお明みに出て続けている。今まさに激動期を迎えている刑事訴訟法は、学習・研究の対象として、最もホットな領域と言ってよいだろう（意見には個人差があります）。</p> <p>講義科目である「刑事訴訟法I・II」では、刑事訴訟法を体系的に解説し、解釈論上の争点をほぼ網羅的に取り扱っている【体系的アプローチ】。これに対して、演習では、刑事訴訟に関する具体的な問題点に着目し、その内容を掘り下げつつ、解決のための方法を明らかにするし、それを通じて刑事訴訟全体の構造や特質の理解を獲得することを目指す【問題解決型アプローチ】。</p> <p>具体的なテーマは、教員のアドバイスを踏まえつつ、学生が自分の興味関心に従って自由に設定する。法解釈の枠にとどまらず、立法論や運用論にかかるテーマも積極的に扱う（たとえば、別件逮捕、科学的捜査、取調べ可視化、代用監獄、司法取引、被害者の権利、検察審査会、裁判員制度、証拠開示など）。また、ケース研究として、具体的な事件に注目し、掘り下げてもよい（たとえば、志布志事件、大崎事件など）。</p> <p>学期末には、各人のテーマについての研究成果を小論文にまとめて、インターネットで公開する。これを通じて他大学の刑事訴訟法ゼミとの交流を促進する。</p> <p>なお、学生の関心および研究上の必要性に応じて、裁判所、検察庁、刑務所などの参観を行う。また、実務家などをゲストに招いてお話を伺うこともある（かもしれない）。</p>			
学修目標			
<ol style="list-style-type: none"> 1) 刑事訴訟法の基本的な概念や制度を正しく理解する。 2) 刑事訴訟における様々な問題について、その背景と本質を正しく分析する。 3) 刑事訴訟における判例の機能について考察を深める。 4) 刑事訴訟の具体的な問題をどのように解決すべきか、自説を形成できるようになる。 5) 文献調査の手法を身につける。 6) 研究成果を文章および口頭で伝える手法を身につける。 			
授業計画			
第1回 自己紹介・アイスブレイク			
第2回 研究テーマのプレゼンテーション			
第3回 研究報告と討論			
第4回 研究報告と討論			
第5回 研究報告と討論			
第6回 研究報告と討論			
第7回 研究報告と討論			
第8回 研究報告と討論			
第9回 研究報告と討論			

- 第10回 研究報告と討論
- 第11回 研究報告と討論
- 第12回 研究報告と討論
- 第13回 研究報告と討論
- 第14回 研究報告と討論
- 第15回 まとめ

施設見学等やゲストによる講演を上記のいずれかに行う場合がある。

授業外学習(予習・復習)

各自の研究テーマについて授業外で調査・分析を進める。したがって、報告を担当する週だけでなく、恒常的に研究に取り組む必要がある。授業時間は、研究成果を発表するためのものであり、むしろ授業外学習こそが学習(研究)のメインであると心得てほしい(いわゆる「反転授業」の考え方)。

さらに、自分の研究報告以外についても、以下の予習・復習が必要である。まず、予習として、報告担当者による指示に従って、判決文や基本的な知識を得るための文献に目を通すことが必要である(30~60分程度)。また、復習として、報告を終えた担当者に対して感想や評価をフィードバックすることが求められる(共同研究のマナー)(15~30分程度)。

教科書

刑事訴訟法の教科書を最低1冊は手元に置くこと。たとえば以下のようなものがある。

[入門書]

- ・大野正博ほか『刑事訴訟法教室』(法律文化社、2013年) 講義科目での指定教科書
- ・亀井源太郎ほか『プロセス講義刑事訴訟法』(信山社、2016年)
- ・三井誠・酒巻匡『刑事手続法入門[第6版]』(有斐閣、2014年)

[体系書]

- ・酒巻匡『刑事訴訟法』(2016年、有斐閣)
- ・白取祐司『刑事訴訟法[第8版]』(日本評論社、2015年)
- ・池田修・前田雅英『刑事訴訟法講義[第5版]』(東大出版会、2015年)
- ・上口裕『刑事訴訟法[第4版]』(成文堂、2015年)
- ・宇藤崇ほか『刑事訴訟法』(リーガルクエスト・シリーズ)(有斐閣、2013年)
- ・田口守一『刑事訴訟法[第6版]』(弘文堂、2012年)

法令集は当然ながら必携である。ボールなしにサッカーはできないのと同じ。

参考書

学生が設定する研究テーマに応じて随時案内する。

成績の評価基準

研究報告の水準、発言の頻度と内容、学期末に作成する論文などを踏まえて評価する。なお、演習は共同作業をその本質とするものであり、欠席は「Give & Take」の関係からの一方的な離脱を意味する。したがって、無断欠席や理由のない欠席については、減点の対象とする。無断欠席を繰り返した学生は、その時点で直ちに参加資格を喪失することになるので注意すること。

オフィスアワー

追って指定する。

アクティブ・ラーニング

グループワーク; ディベート; フィールドワーク; プレゼンテーション; 学習の振り返り(ミニッツ・ペーパー等);

アクティブ・ラーニング(その他の内容)

アクティブ・ラーニング(授業回数)

15回中15回

備考(受講要件)

楽しく厳しいゼミを目指したい。裁判実務に関わる仕事を目指す者はもちろんであるが、希望する将来の進路を問わず犯罪捜査や刑事裁判に関心があり、主体的に学ぶ意欲を持った学生の参加を期待する。

その他、ゼミの指導方針などは以下を参照のこと。

<http://www.ceres.dti.ne.jp/h-nakaji/news17.html#01092018>

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード

FHS-BBB2301

科目名

演習I (民事手続法) (旧 演習)

英語名

Seminar I: Civil Procedure

開講学科

法経社会学科法学コース 新旧共通

コース

法学コース

授業科目区分

法経社会・法学コース/必修科目

授業形態

演習

単位数

2単位

開講期

3年

担当教員

齋藤善人

連絡先 (TEL)

099-285-3526

連絡先 (MAIL)

saito@leh.kagoshima-u.ac.jp

共同担当教員

前後期

前期

授業概要

この演習は、「民事手続法」と銘打った。無論、このような名称の法令は存在せず、受講生各位には初耳かもしれない。民事手続法とは、ひろく民事の権利関係の生成、実現に係る手続を対象とする法領域を指す呼称であり、民事訴訟法をはじめ、民事調停法や仲裁法など、そして、民事執行法や民事保全法、さらには、各種の倒産法（破産法や民事再生法等）を含む、包括的な概念と思ってもらえばよい。

こういって、この演習で学習の対象とするのは、極めて広範な領域であるかのように捉えられ、気後れするかもしれないが、そのような不安は当たらない。種明かしをすれば、ここでは民事訴訟法の主要な判例を素材に採った問題演習を中核とし、ケース・スタディの手法を適宜容れながら、民事訴訟法の基礎学力の整備を第一義と考えているところ、受講生各位は、前年度に開講されている民事訴訟法1の授業を履修しているとはいえ、その学習時間や学習内容に鑑みれば、いまだ民事訴訟法の初学者の範疇にあらうことは想像に難くない。そこで、本格的なケース・メソッドなど民事訴訟法のコアの学習への導入の意味で、基本的な問題演習やケース・スタディの作法をトレーニングする場合、その素材を判例に採っていることから、事案によっては、民事訴訟法ばかりでなく執行法や倒産法といった他の民事手続法への言及が余儀なくされる。「民事手続法」演習とは、かような点を配慮したわけである。したがって、まずは判例を素材とした問題演習等の学習を通して、制度趣旨、基本的概念や定義をはじめ、民事訴訟法の基礎理論を正確に理解することに意を用いた質疑応答を軸にしながら、これら基礎学力を駆使して議論し、思考できることを目標としたい。

演習の場では、受講生全員が対象判例に関し、十分な予習を尽くしていることを前提に、適宜、教員の側からの質疑を交えながら双方向の遣り取りをしつつ、受講生相互間の多方向の議論まで展開することを旨とする。

学修目標

判例を正確に「読み解く」ことができる。

問題演習やケース・スタディを通じて、帰納的に民事訴訟法の基礎理論を学習する。

民事訴訟法の基礎学力に依拠して思考回路を設計し、それを説明することができる。

授業計画

基本判例をベースにした問題演習が中心となる。

日程や内容等の詳細については、受講生各位と改めて調整のうえ、連絡する予定。

.....

授業外学習 (予習・復習)

毎回、予め提示された「論点と考えるヒント」を考察・検討する作業を経由して、演習の現場に臨むこと。多様な質疑や議論の展開を把握するには、相応の事前学習、すなわち、参考となる判例の法理、その事案の概要や判旨を読んで、分からないところや不明確な部分を抽出し、それを読解するために、適宜、参考文献にあたって調べておくことが、演習参加の必要条件となる。

教科書

野村秀敏=佐野裕志=伊東俊明=齋藤善人=柳沢雄二=大内義三・民事訴訟法 (北樹出版・平成30年)

参考書

民事訴訟法の授業で指定された教科書や参考文献など。たとえば、幾つか挙げるとすれば...

【1】概説書

- 高橋宏志・民事訴訟法概論(有斐閣・平成28年)
- 川嶋四郎・民事訴訟法概説[第2版](弘文堂・平成28年)
- 山本弘=長谷部由起子=松下淳一・民事訴訟法[第3版](有斐閣・平成30年)
- 和田吉弘・基礎からわかる民事訴訟法(商事法務・平成24年)

【2】定評のある体系書

- 高橋宏志・重点講義民事訴訟法(上)[第2版補訂版]、(下)[第2版補訂版](有斐閣・平成25、26年)
- 伊藤眞・民事訴訟法[第6版](有斐閣・平成30年)
- 川嶋四郎・民事訴訟法(日本評論社・平成25年)
- 河野正憲・民事訴訟法(有斐閣・平成21年)
- 小島武司・民事訴訟法(有斐閣・平成25年)
- 新堂幸司・民事訴訟法[第5版](弘文堂・平成23年)
- 中野貞一郎=松浦馨=鈴木正裕編・新民事訴訟法講義[第3版](有斐閣・平成30年)
- 藤田広美・講義民事訴訟[第3版](東大出版会・平成25年)
- 藤田広美・解析民事訴訟[第2版](東大出版会・平成25年)
- 松本博之=上野泰男・民事訴訟法[第8版](弘文堂・平成27年)
- 三木浩一=笠井正俊=垣内秀介=菱田雄郷・LEGAL QUEST民事訴訟法[第2版](有斐閣・平成27年)

【3】注釈書

- 秋山幹男=伊藤眞=加藤新太郎=高田裕成=福田剛久=山本和彦・コンメンタール民事訴訟法1[第2版追補版]、2[第2版]、3、4、5、6(日本評論社・平成26、18、20、22、24、26年)
- 松浦馨=新堂幸司=竹下守夫=高橋宏志=加藤新太郎=上原敏夫=高田裕成・条解民事訴訟法[第2版](弘文堂・平成23年)
- 加藤新太郎=松下淳一編・新基本法コンメンタール民事訴訟法1、2(日本評論社・平成30年)
- 笠井正俊=越山和広編・新コンメンタール民事訴訟法[第2版](日本評論社・平成25年)

成績の評価基準

演習の場における受講生各位のパフォーマンス(報告や質疑応答の頻度、その内容等)により評価する。その際、即日起案やレポート起案といった成果も評価の対象に含まれる。

演習に出席することは義務であり、出席したことで評価されることはない。演習に“参加”して、はじめて評価される(いわんや、欠席をや...)。すなわち、演習の現場で、自学自習した内容を積極的に検証すること、他者の考えを批判的に検討すること、議論を総括し集約する作業を試みることなど、能動的な学習姿勢を貫徹することが要求される。

オフィスアワ -

アクティブ・ラーニング

ディベート; プレゼンテーション; その他;

アクティブ・ラーニング(その他の内容)

質疑応答を契機とした双方向および多方向の議論。

アクティブ・ラーニング(授業回数)

授業内容の進捗に応じて、適宜臨機応変に...

備考(受講要件)

手続法は円環的構造をもつといわれる。民事訴訟法についてみれば、たとえば、訴えの提起という訴訟の最初の段階で設定される、その訴訟のテーマたる「訴訟物」の範囲で、訴訟の最後の段階である、判決の効力、すなわち、「既判力」が生ずるとされており、訴訟手続の最初の段階の概念である訴訟物が、訴訟手続の最後の段階の既判力の範囲に大きく影響する。逆にいえば、既判力の生ずる範囲を明らかにするには、訴訟物を理解しなければならない。このように、訴訟法では、ある概念が、実は別のところで重要な意義をもち、訴訟手続の局面に

応じて登場してくるということが多い。かような構造が、初学者にとっては学習の全体像が見えないことも相俟って、理解を難しくしている。その意味で、訴訟法の学習には、分からないことに耐えて継続する力が不可欠だろう。分からないからといって、すぐに投げ出さず、努力を続けていれば、やがて必ず視界が開けてくる。

ただし、判例の事案を把握するためには、民事実体法、とくに民法、具体的には民法総則、物権法、担保物権法、債権総論、契約法、不法行為法の基礎を理解している必要がある。

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
FHS-BBB2301			
科目名			
演習I (国際私法) (旧 演習)			
英語名			
Seminar I: Private International Law			
開講学科		コース	
法経社会学科法学コース 新旧共通		法学コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会・法学コース / 必修科目	演習	2単位	3年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
眞砂康司		099-285-7630	masago@leh.kagoshima-u.ac.jp 件名 (題名) に、必ず学籍番号、氏名を入れてください
共同担当教員		前後期	
		後期	
授業概要			
受講生は、教員の助言と指導のもとに、各自が選択したテーマで研究報告を行い、それに基づく討論を行う。かかる報告と討論を通して、国際私法の諸問題を考察する。 2年生 (後期) は、原則として、研究報告をする必要はない。			
学修目標			
国際私法的観点からなす法的思考の修得。			
授業計画			
(後期) (前期に引き続き) 第1回 個別報告と討論? 第2回 個別報告と討論? 第3回 個別報告と討論? 第4回 個別報告と討論? 第5回 個別報告と討論? 第6回 個別報告と討論? 第7回 個別報告と討論? 第8回 個別報告と討論? 第9回 個別報告と討論? 第10回 個別報告と討論? 第11回 個別報告と討論? 第12回 個別報告と討論? 第13回 個別報告と討論? 第14回 個別報告と討論? 第15回 個別報告と討論?			
授業外学習 (予習・復習)			
あらかじめ理解している報告者のタイトルについて予習することが望ましい。授業後は、報告者でなくとも、質問することが望ましい。 2年生 (後期) で、これまで国際私法を受講していない者には、本人と相談の上、補講する場合がある。			
教科書			
適宜、指示する。			
参考書			
適宜、指示する。			
成績の評価基準			
授業への取り組み態度			
オフィスアワ -			
金曜日・3時限・研究室 (除く11/9)			

アクティブ・ラーニング

ディベート; プレゼンテーション;

アクティブ・ラーニング (その他の内容)

アクティブ・ラーニング (授業回数)

ほぼ毎回

備考 (受講要件)

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
FHS-BBB2301			
科目名			
演習I (国際関係論) (旧 演習)			
英語名			
Seminar I: International Relations			
開講学科		コース	
法経社会学科法学コース 新旧共通		法学コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会・法学コース / 必修科目	演習	2単位	3年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
木村朗		099-285-7654	kimura@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
		後期	
授業概要			
過去と現在の重要な国際問題 (特に紛争および戦争) を取り上げ、その背景・原因を探るとともに、国際社会のあるべき対応や解決の方向性などを検討する。前期はテキスト・サブテキストを中心に統一テーマで毎回報告者・討論者を決めて全員参加で報告・討論を行う。後期は、前半では前期を継続する形で行い、後半では各自あるいはグループ別の報告・討論を実施する。			
学修目標			
(1) 国際問題に対する基本的な知識と分析視角・方法を学ぶことができる。 (2) 各自の問題意識に従って主体にテーマを選択し、具体的な国際紛争の解決策を体現できるようにする。			
授業計画			
第1回 授業の進め方の説明 第2回～第14回 報告および討論 第15回 まとめ <後期> 第1回 授業の進め方の説明 第2回～第14回 報告および討論 第15回 まとめ			
授業外学習 (予習・復習)			
毎年秋に開催される九州平和学会 (日本平和学会九州地区平和研究集会) に合わせるかたちか、あるいは別個にゼミ研修旅行・ゼミ合宿を行う。k年は9月11～13日におきなへのゼミ合宿旅行を行う予定である。			
教科書			
テキストは、演習開始時に指示する。			
参考書			
適宜授業の中で紹介する。			
成績の評価基準			
授業への取り組み態度、報告書 (総合的に評価)			
オフィスアワー			
毎週月曜日 3限目			
アクティブ・ラーニング			
プレゼンテーション; アクティブ・ラーニング (その他の内容) アクティブ・ラーニング (授業回数)			
備考 (受講要件)			
特になし			
実務経験のある教員による実践的授業			

ナンバリングコード			
FHS-BBB2301			
科目名			
演習I(財産法)(旧 演習)			
英語名			
Seminar I:Property and Contract			
開講学科		コース	
法経社会学科法学コース 新旧共通		法学コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会・法学コース/必修科目	演習	2単位	3年
担当教員	連絡先(TEL)	連絡先(MAIL)	
植本幸子	下記の後に@leh.kagoshima-u.ac.jp	uemt05	
共同担当教員		前後期	
		後期	
授業概要			
財産法に関する設例につき論点を整理し、自ら調べ議論する。			
学修目標			
<ul style="list-style-type: none"> ・法解釈に関する記述を正確に読みとり説明する能力を身につける。 ・事実関係の記述から、関係する法的な論点を見つけ出し説明することが出来る。 ・主要な判例を調べ事実と判旨を説明することが出来る。 ・論点に関連する主要な学説を調べ説明することが出来る。 ・民法上の問題に関して私見を説明し報告することが出来る。 			
授業計画			
<p>第1回 ガイダンス 第2回～第15回 発表と討論</p> <p>2019年度は百選の2判から一人一題ずつ内容の確認を行っているが、テーマや教材を指定した希望には随時応じる。</p> <p>見学期間にかかわらずいつでも見学には応じるので、低学年生や別のゼミ所属の場合、いつでもメールで相談されたい。</p> <p>(通常スタイル)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・百選、プリントの設問、『事例で学ぶ民法演習』のいずれかより、特定の問題について自ら判例と学説を調べ、報告し、判例・学説のスタンスについて議論する。 <p>(上記が困難な場合)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・民法判例百選より、任意の裁判について、審級状況を含む事実関係、判旨、結論を説明できるようにする。 <p>報告時、教科書の該当ページの確認、事実関係等の把握の真偽については参加者皆で考察し議論する。</p>			
授業外学習(予習・復習)			
<p>(予習)</p> <p>報告者以外は事前に問題と教科書を勉強し、質問票(数行でも良いが通常はA4で1～2枚程度の場合が多い)を作成する。</p> <p>報告者は問題と上記事前質問に照らし、教科書、判例、評釈等を収集しレジメを作成する。</p> <p>(復習)</p> <p>報告者以外はレジメと議論、自己の事前質問を検討する。</p> <p>報告者は、授業中の議論を踏まえ、不足の資料は収集調査の上定められた期限までに事後レポートを提出する。</p>			
教科書			
手持ちの教科書を必ず持参すること。			
参考書			
松久三四彦他『事例で学ぶ民法演習』(成文堂2014年)等 六法を必ず携行すること。			
成績の評価基準			

- ・授業への取り組み態度(報告回数、報告以外の回における発言、質問票提出、報告部分の事後レポートによる。)
- ・演習なのですべての回に出席することが原則となる。事情のある場合も無い場合にも、必ず連絡相談すること。

オフィスアワー

追って指示する。

アクティブ・ラーニング

ディベート; プレゼンテーション;

アクティブ・ラーニング(その他の内容)

アクティブ・ラーニング(授業回数)

15回中14回

備考(受講要件)

・民法を通じて基本的な解釈学、裁判例の読み方、文献収集スキル等の基礎を身につけることになる。例年の受講生もLSなど大学院進学者もいれば、司法書士を中心に様々な資格取得する者、各種公務員、民間就職者等様々、進路や理解度も様々である。年度によって雰囲気は全く違うがいかなる状況にも流されることなく、批判を前提に自らの能力を伸ばすよう努力する態度が望まれる。

・高校卒業程度の国語力は当然の前提である。苦手な者は授業に関連した予習等で多くの努力が必要となる。科目として無関係であると思いき、スタートラインが違うのに努力無しに履修可能と思わないこと。例えば、大審院の判例に当たる場合には当然に旧字体の漢字を調べ、古語に近い言い回しについて辞書等を使って理解することが必要となる。逆に今までの差は少しの差に過ぎない。今後の努力や勉強が、年を経るごとに実力の蓄積となることを意識してあらゆる勉強に励んでもらいたい。

・本学在学生の見学、参加を歓迎する。低学年生の下見や参考の場合には早めの連絡と参観が推奨される(ゼミの抽選関係で掲示される参観期間等には拘束されない)。

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
FHS-BBB2301			
科目名			
演習I(憲法)(旧 演習)			
英語名			
Seminar I:Constitutional Law			
開講学科		コース	
法経社会学科法学コース 新旧共通		法学コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会・法学コース/必修科目	演習	2単位	3年
担当教員		連絡先(TEL)	連絡先(MAIL)
大野友也		099-285-7640	onotomoy@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
		後期	
授業概要			
演習形式で、憲法判例や学説についての整理・検討を行う。取り上げる判例・学説については、学生と相談して決める			
学修目標			
(1) 憲法についての基本的な概念・判例・学説を理解する。 (2) 現代の憲法問題について知り、解決策を考える。			
授業計画			
第1回：オリエンテーション 第2～14回：報告・討論 第15回：まとめ			
授業外学習(予習・復習)			
【予習】講義の一週間前に配布する予告レジュメ・資料を読んでおくこと(30分程度)。 【復習】配布したレジュメを再読し、論点を再考すること(60分程度)。 【課外活動】学外研修として、裁判所・刑務所等の見学を予定しています(詳細は講義の際に指示します)。また合宿も予定しています。 保険に入る際に必要なので、大学生協に加入しておいてください。			
教科書			
各自の所有する『憲法』のテキスト(たとえば、芦部信喜『憲法』(岩波書店)、辻村みよ子『憲法』(日本評論社)、佐藤幸治『日本国憲法論』(成文堂)、長谷部恭男『憲法』(新世社)、浦部法穂『憲法学教室』(日本評論社)、高橋和之『立憲主義と日本国憲法』(有斐閣)、渋谷秀樹『憲法』(有斐閣)、野中俊彦ほか『憲法I、II』(有斐閣)など)			
参考書			
適宜指示する			
成績の評価基準			
授業への取り組みの姿勢で評価する。			
オフィスアワ -			
火曜5限(研究室)			
アクティブ・ラーニング			
ディベート; プレゼンテーション; アクティブ・ラーニング(その他の内容)			
アクティブ・ラーニング(授業回数)			
15回中15回			
備考(受講要件)			
4・5限通してゼミを行いたいので(2年生の法政特殊講義と合同)、できれば木曜4限には別の講義を履修しない			

ようにして下さい(もちろん強制ではありません)。

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
科目名			
演習I (政治学)			
英語名			
開講学科		コース	
法経社会学科法学コース 新旧共通		法学コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会・法学コース / 必修科目	演習	2単位	3年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
平井一臣		8855	isshin@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
		前期	
授業概要			
政治学の基本的な考え方、社会事象を政治学的な観点から捉え、客観的なデータに基づいて分析する方法を学ぶ。			
学修目標			
政治学の基礎知識とその応用を修得する。			
授業計画			
第1回	ガイダンス		
第2回	文献講読		
第3回	文献講読		
第4回	文献講読		
第5回	文献講読		
第6回	文献講読		
第7回	文献講読		
第8回	文献講読		
第9回	文献講読		
第10回	文献講読		
第11回	文献講読		
第12回	文献講読		
第13回	文献講読		
第14回	文献講読		
第15回	総括		
授業外学習 (予習・復習)			
事前にテキストの予定の箇所を熟読し、疑問点を整理したうえで授業に臨むこと。 毎回の授業で討論した内容の要旨を整理すること。			
教科書			
スティーブン・レビツキー、ダニエル・ジブラット『民主主義の死に方』新潮社、2018年。			
参考書			
授業中適宜紹介する。			
成績の評価基準			
出席及び平常点による。			
オフィスアワー			
火曜2限			
アクティブ・ラーニング			
ディベート;			
アクティブ・ラーニング (その他の内容)			
アクティブ・ラーニング (授業回数)			
15回			

備考 (受講要件)

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード

FHS-BBB2301

科目名

演習I (法政策論・行政法務論) (旧 演習)

英語名

Seminar I: Public Policy and Administrative Practice

開講学科

コース

法経社会学科法学コース 新旧共通

法学コース

授業科目区分

授業形態

単位数

開講期

法経社会・法学コース / 必修科目

演習

2単位

3年

担当教員

連絡先 (TEL)

連絡先 (MAIL)

宇那木正寛

285-7628

unaki@leh.kagoshima-u.ac.jp
メールには、必ず学籍番号と氏名を明記し、パソコンからのメール拒否設定を解除しておいて下さい。

共同担当教員

前後期

前期

授業概要

演習参加者は、各自が関心を持つ安全・安心、環境、まちづくりなどの行政法領域のテーマを定め、当該政策の現状と課題（関連裁判例を含む）について報告を行います。この報告を受けて参加者全員で討論を行います。この演習では、法令、条例の構造・仕組みを丹念に分析することも重視します。

学修目標

(基本的学修目標)

1. プレゼンテーション能力の基礎を養う。
2. リーガル・コミュニケーション能力の基礎を養う。
3. 思考言語化能力の基礎を養う。

(専門的学修目標)

1. 現実の社会に惹起する様々な問題を行政法学的視点で議論できる能力を養う。
2. 公共政策立案に必要な法的基礎を構築する。

授業計画

第1回から15回まで報告及び討論を行う予定です。

授業外学習 (予習・復習)

【予習】

本ゼミでは、報告者以外の参加者についても、能動的かつ積極的に討論に参加することを求めます。したがって、参加者全員が報告テーマについて十分な予習をすることが必要です。なお、報告者が、他の参加者からの質問等に答えられなかった場合には、次回に当該質問事項等について再度報告する必要があります。

【復習】

報告テーマに関連して、確認すべき事項がある場合、これを指示します。必ず確認して下さい。

教科書

巨理格 = 北村喜宣編著 『重要判例とともに読み解く個別行政法』 (有斐閣、2013年)

宇賀克也 = 交告尚史 = 山本隆司編 『行政判例百選 1 [第7版]』 (有斐閣、2017年)

宇賀克也 = 交告尚史 = 山本隆司編 『行政判例百選 2 [第7版]』 (有斐閣、2017年)

参考書

宇賀克也 『行政法概説1 [第6版]』 (有斐閣、2017年)

宇賀克也 『行政法概説2 [第6版]』 (有斐閣、2018年)

宇賀克也 『行政法概説3 [第4版]』 (有斐閣、2015年)

櫻井敬子・橋本博之 『行政法 [第5版]』 (弘文堂、2016年)

宇那木正寛 『自治体政策立案入門』 (ぎょうせい、2015年)

成績の評価基準

演習における(1)出席状況、(2)報告内容、(3)討論への参加の積極性を中心に、ゼミ運営についての関与度なども含めて総合的に評価します。

なお、欠席が多い場合、事前の連絡なく欠席した場合、単位を与えないことがあるので注意して下さい。

オフィスアワー -

オフィスアワーは特に設けず、研究室在室中はできる限り対応したいと思います。来訪の際、事前連絡があると確実です。

アクティブ・ラーニング

プレゼンテーション;

アクティブ・ラーニング (その他の内容)

アクティブ・ラーニング (授業回数)

備考 (受講要件)

本演習により、公共における課題解決において行政法がいかなる役割を果たしているかについて真剣に学びたいという意欲のある学生の参加を歓迎します。

ゼミ参加者は、報告・討論については、もちろん、ゼミの運営についても主体的かつ能動的な役割を果たすことを求めます。

ゼミが共に学ぶ者の組織である以上、ゼミ参加者は、ゼミ運営における約束を守り、挨拶や連絡をとるといった最低限のマナーを守ることはもちろん、自己の行動や発言に責任を持たなければなりません。

ゼミの主役は参加者ひとりひとりです。共に学び、共に悩み、共に成長しましょう。

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
科目名			
演習I (法社会学) (旧 演習)			
英語名			
Seminar I: Socio-Legal Studies			
開講学科		コース	
法経社会学科法学コース 新旧共通		法学コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会・法学コース / 必修科目	演習	2単位	3年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
米田憲市			kenyone@leh.kagoshima-u.ac.jp (subject欄に、科目名と用件を記載し、本文には氏名と学籍番号を、必ず記載すること)
共同担当教員		前後期	
		後期	
授業概要			
<p>小難しい言い方をすれば、法社会学は、法やルールの社会的性質をその状況的事実とともに明らかにすることを志向し、理解を深めようとする研究実践とその成果の総体の呼称である。</p> <p>この研究領域では、多様な研究主題に多様な研究手法がとられることに鑑み、まず、これまでどのような主題がどのような手法で研究されているのかを明らかにしながら、これとほぼ並行して行う共通主題の調査研究と合わせて、この分野が法に関する研究分野の中で最も自由な性質を持つ分野であることを実感してもらい、「法についての知的で体験的で実践的な冒険」を授業の概要にしたい。</p>			
学修目標			
<p>再び小難しい言い方をすると、事実に対する冷静な分析力に基づいて、社会現象に対する共感的理解を伴った積極的かつ建設的提案ができ、組織をリードする意欲と協調性を習得して、国内外を問わず「ひとつぶ」意欲を持つことを、学修目標とする。</p>			
授業計画			
<p>おおむね、次の5つのテーマに取り組む。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. いわゆる"法社会学"にはどのような研究があるかリサーチする。 2. いわゆる"法社会学"の研究に、どのような研究手法がとられているかをリサーチする。 3. 法に関する諸場面や諸活動の位置づけや構造を説明する。 4. 新聞やニュースなどで法社会的な現象を取り上げ、それがいかに法社会的かを説明する。 5. 日常生活の中の場面にルールを発見し、そのルールを説明する。 			
授業外学習 (予習・復習)			
<p>ゼミでの発表・報告に向けた準備のため、時間外の共同作業が必須である。</p> <p>また、より充実した成果を上げるために、地域の法律系イベントに参加することや裁判傍聴に行くこと、法律系の検定試験を受験することが強く推奨される。</p>			
教科書			
指定しない。			
参考書			
随時紹介する。			
成績の評価基準			
上記、学修目標などに対して、積極的かつ意欲的に取り組んでいるかを基準とする。			
オフィスアワ -			
水曜5限 (その他、随時対応する。)			
アクティブ・ラーニング			
グループワーク; ディベート; フィールドワーク; プレゼンテーション; 学習の振り返り (ミニッツ・ペーパー			

等);

アクティブ・ラーニング(その他の内容)

アクティブ・ラーニング(授業回数)

15回中15回

備考(受講要件)

- ・「法社会学」「法情報論」の在学中の履修(履修前でなくてよい)が必須である。
- ・学生の研究活動の進捗や課題に合わせて、開講時間を変更することがある。
- ・法情報論ほか法政策学科で開講される、法に関する実践的な科目の受講を推奨する。
- ・法社会学の学会、研究発表会などに遠征する学修が含まれることがある。
- ・繰り返しだが、課外の時間に開催される地域の法律系イベントに参加することや裁判傍聴に行くこと、法律系の検定試験を受験することが強く推奨される。
- ・これまた、繰り返しになるが、事実に対する冷静な分析力に基づいて、社会現象に対する共感的理解を伴った積極的かつ建設的提案ができ、組織をリードする意欲と協調性を習得して、国内外を問わず「ひつとぶ」意欲を持つ者を歓迎する。

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード

科目名

憲法人権II (旧 法律学特殊講義 (人権論特論))

英語名

Constitutional Law :Human Rights II

開講学科

法経社会学科法学コース 新旧共通

コース

法学コース

授業科目区分

法経社会・法学コース/選
択科目

授業形態

講義

単位数

2単位

開講期

1~4年

担当教員

大野友也

連絡先 (TEL)

099-285-7640

連絡先 (MAIL)

onotomoy@leh.kagoshima-u.ac.jp

共同担当教員

前後期

後期

授業概要

憲法が保障する権利について、様々な問題を受講生に検討してもらい、発表・討論を行います。いわゆるアクティブラーニング型の講義となります。

少なくとも数時間の予習が毎週求められる講義になりますので、履修者はそのつもりでお願いします。また予習はグループワークで行なってもらいます。

グループについてはmanabaで連絡します。

学修目標

1. 憲法が保障する権利についての理解を深める。
2. 自身と異なる見解について、批判的に検討できる。

授業計画

- 第1回：オリエンテーション / 幸福追求権
 第2回：自己決定権 (1) 校則と自己決定権
 第3回：自己決定権 (2) 中絶と自己決定権
 第4回：自己決定権 (3) 安楽死と自己決定権
 第5回：平等 - 同性婚
 第6回：思想・良心の自由 - 「君が代」強制の是非
 第7回：信教の自由と政教分離 - 学校における信教の自由の尊重と政教分離
 第8回：表現の自由 (1) 性表現の自由
 第9回：表現の自由 (2) 特定秘密保護法と取材の自由
 第10回：表現の自由 (3) 広島暴走族追放条例事件
 第11回：学問の自由 - クローン技術規制法と学問の自由
 第12回：経済的自由 - 営業の自由とタクシー規制
 第13回：人身の自由 - 死刑制度
 第14回：社会権 - 生活保護受給者の権利
 第15回：教育を受ける権利 - 生徒会誌切り抜き事件

講義テーマは変更があり得ます。その場合、事前に告知します。

講義の代わりに、ゲストスピーカーによる講演会を行うこともあります。

授業外学習 (予習・復習)

講義の1週間前に予習課題を示します。グループで必ずそれをやってきて下さい。
 グループについてはmanabaを通じて連絡します。

教科書

適宜指示します。

参考書

適宜指示します。

成績の評価基準

期末レポート (グループワーク) で評価します。

オフィスアワ -

火曜5限 (研究室)

アクティブ・ラーニング

グループワーク; ディベート; プレゼンテーション;

アクティブ・ラーニング (その他の内容)

アクティブ・ラーニング (授業回数)

15回中15回

備考 (受講要件)

「憲法人権I」 (法政策学科生は「人権論」) の内容を前提に行うので、この科目を履修していることが望ましいです (もちろん、未履修でも履修は可能です)。

なお、法政策学科の学生が履修した場合、単位認定科目名は「法政特殊講義 (人権論特論)」となります。

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
FHS-BBC1102			
科目名			
外国書講読（比較法A）			
英語名			
Study of Foreign Legal Works : Comparative Law A			
開講学科		コース	
法経社会学科法学コース 新旧共通		法学コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会・法学コース/選択科目	講義	2単位	2～4年
担当教員	連絡先（TEL）	連絡先（MAIL）	
植本幸子	kagoshima-u.ac.jp	uemt05@leh.	
共同担当教員		前後期	
		後期	
授業概要			
比較法やアメリカ法についての文章を和訳する。参加者は、順に、音読の上で文法に則った和訳を行う。難しい内容や文章に関しては適宜、教員が解説を加える。			
学修目標			
<ul style="list-style-type: none"> ・ 英文で表現されたテクニカルタームを、正確に和訳し、説明できるようになる。 ・ 主要な英語の法律専門用語について、調べる技術を身につける。 ・ 高校英語や受験英語では難文扱いとなるであろう難解な文章にも慣れ親しむ。 			
授業計画			
2018年度は外国書講読（比較法B）であったが、2019年度は外国書講読（比較法A）である。			
第1回 外国書講読の学び方（授業の進行方法、評価方法、辞典紹介等）			
第2回 読解と解説（比較法の基礎知識1．法圏論・法系論）			
第3回 読解と解説（比較法の基礎知識2．大陸法と英米法）			
第4回 読解と解説（比較法の基礎知識3．主要な学者とテクニカルタームの定訳）			
第5回 読解と解説（大陸法の歴史1．英米法と大陸法）			
第6回 読解と解説（大陸法の歴史2．大陸法における法制度の歴史）			
第7回 読解と解説（大陸法の歴史3．ローマ法の影響）			
第8回 主要構文と主要知識の確認			
第9回 読解と解説（大陸法の歴史4．ローマ法の再生）			
第10回 読解と解説（大陸法の歴史5．ドイツにおけるローマ法の継受）			
第11回 読解と解説（大陸法の歴史6．ドイツにおけるローマ法の発展）			
第12回 読解と解説（大陸法の歴史7．フランスにおけるローマ法の継受）			
第13回 読解と解説（大陸法の歴史8．啓蒙主義と法典化）			
第14回 読解と解説（大陸法の歴史9．法典化と社会構造）			
第15回 読解と解説（大陸法の歴史10．政治体制と法典化）			
授業外学習（予習・復習）			
<p>(予習) 1．指定した資料を検索し、入手する。</p> <p>2．指定資料を音読し、わからない発音を辞典で調べる。</p> <p>3．指定資料を和訳して、難解な箇所を把握する。</p> <p>4．授業中はランダムに当てるため、毎回必ず準備をすること。</p> <p>5．緊張に備え、和訳分を書きだしておくことが望ましい(配布は不要)。</p> <p>(復習) 1．予習で間違っていた部分を中心に見直す。</p> <p>2．テクニカルタームの定訳について確認し、確実に身につける。</p> <p>(学習のポイント)</p> <p>・ 辞書を参照するとき受験用に厳選された意味だけではなく、それ以外の意味や使用例にも目を通し、使われる状況を確認していこう。</p>			

教科書

適宜必ず英和辞典を携行すること。電子辞書が良いが大辞典以上が望ましい。

参考書

田中英夫編『英米法辞典』（1991東京大学出版会）（図書館での参照が推奨）他

成績の評価基準

毎回必ず出席すること。やむを得ない欠席については手書きの和訳と自己点検の提出をもって出席に替える。

授業への取り組み態度7割（毎回の和訳の口頭報告において誤りは減点しないが無言は減点）。

和訳技術の定着度3割（一部の文章について和訳のテストを行う。）。

オフィスアワー

追って指示する。

アクティブ・ラーニング

アクティブ・ラーニング（その他の内容）

アクティブ・ラーニング（授業回数）

備考（受講要件）

20名の抽選科目となる。

履修登録した以上、毎回和訳をすべて口頭で読み上げる覚悟で出席すること。

副題記載の無い年度（おそらく平成29年度まで）の植本担当の「外国書講読(英語)」は「(比較法A)」の副題となるため履修済みの者は2019年度の履修はできない。昨年平成30年度履修者は(比較法B)になるため2019年度の履修は可能。

他の学生に知られても構わないメールアドレスを、連絡用およびデータベース申請用として用意すること。

授業の性質上、履修者は20名程度となる。人数超過の場合には選考となる可能性があるため、初回の授業には必ず出席し、やむを得ず欠席する場合には可及的速やかに必ず連絡すること。

実務経験のある教員による実践的授業

キャリア形成演習（法職入門A）（旧 法律学特殊講義（法職入門A））
ナンバリングコード

FHS-BBC2337

科目名

キャリア形成演習（法職入門A）（旧 法律学特殊講義（法職入門A））

英語名

Career Development Seminar : Legal Professions A

開講学科

コース

法経社会学科法学コース 新旧共通

法学コース

授業科目区分

授業形態

単位数

開講期

法経社会・法学コース/選
択科目

講義

2単位

2～4年

担当教員

連絡先（TEL）

連絡先（MAIL）

中島宏、米田憲市、南由介、原田い
づみ

099-285-7633（中島）

h-nakaji@leh.kagoshima-u.ac.jp（
中島）

共同担当教員

前後期

授業概要を参照

後期

授業概要

この科目は、将来、法曹（弁護士・裁判官・検察官）となるため、法科大学院への入学、あるいは司法試験予備試験の合格を目指す学生を想定したものである。履修者が法曹を目指すことを前提に、法律基本科目の基本的な思考方法を定着させ、具体的事案の解決に向けた応用力、文書による表現力を鍛えるために、主に各法律分野の事例問題を用いて授業を展開する（ただし、入試や予備試験に向けた受験対策を行うものではなく、地力を鍛えるための科目であることに注意されたい）。また、法律家の仕事のあり方や法曹界を取り巻く様々な問題に対する理解を深めたり、法科大学院における学修や司法試験の受験に対する具体的なイメージを持つための企画も随時実施する。

前田・中島・南・米田が全体を統括するが、各回の授業では様々な法律基本科目を内容とするため、各分野の教員をゲストスピーカーに招きつつ、幅広く指導・訓練する。

本学司法政策教育研究センターと他大学との連携協定に基づき、遠隔講義システムを活用して九州大学法科大学院、琉球大学法科大学院、中央大学法科大学院（予定）の教員による講義や講演も実施する。各法科大学院の先生方からは、法科大学院で実際に行われている双方向・多方向の授業方式を展開していただくため、法科大学院の講義で先取りして実体験することができる。

具体的に扱う領域は、法律基本7科目（司法試験科目・予備試験科目であり、各法科大学院の既修者試験の科目となる基本科目のこと。憲・民・刑・商・行・民訴・刑訴）司法制度論を予定している。「法職入門B」と同じ目的・開講形態であるが、扱う内容（事例問題）は異なる。したがって、両方とも履修することが可能であり、好ましい。

学修目標

- 1) 実定法学の各科目に共通して必要とされる法的思考力を身につける。
- 2) 講義等で学ぶ法律知識を用いて具体的な事案を解決するための応用力を鍛える。
- 3) 法的推論を文書によって表現するための基本的な力を身につける。
- 4) 法律家がどのような仕事をしているのかを正しく知る。
- 5) 法曹界を取り巻く様々な問題に対する理解を深める。
- 6) 法科大学院における学修や司法試験の受験に対する具体的なイメージを形成する。
- 7) 法科大学院の2年修了コースに合格するために必要な力を身につける。
- 8) 将来、司法政策に貢献できる学識と人格を備えた法曹になる基盤を身につける。

授業計画

- 第1講 ガイダンス・アイスブレイク
- 第2講 事例問題（民法分野1）
- 第3講 事例問題（民法分野2）
- 第4講 事例問題（民法分野3）
- 第5講 事例問題（刑法分野1）
- 第6講 事例問題（刑法分野2）

第7講	事例問題（刑法分野3）
第8講	事例問題（憲法分野1）
第9講	事例問題（憲法分野2）
第10講	事例問題（憲法分野3）
第11講	司法制度論
第12講	事例問題（商法分野）
第13講	事例問題（行政法分野）
第14講	事例問題（刑事訴訟法分野1）
第15講	事例問題（刑事訴訟法分野2）
授業外学習（予習・復習）	
予習	
毎回の授業につき、あらかじめ出題される事例問題を事前に検討し、自分の解答を作成したうえで講義に出席しなければならない。様々な法律科目の内容を扱うので、必要な知識は他の科目（民法・憲法・刑法など）の教科書等で自習することが必要となる。また、判決文を精読したうえでの参加を求める場合もある。講義の目的に照らして、高い水準での予習が求められることを十分に覚悟されたい。目安90分程度。	
復習	
授業で検討した事例問題について、授業中の指摘事項等を踏まえ、あらためてどのような論述をすべきか、各自で検討する。その際、わからないことがあれば教員に質問する。また、必要に応じて復習のための課題（応用問題や基礎を確認するための問題）が示されるので、その場合は解答を作成する。目安60分程度。	
教科書	
特に定めない。	
参考書	
適時指示する。	
成績の評価基準	
議論への参加姿勢・発言内容と提出した答案の点数によって評価する。	
オフィスアワー	
追って指定する。なお、質問等での研究室訪問は随時可。	
アクティブ・ラーニング	
ディベート；プレゼンテーション；学習の振り返り（ミニッツ・ペーパー等）；その他；	
アクティブ・ラーニング（その他の内容）	
答案の起案指導	
アクティブ・ラーニング（授業回数）	
15回中15回	
備考（受講要件）	
開講目的を確実に達成するため、履修者の上限を20名とする。履修希望者がこれを超えた場合は、過去の法律科目の成績等を参考にして選抜を行う。選抜方法等については、別途掲示するので注意すること。	
<ul style="list-style-type: none"> ・法曹（あるいはそれに準じる法律専門職）を目指して学習することを前提とする。 ・法政策学科で開講されている法律科目を体系的に学習し、成果を上げていることを前提とする。 	
実務経験のある教員による実践的授業	
法曹資格を有し弁護士としての実務経験を有する教員が他の教員と共同で担当する。	

ナンバリングコード			
FHS-BBC2337			
科目名			
英米法（旧 法律学特殊講義（英米法））			
英語名			
Anglo-AmericanLaw			
開講学科		コース	
法経社会学科法学コース 新旧共通		法学コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会・法学コース/選択科目	講義	2単位	2～4年
担当教員	連絡先（TEL）	連絡先（MAIL）	
植本幸子	kagoshima-u.ac.jp（下記と組み合わせよ。タイトル部分に必ず授業名と学年・氏名を表記のこと。）	uemt05@leh.	
共同担当教員		前後期	
		前期	
授業概要			
アメリカ法を中心に、英米法について日本語で講義を行う。			
学修目標			
<ul style="list-style-type: none"> ・日本法と英米法を比較した際の基本的な特徴を理解する。 ・英米法に関する基礎的な専門用語を理解し説明することができる。 ・授業で扱った代表的なケースについて、事実、判旨、理由付けを説明し、その意義を説明することができる。 			
授業計画			
第1回	比較法原論		
第2回	英米法の特徴(判例法主義と手続重視)		
第3回	アメリカ法の特徴(連邦法と州法)		
第4回	英米法の歴史(裁判所制度の発展)		
第5回	法源論		
第6回	訴訟方式の発展(物権法・不法行為法)		
第7回	訴訟方式の発展(合意の保護)		
第8回	合意の保護(引受訴訟と約因理論)		
第9回	合意の保護(約因理論と約束的禁反言)		
第10回	契約の修正原理と特徴的な制度		
第11回	合衆国における法域と裁判管轄		
第12回	合衆国における裁判手続		
第13回	英米の法律家		
第14回	チェックアンドバランスと主要な憲法訴訟		
第15回	法の適正過程		
授業外学習(予習・復習)			
(予習)			
教科書に目を通し、わからない言葉を調べる。			
読めない漢字や意味のわからない言葉は紙媒体の国語辞典や英和辞典、英米法辞典で確認する(インターネットは使用しないこと。電子辞書の使用と携行は推奨される。)			
(復習)			
プリントとノートを見直し、テストで再現することを念頭において、用語や事案の説明を書き出して記憶の定着を図る(授業直後に書き出しを行い、一週間後とテスト対策期間に見直すことが推奨される)。そのうえで、どのような解決方法が望ましいのかということや、学習に際し得られた知識を分析し、あらゆる事象について応用可能な学ぶべきことがないのか多面的に検討することが望ましい。			
・誤りやすい用語についてのみ復習シートの配布を行う。			
教科書			
伊藤 正己・木下 毅『アメリカ法入門』(日本評論社 第5版)			

参考書

追って指示する。

なお、英和辞典、国語辞典、漢和辞典を備えた電子辞書の携行が推奨される。
携帯電話の使用は特に指示をする場合以外は許可されない。

成績の評価基準

期末テスト（100点）

授業態度（授業中の問いや読み上げに際し無言を減点、正答を加点）（マイナス50点～プラス50点）

オフィスアワー

授業の前後

アクティブ・ラーニング

学習の振り返り（ミニッツ・ペーパー等）；

アクティブ・ラーニング（その他の内容）

アクティブ・ラーニング（授業回数）

15回中8回程度

備考（受講要件）

教科書の音読から始めるため、教科書を必ず持参すること。

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
科目名			
政治史			
英語名			
開講学科		コース	
法経社会学科法学コース 新旧共通		法学コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会・法学コース/選択科目	講義	2単位	2～4年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
平井一臣		8855	isshin@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
		前期	
授業概要			
戦後日本の政治の展開過程を、権力政治、市民政治、国際関係の三つのアリーナから考察する。			
学修目標			
戦後日本政治の歩みを歴史的な展開に則して理解するとともに、歴史的アプローチを通じて日本政治の現状と課題についての関心と理解を深める。			
授業計画			
第1回 戦後日本政治を考える意味			
第2回 敗戦と戦後の出発			
第3回 占領前期			
第4回 占領後期			
第5回 講和と安保			
第7回 55年体制			
第8回 60年安保			
第9回 高度成長			
第10回 ベトナム反戦と沖縄の復帰			
第11回 田中支配の時代			
第12回 新自由主義の台頭			
第13回 「政治改革」の時代の始まり			
第14回 21世紀の日本政治			
第15回 総括			
授業外学習 (予習・復習)			
事前に配布した資料プリントに目を通して受講することとする。 の学習内容についてのミニテストを数回行うので、講義で取り上げた政治的出来事について復習をしておくこと。			
教科書			
なし			
参考書			
講義中に適宜紹介する。			
成績の評価基準			
出席及び中間ミニテスト・期末試験による。			
オフィスアワー			
火曜2限			
アクティブ・ラーニング			
学習の振り返り (ミニッツ・ペーパー等) ;			
アクティブ・ラーニング (その他の内容)			
アクティブ・ラーニング (授業回数)			
15回			

備考（受講要件）

実務経験のある教員による実践的授業

? ????
 ????
 ???? ?? (?? ??)

参考書

成績の評価基準

出席及び期末試験

オフィスアワ -

火曜2限

アクティブ・ラーニング

グループワーク;

アクティブ・ラーニング（その他の内容）

アクティブ・ラーニング（授業回数）

3回

備考（受講要件）

韓国語学習の経験がある者がのぞましい。

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
FHS-BBC1309			
科目名			
物権法I (旧 物権法)			
英語名			
Ownership, Possession, Various Tenancy and Collateral I			
開講学科		コース	
法経社会学科法学コース 新旧共通		法学コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会・法学コース/選択科目	講義	2単位	2～4年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
植本幸子		kagoshima-u.ac.jp (下記と組み合わせよ。タイトル部分に必ず授業名と学年・氏名を表記のこと。)	uemt05@leh.
共同担当教員		前後期	
		前期	
授業概要			
物権変動と担保物権以外の物権についての講義を行う。			
学修目標			
<ul style="list-style-type: none"> ・物権法に関するテクニカルタームを理解する。 ・物権法に関連する主要な問題について、登場する当事者の利害関係と権利関係をイメージすることができる。 ・物権法に関連する主要な問題についての法的解決を、根拠をもって説明することができる。 ・物権法に関する主要な問題点を理解するために、学説や判例についての基本書や学習用判例集の記述を正確に読みとる能力を身につける。 			
授業計画			
第1回	ガイダンス、民法の体系、所有権の絶対、物権と債権、物権法定主義		
第2回	物、不動産と動産、主物と従物		
第3回	物権的請求権		
第4回	所有権の取得		
第5回	物権変動、対抗要件その1 (概要、公示と公信)		
第6回	対抗要件その2 (登記)、登記と時効等		
第7回	即時取得		
第8回	占有その1 (占有、占有訴権)		
第9回	占有その2 (占有移転の対応)		
第10回	所有権		
第11回	相隣関係		
第12回	共有		
第13回	区分所有		
第14回	用益物権その1 (地上権、借地借家法)		
第15回	用益物権その2 (永小作権、地役権)		
授業外学習 (予習・復習)			
(予習)			
上記「授業計画」やレジメに照らして教科書と条文に目を通す(原則的に条文の順番に沿っている)。その際には、どの部分に何が書いてあるのかを前後の頁を開ける程度に把握し、自分で読んでわからない部分をチェックしておく。			
(復習)			
プリントとノートを見直し、教科と条文に照らし合わせ、テストで再現することを念頭において記憶の定着を図る(授業直後、一週間後、テスト対策期間の3回が望ましい)。			
教科書			
千葉恵美子・藤原正則・七戸克彦『民法2 物権 [第3版]』(有斐閣アルマシリーズ 2018年4月)			
参考書			

・六法を必ず用意すること。有斐閣、岩波、三省堂のものから判例や解説のついていないものを選ぶこと。(期末試験においては、判例のついていない六法の持ち込みを認める。)

・授業中は判例付の六法を用いて差し支えない。

成績の評価基準

・授業への取り組み態度(発言について無言はマイナス。正答は加点。)

・小テスト等への取り組み(正誤は問わない)。

・期末試験

オフィスアワ -

追って指示する。

アクティブ・ラーニング

学習の振り返り(ミニッツ・ペーパー等);

アクティブ・ラーニング(その他の内容)

アクティブ・ラーニング(授業回数)

備考(受講要件)

平成28年度より前に入学した旧カリキュラム生については「物権法」に該当するが、過年度と違い担保物権については扱わないので注意すること。

実務経験のある教員による実践的授業

法政特殊講義（アジア共同体論）（旧 政治学特殊講義（アジア共同体論））
ナンバリングコード

科目名

法政特殊講義（アジア共同体論）（旧 政治学特殊講義（アジア共同体論））

英語名

Special lecture on law, policy and political science : Peace Studies

開講学科

コース

法経社会学科法学コース 新旧共通

法学コース

授業科目区分

授業形態

単位数

開講期

法経社会・法学コース/選
択科目

講義

2単位

2～4年

担当教員

連絡先（TEL）

連絡先（MAIL）

木村朗

099-285-7654

kimura@leh.kagoshima-u.ac.jp

共同担当教員

前後期

前期

授業概要

東アジア地域における平和と共生を実現するために、日本・中国・台湾・韓国という近隣諸国の友好信頼関係をいかにすれば築いていくことができるかを、政治・経済・文化・社会など多方面から歴史的かつ総合的に分析・考察する。その際に、特に「沖縄(琉球)の視座」を重視する。沖縄は、沖縄は、その非武装の島としての歴史・伝統、開放的な文化と豊かな自然などから、21世紀における東アジアの連帯と共生、あるいは東アジア地域における平和と安定を実現していく上での平和創造の拠点として重要な役割をはたしていく可能性を秘めている。

本講義では、このような日本内外の揺れ動く情勢の中で、東アジア地域においてふたたび戦火を招かないためにはいま何が求められているのか、また日本と沖縄はどのような位置・役割をはたすべきなのかを考える。

学修目標

- (1) 政治・国際問題に対する基本的な知識を身に修得することができる。
- (2) 政治・国際問題に対する分析視角・方法を学ぶことができる。
- (3) 東アジア地域における平和創造と沖縄問題の基本構造への認識を深めることができる。

授業計画

1. 4月12日 石川捷治（九州大学名誉教授）「東アジアの平和」+中村尚樹（ジャーナリスト）「日韓両国の被曝2世問題」
2. 4月19日 前田 朗「日本植民地主義批判序説」
3. 4月26日 緒方 修（琉球・沖縄センター長）「東アジア共同体と沖縄」
4. 5月10日 李 明峻（台湾大学）「東アジア共同体構想における台湾の役割」
5. 5月17日 ピーター・カズニック（アメリカン大学）"America's Declining Empire and the Future of Asia." +（通訳：坂本育生）
6. 5月24日 金 哲（安徽三連学院）+金センター長（済州大学）「いまなぜ東アジア共同体なのか」
7. 5月31日 ? 新(上海交通大学)「近代以来中国における対沖縄観の変遷 安全保障の視角に基づいて」
8. 6月7日 権 赫泰（クオン・ヒョクテ）（聖公会大学）「“戦後”の誕生 戦後日本と「朝鮮」の境界」

6月8日（土）「特別講義」稲盛会館 【共通テーマ：朝鮮半島問題と東アジアの平和】
鳩山友紀夫+ブルース・カミングス（通訳：与那覇恵子）

9. 6月14日 姜 克実（岡山大学）「歴史感情の継承と歴史事実の記録」
+藤村一雄（鹿児島大学）「吉野作造の関東軍批判—戦前期アジア連帯の障害」
10. 6月21日 劉成（南京大学）「平和研究の観点から見たアジア共同体協力の概念とメカニズム」
11. 6月28日 趙 誠倫（済州大学）「アジア太平洋地域の米軍基地と住民行動の未来～済州島を中心に」
12. 7月5日 野平晋作（ピースボート共同代表）「3.1朝鮮独立運動から100年 問われる植民地主義の清算」+
東江日出郎（名古屋大学）「ドゥテルテ政権の外交・安全保障政策」
13. 7月12日 中川十郎（東京外国語大学名誉教授）+林敏潔（南京師範大学教授）「現代中日大学生における価値観の比較」
14. 7月19日 鄭龍河（チョン・ヨンハ）先生（釜山大学）「陝川(ハプチョン)の韓国人被爆者問題」

15. 7月26日 佐藤洋治（ワンアジア財団理事長）+西塚秀和（ワンアジア財団事務局長）

授業外学習（予習・復習）

教科書

テキストは、『東アジア共同体と沖縄の視座』（花伝社）とする。

参考書

適宜授業の中で紹介する。

成績の評価基準

平常点、レポート アンケートなどを含めて総合的に評価

オフィスアワ -

月曜日・3時限・研究室

アクティブ・ラーニング

学習の振り返り（ミニッツ・ペーパー等）；

アクティブ・ラーニング（その他の内容）

アクティブ・ラーニング（授業回数）

備考（受講要件）

6月8日（土）「特別講義」には必ず参加すること。

稲盛会館 【共通テーマ：朝鮮半島問題と東アジアの平和】

鳩山友紀夫+ブルース・カミングス（通訳：与那覇恵子）

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
科目名			
国際取引法			
英語名			
開講学科		コース	
法経社会学科法学コース 新旧共通		法学コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会・法学コース/選択科目	講義	2単位	2～4年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
眞砂康司		099 - 285-7630	masago@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
		後期	
授業概要			
<p>本講義は国際取引法の基本問題を概観するものである。私の専門との関係もあり国際取引における法適用のあり方の問題を念頭において講義を進める。加えて、国際取引の当事者たる外国会社に対する法規制のあり方も概観する予定である。</p>			
学修目標			
<p>国際取引における基本的な法律問題の概要を習得する。また、そこでの法規制をめぐる法理論を理解する。</p>			
授業計画			
第1回	ガイダンス		
第2回	序論		
第3回	国際取引に適用される法(1) 総説		
第4回	国際取引に適用される法(2) 国際私法		
第5回	国際取引に適用される法(3) 統一私法		
第6回	国際取引の当事者(1) 総説		
第7回	国際取引の当事者(2) 個人		
第8回	国際取引の当事者(3) 企業、法人		
第9回	国際取引の当事者(4) 企業、法人		
第10回	国際取引の当事者(5) 企業、法人		
第11回	国際取引の当事者(6) その他		
第12回	国際的な物品の売買(1) 総説		
第13回	国際的な物品の売買(2) 国際売買契約		
第14回	国際的な物品の売買(3) 国際売買契約		
第15回	国際的な物品の売買(4) その他		
授業外学習 (予習・復習)			
<p>教科書等について次回の講義が行われる部分を予習しておくことが望ましい。また、すでに行われた講義内容については不明部分を質問することが望ましい。</p>			
教科書			
山田鎌一・佐野寛著『国際取引法』(有斐閣) 最新版を用いる。			
参考書			
適宜、指示します。			
成績の評価基準			
期末試験。場合によっては小テストないし中間レポートも課す。			
オフィスアワ -			
木曜日・3時限・研究室			
アクティブ・ラーニング			
学習の振り返り(ミニッツ・ペーパー等);			
アクティブ・ラーニング(その他の内容)			
アクティブ・ラーニング(授業回数)			

3～4回に1回実施予定

備考（受講要件）

国際私法の基礎知識を習得していることが望ましい。

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
科目名			
債権法I (旧 現代契約法)			
英語名			
Debtor and Creditor I			
開講学科		コース	
法経社会学科法学コース 新旧共通		法学コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会・法学コース/選択科目	講義	2単位	2~4年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
采女博文			uneme@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
		前期	
授業概要			
<p>授業の範囲は、契約法総論及び契約法各論〔民法第3編債権第2章（第521条～第694条）〕である。契約法総論では、契約の成立・効力・解除を扱う。契約法各論では、典型契約のうち法的思考力を涵養するのに適していると考えられる売買・賃貸・請負・委任の契約類型を中心に扱う。授業は、抽象的な知識に墮することを避けるために、必要に応じて具体的事例を素材に法的判断力を培うものとする。</p>			
学修目標			
<p>授業の到達目標及びテーマ</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 契約法の知識（各制度の趣旨，法律要件と法律効果）を修得する。民法総則，物権法で修得した知識との連続性，総合性のある知識の修得を目標とする。 2. 民法全体（民法総則，物権法を含む）を見渡しながら法的な判断ができる能力，規範＝ルールを発見する能力を涵養する（法の解釈）。 3. ルールを具体的な事件にあてはめて結論を出す実際的能力を身につける（法の適用）。 			
授業計画			
<p>授業計画</p> <ul style="list-style-type: none"> 第 1 回 契約の基礎(法律行為論を含む) 第 2 回 契約の成立(基礎理論・約款を含む) 第 3 回 契約の効力(同時履行の抗弁権,危険負担,事情変更の原則など) 第 4 回 契約の解除 第 5 回 贈与・売買の成立(手付,買戻し) 第 6 回 売買の効力1(物の担保責任,契約内容不適合) 第 7 回 売買の効力2(権利の担保責任) 第 8 回 使用貸借,賃貸借の成立(権利金,敷金) 第 9 回 賃貸借の効力(賃貸人・賃借人の地位,地位の移転,譲渡・転貸) 第 10 回 賃貸借と妨害排除請求権,借地借家法 第 11 回 請負1(注文者と請負人の地位) 第 12 回 請負2(工事の完成と所有権の移転時期,危険負担) 第 13 回 雇用 第 14 回 委任・寄託・組合・和解 第 15 回 契約の解釈の方法 			
授業外学習(予習・復習)			
<p>復習による知識の定着を求める。事例問題に関しては、受講生間のやりとり、答案作成等を求める。</p>			
教科書			
<p>堀田泰司他編「債権法各論」嵯峨野書院,2016</p>			
参考書			
<p>参考書・参考資料等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・潮見佳男『債権各論?(第3版)』(新世社,2017) ・平井宜雄『債権各論?上契約総論』(弘文堂,2008) ・『民法判例百選?債権(第8版)』(有斐閣) 			

民法(債権法)改正関係資料

大村敦志, 道垣内弘人編『解説 民法(債権法)改正のポイント』有斐閣, 2017年
 中田 裕康, 大村 敦志, 道垣内 弘人, 沖野 眞己『講義 債権法改正』商事法務2017年
 日本弁護士連合会『実務解説 改正債権法』弘文堂, 2017年
 潮見佳男, 北居 功, 高須順一, 赫高規, 中込一洋, 松岡久和編『Before/After 民法改正』弘文堂, 2017年
 潮見 佳男『民法(債権関係)改正法の概要』きんざい, 2017年
 潮見佳男, 北居功, 高須順一, 赫高規, 中込一洋, 松岡久和編『Before/After 民法改正』弘文堂, 2017
 潮見佳男, 千葉恵美子, 片山直也, 山野目章夫編『詳解 改正民法』商事法務, 2018年
 筒井健夫, 村松秀樹『一問一答 民法(債権関係)改正』商事法務, 2018年

成績の評価基準

学生に対する評価

「定期試験」(80%), 「到達度確認小テスト」(20%)の合計点による。学生の到達度を確認しながら授業を進行させるために, 適宜, 小テストを実施し, 成績評価に反映させる。

オフィスアワ -

月曜、水曜日の授業終了後の昼休み、法文学部1号館6階共同演習室
 メールでの質問に対応します。

アクティブ・ラーニング

学習の振り返り(ミニッツ・ペーパー等); その他;

アクティブ・ラーニング(その他の内容)

授業中の質疑応答として、原告・被告側双方の立場で論理を展開することを求める。

アクティブ・ラーニング(授業回数)

基本的に毎回試みる

備考(受講要件)

学生に対する評価

「定期試験」(80%), 「質疑応答、到達度確認小テスト」(20%)の合計点による。学生の到達度を確認しながら授業を進行させるために, 適宜, 小テストを実施し, 成績評価に反映させる。

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
科目名			
憲法統治（旧 統治機構論）			
英語名			
開講学科		コース	
法経社会学科法学コース 新旧共通		法学コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会・法学コース/選択科目	講義	2単位	2～4年
担当教員	連絡先（TEL）	連絡先（MAIL）	
大野友也	099-285-7640	onotomoy@leh.kagoshima-u.ac.jp	
共同担当教員	前後期		
	前期		
授業概要			
憲法の統治分野について講義をします。			
学修目標			
(1) 憲法の統治分野について理解する。			
(2) 憲法の統治分野に関する諸問題につき、自分なりの考えを述べられる。			
授業計画			
(1) 憲法とは何か			
(2) 日本国憲法制定史			
(3) 国民主権と天皇制			
(4) 平和主義（1）			
(5) 平和主義（2）			
(6) 国会（1）			
(7) 国会（2）			
(8) 内閣（1）			
(9) 内閣（2）			
(10) 裁判所（1）			
(11) 裁判所（2）			
(12) 違憲審査制度			
(13) 財政			
(14) 地方自治			
(15) 憲法改正			
ゲスト講師による特別授業が入る可能性もあります。			
授業外学習（予習・復習）			
レポート課題を毎回出しますので、それをやってきて下さい。また講義後にはそのレポート課題を見直して下さい。			
教科書			
講義中に指示します。			
参考書			
講義中に指示します。			
成績の評価基準			
期末試験80%、平常点20%			
オフィスアワ -			
火曜日5限（研究室）			
アクティブ・ラーニング			
グループワーク；ディベート；			
アクティブ・ラーニング（その他の内容）			
アクティブ・ラーニング（授業回数）			

15回

備考（受講要件）

特にありませんが、「憲法人権I」についての理解を前提とします。

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
FHS-BBC1102			
科目名			
外国書講読（アメリカ私法と法選択）			
英語名			
Study of Foreign Legal Works : Private Law and Choice of Law in America			
開講学科		コース	
法経社会学科法学コース 新旧共通		法学コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会・法学コース/選択科目	講義	2単位	2～4年
担当教員	連絡先（TEL）	連絡先（MAIL）	
眞砂康司	099 - 285-7630	masago@leh.kagoshima-u.ac.jp 件名（題名）に、必ず学籍番号、氏名を入れてください	
共同担当教員	前後期		
	後期		
授業概要			
<p>一般的には、国際結婚とか国際契約といわれますが、複数の法域（国とか州）の間で生じる生活関係（例えば、国際〔州際〕的な婚姻、契約など）の法規制では、まずもって、いずれの法域の法を適用すればよいのかという法の選択問題が発生します。本授業では、アメリカ合衆国において、この法の選択を任務とする法＝抵触法（国際私法）のリスティメントを輪読します。</p>			
学修目標			
アメリカ合衆国の抵触法（国際私法）の第二リスティメントの訳出、発表を通して、合衆国法の知識を身近なものとしします。			
授業計画			
1回 ガイダンス 2回 Restatement, Second, Conflict of Lawsの輪読? 3回 Restatement, Second, Conflict of Lawsの輪読? 4回 Restatement, Second, Conflict of Lawsの輪読? 5回 Restatement, Second, Conflict of Lawsの輪読? 6回 Restatement, Second, Conflict of Lawsの輪読? 7回 Restatement, Second, Conflict of Lawsの輪読? 8回 Restatement, Second, Conflict of Lawsの輪読? 9回 Restatement, Second, Conflict of Lawsの輪読? 10回 Restatement, Second, Conflict of Lawsの輪読? 11回 Restatement, Second, Conflict of Lawsの輪読? 12回 Restatement, Second, Conflict of Lawsの輪読? 13回 Restatement, Second, Conflict of Lawsの輪読? 14回 アメリカでの裁判の模擬法廷のビデオ鑑賞（1） 15回 アメリカでの裁判の模擬法廷のビデオ鑑賞（2）			
授業外学習（予習・復習）			
あらかじめ伝えられている報告者の訳出部分については他の学生も予習することが望ましい。授業後は、報告者でなくとも、質問することが望ましい。			
教科書			
資料を配布する。			
参考書			
適宜、指示する。			
成績の評価基準			

授業への取り組み態度（各自の訳出分に対する評価60%、授業中の積極的参加態度に対する評価40%）

オフィスアワ -

金曜日・3時限・研究室（除く11/9）

アクティブ・ラーニング

その他；

アクティブ・ラーニング（その他の内容）

訳出と発表およびその際の疑問を素材にして、学生間の議論および教員と学生間での知識の相互交通を行う。

アクティブ・ラーニング（授業回数）

ほぼ毎回

備考（受講要件）

毎回、数人の受講生が前もって割り当てられた英文を訳出し、発表する。

授業の性質上、履修者は20名程度となる。人数超過の場合には選考となる可能性があるため、初回の授業には必ず出席し、やむを得ず欠席する場合には可及的速やかに必ず連絡すること。

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
FHS-BBC2332			
科目名			
国際私法			
英語名			
Private International Law			
開講学科		コース	
法経社会学科法学コース 新旧共通		法学コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会・法学コース/選択科目	講義	2単位	2～4年
担当教員	連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)	
眞砂康司	099 - 285-7630	masago@leh.kagoshima-u.ac.jp 件名(題名)に、必ず学籍番号、氏名を入れてください	
共同担当教員	前後期		
	前期		
授業概要			
国際化時代、国際結婚や国際契約といった、いわゆる渉外的(国際的)私法関係の法的規律はどのようになされており、そして、なされるべきであろうか。かかる渉外的私法関係の法的規律の基本的な法である国際私法につき、その諸問題を概観する。			
学修目標			
法選択理論の基本的知識を習得する。			
授業計画			
第1回 ガイダンス			
第2回 国際私法規定の構造(1)			
第3回 国際私法規定の構造(2)			
第4回 国際私法理論の歴史			
第5回 法律関係の性質決定(1)			
第6回 法律関係の性質決定(2)			
第7回 連結点の確定、法律回避(1)			
第8回 連結点の確定、法律回避(2)			
第9回 不統一国法の指定、未承認国法の指定(1)			
第10回 不統一国法の指定、未承認国法の指定(2)			
第11回 反致(1)			
第12回 反致(2)			
第13回 外国法の扱い			
第14回 外国法の適用排除			
第15回 残された問題			
授業外学習(予習・復習)			
教科書等について次回の講義が行われる部分を予習しておくことが望ましい。また、すでに行われた講義内容については不明部分を質問することが望ましい。			
教科書			
澤木敬郎・道垣内正人著『国際私法入門』(有斐閣) 最新版のみ使用。			
参考書			
適宜、指示する。			
成績の評価基準			
期末試験(場合によっては小テストないし中間レポートも付加する。)			
オフィスアワ -			
木曜日・3時限・研究室			
アクティブ・ラーニング			

学習の振り返り（ミニッツ・ペーパー等）；

アクティブ・ラーニング（その他の内容）

アクティブ・ラーニング（授業回数）

3～4回に1回実施予定

備考（受講要件）

民法の基礎知識を習得している事が望ましい。

実務経験のある教員による実践的授業

キャリア形成演習（公益事業の法実務）（旧 法律学特殊講義（公益事業の法実務））
ナンバリングコード

科目名

キャリア形成演習（公益事業の法実務）（旧 法律学特殊講義（公益事業の法実務））

英語名

開講学科

法経社会学科法学コース 新旧共通

コース

法学コース

授業科目区分

法経社会・法学コース/選
択科目

授業形態

演習

単位数

2単位

開講期

2～4年

担当教員

米田憲市

連絡先（TEL）

099-285-7569

連絡先（MAIL）

kenyone@leh.kagoshima-u.ac.jp(su
bject欄に、科目名、氏名、学籍番
号を必ず記載すること)

共同担当教員

前後期

前期

授業概要

公益事業（主として電力事業）にかかる法実務について、実務に就いている方による指導や現地視察などを踏まえて実践的理解を深める。

学修目標

- 1．公益事業の現状と社会的意義を理解する
- 2．公益事業（主として電力事業）における法の役割を理解する
- 3．公益事業（主として電力事業）における法実務のあり方を理解する

授業計画

【第1日】

- 第1講 「公益事業と法」ガイダンス
第2講 公益事業における法制度の役割：総論
第3講 テーマ学習（グループワーク）
第4講 テーマ学習（プレゼンテーション）

【第2日】

- 第5講 現地視察（1）
第6講 テーマ学習（グループワーク）
第7講 現地視察（2）
第8講 テーマ学習（グループワーク）

【第3日】

- 第9講 公益事業における法実務
第10講 テーマ学習（グループワーク）
第11講 テーマ学習（グループワーク）
第12講 テーマ学習（プレゼンテーション）

【第4日】

- 第11講 現地視察（3）
第12講 テーマ学習（グループワーク）
第13講 現地視察（4）
第14講 テーマ学習（グループワーク）
第15講 テーマ学習（プレゼンテーション）

授業外学習（予習・復習）

現地視察の際には、「学研災」、「生協」いずれかの保険に加入している必要があります。いずれも、大学生協で取り扱っています。滞りなく手続きを済ませておいてください。

加入しているかの確認は、学生係で可能です。

教科書

特になし

参考書

特になし

成績の評価基準

平常点：参加時の取組、成果物：最終レポートを含む提出物すべてを対象として、評価する。

オフィスアワ -

アクティブ・ラーニング

グループワーク；ディベート；フィールドワーク；プレゼンテーション；学習の振り返り（ミニッツ・ペーパー等）；

アクティブ・ラーニング（その他の内容）

アクティブ・ラーニング（授業回数）

15回中15回

備考（受講要件）

履修を検討しているものための説明会を開催するので参加することが望ましい。

6月5日昼休みを予定)

受講者は10名を上限とし、それ以上の場合、選考を行う。

manabaのお知らせに留意すること。

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
FHS-BBC2319			
科目名			
実践演習（法情報論）（旧 法情報論）			
英語名			
Practice Seminar : Legal Infomatics			
開講学科		コース	
法経社会学科法学コース 新旧共通		法学コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会・法学コース/選択科目	演習	2単位	2～4年
担当教員		連絡先（TEL）	連絡先（MAIL）
中島宏、原田いづみ、米田憲市		099-285-7633(中島)	h-nakaji@leh.kagoshima-u.ac.jp (中島)
共同担当教員		前後期	
		後期	
授業概要			
<p>この科目は、将来の法実務を先取りし、コンピュータおよびネットワークを活用した法学の学習・研究方法を実践的に学ぶ。具体的な事案を用いながら、法律家が法的な問題を解決していく実際のプロセスに沿って、すなわち、事実の「発見」 法情報の集と分析 法的判断とその正当化 口頭および書面による説得という過程を経験する。その中で、情報科学の成果を活用し、法的な問題を効果的・効率的に処理していく術を修得する。また、本学の学生のみで行うのではなく、遠隔講義システムを活用して、大阪大学の学生との共同作業やディベートを取り入れる。</p>			
学修目標			
<p>以下のようなスキルを身につけることを目標とする。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 問題解決のために必要な法情報（事実に関する情報・法的判断に関する情報）の特定 2. 各種ツールを用いたリーガル・リサーチ 3. 文献リストや調査メモによる資料整理 4. 判例の読み方・分析方法 5. 問題解決のための資料の読み方 6. 書面による主張 7. 口頭弁論の技法 8. 情報通信ツールを用いた論争 			
授業計画			
<p>この科目は、将来の法実務を先取りし、コンピュータおよびネットワークを活用した法学の学習・研究方法を実践的に学ぶ。具体的な事案を用いながら、法律家が法的な問題を解決していく実際のプロセスに沿って、すなわち、事実の「発見」 法情報の集と分析 法的判断とその正当化 口頭および書面による説得という過程を経験する。その中で、情報科学の成果を活用し、法的な問題を効果的・効率的に処理していく術を修得する。また、本学の学生のみで行うのではなく、遠隔講義システムを活用して、大阪大学の学生との共同作業やディベートを取り入れる。</p> <p>他大学との連携のため、詳細については、変更の可能性がある。</p> <ol style="list-style-type: none"> 第1回...班編制、自己紹介など 第2回...電子メールの効果的な活用方法 第3回...(社会的事実としての)事案の分析 第4回...法情報データベースの使い方/資料室ガイダンス 第5回...判例の読み方/争点表の活用 第6回...資料の読み方 第7回...事案に関連する法分野の講義 第8回...法律構成の検討 第9回...法情報の収集と分析 			

第10回...民事訴訟制度に関する講義

第11～12回...他大学との共同作業（訴状・答弁書の作成）

第13～14回...他大学との共同作業（Web論争システムによる議論）

第15回...他大学との共同作業（原告と被告のディベート）

授業外学習（予習・復習）

この科目では、ほぼ毎回、授業外に各自が行うべき課題が出題され、受講者は次回までにそれを確実に実施し、提出する必要がある。また、他大学との共同作業においては、授業外に他大学の仲間と打ち合わせをしたり、議論を進める必要がある。課題の内容には、次回の予習と前回の復習の両方が含まれている。課題を実施するためには、おおむね90分程度の自学自修が必要である。

教科書

田中規久雄・松浦好治『法学新入門』（デザインエッグ、2017年）

参考書

加賀山茂・松浦好治『法情報学（第2版補訂）』（有斐閣、2006年）

いしかわまりこ・藤井康子・村井のり子『リーガル・リサーチ〔第5版〕』（日本評論社、2016年）

= =

【以下は、ややハイレベル】

川崎政司『法律学の基礎技法』（法学書院、2011年）

田中豊『法律文書作成の基本』（日本評論社 2011年）

小島武司編『実践民事弁護の基礎』（レクシスネクシスジャパン 2008年）

成績の評価基準

授業時間内での課題に対する取り組み、授業時間外に取り組んで提出する課題への取り組みによって評価する。欠席は減点する。

オフィスアワー

追って指定する。

アクティブ・ラーニング

グループワーク；ディベート；プレゼンテーション；学習の振り返り（ミニッツ・ペーパー等）；

アクティブ・ラーニング（その他の内容）

アクティブ・ラーニング（授業回数）

15回中15回

備考（受講要件）

法政策学科・法学コースの学生に限定する。なお、下記を了解の上で受講すること。

（1）法律を生きた形で学びたい者、3年次以降になった時に法学系のゼミでしっかり学びたい者、法科大学院進学を道に考えている者、法律を武器にした仕事に就くこと考えている者は、履修することが当然と考えるべき科目である。

（2）毎回のように課題が出されるので、労を厭うことなく、法的な思考能力と問題処理能力を高めることを真に望む学生の履修を歓迎する。

（3）グループでの作業を行うため、中途での離脱は、本人の権利放棄にとどまらず、他人の学修の妨げとなる。履修登録をする以上、必ず最後まで履修すること。

（4）端末室の制約から受講制限をする（20名）。履修を希望する学生は、所定の期間に履修申請をした上で、初回の講義に必ず出席すること（出席できない事情がある場合は、事前に必ず担当教員に連絡すること）。履修申請者が上限を超えた場合は、初回の講義の後、直ちに選抜を実施するので、掲示等を確認すること。

（5）知的興奮と世界の広がりを経験できる科目であることを付言する。

実務経験のある教員による実践的授業

法曹資格を有し弁護士としての実務経験を有する教員が他の教員と共同で担当する。

ナンバリングコード

FHS-BBC2337

科目名

刑事訴訟法I (旧 法律学特殊講義 (捜査法))

英語名

Criminal Procedure I

開講学科

コース

法経社会学科法学コース 新旧共通

法学コース

授業科目区分
法経社会・法学コース/選
択科目授業形態
講義単位数
2単位開講期
2~4年

担当教員

連絡先 (TEL)

連絡先 (MAIL)

中島宏

099-285-7633

h-nakaji@leh.kagoshima-u.ac.jp

共同担当教員

前後期

後期

授業概要

この科目では、刑事訴訟法が規定する内容のうち、捜査手続きに関する部分を扱う。捜査機関が犯罪を発見し、証拠を収集するとともに、被疑者の身柄を保全するための手続きについて、その概要を理解したうえで、刑事訴訟法の捜査に関する規定の解釈論上の争点を、判例などを素材にして検討していく。

刑事訴訟は、犯罪に対して刑罰を科すための手続きである。具体的な事案について、捜査がなされ、被告人が起訴されて、公判において有罪が立証され、判決が言い渡されなければ、刑法の規定する内容も「絵に描いた餅」となってしまうだろう。その意味で、刑事訴訟法を学ぶことは、刑事法全体の中でも、刑法に匹敵する重要な意味をもつ。さらに裁判員制度の導入によって、犯罪捜査や刑事裁判の手続きに関する知識は、専門職に就く者だけでなく、すべての市民にとって必要なものとなっている。

なお、他の学期において別途に開講する「刑事訴訟法II」(2018年度以前入学生は「刑事訴訟法」)では、公訴・公判・証拠・裁判に関する部分(狭義の訴訟手続き)を扱っている。できるだけ両科目とも履修することが望ましい(順序は問わない)。

学修目標

- (1) 捜査手続きの流れを正確に理解する。
- (2) 捜査手続きの運用における実状を把握する。
- (3) 捜査をめぐる刑事訴訟法の解釈における重要論点につき、理解を深める。
- (4) 判例の分析を通じて、理論を実際の事例に適用し、問題を解決する能力を養う。

授業計画

- 第1回...捜査機関/捜査総説
- 第2回...捜査の端緒
- 第3回...任意捜査の限界
- 第4回...証拠の収集(1) - 令状による捜索・差押え・検証 -
- 第5回...証拠の収集(2) - 令状によらない捜索・差押え・検証 -
- 第6回...証拠の収集(3) - 体液の採取 -
- 第7回...証拠の収集(4) - 通信傍受 -
- 第8回...証拠の収集(5) - 写真撮影 -
- 第9回...逮捕・勾留(1)
- 第10回...逮捕・勾留(2)
- 第11回...逮捕・勾留(3)
- 第12回...被疑者の取調べ
- 第13回...被疑者の防御活動
- 第14回...検察官の事件処理
- 第15回...予備日

授業外学習(予習・復習)

この科目では学生の予習を前提とした双方向授業を試みる。授業外学習の重要性を十分に認識されたい。

予習

毎週の講義に先駆けて「予習の手引き」をインターネット経由で配布する。その内容に沿って、予習をしたうえで授業に参加すること。具体的には、1)教科書の該当箇所を条文を引きながら精読する、2)判例百選の該当箇所の「事実」と「判旨」を読んで内容を理解する、3)「予習の手引き」を用いて、予習段階で理解できたことと理解できなかったことを明らかにする、4)「予習の手引き」に記載した問いについて自分の見解を立論してみること予習内容とする。おおむね60分程度。

復習

講義を聞いて理解できなかったことについて、講義専用の電子掲示板に書き込みをする。教員がこれに回答するほか、他の学生を交えた議論を期待したい。また、インターネットを通じて講義の補足情報や復習のための練習問題を配信するので、各自で取り組む。おおむね60分程度。

教科書

未定。開講までに指定する。

参考書

体系書

酒巻匡『刑事訴訟法』(有斐閣、2016年)
 宇藤崇・松田岳士・堀江慎司『刑事訴訟法』(リーガルクエスト・シリーズ)(有斐閣、2013年)
 田口守一『刑事訴訟法[第7版]』(弘文堂、2017年)
 白取祐司『刑事訴訟法[第9版]』(日本評論社、2017年)
 池田修・前田雅英『刑事訴訟法講義[第5版]』(東大出版会、2015年)
 上口裕『刑事訴訟法[第4版]』(成文堂、2015年)
 亀井源太郎・岩下雅充・堀田周吾・安井哲章・中島宏『プロセス講義刑事訴訟法』(信山社、2016年)
 田宮裕『刑事訴訟法(新版)』(有斐閣、1996年)

注釈書

松尾浩也監修『条解刑事訴訟法[第4版増補版]』(弘文堂、2016年)
 河上和雄・中山善房ほか『大コンメンタール刑事訴訟法[第2版]』全10巻
 三井誠ほか『新基本法コンメンタール 刑事訴訟法[第2版追補版]』(日本評論社、2017年)
 後藤昭ほか『新・コンメンタール刑事訴訟法(第3版)』(日本評論社、2018年)

成績の評価基準

期末試験(100%)。裁判傍聴や講演会参加レポートによる加点。

オフィスアワー

追って指定する。

アクティブ・ラーニング

ディベート; 学習の振り返り(ミニッツ・ペーパー等);

アクティブ・ラーニング(その他の内容)

アクティブ・ラーニング(授業回数)

15回中10回

備考(受講要件)

自ら主体的に学び問う意欲のある者だけを「学生」と認める。

実務経験のある教員による実践的授業

実践演習（外国の法を学ぶ）（旧 法律学特殊講義（外国の法を学ぶ））
ナンバリングコード

FHS-BBC2337

科目名

実践演習（外国の法を学ぶ）（旧 法律学特殊講義（外国の法を学ぶ））

英語名

Practice Seminar: Foreign Law

開講学科

コース

法経社会学科法学コース 新旧共通

法学コース

授業科目区分

授業形態

単位数

開講期

法経社会・法学コース/選
択科目

講義

2単位

2～4年

担当教員

連絡先（TEL）

連絡先（MAIL）

松田忠大

099-285-7653

tmatsuda@leh.kagoshima-u.ac.jp

共同担当教員

前後期

前期

授業概要

経済活動のグローバル化が進展し、もはや地方の企業や公共団体であっても、渉外的な法律問題に直面することは少なくない。そこで、本授業では、英米法の基礎的知識を身につけるとともに、英語を用いた契約書の読解、英語による法的プレゼンテーション能力の育成を目指す。具体的には、英米法および法律英語の基礎知識を身につけた上で、カナダの大学（ヴィクトリア大学）にて、これらの知識を実際に活用するための研修を行う。なお、研修期間については、9月中の1週間程度を予定しています。この期間が決定次第、受講者に対して通知します。

学修目標

- （１）英米法の基本的な知識を身につける。
- （２）英文契約書を読み、その内容を理解することができる。
- （３）英語によるプレゼンテーションができるようになる。

授業計画

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 英米法の基礎知識（１）
- 第3回 英米法の基礎知識（２）
- 第4回 英米法の基礎知識（３）
- 第5回 英文契約書の読解（１）
- 第6回 英文契約書の読解（２）
- 第7回～第15回 カナダ・ヴィクトリア大学における研修
- 第16回 報告会

授業外学習（予習・復習）

この授業では、海外研修（カナダ・ピクトリア大学）を予定しています。

教科書

授業開始時に指示します。

参考書

授業中に適時指示します。

成績の評価基準

授業への取り組み態度、レポートおよびプレゼンテーションを総合的に評価します。

オフィスアワ -

月曜4限（研究室）

アクティブ・ラーニング

グループワーク；ディベート；プレゼンテーション；

アクティブ・ラーニング（その他の内容）

アクティブ・ラーニング（授業回数）

15回中12回

備考（受講要件）

この授業では、カナダにおける学外研修が行われます。この研修には、20万円程度の費用がかかります。この研修に参加可能な学生のみ受講登録をしてください。

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード

FHS-BBC2330

科目名

民事訴訟法I (旧 民事紛争処理手続)

英語名

Civil Procedure I

開講学科		コース	
法経社会学科法学コース 新旧共通		法学コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会・法学コース/選択科目	講義	2単位	2~4年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
齋藤善人		099-285-3526	saito@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
		後期	

授業概要

この授業では、大きな民事紛争解決手続の流れを把握するのみではなく、民事訴訟手続の各場面で生起する主要な論点にフォーカスし、条文の解釈や判例法理の検討を通して、重要な論点を考察し、理解する力を涵養したい。基本書を咀嚼できる読解力を身に着けるとともに、本格的なケース・メソッド(判例研究)への橋渡しを意図したケース・スタディの方式を通じて、時に演繹的に、また場合によっては帰納的に、民事訴訟法の基礎理論を学習するという方法論を採用したい。

その際、制度趣旨とか定義といった基本概念については、適宜簡明に説明することに留意し、基本的な概念と論点の関係を把握して思考できるような能力の開発に資するようにしたい。なお、基本的事項については、教科書や参考文献等を検索すれば、記されているところであり、その点で受講生各位の自学自習が不可欠の要素となる。それを前提に、授業の場では、できる限り判例教材などを用いて、論点を具体的に考察することを試みたい。もちろん、「考察する」ためには、必要最小限の正確な基礎学力(基本概念等の理解)が不可欠なことは承知しているが、授業が単なる知識の伝達に終始することは本旨でない。その意味で、所期の成果を達成し得る授業を構築するには、受講生各位の協力が是非とも必要となるだろう。

学修目標

民事訴訟法の主要な論点を素材に、自らテキストなど文献を検索し、それを正しく「読解する」ことができる。

民事訴訟法の主要な論点に係る条文を正確に「読む」ことができる。

民事訴訟法の主要な論点に関する判例法理を理解し、その内容を説明することができる。

民事訴訟法の主要な論点につき、基本概念や定義、判例を踏まえて思考回路を設計し、説明することができる。

授業計画

- 【1】はじめに / 民事の裁判と民事訴訟手続の流れ
- 【2】訴えの提起(1)【審判の対象と訴訟物】
- 【3】訴えの提起(2)【裁判管轄と移送】
- 【4】訴えの提起(3)【送達と手続保障】
- 【5】訴え提起の効果(1)【重複訴訟の禁止 / 趣旨と要件】
- 【6】訴え提起の効果(2)【重複訴訟の禁止と相殺の抗弁】
- 【7】訴えの利益(1)【訴訟の3類型 / 権利保護の資格と必要性】
- 【8】訴えの利益(2)【確認の利益 / 遺言無効確認の訴え】
- 【9】当事者能力と当事者適格【権利能力なき社団 / 第三者の訴訟担当】

- 【10】 弁論主義 (1) 【主張準則 / 自白準則 / 主要事実と間接事実】
- 【11】 弁論主義 (2) 【主張準則と不意打ちの防止】
- 【12】 弁論主義 (3) 【釈明権と法的観点指摘義務】
- 【13】 自白の拘束力【自白の成立要件 / 撤回要件 / 権利自白】
- 【14】 証明責任【自由心証主義と訴訟上の証明 / 証明責任の分配】
- 【15】 証拠の収集【書証 (文書の証拠調べ / 二段の推定) / 文書提出命令】
- 【16】 既判力の時的範囲【基準時と遮断効 / 基準時後の取消権】
- 【17】 既判力の客観的範囲 (1) 【判決主文と理由中の判断 / 相殺の抗弁】
- 【18】 既判力の客観的範囲 (2) 【争点効 / 信義則による後訴の遮断】
- 【19】 既判力の主観的範囲 (1) 【既判力の相対性と人的範囲の拡張 / 口頭弁論終結後の承継人】
- 【20】 既判力の主観的範囲 (2) 【反射効】

授業外学習 (予習・復習)

ときに、テキスト・判例の読解など、予習準備を経ることを授業参加の前提とすることがある。その場合には、前週の授業において、テキストの該当箇所や判例を指定のうえ、その旨ノウテイスする。

教科書

町村秀敏=佐野裕志=伊東俊明=齋藤善人=柳沢雄二=大内義三・民事訴訟法 (北樹出版・平成30年)

参考書

【 1 】 概説書

高橋宏志・民事訴訟法概論 (有斐閣・平成28年)
 川嶋四郎・民事訴訟法概説 [第2版] (弘文堂・平成28年)
 和田吉弘・基礎からわかる民事訴訟法 (商事法務・平成24年)
 山本弘=長谷部由起子=松下淳一・民事訴訟法 [第3版] (有斐閣・平成30年)

【 2 】 定評のある体系書

高橋宏志・重点講義民事訴訟法 (上) [第2版補訂版] , (下) [第2版補訂版] (有斐閣・平成25, 26年)
 伊藤眞・民事訴訟法 [第6版] (有斐閣・平成30年)
 川嶋四郎・民事訴訟法 (日本評論社・平成25年)
 河野正憲・民事訴訟法 (有斐閣・平成21年)
 小島武司・民事訴訟法 (有斐閣・平成25年)
 新堂幸司・民事訴訟法 [第5版] (弘文堂・平成23年)
 中野貞一郎=松浦馨=鈴木正裕編・新民事訴訟法講義 [第3版] (有斐閣・平成30年)
 藤田広美・講義民事訴訟 [第3版] (東大出版会・平成25年)
 藤田広美・解析民事訴訟 [第2版] (東大出版会・平成25年)
 松本博之=上野泰男・民事訴訟法 [第8版] (弘文堂・平成27年)
 三木浩一=笠井正俊=垣内秀介=菱田雄郷・LEGAL QUEST民事訴訟法 [第3版] (有斐閣・平成30年)

【 3 】 注釈書

秋山幹男=伊藤眞=加藤新太郎=高田裕成=福田剛久=山本和彦・コンメンタール民事訴訟法1 [第2版追補版]

], 2 [第2版], 3, 4, 5, 6 (日本評論社・平成26, 18, 20, 22, 24, 26年)

松浦馨=新堂幸司=竹下守夫=高橋宏志=加藤新太郎=上原敏夫=高田裕成・条解民事訴訟法 [第2版] (弘文堂・平成23年)

加藤新太郎=松下淳一編・新基本法コンメンタール民事訴訟法 1, 2 (日本評論社・平成30年)

笠井正俊=越山和広編・新コンメンタール民事訴訟法 [第2版] (日本評論社・平成25年)

【4】学習用判例教材

小林秀之編・判例講義 民事訴訟法 (弘文堂・平成31年)

高橋宏志=高田裕成=畑瑞穂編・民事訴訟法判例百選 [第5版] (有斐閣・平成27年)

成績の評価基準

学期末に実施する「試験」により評価する。なお、授業の場で、予習対象の判例等につき、報告あるいは質疑応答を経由したときには、その都度プロセス評価として、+3から-3点の範囲で、試験の点数に加減することがある。

オフィスアワー

アクティブ・ラーニング

ディベート; プレゼンテーション; その他;

アクティブ・ラーニング(その他の内容)

予習を指示した課題についての質疑応答等。

アクティブ・ラーニング(授業回数)

各回の授業内容や進捗状況に応じて、適宜臨機応変に...

備考(受講要件)

受講生各位が、判例等を素材にして具体的に「考える」作業に取り組む授業にできれば理想的だろう。判例の事案を理解するには、多くの場合、その前提として、民法(主に財産法)の基本的理解を要するはずなので、受講生各位には、その部分の事前学習も求められよう。

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
FHS-BBC2316			
科目名			
法社会学			
英語名			
Socio-Legal Studies			
開講学科		コース	
法経社会学科法学コース 新旧共通		法学コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会・法学コース/選択科目	講義	2単位	2～4年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
米田憲市			kenyone@leh.kagoshima-u.ac.jp(subject欄に、科目名、氏名、学籍番号を必ず記載すること)
共同担当教員		前後期	
		後期	
授業概要			
<p>「法社会学」とは、法やルールの社会的性質をその状況的事実とともに明らかにすることを志向し、理解を深めようとする研究実践とその成果の総体の呼称である。</p> <p>この授業では、法社会学の学問分野の成立・背景から現在までの変遷、法社会学の「教科書」の比較、よく取り上げられる研究主題、法制度にかかるドキュメント、法制度から卑近なルールに至るまでの実証研究などを取り上げる。</p>			
学修目標			
<p>この授業を通じて、法社会学が法に関する研究分野の中で最も自由な性質を持つ分野であることを実感してもらい、「法についての知的で体験的で実践的な冒険」の一端に触れて、法やルールに関わる場面についての観察力、分析力、説明力を高めることを目標とする。</p>			
授業計画			
<p>第1講 ガイダンス：法社会学の研究主題</p> <p>第2講 法専門職</p> <p>第3講 法サービスの提供/確保 ゲスト講義「法テラスってなに照らす？」</p> <p>第4講 日本の法社会学の沿革</p> <p>第5講 法社会学の教科書のいろいろ</p> <p>第6講 法と権力</p> <p>第7講 法と文化</p> <p>第8章 法と言語：立法過程・公文書作成・法解釈を手がかりに</p> <p>第9講 実践演習：事例問題から洞察力を鍛える</p> <p>第10講 ビデオ教材による演習(1)</p> <p>第11講 ビデオ教材による演習(2)</p> <p>第12講 ビデオ教材による演習(3)</p> <p>第13講 ビデオ教材による演習(4)</p> <p>第14講 組織論から見る裁判官制度</p> <p>第15講 約束を守る/が守られるという事態と社会組織</p>			
履修者数が過大、過小の場合には、授業の内容を変更することがある。			
授業外学習(予習・復習)			
この科目専用のCMS(manabaやrespon等)を活用し、事前の学習や課外時間の提出を求めることがある。			
教科書			
指定しない。			
参考書			
<p>村山 眞維, 濱野 亮 『法社会学 第2版 (有斐閣アルマ)』 有斐閣(2012)</p> <p>ISBN-10: 4641124760 / ISBN-13: 978-4641124769</p>			

宮澤節生, 武蔵勝宏, 上石圭一, 大塚浩 『ブリッジブック法システム入門〔第3版〕 法社会的アプローチ』 信山社 (2015)
 ISBN-10: 4797223405 / ISBN-13: 978-4797223408
 和田仁孝編 『法社会学(NJ叢書)』 法律文化社(2006)
 ISBN-10: 4589029774 / ISBN-13: 978-4589029775
 ほか

木佐 茂男, 宮澤 節生, 佐藤 鉄男, 川嶋 四郎, 水谷規男 『テキストブック現代司法 第6版』 日本評論社社 (2015)

成績の評価基準

最終試験：60% (特徴のある方法で実施するので、授業で説明をよく聞くこと。)
 提出物(ネット上のコメントなどを含む)：20%
 その他：授業の充実への貢献などで20%

オフィスアワ -

随時。上記連絡先でアポを取ることが望ましい。

アクティブ・ラーニング

グループワーク; ディベート; フィールドワーク; プレゼンテーション; 学習の振り返り(ミニッツ・ペーパー等);

アクティブ・ラーニング(その他の内容)

双方向多方向の議論、ICTを活用した教員・受講者間のコミュニケーション、学生による成果発表

アクティブ・ラーニング(授業回数)

全授業をアクティブラーニング型授業として実施する。

備考(受講要件)

同時間に開講されている実定法科目がある場合、そちらの履修を優先すること。

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
科目名			
行政法総論I (旧 行政の法システム)			
英語名			
Administrative Law I			
開講学科		コース	
法経社会学科法学コース 新旧共通		法学コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会・法学コース/選択科目	講義	2単位	2~4年
担当教員	連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)	
山本敬生		yamamoto@k-kentan.ac.jp	
共同担当教員		前後期	
		前期	
授業概要			
周知のとおり、行政法は通則的法典が存在しておらず、そのため無数の行政法規を把握するための理論が他の法律学に比べて強く求められる分野である。本講義ではその行政法の基礎理論を解説し、行政法学を体系的に理解することを目的とする。本講の対象は、行政法総論の前半部分である。			
学修目標			
(1) 行政法の基礎理論を理解する。 (2) 行政の行為形式(行政準則、行政行為)を理解する。			
授業計画			
第1回 行政法関係の特質 第2回 法律による行政の原理(1) 第3回 法律による行政の原理(2) 第4回 法の一般原則 第5回 法律・条例の役割 第6回 民事法との協働 第7回 行政準則(1) 第8回 行政準則(2) 第9回 行政行為総論(1) 第10回 行政行為総論(2) 第11回 行政行為と裁量 第12回 行政行為の手続(1) 第13回 行政行為の手続(2) 第14回 行政行為の手続(3) 第15回 まとめ 定期試験			
授業外学習(予習・復習)			
講義の前に教科書の該当箇所を読んでおく。講義の後はプリントを再読し、確認問題をマスターする。4時間程度の予習・復習をすることが望ましい。			
教科書			
大橋洋一『行政法?現代行政過程論〔第3版〕』(有斐閣, 2016年) 宇賀克也=交告尚史=山本隆司『行政判例百選?〔第7版〕』(有斐閣, 2017年) 適宜プリントを配る。			
参考書			
塩野宏『行政法I 行政法総論〔第6版〕』(有斐閣, 2015年) 宇賀克也『行政法概説I 行政法総論〔第6版〕』(有斐閣, 2017年)			
成績の評価基準			
定期試験を基本とする。			
オフィスアワ -			
質問等は、講義終了後、またはメールで受けつける。yamamoto@k-kentan.ac.jp			

アクティブ・ラーニング

アクティブ・ラーニング (その他の内容)

アクティブ・ラーニング (授業回数)

備考 (受講要件)

シラバスの内容は若干変更する場合もある。

実務経験のある教員による実践的授業

行政法総論II (旧 法律学特殊講義 (行政の法システム特論))
ナンバリングコード

科目名

行政法総論II (旧 法律学特殊講義 (行政の法システム特論))

英語名

Administrative Law II

開講学科

コース

法経社会学科法学コース 新旧共通

法学コース

授業科目区分

授業形態

単位数

開講期

法経社会・法学コース/選
択科目

講義

2単位

2~4年

担当教員

連絡先 (TEL)

連絡先 (MAIL)

山本敬生

yamamoto@k-kentan.ac.jp

共同担当教員

前後期

後期

授業概要

周知のとおり、行政法は通則的法典が存在しておらず、そのため無数の行政法規を把握するための理論が他の法律学に比べて強く求められる分野である。本講義ではその行政法の基礎理論を解説し、行政法学を体系的に理解することを目的とする。本講の対象は、行政法総論の後半部分である。

学修目標

- (1) 行政契約・行政指導を理解する。
- (2) 行政上の義務履行確保制度を理解する。
- (3) 行政調査・行政情報管理制度を理解する。

授業計画

- 第1回 行政契約
- 第2回 行政指導(1)
- 第3回 行政指導(2)
- 第4回 行政指導(3)
- 第5回 行政上の義務履行確保(1)
- 第6回 行政上の義務履行確保(2)
- 第7回 行政上の義務履行確保(3)
- 第8回 行政調査
- 第9回 行政組織法総論
- 第10回 行政情報へのアクセス(1)
- 第11回 行政情報へのアクセス(2)
- 第12回 行政情報へのアクセス(3)
- 第13回 情報管理の仕組み(1)
- 第14回 情報管理の仕組み(2)
- 第15回 まとめ

定期試験

授業外学習(予習・復習)

講義の前に教科書の該当箇所を読んでおく。講義の後はプリントを再読し、確認問題をマスターする。4時間程度の予習・復習をすることが望ましい。

教科書

大橋洋一『行政法?現代行政過程論〔第4版〕』(有斐閣, 2019年)
宇賀克也=交告尚史=山本隆司『行政判例百選?〔第7版〕』(有斐閣, 2017年)
適宜プリントを配る。

参考書

塩野宏『行政法I 行政法総論〔第6版〕』(有斐閣, 2015年)
宇賀克也『行政法概説I 行政法総論〔第6版〕』(有斐閣, 2017年)

成績の評価基準

定期試験で評価する。

行政法総論II(旧 法律学特殊講義(行政の法システム特論))
オフィスアワ -

質問等は、講義終了後、またはメールで受けつける。yamamoto@k-kentan.ac.jp

アクティブ・ラーニング

アクティブ・ラーニング(その他の内容)

アクティブ・ラーニング(授業回数)

備考(受講要件)

行政法総論I(旧行政の法システム)を受講していることを前提として講義をする。
シラバスの内容は若干変更する場合もある。

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
FHS-BBC2323			
科目名			
債権法III(旧 債権法)			
英語名			
Debtor and Creditor III			
開講学科		コース	
法経社会学科法学コース 新旧共通		法学コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会・法学コース/選択科目	講義	2単位	3~4年
担当教員	連絡先(TEL)	連絡先(MAIL)	
采女博文		uneme@leh.kagoshima-u.ac.jp	
共同担当教員		前後期	
		前期	
授業概要			
<p>授業の範囲は、債権法総論〔民法第3編債権第1章(399条~520条)〕である。内容は、債権の目的、債権の効力、債権の移転、債権の消滅である。債権法総論部分は抽象度の高い規範の集合体であるから、具体的事例の検討も行う(要件事実論の入門を含む)。また、契約法(債権法I)、不法行為法(債権法II)と関連づけて債権法・民法全体の理解度を深めるものとする。</p>			
学修目標			
<p>1. 債権法総論部分の知識(各制度の趣旨、法律要件と法律効果)を修得する。民法総則、物権法で修得した知識との連続性、総合性のある知識の修得を目標とする。</p> <p>2. 民法全体(民法総則、物権法を含む)を見渡しながら法的な判断ができる能力、規範=ルールを発見する能力を涵養する(法の解釈)。</p> <p>3. ルールを具体的な事件にあてはめて結論を出す実際的能力を身につける(法の適用)。</p>			
授業計画			
<p>第1回 債権法の構造、債権目的 第2回 種類物債権と特定物債権 第3回 債権の消滅(弁済の提供) 第4回 債務不履行責任(要件論) 第5回 債務不履行責任(効果論) 第6回 責任財産の保全(債権者代位権) 第7回 債権者取消権1(導入、要件論) 第8回 債権者取消権2(効果論) 第9回 多数当事者の債権債務関係、連帯債務 第10回 保証債務1(導入) 第11回 保証債務2(応用、事例検討) 第12回 根保証 第13回 債権譲渡1(導入) 第14回 債権譲渡2(応用、事例検討) 第15回 債権の消滅(相殺など)</p>			
授業外学習(予習・復習)			
<p>予習 事前に指示された各回の教科書の該当箇所を一瞥する。 復習 各回での設例を解答してみる。解答例は配付資料で示します。</p>			
教科書			
<p>柳/采女編『債権法総論(第3版)』(嵯峨野書院, 2019) * 授業中、適宜、記憶すべき箇所、重要箇所を指示する。</p>			
参考書			
<p>潮見義男・債権総論(第5版)信山社, 2018 そのほか、講義中に指示する。</p>			
成績の評価基準			
<p>「定期試験」(80%)、「到達度確認小テスト」(20%)の合計点による。学生の到達度を確かめながら授業を</p>			

進行させるために、適宜、小テストを実施し、成績評価に反映させる。試験時には六法を持ち込める。ただし判例・解説の付いていないものに限る。

オフィスアワ -

月曜、水曜日の昼休み時間、法文学部1号館6階共同演習室で対応する。
メールでの質問に対応する。

アクティブ・ラーニング

その他;

アクティブ・ラーニング(その他の内容)

授業中の質疑応答として、原告・被告側双方の立場で論理を展開することを求める。

アクティブ・ラーニング(授業回数)

授業中の質疑応答として、原告・被告側双方の立場で論理を展開することを求める。

備考(受講要件)

民法総論、物権法を履修していることが望ましいが、必須ではない。

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
FHS-BBC3311			
科目名			
商取引法I (旧 企業取引法)			
英語名			
Commercial Transactions Law I			
開講学科		コース	
法経社会学科法学コース 新旧共通		法学コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会・法学コース/選択科目	講義	2単位	3~4年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
松田忠大		099-285-7653	tmatsuda@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
		前期	
授業概要			
この授業では、商取引の基礎をなす商法総則および商行為法についての基礎的事項を講義する。			
学修目標			
(1) 商法総則・商行為法の基礎的知識を修得する。 (2) 商法的なものの見方、考え方を修得する。 (3) 具体的な裁判例の分析を通して法的思考能力を定着させる。			
授業計画			
第1回 ガイダンス 第2回 商法の意義 第3回 商法の法源とその適用 第4回 商人の意義と商行為の概念 第5回 商号 第6回 商業使用人(2) 第7回 商業使用人(1) 第8回 商業登記 第9回 営業譲渡(1) 第10回 営業譲渡(2) 第11回 商業帳簿 第12回 代理商 第13回 商行為の特則 第14回 商事売買・交互計算 第15回 仲立営業・問屋営業・運送取扱営業			
授業外学習(予習・復習)			
予習として、各講義項目に対応する教科書の記述を読むこと。また、復習として、各講義項目について、講義の内容を踏まえて、各自でまとめをすること。			
教科書			
森本滋編『商法総則講義』(第3版)(成文堂) 森本滋編『商行為法講義』(第3版)(成文堂)			
参考書			
授業時に適宜、紹介する。			
成績の評価基準			
期末試験(筆記)80%に、レポート点(20点)および授業への取組状況を評価して加算する。			
オフィスアワー			
月曜4限			
アクティブ・ラーニング			
学習の振り返り(ミニッツ・ペーパー等); アクティブ・ラーニング(その他の内容)			

アクティブ・ラーニング (授業回数)

15回中14回

備考 (受講要件)

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード

FHS-BBC2337

科目名

商取引法II(旧 法律学特殊講義(海商法))

英語名

Commercial Transactions Law II

開講学科

コース

法経社会学科法学コース 新旧共通

法学コース

授業科目区分

授業形態

単位数

開講期

法経社会・法学コース/選
択科目

講義

2単位

3~4年

担当教員

連絡先(TEL)

連絡先(MAIL)

松田忠大

099-285-7653

tmatsuda@leh.kagoshima-u.ac.jp

共同担当教員

前後期

後期

授業概要

この講義では、「商行為法」の一部と「海商法」の分野について取り扱います。商行為法については、商事売買、仲立営業・問屋営業、運送営業のみを取り扱います。また、海商法は海上物品運送を中心とした海上活動を対象とする法分野です。あまり知られていない法分野かもしれませんが、わが国の経済は、国際貿易に支えられており、多くの企業が海上運送に頼って活動しています。したがって、海商法は、海上運送企業のみならず、様々な業種の企業実務に密接に関連しています。海商法の歴史は古く、また、海上運送を中心とする海上活動は、広い海をその舞台とし、諸外国との間で行われることが多いことから、国際性をも兼ね備えた法分野でもあります。この授業では、海商法の基本概念を理解するとともに、海上物品運送契約の内容、海上運送人の責任制度、その他海上航行に関する法制度等を学習します。

学修目標

- (1) 海商法に関する基本的な知識を身につける。
- (2) 商取引法の基礎理論を理解する。
- (3) 商取引の観点からの法的思考能力を身につける。

授業計画

- 第1回：講義のガイダンス・商行為法(1)(商事売買)
 第2回：商行為法(2)(仲立営業と問屋営業)
 第3回：商行為法(3)(運送営業)
 第4回：海商法(1)(海商法の意義)
 第5回：海商法(2)(船舶の概念)
 第6回：海商法(3)(船舶運航の主体と補助者)
 第7回：海商法(4)(船舶所有者等の責任制限)
 第8回：海商法(5)(海上物品運送契約の意義と種類)
 第9回：海商法(6)(船荷証券)
 第10回：海商法(7)(海上物品運送契約の履行)
 第11回：海商法(8)(海上運送人の責任?)
 第12回：海商法(9)(海上運送人の責任?)
 第13回：海商法(10)(傭船契約)
 第14回：海商法(11)(海上旅客運送契約)
 第15回：海商法(12)(共同海損および船舶の衝突)

授業外学習(予習・復習)

予習として、各講義項目に対応する教科書の記述を読むこと。また、復習として、各講義項目について、講義の内容を踏まえて、各自でまとめをすること。

教科書

森本滋編著『商行為法講義〔第3版〕』(成文堂)

箱井崇史『基本講義 現代海商法』〔第3版〕(成文堂)

参考書

授業中に適宜指示します。

成績の評価基準

期末試験(80%)とレポート(20%)に授業への取り組み態度を加味して評価します。

オフィスアワ -

火曜3限(研究室)

アクティブ・ラーニング

学習の振り返り(ミニッツ・ペーパー等);

アクティブ・ラーニング(その他の内容)

アクティブ・ラーニング(授業回数)

15回中5回

備考(受講要件)

実務経験のある教員による実践的授業

実践演習（模擬裁判）（旧 法律学特殊講義（模擬裁判））
ナンバリングコード

科目名

実践演習（模擬裁判）（旧 法律学特殊講義（模擬裁判））

英語名

Practice Seminar : Practical Training on Criminal Trial

開講学科

コース

法経社会学科法学コース 新旧共通

法学コース

授業科目区分

授業形態

単位数

開講期

法経社会・法学コース/選
択科目

演習

2単位

3～4年

担当教員

連絡先（TEL）

連絡先（MAIL）

中島宏、南由介、原田いづみ

099-285-7633(中島)

h-nakaji@leh.kagoshima-u.ac.jp (中島)

共同担当教員

前後期

前期

授業概要

模擬裁判を実施することを通じて、裁判の仕組みや考え方を体験的に理解するとともに、具体的な事件を解決するための法的思考能力と表現力を養う。学生が「検察官」「弁護士」「裁判官」にそれぞれ分かれて、実際の事件記録をベースにした素材に、各当事者の立場で実際の刑事事件の処理に準じた活動（起訴状の作成、証拠と争点の整理、冒頭陳述、証人尋問、被告人質問、論告、弁論、評議、判決の作成・言い渡しなど）を行う。

学修目標

- 1) 刑事裁判の手続きを理解する。
- 2) 刑事裁判の基本的な理念を理解する。
- 3) 具体的な事件を解決するための法的思考能力を養う。
- 4) 専門的知見に基づくコミュニケーション能力・表現力を養う。
- 5) 刑法・刑事訴訟法に跨がる刑事法分野の総合的な知見を身につける。

授業計画

- 第1回 アイスブレイク・自己紹介・方針決定など
- 第2回 刑事裁判の流れを学ぶ
- 第3回 事件記録の精査
- 第4回 公訴の提起（1）
- 第5回 公訴の提起（2）
- 第6回 争点と証拠の整理（1）
- 第7回 争点と証拠の整理（2）
- 第8回 公判手続き（1）- 冒頭手続き -
- 第9回 公判手続き（2）- 証人尋問 -
- 第10回 公判手続き（3）- 証人尋問 -
- 第11回 公判手続き（4）- 証人尋問 -
- 第12回 公判手続き（5）- 被告人質問
- 第13回 評議
- 第14回 判決
- 第15回 講評・まとめ

学生の学修状況に応じて適宜修正を加える。

授業外学習（予習・復習）

予習

授業外にグループごとに必要な書面を作成したり、方針を協議するなどの活動を行う必要がある。各回の内容によって異なるが、おおむね90分程度を予定されたい。

復習

次回の準備を行う前提として、前回の講義内容を振り替える必要がある。30分程度。

教科書

- ・司法研修所監修『刑事第一審公判手続きの概要』（法曹会）
- ・司法研修所検察教官室編『検察講義案』（法曹会）
- ・司法研修所編『刑事弁護実務』（日本弁護士連合会）

参考書

- ・前田雅英ほか編『条解刑法（第3版）』（弘文堂）
- ・松尾浩也監修『条解刑事訴訟法（第4版）』（弘文堂）
- ・大塚仁ほか編『大コンメンタール刑法 全13巻・別巻1（第2版）』（青林書院）（なお、第3版が順次刊行中）
- ・河上和雄ほか編『大コンメンタール刑事訴訟法〔第2版〕全11巻』（青林書院）
- ・伊藤栄樹ほか編『注釈刑事訴訟法〔新版〕』（立花書房）（なお、第3版が順次刊行中）
- ・大塚仁ほか編『新・判例コンメンタール刑法 全6巻・別巻』（三省堂）
- ・高田卓爾ほか編『新・判例コンメンタール刑事訴訟法 全6巻・別巻』（三省堂）
- ・小林充ほか編『刑事事実認定重要判決50選（上）（下）第2版』（立花書房）
- ・小林充ほか編『刑事事実認定（上）（下）』（判例タイムズ社）
- ・大塚仁ほか編『新実例刑法（総論）』（青林書院）
- ・池田修ほか編『新実例刑法（各論）』（青林書院）
- ・平野龍一ほか編『新実例刑事訴訟法I・II・III』（青林書院）
- ・松尾浩也ほか編『実例刑事訴訟法I・II・III』（青林書院）

成績の評価基準

授業中の活動状況（発言内容、書面作成、積極性など）100%
欠席は減点する。

オフィスアワー

追って指定する。

アクティブ・ラーニング

グループワーク；ディベート；プレゼンテーション；学習の振り返り（ミニッツ・ペーパー等）；

アクティブ・ラーニング（その他の内容）

アクティブ・ラーニング（授業回数）

15回中15回

備考（受講要件）

科目の内容に鑑みて、受講者を20名に制限する。受講希望者が多数の場合は、刑事系科目の履修歴等を考慮して選考を行う。履修希望者は履修登録をした上で、初回の講義日までに掲示される選考結果に注意すること。

在籍する学年までに配当されている刑法・刑事訴訟法関連の科目を履修済みまたは併行履修中であることが望ましい。

実務経験のある教員による実践的授業

法曹資格を有し弁護士としての実務経験を有する教員が他の教員と共同で担当する。

実践演習（模擬交渉）（旧 法律学特殊講義（模擬交渉））
ナンバリングコード

科目名

実践演習（模擬交渉）（旧 法律学特殊講義（模擬交渉））

英語名

開講学科

法経社会学科法学コース 新旧共通

コース

法学コース

授業科目区分

法経社会・法学コース/選
択科目

授業形態

演習

単位数

2単位

開講期

3～4年

担当教員

原田いづみ、米田憲市

連絡先（TEL）

連絡先（MAIL）

kenyone@leh.kagoshima-u.ac.jp(su
bject欄に、科目名、氏名、学籍番
号を必ず記載すること)

共同担当教員

前後期

後期

授業概要

「交渉」は、我々の生活秩序を形作る基本的なコミュニケーションのひとつである。
この科目では、交渉の一般理論から、法律家が行う交渉（法的交渉）に焦点を置いて、交渉の理論的理解と実践力を高めるプログラムを内容とする。

学修目標

1. 交渉の社会構造、一般理論を学び、概要を説明できるようになる。
2. 交渉の実践理論を学び、概要を説明できるようになる。
3. 法的交渉の構造を学び、概要を説明できるようになる。
4. 様々な交渉技術を、模擬交渉の中で実践することを通じて、交渉技能を高める。
5. 交渉の成果を文書にまとめるスキルを身につける。

授業計画

- 第1講 ガイダンス
第2講 一般的な交渉と法的交渉
第3講 交渉の一般理論
第4講 交渉事例の検討？
第5講 交渉実習？（1）
第6講 交渉実習？（2）
第7講 交渉実習？（3）
第8講 交渉実習？（4）
第9講 交渉事例の検討？
第10講 交渉実習？（1）
第11講 交渉実習？（2）
第12講 交渉実習？（3）
第13講 交渉実習？（4）
第14講 交渉成果の文章作成（1）
第15講 交渉成果の文章作成（2）

授業外学習（予習・復習）

課題文献や予習課題が毎回ある。
CMS(manaba)を通じて指示する。

教科書

参考書

随時紹介する。
ロジャー フィッシャー（著）、ウィリアム ユーリー（著）、『ハーバード流交渉術』三笠書房知的生き方文庫（1989）
小林秀之編『交渉の作法 法交渉学入門』弘文堂（2012）

小島武司編『法交渉学入門』商事法務（1991）
 太田勝造・野村美明編『交渉ケースブック』商事法務（2005）
 大田勝造ほか編『ロースクール交渉学』白桃書房（2005）
 野村美明ほか編『話し合いでつくる 中・高 公民の授業：交渉で実現する深い学び』清水書院（2018）

成績の評価基準

最終レポート：50%（特徴のある方法で実施するので、授業で説明をよく聞くこと。）
 提出物（ネット上のコメントなどを含む）：20%
 その他：授業の充実への貢献などで30%

オフィスアワー

随時。Mailで事前アポがあるのが望ましいが、遠慮する必要はない。

アクティブ・ラーニング

グループワーク；ディベート；フィールドワーク；プレゼンテーション；学習の振り返り（ミニッツ・ペーパー等）；その他；

アクティブ・ラーニング（その他の内容）

模擬交渉の場면을ビデオ撮影して、振り返りに用いる。

アクティブ・ラーニング（授業回数）

15回

備考（受講要件）

・授業時の実践のビデオ撮影を行い、それを振り返りに用いるなど、授業の教材とするので、そうした授業方法に積極的に参加することを了承した上で履修すること。

実務経験のある教員による実践的授業

担当教員のひとりである、原田教授は実務経験を持つ教員であり、実践的授業である。

法政特殊講義（民事訴訟法特論）（旧 法律学特殊講義（民事訴訟法特論））
ナンバリングコード

科目名

法政特殊講義（民事訴訟法特論）（旧 法律学特殊講義（民事訴訟法特論））

英語名

Law, Policy and Political Science

開講学科

コース

法経社会学科法学コース 新旧共通

法学コース

授業科目区分

授業形態

単位数

開講期

法経社会・法学コース/選
択科目

講義

2単位

3～4年

担当教員

連絡先（TEL）

連絡先（MAIL）

齋藤善人

099-285-3526

saito@leh.kagoshima-u.ac.jp

共同担当教員

前後期

後期

授業概要

民事訴訟法特論の中味は、「国際民事訴訟法」である。民事「紛争処理手続が国内の民事訴訟事件を考察対象にしていたのに対し、この授業は、国際的な民事訴訟事件を処理するための手続・ルールを学ぶ。「特論」の意味する所以である。

グローバル化は時代の必然であり、わが国の国民生活は、国際的な物資や人の流れを抜きには成り立たない。かような財や人の交流を基礎づける様々な国際取引は、国民の日常生活に深く浸透している。そして、物品や資金の国境を越えた移動が日常化し、その頻度が増えるほど、当然一定数のトラブルが生じることは回避できない。一旦トラブルが生じると、文化や慣習さらには法制度自体も異なるため、その解決は容易でない事態を招く。

国ごとに文化や裁判の仕組みが異なるため、どこの国の裁判所で裁判されるかによって結論が異なる可能性があるだけでなく、適用される法（準拠法）をどの国の法にするかを定める国際私法（わが国では、「法の適用に関する通則法」）が国によって異なるため、どこの国の裁判所で裁判されるかによって、適用される法も違ってくる。

そこで、国際取引等をめぐる民事訴訟事件について、裁判するためのルールを検討し、明らかにする作業が求められる。これが「国際民事訴訟法」である。この授業においては、テキストを基本に、該当条文の理解を中心に国際民事訴訟法を講ずることになるが、その際、でき得る限り、関連する主要な判例をケーススタディの形で採り上げたい。

学修目標

テキストの内容を正確に「読解する」ことができる。

国際民事訴訟法に係る条文を正しく「読む」ことができる。

国際民事訴訟法の主要な判例の内容を理解し、説明することができる。

授業計画

【1】序論【国際民事訴訟法の世界】

【2】民事裁判権の免除【外国国家の主権的行為と民事裁判権の免除】

【3】国際裁判管轄（1）【国際裁判管轄の法理（管轄配分説／「特段の事情」説）】

【4】国際裁判管轄（2）【被告の住所地／債務履行地／営業所所在地】

【5】国際裁判管轄（3）【不法行為地】

【6】国際裁判管轄（4）【併合請求の管轄／合意管轄】

【7】国際民事訴訟の訴訟物

【8】国際訴訟競合【承認予測説／プロパー・フォーラム説】

【9】外国人の訴訟上の地位（1）【当事者能力/訴訟能力】

【10】外国人の訴訟上の地位（2）【当事者適格】

【11】国際司法共助（1）【外国裁判所への送達】

【12】国際司法共助（2）【外国裁判所からの送達】

【13】国際司法共助（3）【証拠調べ】

【14】外国判決の承認（1）

【15】外国判決の承認（2）

授業外学習（予習・復習）

ときに、テキストや参考文献の読解や、参考判例の概要の把握など、予習準備を経ることを授業参加の前提とすることがあり得る。その場合には、前もって（前週の授業で）、具体的にテキスト等の該当箇所や判例を指定し、予習内容をノウテイスする。

教科書

本間靖規=中野俊一郎=酒井一・国際民事手続法 [第2版]（有斐閣・平成24年）

参考書

櫻田嘉章=道垣内正人編・国際私法判例百選 [第2版]（有斐閣・平成24年）

古田啓昌・国際民事訴訟法入門（日本評論社・平成24年）

小林秀之=村上正子・国際民事訴訟法（弘文堂・平成21年）

佐藤達文=小林康彦編・一問一答平成23年民事訴訟法等改正（商事法務・平成24年）

小林秀之編集代表・国際裁判管轄の理論と実務（新日本法規・平成29年）

成績の評価基準

学期末に実施する「試験」により評価する。なお、授業の場で、予習対象の判例等につき、報告あるいは質疑応答を経由したときには、その都度プロセス評価として、+3から-3点の範囲で、試験の点数に加減することがある。

オフィスアワー

アクティブ・ラーニング

ディベート; プレゼンテーション; その他;

アクティブ・ラーニング（その他の内容）

予習を指示した課題についての質疑応答など。

アクティブ・ラーニング（授業回数）

各回の授業内容や進捗状況に応じて、適宜臨機応変に...

備考（受講要件）

とくに履修の必要条件とするものではないが、授業内容を十分に咀嚼し理解するには、民事紛争処理手続や国際私法を履修していること、そして、民事の実体規範の基本である民法（財産法）の基礎を習得していることが求められる。

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード

科目名

倒産法（旧 企業再生の法システム）

英語名

Bankruptcy Law

開講学科

コース

法経社会学科法学コース 新旧共通

法学コース

授業科目区分

授業形態

単位数

開講期

法経社会・法学コース/選
択科目

講義

2単位

3～4年

担当教員

連絡先（TEL）

連絡先（MAIL）

齋藤善人

099-285-3526

saito@leh.kagoshima-u.ac.jp

共同担当教員

前後期

後期

授業概要

資本主義において、経済活動が破綻する事態は、不可避である。かつて、消費者金融の拡大に伴って、消費者破産に象徴される個人の経済的破綻が社会問題となった（これが破産法や出資法の改正などに繋がったといえるだろう）。そして、バブル経済の崩壊とその後のデフレ状況の継続により、わが国の経済取引活動は長く低迷期に入り、それが経済活動を担う企業の業績悪化をもたらし、時に廃業や事業の破綻を招いた。たとえば、著名な事案としては、JALの会社更生、最近の例には、同じく航空業界だが、スカイマークの民事再生、直近ではタカタの民事再生などが思い浮かぶだろう。

かような事業活動の破綻の社会的影響は、極めて大きい。資金を供給している銀行等の金融機関を始めとして、仕入れ業者など多くの取引先が想定されるし、株式会社であれば、株主など出資者も数多い。何よりも、従業員の生活保障の側面もある。法的には、種々の法律関係や権利関係が錯綜し、カオスの事態といえる。こういった状況を適正妥当に処理するための法的整理の仕組みが、破産法/民事再生法/会社更生法といった「倒産法」に他ならない。

とくに、ここでは、破綻した事業を再建するための基本法といえる「民事再生法」を中心としつつ、倒産法制全体の基本法の性格を有する「破産法」も必要に応じて参照しながら、民事再生という倒産制度の根幹をマクロに鳥瞰する一方、主要な論点に係る議論のあり方や判例の法理をミクロに考察する機会も持ちたい。

学修目標

民事再生法を中核としながら、破産法を含め、倒産法の基本概念を正確に理解する。

倒産法の主要条文の内容を正確に「読み取る」ことができる。

倒産法の重要判例の法理を正しく「読み解く」ことができる。

授業計画

【1】はじめに/民事再生手続の開始（申立て、開始原因、手続開始前の保全処分など）

【2】再生債務者・監督委員

【3】再生債権・共益債権・一般優先債権

【4】相殺権（1）【相殺権/自動債権・受働債権の規律】

【5】相殺権（2）【相殺禁止（危機時期後の受働債権/自働債権の取得）】

【6】別除権（1）【担保権と別除権/別除権の行使】

【7】別除権（2）【担保権消滅許可請求/担保権実行中止命令】

【8】否認権（1）【詐害行為否認】

【9】否認権（2）【偏頗行為否認】

【10】否認権（3）【監督委員による否認権行使の態様／訴訟参加】

【11】契約関係や係属中の訴訟手続の処理（1）【賃貸借契約】

【12】契約関係や係属中の訴訟手続の処理（2）【請負契約／雇用契約等】

【13】再生計画案の作成と提出／再生計画案の成立

【14】再生計画の遂行および再生手続の終了

【15】消費者破産と個人再生

授業外学習（予習・復習）

ときに、テキストや参考文献の読解や、参考判例の概要の把握など、予習準備を経ることを授業参加の前提とすることがあり得る。その場合には、前もって（前週の授業で）、具体的にテキスト等の該当箇所や判例を指定し、予習内容をノウティスする。

教科書

倉部真由美=高田賢治=上江洲純子・倒産法（有斐閣・平成30年）

参考書

伊藤眞=松下淳一編・倒産判例百選〔第5版〕（有斐閣・平成25年）

山本和彦・倒産処理法入門〔第5版〕（有斐閣・平成30年）

中島弘雅=佐藤鉄男・現代倒産手続法（有斐閣・平成25年）

伊藤眞・破産法・民事再生法〔第4版〕（有斐閣・平成28年）

藤田広美・破産・再生（弘文堂・平成24年）

松下淳一・民事再生法入門〔第2版〕（有斐閣・平成26年）

園尾隆司=小林秀之編・条解民事再生法〔第3版〕（弘文堂・平成25年）

竹下守夫編集代表／上原敏夫=園尾隆司ほか・大コンメンタール破産法（青林書院・平成19年）

山本克己=小久保孝雄=中井康之編・新基本法コンメンタール破産法（日本評論社・平成26年）

山本克己=小久保孝雄=中井康之編・新基本法コンメンタール民事再生法（日本評論社・平成27年）

成績の評価基準

学期末に実施する「試験」により評価する。なお、授業の場で、予習内容であるテキストなどの文献や判例等につき報告したり、質疑応答を経由した場合には、プロセス評価として、その都度+3点から-3点の範囲で、試験の得点に加減することがある。

オフィスアワ -

アクティブ・ラーニング

ディベート；プレゼンテーション；その他；

アクティブ・ラーニング（その他の内容）

予習を指示した課題についての質疑応答等。

アクティブ・ラーニング（授業回数）

各回の授業内容や進捗状況に応じて、適宜臨機応変に...

備考（受講要件）

とくに受講の要件を具体的に設定するつもりはないが、授業内容を理解するには、民法（財産法）や民事訴訟法の基礎学力が必要条件となるだろう。この基礎学力に不安のある場合、当科目の履修には相当程度の困難が予測され得る。これを解消するには、受講生各位の事前および事後の学習が不可欠となるだろう。

実務経験のある教員による実践的授業

キャリア形成演習（法職入門B）（旧 法律学特殊講義（法職入門B））
ナンバリングコード

FHS-BBC2337

科目名

キャリア形成演習（法職入門B）（旧 法律学特殊講義（法職入門B））

英語名

Career Development Seminar : Legal Professions B

開講学科		コース	
法経社会学科法学コース 新旧共通		法学コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会・法学コース/選択科目	実習	2単位	3～4年
担当教員		連絡先（TEL）	連絡先（MAIL）
中島宏、米田憲市、南由介、原田いづみ		099-285-7633（中島）	h-nakaji@leh.kagoshima-u.ac.jp（中島）
共同担当教員		前後期	
		前期	

授業概要

この科目は、将来、法曹（弁護士・裁判官・検察官）となるため、法科大学院への入学、あるいは司法試験予備試験の合格を目指す学生を想定したものである。履修者が法曹を目指すことを前提に、法律基本科目の基本的な思考方法を定着させ、具体的事案の解決に向けた応用力、文書による表現力を鍛えるために、主に各法律分野の事例問題を用いて授業を展開する（ただし、入試や予備試験に向けた受験対策を行うものではなく、地力を鍛えるための科目であることに注意されたい）。また、法律家の仕事のあり方や法曹界を取り巻く様々な問題に対する理解を深めたり、法科大学院における学修や司法試験の受験に対する具体的なイメージを持つための企画も随時実施する。

全体を中島・南・米田が統括するが、各回の授業では様々な法律基本科目を内容とするほか、司法政策に関する社会的知見に学ぶこともあるため、各分野の教員をゲストスピーカーに招きつつ、幅広く指導・訓練する。また、本学司法政策教育研究センターと各大学との連携協定に基づき、九州大学法科大学院、琉球大学法科大学院・中央大学法科大学院の教員による講義や講演を実施する。

「法職入門A」（後期開講）と同じ目的・開講形態であるが、扱う内容（事例問題）は異なる。したがって、両方とも履修することが可能である。

学修目標

- 1) 実定法学の各科目に共通して必要とされる法的思考力を身につける。
- 2) 講義等で学ぶ法律知識を用いて具体的な事案を解決するための応用力を鍛える。
- 3) 法的推論を文書によって表現するための基本的な力を身につける。
- 4) 法律家がどのような仕事をしているのかを正しく知る。
- 5) 法曹界を取り巻く様々な問題に対する理解を深める。
- 6) 法科大学院における学修や司法試験の受験に対する具体的なイメージを形成する。
- 7) 法科大学院の2年修了コースに合格するために必要な力を身につける。
- 8) 将来、司法政策に貢献できる学識と人格を備えた法曹になる基盤を身につける。

授業計画

- 第1講 ガイダンス・アイスブレイク
- 第2講 事例問題（実体法分野）
- 第3講 事例問題（実体法分野）
- 第4講 法科大学院ガイダンス（九州大学・琉球大学など）
- 第5講 事例問題（実体法分野）
- 第6講 事例問題（実体法分野）
- 第7講 事例問題（実体法分野）
- 第8講 事例問題（実体法分野）
- 第9講 若手弁護士からみた法曹の仕事
- 第10講 事例問題（実体法分野）
- 第11講 事例問題（実体法分野）

第12講 事例問題（実体法分野）
第13講 若手弁護士からみた法曹の仕事
第14講 事例問題（訴訟法分野）
第15講 事例問題（訴訟法分野）
授業外学習（予習・復習）
<p>予習</p> <p>毎回の授業につき、あらかじめ出題される事例問題を事前に検討し、自分の解答を作成したうえで講義に出席しなければならない。様々な法律科目の内容を扱うので、必要な知識は他の科目（民法・憲法・刑法など）の教科書等で自習することが必要となる。また、判決文を精読したうえでの参加を求める場合もある。講義の目的に照らして、高い水準での予習が求められることを十分に覚悟されたい。目安90分程度。</p> <p>復習</p> <p>授業で検討した事例問題について、授業中の指摘事項等を踏まえ、あらためてどのような論述をすべきか、各自で検討する。その際、わからないことがあれば教員に質問する。また、必要に応じて復習のための課題（応用問題や基礎を確認するための問題）が示されるので、その場合は解答を作成する。目安60分程度。</p>
教科書
特に定めない。
参考書
適宜指示する。
成績の評価基準
<p>毎回の答案提出：50%</p> <p>授業での発言等：50%</p> <p>欠席は減点する。</p>
オフィスアワー
追って指定する。なお、質問等での研究室訪問は随時可。
アクティブ・ラーニング
ディベート；学習の振り返り（ミニッツ・ペーパー等）；その他；
アクティブ・ラーニング（その他の内容）
答案の起案指導
アクティブ・ラーニング（授業回数）
15回中15回
備考（受講要件）
<p>開講目的を確実に達成するため、履修者の上限を20名とする。履修希望者がこれを超えた場合は、過去の法律科目の成績等を参考にして選抜を行う。選抜方法等については、別途掲示するので注意すること。</p> <p>履修希望者は、所定の期間に履修申請を行った上で、第1回目の授業に必ず出席すること。第1回目の授業にやむを得ない事情で参加できない者は、開講前日までに中島に連絡し、面談等の指示を受けること。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・法曹（あるいはそれに準じる法律専門職）を目指して学習することを前提とする。 ・法政策学科で開講されている法律科目を体系的に学習し、成果を上げていることを前提とする。
実務経験のある教員による実践的授業
法曹資格を有し弁護士としての実務経験を有する教員が他の教員と共同で担当する。

ナンバリングコード

FHS-BBC3313

科目名

民事執行・保全法

英語名

Civil Execution and Civil Provisional Remedies

開講学科

コース

法経社会学科法学コース 新旧共通

法学コース

授業科目区分

授業形態

単位数

開講期

法経社会・法学コース/選
択科目

講義

2単位

3～4年

担当教員

連絡先 (TEL)

連絡先 (MAIL)

齋藤善人

099-285-3526

saito@leh.kagoshima-u.ac.jp

共同担当教員

前後期

前期

授業概要

ローマ最古の成文法とされる「十二表法」には、次のような定めがあった。いわく、「債務の支払を認める判決がされると、それから30日以内に、債務者が全額を支払うか、あるいは、その支払を保証する者が現れない場合、債権者は債務者を拿捕し、60日の間、足枷で束縛する。その間、債権者は債務者を3回、市場に引き出し、親族や友人が名乗り出るのを待つが、誰も名乗り出てこないときには、債務者は奴隷として国外に売却される」（その後、この規定は改正され、債務者は、債権者のもとで債務奴隷として労働することになった）、と。

これは、強制執行の方法を規定したものに他ならず、古の時代より、債務の実現に苦心した様子を窺い知ることができる。「執行は、法の終局であり果実である」との法諺が示すとおり、債権債務関係において、法の果実へと最終的に到達するための術が、強制執行である。たとえば、民法に規定された請求権が、民事訴訟で確定された後、それを具体的に実現する過程が強制執行であり、権利の現実的形成といわれる所以である。

その意味で、債権債務の法律関係を体系として理解したというためには、その最終段階である執行の過程を知らないで済ませる訳にはいかないはずである。実務的でテクニカルな法分野であることは確かだが、勉強して損はないだろう。

学修目標

民事執行の全体像や手続の流れをマクロに理解し、説明することができる。

民事執行法の条文をミクロに検討し、その内容を正しく「読み取る」ことができる。

民事執行に係る判例を正確に「読解する」ことができる。

授業計画

- 【1】執行と保全－民事保全/民事執行概説－
- 【2】形式的競売と担保権実行競売 1
- 【3】担保権実行競売 2
- 【4】強制執行と債務名義
- 【5】請求異議の訴え
- 【6】執行文
- 【7】第三者異議の訴え
- 【8】不動産執行 1
- 【9】不動産執行 2
- 【10】不動産執行 3
- 【11】債権執行 1
- 【12】債権執行 2
- 【13】非金銭執行
- 【14】仮差押
- 【15】仮処分

授業外学習 (予習・復習)

ときに、参考判例の概要の把握など、予習準備を経ることを授業参加の前提とすることがある。その場合には、前もって(前週の授業等で)、具体的に予習の範囲や該当判例を指定し、予習内容をノウテイスする。

教科書

特定のテキストは使用しない。

適宜判例プリント等を配布する予定。

参考書

【1】学習用判例教材

上原敏夫=長谷部由起子=山本和彦編・民事執行・保全判例百選〔第2版〕（有斐閣・平成24年）
古賀政治編霞総合法律事務所著・民事執行・保全判例インデックス（商事法務・平成21年）

【2】体系書

中野貞一郎・民事執行法〔増補新訂6版〕（青林書院・平成22年）
中西正=中島弘雅=八田卓也・民事執行・民事保全法（有斐閣・平成22年）
福永有利・民事執行法・民事保全法〔第2版〕（有斐閣・平成23年）
生熊長幸・わかりやすい民事執行法・民事保全法〔第2版〕（成文堂・平成24年）

【3】注釈書

山本和彦=小林昭彦=浜秀樹=白石哲編・新基本法コンメンタール民事執行法（日本評論社・平成26年）
山本和彦=小林昭彦=大門匡=福島政幸編・新基本法金コンメンタール民事保全法（日本評論社・平成26年）

成績の評価基準

学期末に実施する「試験」により評価する。なお、授業の場で、予習内容とされた判例等につき報告したり、質疑応答を経由した場合には、プロセス評価として、その都度+3点から-3点の範囲で、試験の点数に加減することがある。

オフィスアワー

アクティブ・ラーニング

ディベート；プレゼンテーション；その他；

アクティブ・ラーニング（その他の内容）

予習を指示した課題についての質疑応答など。

アクティブ・ラーニング（授業回数）

各回の授業内容や進捗状況に応じて、適宜臨機応変に...

備考（受講要件）

とくに具体的に設定はしないが、科目の性格上、民法（財産法分野）や民事訴訟法の基礎を理解していないと、学習は困難な作業の連続となるだろう。

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
FHS-BBC2311			
科目名			
労働法（旧 雇用の法と政策）			
英語名			
Labour Law			
開講学科		コース	
法経社会学科法学コース 新旧共通		法学コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会・法学コース/選択科目	講義	2単位	3～4年
担当教員	連絡先（TEL）	連絡先（MAIL）	
畑井清隆			
共同担当教員	前後期		
なし	後期		
授業概要			
労働法の基本的事項を判例を紹介しながら講義します。			
学修目標			
労働法の基本的事項を理解している。			
授業計画			
下記のように進める予定です。			
第1回	労働法の課題と役割（第1章）・労働法上の当事者（第2章）		
第2回	労働契約上の権利・義務（第4章）		
第3回	就業規則と労働契約（第5章）	第1、2回の小テスト	
第4回	労働契約の変更（第6章）・人事異動・配転・出向（第7章）		
第5回	懲戒（第9章）・解雇（第10章）		
第6回	有期労働契約（第12章）	第3～5回の小テスト	
第7回	パート有期労働、派遣労働（第13章）		
第8回	雇用平等（第14章）		
第9回	賃金（第16章）	第6～8回の小テスト	
第10回	労働時間（第17章）		
第11回	休憩・休日と年次有給休暇（第18章）		
第12回	労働組合（第21章）・団体交渉（第22章）	第9～11回の小テスト	
第13回	労働協約（第23章）		
第14回	団体行動（第24章）		
第15回	不当労働行為（第25章）	第12～14回の小テスト	
授業外学習（予習・復習）			
<ul style="list-style-type: none"> ・教科書の該当箇所を前もって読んでおくこと（2時間）。 ・授業の最初の15分間、小テストを行います（2～3回おきに実施）。 ・小テストに向けて教科書等を復習しておくこと（2時間）。 			
教科書			
・野田進・山下昇・柳澤武編『判例労働法入門（第6版）』（有斐閣、2019年）。			
参考書			
・荒木尚志『労働法（第4版）』（有斐閣、2019年）、菅野和夫『労働法（第11版補正版）』（弘文堂、2017年）等。			
成績の評価基準			
<ul style="list-style-type: none"> ・小テスト20点×5回＝100点満点で評価します。 ・小テストは教科書・六法持ち込み可です。 ・期末試験は実施しません。 			
オフィスアワ -			

アクティブ・ラーニング

アクティブ・ラーニング（その他の内容）

アクティブ・ラーニング（授業回数）

備考（受講要件）

特になし。

実務経験のある教員による実践的授業

民事訴訟法II (旧 法律学特殊講義 (民事紛争処理手続特論))
ナンバリングコード

科目名

民事訴訟法II (旧 法律学特殊講義 (民事紛争処理手続特論))

英語名

開講学科

コース

法経社会学科法学コース 新旧共通

法学コース

授業科目区分
法経社会・法学コース/選
択科目

授業形態
講義

単位数
2単位

開講期
3~4年

担当教員

連絡先 (TEL)

連絡先 (MAIL)

齋藤善人

099-285-3526

saito@leh.kagoshima-u.ac.jp

共同担当教員

前後期

前期

授業概要

この授業は、前学期に開講された民事訴訟法1の授業を引き継ぐ形で実施される。ゆえに、そのコンセプトに変わるところはなく、ここでは、大きな民事紛争解決手続の流れを把握するのみではなく、民事訴訟手続の各場面で生起する主要な論点にフォーカスし、条文の解釈や判例法理の検討を通して、重要な論点を考察し、理解する力を涵養したい。基本書を咀嚼できる読解力を身に着けるとともに、本格的なケース・メソッド(判例研究)への橋渡しを意図したケース・スタディの方式を通じて、時に演繹的に、また場合によっては帰納的に、民事訴訟法の基礎理論を学習するという方法論を採用したい。

その際、制度趣旨とか定義といった基本概念については、適宜簡明に説明することに留意し、基本的な概念と論点の関係を把握して思考できるような能力の開発に資するようにしたい。なお、基本的事項については、教科書や参考文献等を検索すれば、記されているところであり、その点で受講生各位の自学自習が不可欠の要素となる。それを前提に、授業の場では、できる限り判例教材などを用いて、論点を具体的に考察することを試みたい。もちろん、「考察する」ためには、必要最小限の正確な基礎学力(基本概念等の理解)が不可欠なことは承知しているが、授業が単なる知識の伝達に終始することは本旨でない。その意味で、所期の成果を達成し得る授業を構築するには、受講生各位の協力が是非とも必要となるだろう。

学修目標

民事訴訟法の主要な論点を素材に、自らテキストなど文献を検索し、それを正しく「読解する」ことができる。

民事訴訟法の主要な論点に係る条文を正確に「読む」ことができる。

民事訴訟法の主要な論点に関する判例法理を理解し、その内容を説明することができる。

民事訴訟法の主要な論点につき、基本概念や定義、判例を踏まえて思考回路を設計し、説明することができる。

授業計画

- 【1】証明責任(1)－自由心証主義と訴訟上の証明/証明責任の分配－
- 【2】証明責任(2)－証明責任による判決を回避する方法－
- 【3】証拠の収集－書証(文書の証拠調べ/二段の推定)/文書提出命令－
- 【4】処分権主義－引換給付判決/債務不存在確認請求の訴え－
- 【5】既判力の時的範囲－基準時と遮断効/基準時後の取消権－
- 【6】既判力の客観的範囲(1)－主文と理由中の判断/相殺の抗弁－
- 【7】既判力の客観的範囲(2)－争点効と信義則による後訴の遮断－
- 【8】既判力の主観的範囲－相対的解決/口頭弁論終結後の承継人/反射効－
- 【9】通常共同訴訟
- 【10】必要的共同訴訟－固有必要的共同訴訟/類似必要的共同訴訟－
- 【11】訴えの主観的併合－追加的併合/予備的併合と同時審判申出共同訴訟－
- 【12】補助参加と訴訟告知
- 【13】独立当事者参加
- 【14】訴訟承継
- 【15】上訴－上訴の利益/控訴と上告－

授業外学習(予習・復習)

ときに、テキスト・判例の読解など、予習準備を経ることを授業参加の前提とすることがある。その場合には、前週の授業において、テキストの該当箇所や判例を指定のうえ、その旨ノウテイスする。

教科書

野村秀敏=佐野裕志=伊東俊明=齋藤善人=柳沢雄二=大内義三・民事訴訟法 (北樹出版・平成30年)

参考書

【1】概説書

高橋宏志・民事訴訟法概論 (有斐閣・平成28年)
 川嶋四郎・民事訴訟法概説 [第2版] (弘文堂・平成28年)
 和田吉弘・基礎からわかる民事訴訟法 (商事法務・平成24年)
 山本弘=長谷部由起子=松下淳一・民事訴訟法 [第3版] (有斐閣・平成30年)

【2】定評のある体系書

高橋宏志・重点講義民事訴訟法 (上) [第2版補訂版], (下) [第2版補訂版] (有斐閣・平成25, 26年)
 伊藤眞・民事訴訟法 [第6版] (有斐閣・平成30年)
 川嶋四郎・民事訴訟法 (日本評論社・平成25年)
 河野正憲・民事訴訟法 (有斐閣・平成21年)
 小島武司・民事訴訟法 (有斐閣・平成25年)
 新堂幸司・民事訴訟法 [第5版] (弘文堂・平成23年)
 中野貞一郎=松浦馨=鈴木正裕編・新民事訴訟法講義 [第3版] (有斐閣・平成30年)
 藤田広美・講義民事訴訟 [第3版] (東大出版会・平成25年)
 藤田広美・解析民事訴訟 [第2版] (東大出版会・平成25年)
 松本博之=上野泰男・民事訴訟法 [第8版] (弘文堂・平成27年)
 三木浩一=笠井正俊=垣内秀介=菱田雄郷・LEGAL QUEST民事訴訟法 [第2版] (有斐閣・平成27年)

【3】注釈書

秋山幹男=伊藤眞=加藤新太郎=高田裕成=福田剛久=山本和彦・コンメンタール民事訴訟法 1 [第2版追補版], 2 [第2版], 3, 4, 5, 6 (日本評論社・平成26, 18, 20, 22, 24, 26年)
 松浦馨=新堂幸司=竹下守夫=高橋宏志=加藤新太郎=上原敏夫=高田裕成・条解民事訴訟法 [第2版] (弘文堂・平成23年)
 加藤新太郎=松下淳一編・新基本法コンメンタール民事訴訟法 1, 2 (日本評論社・平成30年)
 笠井正俊=越山和広編・新コンメンタール民事訴訟法 [第2版] (日本評論社・平成25年)

【4】学習用判例教材

小林秀之編・判例講義 民事訴訟法 (弘文堂・平成31年)
 高橋宏志=高田裕成=畑瑞穂編・民事訴訟法判例百選 [第5版] (有斐閣・平成27年)

成績の評価基準

学期末に実施する「試験」により評価する。なお、授業の場で、予習対象の判例等につき、報告あるいは質疑応答を経由したときには、その都度プロセス評価として、+3から-3点の範囲で、試験の点数に加減することがある。

オフィスアワ -

アクティブ・ラーニング

ディベート; プレゼンテーション; その他;

アクティブ・ラーニング (その他の内容)

予習を指示した課題についての質疑応答など。

アクティブ・ラーニング (授業回数)

各回の授業内容や進捗状況に応じて、適宜臨機応変に...

備考 (受講要件)

受講生各位が、判例等を素材にして具体的に「考える」作業に取り組む授業にできれば理想的だろう。判例の事案を理解するには、多くの場合、その前提として、民法(主に財産法)の基本的理解を要するはずなので、受講生各位には、その部分の事前学習も求められよう。

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
科目名			
企業法務論			
英語名			
開講学科		コース	
法経社会学科法学コース 新旧共通		法学コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会・法学コース/選択科目	講義	2単位	3～4年
担当教員	連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)	
松田忠大、米田憲市		kenyone@leh.kagoshima-u.ac.jp (subject欄に、科目名、氏名、学籍番号を必ず記載すること)	
共同担当教員	前後期		
	後期		
授業概要			
現在調整中です。興味のある人は責任教員の米田憲市先生に現段階での情報を問い合わせして下さい。			
学修目標			
1. 企業法務という実務領域の実態を学び、その概要を説明できるようになる。 2. 「企業法務」という実務領域の発展と現状について学び、その概要を説明できるようになる。 3. 企業法務で扱う諸業務について学び、その概要を説明できるようになる。			
授業計画			
第1講 企業法務の役割 第2講 企業法務のキャリア 第3講 企業法務への来歴 第4講から14講までは、下記のうちから、教員が適宜選択したものを取り上げる。 契約の審査と管理 取締役会運営 インサイダー取引 株主総会運営 知的財産権 危機管理 グローバル法務 贈収賄防止 訴訟 下請法 育成・評価・採用・弁護士 競争法 コンプライアンス 景品表示 消費者対応 債権回収 事業再編 M & A 情報管理 ハラスメント 第15講 企業法務の横のつながり			
授業外学習 (予習・復習)			
manabaを通じて指示された参考文献は、事前に学習すること。			

教科書

経営法友会企業法務入門テキスト編集委員会編著『企業法務入門テキスト ありのままの法務』商事法務（2016）

参考書

適宜指示する。

成績の評価基準

最終レポート：50%（特徴のある方法で実施するので、授業で説明をよく聞くこと。）

提出物（ネット上のコメントなどを含む）：20%

その他：授業の充実への貢献などで20%

オフィスアワー

随時。上記mailで事前アポがあることが望ましいが、遠慮する必要はない。

アクティブ・ラーニング

グループワーク；プレゼンテーション；学習の振り返り（ミニッツ・ペーパー等）；その他；

アクティブ・ラーニング（その他の内容）

随時質問をすることにより、双方向多方向の授業を展開する。

アクティブ・ラーニング（授業回数）

15回

備考（受講要件）

実務経験のある教員による実践的授業

1, 2回、実務で活躍するゲスト講師による授業を予定している。

ナンバリングコード

科目名

刑事訴訟法II(旧 刑事訴訟法)

英語名

Criminal Procedure II

開講学科		コース	
法経社会学科法学コース 新旧共通		法学コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会・法学コース/選択科目	講義	2単位	3~4年
担当教員		連絡先(TEL)	連絡先(MAIL)
中島宏		099-285-7633	h-nakaji@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
		前期	

授業概要

この科目では、刑事訴訟法が規定する内容のうち、公訴・公判・証拠・裁判・上訴・非常救済に関する部分を扱う。すなわち、捜査を遂げた事件について検察官が裁判に公訴を提起し、これを受けて裁判所における公判手続き(およびその準備のための手続き)が開始され、一定の要件を満たした証拠に基づいて事実認定と刑の量定がなされて判決が言い渡されるまでの手続き、さらには、誤った判決を是正するための上訴・非常救済手続きについて学ぶ。各段階における手続きの概要を理解したうえで、刑事訴訟法の解釈論上の争点を、判例などを素材にして検討していく。

刑事訴訟は、犯罪に対して刑罰を科すための手続きである。具体的な事案について、捜査がなされ、被告人が起訴されて、公判において有罪が立証され、判決が言い渡されなければ、刑法の規定する内容も「絵に描いた餅」となってしまうだろう。その意味で、刑事訴訟法を学ぶことは、刑事法全体の中でも、刑法に匹敵する重要な意味をもつ。さらに裁判員制度の導入によって、犯罪捜査や刑事裁判の手続きに関する知識は、専門職に就く者だけでなく、すべての市民にとって必要なものとなっている。

なお、他の学期に別途に開講する「刑事訴訟法I」(2018年度以前入学生は「法律学特殊講義(捜査法)」)では、事件が起訴される前に行われる捜査手続きに関する部分を扱っている。できるだけ両科目をあわせて履修することが望ましい。

学修目標

- (1) 刑事手続きの流れを正確に理解する。
- (2) 刑事手続きの運用における実状を把握する。
- (3) 刑事訴訟法解釈上の重要論点につき、理解を深める。
- (4) 判例の分析を通じて、理論を実際の事例に適用し、問題を解決する能力を養う。

授業計画

- 第1回...刑事手続の概要
- 第2回...検察官の事件処理
- 第3回...公訴の提起
- 第4回...公判前整理手続き
- 第5回...公判の諸原則
- 第6回...公判手続き
- 第7回...裁判員の参加する刑事手続き
- 第8回...証拠法総論
- 第9回...関連性
- 第10回...違法収集証拠排除法則
- 第11回...自白
- 第12回...伝聞法則(1)
- 第13回...伝聞法則(2)
- 第14回...公判の裁判
- 第15回...上訴・非常救済手続き

授業外学習(予習・復習)

この科目では学生の予習を前提とした双方向授業を試みる。授業外学習の重要性を十分に認識されたい。

予習

毎週の講義に先駆けて「予習の手引き」をmanabaで配布する。その内容に沿って、予習をしたうえで授業に参加すること。具体的には、1)教科書の該当箇所を条文を引きながら精読する、2)判例百選の該当箇所の「事実」と「判旨」を読んで内容を理解する、3)「予習の手引き」を用いて、予習段階で理解できたことと理解できなかったことを明らかにする、4)「予習の手引き」に記載した問いについて自分の見解を立論してみることを予習内容とする。おおむね60分程度。

復習

講義を聞いて理解できなかったことについて、講義専用の電子掲示板に書き込みをする。教員がこれに回答するほか、他の学生を交えた議論を期待したい。また、manabaを通じて講義の補足情報や復習のための練習問題を配信するので、各自で取り組む。おおむね60分程度。

教科書

岩下雅充・大野正博・亀井源太郎・公文孝佳・辻本典央・中島宏・平山真理 著『刑事訴訟法教室』(法律文化社、2013年)

井上正仁編『刑事訴訟法判例百選(第10版)』(有斐閣、2016年)

参考書

体系書

酒巻匡『刑事訴訟法』(有斐閣、2016年)

宇藤崇・松田岳士・堀江慎司『刑事訴訟法』(リーガルクエスト・シリーズ)(有斐閣、2013年)

田口守一『刑事訴訟法[第7版]』(弘文堂、2017年)

白取祐司『刑事訴訟法[第9版]』(日本評論社、2017年)

池田修・前田雅英『刑事訴訟法講義[第5版]』(東大出版会、2015年)

上口裕『刑事訴訟法[第4版]』(成文堂、2015年)

亀井源太郎・岩下雅充・堀田周吾・安井哲章・中島宏『プロセス講義刑事訴訟法』(信山社、2016年)

田宮裕『刑事訴訟法(新版)』(有斐閣、1996年)

注釈書

松尾浩也監修『条解刑事訴訟法[第4版増補版]』(弘文堂、2016年)

河上和雄・中山善房ほか『大コンメンタール刑事訴訟法[第2版]』全10巻

三井誠ほか『新基本法コンメンタール 刑事訴訟法[第2版追補版]』(日本評論社、2017年)

後藤昭ほか『新・コンメンタール刑事訴訟法(第3版)』(日本評論社、2018年)

成績の評価基準

期末試験(100%)。裁判傍聴レポートによる加点。

オフィスアワー

追って指定する。

アクティブ・ラーニング

ディベート; 学習の振り返り(ミニッツ・ペーパー等);

アクティブ・ラーニング(その他の内容)

アクティブ・ラーニング(授業回数)

15回中10回

備考(受講要件)

自ら主体的に学び問う意欲のある者だけを「学生」と認める。

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
FHS-CCD2301			
科目名			
演習			
英語名			
Seminar			
開講学科		コース	
法経社会学科地域社会コース 新旧共通			
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会・地域社会コース / 必修科目	演習	2単位	2～4年
担当教員	連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)	
城戸秀之	099-285-7611	kido@leh.kagoshima-u.ac.jp	
共同担当教員		前後期	
		前期	
授業概要			
現代社会は多様で複雑な現象の相互連関からなっている。このような社会の理解を深めるために、授業では現代社会が抱える様々な問題とそれを考える手がかりとなる社会学的思考について学習する。そして、各人が討論に参加し、自分の問題意識と重ね合わせることによって、学習した知識を借り物ではない生きた知識にしてほしい。			
学修目標			
<ol style="list-style-type: none"> 1. 社会学の基本的考え方および用語を現実の社会とむすびつけて理解する。 2. テキストを整理し、報告資料を作成する。 3. 共通のテーマのもとで討論ができる。 4. 討論に関して自分の知見をもとに話題提供できる。 			
授業計画			
第1回 ガイダンス 授業の進め方の説明、担当決定			
第2回～第14回 報告と討論			
第15回 総括討論			
授業外学習 (予習・復習)			
【予習】次週のテキストを読む (30分)			
【復習】復習レポートの提出 (60分)			
このほか、授業中適宜指示をする			
教科書			
友枝敏雄ほか『社会学のエッセンス 新版』有斐閣、2007年。			
参考書			
濱島・竹内・石川編『社会学小事典』有斐閣、1997年。			
成績の評価基準			
発表、授業態度、運営参加などを総合して評価する			
オフィスアワー			
火曜日3時限 (研究室)			
アクティブ・ラーニング			
アクティブ・ラーニング (その他の内容)			
アクティブ・ラーニング (授業回数)			
備考 (受講要件)			
演習は各人の意見をふまえた討論で成立するものなので、積極的な態度で授業に出席してほしい。			
実務経験のある教員による実践的授業			

ナンバリングコード			
FHS-CCD2301			
科目名			
演習			
英語名			
Seminar			
開講学科		コース	
法経社会学科地域社会コース 新旧共通			
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会・地域社会コース / 必修科目	演習	2単位	2～4年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
城戸秀之		099-285-7611	
共同担当教員		前後期	
		後期	
授業概要			
現代の社会システムは物質的な繁栄をきわめる一方で、いくつかの深刻な問題を抱えている。そのひとつが自己存在の問題としての人間観のゆらぎであり、それは、若者の生において凝縮されてあらわれている。授業では「若者」をめぐるいくつかの議論の検討を通して、自分と等身大の問題としての現代社会の問題について考えてほしい。			
学修目標			
1) 社会学の基本的考え方および用語をもとに現実社会の分析をおこなう 2) 現代社会についての理解を深める 3) テキストを整理し、報告資料を作成する 4) 共通のテーマのもとで討論ができる 5) 討論に関して自分の知見をもとに話題提供できる			
授業計画			
第1回 ガイダンス 授業の進め方の説明、担当決定			
第2回～第12回 報告と討論			
第13回 総括討論?			
第14回 総括討論?			
第15回 共同研究発表			
授業外学習 (予習・復習)			
【予習】次週のテキストを読む			
【復習】討論の材料を探す (30分-60分)			
このほか、授業中適宜指示をする。			
教科書			
森真一『ほんとはこわい「やさしさ社会」』筑摩書房 2008年、ほか。			
参考書			
授業中に適宜紹介する。			
成績の評価基準			
発表、授業態度、運営参加などを総合的に評価する			
オフィスアワ -			
火曜日 2時限			
アクティブ・ラーニング			
アクティブ・ラーニング (その他の内容)			
アクティブ・ラーニング (授業回数)			
備考 (受講要件)			
演習は各人の意見をふまえた討論で成立するものなので、積極的な態度で授業に出席してほしい。			
実務経験のある教員による実践的授業			

ナンバリングコード			
FHS-CCD2301			
科目名			
演習			
英語名			
Seminar			
開講学科		コース	
法経社会学科地域社会コース 新旧共通			
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会・地域社会コース / 必修科目	演習	2単位	2～4年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
中島大輔		099-285-8895	nakajima@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
		後期	
授業概要			
<p>前期に続いてヨーロッパとりわけドイツの地方都市と私たちの地域の比較を試みる。前期に調べたドイツの中小都市の事例を踏まえて、行政、経済、教育・文化、公共交通、医療などの都市機能に関して私たちの地域の自治体はどのような状況にあるかを調べ、考える。</p> <p>その際、日本の都市に欠けている要素だけでなく、ドイツやヨーロッパの都市に見られない地域の自然や文化、社会の特質に対しても積極的に目を向け、評価することにより、私たちの社会についてのより良い理解と観光資源発見の視点につなげたい。</p> <p>具体的には前期に調べたドイツの都市と比較した場合、私たちの地域に欠けている都市機能は何か、逆に私たちの地域のみが存在する特質は何かという視点から、受講生は自らの自治体についてフィールドワークも含めて調査を行う。また、もし姉妹都市提携を行うとしたら相互に何を提供できるかという文化的交流の可能性についても併せて考察し、グループ報告（パワーポイント）の形でまとめる。</p>			
学修目標			
<ul style="list-style-type: none"> ・ドイツの地方都市との比較から、自らの自治体についてその都市機能を理解する ・ドイツの地方都市との比較から、自らの自治体の課題を把握し、可能性を展望する 			
授業計画			
<p>第1回：オリエンテーション</p> <p>第2回：ドイツと日本の都市の交流：姉妹都市の実例(1)</p> <p>第3回：ドイツと日本の都市の交流：姉妹都市の実例(2)</p> <p>第4回：文献講読（輪読）とグループワーク</p> <p>第5回：文献講読（輪読）とグループワーク</p> <p>第6回：文献講読（輪読）とグループワーク</p> <p>第7回：文献講読（輪読）と中間報告(1)</p> <p>第8回：文献講読（輪読）と中間報告(2)</p> <p>第9回：文献講読（輪読）と中間報告(3)</p> <p>第10回：グループ報告（1）：自らの自治体の紹介（課題と可能性）および質疑討論</p> <p>第11回：グループ報告（2）：自らの自治体の紹介（課題と可能性）および質疑討論</p> <p>第12回：グループ報告（3）：自らの自治体の紹介（課題と可能性）および質疑討論</p> <p>第13回：グループ報告（4）：自らの自治体の紹介（課題と可能性）および質疑討論</p> <p>第14回：グループ報告（5）：自らの自治体の紹介（課題と可能性）および質疑討論</p> <p>第15回：グループ報告（6）：自らの自治体の紹介（課題と可能性）および質疑討論</p> <p>第16回：総括：日本の地方自治体の課題と可能性</p>			
授業外学習（予習・復習）			
<p>授業外でもグループごとにそれぞれの自治体について参考文献やネットならびに現地調査を通じて調べることを求める。パワーポイントを用いた報告を求めるので、折に触れて現地で資料収集を行うことが必要となる。</p>			
教科書			
高松平蔵『ドイツの地方都市はなぜクリエイティブなのか』（学芸出版社）2016年			
参考書			
高松平蔵『ドイツの地方都市はなぜ元気なのか』（学芸出版社）、村上敦『フライブルクのまちづくり』（学芸			

出版社)、ヴァンソン藤井由美『ストラスプールのまちづくり』(学芸出版社)。
その他適宜授業中に紹介する。

成績の評価基準

授業内容の理解(レポート等)を50%、授業に対する取り組み(グループワーク、報告、質疑、討論等)を50%とし、その総合で評価する。

オフィスアワ -

火曜 4 限

アクティブ・ラーニング

グループワーク; フィールドワーク; プレゼンテーション;

アクティブ・ラーニング(その他の内容)

アクティブ・ラーニング(授業回数)

16回中9回

備考(受講要件)

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
科目名			
比較地域文化論			
英語名			
Comparative Study of Regional Cultures			
開講学科		コース	
法経社会学科地域社会コース 新旧共通			
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会・地域社会コース / 選択科目	講義	2単位	2～4年
担当教員	連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)	
中島大輔	099-285-8895	nakajima@leh.kagoshima-u.ac.jp	
共同担当教員		前後期	
		前期	
授業概要			
<p>ドイツと日本はほぼ同じ面積にそれぞれ約8千万、1億2千万の人口を擁する大国である。しかし自治体や都市に関しては両国で大きな相違が見られる。ドイツの自治体や都市の数(11,054、2,059)は日本(1,741、791)を大きく上回り、その規模も日本よりずっと小さい。一方で小さな自治体や都市でも総じて自立性が高く、基本的な都市機能も充実している。この相違はどこに由来するのだろうか。</p> <p>この授業ではドイツの都市の成立と発展を中世に遡って解説するとともに、かつての中世都市の区域である旧市街が現在どのように保全され、活用されているか、またそれぞれの都市にとってどのような意味を持っているのかを映像を交えて紹介し、都市計画やまちづくり、公共交通の観点から日本の都市との比較・考察を行う。</p>			
学修目標			
<ul style="list-style-type: none"> ・ドイツの都市の成り立ちと中世から近代に至る自治を理解する ・ドイツの旧市街の歴史的、社会的、文化的特徴とそれぞれの都市における意義を理解する ・旧市街の保全と活用に関する日本の都市とドイツの都市の相違を理解する 			
授業計画			
<p>第1回：オリエンテーション、参考文献紹介</p> <p>第2回：都市論の射程、都市の概念と定義、中世都市にみる共同体としての性格</p> <p>第3回：中世における都市の成立（：「成長都市」と「建設都市」</p> <p>第4回：自治への道程（1）：都市の種類、都市領主からの独立</p> <p>第5回：自治への道程（2）：ツunft闘争（市民闘争）からツunft市制へ</p> <p>第6回：自治への道程（3）：ツunft市制（ネルトリンゲンの例から）</p> <p>第7回：中世都市の防衛体制と市民の義務</p> <p>第8回：中世ドイツの都市同盟（1）：シュヴァーベン都市同盟の例</p> <p>第9回：中世ドイツの都市同盟（2）：ハンザ都市の例</p> <p>第10回：中世都市から近代都市へ：都市の要塞化から市域拡大・市壁撤去</p> <p>第11回：日本の都市：古代から中世</p> <p>第12回：日本の都市：中世から近世</p> <p>第13回：現在の日本とドイツの都市（1）：歴史的旧市街の保全と活用を中心に</p> <p>第14回：現在の日本とドイツの都市（2）：旧市街の公共交通を中心に</p> <p>第15回：鹿児島島の歴史的旧市街の可能性</p>			
授業外学習（予習・復習）			
講義で紹介できる内容は限られている。適宜授業中に紹介する参考文献を積極的に利用し、考察を深めること。			
教科書			
特に指定しない。適宜下記の参考書を紹介する。			
参考書			
<p>鯖田豊之『ヨーロッパ封建都市』講談社学術文庫、1994年</p> <p>カール・グルーバー『図説ドイツの都市造形史』西村書店、1999</p> <p>斯波照雄『西洋の都市と日本の都市 どこが違うのか - 比較都市史入門』学文社、2015年</p> <p>村上敦『ドイツのコンパクトシティーはなぜ成功するのか』学芸出版社、2017年</p> <p>水島信『ドイツ流 街づくり読本』鹿島出版会、2006年</p>			

片野優 『ここが違う、ヨーロッパの交通政策』 白水社、2011年
ヴァンソン藤井由美 『ストラスブールのまちづくり』 学芸出版社、2011年
H.J.ドレーガー 『トーアシュトラッセ 街並みに見るハンザ都市の歴史』 朝日出版社、2013年
成績の評価基準
毎回の授業レポート（50％）と期末試験（50％）の総合で評価する。
オフィスアワ -
火曜4限（これ以外の時間も対応します。あらかじめメールで連絡してください。）
アクティブ・ラーニング
学習の振り返り（ミニッツ・ペーパー等）；
アクティブ・ラーニング（その他の内容）
授業内容に関するレポート
アクティブ・ラーニング（授業回数）
8回
備考（受講要件）
特になし。
実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード

科目名

社会的コミュニケーション論

英語名

Social Communication Theory

開講学科

コース

法経社会学科地域社会コース 新旧共通

授業科目区分

授業形態

単位数

開講期

法経社会・地域社会コース
/ 選択科目

講義

2単位

2～4年

担当教員

連絡先 (TEL)

連絡先 (MAIL)

桑原司

kuwa3@leh.kagoshima-u.ac.jp

共同担当教員

前後期

後期

授業概要

社会学とは、「個人と社会」という視点から「自明性の剥奪」という研究姿勢をつうじて、日常世界を構成するさまざまな現象にアプローチしようとする学問である。

本講義では、「コミュニケーション」就中「社会的コミュニケーション」という現象をテーマに取り上げ、まずその自明性と問題点を指摘し、次いでその問題点を克服しうるコミュニケーション観及び人間観を社会学等の観点から考察し、最後にそのコミュニケーション観に立脚したコミュニケーション理論を「シンボリック相互作用論」(Symbolic Interactionism)の視座と方法を用いて構築する。

学修目標

1. 常識的なコミュニケーション観の特徴と問題点について理解する。
2. 社会的なコミュニケーション観及び人間観の特徴について理解する。
3. 社会的なコミュニケーション理論について理解する。

授業計画

授業計画

第1回：ガイダンス

第2回：コミュニケーションの自明性

第3回：2つの人間観

第4回：情報とは何か

第5回：二つのコミュニケーション観（後藤将之・宝月誠）

第6回：シンボリック相互作用論の3つの根本前提（ブルーマー）

第7回：シンボリック相互作用論の存在論的前提

第8回：相互作用と合意：前編

第9回：相互作用と合意：後編

第10回：準拠集団論（シブタニ）

第11回：自己呈示論（ゴフマン／安藤清志）

第12回：自己呈示の諸類型（釈明・セルフハンディキャッピング）

第13回：自己呈示の諸類型（栄光浴）

第14回：自己呈示の諸類型（防衛的自己呈示と主張的自己呈示）

第15回：総括

第16回：期末試験

授業外学習（予習・復習）

授業中に適宜指導。

教科書

なし。

参考書

後藤将之（1999）『コミュニケーション論』中公新書。
 桑原司（2000）『社会過程の社会学』[<https://archive.fo/SkJui>]。
 船津衛・安藤清志編（2002）『自我・自己の社会心理学』北樹出版。
 伊藤勇・徳川直人編（2002）『相互行為の社会心理学』北樹出版。

成績の評価基準

期末試験（100％）

オフィスアワー

授業後

アクティブ・ラーニング

アクティブ・ラーニング（その他の内容）

アクティブ・ラーニング（授業回数）

備考（受講要件）

- ・この授業は「情報社会論」の振替科目である。既に情報社会論を修得している学生は履修できない。
- ・この授業は「社会問題と社会意識」への導入科目である。「社会問題と社会意識」を受講予定の学生は、この授業を履修することを強く勧める。

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
科目名			
コミュニティ論			
英語名			
開講学科		コース	
法経社会学科地域社会コース 新旧共通			
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会・地域社会コース / 選択科目	講義	2単位	3～4年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
横田尚俊			
共同担当教員		前後期	
なし。		前期	
授業概要			
「災害とコミュニティ」を主テーマに設定した上で、災害に対する人々や集団・組織の対応行動（情報伝達、避難行動、愛他行動、社会的支援）、災害の地域社会（コミュニティ）に対するインパクトなど、災害の社会過程をめぐるテーマに検討を加えるとともに、災害社会学の基本的な視点や研究枠組みについて説明する。			
学修目標			
1. 災害社会学の基本的視座や概念、研究方法などを学び、災害の特質を現代社会の構造・変動との関連で理解することができる。			
2. 現代社会の脆弱性、および災害に強いコミュニティ・社会をどう構築していくかという課題について考察できる。			
3. 災害と現代社会をめぐる諸問題について、自主的に資料・データを調べたり、参考文献を渉猟したりすることができる。			
4. 災害と現代社会をめぐる諸問題を、レポートなどにおいて的確に表現できる。			
授業計画			
第1回 イン트로ダクション：現代日本の災害			
第2回 災害をどうとらえるか（1） 災害の社会学的定義			
第3回 災害をどうとらえるか（2） 都市災害の特質			
第4回 災害研究の諸相：災害の社会学・社会心理学の展開			
第5回 災害研究の枠組み			
第6回 災害警報と人間行動			
第7回 災害と集合行動			
第8回 災害と避難行動			
第9回 避難行動の特質			
第10回 避難行動に影響を及ぼす諸要因：災害下位文化、家族・地域社会と避難行動			
第11回 災害と援助行動・愛他行動			
第12回 愛他行動としてのボランティア活動、災害ボランティア・NPOのネットワーク化			
第13回 災害と社会的支援：自治体間支援における創発ガバナンス型支援の意義			
第14回 災害とコミュニティ			
第15回 コミュニティと災害回復力			
授業外学習（予習・復習）			
（予習）現代日本における災害事例やその被害の特徴、災害をめぐるトピックなどについて、内閣府防災情報のページ（HP）や、最近の防災白書などによって調べておく。			
（復習）講義の中で紹介した参考文献をできるだけ読んでみる。			
教科書			
テキストを使用しない。配付資料と板書により授業を進める。			
参考書			
大矢根淳・浦野正樹ほか編『災害社会学入門』弘文堂、2007年			
浦野正樹・大矢根淳ほか編『復興コミュニティ論入門』弘文堂、2007年			
岩崎信彦・鶴飼孝造ほか編『阪神・淡路大震災の社会学』（全3巻）昭和堂、1999年（昭和堂のHPにて無料公開			

されています。 <http://www.showado-kyoto.jp/news/> 2012.01.26と01.27のニュースを参照)
 その他の参考文献については、講義の中で適宜紹介する。

成績の評価基準

「期末試験」(80%)、「小レポート(複数回)」(20%)

オフィスアワ -

各時間の終了後。

アクティブ・ラーニング

学習の振り返り(ミニッツ・ペーパー等); その他;

アクティブ・ラーニング(その他の内容)

ビデオ・DVD映像などを積極的に活用し、視聴した感想や浮かんだ疑問点などを受講生に報告してもらう予定である。

アクティブ・ラーニング(授業回数)

全15回中3回程度

備考(受講要件)

特になし。

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
科目名			
スポーツ施設論			
英語名			
Study of Sport Facilities			
開講学科		コース	
法経社会学科地域社会コース 新旧共通			
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会・地域社会コース / 選択科目	講義	2単位	3～4年
担当教員	連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)	
前田博子	0994-46-4964	maeda@nifs-k.ac.jp	
共同担当教員		前後期	
竹下俊一、北村尚浩、隅野美砂輝		後期	
授業概要			
<p>スポーツ経営学，スポーツ社会学の視点から，スポーツ施設に関わるさまざまなトピックスを取り上げ，現状と課題について考究していく．</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スポーツ施設に関する基礎的知識として施設の分類，利用者の実態，運営方法など， ・スポーツ施設の活用として，スポーツイベント，スポーツ産業，スポーツツーリズムなど ・スポーツを取り巻く周辺環境として，スポーツ振興の法律，政策，スポーツボランティアなど 			
学修目標			
生涯スポーツ社会に向けて，さまざまなスポーツ施設について幅広い知識を身に付け，施設の利用者としてだけでなく，運営者として関わることにしても理解すること．			
授業計画			
第1回 スポーツ施設論についてのアウトライン（前田） 第2回 スポーツ施設の分類とスポーツ施設政策（前田） 第3回 スポーツ基本法とスポーツ基本計画（北村） 第4回 スポーツ基本計画からみる地域スポーツ振興（北村） 第5回 スポーツマネジメントの概念 スポーツ施設の設置（竹下） 第6回 スポーツ施設と用具（竹下） 第7回 スポーツ施設の運営（竹下） 第8回 世界のスポーツ施設（竹下） 第9回 日本のスポーツ産業の概要、トレンド（隅野） 第10回 メガスポーツイベント（隅野） 第11回 プロスポーツ（隅野） 第12回 総合型地域スポーツクラブとは（北村） 第13回 スポーツツーリズムと地域振興（北村） 第14回 スポーツに関わるボランティア（前田） 第15回 NPOによるスポーツ施設の管理運営（前田）			
授業外学習（予習・復習）			
授業の際に指示する			
教科書			
なし			
参考書			
授業中に紹介する			
成績の評価基準			
担当者ごとにレポートを課す 25点×4名の合計で評価する			
オフィスアワー			
アクティブ・ラーニング			
グループワーク；学習の振り返り（ミニッツ・ペーパー等）；			
アクティブ・ラーニング（その他の内容）			

受講生の知識や体験を基にした発言を促し、講義内容に反映させる。ミニッツ・ペーパー等を課し、グループディスカッションなども予定している。

アクティブ・ラーニング（授業回数）

備考（受講要件）

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
科目名			
比較地域社会論			
英語名			
Comparative Study of Regional Societies			
開講学科		コース	
法経社会学科地域社会コース 新旧共通			
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会・地域社会コース /経済コース/選択科目	講義	2単位	3～4年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
中島大輔		099-285-8895	nakajima@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
		後期	
授業概要			
<p>近年、まちづくりや公共交通政策などの観点から、ヨーロッパ、とりわけ地方分権の進んだドイツの中小都市が日本の自治体のモデルとして注目を集めている。しかしドイツをはじめとするヨーロッパの都市と日本の都市を比較考察する場合、都市の成立・発展という歴史的プロセスだけでなく、都市を取り巻く政治制度や社会的環境においても両者の間には大きな相違がある。その一つが欧州連合（EU）という枠組みである。</p> <p>この授業ではまず第二次大戦後の欧州統合の経緯を辿りながら、国境を越えた統合（拡大・深化）がどのように進展してきたかを紹介し、欧州連合（EU）の機構組織や意思決定の仕組み、EUの抱える課題を概説する。</p> <p>その上で公共交通、旧市街の保全、環境対策などで先進的な取り組みを行っているヨーロッパの都市の現状を紹介し、私たちの自治体との比較考察を試みたい。</p> <p>なお毎回、授業の最後で授業内容に関するレポート提出を求める。</p>			
学修目標			
<ul style="list-style-type: none"> ・ 欧州連合（EU）の機構組織と国境を越えた統合の状況を理解する ・ ヨーロッパの都市の公共交通と旧市街の保全や環境対策などの状況を理解する ・ 日本の都市のまちづくりや公共交通政策を比較考察するための視座を獲得する 			
授業計画			
<p>第1回：オリエンテーション、参考文献紹介</p> <p>第2回：欧州連合（EU）とは何か？：欧州統合の思想、第二次大戦後の統合の歩み</p> <p>第3回：欧州統合の歩み（1）：ベルリンの壁崩壊と欧州連合の成立</p> <p>第4回：欧州統合の歩み（2）：EUの東方拡大とシェンゲン圏拡大</p> <p>第5回：欧州連合の現在：国境を越える生活圏（動画「激動のEU」より）</p> <p>第6回：欧州統合の中の都市（1）：ストラスブール（フランス）の旧市街保全</p> <p>第7回：欧州統合の中の都市（2）：ストラスブールの交通まちづくり</p> <p>第8回：欧州統合の中の都市（3）：フライブルク（ドイツ）の旧市街保全</p> <p>第9回：欧州統合の中の都市（4）：フライブルクの交通まちづくり</p> <p>第10回：欧州統合の中の都市（5）：フライブルクの商店街保護政策</p> <p>第11回：欧州統合の中の都市（6）：フライブルクのソーシャルエコロジー地区ヴォーバン</p> <p>第12回：欧州統合の中の都市（7）：ドイツの都市の樹木保護条例（マンハイムの例など）</p> <p>第13回：欧州統合の中の都市（8）：公共交通の無料化と自転車の活用：ダンケルク（フランス）、ハウテン（オランダ）</p> <p>第14回：日本の都市の公共交通とまちづくり</p> <p>第15回：まとめ</p>			
授業外学習（予習・復習）			
<p>受講生にはヨーロッパの政治的・社会的情勢について常に新聞等で情報を入手することを求める。</p> <p>また10月11日から31日に「ベルリンの壁崩壊30周年記念パネル展」を中央図書館で開催し、10月31日（木）5限に「ベルリンの壁崩壊特別講演会」を実施する予定である。受講生には可能な限りこれらへの参加を求めたい。</p>			
教科書			
なし			

参考書

藤井良弘『EUの知識』（第16版）日経文庫
 遠藤乾『欧州複合危機』中公新書
 辰巳浅嗣（編）『EU 欧州統合の現在』（創元社）
 ヴァンソン藤井由美『ストラスブールのまちづくり』（学芸出版社）
 村上敦『フライブルクのまちづくり』（学芸出版社）
 村上敦『ドイツのコンパクトシティはなぜ成功するのか』（学芸出版社）
 そのほか授業中に紹介する。

成績の評価基準

毎回の授業のレポートを50%、期末試験を50%とし、その合計で評価する。

オフィスアワー

火曜4限（これ以外の時間も対応しますので、メールで連絡してください）。

アクティブ・ラーニング

学習の振り返り（ミニッツ・ペーパー等）；

アクティブ・ラーニング（その他の内容）

アクティブ・ラーニング（授業回数）

14回

備考（受講要件）

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
科目名			
演習			
英語名			
Seminar			
開講学科		コース	
法経社会学科地域社会コース 新旧共通		地域社会コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会・地域社会コース / 必修科目	演習	2単位	2年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
農中至		099-285-7785	nounaka@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
なし		後期	
授業概要			
社会教育・生涯学習研究の最新動向を中心に検討し、卒業研究に向けた基礎的な学習の推進および研究姿勢の体得を進めます。文献講読を主とし、最新の研究理解を目指します。			
学修目標			
<ul style="list-style-type: none"> ・社会教育・生涯学習研究の最新動向をつかむこと ・社会教育・生涯学習研究の方法・課題を理解すること 			
授業計画			
1. オリエンテーション 2. 社会教育・生涯学習研究はなにを主題とするのか 3. 社会教育・生涯学習研究はだれにとって意味があるのか 4. 社会教育・生涯学習研究はどのような社会構想を有するのか 5. 社会教育・生涯学習研究の課題とはなにか 6. 社会教育・生涯学習研究の可能性とはなにか 7. 社会教育・生涯学習研究はなぜ必要なのか 8. 社会教育・生涯学習研究の今日的な課題とはなにか 9. 社会教育・生涯学習研究の最新テーマ-子ども編 10. 社会教育・生涯学習研究の最新テーマ 青年編 11. 社会教育・生涯学習研究の最新テーマ 成人編 12. 社会教育・生涯学習研究の最新テーマ 高齢者編 13. 社会教育・生涯学習研究の最新テーマ 女性問題・ジェンダー編- 14. 社会教育・生涯学習研究の最新テーマ マイノリティ編 15. 社会教育・生涯学習研究の最新テーマ 人権問題編			
授業外学習 (予習・復習)			
適宜指示			
教科書			
適宜指示			
参考書			
適宜指示			
成績の評価基準			
授業中レポート60%・議論・討論への貢献度30%・小レポート10%			
オフィスアワ -			
随時対応			
アクティブ・ラーニング			
グループワーク; ディベート; プレゼンテーション; 学習の振り返り (ミニッツ・ペーパー等);			
アクティブ・ラーニング (その他の内容)			
アクティブ・ラーニング (授業回数)			

15回中10回以上

備考（受講要件）

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード

科目名

社会教育実践論

英語名

Practical Study of Social Education

開講学科

法経社会学科地域社会コース 新旧共通

コース

地域社会コース

授業科目区分

法経社会・地域社会コース
/ 選択科目

授業形態

講義

単位数

2単位

開講期

2～3年

担当教員

金子満・農中至

連絡先 (TEL)

099-285-7603

連絡先 (MAIL)

nounaka@leh.kagoshima-u.ac.jp

共同担当教員

小栗有子、金子満、酒井佑輔

前後期

後期

授業概要

社会教育実践の歴史と現状について学び、戦後の社会教育の発展過程ともたらされた成果、残された課題について理解します。戦後の社会教育実践は社会の発展とともにさまざまに変化してきました。なかでも地域課題解決に向けた住民主体のとりくみからは、今日学ぶべき点が多く存在します。たとえば、現代社会教育実践・活動の事例としては長野県下の事例が多く取り上げられます。この「長野モデル」の分析を手はじめに、北海道、東北、関東、中部、近畿、中国・四国、九州、沖縄などの全国各地の事例から社会教育の実践分析を進めます。またそれぞれの実践が生起した歴史的な文脈を整理し、その理解を進めます。

学修目標

社会教育の実践にはどのようなタイプのものが存在するのか、その類型化と特色の抽出・分析ができるようになることを目指します。さらに有効な実践をつくるうえでなにが重要になってくるのか、その理念をつかむことができるようになることを目指します。最後に、住民自治や住民の参加・参画がなぜ不可欠なのか自分なりの視点で説明できるようになることを目指します。

授業計画

1. オリエンテーション
2. 社会教育活動と社会教育実践とは？
3. 戦後社会教育の展開
4. 戦後社会教育の展開とその地域的多様性
5. 戦後社会教育の展開と都市・農村格差
6. 1950年代・社会教育実践と方法
7. 1960年代・社会教育実践の課題と方法
8. 1970年代・社会教育実践の困難と課題
9. 1980年代・社会教育実践の到達点と臨界
10. 1990年代・生涯学習と社会教育実践
11. 2000年代・不安定化する社会における社会教育実践
12. 民主的社会教育実践とはなんだったのか？
13. 戦後社会教育実践は地域社会になにをもたらしたのか？
14. 社会教育実践の価値はどのように言語化できるのか？
15. 地域づくり・地方創生と社会教育実践はどのように付き合っていけばよいのか？（確認小試験を含む）

授業外学習（予習・復習）

社会教育にとどまらず、戦後の日本の地域住民はどのような教育を受け、学びを深めてきたのか考え、理解してください。社会教育実践の展開と社会教育の条件整備には地域差があり、一概に全国的な到達点を示すのは困難です。社会的文脈に照らして、なにが優良で、価値があり、見込みのある実践といえるのかを判断するために必要な情報を積極的に収集するようにしてください。

教科書

授業中に提示

参考書

授業中に提示
成績の評価基準
授業後の小レポート(50%)・確認試験(50%)
オフィスアワー
メール等で事前に連絡があれば随時対応
アクティブ・ラーニング
グループワーク; ディベート;
アクティブ・ラーニング(その他の内容)
アクティブ・ラーニング(授業回数)
15回中8回以上
備考(受講要件)
社会教育主事資格取得を強く希望するもの。 社会教育概論および生涯教育概論を履修し、 その他社会教育主事資格関連科目を履修済みのもの。
実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
FHS-CCD2301			
科目名			
演習			
英語名			
Seminar			
開講学科		コース	
法経社会学科地域社会コース 新旧共通		地域社会コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会・地域社会コース / 必修科目	演習	2単位	2～4年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
井原慶一郎		099-285-8877	ihara@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
		後期	
授業概要			
「アート・マネジメント」の理論と実践を学ぶ。			
学修目標			
<ul style="list-style-type: none"> ・アートマネジメントの理論 ・ファシリテーション ・企画の立て方 ・デザインの基本 ・広報・PRの仕方 			
授業計画			
第1回 イン트로ダクション			
第2回～第5回 「アート・マネジメント」の理論			
第6回～第14回 「アート・マネジメント」の実践			
第15回 まとめ			
授業外学習 (予習・復習)			
[予習] 普段からアートやカルチャーに関心を持ち、関連する記事などを見つけたら保存しておく。			
[復習] 出された課題を行う。			
授業外のイベントにも積極的に参加する。			
教科書			
プリントを配布する。			
参考書			
適宜紹介する。			
成績の評価基準			
授業への取り組み態度による。			
オフィスアワ -			
木曜日・5時限・研究室 (共通教育棟2号館2階)			
アクティブ・ラーニング			
グループワーク; フィールドワーク;			
アクティブ・ラーニング (その他の内容)			
アクティブ・ラーニング (授業回数)			
15回中14回			
備考 (受講要件)			
特になし。			
実務経験のある教員による実践的授業			

ナンバリングコード			
FHS-CCD2301			
科目名			
演習			
英語名			
Seminar			
開講学科		コース	
法経社会学科地域社会コース 新旧共通		地域社会コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会・地域社会コース / 必修科目	演習	2単位	2～4年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
片桐資津子			katagiri@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
なし		後期	
授業概要			
ゼミでは、社会的視点を身につけてもらいます。おもに「卒論の執筆準備」と「討論の徹底訓練」の2つをおこないます。そのため、具体的には、つぎの3つの学問的な問いに向き合います。 第1に、マクロ的観点から、日本社会における少子高齢化と人口減少化といった社会現象は、いかなる歴史的経緯により引き起こされたのか。第2に、そのような歴史的経緯のなかで、ミクロ的観点からみて、個人の価値観・ライフスタイルと深く関連する「幸福 (Happiness, Well-being)」は、どのように変化してきたのか。第3に、マクロとミクロを媒介する集団や組織の観点から、「集団の創発性 (Emergence)」と「組織の生産性 (Productivity)」は、社会や個人に対していかなる働きをしてきたのか。こういった3つの学問的な問いを念頭に置いて、社会学を学んでいきます。			
学修目標			
(1) 読書の習慣を身につける (2) 議論の作法を知り、実践する (3) 時事問題に敏感になる (4) 卒業論文の下準備をする (5) グループワークに積極的にかかわる			
授業計画			
第 1回 オリエンテーション 第 2～15回 テキストを素材にレジュメ発表と討論 第16回 まとめ			
授業外学習 (予習・復習)			
〔予習〕 輪読するテキストを精読する。気になる新聞記事を選定する。 〔復習〕 manabaに更新された資料等を閲覧し、関連する知識の定着をはかる。			
教科書			
講義時まで知らせる。			
参考書			
適宜、授業中に紹介する。			
成績の評価基準			
授業への取り組み態度 (100%)			
オフィスアワ -			
木曜日の4時限目、研究室にて。			
アクティブ・ラーニング			
グループワーク; ディベート; 学習の振り返り (ミニッツ・ペーパー等); アクティブ・ラーニング (その他の内容)			
アクティブ・ラーニング (授業回数)			
15回中15回			
備考 (受講要件)			
なし			

ナンバリングコード			
FHS-CCD2301			
科目名			
演習			
英語名			
Seminar			
開講学科		コース	
法経社会学科地域社会コース 新旧共通		地域社会コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会・地域社会コース / 必修科目	演習	2単位	2～4年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
桑原司		099-285-7581	kuwa3@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
		後期	
授業概要			
ゼミ報告書の作成。 英文読解力を向上させる。 特殊研究のテーマの模索(3年生)。			
学修目標			
論文の書き方(起承転結・文体・出典挙示etc)を体得する。 英字新聞を読めるようになる。 特殊研究のテーマの決定(3年生)。			
授業計画			
第1回 ガイダンス			
第2回 報告書を作成するための、資料の探索、分担を決めた上での資料の解読・整理。 2回から3回の中間報告会の実施。 報告書の作成と公開(Web公開)。			
第3回 データ収集			
第4回 データ収集			
第5回 データ収集			
第6回 データ収集			
第7回 中間報告			
第8回 データ収集			
第9回 データ収集			
第10回 データ収集			
第11回 データ収集			
第12回 仮報告会			
第13回 発表指導ほか			
第14回 報告書の精査			
第15回 報告会(=オープンゼミ) 次年度のゼミ研究テーマの決定。 次期役員の決定。 役員業務の引き継ぎ作業。 ゼミ・オリエンテーション(演習紹介)出席メンバーの選定。			
授業外学習(予習・復習)			
必要に応じて適宜指示をする。			
教科書			
ゼミ長より指示有り。			
参考書			
適宜指示。			
成績の評価基準			

授業への取り組み態度。

オフィスアワ -

授業後

アクティブ・ラーニング

グループワーク; プレゼンテーション;

アクティブ・ラーニング (その他の内容)

アクティブ・ラーニング (授業回数)

15回

備考 (受講要件)

<http://ecowww.leh.kagoshima-u.ac.jp/staff/kuwabara/20180101/Kuwabara%20Seminar.htm>

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
FHS-CCD2301			
科目名			
演習			
英語名			
Seminar			
開講学科		コース	
法経社会学科地域社会コース 新旧共通		地域社会コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会・地域社会コース / 必修科目	演習	2単位	2～4年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
片桐資津子			katagiri@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
なし		前期	
授業概要			
ゼミでは、おもに「卒論の執筆準備」と「グループ活動への貢献と業績づくり」の2つをおこないます。そのため、具体的には、つぎの3つの学問的な問いに向き合います。 第1に、マクロ的観点から、日本社会における少子高齢化と人口減少化といった社会現象は、いかなる歴史的経緯により引き起こされたのか。第2に、そのような歴史的経緯のなかで、ミクロ的観点からみて、個人の価値観・ライフスタイルと深く関連する「幸福 (Happiness, Well-being)」は、どのように変化してきたのか。第3に、日本、米国、中国の3カ国の国際比較を念頭に、グローバル化・複雑化・AI化が進んできた21世紀以降、ポストモダンの観点から、家庭・地域・職場における「共同性」と「関係性」のあり方はどのように変化しているのか。こういった3つの学問的な問いを念頭に置いて、社会学を学んでいきます。			
学修目標			
(1) 議論の作法を身につけ、グループ活動に貢献する。 (2) 時事問題に触れ、日本社会の仕組みを知る。 (3) Push the Boundariesの精神で、卒業論文における研究の問いを探す。			
授業計画			
第1回 オリエンテーション 第2～15回 テキストを素材にレジュメ発表と討論 第16回 まとめ			
授業外学習 (予習・復習)			
〔予習〕 輪読するテキストを精読する。気になる新聞記事を選定する。 〔復習〕 ゼミ日誌を作成する。また、manabaに更新された資料等を閲覧し、関連する知識の定着をはかる。			
教科書			
講義時まで知らせる。			
参考書			
適宜、授業中に紹介する。			
成績の評価基準			
授業への取り組み態度 (100%)			
オフィスアワー			
火曜日の4時限目、研究室にて。			
アクティブ・ラーニング			
グループワーク; ディベート; 学習の振り返り (ミニッツ・ペーパー等); アクティブ・ラーニング (その他の内容)			
アクティブ・ラーニング (授業回数)			
15回中15回			
備考 (受講要件)			
なし			
実務経験のある教員による実践的授業			

ナンバリングコード			
FHS-CCD2301			
科目名			
演習			
英語名			
Seminar			
開講学科		コース	
法経社会学科地域社会コース 新旧共通		地域社会コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会・地域社会コース / 必修科目	演習	2単位	2～4年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
桑原司		099-285-7581	k8716665@kada i . jp
共同担当教員		前後期	
なし		前期	
授業概要			
<p>自我論関連の文献を輪読（レジュメ化・発表・質疑・討論）する。 英文読解力を向上させる。 特殊研究のテーマを模索する。</p>			
学修目標			
<p>文献を「読み」、「レジュメ化」し、他人にわかりやすく「説明する」という、基本的なプレゼンテーション能力を身につける。 英字新聞を読めるようになる。 特殊研究のテーマを確定する（3年生）。</p>			
授業計画			
<p>第1回 ガイダンス 指定文献の輪読ほか。 3年生による特殊研究構想発表とその指導。 英字新聞の読了を毎回行う。</p> <p>第2回 自分とは何か 第3回 鏡に映った自我 第4回 自我の社会性 第5回 親密な他者 / 疎遠な他者 第6回 役割取得 第7回 ホモ・ソシオロジクス 第8回 役割コンフリクト 第9回 ラベリング理論 第10回 自己表現 第11回 変容する自我 第12回 見せる自分 / 見せない自分 / 見られる自分 第13回 印象操作 第14回 役割距離と役割形成 第15回 社会的構築主義</p>			
授業外学習（予習・復習）			
必要に応じて適宜指示をする。			
教科書			
船津衛（2011）『自分とは何か：自我の社会学入門』恒星社厚生閣。			
参考書			
適宜指示。			
成績の評価基準			
授業への取り組み態度。			
オフィスアワ -			

授業後
アクティブ・ラーニング
ディベート; プレゼンテーション;
アクティブ・ラーニング (その他の内容)
アクティブ・ラーニング (授業回数)
14回
備考 (受講要件)
http://ecowww.leh.kagoshima-u.ac.jp/staff/kuwabara/20180101/Kuwabara%20Seminar.htm
実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
FHS-CCD2301			
科目名			
演習			
英語名			
Seminar			
開講学科		コース	
法経社会学科地域社会コース 新旧共通		地域社会コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会・地域社会コース / 必修科目	演習	2単位	2～4年
担当教員	連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)	
井原慶一郎	099-285-8877	ihara@leh.kagoshima-u.ac.jp	
共同担当教員	前後期		
	前期		
授業概要			
「アート・マネジメント」の理論と実践を学ぶ。			
学修目標			
<ul style="list-style-type: none"> ・アートマネジメントの理論 ・ファシリテーション ・企画の立て方 ・デザインの基本 ・広報・PRの仕方 			
授業計画			
第1回 インTRODクシヨン			
第2回～第5回 「アート・マネジメント」の理論			
第6回～第14回 「アート・マネジメント」の実践			
第15回 まとめ			
授業外学習 (予習・復習)			
[予習] 普段からアートやカルチャーに関心を持ち、関連する記事などを見つけたら保存しておく。			
[復習] 出された課題を行う。			
授業外のイベントにも積極的に参加する。			
教科書			
プリントを配布する。			
参考書			
適宜紹介する。			
成績の評価基準			
授業への取り組み態度による。			
オフィスアワ -			
金曜日・3時限・研究室 (共通教育棟2号館2階)			
アクティブ・ラーニング			
グループワーク; フィールドワーク;			
アクティブ・ラーニング (その他の内容)			
アクティブ・ラーニング (授業回数)			
15回中14回			
備考 (受講要件)			
特になし。			
実務経験のある教員による実践的授業			

ナンバリングコード			
FHS-CCD2301			
科目名			
演習			
英語名			
Seminar			
開講学科		コース	
法経社会学科地域社会コース 新旧共通		地域社会コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会・地域社会コース / 必修科目	演習	2単位	2～4年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
中島大輔		099-285-8895	nakajima@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
		前期	
授業概要			
<p>近年まちづくりや公共交通政策、歴史景観の保護などの観点から、ドイツの旧市街が注目を集めている。確かにドイツでは小さな自治体でも総じて自立性が高く、基本的な都市機能も充実しており、旧市街は美しく活気に満ちているケースが多い。</p> <p>しかしドイツの事例がそのまま日本のまちづくり等に当てはまるわけではない。そもそも都市の成り立ちや市民意識、行政や法制度などにおいて、両国の間には大きな相違がある。</p> <p>この授業では北ドイツのハンザ都市の800年の街並みの変化を扱った絵本を読み進めながら、ドイツの都市がどのように成立し、時代ごとにどのように展開していったかを街並みの推移から辿る。受講生には担当する時代の街並みについて、図版と文章からその特徴を読み解き、報告（プレゼンテーション）してもらう。その際、同じ時代の日本の都市や社会との比較・考察も求める。</p> <p>また、テキスト講読と並行し、各自任意のドイツの中小都市について、参考文献やネット情報を用いて歴史的旧市街の特徴や都市機能、公共施設・商業施設を調査し、学期末に報告してもらう。</p>			
学修目標			
<ul style="list-style-type: none"> ・ドイツの都市の成り立ちと中世から近代に至る街並みの様式的特徴を理解する ・ドイツの旧市街の歴史的、社会的、文化的特徴を理解する ・旧市街の保全と活用に関するドイツと日本の相違を理解する 			
授業計画			
<p>第1回：オリエンテーション、参考文献紹介</p> <p>第2回：「都市が生まれる」（1176年）</p> <p>第3回：「大火災」（1276年）</p> <p>第4回：「皇帝の入城」（1376年）</p> <p>第5回：「トーアシュトラッセの日常」（1476年）</p> <p>第6回：「刑場への行進」（1576年）</p> <p>第7回：「冬の日」（1676年）</p> <p>第8回：「穏やかな夏の夕べ」（1776年）</p> <p>第9回：「新しい時代の幕開け」（1876年）</p> <p>第10回：「不穏な時代」（1926年）</p> <p>第11回：「悲惨な戦争が終わって」（1946年）</p> <p>第12回：「トーアシュトラッセの交通渋滞」（1966年）「最後の古い建物の取り壊し」（1976年）</p> <p>第13回：「個性のない歩行者ゾーン」（現在）「人々が楽しく集う場所」（現在）：報告と質疑応答</p> <p>第14回：ドイツ中小都市調査報告（1）</p> <p>第15回：ドイツ中小都市調査報告（2）</p> <p>*いずれの回も報告に続けて質疑応答を行う。</p>			
授業外学習（予習・復習）			
授業外でもテキストの担当章ならびにドイツの都市について参考文献等を用いて調べることを求める。			
教科書			
H.J.ドレーガー『トーアシュトラッセ 街並みに見るハンザ都市の歴史』（朝日出版社）2013年			
参考書			

宇都宮浄人『地域再生の戦略』（ちくま新書）、村上敦『フライブルクのまちづくり』（学芸出版社）、片野優『ここが違う、ヨーロッパの交通政策』（白水社）他、適宜授業中に紹介する。

成績の評価基準

テキストに関する理解と取り組み（報告と質疑応答）を50%、ドイツ中小都市調査（報告と質疑応答）を50%とし、その総合で評価する。

オフィスアワ -

火曜 4 限

アクティブ・ラーニング

プレゼンテーション；

アクティブ・ラーニング（その他の内容）

アクティブ・ラーニング（授業回数）

16回中10回

備考（受講要件）

9月上旬から中旬に10日前後の「ヨーロッパ社会研修」を予定している。ただし参加希望者が一定数に満たない場合、あるいは現地の社会情勢など諸般の事情で実施を見送る場合もある。

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
科目名			
演習			
英語名			
Seminar			
開講学科		コース	
法経社会学科地域社会コース 新旧共通		地域社会コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会・地域社会コース / 必修科目	演習	2単位	2～4年
担当教員	連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)	
酒井佑輔	099-285-7292	sakai@leh.kagoshima-u.ac.jp	
共同担当教員	前後期		
	後期		
授業概要			
社会教育と地域づくりの理論と実践を学ぶ。			
学修目標			
社会教育と地域づくりの理論と実践を理解する。			
授業計画			
第1回：ガイダンス 第2回～第14回：グループディスカッションと発表 第15回：総括			
授業外学習 (予習・復習)			
適宜指示をします。			
教科書			
適宜指示をします。			
参考書			
適宜指示をします。			
成績の評価基準			
授業への参加度 (グループディスカッションへの参加・貢献度、発表等を総合的に判断します)			
オフィスアワ -			
随時受け付けます。			
アクティブ・ラーニング			
グループワーク; ディベート; フィールドワーク; プレゼンテーション; 学習の振り返り (ミニッツ・ペーパー等); その他;			
アクティブ・ラーニング (その他の内容)			
全て			
アクティブ・ラーニング (授業回数)			
全て			
備考 (受講要件)			
実務経験のある教員による実践的授業			

ナンバリングコード			
科目名			
演習			
英語名			
Seminar			
開講学科		コース	
法経社会学科地域社会コース 新旧共通		地域社会コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会・地域社会コース / 必修科目	演習	2単位	2～4年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
本田 豊洋		099-285-8872	t-honda@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
		後期	
授業概要			
グループ学習やまちづくり関係事業への参加等を通じて、課題解決能力及びコミュニケーション能力を高めるとともに、自治体政策について理解を深める。			
学修目標			
1 論理的に考え、相手の主張を的確に理解し、自分の意見を分かりやすく伝えることにより、質の高い対話を行うことができる。			
2 自治体政策について現状や課題等を理解し、解決策を提示できる。			
3 お互いに協力しながら、積極的に組織やプロジェクトの運営ができる。			
授業計画			
第1回	ガイダンス		
第2回～第14回	発表と討論		
第15回	まとめ		
フィールドワークなどを適宜実施する。			
授業外学習 (予習・復習)			
必要に応じて適宜指示する。			
教科書			
必要に応じて適宜指示する。			
参考書			
必要に応じて適宜指示する。			
成績の評価基準			
受講態度、発表内容、ゼミ活動への貢献度などで総合的に評価する。			
オフィスアワー			
他の予定が入っていない時はなるべく対応するので、事前にメール等で問い合わせること。			
アクティブ・ラーニング			
グループワーク; ディベート; フィールドワーク; プレゼンテーション;			
アクティブ・ラーニング (その他の内容)			
アクティブ・ラーニング (授業回数)			
15回中15回			
備考 (受講要件)			
実務経験のある教員による実践的授業			

ナンバリングコード			
科目名			
演習			
英語名			
Seminar			
開講学科		コース	
法経社会学科地域社会コース 新旧共通		地域社会コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会・地域社会コース / 必修科目	演習	2単位	2～4年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
小栗有子		099-285-7293	oguri@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
		後期	
授業概要			
<p>本演習は、卒論の準備期間として位置づけ、研究のための基本姿勢とスキルを身に付けます。演習は、研究室として探究するテーマに関する学術誌等の論文を中心に輪読し、時事問題も適宜取り上げながら、知識を深め、論理的に考え、自己表現することの訓練を行います。また、必要に応じて机上で学んだことを現場に出向き検証し、学習支援のための対話技術を習得する機会をつくります。</p> <p>演習のテーマは、地域における人の育ちと環境です。地域の持続性や内発的發展を一方で踏まえつつ、それを創造していく主体との関係について、基礎理論、政策、現場それぞれの観点から検討していきます。演習は、縦軸にゼミ共通の課題を、横軸に個人の研究関心や研究課題を位置づけて内容を編成していきます。</p>			
学修目標			
<p>共通目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 知的好奇心をもって情報を集め、分析できるようになること ・ 獲得する知識を相互に関連づけられるようになり、視野を広げること ・ 問題の本質を捉え、論理的に思考し、表現できるようになること <p>各自に期待されること</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 各自の読む、書く、聴く、話すスキルについて、苦手な分野を克服し、得意な分野を高めること ・ 学習支援のための基礎となる対話のスキルを身につけること 			
授業計画			
<p>第1回 オリエンテーション</p> <p>第2回～第14回 文献講読・討論・グループワーク</p> <p>第15回 まとめ</p>			
授業外学習 (予習・復習)			
<ul style="list-style-type: none"> ・ 事前にテキストを精読し、レジュメを準備する ・ 関心をもった新聞記事等を持ち寄り、話題提供する ・ 研究日誌を作成する ・ その他、適宜指示する 			
教科書			
なし			
参考書			
適宜紹介する			
成績の評価基準			
<p>授業参加態度 (個人・グループ活動等) 85%</p> <p>自己評価15%</p>			
オフィスアワー			
火曜日3限目 (事前にメールで連絡してください)			
アクティブ・ラーニング			
グループワーク; ディベート; フィールドワーク; プレゼンテーション; 学習の振り返り (ミニッツ・ペーパー等);			

アクティブ・ラーニング（その他の内容）

アクティブ・ラーニング（授業回数）

15回中15回

備考（受講要件）

各自、パソコンでワードやパワーポイントの資料等が作成できる環境を確保してください。

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
科目名			
演習			
英語名			
Seminar			
開講学科		コース	
法経社会学科地域社会コース 新旧共通		地域社会コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会・地域社会コース / 必修科目	演習	2単位	2～4年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
金子満		099-285-7598	k-326@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
		後期	
授業概要			
<p>近年における、少子高齢化の急激な進展と人口減少、急速なメディアの発達による高度情報化社会の浸透など、日本の若者たちを取り巻く社会環境は目まぐるしく変化している。特に1990年代初頭の景気後退以降、若年労働市場が急速に縮小したことにより、戦後の人材選抜機能を担ってきた学校から労働市場を結ぶ制度的仕組みが機能不全を起し、安定した雇用につくことができない若者が大量に生み出される状態が今日も続いている。本演習では、こうした若者を取り巻く社会環境についての一定の理解を深めつつ、次世代の主体としての若者の存在について共に考えることをしたい。</p>			
学修目標			
<ol style="list-style-type: none"> 1、少子高齢化社会、高度情報化社会、高度消費化社会について一定の理解を深める 2、テキストを整理し、報告資料を作成する 3、共通のテーマのもとで討論ができる 4、討論をもとに自身の問題として省察し、吟味できる力をつける。 			
授業計画			
第1回 オリエンテーション 第2回 ～ 第14回 報告と討論 第15回 総括討論			
授業外学習 (予習・復習)			
【予習】次週のテキストを読む (60分)			
【復習】演習の内容を踏まえ、自分独自の視点で問題を省察する			
教科書			
授業内にて適宜指示する			
参考書			
授業内にて適宜指示する			
成績の評価基準			
発表80%、授業態度20%			
オフィスアワー			
火曜日4限 (研究室)			
アクティブ・ラーニング			
グループワーク;			
アクティブ・ラーニング (その他の内容)			
アクティブ・ラーニング (授業回数)			
13回			
備考 (受講要件)			
実務経験のある教員による実践的授業			

ナンバリングコード			
科目名			
演習			
英語名			
Seminar			
開講学科		コース	
法経社会学科地域社会コース 新旧共通		地域社会コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会・地域社会コース / 必修科目	演習	2単位	2～4年
担当教員	連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)	
酒井佑輔	099-285-7292	sakai@leh.kagoshima-u.ac.jp	
共同担当教員	前後期		
	前期		
授業概要			
社会教育 (ノンフォーマル教育) 並びに地域づくりの理論と実践を学ぶ。			
学修目標			
社会教育 (ノンフォーマル教育) 並びに地域づくりの理論と実践を学ぶ。			
授業計画			
第1回: ガイダンス			
第2回～第5回: 社会教育・地域づくりの理論			
第6回～第14回: 社会教育・地域づくりの実践			
第15回: 総括			
授業外学習 (予習・復習)			
必要に応じて適宜指示をする。			
教科書			
必要に応じて適宜指示をする。			
参考書			
必要に応じて適宜指示をする。			
成績の評価基準			
授業への取り組み程度 (グループディスカッション、フィールドワークへの参加等を総合的に判断する)			
オフィスアワ -			
メール等で事前に連絡があれば随時対応			
アクティブ・ラーニング			
グループワーク; ディベート; フィールドワーク; プレゼンテーション;			
アクティブ・ラーニング (その他の内容)			
PBL			
アクティブ・ラーニング (授業回数)			
全て			
備考 (受講要件)			
実務経験のある教員による実践的授業			

ナンバリングコード			
科目名			
演習			
英語名			
Seminar			
開講学科		コース	
法経社会学科地域社会コース 新旧共通		地域社会コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会・地域社会コース / 必修科目	演習	2単位	2～4年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
金子満		099-285-7598	k-326@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
		前期	
授業概要			
<p>近年における、少子高齢化の急激な進展と人口減少、急速なメディアの発達による高度情報化社会の浸透など、日本の若者たちを取り巻く社会環境は目まぐるしく変化している。特に1990年代初頭の景気後退以降、若年労働市場が急速に縮小したことにより、戦後の人材選抜機能を担ってきた学校から労働市場を結ぶ制度的仕組みが機能不全を起し、安定した雇用につくことができない若者が大量に生み出される状態が今日も続いている。本演習では、こうした若者を取り巻く社会環境についての一定の理解を深めつつ、次世代の主体としての若者の存在について共に考えることをしたい。</p>			
学修目標			
<ol style="list-style-type: none"> 1、少子高齢化社会、高度情報化社会、高度消費化社会について一定の理解を深める 2、テキストを整理し、報告資料を作成する 3、共通のテーマのもとで討論ができる 4、討論をもとに自身の問題として省察し、吟味できる力をつける。 			
授業計画			
第1回 オリエンテーション 第2回 ～ 第14回 報告と討論 第15回 総括討論			
授業外学習 (予習・復習)			
【予習】次週のテキストを読む (60分)			
【復習】演習の内容を踏まえ、自分独自の視点で問題を省察する			
教科書			
授業内にて適宜指示する			
参考書			
授業内にて適宜支持する			
成績の評価基準			
発表80%、授業態度20%			
オフィスアワー			
火曜日4限 (研究室)			
アクティブ・ラーニング			
グループワーク;			
アクティブ・ラーニング (その他の内容)			
アクティブ・ラーニング (授業回数)			
13回			
備考 (受講要件)			
実務経験のある教員による実践的授業			

ナンバリングコード			
科目名			
演習			
英語名			
Seminar			
開講学科		コース	
法経社会学科地域社会コース 新旧共通		地域社会コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会・地域社会コース / 必修科目	演習	2単位	2～4年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
農中至		099-285-7785	nounaka@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
なし		前期	
授業概要			
社会教育・生涯学習研究の歴史的動向を中心に検討し、卒業研究に向けた基礎的な学習の推進および研究姿勢の体得を進めます。			
学修目標			
<ul style="list-style-type: none"> ・研究・問題関心の確立 ・社会教育・生涯学習研究の歴史的動向に関する知識の修得 			
授業計画			
<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. 自己の問題関心と向き合う 3. 各人の問題関心を知り合う 4. 各人の問題関心に注意を向け合う 5. 自己の問題関心をより深める 6. 自己の問題関心に関する研究成果を探求する 7. 自己の問題関心と他者の問題関心の共通点を探る 8. 社会教育・生涯学習研究の動向と自己の問題関心の関係を探る 9. 社会教育・生涯学習研究におけるテーマの確認-子ども編 10. 社会教育・生涯学習研究におけるテーマの確認 青年編 11. 社会教育・生涯学習研究におけるテーマの確認 成人編 12. 社会教育・生涯学習研究におけるテーマの確認 高齢者編 13. 社会教育・生涯学習研究におけるテーマの確認 女性問題・ジェンダー編- 14. 社会教育・生涯学習研究におけるテーマの確認 マイノリティ編 15. 社会教育・生涯学習研究におけるテーマの確認 人権問題編 			
授業外学習 (予習・復習)			
適宜指示			
教科書			
適宜指示			
参考書			
適宜指示			
成績の評価基準			
授業中レポート60%・議論・討論への貢献度30%・小レポート10%			
オフィスアワ -			
適宜対応する			
アクティブ・ラーニング			
グループワーク; ディベート; プレゼンテーション; 学習の振り返り (ミニッツ・ペーパー等);			
アクティブ・ラーニング (その他の内容)			
アクティブ・ラーニング (授業回数)			

15回中10回以上

備考(受講要件)

なし

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
科目名			
演習			
英語名			
Seminar			
開講学科		コース	
法経社会学科地域社会コース 新旧共通		地域社会コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会・地域社会コース / 必修科目	演習	2単位	2～4年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
本田 豊洋		099-285-8872	t-honda@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
		前期	
授業概要			
グループ学習や討論を通じて課題解決能力及びコミュニケーション能力を高めるとともに、自治体政策について理解を深める。			
学修目標			
1 論理的に考え、相手の主張を的確に理解し、自分の意見を分かりやすく伝えることにより、質の高い対話を行うことができる。			
2 自治体政策について現状や課題等を理解し、解決策を提示できる。			
3 お互いに協力しながら、積極的に組織の運営ができる。			
授業計画			
第1回	ガイダンス		
第2回～第14回	発表と討論		
第15回	まとめ		
宿泊を伴う現地視察（ゼミ合宿など）を行う予定。 その他、フィールドワークなどを適宜実施する。			
授業外学習（予習・復習）			
必要に応じて適宜指示する。			
教科書			
必要に応じて適宜指示する。			
参考書			
必要に応じて適宜指示する。			
成績の評価基準			
受講態度、発表内容、ゼミ活動への貢献度などで総合的に評価する。			
オフィスアワー			
他の予定が入っていない時はなるべく対応するので、事前にメール等で問い合わせること。			
アクティブ・ラーニング			
グループワーク；ディベート；フィールドワーク；プレゼンテーション；			
アクティブ・ラーニング（その他の内容）			
アクティブ・ラーニング（授業回数）			
15回中15回			
備考（受講要件）			
実務経験のある教員による実践的授業			

ナンバリングコード			
科目名			
演習			
英語名			
Seminar			
開講学科		コース	
法経社会学科地域社会コース 新旧共通		地域社会コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会・地域社会コース / 必修科目	演習	2単位	2～4年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
小栗有子		099-295-7293	yoguri@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
		前期	
授業概要			
<p>本演習は、卒論の準備期間として位置づけ、研究のための基本姿勢とスキルを身に付けます。演習は、研究室として探究するテーマに関する学術誌等の論文を中心に輪読し、時事問題も適宜取り上げながら、知識を深め、論理的に考え、自己表現することの訓練を行います。また、必要に応じて机上で学んだことを現場に出向き検証し、学習支援のための対話技術を習得する機会をつくります。</p> <p>演習のテーマは、地域における人の育ちと環境です。地域の持続性や内発的発展を一方で踏まえつつ、それを創造していく主体との関係について、基礎理論、政策、現場それぞれの観点から検討していきます。演習は、縦軸にゼミ共通の課題を、横軸に個人の研究関心や研究課題を位置づけて内容を編成していきます。</p>			
学修目標			
<p>共通目標：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 知的好奇心をもって情報を集め、分析できるようになること ・ 獲得する知識を相互に関連づけられるようになり、視野を広げること ・ 問題の本質を捉え、論理的に思考し、表現できるようになること <p>各自に期待されること：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 各自の読む、書く、聴く、話すスキルについて、苦手な分野を克服し、得意な分野を高めること ・ 学習支援のための基礎となる対話のスキルを身につけること 			
授業計画			
<p>第1回 オリエンテーション</p> <p>第2回～第14回 文献講読・討論・グループワーク</p> <p>第15回 まとめ</p>			
授業外学習 (予習・復習)			
<ul style="list-style-type: none"> ・ 事前にテキストを精読し、レジュメを準備する ・ 関心をもった新聞記事等を持ち寄り、話題提供する ・ 研究日誌を作成する ・ その他、適宜指示する 			
教科書			
なし			
参考書			
適宜紹介する			
成績の評価基準			
<p>授業参加態度 (個人・グループ活動等) 90%</p> <p>自己評価10%</p>			
オフィスアワー			
火曜日3限目 (事前にメールで連絡してください)			
アクティブ・ラーニング			
グループワーク; ディベート; フィールドワーク; プレゼンテーション; 学習の振り返り (ミニッツ・ペーパー等);			

アクティブ・ラーニング（その他の内容）

アクティブ・ラーニング（授業回数）

15回中15回

備考（受講要件）

各自、パソコンでワードやパワーポイントの資料等が作成できる環境を確保してください。

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
科目名			
歴史のなかの社会学			
英語名			
Sociology in History			
開講学科		コース	
法経社会学科地域社会コース 新旧共通		地域社会コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会・地域社会コース / 選択科目	講義	2単位	2～4年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
城戸秀之		099-285-7611	kido@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
		後期	
授業概要			
<p>19世紀前半、近代社会の成立期に社会学は生まれた。伝統社会から近代社会へという歴史の転換期が要請した「新しい科学」として、社会学は以後歴史の変動とともに学問体系を組み立て、理論構築を進めることとなる。講義では、欧米の社会学的思考の流れを近代社会の歴史との関わりからとらえ、社会学がとらえた「時代の問題」から現代社会のあり方について考えたい。</p>			
学修目標			
<ol style="list-style-type: none"> 1. 社会学的思考の学説史の流れを理解する 2. 社会学的志向の学問的特徴を理解する 3. 社会学的思考と社会との歴史的な関わりを理解する 4. 以上をふまえて、現代社会について考察を行う 			
授業計画			
<p>第1回 はじめに 講義のガイダンス 第2回 社会学の誕生 第3回 19世紀とコントの社会学 第4回 ジンメル近代 第5回 ウェーバーと近代化 第6回 デュルケームとドレーフス事件 第7回 ファシズムとフランクフルト学派 第8回 小レポート 第9回 リースマンと「豊かな社会」 第10回 60年代の社会学の危機 第11回 ポートリヤールと消費社会 第12回 小レポート講評・課題レポートについて 第13回 ベックと「リスク社会」 第14回 バウマンと脱構造化する社会 第15回 おわりに 講義のまとめと期末試験の説明</p> <p>定期試験</p>			
授業外学習 (予習・復習)			
<p>予習：適宜指示をする 復習：復習レポートを提出することができる</p>			
教科書			
授業時間ごとに資料を配布する			
参考書			
配付資料に適宜記載する			
成績の評価基準			
期末試験、課題レポート、小レポート・復習レポートを総合して評価する			
オフィスアワー			
火曜3限			

アクティブ・ラーニング

学習の振り返り（ミニッツ・ペーパー等）；

アクティブ・ラーニング（その他の内容）

授業中の課題としての小レポート、課題図書に関する課題レポートを提出する

アクティブ・ラーニング（授業回数）

15回中13回

備考（受講要件）

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
FHS-CCE2456			
科目名			
福祉と地域の社会学（旧 福祉社会学）			
英語名			
Welfare Sociology and Community Studies			
開講学科		コース	
法経社会学科地域社会コース 新旧共通		地域社会コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会・地域社会コース / 選択科目	講義	2単位	2～4年
担当教員		連絡先（TEL）	
片桐資津子		なし	
共同担当教員		連絡先（MAIL）	
なし		katagiri@leh.kagoshima-u.ac.jp	
		前後期	
		前期	
授業概要			
<p>この講義では、日本の少子高齢化に着目し、国際比較の観点から、福祉・介護・医療の諸問題を体系的にかつ分かりやすく整理したうえで、毎回、受講生と意見交換をします。</p> <p>福祉社会学に関する既存の理論や常識について、日本、米国、中国の多様なデータから検討し、新しい仮説の構築や理論の修正のプロセスを学習してもらいます。具体的なトピックは、家族、地域社会、高齢者ケア施設、認知症ケア、年金・介護保険制度、世界の尊厳死と安楽死、障害者福祉、生涯発達、生活保護など、予定しています。</p>			
学修目標			
<p>(1) 少子高齢化研究と時事問題の関連を知る。</p> <p>(2) 社会学の概念を学ぶ。</p> <p>(3) 受講生が各自で、福祉について何らかの問題意識を抱けるようにする。</p>			
授業計画			
<p>第1回：個人の長寿化と社会の高齢化</p> <p>第2回：QOL（生活の質）研究と福祉概念</p> <p>第3回：措置から契約への変化とノーマライゼーション</p> <p>第4回：20世紀以降の高齢者福祉の小史</p> <p>第5回：高齢者差別への社会的挑戦</p> <p>第6回：米国オレゴン州の尊厳死</p> <p>第7回：米国のコミュニティと高齢者介護施設</p> <p>第8回：福祉多元社会論と福祉ミックス</p> <p>第9回：都市化するコミュニティと高齢者福祉の変化</p> <p>第10回：地域社会における寺院の福祉的役割</p> <p>第11回：障害者福祉と社会モデル</p> <p>第12回：障害者福祉と地域から排除される家族</p> <p>第13回：地域福祉の主流化と地域包括ケア</p> <p>第14回：生活保護とワーキングプア</p> <p>第15回：社会的包摂による支援とその課題</p>			
授業外学習（予習・復習）			
<p>〔予習〕前週に配付された次回のプリントをみて、流れをつかむ。知らない言葉等を事前に調べる。</p> <p>〔復習〕manabaに更新されたプリントを閲覧し、プリントの空欄を埋め、知識の定着をはかる。</p>			
教科書			
テキストは使用しない。毎回、未完成のプリントを配付する。			
参考書			
適宜、授業中に紹介する。			
成績の評価基準			
授業への取り組み態度（25%）、中間報告書（30%）、期末試験（45%）による。			
オフィスアワー			
火曜日の4時限目、研究室にて。			

アクティブ・ラーニング

グループワーク；その他；

アクティブ・ラーニング（その他の内容）

授業時間内にmanabaのresponで質問する学生には、その内容によって加点する場合があります。

アクティブ・ラーニング（授業回数）

15回中15回

備考（受講要件）

なし

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
科目名			
実用英語			
英語名			
Practical English			
開講学科		コース	
法経社会学科地域社会コース 新旧共通		地域社会コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会・地域社会コース / 選択科目	講義	2単位	2～4年
担当教員	連絡先 (TEL)		連絡先 (MAIL)
井原慶一郎	099-285-8877		ihara@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
		前期	
授業概要			
実用英語の内容は、TOEIC対策（中級レベル）である。本講義は、ある程度のレベルの英語力を有する学生を対象に、TOEIC対策をおこなうことを目的としている。			
学修目標			
1. TOEICテストにおいて600点以上のスコアを取得できる。 2. 日常生活のニーズを充足し、限定された範囲内では業務上のコミュニケーションができる英語力を身につける。			
授業計画			
第1回 インTRODクシヨソ			
第2回 新形式（サンプル問題）			
リスニングセクシヨソ			
第3回 写真描写問題			
第4回 応答問題			
第5回 会話問題			
第6回 説明文問題			
リーディングセクシヨソ			
第7回 短文穴埋め問題			
第8回 長文穴埋め問題			
第9回 読解問題（1つの文書）			
第10回 読解問題（複数の文書）			
模擬試験			
第11回 リスニングセクシヨソ（問題と解答）			
第12回 リーディングセクシヨソ（問題と解答）			
第13回 振り返り			
TOEIC IPテスト			
第14回&第15回			
授業外学習（予習・復習）			
[予習]ウェブサイトなどを利用して、英語のリスニング、リーディングを一定時間定期的に行う。 例) http://learningenglish.voanews.com/			
[復習]授業で行った演習問題を再確認し、わからない単語はすべて調べて覚える。			
教科書			
プリントを配布する。			
参考書			

『TOEIC(R)テスト 非公式問題集 至高の400問』(アルク)、2016年。
『公式 TOEIC Listening & Reading 問題集 2』(国際ビジネスコミュニケーション協会)、2017年。
成績の評価基準
TOEIC IPテストによる。
オフィスアワ -
金曜日・3時限・研究室(共通教育棟2号館2階)
アクティブ・ラーニング
その他;
アクティブ・ラーニング(その他の内容)
TOEIC IPテスト
アクティブ・ラーニング(授業回数)
2
備考(受講要件)
過去にTOEICを受験し、500点以上のスコアを取得していることが望ましい。 TOEIC IPテスト受験料(4,155円 賛助会員価格3,075円税込 + スコアレポート個人宛発送325円=合計3,400円)が必要。 40名に制限する。
実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
科目名			
社会教育と地域創造の関わりを学ぶ			
英語名			
Relation between Social Education and Community Development			
開講学科		コース	
法経社会学科地域社会コース 新旧共通		地域社会コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会・地域社会コース / 選択科目	講義	2単位	2～4年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
小栗有子		099-285-7299	yoguri@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
農中至、金子満、酒井佑輔		前期	
授業概要			
<p>今日の地域社会の成り立ちには社会教育が深く関わっています。社会教育を通じて学び合い、地域を変容させる（地域に働きかけることのできる）主体は地域創造の担い手でもあります。戦後社会教育の実践と研究は多様な広がりを見せ、いまなお地域との関わりを深めながら進展しています。本講義は、地域社会コースに所属する社会教育・生涯学習担当教員による総合講義であり、各教員の社会教育研究への取り組みや内容も取り上げます。講義方法は、各教員の研究紹介、教員同士の対話、教員と学生同士の対話の三つの方法で進め、授業を通して社会教育的手法についても体験します。</p>			
学修目標			
<ul style="list-style-type: none"> ・地域が抱える課題と社会教育の実践や活動との関係性について多角的に捉えることができる。 ・社会教育と地域創造の関わりを理解する。" 			
授業計画			
<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. 社会教育において地域を創造するとはどういうことか 主体と地域 3. 社会教育における地域創造の主体とはだれか だれが担うのか？ 4. 社会教育における地域創造の主体とはだれか どんな担い手がいるのか？ 5. 地域創造の主体と「私」の関係を考える？ どんな関係があるのか 6. 地域創造の主体と「私」の関係を考える？ だれに関係するのか 7. ポストモダン社会の中の地域創造と主体 どう地域を創造するのか 8. 産業と暮らしと社会教育？ 課題を探る 9. 産業と暮らしと社会教育？ 課題へのアプローチを探る 10. 産業と暮らしと社会教育？ 課題へのアプローチを理解する 11. 地域住民と社会教育？ 課題を探る 12. 地域住民と社会教育？ 課題へのアプローチを探る 13. 現代社会教育の実践？ 社会教育のアプローチを知る 14. 現代社会教育の実践？ 社会教育のアプローチの理解を深める 15. 社会教育と地域創造の関わりでの想像力 16. 期末試験は行わない（指定期日までに期末レポートを提出） 			
授業外学習（予習・復習）			
<ul style="list-style-type: none"> ・予習については適宜指示をする。 			
教科書			
授業ごとに適宜紹介する。			
参考書			
授業ごとに適宜紹介する。			
成績の評価基準			
<p>授業毎の小レポートと予習課題(50%) 授業（グループワーク）への能動的参加・貢献度(25%) 期末レポート(25%)</p>			

オフィスアワ -

メール等で事前に連絡があれば随時対応

アクティブ・ラーニング

グループワーク；ディベート；学習の振り返り（ミニッツ・ペーパー等）；

アクティブ・ラーニング（その他の内容）

アクティブ・ラーニング（授業回数）

15回中8回以上を予定

備考（受講要件）

- ・社会教育主事資格取得希望のもの
- ・社会教育に関する基本的知識を有するもの
- ・将来住民の学習の組織化に貢献したいもの

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
科目名			
子ども・若者の社会参画論			
英語名			
Study of Social Participation of Children and Youth			
開講学科		コース	
法経社会学科地域社会コース 新旧共通		地域社会コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会・地域社会コース / 選択科目	講義	2単位	2～4年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
金子満		099-285-7598	k-326@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
		前期	
授業概要			
<p>日本社会において子どもを取り巻く環境は大きく変化しつつある。特に近年における高学歴社会、高度情報化社会、高度消費社会は、それぞれ相互作用しあいながら子ども社会を揺れ動かしている。特に、近年における地域社会における相互の「つながり」の弱体化は様々な関係を分断させた。こうした社会状況を踏まえながら、現代社会に生きる子どもの生活・文化に焦点を当て、理解を深めつつ、これらの問題に対し、社会的弱者である子ども・若者がどのように社会参画していくべきかについて考える。</p>			
学修目標			
<ol style="list-style-type: none"> 1、こどもを取り巻く社会変化への理解 2、分断化された社会についての理解 3、現代社会における子どもと大人との関係性への理解 4、社会的弱者としての子ども・若者の社会参画についての考察 			
授業計画			
<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション (本講義について) 2 子どもを取り巻く社会変化についての理解 3 子ども・若者の社会参加及び参画の必要性について考える 4 子どもの誕生について (フィリップアリエスの世界) 5 異文化としての子ども理解 6 空気を読みやうやさしい関係 7 子どもの引きこもりについて 8 集団自殺から考える子どもたちの課題 9 小レポート 10 異界に生きる少年少女の実態 11 こどもと家族とのコミュニケーションの変容 12 友達親子の現実 13 家族におけるしつけの変容 14 子ども・若者の社会参加と参画へ向けてのアプローチ 15 まとめの講義 			
授業外学習 (予習・復習)			
<p>近年の子どもたちに対する言説についてそれぞれで調べておくこと。また講義で学んだ内容と自身の周辺で起きているさまざまな出来事との関連について考察すること。</p>			
教科書			
授業の中で適宜指示する			
参考書			
授業の中で適宜指示する			
成績の評価基準			
<p>小レポート 40点 期末レポート 60点 の計100点で評価する。</p>			

オフィスアワ -

月曜日の3限

アクティブ・ラーニング

グループワーク;

アクティブ・ラーニング(その他の内容)

アクティブ・ラーニング(授業回数)

13回

備考(受講要件)

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
科目名			
生涯教育概論			
英語名			
Introduction to Lifelong Education			
開講学科		コース	
法経社会学科地域社会コース 新旧共通		地域社会コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会・地域社会コース / 選択科目	講義	2単位	2～4年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
金子満・農中至		099-285-7785	nounaka@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
金子満		前期	
授業概要			
<p>戦後日本社会における生涯教育政策の動向とユネスコなどの世界的に影響力の強い国際機関の果たしてきた役割について理解することを目的とします。その際、産業・社会構造の転換にともなう教育体制の再編成・再統合の観点から、教育そのものの在り方 / 教育理解のされ方の変化がどのように推移してきたのかを理解し、国際的な影響関係 = 政策推進の社会的文脈を理解することも目指します。講義を中心としつつ、グループワーク、討論、文献講読などをおこないながら授業を進めます。</p>			
学修目標			
<p>・「生涯教育」といえば民間産業のイメージが強いですが、このイメージを打破し、?政策的影響、?国際的な影響、?教育の捉えなおしの影響などの諸点から現代的「生涯教育」概念を適切に理解できるようになることを目標とします。</p>			
授業計画			
<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. 生涯にわたる教育がなぜ要請されたのか? 3. 生涯教育の現代的段階 4. 生涯教育の推進の国際的な動向 5. 産業構造の転換と生涯教育 6. 新たな社会モデルの誕生と生涯教育への要請 7. 既存の学校システムと生涯教育の関係 8. 諸外国における生涯教育の実践 9. 日本における生涯教育政策の展開 10. 国際的生涯教育政策と日本への影響 11. 生涯教育理念の浸透と日本の教育への影響 12. 日本の生涯教育と社会教育の関係 13. 日本の生涯教育と学校教育の関係 14. 来るべき未来に向けた生涯教育の姿 15. 2020年代の生涯教育の在り方 (確認小試験を含む) 			
授業外学習 (予習・復習)			
適宜指示する。			
教科書			
適宜指示する。			
参考書			
適宜指示する。			
成績の評価基準			
<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業毎の小レポートと予習課題 (25%) ・ 授業 (グループワーク) への能動的参加・貢献度 (50%) ・ 確認小試験 (25%) 			

オフィスアワ -

メール等で事前に連絡があれば随時対応

アクティブ・ラーニング

グループワーク；ディベート；学習の振り返り（ミニッツ・ペーパー等）；

アクティブ・ラーニング（その他の内容）

アクティブ・ラーニング（授業回数）

15回中8階以上を予定。

備考（受講要件）

- ・社会教育主事資格取得を目指すもの
- ・社会教育・生涯学習に関する職業に関心があるもの
- ・住民の学習の組織化に取り組むことを希望するもの

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
科目名			
地域づくりとNPO			
英語名			
Community Development and NPO			
開講学科		コース	
法経社会学科地域社会コース 新旧共通		地域社会コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会・地域社会コース / 選択科目	演習	2単位	2～4年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
酒井佑輔		099-285-7292	sakai@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
		後期	
授業概要			
<p>特定非営利活動法人（以下、NPO）という言葉が注目されるようになったのは、1996年の阪神・淡路大震災以降であろう。1998年に特定非営利活動法が施行され、内閣府の調査によれば全国で認証されたNPO数は2016年9月30日現在で5万を超えている。鹿児島県内にも2018年には800を超えるNPOがあり、人口10万人当たりの認証数は全国で3番目に多い。こうしたNPOが環境保護や若者の居場所づくり、国際協力、外国人支援、生涯学習の場の提供等の多様なテーマで活動をすすめる、「新たな公共」を担う存在として注目されている。しかしながら、その一方でNPOの6割以上は財政規模が500万円未満でボランティアの支援によって支えられていたり、また活動を休止をしている組織も多い。したがって、本授業では、NPOの歴史の変遷やその存在の今日的意義を多角的な視点から理解したうえで、地域づくりにおけるNPOの可能性について検討する。</p>			
学修目標			
<p>1) NPOの歴史的系譜や現代社会におけるその存在意義について多角的な視点から理解を深める。 2) 鹿児島県において地域づくりをすすめるNPOの事例を理解し検証する。 3) 地域づくりにおけるNPOの可能性について説明できるようになる。</p>			
授業計画			
<p>1. オリエンテーション(1) 授業の進め方・概要を理解する 2. オリエンテーション(2) 地域づくりにおけるNPOの現代的意義を探る 3. NPOの歴史を知る(1) 4. NPOの歴史を知る(2) 5. 鹿児島のNPOの現状と課題 6. 鹿児島のNPOと地域づくり(1) 7. 鹿児島のNPOと地域づくり(2) 8. 鹿児島のNPOと地域づくり(3) 9. 鹿児島のNPOと地域づくり(4) 10. 日本における国際協力とNPO 11. 日本における多文化共生・外国人支援とNPO 12. 日本における市民の学びとNPO 13. 世界のNPO 14. 市民参加を創造するNPOとは 15. まとめ 地域づくりにおけるNPOの可能性と課題 16. 期末試験は行わない(指定期日までに期末レポートを提出)</p>			
【2009.09.03改定】			
授業外学習(予習・復習)			
<p>予習：教科書を必ず事前に読んでおくこと。 復習：授業で学んだ内容を振り返りまとめること。</p>			
教科書			
早瀬昇『「参加の力」が創る共生社会～市民の共感・主体性をどう醸成するか～』ミネルヴァ書房、2018。			
参考書			

佐藤一子編『NPOの教育力 生涯学習と市民的公共性』東京大学出版会、2004や
西川正『あそびの生まれる場所? 「お客様時代」の公共マネジメント』ころから株式会社、2017等、適宜授業で
紹介。

成績の評価基準

授業毎の小レポートと予習課題(35%)
授業・グループワークへの参加・貢献度(35%)
期末レポート(30%)
詳細は第1回のオリエンテーション時に提示予定。

オフィスアワー

メール等で事前に連絡があれば随時対応

アクティブ・ラーニング

グループワーク; フィールドワーク; プレゼンテーション; 学習の振り返り(ミニッツ・ペーパー等);
アクティブ・ラーニング(その他の内容)

PBL

アクティブ・ラーニング(授業回数)

全て

備考(受講要件)

- ・受講を希望する学生は必ずオリエンテーションに出席すること。
- ・全授業への出席を原則とし、授業数の1/3を欠席した場合、つまり5回の欠席で、学則上、成績評価の対象外とする。受講生には、授業やグループワーク、グループ発表への能動的な参加が求められる。
- ・授業計画は暫定のものであり確定版はオリエンテーション時に配布する。

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
BDX2304			
科目名			
自治体政策論			
英語名			
Policy of Local Administration			
開講学科		コース	
法経社会学科地域社会コース 新旧共通		地域社会コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会・法学コース/地域社会コース/選択科目	講義	2単位	2～4年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
本田 豊洋		099-285-8872	t-honda@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
		前期	
授業概要			
自治体政策を巡るトピックとして毎回一つのテーマを取り上げ、地域における現状や課題、実施されている政策等について、鹿児島県内の事例を中心に説明するとともに、データに基づいて、地域の実情を把握・分析する方法等について紹介する。			
学修目標			
地域における現状や課題、実施されている政策等について理解するとともに、データに基づいて、地域の実情を把握・分析する方法等を修得する。			
授業計画			
第1回 (4月9日)	ガイダンス・総論		
第2回 (4月16日)	少子高齢化		
第3回 (4月23日)	共生・協働の地域社会づくり		
第4回 (5月7日)	文化行政 (霧島国際音楽祭をテーマに)		
第5回 (5月14日)	地域経済分析システム (RESAS) の活用【基礎編】		
第6回 (5月21日)	地方行財政		
第7回 (5月28日)	地域経済分析システム (RESAS) の活用【応用編】		
第8回 (6月11日)	社会保障		
第9回 (6月18日)	地方創生		
第10回 (6月25日)	地域振興の実際の取組事例		
第11回 (7月2日)	観光・PR		
第12回 (7月9日)	貧困		
第13回 (7月16日)	離島		
第14回 (7月23日)	農業		
第15回 (7月30日)	まとめ		
授業外学習 (予習・復習)			
新聞・テレビのニュース等を通じ、地方自治に関する情報に日頃から関心を持っておくこと。			
教科書			
参考書			
成績の評価基準			
受講態度 (出席及び授業中に指定したテーマに対するミニレポート) 60%、期末レポート40% 6回以上欠席した場合には単位を認めない。			
オフィスアワ -			
他の予定が入っていない時はなるべく対応するので、事前にメールで問い合わせること。			
アクティブ・ラーニング			
学習の振り返り (ミニッツ・ペーパー等) ;			
アクティブ・ラーニング (その他の内容)			

アクティブ・ラーニング（授業回数）

15回中15回

備考（受講要件）

毎回、出席はresponにより確認し、ミニレポートはmanabaによるオンライン提出とする。

実務経験のある教員による実践的授業

鹿児島県庁出身の教員が、毎回一つの地方を取り巻くテーマを取り上げ、現状や課題、実施している政策等について鹿児島県の事例を中心に解説する。

ナンバリングコード			
科目名			
人権教育と平和			
英語名			
Human Rights and Peace Education			
開講学科		コース	
法経社会学科地域社会コース 新旧共通		地域社会コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会・地域社会コース / 選択科目	講義	2単位	3～4年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
農中至		0992857603	nounaka@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
		後期	
授業概要			
近代国家の誕生とともに根付く人権思想の展開過程に着目しつつ、現代的人権思想とその構造を理解し、それを具現化する営みとしての人権を確立し、平和を実現する教育実践の意味と役割について考えていきます。			
学修目標			
人権にかかわる教育・学習体験の差異を理解し、地域ごとの人権課題および平和に関する諸問題を適切に理解することができるようになる。			
授業計画			
<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. 「人権問題」はどのように語られてきたか? 3. 人権問題に地域差はあるのか 4. 人権はなぜ重要視されてきたのか 5. 人権概念と生活の関係 6. 世界の人権問題 7. 近代日本の人権思想と実践 8. 現代日本の人権課題と実践 9. 人権教育の実践的諸相 10. 人権教育とその範囲 11. 現代人権教育にもとめられている基本的視点 12. 現代人権教育の可能性 13. 平和教育の基本原則 14. 平和教育の諸外国の実践 15. 人権教育と平和の未来 (確認試験含む) 			
授業外学習 (予習・復習)			
世界の人権問題の状況をつかみ、日本国内の差別・人権問題についてもよく理解しておくようにしてください (予習)。特に鹿児島県内にはどのような人権課題が存在しているのか、その地域的特性について理解するように努めてください (復習)。			
教科書			
参考書			
内田龍史『部落問題と向き合う若者たち』解放出版社、2014 岸政彦『マンゴーと手榴弾』勁草書房、2018 ジョルジョ・アガンベン『人権の彼方に』以文社、2000 スラヴォイ・ジジェク・岡崎玲子『人権と国家』集英社新書、2006			
成績の評価基準			
授業後の小レポート (50%)・確認試験 (50%)			
オフィスアワ -			

随時対応します。

アクティブ・ラーニング

グループワーク；ディベート；学習の振り返り（ミニッツ・ペーパー等）；

アクティブ・ラーニング（その他の内容）

アクティブ・ラーニング（授業回数）

16回中12回を予定

備考（受講要件）

社会教育主事資格取得を希望するもの。

社会教育概論および生涯教育概論を履修し、

成人教育論を履修済みもしくは履修予定のもの。

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
科目名			
アートマネジメント論			
英語名			
Theory of Art Management			
開講学科		コース	
法経社会学科地域社会コース 新旧共通		地域社会コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会・地域社会コース / 選択科目	講義	2単位	3～4年
担当教員	連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)	
井原慶一郎	099-285-8877	ihara@leh.kagoshima-u.ac.jp	
共同担当教員		前後期	
		後期	
授業概要			
<p>「芸術と社会をつなぐ仕事」としてのアートマネジメントについて多角的に考察し、社会や人間関係を活性化するアートの役割を総合的に理解することを目的とする。アートやアートマネジメントの概要について学習したのち、テーマごと、トピックごとに理解を深める。講義に加え、フィールドワーク、ワークショップなども取り入れる。また、鹿児島という地域の特性も考慮する。</p>			
学修目標			
<ul style="list-style-type: none"> ・芸術文化活動を、芸術と社会を「つなぐ」アートマネジメントの観点から説明できる。 ・芸術の社会的役割、機能について総合的に理解する。 ・地域において芸術文化活動を実施、支援、情報伝達する際の基本的な知識を身につける。 			
授業計画			
<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス(10/3) 2. アートマネジメントとは(10/10) 3. アートとは(10/24) 4. アートと歴史(10/31) 5. アートと社会(11/7) 6. ギャラリー&コレクターの役割(11/14) 7. 美術館の役割(11/21) 8. フィールドワーク(11/28) 9. 地域とアート(12/5) 10. 行政&企業&NPO&ボランティアの役割(12/12) 11. 事例紹介(12/19) 12. パブリック&コミュニティーアート(12/26) 13. ワークショップ(1/9) 14. 学生による発表(1/23) 15. まとめと振り返り(1/30) 			
授業外学習 (予習・復習)			
<ul style="list-style-type: none"> ・予習: 指定されたテキストを読む ・復習: 授業で紹介された事例をさらに詳しく調べる 			
教科書			
林容子『進化するアートマネジメント』(レイライン、2004年)			
参考書			
プリント資料を配布する			
成績の評価基準			
リアクションペーパー(60%)、発表(10%)、最終レポート(30%)			
オフィスアワ -			

木曜日・5時限・研究室（共通教育棟2号館2階）

アクティブ・ラーニング

フィールドワーク；プレゼンテーション；学習の振り返り（ミニッツ・ペーパー等）；その他；

アクティブ・ラーニング（その他の内容）

ワークショップ

アクティブ・ラーニング（授業回数）

15回中3回

備考（受講要件）

40名に制限する。

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
科目名			
地域社会特殊講義			
英語名			
Topics Of Community Studies			
開講学科		コース	
法経社会学科地域社会コース 新旧共通		地域社会コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会・地域社会コース / 選択科目	講義	2単位	3～4年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
城戸秀之		099-285-7611	kido@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
		後期	
授業概要			
大きく変容する現代社会のなかで地域社会は変化を余儀なくされている。消費、情報、観光、グローバル化の観点から現代社会の特徴を捉え、それらと地域社会のあり方について「現代社会と地域社会」では取り上げられなかった論考を紹介する。受講生には「現代を生きる」という視点から地域社会を考える手がかりにしてほしい。			
学修目標			
1. 地域社会について現代社会論の視点から問題意識をもつ 2. 現代の地域社会を考察する理論的アプローチについての知識を習得する 3. 現代の地域社会の課題を考察することができる			
授業計画			
第1回 はじめに 第2回 消費(1) 記号/シミュレーションとしての消費 第3回 消費(2) 消費の合理化と魔術化 第4回 消費(3) 消費の中の地域社会 第5回 情報(1) 人々のネットワークとしての情報社会 第6回 情報(2) ユビキタス化する情報通信 第7回 情報(3) 情報化と地域づくり 大分県・臼杵市の事例 第8回 小レポート 第9回 観光(1) 観光のリアリティ - 偽物か本物か 第10回 観光(2) 観光のまなざし 第11回 観光(3) 観光と地域社会 第12回 グローバル化(1) リスク社会とグローバル化 第13回 グローバル化(2) 流動化する現代社会 第14回 グローバル化(3) 汎用化する社会と地域社会 第15回 まとめ			
授業外学習(予習・復習)			
予習については適宜指示をする。復習として「復習レポート」を提出することができる。			
教科書			
授業時間ごとに資料を配付する			
参考書			
授業において適宜紹介する			
成績の評価基準			
復習レポート、小レポートおよび筆記試験を総合的に評価する			
オフィスアワ -			
火曜3限			
アクティブ・ラーニング			
学習の振り返り(ミニッツ・ペーパー等);			
アクティブ・ラーニング(その他の内容)			

アクティブ・ラーニング（授業回数）

15回中13回

備考（受講要件）

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
科目名			
観光英語			
英語名			
Tourism English			
開講学科		コース	
法経社会学科地域社会コース 新旧共通		地域社会コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会・地域社会コース / 選択科目	講義	2単位	3～4年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
山崎美智子		099-227-5173	yamasaki@ists.jp
共同担当教員		前後期	
		後期	
授業概要			
<p>配布資料で基礎的な情報を学習し、小テストや課題を通じて、鹿児島に関する知識を深め、英語の語彙力や表現力を強化する。授業への積極的な参加がベースとなる。</p> <p>効果的な英語のプレゼンができるようになるため、予習・復習を確実にし、学習内容を毎回授業中に発表し、それに対するフィードバックを通して英語コミュニケーション能力を高める。</p> <p>まとめ、総括の時間に複数回分の総合的なプレゼンを行う。</p>			
学修目標			
<ol style="list-style-type: none"> 効果的な英語のプレゼンができるようになる。 自己紹介（専門分野の説明等）が英語でできるようになる。 鹿児島について自分の英語で説明できるようになる。 キーワードをもとに英語でのプレゼンができるようになる 英語のコミュニケーション能力を高める。 			
授業計画			
第1回 自己紹介・英語によるプレゼンの基礎 第2回 鹿児島大学、自分の専門の紹介 第3回 鹿児島の位置・地理的特徴（自分の出身地の紹介） 第4回 鹿児島の気候、生活 第5回 まとめ 第6回 鹿児島の環境（国立公園、世界自然遺産、ジオパーク） 第7回 鹿児島の自然（離島） 第8回 鹿児島の産業 第9回 鹿児島の食 第10回 まとめ 第11回 鹿児島の歴史 第12回 鹿児島の歴史（世界文化遺産） 第13回 鹿児島の観光地 第14回 鹿児島の観光地 第15回 総括			
授業外学習（予習・復習）			
<p>授業の内容を次週に発表できるよう、必ず復習すること。</p> <p>クラスによっては事前予習を課題として出すこともある。</p>			
教科書			
プリントを配布予定			
参考書			
「英語で説明する日本の文化 必須表現グループ100」 語研 発行			
成績の評価基準			
<p>授業への積極的な取り組み態度・発表内容・小テスト</p> <p>3回以上の欠席は認めない。</p>			

期末テストは行わない。

オフィスアワ -

アクティブ・ラーニング

アクティブ・ラーニング（その他の内容）

アクティブ・ラーニング（授業回数）

備考（受講要件）

地域社会コースの学生（旧カリは経済情報学科学生）に限る。

受講者数は最大20名とする。

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
科目名			
環境教育論			
英語名			
Fundamentals of Environmental Education			
開講学科		コース	
法経社会学科地域社会コース 新旧共通		地域社会コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会・地域社会コース / 選択科目	講義	2単位	3～4年
担当教員		連絡先 (TEL)	
小栗有子		099-185-7299	
共同担当教員		連絡先 (MAIL)	
なし		yoguri@leh.kagoshima-u.ac.jp	
授業概要			
<p>本講義は、従来の環境教育論を批判的に考察し、環境問題を教育学的に捉え直すことで、人間形成における環境の意味を生命(いのち)という観点から読み解く。また、人の育ちに必要環境を能動的に創り変えていくことの現代的意義について考えていく。</p> <p>内容としては、地球環境問題と地域環境問題の基本を踏まえつつ、これまで様々に展開してきた環境教育の動きを紹介し、その意義と限界を理解する。そのうえで、科学技術の発達以前と以後の環境変化が、人の成長に及ぼす影響を与えてきたのかを考察し、これから求められる人と環境とのかかわりと社会のあり方について、事例を扱いながら探り当てていく。</p> <p>講義の方法としては、グループ討論を重視し、鹿児島市環境未来館へのフィールドワークも予定している。</p>			
学修目標			
<ul style="list-style-type: none"> ・環境教育の成立と発展について説明ができる ・人の育ちにおける環境変化とその影響について説明ができる ・環境教育をめぐる異なる教育観を批判的に考察できる 			
授業計画			
<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. 問題の所在 - 教育にとっての環境・環境問題の意味 3. 地球「環境問題」を考える 4. 地球「環境問題」と環境教育の関わりを知る 5. 「環境問題」と教育の関係を考える 1 - 科学と制度 6. 地域「環境問題」を考える 7. 地域「環境問題」と環境教育の関わりを知る 8. 「環境問題」と教育の関係を考える 2 - 抵抗運動と脱政治化 9. 鹿児島市環境未来館の視察学習 10. 環境教育の歴史と政策 11. 内なる自然と「環境問題」を考える 12. 内なる自然と「環境問題」と環境教育の関わりを知る 13. 「環境問題」と教育の関係を考える 3 - 人が育つ環境変化 14. 環境教育論の視座と論点 15. 新しい環境教育の展望 16. レポート提出 			
授業外学習 (予習・復習)			
授業の副教材として提示する資料を読むこと、及び、授業中に出された課題(問い)について適宜、調べ考えること			
教科書			
授業の中で紹介する			
参考書			
今村光章編『環境教育学の基礎理論』法律文化社 大田堯『大田堯自選集成 1 - 生きることは学ぶこと』藤原書店			

高野孝子編『PBE - 地域に根ざした教育』海象社

成績の評価基準

授業参加態度（60%）、中間レポート（10%）、最終レポート（30%）

オフィスアワ -

メールで事前連絡上、随時対応

アクティブ・ラーニング

グループワーク；フィールドワーク；プレゼンテーション；学習の振り返り（ミニッツ・ペーパー等）；

アクティブ・ラーニング（その他の内容）

アクティブ・ラーニング（授業回数）

12回

備考（受講要件）

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
科目名			
社会問題と社会意識			
英語名			
Sociology of Social Problems through Social Consciousness			
開講学科		コース	
法経社会学科地域社会コース 新旧共通		地域社会コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会・地域社会コース / 選択科目	講義	2単位	3～4年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
桑原司			kuwa3@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
		前期	
授業概要			
<p>本講義は、以下の三つの観点から「社会問題の研究方法」を考察することを目的としている。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 社会的ジレンマ理論 2) シンボリック相互作用論 3) 社会問題の構築主義 			
学修目標			
<ul style="list-style-type: none"> ・社会問題の性質（客観的側面と定義的側面）を理解する。 ・社会問題の研究方法（客観的アプローチと定義的アプローチ）を理解する。 ・社会問題の存立要件を理解する。 			
授業計画			
<p>< 序論 ></p> <p>第1回 ガイダンス</p> <p>第2回 社会問題の研究領域及び研究方法</p> <p>< 社会問題の客観的アプローチ ></p> <p>第3回 社会的ジレンマ：その実例</p> <p>第4回 社会的ジレンマ：囚人のジレンマから社会的ジレンマへ</p> <p>第5回 社会的ジレンマ：社会的ジレンマの解決へ向けて</p> <p>< 中間考察 ></p> <p>第6回 社会問題研究の代替案（シンボリック相互作用論の提言）</p> <p>< 社会問題の定義的アプローチ ></p> <p>第7回 社会問題の定義的アプローチ（Spector and Kitsueの提言）</p> <p>第8回 社会問題の構築主義：前編（中河伸俊と赤川学の立場）</p> <p>第9回 喫煙問題の形成過程</p> <p>第10回 社会問題の構築主義：後編（草柳千早の立場）</p> <p>第11回 夫婦同姓問題をめぐる攻防</p> <p>< 社会問題としての報道被害：桑原ゼミナールの試み ></p> <p>第12回 報道被害の現状</p> <p>第13回 取材被害の現状</p> <p>第14回 社会問題の構築：報道被害の社会問題化に向けて</p> <p>< 総括 ></p> <p>第15回 まとめ</p> <p>第16回 期末試験</p>			
授業外学習（予習・復習）			

授業中に適宜指示する。

教科書

なし。

参考書

- ・山岸俊男（2000）『社会的ジレンマ』PHP。
- ・H. G. Blumer 1971=2006（山口健一訳）「集合行動としての社会問題」 [<http://jairo.nii.ac.jp/0016/00003827>] .
- ・M. B. Spector and J. I. Kitsue 1977=1990（村上直之ほか訳）『社会問題の構築』マルジュ社。
- ・中河伸俊（1999）『社会問題の社会学』世界思想社。
- ・赤川 学（2012）『社会問題の社会学』弘文堂。
- ・草柳千早（2004）『「曖昧な生きづらさ」と社会』世界思想社。

成績の評価基準

期末試験（100％）

オフィスアワ -

授業後。

アクティブ・ラーニング

アクティブ・ラーニング（その他の内容）

アクティブ・ラーニング（授業回数）

備考（受講要件）

「社会的コミュニケーション論」（法文学部法経社会学科開講・専門科目）を履修していることが望ましい。
実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード

科目名

多文化共生の地域づくり

英語名

Multicultural Community Development

開講学科

法経社会学科地域社会コース 新旧共通

コース

地域社会コース

授業科目区分

法経社会・地域社会コース
/ 選択科目

授業形態

演習

単位数

2単位

開講期

3～4年

担当教員

酒井佑輔

連絡先 (TEL)

099-285-7292

連絡先 (MAIL)

sakai@leh.kagoshima-u.ac.jp

共同担当教員

前後期

前期

授業概要

現代の日本社会では、ヘイト・スピーチに象徴されるような人種主義や排外主義の高揚、マイノリティに対する不寛容さの常態化傾向が指摘されている。その一方で、少子高齢化や労働力人口の穴埋め策として、移民(ないしは外国人技能実習生等)の大量受け入れの議論も進んでいる。こうした社会状況にともない、地域づくりにおいて多文化共生を目指した国内外の取り組みを知り、その内実を捉え直すことは喫緊の課題であると言える。したがって本講義では、日本や鹿児島県内における多文化共生に向けた取り組みを学び理解を深める。また、自らが多文化共生を目指した地域づくりの取り組みを企画・立案することで、身近な多文化共生の望ましい在り方を考える。

Because of serious labour shortages, aging population etc, Japan will formally open doors to foreign workers. However, racism, xenophobia and related intolerance have been expanded all over the world, and a lot of Japanese cities have worried about receiving more foreign workers. Focusing on this kind of situation, we can say that it is very important to think about multiculturalism and promote multicultural community development.

This class aims to understand multiculturalism and multicultural community development and, design project related to these topics.

学修目標

- 1) 日本における多文化共生の現状(多文化共生を阻む社会的排除要因等)について理解を深める。
- 2) 鹿児島市における多文化共生を目指した身近な地域づくりの事例を多角的な視点から理解する。
- 3) 多文化共生の地域づくりを進めるために何ができるのか、自ら志向し考え企画する能力を身につける。

授業計画

1. オリエンテーション 国際化・多文化化する日本の現在と地域づくり
2. 多文化共生とは何か
3. 社会教育と多文化・民族共生
4. 移民から考える日本の多文化共生-日系ブラジル移民の歴史-
5. 移民から考える日本の多文化共生-日系ブラジル移民の現在-
6. 移民から考える日本の多文化共生と地域づくり-日系ブラジル移民の現在-
7. グループワーク:多文化共生の地域づくりに向けた事例調査(1)
8. グループワーク:多文化共生の地域づくりに向けた事例調査(2)
9. グループ発表:多文化共生の地域づくりに向けた事例発表
10. フィールドワーク:鹿児島の多文化共生の現状を知る
11. フィールドワーク:鹿児島の多文化共生の現状を知る
12. グループワーク:多文化共生の地域をデザインする(1)
13. グループワーク:多文化共生の地域をデザインする(2)
14. グループワークの発表
15. 総括
16. 期末試験は行わない(指定期日までに期末レポートを提出)

授業外学習(予習・復習)

予習:授業ごとに提示する資料(新聞記事や論文)を必ず事前に読んでおくこと。

復習:授業で学んだ内容を振り返りまとめること。

教科書

特になし。

参考書

- ・塩原良和・稲津秀樹編『社会的分断を越境する 他者と出会いなおす想像力』青弓社、2017
- ・宮島 喬『多文化であることとは 新しい市民社会の条件』岩波書店、2014

成績の評価基準

授業毎の小レポートと予習課題(35%)

(Prepare resume about assignment for every class(35%))

授業・グループワークへの参加・貢献度(35%)

(Participation in group discussion, and collaboration with cohort(35%))

期末レポート(30%)

(Final report(30%))

オフィスアワ -

メール等で事前に連絡があれば随時対応。

(Make appointment by email)

アクティブ・ラーニング

グループワーク; ディベート; フィールドワーク; プレゼンテーション; 学習の振り返り(ミニッツ・ペーパー等);

アクティブ・ラーニング(その他の内容)

反転型授業、PBL/CBL

アクティブ・ラーニング(授業回数)

全て

備考(受講要件)

- ・留学生が授業に参加する予定のため、日本語以外にも英語等の外国語で授業をすすめる。したがって、旅行会話程度の英語ないしは他の外国語(中国語やスペイン語、ポルトガル語、インドネシア語、ベトナム語等)ができないと授業についてこれない可能性が大きい。
- ・受講を希望する学生は必ずオリエンテーションに出席すること。
- ・全授業への出席を原則とし、授業数の1/3を欠席した場合、つまり5回の欠席で、学則上、成績評価の対象外とする。受講生には、授業やグループワーク、グループ発表への能動的な参加が求められる。

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
科目名			
まちづくりを考える			
英語名			
Introduction To Community Development			
開講学科		コース	
法経社会学科地域社会コース 新旧共通		地域社会コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会・地域社会コース / 選択科目	講義	2単位	3~4年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
城戸秀之		099-285-7611	kido@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
片桐資津子、桑原司、本田豊洋、中島大輔、井原慶一郎		前期	
授業概要			
経済や産業の視点からではなくコミュニティ研究の観点からまちづくりについてのアプローチと知見を紹介し、住民の生活の場である地域社会の今後のあり方を考える。地域社会コースの担当教員によるオムニバス講義である。			
学修目標			
1. 地域社会についてコミュニティ研究の視点から問題意識をもつ 2. 現代のまちづくりを考察するアプローチについての知識を習得する 3. 現代の地域社会の課題を理解し、将来の地域社会のあり方を提案することができる			
授業計画			
第1回 ガイダンス (城戸秀之 / 共同担当教員) 第2回 人々の異質性を前提とする社会の探究：シカゴ学派の社会学 (桑原司) 第3回 人々の異質性を前提とするコミュニケーションの探究：シカゴ学派のコミュニケーション論 (桑原司) 第4回 地域社会の現代的側面 (城戸秀之) 第5回 情報化とまちづくり 臼杵市の事例 (城戸秀之) 第6回 共生・協働の地域社会づくり1 (総論) (本田豊洋) 第7回 共生・協働の地域社会づくり2 (県内の取組事例) (本田豊洋) 第8回 鹿児島文化とまちづくり (井原慶一郎) 第9回 一極集中から多極分散型の社会へ (井原慶一郎) 第10回 ドイツのまちづくり(1) 旧市街の歴史的・文化的保全 (中島大輔) 第11回 ドイツのまちづくり(2) 旧市街の交通政策 (中島大輔) 第12回 自由安全重視か、監視効率重視か：まちづくり米中比較 (片桐資津子) 第13回 若者が住みたいまち全米NO.1になるまでの試行錯誤の過程 (片桐資津子) 第14回 まちづくりを考えてみよう (ワークショップ) (城戸秀之 / 共同担当教員) 第15回 まとめ (最終レポートの作成) (城戸秀之)			
授業外学習 (予習・復習)			
予習については適宜指示をする。復習として毎回の資料の参考文献などにより理解を深めること。			
教科書			
授業時間ごとに資料を配付する			
参考書			
授業において適宜紹介する			
成績の評価基準			
授業の際に提出する小レポートおよび最終レポートに基づき評価する。			
オフィスアワー			
オムニバス科目のため各担当者が個別に対応する			
アクティブ・ラーニング			
グループワーク；学習の振り返り (ミニッツ・ペーパー等)；			
アクティブ・ラーニング (その他の内容)			

第15回に最終レポートを作成する

アクティブ・ラーニング（授業回数）

15回中14回

備考（受講要件）

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
科目名			
青年の主体形成論			
英語名			
Theory on Empowerment of Adolescents			
開講学科		コース	
法経社会学科地域社会コース 新旧共通		地域社会コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会・地域社会コース / 選択科目	講義	2単位	3～4年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
金子満		099-285-7598	k-326@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
		前期	
授業概要			
近年の子ども・若者における最新の動向をとらえながら、現代社会における青年期の課題について明らかにしつつ、これらの課題に主体的に関わることが出来る青年に着目し、理解を深める。その際、青年期の持つ課題をより身近なものとしてとらえるために、同時期の学生たちの考えや意見を講義内において反映させながら学びを深める。			
学修目標			
既存世代としての大人世代からみた青年像ではなく、なるべく実態に即した青年像にもとづいたあらたな青年の主体形成について理解することを目的とする。			
授業計画			
1、オリエンテーション 2、身近な青年期の課題について話し合う 3、既存世代における青年論を歴史的にとらえる。 4、大きな物語から小さな物語へ時代の変遷を理解その1 5、大きな物語から小さな物語へ時代の変遷を理解その2 6、青年期の特徴としてのデータベース型理解についてその1 7、青年期の特徴としてのデータベース型理解についてその2 8、青年期における新たな想像力に関する理解その1 9、青年期における新たな想像力に関する理解その2 10、ナラティブから青年期を考える。 11、ナラティブに関するワークショップその1 12、ナラティブに関するワークショップその2 13、ナラティブの可能性と展望について 14、新たな青年の主体形成論についての考察 15、まとめ			
授業外学習 (予習・復習)			
メディアで取り上げられている近年のニュースや若者に対する視角について事前に予習し、また授業で学んだ内容に対する具体的な関連事項を調べるという復習を行うのが望ましい。			
教科書			
講義内で随時指示する。			
参考書			
成績の評価基準			
出席 20%			
レポート 70%			
授業態度 10%			
オフィスアワ -			
アクティブ・ラーニング			

グループワーク;

アクティブ・ラーニング(その他の内容)

アクティブ・ラーニング(授業回数)

10

備考(受講要件)

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
科目名			
図書館論			
英語名			
Study of Library			
開講学科		コース	
法経社会学科地域社会コース 新旧共通		地域社会コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会・地域社会コース / 選択科目	講義	2単位	3～4年
担当教員		連絡先 (TEL)	
岩下雅子			
		連絡先 (MAIL)	
		miwashita@shigakukan.ac.jp	
共同担当教員		前後期	
なし		前期	
授業概要			
アクティブラーニングを常に意識した授業を行う。急激な社会の変化に伴い図書館に求められている最近の動向と、今後の図書館の姿について考察し理解を深める。公共図書館、大学図書館、学校図書館のそれぞれの特性・機能・役割を通して、生涯学習に結びついた図書館の役割を理解する。今後の図書館のあり方についてグループワークを通して柔軟な発想力、企画力を培う。			
学修目標			
?公共図書館、大学図書館、学校図書館、専門図書館の特色・機能・役割を理解する。 ?図書館員としての資質を高めるためのスキルを学ぶ。 ?最近の図書館の動向を理解する。 ?最近の図書館の設計・デザインの動向を学ぶ。			
授業計画			
<ol style="list-style-type: none"> 1. 図書館の意義と役割を理解する～図書館の構成要素と機能 2. 図書館の歴史～「本」「図書館」「読書」等の変遷について学ぶ 3. 映画「図書館戦争」を通して図書館の自由と図書館員の倫理綱領について理解する(1) 4. 映画「図書館戦争」を通して、図書館の自由と図書館員の倫理綱領について理解する(2) 5. 図書館と読書に関する法規を学ぶ((図書館法規、制度と機能)) 6. 学校図書館について～小学校・中学校・高校の図書館運営について理解する 7. 学校図書館の現状と動向～授業との連携、学校図書館支援センター等の事例から考察する 8. 大学図書館の現状と動向～秋田国際教養大学等、先駆的な大学図書館の事例等を参考に考察する 9. 公共図書館の現状と動向～都城市立図書館等、地域課題解決型、複合施設型図書館の事例等を参考に考察する 10. 公共図書館経営の多様化～佐賀県武雄市図書館等、民間指定業者による図書館経営についての考察 11. 専門図書館～東洋文庫、宮内庁書陵部等、専門図書館の種類や蔵書構成及び運営について学ぶ 12. 図書館をデザインする～総合的に図書館をプロデュースするデザイン力を学ぶ 13. 映画「やさしい本泥棒」を通して映画の時代背景について深く理解する。 14. 映画「やさしい本泥棒」を通して人間にとって読書とは何かを深く理解する。 15. 課題と展望～これからの図書館について(利用者ニーズ、災害と図書館、異文化、等) 考察する 16. 試験 			
授業外学習(予習・復習)			
事前学習は、質問事項は事前に配布してあるプリントに記載して提出する。事後学習は授業の後に小レポートを提出する			
教科書			
教科書は特に指定しない。講義中に配布するプリント(ハンドアウト)を用いる。			
参考書			
"「つながる図書館」猪谷千香 ちくま新書 「未来をつくる図書館」菅谷明子 岩波新書 "			
成績の評価基準			

試験60%、小レポート30%、発表10%

オフィスアワ -

応相談

アクティブ・ラーニング

グループワーク; ディベート; フィールドワーク; 学習の振り返り (ミニッツ・ペーパー等);

アクティブ・ラーニング (その他の内容)

アクティブ・ラーニング (授業回数)

8回実施予定

備考 (受講要件)

社会教育主事資格取得を希望する者

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
FHS-CCD2301			
科目名			
演習			
英語名			
Seminar			
開講学科		コース	
法経社会学科経済コース 新旧共通			
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会・経済コース / 必修科目	演習	2単位	2～4年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
馬場武		099-285-7582	baba@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
		後期	
授業概要			
<p>本演習では、情報マネジメントの立場から企業経営に効果的なアウトプットを提供するための問題発見力と解決力の修得を目指します。</p> <p>情報マネジメントをあえて定義するのであれば、企業を取り巻く多種多様な情報を評価・解析し、経営上の効果を最適化するための分析をおこない、その結果を経営の意思決定に反映していく手続きの繰り返しといえるでしょう。そのためには、情報科学・プログラミング・経営学・マーケティング・統計学などの基本的な知識やスキルが必要になります。</p> <p>したがって、本演習ではこれら必要な基本的知識やスキルのインプット（輪読や実習）とその知識を使ったアウトプット（レポートやプレゼン）をおこないます。</p>			
学修目標			
<ol style="list-style-type: none"> 1. 適切な情報を収集して分析する力 2. 問題を発見する力 3. 問題を解決するために工夫する力 4. レポート作成などの書くプレゼン能力 5. インタラクティブなコミュニケーションを含む話すプレゼン能力 			
授業計画			
第1回：ガイダンス 第2回～第14回：発表と討論 第15回：総括			
授業外学習（予習・復習）			
予習：毎回の報告レジュメの作成（120分） 復習：レジュメやレポートの修正（60分）			
教科書			
適宜レジュメを配布します。			
参考書			
授業内で紹介します。			
成績の評価基準			
講義でのプレゼンとレポートの総合評価。なお、全授業に出席することが前提です。2回以上欠席した場合には単位を認めません。			
オフィスアワ -			
メールにてアポイントをとってください。			
アクティブ・ラーニング			
グループワーク； ディベート； プレゼンテーション；			
アクティブ・ラーニング（その他の内容）			
アクティブ・ラーニング（授業回数）			
15回中15回			
備考（受講要件）			

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
FHS-CCD2301			
科目名			
演習			
英語名			
Seminar			
開講学科		コース	
法経社会学科経済コース 新旧共通			
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会・経済コース / 必修科目	演習	2単位	2～4年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
馬場武		099-285-7582	baba@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
		前期	
授業概要			
<p>本演習では、情報マネジメントの立場から企業経営に効果的なアウトプットを提供するための問題発見力と解決力の修得を目指します。</p> <p>情報マネジメントをあえて定義するのであれば、企業を取り巻く多種多様な情報を評価・解析し、経営上の効果を最適化するための分析をおこない、その結果を経営の意思決定に反映していく手続きの繰り返しといえるでしょう。そのためには、情報科学・プログラミング・経営学・マーケティング・統計学などの基本的な知識やスキルが必要になります。したがって、本演習ではこれら必要な基本的知識やスキルのインプット（輪読や実習）とその知識を使ったアウトプット（レポートやプレゼン）をおこないます。</p>			
学修目標			
<ol style="list-style-type: none"> 1. 適切な情報を収集して分析する力 2. 問題を発見する力 3. 問題を解決するために工夫する力 4. レポート作成などの書くプレゼン能力 5. インタラクティブなコミュニケーションを含む話すプレゼン能力 			
授業計画			
第1回：ガイダンス 第2回～第14回：発表と討論 第15回：総括			
授業外学習（予習・復習）			
予習：毎回の報告レジュメの作成（120分） 復習：レジュメやレポートの修正（60分）			
教科書			
適宜レジュメを配布します。			
参考書			
授業内で紹介します。			
成績の評価基準			
講義でのプレゼンとレポートの総合評価。なお、全授業に出席することが前提です。2回以上欠席した場合には単位を認めません。			
オフィスアワ -			
メールにてアポイントをとってください。			
アクティブ・ラーニング			
グループワーク；ディベート；フィールドワーク；プレゼンテーション；			
アクティブ・ラーニング（その他の内容）			
アクティブ・ラーニング（授業回数）			
15回中15回			
備考（受講要件）			

ナンバリングコード			
科目名			
演習			
英語名			
Seminar			
開講学科		コース	
法経社会学科経済コース 新旧共通			
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会・経済コース / 必修科目	講義	2単位	2～4年
担当教員	連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)	
林田吉恵			
共同担当教員		前後期	
		前期	
授業概要			
<p>「社会経済（現代公共部門、地域問題、グローバル社会等）の諸問題とその解決策の研究」</p> <p>論理的な思考を養うために、徹底的にゼミでは議論する。 本演習では、学生がみずから問題を設定し、それについて探求することが求められる。社会経済問題に対する知的好奇心を発掘し、学識を深めることが、本演習の目的である。社会に出て必要とされる基本的スキルを、共同研究を通じて身につけ、その向上を目指す。</p> <p>共同研究のテーマによっては、フィールドに出てヒアリングをすることもある。 分析をするにあたり、統計手法についてもマスターできるようにする。 また、学内・学外でのディベート大会や他大学との合同ゼミも、随時やっていく予定である。</p>			
学修目標			
<p>本演習の到達目標は、つぎの5点である。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1、明確な問題意識のもとに研究テーマを設定し、その問題意識を他のメンバーと共有することができる。 2、選んだ研究テーマに対して適切な参考文献を揃え、それらを深く読解し、分析することができる。 3、研究成果を他者に対して明確に伝えることができる（プレゼンテーション能力）。 4、他者の研究成果にも関心を持ち、適切な質疑応答をおこなうことができる（ディスカッション能力）。 5、文書および口頭で自己の考えを明確に表現することができる。 6、研究成果を論文としてまとめることができる（書く能力）。 			
授業計画			
<p>課題解決のための処方箋を論理的に検討する能力を養成するために、共同研究報告を中心に分析結果を発表形式で進める。</p> <p>ゼミ内でのグループ討論を中心に進める。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1、ディベート（1）のためにテーマ決定・基礎知識の習得・分析・報告。 2、ゼミ生による問題提起と共同研究の下地作り。 3、各テーマごとに分析結果を報告・議論。 <p>ゼミ内でグループを作り、それぞれ自由にテーマを決める。それについてグループ学習をして、レジュメを作成し、パワーポイントなどで報告する。報告者以外のゼミ生は、報告を聞き、それについて質疑応答しながら議論する。</p> <p>第1回 ガイダンス、自己紹介 第2回～第14回 研究指導、報告、ディスカッション 第15回 総括</p>			
授業外学習（予習・復習）			
<p>この講義は授業外のグループ研究に基づいて進行していくことから、必ず授業時間外に研究をし、グループで集まってまとめること。 （学修に係る標準時間は約2時間）</p>			

教科書

学生がレジユメを作成し、配布する。

参考書

特になし。

分析ツールの修得を行うとともに、関連テーマについて新聞・雑誌に目を通すことを勧める。

成績の評価基準

主にゼミ活動への積極的取り組みを中心に、期末レポートの評点を総合して評価する。

オフィスアワ -

火曜日

必ず事前にメールで連絡してください

アクティブ・ラーニング

アクティブ・ラーニング（その他の内容）

アクティブ・ラーニング（授業回数）

備考（受講要件）

ゼミは、学生主体の共同作業の場であるから、各人の積極的な参加が前提となる。学問は真剣勝負の世界であるが、しかし同時に楽しい雰囲気の中でお互いに助け合いながら学識を深めてゆきたい。このような趣旨に賛同して、熱意ある仲間が集うことを期待している。ゼミ活動への積極的な姿勢を期待する。

無断欠席3回した場合は単位認定しません。

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
FHS-CCD2301			
科目名			
演習			
英語名			
Seminar			
開講学科		コース	
法経社会学科経済コース 新旧共通			
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会・経済コース / 必修科目	演習	2単位	2～4年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
山本一哉		099-285-7595	yamamoto@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
なし		後期	
授業概要			
本演習では、アジア経済の発展メカニズムと展望について考察する。 演習では、テキストを分担して報告してもらい、ディスカッションを行う。			
学修目標			
1) 基本的な開発経済学の理論について理解する。 2) アジア経済の発展メカニズムについて理解する。 3) 資料収集、報告、ディスカッションの仕方を身につける。			
授業計画			
第1回	ガイダンス		
第2回～第4回	報告及びディスカッション		
第5回	まとめ		
授業外学習 (予習・復習)			
テキストをしっかり読んでゼミに参加すること。復習に関しては、報告者のレジюмеとテキストを読み返すこと。			
教科書			
末廣昭『キャッチアップ型工業化論』名古屋大学出版会(2000年)			
参考書			
講義の際に紹介する。			
成績の評価基準			
授業への取り組み態度			
オフィスアワー			
木曜日3限目			
アクティブ・ラーニング			
アクティブ・ラーニング (その他の内容)			
アクティブ・ラーニング (授業回数)			
備考 (受講要件)			
特になし			
実務経験のある教員による実践的授業			

ナンバリングコード			
FHS-CCD2301			
科目名			
演習			
英語名			
Seminar			
開講学科		コース	
法経社会学科経済コース 新旧共通			
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会・経済コース / 必修科目	演習	2単位	2～4年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
市川英孝			ichikawa@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
		後期	
授業概要			
<p>前期から引き続き、4年生は各自の卒論に関する発表を、3年生は各自の研究テーマに沿って発表を行ってもらおう。その内容に関して参加者全員で議論を行う。2年生は上級生が発表する内容に関して、客観的な立場で議論を行う。必要に応じて、2年生にも発表を求める。</p> <p>研究テーマとしては、広義のシステム構築に関して、幅広く議論を進めていく。</p>			
学修目標			
<p>4年生は、多くの意見に耳を傾け、卒論の質をより高めるように努める。</p> <p>3年生は、各自の興味分野に深みを持ち、他者の研究内容などから広く情報を得て、卒論作成に向けて準備を行う。</p> <p>2年生は、上級生の発表を踏まえて、3年次以降の研究テーマに関して方向付けを行う。</p>			
授業計画			
第1回	各発表者による報告、議論(1)		
第2回	各発表者による報告、議論(2)		
第3回	各発表者による報告、議論(3)		
第4回	各発表者による報告、議論(4)		
第5回	各発表者による報告、議論(5)		
第6回	各発表者による報告、議論(6)		
第7回	各発表者による報告、議論(7)		
第8回	各発表者による報告、議論(8)		
第9回	各発表者による報告、議論(9)		
第10回	各発表者による報告、議論(10)		
第11回	各発表者による報告、議論(11)		
第12回	各発表者による報告、議論(12)		
第13回	各発表者による報告、議論(13)		
第14回	各発表者による報告、議論(14)		
第15回	各発表者による報告、議論(15)		
授業外学習(予習・復習)			
発表者はしっかりとした準備をすること。			
教科書			
特になし。(必要に応じてプリントなどを配布)			
参考書			
適宜紹介する。			
成績の評価基準			
積極的な授業参加100%			
オフィスアワー			
メールで連絡してください。その後対応します。			
アクティブ・ラーニング			

アクティブ・ラーニング（その他の内容）

アクティブ・ラーニング（授業回数）

備考（受講要件）

なし

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
FHS-CCD2301			
科目名			
演習			
英語名			
Seminar			
開講学科		コース	
法経社会学科経済コース 新旧共通			
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会・経済コース/必修科目	演習	2単位	2～4年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
王 鏡凱			kyogaiw@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
		後期	
授業概要			
コーポレート・ファイナンス（経営財務）、経営学・経済学に関する問題について様々な角度から討論することにより、資金調達についての理解を深めるとともに、経営学・経済学全般を幅広く理解することを目指す。テーマごとに担当者が報告を行い、全員で討論する。テーマ等の詳細については受講生と相談のうえ決める。			
学修目標			
(1) コーポレート・ファイナンス（経営財務）、経営学と経済学の基礎知識を修得し、主な研究手法について理解する。			
(2) 研究手法に沿って資料収集、報告、ディスカッションの仕方を身につける。			
(3) 物事を論理的にかつ直感的に捉える能力を養う。			
授業計画			
第1回 ガイダンス 第2回～第15回 発表と討論			
授業外学習（予習・復習）			
ニュースに目を通す、講義で勉強したものを現実の事例に当てはめる。 興味ある企業や就職したい企業に当てはめるのは最も効果的である。			
教科書			
必要に応じて適宜、指定する。または、プリントを配布する。			
参考書			
授業中適宜紹介する。 砂川伸幸 『コーポレート・ファイナンス入門<第2版>』 2017年（日経文庫） 石野雄一 『ざっくり分かるファイナンス 経営センスを磨くための財務』 2007年（光文社） 白石俊輔 『経済学で出る数学 ワークブックでじっくりせめる』 2013年（日本評論社）			
成績の評価基準			
個々人の努力、発言、発想の転換等を総合的に判断する。			
オフィスアワー			
授業中いつでも質問ができる環境にあります。参加者の質問はこの授業にとって重要な部分であり、参加者の質問なしではこの授業が成り立たないといっても過言ではありません。授業中の質問は大歓迎です。または授業の後でも質問を受け付けます。もしくは事前にメールでアポイントをとった上で研究室に来てください。			
アクティブ・ラーニング			
アクティブ・ラーニング（その他の内容）			
アクティブ・ラーニング（授業回数）			
備考（受講要件）			
*電卓を持参すること。 *出席は成績の必要条件であり、十分条件ではないことを理解してください。 *基本的には講義計画に沿って授業を進めるが、受講生の理解度を考え調整することもある。			

ナンバリングコード			
FHS-CCD2301			
科目名			
演習			
英語名			
Seminar			
開講学科		コース	
法経社会学科経済コース 新旧共通			
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会・経済コース / 必修科目	演習	2単位	2～4年
担当教員	連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)	
山本一哉	099-285-7595	yamamoto@leh.kagoshima-u.ac.jp	
共同担当教員	前後期		
なし	前期		
授業概要			
本演習では、国際経済に関する入門書をテキストとし、国際経済の基本的な理論や用語について学習するとともに、世界経済の現状と問題等について考察する。 演習では、テキストを分担して報告してもらい、ディスカッションを行う。			
学修目標			
1) 国際経済の基本的な理論を身につける。 2) 国際収支の不均衡など世界経済が抱える問題を理解する。 3) 資料収集、報告、ディスカッションの仕方を身につける。			
授業計画			
第1回 ガイダンス 第2回～第14回 報告及びディスカッション 第15回 まとめ			
授業外学習 (予習・復習)			
テキストをしっかり読んでゼミに参加すること。復習に関しては、報告者のレジюмеとテキストを読み返すこと。			
教科書			
講義の際に説明する。			
参考書			
講義の際に紹介する。			
成績の評価基準			
授業への取り組み態度			
オフィスアワー			
曜日・時間：毎週金曜日2限、場所：研究室			
アクティブ・ラーニング			
アクティブ・ラーニング (その他の内容)			
アクティブ・ラーニング (授業回数)			
備考 (受講要件)			
実務経験のある教員による実践的授業			

ナンバリングコード			
FHS-CCD2301			
科目名			
演習			
英語名			
Seminar			
開講学科		コース	
法経社会学科経済コース 新旧共通			
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会・経済コース / 必修科目	演習	2単位	2～4年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
市川英孝			ichikawa@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
		前期	
授業概要			
4年生は各自の卒論に関する発表を、3年生は各自の研究テーマに沿って発表を行ってもらおう。その内容に関して参加者全員で議論を行う。2年生は上級生が発表する内容に関して、客観的な立場で議論を行う。必要に応じて、2年生にも発表を求める。 研究テーマとしては、広義のシステム構築に関して、幅広く議論を進めていく。			
学修目標			
4年生は、多くの意見に耳を傾け、卒論の質をより高めるように努める。 3年生は、各自の興味分野に深みを持ち、他者の研究内容などから広く情報を得て、卒論作成に向けて準備を行う。 2年生は、上級生の発表を踏まえて、3年次以降の研究テーマに関して方向付けを行う。			
授業計画			
第1回	各発表者による報告、議論(1)		
第2回	各発表者による報告、議論(2)		
第3回	各発表者による報告、議論(3)		
第4回	各発表者による報告、議論(4)		
第5回	各発表者による報告、議論(5)		
第6回	各発表者による報告、議論(6)		
第7回	各発表者による報告、議論(7)		
第8回	各発表者による報告、議論(8)		
第9回	各発表者による報告、議論(9)		
第10回	各発表者による報告、議論(10)		
第11回	各発表者による報告、議論(11)		
第12回	各発表者による報告、議論(12)		
第13回	各発表者による報告、議論(13)		
第14回	各発表者による報告、議論(14)		
第15回	各発表者による報告、議論(15)		
授業外学習(予習・復習)			
発表者はしっかりとした準備をすること。			
教科書			
特になし。(必要に応じてプリントなどを配布)			
参考書			
適宜紹介する。			
成績の評価基準			
積極的な授業参加100%			
オフィスアワー			
メールで連絡してください。その後対応します。			
アクティブ・ラーニング			

アクティブ・ラーニング（その他の内容）

アクティブ・ラーニング（授業回数）

備考（受講要件）

なし

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
FHS-CCD2301			
科目名			
演習			
英語名			
Seminar			
開講学科		コース	
法経社会学科経済コース 新旧共通			
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会・経済コース/必修科目	演習	2単位	2~4年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
王 鏡凱			kyogaiw@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
		前期	
授業概要			
コーポレート・ファイナンス（経営財務）、経営学、行動経済学に関する問題について様々な角度から討論することにより、資金調達についての理解を深めるとともに、経営学全般を幅広く理解することを目指す。テーマごとに担当者が報告を行い、全員で討論する。テーマ等の詳細については受講生と相談の上、決める。			
学修目標			
(1) コーポレート・ファイナンス（経営財務）、経営学、行動経済学の基礎知識を修得し、主な研究手法について理解する。			
(2) 研究手法に沿って資料収集、報告、ディスカッションの仕方を身につける。			
(3) 物事を論理的にかつ直感的に捉える能力を養う。			
授業計画			
第1回 ガイダンス			
第2回～第15回 発表と討論			
授業外学習（予習・復習）			
ニュースに目を通す、講義で勉強したものを現実の事例に当てはめる。 興味ある企業や就職したい企業に当てはめるのは最も効果的である。			
教科書			
必要に応じて適宜、指定する。または、プリントを配布する。			
参考書			
授業中適宜紹介する。 砂川伸幸 『コーポレート・ファイナンス入門<第2版>』 2017年（日経文庫） 石野雄一 『ざっくり分かるファイナンス 経営センスを磨くための財務』 2007年（光文社） 白石俊輔 『経済学で出る数学 ワークブックでじっくりせめる』 2013年（日本評論社）			
成績の評価基準			
個々人の努力、発言、発想の転換等を総合的に判断する。			
オフィスアワ -			
授業中いつでも質問ができる環境にあります。参加者の質問はこの授業にとって重要な部分であり、参加者の質問なしではこの授業が成り立たないといっても過言ではありません。授業中の質問は大歓迎です。または授業の後でも質問を受け付けます。もしくは事前にメールでアポイントをとった上で研究室に来てください。			
アクティブ・ラーニング			
アクティブ・ラーニング（その他の内容）			
アクティブ・ラーニング（授業回数）			
備考（受講要件）			
*電卓を持参すること。			

*出席は成績の必要条件であり，十分条件ではないことを理解してください．

*基本的には講義計画に沿って授業を進めるが，受講生の理解度を考え調整することもある．

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
FHS-CCD2301			
科目名			
演習			
英語名			
Seminar			
開講学科		コース	
法経社会学科経済コース 新旧共通			
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会・経済コース / 必修科目	演習	2単位	2～4年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
澤田成章		0992858888	sawada@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
		前期	
授業概要			
<p>会計は企業行動を映し出す鏡であると言われる。したがって、会計を学び習得する上では、企業行動と財務諸表数値の照らし合わせを行うことも重要なステップとなる。本ゼミではこうした点に注目し、財務諸表分析を中心とした企業行動分析を行う。とりわけ、本ゼミでは一般的な理論やフレームワークでは説明のつかない現象に対する分析を重視する。</p>			
学修目標			
<p>一般的な理論やフレームワークでは説明のつかない現象に対して独自の説明を行うためには、徹底的に情報を収集し、自身の頭で因果関係の仮説検証を行い、他者に伝わりやすいように情報を整理、加工、編集することが不可欠である。こうした作業を通じて、情報収集力、思考力、表現力、コミュニケーション能力の向上を図ることを目的とする。</p>			
授業計画			
<p>輪読を通じた知識の習得と、習得した知識を実際に活用した分析についてのプレゼンテーションを並行して進める。テキストである『ゼミナール現代会計入門（第9版）』は2か月程度で読了する予定であるが、その後の内容については適宜ゼミ生との議論によって決定していく。なお、課題への取り組みは、原則としてグループ単位で進めることを想定している。</p>			
授業外学習（予習・復習）			
<p>グループで資料収集・議論・レジュメ作成等をしていただきます。</p>			
教科書			
『ゼミナール現代会計入門（第9版）』伊藤邦雄著、日本経済新聞出版社			
参考書			
適宜提示します。			
成績の評価基準			
出席および講義内の議論への参画度（50%）、最終レポート（50%）の総合評価による。			
オフィスアワー			
適宜、事前にアポイントメントを取ること。			
アクティブ・ラーニング			
アクティブ・ラーニング（その他の内容）			
アクティブ・ラーニング（授業回数）			
備考（受講要件）			
実務経験のある教員による実践的授業			

ナンバリングコード			
FHS-CCD2301			
科目名			
演習			
英語名			
Seminar			
開講学科		コース	
法経社会学科経済コース 新旧共通			
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会・経済コース / 必修科目	演習	2単位	2～4年
担当教員	連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)	
西村知	099-285-8851	satoru@leh.kagoshima-u.ac.jp	
共同担当教員		前後期	
なし		前期	
授業概要			
本授業は受講生が主体となっておこなう。アジア経済に関する文献の輪読、報告および時事問題に関する研究をおこなう。			
学修目標			
受講生はアジア経済に関する知識を増やすとともに、自己表現能力 (プレゼン、ディスカッション) を高める。			
授業計画			
1回 オリエンテーション			
2-14回 アジア経済に関する文献の輪読および時事問題研究			
15回 総括 (アジア経済に関して得た知識の再確認を中心として)			
授業外学習 (予習・復習)			
授業中、適宜、指示する。			
教科書			
オリエンテーションで指示する。			
参考書			
オリエンテーションで指示する。			
成績の評価基準			
報告と議論の内容			
オフィスアワ -			
火曜日2時半から3時半			
アクティブ・ラーニング			
アクティブ・ラーニング (その他の内容)			
アクティブ・ラーニング (授業回数)			
備考 (受講要件)			
特になし。			
実務経験のある教員による実践的授業			

ナンバリングコード			
FHS-CCD2301			
科目名			
演習			
英語名			
Seminar			
開講学科		コース	
法経社会学科経済コース 新旧共通			
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会・経済コース / 必修科目	演習	2単位	2～4年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
三浦壮		099 - 285 - 8905	miura@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
		後期	
授業概要			
<p>本演習のテーマは「日本経済史・経営史」である。経済史・経営史は経済学・経営学の領域の中できわめて重要な位置を占める分野であるとともに、歴史学の一角も形成している。また、総合性のある学術分野であり、経済・経営を軸としながら、政治・文化・社会・人物など、経済外的な要素を組み込みながら現実の動きを考えることができる。</p> <p>本演習では日本経済史・経営史の基礎を、具体的な史実を紐解きながら学んでいく。後期は近現代日本経済史に関するテキストを輪読し、理解を深めていく予定である。日本経済の歩みを、数式ではなく、具体的な事実関係のなかから勉強したいという人、歴史が好きという人に向いているゼミである。</p>			
学修目標			
<ol style="list-style-type: none"> 1. 自分で作成したレジュメ・資料によってプレゼンテーションができるようになる。 2. 近現代日本経済史・経営史（日本経済論も含む）の基礎概念について説明できる。 3. 日本経済史・経営史の諸問題について議論できるようになる。 			
授業計画			
第1回 ガイダンス 第2回 第15回 発表と討論 第16回 まとめ 途中、小学校出前授業などの体験型学習を取り入れる。			
授業外学習（予習・復習）			
必要に応じて、その都度指示する。			
教科書			
ガイダンスの際の受講生との話し合いにより決定する。候補としては 三和良一『概説日本経済史 近現代〔第2版〕』（2002年、東京大学出版会） 武田晴人『新版 日本経済の事件簿』（2009年、日本経済評論社） を考えているが、他にも面白そうな専門書があれば提示する。			
参考書			
講義の中で適宜紹介する。			
成績の評価基準			
報告と議論の内容によって決める。			
オフィスアワー			
金曜3限目			
アクティブ・ラーニング			
ディベート；フィールドワーク；プレゼンテーション；			
アクティブ・ラーニング（その他の内容）			
アクティブ・ラーニング（授業回数）			
16回中14回			
備考（受講要件）			

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
科目名			
演習			
英語名			
Seminar			
開講学科		コース	
法経社会学科経済コース 新旧共通			
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会・経済コース / 必修科目	講義	2単位	2～4年
担当教員	連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)	
林田吉恵			
共同担当教員		前後期	
		後期	
授業概要			
「社会経済（現代公共部門、地域問題、グローバル社会等）の諸問題とその解決策の研究」			
<p>論理的な思考を養うために、徹底的にゼミでは議論する。</p> <p>本演習では、学生がみずから問題を設定し、それについて探求することが求められる。社会経済問題に対する知的好奇心を発掘し、学識を深めることが、本演習の目的である。社会に出て必要とされる基本的スキルを、共同研究を通じて身につけ、その向上を目指す。</p> <p>共同研究のテーマによっては、フィールドに出てヒアリングをすることもある。分析をするにあたり、統計手法についてもマスターできるようにする。また、学内・学外でのディベート大会や他大学との合同ゼミも、随時やっていく予定である。</p>			
学修目標			
<p>本演習の到達目標は、つぎの5点である。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1、明確な問題意識のもとに研究テーマを設定し、その問題意識を他のメンバーと共有することができる。 2、選んだ研究テーマに対して適切な参考文献を揃え、それらを深く読解し、分析することができる。 3、研究成果を他者に対して明確に伝えることができる（プレゼンテーション能力）。 4、他者の研究成果にも関心を持ち、適切な質疑応答をおこなうことができる（ディスカッション能力）。 5、文書および口頭で自己の考えを明確に表現することができる。 6、研究成果を論文としてまとめることができる（書く能力）。 			
授業計画			
<p>課題解決のための処方箋を論理的に検討する能力を養成するために、共同研究報告を中心に分析結果を発表形式で進める。</p> <p>ゼミ内でのグループ討論を中心に進める。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1、ディベート（1）のためにテーマ決定・基礎知識の習得・分析・報告。 2、ゼミ生による問題提起と共同研究の下地作り。 3、各テーマごとに分析結果を報告・議論。 <p>ゼミ内でグループを作り、それぞれ自由にテーマを決める。それについてグループ学習をして、レジュメを作成し、パワーポイントなどで報告する。報告者以外のゼミ生は、報告を聞き、それについて質疑応答しながら議論する。</p> <p>第1回 ガイダンス、自己紹介 第2回～第14回 研究指導、報告、ディスカッション 第15回 総括</p>			
授業外学習（予習・復習）			
<p>この講義は授業外のグループ研究に基づいて進行していくことから、必ず授業時間外に研究をし、グループで集まってまとめること。</p> <p>（学修に係る標準時間は約2時間）</p>			

教科書

学生がレジユメを作成し、配布する。

参考書

特になし。

分析ツールの修得を行うとともに、関連テーマについて新聞・雑誌に目を通すことを勧める。

成績の評価基準

主にゼミ活動への積極的取り組みを中心に、期末レポートの評点を総合して評価する。

オフィスアワ -

火曜日

必ず事前にメールで連絡してください

アクティブ・ラーニング

アクティブ・ラーニング（その他の内容）

アクティブ・ラーニング（授業回数）

備考（受講要件）

ゼミは、学生主体の共同作業の場であるから、各人の積極的な参加が前提となる。学問は真剣勝負の世界であるが、しかし同時に楽しい雰囲気の中でお互いに助け合いながら学識を深めてゆきたい。このような趣旨に賛同して、熱意ある仲間が集うことを期待している。ゼミ活動への積極的な姿勢を期待する。

無断欠席3回した場合は単位認定しません。

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
FHS-CCE2443			
科目名			
東南アジア経済論			
英語名			
South-east Asian Economics			
開講学科		コース	
法経社会学科経済コース 新旧共通			
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会・経済コース/選択科目	講義	2単位	2～4年
担当教員	連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)	
西村知	099-285-8851	satoru@leh.kagoshima-u.ac.jp	
共同担当教員		前後期	
なし		前期	
授業概要			
<ul style="list-style-type: none"> ・ 東南アジア経済の特徴を共通性と特殊性を歴史、経済構造の点などから概観したのち、いくつかの国（シンガポール、フィリピン、ベトナムなど）の戦後経済史を解説する。 ・ 基礎的な開発経済学の解説をおこなう。 ・ 教員が研究をおこなうフィリピン経済の実態を体験談から話す。 ・ 映画などを用いて、東南アジア経済の視覚的理解を促す。 			
学修目標			
<ul style="list-style-type: none"> ・ 東南アジア経済の抱える問題を理解する。 ・ 開発経済学の基礎を学ぶ。 ・ 東南アジア経済を研究することの楽しさを学ぶ。 			
授業計画			
1 オリエンテーション（授業の内容、受講上の注意）			
2-5 東南アジア経済の特徴			
6.7 シンガポール経済			
8.9 フィリピン経済			
10.11 ベトナム経済			
12.13 タイ経済			
14 東南アジア経済に関する映画上映			
15 総括（全授業内容の復習）			
授業外学習（予習・復習）			
授業中、適宜、指示する。			
教科書			
授業の開始後に指示する。			
参考書			
授業の開始後に指示する。			
成績の評価基準			
100点満点中			
90点：期末筆記試験1回（授業内容の習得度確認）			
10点：東南アジア経済に関するレポート1回			
オフィスアワ -			
火曜日1時半から2時半			
アクティブ・ラーニング			
アクティブ・ラーニング（その他の内容）			
アクティブ・ラーニング（授業回数）			
備考（受講要件）			

なし。

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード

科目名

公共経済学

英語名

開講学科

コース

法経社会学科経済コース 新旧共通

授業科目区分

授業形態

単位数

開講期

法経社会・経済コース/選
択科目

講義

2単位

2~4年

担当教員

連絡先 (TEL)

連絡先 (MAIL)

林田吉恵

yhayashida@leh.kagoshima-u.ac.jp

共同担当教員

前後期

前期

授業概要

市場を基本とする資本主義経済において、なぜ政府活動が必要なのか、政府活動の規模は適正なのか、政府活動はどのようなメカニズムで決定されるのか、政府に失敗はないのか、政府活動の財源はどのように調達すべきなのかといったテーマに関して、政府活動の現状（歴史）の紹介と、理論による考え方を提示することを通じて、わが国が抱える様々な問題の解決の糸口を見いだす力を養う。

学修目標

1. 政府活動の現状と課題について、幅広い知識を習得する。
2. 政府活動の必要性について、自分の言葉で述べられるようになる。
3. わが国が抱える様々な問題について、解決の糸口を見いだす力を養う。

授業計画

公共経済学への関心を深めたうえで、問題発生メカニズムやあるべき姿について、理論にウェイトを置いて解説するという形で講義を進める。なお、できる限り学生の反応を見ながら講義を進めたいので、板書を中心に講義を進めるとともに、随時、学生からの発言を求め、コメントペーパーを書いてもらうなどの双方向の講義になるように努める。

したがって、講義の進捗状況によっては、シラパスを変更する可能性もある。

- 第1回 経済活動における政府の役割（キーワード：政府支出、資源配分機能、所得再分配機能、経済安定化機能）
- 第2回 公共経済学を学ぶ上で必要な経済理論の解説（キーワード：効率性、パレート最適、競争均衡）
- 第3回 公共財とはどのようなものか（1）（キーワード：非排除性、非競合性、ただ乗り）
- 第4回 公共財とはどのようなものか（2）（キーワード：純粋公共財、準公共財）
- 第5回 公共財とはどのようなものか（3）（キーワード：民間財、価値財、効率性）
- 第6回 公共財の最適供給（キーワード：ナッシュ均衡、クラブ財）
- 第7回 公共財供給の技術的効率性（キーワード：配分の効率性、生産の効率性）
- 第8回 外部性と市場の失敗（キーワード：負の外部性と正の外部性、生産の外部性と消費の外部性、金銭的外部性と技術的外部性）
- 第9回 外部性と最適資源配分（キーワード：環境問題、内部化、ピグー税）
- 第10回 価値財（キーワード：消費者主権、外部性、強制）
- 第11回 情報の非対称性（キーワード：情報の非対称性、危険回避行動、リスクプレミアム）
- 第12回 公共選択（キーワード：多数決投票、中位投票者モデル、アローの不可能性定理）
- 第13回 公平な所得分配と政府の役割（キーワード：ローレンツ曲線、ジニ係数、累進所得税）
- 第14回 政府の失敗（キーワード：エージェンシー問題、官僚制）
- 第15回 講義のまとめを行い、受講生からの質問を受けつける。予備。

定期試験

授業外学習（予習・復習）

公共部門の活動について日常から新聞、その他のメディアへの関心を持つてもらいた。また、経済理論をベ-

スとした講義も主要な部分を占めることから、基本的なミクロ経済学に関して学習しておくとともに、講義内容について理論を復習するためにも経済学のテキストを学習すること。

教科書

特に指定しない。講義内容に応じて、適宜資料を配布する。

参考書

井堀利宏『基礎コース公共経済学第2版』新世社
 林 宜嗣『基本コース財政学 第3版』 新世社
 林 宜嗣『地方財政 新版』 有斐閣

成績の評価基準

定期試験および、平常態度（講義内レポート、受講態度）等も考慮して評価する。

オフィスアワ -

火曜日

必ず事前にメールで連絡してください。

アクティブ・ラーニング

アクティブ・ラーニング（その他の内容）

アクティブ・ラーニング（授業回数）

備考（受講要件）

理解を深めるために板書で講義をすすめるため、きちんとノートがとれるようにする。そのため、スマホで板書の写真を撮ることは望まない。

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード

科目名

財政政策論II (財政学総論)

英語名

Public Finance II

開講学科

コース

法経社会学科経済コース 新旧共通

授業科目区分

授業形態

単位数

開講期

法経社会・経済コース / 選択科目

講義

2単位

2~4年

担当教員

連絡先 (TEL)

連絡先 (MAIL)

林田吉恵

yhayashida@leh.kagoshima-u.ac.jp

共同担当教員

前後期

前期

授業概要

近年、わが国の財政状況は厳しくなるとともに、高齢社会に伴い年金問題や世代間格差、地方分権、将来の増税不安など、解決すべき財政問題は増え続け、財政運年はますます困難の度を強めている。この講義では国と地方の財政関係（特に税）の現状とあり方について考察する。

学修目標

受講生が現実の財政問題を論理的に考える力や判断力を身につけることを到達目標としている。

授業計画

できるかぎり受講生の反応を見ながら講義を進めたいので、板書を中心に講義を進めるとともに、随時、受講生からの発言を求め、コメントペーパーを書いてもらうなどの双方向の講義になるように努める。

したがって、講義の進捗状況によっては、シラバスを変更する可能性もある。

- 第1回 税の役割と租税原則 租税原則、応能原則と応益課税、地方税減速
 第2回 課税における公平 水平的公平と垂直的公平、転嫁、帰着
 第3回 課税と経済効率(1) 所得税、勤労意欲、
 第4回 課税と経済効率(2) 所得税、消費選択、貯蓄行動
 第5回 日本の税制 租税負担率、租税体系、税制改革
 第6回 日本の主要な税(1) 課税最低限、累進税率構造、所得控除、クロヨン問題、給付税額控除
 第7回 日本の主要な税(2) 物品税、簡易課税、帳簿方式とインボイス方式、軽減税率
 第8回 日本の主要な税(3) 実効税率、課税ベース、投資行動
 第9回 日本の主要な税(4) 地方分権、課税自主権 固定資産税、地方法人課税
 第10回 社会保障の課題(1) 超高齢社会、貧困、負の所得税、積立方式と賦課方式
 年金財政
 第11回 社会保障の課題(2) 国民医療費、自己負担、モラル・ハザード、公的介護保険
 第12回 国と地方の関係を考える 地方分権改革、補完性の原理、近接性の原理
 第13回 地方財政の問題(1) 受益者負担、民間委託
 第14回 地方財政の問題(2) 広域連携
 第15回 講義のまとめを行い、受講生からの質問を受けつける。予備。

定期試験

授業外学習 (予習・復習)

新聞やニュースなどを読む(観る)など、わが国の抱える様々な経済問題に対するの関心を持つようにする。講義で疑問に思ったことや興味をもったことについて自分で調べる。

(学修にかかる標準時間は約60分)

教科書

とくに定めない。講義内容に応じて、適宜資料を配布する。

参考書

林 宜嗣 『基本コース財政学 第3版』 新世社

林 宜嗣『地方財政 新版』 有斐閣

成績の評価基準

定期試験および、平常態度(講義内レポート、受講態度)等も考慮して評価する。

オフィスアワ -

火曜日

必ず事前にメールで連絡してください。

アクティブ・ラーニング

アクティブ・ラーニング(その他の内容)

アクティブ・ラーニング(授業回数)

備考(受講要件)

板書で講義をすすめるため、きちんとノートがとれるようにする。

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
科目名			
職業指導			
英語名			
開講学科		コース	
法経社会学科経済コース 新旧共通			
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会・経済コース/選択科目	講義	2単位	2～4年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
池元正美		090-8223-2737	imasami@d-linxs.com
共同担当教員		前後期	
		前期	
授業概要			
<p>学校教育現場で教職員にとって必須となるキャリア教育についての講義です。 組織や企業におけるキャリア開発及びその支援に活用されている様々な理論や手法を、現場における事例を取り入れながら、グループワークなども含めキャリア教育に関しての基本を学びます。 特に、働く上で重要な意味を持つ「内的キャリア」に焦点をあて、自己理解やコミュニケーション、キャリア開発に関するワークも取り入れ、自らのキャリア開発についても主体的に取り組んでいけるような講義内容です。</p>			
学修目標			
<ul style="list-style-type: none"> * キャリア教育の基本を理解し、指導ができる。 * 内的キャリアに基づいた勤労観・職業観の育成を図ることができる。 * 学校期から社会への移行期におけるキャリア開発の在り方を考えることができる。 * 自己理解の重要性を理解し、自らの自己理解も取り組むことができる。 			
授業計画			
第1回：キャリアとは仕事人生/人の欲求とモチベーション 第2回：能力と仕事、人間理解力 第3回：自己理解（個人ワーク） 第4回：自己理解（自己表現ワーク） 第5回：自己理解（進路選択における重要性） 第6回：コミュニケーション理論（人との関係を作る） 第7回：コミュニケーション理論（自己表現） 第8回：コミュニケーション理論（傾聴） 第9回：内的キャリアと「働く」ための価値観 第10回：人のタイプと信頼関係（ソーシャルスタイル、ジョ・ハリの窓） 第11回：グループワークの理論と実践 第12回：キャリア開発理論（理論と考え方） 第13回：職業選択とキャリアプラン 第14回：若者と仕事 第15回：新しい働き方とダイバーシティ			
授業外学習（予習・復習）			
授業で学習した内容を、可能な限り日常生活の中でも実践してください。 実践した結果から感じた課題等については授業で積極的に質問してください。			
教科書			
授業の都度資料を配布します。			
参考書			
購入が必須ではありませんが、自学自習に取り組みたい学生には以下を推奨します。 * 「キャリア・コンサルティング 理論と実践」（木村周著 / 社団法人 雇用問題研究会 / 税別2,600円） * 「自分のキャリアを自分で考えるためのワークブック」（小野田博之著 / 日本能率協会マネジメントセンター / 税別1,500円）			

成績の評価基準

- * 期末レポート (60 %)
- * 受講状況 (15 %)
- * 授業後のコメント票 (25 %)

オフィスアワ -

アクティブ・ラーニング

グループワーク; 学習の振り返り (ミニッツ・ペーパー等); その他;

アクティブ・ラーニング (その他の内容)

自己理解のためのシート作成等

アクティブ・ラーニング (授業回数)

15回

備考 (受講要件)

教員免許取得を目指す学生を対象に計画を立てております。

実務経験のある教員による実践的授業

コンピュータースクール、パソコン・ワープロ教室を経営する会社の代表により行われる。組織や企業におけるキャリア開発及びその支援に活用されている様々な理論や手法を、現場における事例を取り入れながら、グループワークなども含め、キャリア教育の基本を学ぶ。

ナンバリングコード			
BW2317			
科目名			
特殊講義（税の仕組み-税理士の役割-）			
英語名			
開講学科		コース	
法経社会学科経済コース 新旧共通			
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会・経済コース/選択科目	講義	2単位	2～4年
担当教員		連絡先（TEL）	
市川英孝			
共同担当教員		連絡先（MAIL）	
馬場武		ichikawa@leh.kagoshima-u.ac.jp	
		前後期	
		後期	
授業概要			
われわれの生活において、税金は密接にかかわっている。国や地方自治体は納められる税金によって多くの施策を実施している。そこで本講義は、南九州税理士会に所属する本学出身の税理士をゲストスピーカーに招いて講義を実施する。実際に租税に関わる専門家により、実務と密接に関連した税の仕組みについて講義していただき、国民の義務である納税された税金がどのように処理され、使われているのか、より身近に感じ、考えてもらう。			
学修目標			
日本の租税制度を理解する。 実務としての租税政策について理解する。 国民の義務としての納税と税金の役割について考える。 卒業後の職業選択の一つとして、税理士としての役割を理解する。			
授業計画			
第1回	ガイダンス（総論）		
第2回	我が国の租税制度及び財政について		
第3回	所得税の仕組みと実例？		
第4回	所得税の仕組みと実例？		
第5回	法人税の仕組みと実例？		
第6回	法人税の仕組みと実例？		
第7回	相続税の仕組みと実例？		
第8回	相続税の仕組みと実例？		
第9回	消費税およびその他の税の仕組みと実例？		
第10回	消費税およびその他の税の仕組みと実例？		
第11回	税理士の仕事？（租税の専門家）		
第12回	税理士の仕事？（企業のアドバイザー）		
第13回	税理士と社会貢献？（公益的業務）		
第14回	税理士と社会貢献？（税理士になるには）		
第15回	まとめ（総合ディスカッション）		
第16回	期末試験		
授業外学習（予習・復習）			
普段から新聞などに目を通し、社会の流れをしっかりと理解しておくこと。必要に際して指示をします。			
教科書			
特になし。			
参考書			
特になし。			
成績の評価基準			
各回ごとのショートペーパーと期末試験の結果で判断します。			
オフィスアワー			
まずメールで連絡ください。その後、個別に対応します。			

アクティブ・ラーニング

アクティブ・ラーニング（その他の内容）

アクティブ・ラーニング（授業回数）

備考（受講要件）

本講義は南九州税理士会の寄付によって実施される。各回の講師は南九州税理士会所属の本学出身者税理士がゲストスピーカーとして、授業が進められる。

実務経験のある教員による実践的授業

本講義は、南九州税理士会に所属する税理士をゲストスピーカーに招いて実施される。実際に租税に関わる専門家により、実務と密接に関連した講義をしてもらうことにより、国民の義務である税金が、どのように処理され、使用されるのか具体的に理解することができる。専任教員1回、ゲスト講師14回。

ナンバリングコード

FHS-CCE2317

科目名

経営管理論

英語名

Business Management

開講学科

コース

法経社会学科経済コース 新旧共通

授業科目区分

授業形態

単位数

開講期

法経社会・経済コース/地域社会コース/選択科目

講義

2単位

2～4年

担当教員

連絡先 (TEL)

連絡先 (MAIL)

王 鏡凱

kyogaiw@leh.kagoshima-u.ac.jp

共同担当教員

前後期

後期

授業概要

経営管理論は経営組織において目的を達成するために人や組織を管理する方法に関する理論である。この講義では、古典的管理論、マクロ組織論・ミクロ組織論の代表的学説と組織の経済学・心理学を概説する。

学修目標

この講義では、経営管理論の基礎的な考え方と代表的な学説を理解し、身につけることを目標とする。

授業計画

- 第1回 イントロダクション：経営学の考え方
- 第2回 経営学の変遷：組織論と戦略論の前史
- 第3回 管理の時代：専門経営者の台頭と組織能力
- 第4回 ミクロ組織論（1）：ホーソン実験
- 第5回 ミクロ組織論（2）：マズローの欲求階層説とマグレガーのXY理論
- 第6回 ミクロ組織論（3）：4タイプの人間モデル
- 第7回 組織の経済学（1）：取引コスト
- 第8回 組織の経済学（2）：アドバース・セレクションとモラル・ハザード
- 第9回 マクロ組織論（1）：組織デザインの手順と原則（組織の足腰は官僚制組織）
- 第10回 マクロ組織論（2）：組織形態の基本型（職能制組織と事業部制組織）
- 第11回 マクロ組織論（3）：事前的調整（標準化）と事後的調整（ヒエラルキー）
- 第12回 心理学（1）：高い給料はお好きですか？ボーナスによるインセンティブ効果
- 第13回 心理学（2）：働くことの意味とモチベーション
- 第14回 心理学（3）：イケア効果と過大評価
- 第15回 復習と質疑応答
- 第16回 期末試験

*基本的には講義計画に沿って授業を進めるが、受講生の理解度を考え調整することもある。

授業外学習（予習・復習）

ニュースに目を通す、講義で勉強したものを現実の事例に当てはめる。
興味ある企業や就職したい企業に当てはめるのは最も効果的である。

教科書

必要に応じて適宜、プリントを配布する。

参考書

1. 井原久光『テキスト経営学』ミネルヴァ書房 2000年。
2. 伊丹敬之・加護野忠男『ゼミナール 経営学入門』第3版 日本経済新聞社 2003年。
3. 沼上幹『組織デザイン』日経文庫 2004年。
4. 稲葉祐之・井上達彦・鈴木竜太・山下勝『キャリアで語る経営組織』有斐閣 2010年。
5. ポール・ミルグロム（著）、ジョン・ロバーツ（著）、奥野正寛（訳）、伊藤秀史（訳）、今井晴雄（訳）、西村理（訳）、八木甫（訳）『組織の経済学』NTT出版 1997年。
6. 白石俊輔『経済学で出る数学 ワークブックでじっくりせめる』日本評論社 2013年。

成績の評価基準

期末試験(100%)で評価する。

オフィスアワ -

授業中いつでも質問ができる環境にあります。参加者の質問はこの授業にとって重要な部分であり、参加者の質問なしではこの授業が成り立たないといっても過言ではありません。授業中の質問は大歓迎です。または授業の後でも質問を受け付けます。もしくは事前にメールでアポイントをとった上で研究室に来てください。

アクティブ・ラーニング

アクティブ・ラーニング(その他の内容)

アクティブ・ラーニング(授業回数)

0回

備考(受講要件)

*出席は成績の必要条件であり、十分条件ではないことを理解してください。

*基本的には講義計画に沿って授業を進めるが、受講生の理解度を考え調整することもある。

*ミクロ経済学・マクロ経済学・経済数学・統計学及び計量経済学の基礎があれば望ましい。

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
FHS-CCE1314			
科目名			
商業簿記（旧 簿記システム論）			
英語名			
Book-keeping			
開講学科		コース	
法経社会学科経済コース 新旧共通			
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会・経済コース/地域社会コース/選択科目	講義	2単位	2～4年
担当教員		連絡先（TEL）	連絡先（MAIL）
澤田成章		0992858888	sawada@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
		前期	
授業概要			
企業の簿記では、経済活動を一定のルールに従って2つの側面から記録する複式簿記が用いられる。複式簿記は企業の取引を正確に記録し、財政状態や経営成績を明らかにするために用いられる。本講義では複式簿記の計算システムを学ぶと共に、会計や企業行動との関連についても触れる。			
学修目標			
(1) 日商簿記3級に相当する知識の獲得 (2) 簿記の知識をベースとした財務数値の解釈			
授業計画			
第1回：ガイダンス（社会における企業の役割、企業における会計の役割） 第2回：仕訳と転記（第2章） 第3回：仕訳帳と元帳（第3章） 第4回：帳簿組織（第4章） 第5回：決算（第4章） 第6回：現金と預金（第5章） 第7回：繰越商品・仕入・売上（第6章） 第8回：売掛金と買掛金（第7章） 第9回：受取手形と支払手形（第9章） 第10回：中間試験 第11回：有価証券（第10章） 第12回：固定資産（第11章） 第13回：貸倒損失と貸倒引当金（第12章） 第14回：収益と費用（第14章） 第15回：財務諸表（第16章） 第16回：精算表の作成			
授業外学習（予習・復習）			
必要があれば講義中、適宜指示します。			
教科書			
『検定 簿記講義 平成29年度版 [3級/商業簿記]』、渡部裕巨・片山覚・北村敬子 著、中央経済社			
参考書			
『新・現代会計入門』、伊藤邦雄著、日本経済新聞社			
成績の評価基準			
ミニレポート（30%）、中間試験（30%）、期末レポート（40%）による総合評価。			
オフィスアワ -			
適宜、事前にアポイントメントを取ること。			
アクティブ・ラーニング			
学習の振り返り（ミニッツ・ペーパー等）；その他；			
アクティブ・ラーニング（その他の内容）			
演習問題に関するディスカッション			

アクティブ・ラーニング（授業回数）

15回中13回

備考（受講要件）

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
科目名			
経営財務論			
英語名			
Corporate Finance			
開講学科		コース	
法経社会学科経済コース 新旧共通			
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会・経済コース/地域社会コース/選択科目	講義	2単位	2～4年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
王 鏡凱			kyogaiw@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
		前期	
授業概要			
講義では、企業財務(コーポレート・ファイナンス)の理論と実践を学ぶ。前半は価値について、後半はリスクとリターンについて学ぶ。講義で学んだ理論を全員参加の形で実践する。具体的には、マイナス金利下の日本国債の理論価値(現在価値)、不動産・リートの理論価値、住宅ローンの理論価値、株式(東京瓦斯・大阪瓦斯・九州電力・東芝)の理論株価を求める。講義では日経新聞の記事などを用いながら、コーポレートファイナンスの基礎知識を楽しく勉強できるように工夫する。			
学修目標			
価値とリスクを理解すること。投資家の視線で企業の優劣を判断できること。			
授業計画			
第1回 インTRODクシヨン：ファイナンスと財務担当者			
第2回 将来価値の入門：単利と複利の関係			
第3回 将来価値と現在価値の関係：割引率の意味 1			
第4回 将来価値と現在価値の関係：割引率の意味 2			
第5回 様々な割引率：国債金利・CAPM・WACC			
第6回 現在価値の応用(1)：日本国債(JGB)の理論価値 1			
第7回 現在価値の応用(2)：日本国債(JGB)の理論価値 2			
第8回 現在価値の応用(2)：不動産・リート・分配金型ファンドの理論価値			
第9回 現在価値の応用(3)：生涯賃金の理論価値			
第10回 住宅ローンの理論価値(1)：エクセルのPMT関数による計算			
第11回 住宅ローンの理論価値(2)：図形による近似法(簡便法)とPMT関数			
第12回 企業の資本構成とペイアウトポリシー(配当政策)：MM無関連命題			
第13回 株式の理論価値(1)：割引キャッシュフロー法			
第14回 株式の理論価値(2)：マルチプル法			
第15回 復習と質問応答			
第16回 試験			
*基本的には講義計画に沿って授業を進めるが、受講生の理解度を考え調整することもある。			
授業外学習(予習・復習)			
日経ニュースに目を通す、講義で勉強したものを現実の事例に当てはめる。興味ある企業や就職したい企業について分析してみるの是最も効果的である。			
教科書			
必要に応じて適宜、プリントを配布する。			
参考書			
砂川伸幸 『コーポレート・ファイナンス入門 第2版』 2017年(日経文庫)			
砂川伸幸 笠原真人 『はじめての企業価値評価』 2015年(日経文庫)			
石野雄一 『ざっくり分かるファイナンス 経営センスを磨くための財務』 2007年(光文社)			
成績の評価基準			
期末試験(100%)で評価する。			
オフィスアワ -			

授業中いつでも質問ができる環境にあります。参加者の質問はこの授業にとって重要な部分であり、参加者の質問なしではこの授業が成り立たないといっても過言ではありません。授業中の質問は大歓迎です。または授業の後でも質問を受け付けます。もしくは事前にメールでアポイントをとった上で研究室に来てください。

アクティブ・ラーニング

その他;

アクティブ・ラーニング (その他の内容)

実験, シミュレーション

アクティブ・ラーニング (授業回数)

11回

備考 (受講要件)

- *電卓を持参すること。
- *出席は成績の必要条件であり、十分条件ではないことを理解してください。
- *基本的には講義計画に沿って授業を進めるが、受講生の理解度を考え調整することもある。
- *ミクロ経済学・マクロ経済学・経済数学・統計学及び計量経済学の基礎があれば望ましい。

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
科目名			
経営組織論			
英語名			
開講学科		コース	
法経社会学科経済コース 新旧共通			
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会・経済コース/地域社会コース/選択科目	講義	2単位	2～4年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
前田 卓雄			maedapi8@nakamura-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
		後期	
授業概要			
この講義は、経営学の初学者を対象としている。したがって、古典的な組織理論から現代企業が抱える組織マネジメント上の課題までを範囲として幅広く学び、「組織とは何か」という経営学の永遠のテーマについて、とりわけ株式会社を中心に理解が深まるように講義を行う。			
学修目標			
組織における様々な理論や株式会社の仕組みを理解し、実社会に出て行く上で必要となる組織メカニズムに関する知識を身につけることを目標とする。			
授業計画			
<ol style="list-style-type: none"> 1. 組織とは何か (企業論) 2. 古典的組織論 (テイラーとファヨールの組織論・組織管理論) 3. 新古典的組織論 (メイヨーのホーソン実験と非公式組織) 4. 近代的組織論 (バーナードとサイモンの組織論・組織管理論) 5. 組織における動機付け理論 (モチベーション管理) 1 6. 組織における動機付け理論 (モチベーション管理) 2 7. 組織におけるリーダーシップ論 1 8. 組織におけるリーダーシップ論 2 9. 株式会社の仕組み 10. 組織の形態と構造 11. 組織文化 12. 組織と戦略 13. 日本の経営と組織における人的資源管理 14. 企業の社会的責任 15. 総復習 16. 期末試験 			
授業外学習 (予習・復習)			
予習：予習の必要のある場合は、授業内で指示する (30分)			
復習：授業後の復習を当日中にしっかりと行い、理解を深めること。(30分)			
教科書			
必要に応じて講義レジュメを配布する。			
参考書			
<ol style="list-style-type: none"> 1. 十川廣國 編著 『経営組織論』 中央経済社 2015年。 2. 芹澤成光・日高定昭 編著 『現代経営管理論の基礎』 学文社 2011年。 3. 片山富弘・山田啓一 編著 『新版 経営学概論』 同文館 2019年。 			
成績の評価基準			
全15回の授業が終了した後に実施する期末試験 (90%) と授業への貢献度 (10%) で評価を行う。			
オフィスアワー			
アクティブ・ラーニング			

その他;

アクティブ・ラーニング(その他の内容)

講義前に行う質問に対してクラスで意見交換を行う。

アクティブ・ラーニング(授業回数)

15回中15回(毎回の授業で10分程度の意見交換を行う時間を設ける。)

備考(受講要件)

初学者を対象にしており、経営学や実社会での企業行動に関心のある学生の参加を望む。

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
BEX2317			
科目名			
特殊講義（野村証券）			
英語名			
Special Lecture			
開講学科		コース	
法経社会学科経済コース 新旧共通			
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会・経済コース/選択科目	講義	2単位	3～4年
担当教員	連絡先（TEL）		連絡先（MAIL）
山本一哉			yamamoto@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
		前期	
授業概要			
<p>本講義は、野村証券株式会社及び同鹿児島支店の支援を受けて、豊富な実務経験を有するスタッフを講師としてお迎えし行われるものである。</p> <p>本講義では、資本市場や証券投資に関するタイムリーな話題を中心に、株式市場や債券市場の役割、投資信託、ポートフォリオ・マネジメント、ライフ・プランニング等について取り上げる。豊富な実例を交えながら講義を進める予定なので、実例を通して資本市場の役割と証券投資について理解してもらいたい。</p>			
学修目標			
<ol style="list-style-type: none"> 1. 日本の資本市場の現状を理解する 2. 資本市場の機能・役割を理解する 3. 金融商品の仕組みを理解する 4. 証券投資に関する基礎知識を身に付ける 			
授業計画			
第1回 ガイダンス・経済情報の捉え方 第2回 金融資本市場の役割とその変化 第3回 債券市場の役割と投資の考え方 第4回 株式市場の役割と投資の考え方 第5回 投資信託の役割とその仕組み 第6回 リスク・リターンとポートフォリオ分析 第7回 外国為替相場とその変動要因について 第8回 資本市場における投資家心理 第9回 産業展望と投資の考え方 第10回 地域における証券会社の役割 第11回 ライフプランと資産形成 第12回 公的年金制度について 第13回 確定拠出年金（DC）について 第14回 DCポートフォリオの作成 第15回 マネープランの作成			
授業外学習（予習・復習）			
<p>講義で取り扱う範囲は広いので、内容を理解できるようにしっかりと復習すること。また、講義内容を深く理解するためには、講義前に下記の参考書等を読んでおくことを勧める。</p>			
教科書			
毎回資料を配布する。			
参考書			
『証券投資の基礎』 野村証券投資情報部 編 / 丸善株式会社			
成績の評価基準			

期末試験と授業への取り組み態度。なお、規定の回数以上欠席した場合、試験の結果にかかわらず、不可とする。公欠も含まれるので、注意すること。

成績評価の詳細については、初回のガイダンスでのみ説明する。

オフィスアワ -

授業終了後に、講師の方に直接質問すること。講義時間以外では、山本が対応する（所用がない限り、いつでも対応する）。

アクティブ・ラーニング

アクティブ・ラーニング（その他の内容）

アクティブ・ラーニング（授業回数）

備考（受講要件）

本講義は、外部の講師をお招きして行われるものである。受講生には、失礼のない態度で受講してもらいたい（遅刻・私語・睡眠厳禁）。受講生の受講態度に問題がある場合には、厳しい処置をとるつもりである。

また、講師の都合により、講義の日程が変更になることもある。

金融資本市場・経済に関するトピックを取り上げる機会が多いので、日経新聞等の経済情報に日頃から目を通しておくことが望ましい。

実務経験のある教員による実践的授業

本講義では、資本市場や証券投資に関するタイムリーな話題を中心に、株式市場や債券市場の役割、投資信託、ポートフォリオ・マネジメント、ライフ・プランニング等について取り上げる。野村証券株式会社及び同鹿児島支店の支援を受けて、豊富な実務経験を有するスタッフを講師として迎える（14回）

ナンバリングコード			
科目名			
ファイナンス			
英語名			
開講学科		コース	
法経社会学科経済コース 新旧共通			
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会・経済コース/選択科目	講義	2単位	3～4年
担当教員	連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)	
衣川 恵			
共同担当教員	前後期		
	後期		
授業概要			
この授業は、ファイナンス（財務・金融）を国民経済のためのファイナンスという視点から捉えて学習する。日本経済の軌跡を時系列的に検証しながら、日本経済が通貨制度・外国為替市場・金融市場とどのように関連しているかを学ぶ。また、日本政府の巨額債務と国債問題についても考察する。			
学修目標			
1. 日本経済に対する為替相場の影響を説明できる。 2. プラザ戦略について説明できる。 3. 平成不況について説明できる。 4. 政府債務と国債問題について説明できる。			
授業計画			
1. イントロダクション 2. 金本位制と管理通貨制 3. 金解禁とその帰結 4. 復興金融債と価格差補給金制度 5. ドル・ショックと変動為替相場制 6. プラザ戦略と日本の産業の空洞化 7. 平成デフレの原因 8. 平成デフレの構造 9. 証券市場 10. アベノミクス 11. 政府債務と国債問題 12. 政府債務の持続可能性 13. 異次元金融緩和と国債市場 14. 日本経済の再生に向けて 15. まとめ			
授業外学習（予習・復習）			
テキストと配布資料をしっかりと読んで、学習内容を確認すること。			
教科書			
衣川恵『日本のデフレ』日本経済評論社（2015年）			
参考書			
湯本雅士『デフレ下の金融・財政・為替政策』岩波書店（2011年）			
森田長太郎『国債リスク』東洋経済新報社（2014年）			
成績の評価基準			
定期試験によって評価する。			
オフィスアワ -			
アクティブ・ラーニング			
学習の振り返り（ミニッツ・ペーパー等）；			

アクティブ・ラーニング（その他の内容）

アクティブ・ラーニング（授業回数）

15回中8回程度

備考（受講要件）

板書を中心にするため、きちんとノートがとれるようにすること。

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
科目名			
環境経営論			
英語名			
開講学科		コース	
法経社会科学経済コース 新旧共通			
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会・地域社会コース /経済コース/選択科目	講義	2単位	3～4年
担当教員	連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)	
市川英孝		ichikawa@leh.kagoshima-u.ac.jp	
共同担当教員	前後期		
	後期		
授業概要			
<p>以前の企業経営は株主還元を重視し、どれだけ儲けるかが企業活動にとっての指標であった。しかしCO2の排出量の増加、気温の上昇、異常気象による災害など、社会的問題について企業が関与しているべき機会が増加している。</p> <p>環境問題への対応を含めて今後の企業は取り組みを実施していかなければならず、そのような取り組みが企業への評価の一因ともなっている。</p> <p>本授業では、企業が取り組むべき課題について、企業経営をしっかりと理解したうえで、その対応を考えていく。授業において出された課題について、参加者がしっかりとサーベイし、発表に耐えうる状況にしてもらう。そのため、授業参加が必須であり、なおかつ発言により、各自の意見のブラッシュアップをはかってもらう。</p>			
学修目標			
各自が自身の意見について、責任を持ち、発表できるようにする。そのために収集する情報に信頼性がなければならず、その情報に基づいて、自身の考えを述べられるようになる。			
授業計画			
第1回	ガイダンス (総論)		
第2回	企業経営について (1)		
第3回	企業経営について (2)		
第4回	企業経営について (3)		
第5回	世界的な環境問題について (1)		
第6回	世界的な環境問題について (2)		
第7回	世界的な環境問題について (3)		
第8回	SDG'sなどの社会的責務について (1)		
第9回	SDG'sなどの社会的責務について (2)		
第10回	SDG'sなどの社会的責務について (3)		
第11回	課題解決に向けてのディスカッション (1)		
第12回	課題解決に向けてのディスカッション (2)		
第13回	課題解決に向けてのディスカッション (3)		
第14回	課題発表		
第15回	まとめ (総合ディスカッション)		
授業外学習 (予習・復習)			
新聞を読んでください。できれば日本経済新聞を			
教科書			
特になし			
参考書			
特になし			
成績の評価基準			
授業での発表について評価します。			
オフィスアワ -			
メールにて確認後、対応します。			

アクティブ・ラーニング

アクティブ・ラーニング（その他の内容）

アクティブ・ラーニング（授業回数）

備考（受講要件）

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
科目名			
財務会計論			
英語名			
開講学科		コース	
法経社会学科経済コース 新旧共通			
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会・経済コース/地域社会コース/選択科目	講義	2単位	3～4年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
澤田成章		099-285-8888	sawada@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
		前期	
授業概要			
<p>会計は企業行動を映し出す鏡であり、事業の言語であるといわれる。会計という言葉を選び修得するうえでは会計処理や会計基準について理解すること（語彙・文法の習得）、企業行動と財務諸表数値の照らし合わせ（読み・書き・コミュニケーションの訓練）の2つをバランスよく行うことが重要であろう。本稿義では、立ち講義によるインプットだけでなく、試験・レポート提出を中心としたスループット・アウトプットの充実を図る。</p>			
学修目標			
<p>(1) 現行の日本の会計基準が求める会計処理、およびその背景となる企業会計の考え方を理解・修得する。 (2) 上場企業の財務諸表を読み解き、目的に照らして適切に分析に活用する。</p>			
授業計画			
<p>第1回：ガイダンス（会計を学ぶ意義） 第2回：企業会計の意義と役割 第3回：損益計算書のパラダイム（1） 第4回：損益計算書のパラダイム（2） 第5回：経営パフォーマンスの測定と表示（1） 第6回：経営パフォーマンスの測定と表示（2） 第7回：貸借対照表のパラダイム（1） 第8回：貸借対照表のパラダイム（2） 第9回：資産の会計（1） 第10回：資産の会計（2） 第11回：持分の会計 第12回：中間試験 第13回：連結グループの会計 第14回：財務諸表分析に用いる指標（1） 第15回：財務諸表分析に用いる指標（2）</p>			
授業外学習（予習・復習）			
適宜指示する。			
教科書			
『新・現代会計入門』伊藤邦雄著、日本経済新聞出版社			
参考書			
成績の評価基準			
ミニレポート（30%）、中間試験（30%）、期末レポート（40%）の総合評価による。			
オフィスアワー			
メールにてアポイントメントをお願いします。			
アクティブ・ラーニング			
グループワーク；プレゼンテーション；学習の振り返り（ミニッツ・ペーパー等）；			
アクティブ・ラーニング（その他の内容）			

アクティブ・ラーニング（授業回数）

15回中3回

備考（受講要件）

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード

科目名

成人教育論

英語名

Theory on Adult Education

開講学科

コース

法経社会学科経済コース 新旧共通

地域社会コース

授業科目区分

授業形態

単位数

開講期

法経社会・経済コース/選
択科目

演習

2単位

3~4年

担当教員

連絡先 (TEL)

連絡先 (MAIL)

農中至

0992857603

nounaka@leh.kagoshima-u.ac.jp

共同担当教員

前後期

前期

授業概要

子どもを対象とする学校教育の実践・理論とは異なる成人のための学習に関する基礎理論と学習方法・内容について学びます。具体的には、成人を対象とする教育がどこで、どのように生起し、そこにどういった学習が成立するのかを欧米諸外国の実践も視野に探究していきます。とりわけ、これまでの自己の学習経験や教育体験からは想像できない学びのひろがりや奥行き、それに付随する基礎理論の成立と展開について、質疑応答、意見交換の過程を経ながら考えを深めます。

学修目標

現代日本および諸外国の成人教育の実践と基礎理論に関する知識の獲得および基礎理論の実践への応用可能性を含めた態度の育成を目的とします。

授業計画

1. オリエンテーション
2. 学校教育における教育・学習観
3. 成人のための教育・学習理解がなぜ必要なのか？
4. 成人を学習対象者と想定する施設
5. 成人を学習対象者と想定する実践
6. 成人教育の理論と実践 歴史的な視点から
7. 成人教育の理論的動向 近年の動向を中心に
8. 成人教育の実践 都市と農村との差異
9. 諸外国における成人教育の展開(一) 東アジア地域を中心に
10. 諸外国における成人教育の展開(二) ヨーロッパ・北米地域を中心に
11. 諸外国における成人教育の展開(三) 中南米・アフリカ地域を中心に
12. 成人のための教育活動・実践のための制度/法/機会
13. 成人の教育・学習を支える教育専門職
14. 社会構造の変容と成人教育に求められるもの
15. 現代成人教育の課題と展望
16. 確認試験

授業外学習(予習・復習)

各回の授業終了後に適宜資料を配布する予定です。それらの資料を読み込んだ上で授業に参加するようにしてください。また復習については各回の冒頭で振り返り・内容確認等を実施する場合がありますので、学んだ内容に関する記憶の定着化を進めてください。

教科書

授業中に提示します。

参考書

マルカム・ノールズ『成人教育の現代的実践』(鳳書房、2002)

成績の評価基準

授業後の小レポート・予習課題(50%)・参画状況(25%)・確認試験(25%)

オフィスアワ -

随時対応します。

アクティブ・ラーニング

グループワーク; ディベート; プレゼンテーション; 学習の振り返り (ミニッツ・ペーパー等);

アクティブ・ラーニング (その他の内容)

アクティブ・ラーニング (授業回数)

16回中13回を予定

備考 (受講要件)

社会教育概論、生涯教育概論などの地域社会コース開設科目の社会教育・生涯学習関連科目を3科目以上受講し、単位を取得しているもの。

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
FHS-CCD2301			
科目名			
演習			
英語名			
Seminar			
開講学科		コース	
法経社会学科経済コース 新旧共通		経済コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会・経済コース / 必修科目	演習	2単位	4年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
大前慶和		099-285-3583	omae@km.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
		後期	
授業概要			
特殊研究に活用する論文1本を毎週発表者が用意し、ディスカッションを行う。			
学修目標			
必要な論文を検索・準備し、その内容を理解できるようになる。 論文に対する批判的検討ができるようになる。 特殊研究に向けて自身の意見を述べられるようになる。			
授業計画			
全回にわたって論文を読み、ディスカッションを行う。			
授業外学習 (予習・復習)			
発表の準備および復習として特殊研究執筆に向けた各種作業を行うこと。			
教科書			
なし			
参考書			
なし			
成績の評価基準			
演習への参加姿勢 (30%)、発表内容 (40%)、予習・復習の状況 (30%)			
オフィスアワー			
特にオフィスアワーは設けない。随時対応する。			
アクティブ・ラーニング			
プレゼンテーション;			
アクティブ・ラーニング (その他の内容)			
アクティブ・ラーニング (授業回数)			
15回中15回			
備考 (受講要件)			
なし			
実務経験のある教員による実践的授業			

ナンバリングコード			
FHS-CCD2301			
科目名			
演習			
英語名			
Seminar			
開講学科		コース	
法経社会学科経済コース 新旧共通		経済コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会・経済コース / 必修科目	演習	2単位	4年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
大前慶和		099-285-3583	omae@km.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
		前期	
授業概要			
特殊研究に活用する論文1本を毎週発表者が用意し、ディスカッションを行う。			
学修目標			
必要な論文を検索・準備し、その内容を理解できるようになる。 論文に対する批判的検討ができるようになる。 特殊研究に向けて自身の意見を述べられるようになる。			
授業計画			
全回にわたって論文を読み、ディスカッションを行う。			
授業外学習 (予習・復習)			
発表の準備および復習として特殊研究執筆に向けた各種作業を行うこと。			
教科書			
なし			
参考書			
なし			
成績の評価基準			
演習への参加姿勢 (30%)、発表内容 (40%)、予習・復習の状況 (30%)			
オフィスアワー			
特にオフィスアワーは設けない。随時対応する。			
アクティブ・ラーニング			
プレゼンテーション;			
アクティブ・ラーニング (その他の内容)			
アクティブ・ラーニング (授業回数)			
15回中15回			
備考 (受講要件)			
なし			
実務経験のある教員による実践的授業			

ナンバリングコード			
FHS-CCD2301			
科目名			
演習			
英語名			
Seminar			
開講学科		コース	
法経社会学科経済コース 新旧共通		経済コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会・経済コース/必修科目	演習	2単位	2～3年
担当教員	連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)	
萩野誠	7605	mhagino@leh.kagoshima-u.ac.jp	
共同担当教員		前後期	
		前期	
授業概要			
<p>前半のドラッカーの知識を活かして、さまざまな分野の書籍を読むことにする。 図書の設定は、日本経済新聞社の書評による。 各著作の内容を中心に、ドラッカーマネジメントの観点から議論を深める。 とくに、ICTに関する部分には重点をおいて学習をする。</p>			
学修目標			
<ol style="list-style-type: none"> 1. 担当した本の内容を的確に要約し、解説し、評価（コメント）する能力をつける。 2. ディスカッションに積極的に参加できるようになる。 3. ドラッカーマネジメントによる戦略計画の概念を活用できるようになる。 			
授業計画			
<p>以下のテキストの精読とディスカッションをおこなう。 ドラッカー「マネジメント 課題、責任、実践（上）」ダイヤモンド社、2400円</p>			
授業外学習（予習・復習）			
<p>合計60時間（単位の実質化） 予習：口頭で本の内容ができるまで、繰り返し通読し、要点をノートに手書きすること。 このときに本の各章に対してコメントを記入すること。（各3時間30分：52時間30分） 復習：ノートに得られた知識を記載し、改めて本の内容をふりかえること（各30分：7時間30分）</p>			
教科書			
授業計画に記載している。			
参考書			
なし			
成績の評価基準			
達成事項			
<ol style="list-style-type: none"> 1) 予習ができていること（コメントのついたノート提出）：達成できていない場合5点減点 2) 本の要約を口頭で説明できること：達成できていない場合1点減点 3) 質疑応答で的確な回答ができる（教員からの質問も含む）：達成できていない場合1点減点 			
オフィスアワー			
Lineグループでおこなう			
アクティブ・ラーニング			
ディベート；プレゼンテーション；			
アクティブ・ラーニング（その他の内容）			
アクティブ・ラーニング（授業回数）			
15回中13回			
備考（受講要件）			
やむを得ない理由で欠席する場合、学生がなんらかの方法で証明すること。診断書の場合は、コピーの提出でよ			

い。欠席した翌週に限りノート提出を認める。

それ以外の欠席は、無断欠席とみなし、ノートの未提出分5点を減点する。

また、法科大学院の先進的な例にしたがい、授業の質向上と授業中の教員と学生の誤解を防ぐために、すべての授業を記録する。授業初日に個人情報の取扱について確認をとるので、認印を忘れないようにすること。

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
FHS-CCD2301			
科目名			
演習			
英語名			
Seminar			
開講学科		コース	
法経社会学科経済コース 新旧共通		経済コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会・経済コース / 必修科目	演習	2単位	2～4年
担当教員	連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)	
西村知	099-285-8851	satoru@leh.kagoshima-u.ac.jp	
共同担当教員	前後期		後期
なし。			
授業概要			
輪読によりアジアの経済に関する理解を深めるとともに、経済学の基礎知識を新聞記事などによって学ぶ。			
学修目標			
1 アジア経済に関するテキストを読むことによって、キーワード、キー概念を理解し、アジア経済の構造をイメージできるようにする。			
2 日本経済の記事を読むことによって、経済学の理論、実証について学ぶ。			
授業計画			
1 オリエンテーション			
2-14 テキスト・新聞記事の輪読(輪読1,2,3,4,5,6,7,8,9,10,11,12,13)			
15 総括			
授業外学習 (予習・復習)			
授業中、適宜、指示する。			
教科書			
授業開始後に知らせる。			
参考書			
授業開始後に知らせる。			
成績の評価基準			
授業における報告、議論によって評価する。			
オフィスアワ -			
水曜日 : 12:00-13:00			
アクティブ・ラーニング			
アクティブ・ラーニング (その他の内容)			
アクティブ・ラーニング (授業回数)			
備考 (受講要件)			
特になし。			
実務経験のある教員による実践的授業			

ナンバリングコード			
FHS-CCD2301			
科目名			
演習			
英語名			
Seminar			
開講学科		コース	
法経社会学科経済コース 新旧共通		経済コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会・経済コース / 必修科目	演習	2単位	2～4年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
北村浩一		099-285-6296	ki tamura@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
		後期	
授業概要			
近年は企業（業界業種を含む）研究を主題にしている。そこでは、実際の工場見学など大学外での実践的な調査・研究も行っている。さらに「考える力」「伝える力」を養うための試み（例えば共通テーマでのグループディスカッションや全員短時間スピーチ）を随時、行っている。			
学修目標			
基本は企業会計・管理会計分野についての修得を目標としている。ただし、実際には、例えば経営管理などの関連分野の修得もあわせて目標としている。つまり、管理会計を中心に幅広い関連分野について修得することを目標としている。また、様々な場面で「考える力」「伝える力」を養うことを演習の全体を通じての目標としている。			
授業計画			
半期毎に、ゼミ生みんなで意見を出して話し合うことでゼミのテーマ・進め方といったほとんどのことがらを決めながら進めるので、自分たちのやりたいことを軸にゼミの学習が進んでいく。 したがって、具体的に何をどのように取り組んでいくかは未定であるが、自分たちのしたいこと・すべきことについて、意見を出し、ディスカッションすることを通じて実現（自分の思った以上のことがゼミ全体として結果）することが可能となる。			
授業外学習（予習・復習）			
必要に応じて適宜指示をする。			
教科書			
参考書			
成績の評価基準			
授業への取り組み態度。必修科目なので無断欠席は厳禁であることに十分留意すること。			
オフィスアワー			
水曜・12時半～16時・研究室			
アクティブ・ラーニング			
グループワーク；ディベート；プレゼンテーション；学習の振り返り（ミニッツ・ペーパー等）； アクティブ・ラーニング（その他の内容）			
アクティブ・ラーニング（授業回数）			
全15回中15回			
備考（受講要件）			
担当の講義「管理会計論」「原価計算論」「会計情報論」の講義は演習の内容と密接に関わっているので受講すること。			
実務経験のある教員による実践的授業			

ナンバリングコード			
FHS-CCD2301			
科目名			
演習			
英語名			
Seminar			
開講学科		コース	
法経社会学科経済コース 新旧共通		経済コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会・経済コース / 必修科目	演習	2単位	2～4年
担当教員	連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)	
北崎浩嗣	099-285-7592	ki tazaki@leh.kagoshima-u.ac.jp	
共同担当教員	前後期		
なし。	後期		
授業概要			
地域政策、農業政策について書かれたテキストをもとに、現代日本の地域問題、農業問題を検討する。			
学修目標			
(1) 自分で作成したレジュメ・資料によってプレゼンテーションができる。			
(2) 地方の抱えている問題について説明できる。			
(3) 地域活性化策に対して、自分の視点で、提言することができる。			
授業計画			
第1回 ガイダンス			
第2回～第14回 発表と討論			
第15回 まとめ			
授業外学習 (予習・復習)			
教科書の当該部分を事前に読んでおくこと、また関係資料を用意しておくことが望ましい。			
教科書			
担当教員が数冊のテキストを用意し、ガイダンスの際に受講生に紹介し、受講生との話し合いにより採用するテキストを決定する。			
参考書			
演習の進展に応じ、適宜紹介する。			
成績の評価基準			
レポートと授業への取組態度 (配点割合は、レポート30%、授業への取組態度70%)。			
オフィスアワー			
金曜日2時間目、研究室			
アクティブ・ラーニング			
ディベート;			
アクティブ・ラーニング (その他の内容)			
アクティブ・ラーニング (授業回数)			
15回中13回。			
備考 (受講要件)			
特になし。			
実務経験のある教員による実践的授業			

ナンバリングコード			
FHS-CCD2301			
科目名			
演習			
英語名			
Seminar			
開講学科		コース	
法経社会学科経済コース 新旧共通		経済コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会・経済コース / 必修科目	演習	2単位	2～4年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
北崎浩嗣		099-285-7592	ki tazaki@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
		前期	
授業概要			
地域政策、農業政策について書かれたテキストをもとに、現代日本の地域問題、農業問題を検討する。			
学修目標			
1) 自分で作成したレジュメ・資料によってプレゼンテーションができる。			
2) 地域や農業の基本問題についての知識を修得する。			
3) 発表のための資料収集の方法を修得する。			
授業計画			
第1回	ガイダンス		
第2回～第14回	発表と討論		
第15回	まとめ		
授業外学習 (予習・復習)			
事前に教科書の当該部分を読んでおくこと、関係資料を用意しておくことが望ましい。			
教科書			
担当教員が数冊のテキストを用意し、ガイダンス時に受講生に紹介し、受講生との話し合いにより採用するテキストを決定する。			
参考書			
演習の進展に応じて、適宜紹介する。			
成績の評価基準			
レポートと授業への取組態度 (配点割合は、レポート30点、授業への取組態度70点) による。			
オフィスアワー			
金曜日 2 時間目、研究室			
アクティブ・ラーニング			
ディベート;			
アクティブ・ラーニング (その他の内容)			
アクティブ・ラーニング (授業回数)			
15回中13回。			
備考 (受講要件)			
特になし。			
実務経験のある教員による実践的授業			

ナンバリングコード			
FHS-CCD2301			
科目名			
演習			
英語名			
Seminar			
開講学科		コース	
法経社会学科経済コース 新旧共通		経済コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会・経済コース / 必修科目	演習	2単位	2～4年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
北村浩一		099-285-6296	ki.tamura@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
		前期	
授業概要			
近年は企業（業界業種を含む）研究を主題にしている。そこでは、実際の工場見学など大学外での実践的な調査・研究も行っている。さらに「考える力」「伝える力」を養うための試み（例えば共通テーマでのグループディスカッションや全員短時間スピーチ）を随時、行っている。			
学修目標			
基本は企業会計・管理会計分野についての修得を目標としている。ただし、実際には、例えば経営管理などの関連分野の修得もあわせて目標としている。つまり、管理会計を中心に幅広い関連分野について修得することを目標としている。また、様々な場面で「考える力」「伝える力」を養うことを演習の全体を通じての目標としている。			
授業計画			
半期毎に、ゼミ生みんなで意見を出して話し合うことでゼミのテーマ・進め方といったほとんどのことがらを決めながら進めるので、自分たちのやりたいことを軸にゼミの学習が進んでいく。 したがって、具体的に何をどのように取り組んでいくかは未定であるが、自分たちのしたいこと・すべきことについて、意見を出し、ディスカッションすることを通じて実現（自分の思った以上のことがゼミ全体として結果）することが可能となる。			
授業外学習（予習・復習）			
必要に応じて適宜指示をする。			
教科書			
参考書			
成績の評価基準			
授業への取り組み態度。必修科目なので無断欠席は厳禁であることに十分留意すること。			
オフィスアワー			
水曜・12時半～16時・研究室			
アクティブ・ラーニング			
グループワーク； ディベート； プレゼンテーション；			
アクティブ・ラーニング（その他の内容）			
アクティブ・ラーニング（授業回数）			
15回中15回			
備考（受講要件）			
北村担当の講義は演習の内容と密接に関わっているので受講すること。 実務経験のある教員による実践的授業			

ナンバリングコード			
FHS-CCD2301			
科目名			
演習			
英語名			
Seminar			
開講学科		コース	
法経社会学科経済コース 新旧共通		経済コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会・経済コース/必修科目	演習	2単位	2~4年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
松川太一郎			matsukawa@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
		前期	
授業概要			
<p>社会科学的な思考方法を、その実例を豊富にあげた著作である、久米郁男の『原因を推論する 政治的分析方法論のすゝめ』（有斐閣2013年）を講読することにより、修得する。なお、著者の久米氏は政治学者であるが、テキストに述べられている思考方法論はデータの比較に基礎づけられているので、統計による社会経済分析においても、きわめて有効性を持つ内容である。上記テキストの講読により社会的事象の因果関係を分析する方法の取得を目指す。しかしながら、社会的事象の関係性は因果関係にとどまらないので、因果関係以外の関係性についても把握方法を学ぶことにする。</p>			
学修目標			
<p>社会科学上のオリジナルな論考に必要な考え方ということで、社会的事象の因果関係およびその他の関係性の分析方法を修得できる。</p>			
授業計画			
<p>第1~12回において、久米郁男著『原因を推論する』（有斐閣2013年）に述べられている、社会的事象の因果関係分析法を修得する。さらに、第13~15回において、デヴィッド・ハーベイ著『<資本論>入門』（作品社2011年）に述べられている、社会的事象の非因果関係分析法を修得する。</p> <p>第1回 「序章 説明という試み」 第2回 「第1章 説明の枠組み 原因を明らかにするとはどういうことか」 第3回 「第2章 科学の条件としての反証可能性 『何でも説明できる』ってダメですか？」 第4回 「第3章 観察、説明、理論 固有名詞を捨てる意味」 第5回 「第4章 推論としての記述」 第6回 「第5章 共変関係を探る 違いを知るとはどういうことか」 第7回 「第6章 原因の時間的先行 因果関係の向きを問う」 第8回 「第7章 他の変数の統制 それは本当の原因ですか？」 第9回 「第8章 分析の単位、選択のバイアス、観察のユニバース」 第10回 「第9章 比較事例研究の可能性」 第11回 「第10章 単一事例研究の用い方」 第12回 「終章 政治学と方法論」 第13回 「第1章 商品と価値 第1節 使用価値と価値」 第14回 「第1章 商品と価値 第2節 商品に表わされる労働の二重性、第3節 価値形態または交換価値」 第15回 「第1章 商品と価値 第4節 商品の物神性とその秘密」</p>			
授業外学習（予習・復習）			
<p>毎回、課題として全員に報告要旨の提出と問題提起をさせる。</p>			
教科書			
<p>久米郁男『原因を推論する 政治的分析方法論のすゝめ』有斐閣、2013年。 デヴィッド・ハーベイ『<資本論>入門』作品社、2011年。</p>			
参考書			
<p>適宜指定する。</p>			
成績の評価基準			
<p>授業への取り組み内容、すなわち、課題の出来と演習時のパフォーマンス内容を総合的に評価する。</p>			

オフィスアワ -

水曜日 1 限 経済統計論研究室

アクティブ・ラーニング

ディベート; プレゼンテーション;

アクティブ・ラーニング (その他の内容)

アクティブ・ラーニング (授業回数)

15 回中 15 回

備考 (受講要件)

春休み中に教科書を購入して、序章を読んでおくこと。そのうえで、理解が困難な点、または疑問点があれば、その理由と合わせて指摘すること。それらの指摘は、4月の第一週のうちに、松川宛にメールで伝えること。

2年生は前期開講の統計学総論を修得すること。

演習に出席できないときは事前にメール連絡して、可能な時に課題プリント等の資料を研究室に取りに来ること。

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
FHS-CCD2301			
科目名			
演習			
英語名			
Seminar			
開講学科		コース	
法経社会学科経済コース 新旧共通		経済コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会・経済コース / 必修科目	演習	2単位	2～4年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
澤田成章		0992858888	sawada@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
		後期	
授業概要			
<p>会計は企業行動を映し出す鏡であると言われる。したがって、会計を学び習得する上では、企業行動と財務諸表数値の照らし合わせを行うことも重要なステップとなる。本ゼミではこうした点に注目し、財務諸表分析を中心とした企業行動分析を行う。とりわけ、本ゼミでは一般的な理論やフレームワークでは説明のつかない現象に対する分析を重視する。</p>			
学修目標			
<p>一般的な理論やフレームワークでは説明のつかない現象に対して独自の説明を行うためには、徹底的に情報を収集し、自身の頭で因果関係の仮説検証を行い、他者に伝わりやすいように情報を整理、加工、編集することが不可欠である。こうした作業を通じて、情報収集力、思考力、表現力、コミュニケーション能力の向上を図ることを目的とする。</p>			
授業計画			
<p>輪読を通じた知識の習得と、習得した知識を実際に活用した分析についてのプレゼンテーションを並行して進める。テキストである『ゼミナール現代会計入門（第9版）』は2か月程度で読了する予定であるが、その後の内容については適宜ゼミ生との議論によって決定していく。なお、課題への取り組みは、原則としてグループ単位で進めることを想定している。</p>			
授業外学習（予習・復習）			
<p>グループで資料収集・議論・レジュメ作成等をしていただきます。</p>			
教科書			
『新・現代会計入門』伊藤邦雄著、日本経済新聞出版社			
参考書			
適宜提示します。			
成績の評価基準			
出席および講義内の議論への参画度（50%）、最終レポート（50%）の総合評価による。			
オフィスアワー			
適宜、事前にアポイントメントを取ること。			
アクティブ・ラーニング			
グループワーク；ディベート；フィールドワーク；プレゼンテーション；			
アクティブ・ラーニング（その他の内容）			
アクティブ・ラーニング（授業回数）			
15回中15回			
備考（受講要件）			
実務経験のある教員による実践的授業			

ナンバリングコード			
FHS-CCD2301			
科目名			
演習			
英語名			
Seminar			
開講学科		コース	
法経社会学科経済コース 新旧共通		経済コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会・経済コース/必修科目	演習	2単位	2～4年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
石塚孔信		099-285-7586	ishiduka@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
なし		前期	
授業概要			
<p>経済学はその取り扱うスケールに応じてミクロ経済学とマクロ経済学に大別される。</p> <p>今、大きな森の生態について考えると。その際、一本一本の木を個別に調べ、それを積み上げて木と木の関係を調べたとしても、森全体としての生態をとらえるには限界があり、「木を見て森を見ず」ということになる。大きな森の生態を調べるには、森を空から見るなど森を全体としてとらえた上で、外部の環境との関係性を調べる必要がある。同様に経済について考える時にも、通常、ミクロ的な視点とマクロ的な視点が必要とされる。</p> <p>経済を構成する単位として消費者（家計）と生産者（企業）の行動の分析から始めさらに、多数の消費者と企業からなる市場の構造の分析へと積み上げていく方法をミクロ的方法という。</p> <p>一方、一国全体の経済を一つのものとしてとらえる方法をマクロ的方法という。財やサービスの総生産量や総雇用量、総投資量、総資本ストック高などの集計的データの取扱い、その上で公定歩合の切り下げ、国債の発行、公共投資の増加等が総需要にそして景気に与える影響を分析する。</p>			
学修目標			
<p>今年度は、マクロ経済学のテキストを読んでいく。今期は、その基礎となる国民所得の決定理論の財市場の均衡について理解を深める。近代経済学の勉強の仕方は、積み上げ方式でやらなければなかなか理解が難しく、そのためにはかなりの努力を必要とするが、あるハードルをクリアすれば、その後は理解が容易になるという特徴をもっている。したがって、このハードルをゼミ生全員がクリアすることが目標である。なお、3年生は2年次にはミクロ経済学のテキストを読んでいるので、2年生も3年生もまったく同じ条件でのスタートとなる。したがって、2年生も安心して取り組んでほしい。</p>			
授業計画			
<p>次のようなスケジュールで講義を行なう。</p> <p>第1回：イントロダクション</p> <p>第2回：国民経済計算</p> <p>第3回：GDPと景気（1）</p> <p>第4回：GDPと景気（2）</p> <p>第5回：均衡国民所得の決定（1）</p> <p>第6回：均衡国民所得の決定（2）</p> <p>第7回：乗数効果（1）</p> <p>第8回：乗数効果（2）</p> <p>第9回：デフレギャップとインフレギャップ</p> <p>第10回：開放体系下での国民所得の決定</p> <p>第11回：消費関数（1）</p> <p>第12回：消費関数（2）</p> <p>第13回：投資理論（1）</p> <p>第14回：投資理論（2）</p> <p>第15回：投資理論（3）</p>			
授業外学習（予習・復習）			
<p>演習では、事前に担当を決めて報告してもらおうが、担当でない学生もしっかりテキストを読んで予習してきて、必ず、意見や質問をすることが必要となる。また、演習での議論を通してテキストを理解するためには、毎回</p>			

の復習も必要となる。

教科書

西村和雄・八木尚志『経済学ベーシックゼミナール』実務教育出版、2008年。

参考書

中谷 巖『入門マクロ経済学』日本評論社、2011年。

成績の評価基準

演習での報告（80%）と質問等（20%）による。

オフィスアワ -

月曜日の4時限目。

アクティブ・ラーニング

ディベート；

アクティブ・ラーニング（その他の内容）

アクティブ・ラーニング（授業回数）

15回中15回

備考（受講要件）

演習問題を解きながら理解を深める。関連科目として、ミクロ経済学?、?、マクロ経済学?、?を受講することをお勧めする。

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
FHS-CCD2301			
科目名			
演習			
英語名			
Seminar			
開講学科		コース	
法経社会学科経済コース 新旧共通		経済コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会・経済コース / 必修科目	演習	2単位	2～4年
担当教員	連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)	
日野道啓		hino@leh.kagoshima-u.ac.jp	
共同担当教員	前後期		
	前期		
授業概要			
<p>本演習では、日本経済に関連するテーマを扱う国際経済政策のテキストを読み、世界経済および日本経済の現状と課題について学習する。本年度は、多国籍企業論（経済学をベースにした企業の国際活動を分析する分野）に関するテキストを取り上げる予定である。テキストは、受講者と相談の上、決定する。</p> <p>ゼミ形式で行う。毎回、報告者を決め、報告者はテキストの要約・問題提起を行う。そして、報告内容に基づいて全員で討論を行う。各自毎回発言し、活発に議論することが求められる。</p>			
学修目標			
<p>1. 世界経済および日本経済の現状と課題について理解する。</p> <p>2. レジユメの作成方法、読解の方法、批判の方法、質問および討論の方法を身につける。</p>			
授業計画			
<p>第1回：ガイダンス 第2回～第14回：発表と討論 第15回：総括</p>			
授業外学習（予習・復習）			
必要に応じて適宜指示をする。			
教科書			
学生と相談の上、決定する。			
参考書			
成績の評価基準			
授業への取り組み態度（報告内容、討論への積極性などを総合的に判断する）			
オフィスアワー			
火曜日3限目・研究室			
アクティブ・ラーニング			
グループワーク；ディベート；プレゼンテーション；その他；			
アクティブ・ラーニング（その他の内容）			
アクティブ・ラーニング（授業回数）			
15回中14回			
備考（受講要件）			
実務経験のある教員による実践的授業			

ナンバリングコード			
科目名			
演習			
英語名			
Seminar			
開講学科		コース	
法経社会学科経済コース 新旧共通		経済コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会・経済コース / 必修科目	講義	2単位	2～4年
担当教員	連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)	
三浦壮	099-285-8905	miura@leh.kagoshima-u.ac.jp	
共同担当教員	前後期		
	前期		
授業概要			
日本経済史と心理学に関する著作を輪読する。			
学修目標			
<ul style="list-style-type: none"> ・日本経済史・経営史に関する学識と研究能力を身につけること。 ・ポジティブ心理学を学び、自己啓発の一助とすること。 			
授業計画			
第1回:オリエンテーション			
第2回-14回:教科書の輪読と討論			
第15回:まとめ			
授業外学習 (予習・復習)			
その都度指示する。			
教科書			
初回の授業で相談の上決定。			
参考書			
その都度指示する。			
成績の評価基準			
?レポートをすべて提出状況 (必要条件), ?レポートの内容・議論への参加度 (加点条件), 出席 (減点条件)			
オフィスアワ -			
月曜1限目			
アクティブ・ラーニング			
ディベート; フィールドワーク; プレゼンテーション;			
アクティブ・ラーニング (その他の内容)			
アクティブ・ラーニング (授業回数)			
備考 (受講要件)			
実務経験のある教員による実践的授業			

ナンバリングコード			
FHS-CCD2301			
科目名			
演習			
英語名			
Seminar			
開講学科		コース	
法経社会学科経済コース 新旧共通		経済コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会・経済コース / 必修科目	演習	2単位	2～4年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
石塚孔信		099-285-7586	ishiduka@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
なし		後期	
授業概要			
<p>経済学はその取り扱うスケールに応じてミクロ経済学とマクロ経済学に大別される。今、大きな森の生態について考えると、その際、一本一本の木を個別に調べ、それを積み上げて木と木の関係を調べたとしても、森全体としての生態をとらえるには限界があり、「木を見て森を見ず」ということになる。大きな森の生態を調べるには、森を空から見るなど森を全体としてとらえた上で、外部の環境との関係を調べる必要がある。同様に経済について考える時にも、通常、ミクロ的な視点とクロ的な視点が必要とされる。経済を構成する単位として消費者（家計）と生産者（企業）の行動の分析から始めさらに、多数の消費者と企業からなる市場の構造の分析へと積み上げていく方法をミクロ的方法という。一方、一国全体の経済を一つのものとしてとらえる方法をマクロ的方法という。財やサービスの総生産量や総雇用量、総投資量、総資本ストック高などの集計的データの分析や取扱い、その上で公定歩合の切り下げ、国債の発行、公共投資の増加等が総需要にそして景気に与える影響を分析する。</p>			
学修目標			
<p>前期に引き続き、マクロ経済学のテキストを読んでいく。今期は、国民所得の決定理論の貨幣市場の均衡、IS-LM分析、財政政策と金融政策、AD-AS分析、インフレーションの理論について理解を深める。近代経済学の勉強の仕方は、積み上げ方式でやらなければなかなか理解が難しく、そのためにはかなりの努力を必要とするが、あるハードルをクリアすれば、その後は理解が容易になるという特徴をもっている。したがって、このハードルをゼミ生全員がクリアすることが目標である。</p>			
授業計画			
<p>次のようなスケジュールで講義を行う。</p> <p>第1回：イントロダクション 第2回：貨幣市場の均衡（1） 第3回：貨幣市場の均衡（2） 第4回：貨幣市場の均衡（3） 第5回：貨幣市場の均衡（4） 第6回：IS-LM分析（1） 第7回：IS-LM分析（2） 第8回：IS-LM分析（3） 第9回：財政政策と金融政策（1） 第10回：財政政策と金融政策（2） 第11回：財政政策と金融政策（3） 第12回：AD-AS分析とインフレーション（1） 第13回：AD-AS分析とインフレーション（2） 第14回：AD-AS分析とインフレーション（3） 第15回：まとめ</p>			
授業外学習（予習・復習）			
<p>演習では、事前に担当を決めて報告してもらおうが、担当でない学生もしっかりテキストを読んで予習してきて、必ず、意見や質問をすることが必要となる。また、演習での議論を通してテキストを理解するためには、毎回の復習も必要となる。</p>			

教科書

西村和雄・八木尚志『経済学ベーシックゼミナル』実務教育出版、2008年。

参考書

中谷 巖『入門マクロ経済学』日本評論社、2011年。

成績の評価基準

演習での報告（80%）と質問等（20%）による。

オフィスアワ -

月曜日の5限目。

アクティブ・ラーニング

ディベート；

アクティブ・ラーニング（その他の内容）

アクティブ・ラーニング（授業回数）

15回中15回

備考（受講要件）

演習問題を解きながら理解を深める。関連科目として、ミクロ経済学?、?、マクロ経済学?、?を受講することをお勧めする。

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
FHS-CCD2301			
科目名			
演習			
英語名			
Seminar			
開講学科		コース	
法経社会学科経済コース 新旧共通		経済コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会・経済コース / 必修科目	演習	2単位	2～4年
担当教員	連絡先 (TEL)		連絡先 (MAIL)
松川太一郎			matsukawa@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
		後期	
授業概要			
<p>文章の論理をその形式から読み取る方法を学び、実際にその方法を使って論理を正確に理解することを演習する。また、思考の形式について、平易に解説した資料に基づいて学び、実際にその形式を使って物事を考えてみる。</p> <p>毎回、事前に課題を出すので、その出来に応じた指導を行う。したがって、課題提出が受講の前提である。</p>			
学修目標			
<p>1) 文章の論理を、形式から正確に読み取る。</p> <p>2) 本の読み方を身につける。</p> <p>3) 議論の仕方を身につける。</p> <p>4) 思考の方法論に触れる。</p>			
授業計画			
教科書の各章を下記のように分割して、授業概要に挙げた事項を演習する。			
第1回 「論理トレーニング」と「国語」教育			
第2回 「生活の中の論理」			
第3回 「対」と「言い換え」(1)			
第4回 「対」と「言い換え」(2)			
第5回 「比較」と「譲歩」(1)			
第6回 「比較」と「譲歩」(2)			
第7回 「分類」と「矛盾」(1)			
第8回 「分類」と「矛盾」(2)			
第9回 「分類」と「矛盾」(3)			
第10回 「媒介」(1)			

第11回 「媒介」(2)

第12回 「媒介」(3)

第13回 文の流れ[文脈]を読む(1)

第14回 文の流れ[文脈]を読む(2)

第15回 文の流れ[文脈]を読む(3)

授業外学習(予習・復習)

第1回を除いて、毎回、事前に課題プリントを渡す。課題をといて、日曜日までに経済統計論研究室(法文学部1号館5階エレベーターを出て正面)入口にて提出すること。締め切り厳守のこと。遅れた提出は原則として受け付けない。

教科書

中井浩一『正しく読み、深く考える 日本語論理トレーニング』講談社現代新書、2009年。

参考書

適宜指定する。

成績の評価基準

主として授業外学習として作成された課題の成果ならびに授業中の発言を対象とした、授業への取り組み態度を評価基準とする。

オフィスアワ -

火曜日1限 経済統計論研究室

アクティブ・ラーニング

ディベート; プレゼンテーション;

アクティブ・ラーニング(その他の内容)

アクティブ・ラーニング(授業回数)

15回中15回。

備考(受講要件)

松川が後期開講する「統計利用論」と「数理統計学」を履修すること。

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
FHS-CCD2301			
科目名			
演習			
英語名			
Seminar			
開講学科		コース	
法経社会学科経済コース 新旧共通		経済コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会・経済コース/必修科目	演習	2単位	2~4年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
萩野誠		7605	mhagino@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
		後期	
授業概要			
<p>経営学に関するさまざまな分野の書籍を読むことにする。 図書を選定は、日本経済新聞社の書評による。 各著作の内容を中心に、ドラッカーマネジメントの観点から議論を深める。 とくに、ICTに関する部分には重点をおいて学習をする。</p>			
学修目標			
<p>1. 担当した本の内容を的確に要約し、解説し、評価（コメント）する能力をつける。 2. ディスカッションに積極的に参加できるようになる。 3. ドラッカーマネジメントによる戦略計画の概念を活用できるようになる。</p>			
授業計画			
<p>授業回数 対象本 2015年10月～2016年9月において、日本経済新聞の書評に掲載された図書から選定する。決定は9月上旬</p>			
授業外学習（予習・復習）			
<p>合計60時間（単位の実質化） 予習：口頭で本の内容ができるまで、繰り返し通読し、要点をノートに手書きすること。 このときに本の各章に対してコメントを記入すること。（各3時間30分：52時間30分） 復習：ノートに得られた知識を記載し、改めて本の内容をふりかえること（各30分：7時間30分）</p>			
教科書			
授業計画に表示			
参考書			
ドラッカー『マネジメント（上）』ダイヤモンド社			
成績の評価基準			
<p>下記の事項の達成度を授業中確認し、達成されていない場合、記載どおり減点する。部分点はない。 成績評価は、100点から減点し、残った点数を成績とする。 期末において、60点に満たない場合は、単位は取得できない。</p>			
達成事項			
<p>1) 予習ができていること（コメントのついたノート提出）：達成できていない場合5点減点 2) 本の要約を口頭で説明できること：達成できていない場合1点減点 3) 質疑応答で的確な回答ができる（教員からの質問も含む）：達成できていない場合1点減点</p>			
オフィスアワー			
ゼミ終了後研究室			
アクティブ・ラーニング			
アクティブ・ラーニング（その他の内容）			

アクティブ・ラーニング（授業回数）

備考（受講要件）

やむを得ない理由で欠席する場合、学生がなんらかの方法で証明すること。診断書の場合は、コピーの提出でよい。欠席した翌週に限りノート提出を認める。

それ以外の欠席は、無断欠席とみなし、ノートの未提出分5点を減点する。

また、法科大学院の先進的な例にしたがい、授業の質向上と授業中の教員と学生の誤解を防ぐために、すべての授業を記録する。授業初日に個人情報の取扱いについて確認をとるので、認印を忘れないようにすること。

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
科目名			
演習			
英語名			
Seminar			
開講学科		コース	
法経社会学科経済コース 新旧共通		経済コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会・経済コース / 必修科目	演習	2単位	2～4年
担当教員	連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)	
日野道啓		hino@leh.kagoshima-u.ac.jp	
共同担当教員	前後期		
なし	後期		
授業概要			
前期に引き続いて同様のテーマを扱い、実習スタイルをとる。			
学生達でユニットを組み、ユニット毎に自分達で研究課題を設定して、調査・分析する。最後に、調査結果を整理して成果報告を行う。			
学修目標			
1. 世界経済および日本経済の現状と課題について理解する。			
2. 資料の探し方、プレゼンテーションの方法そしてグループワークの方法を身につける。			
授業計画			
第1回：ガイダンス			
第2回～第14回：発表と討論			
第15回：総括			
授業外学習 (予習・復習)			
必要に応じて適宜指示をする。			
教科書			
学生と相談の上、決定する。			
参考書			
なし			
成績の評価基準			
授業への取り組み態度 (報告内容、討論への積極性などを総合的に判断する)			
オフィスアワ -			
木曜日3限目・研究室			
アクティブ・ラーニング			
グループワーク; ディベート; プレゼンテーション; 学習の振り返り (ミニッツ・ペーパー等); その他;			
アクティブ・ラーニング (その他の内容)			
アクティブ・ラーニング (授業回数)			
15回中14回			
備考 (受講要件)			
実務経験のある教員による実践的授業			

ナンバリングコード			
科目名			
国際貿易投資論II			
英語名			
International Trade and Investment II			
開講学科		コース	
法経社会学科経済コース 新旧共通		経済コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会・経済コース/選択科目	講義	2単位	2~4年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
山本一哉		099-285-7595	yamamoto@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
		後期	
授業概要			
本講義では、日本企業の海外進出（海外直接投資）の事例を利用して、貿易と直接投資の関係、多国籍企業のグローバルな経済活動、国際的な通商問題等について解説する。			
学修目標			
1) 海外直接投資について、基礎的な理論を理解する。 2) 日本企業の海外事業活動の実態とその変化について理解する。 3) 貿易と海外直接投資の関係について理解する。 4) 国際的な通商問題やWTOの機能・役割について理解する。			
授業計画			
第1回 ガイダンス 第2回 海外直接投資と企業の海外事業活動（日本と世界の海外直接投資） 第3回 海外直接投資と企業の海外事業活動（代表的な直接投資と多国籍企業の理論） 第4回 海外直接投資と企業の海外事業活動（直接投資が「ホスト国」と「ホーム国」に与える影響） 第5回 海外直接投資と企業の海外事業活動（直接投資と貿易の関係） 第6回 海外直接投資と企業の海外事業活動（多国籍企業の国際経営戦略） 第7回 海外直接投資と企業の海外事業活動（日本企業の海外事業展開） 第8回 海外直接投資と企業の海外事業活動（日本自動車産業の海外事業活動） 第9回 海外直接投資と企業の海外事業活動（対日直接投資の動向） 第10回 海外直接投資と企業の海外事業活動（多国籍企業と移転価格税制） 第11回 地域経済統合（概要、統合理論） 第12回 地域経済統合（EU、NAFTA、日本のEPA） 第13回 国際的な通商問題とWTO（GATT、WTOと戦後の貿易自由化） 第14回 国際的な通商問題とWTO（WTOの機能と役割、近年の通商問題） 第15回 国際的な貿易不均衡問題（米・日・中を事例として）			
授業外学習（予習・復習）			
配布したレジюме及び資料をしっかりと読んで、その日の学習内容を再確認すること。			
教科書			
授業の際にレジюмеと資料を配布する。			
参考書			
講義の際に紹介する。			
成績の評価基準			
期末試験（70）、レポート（30）			
オフィスアワー			
曜日・時間：毎週火曜日2限、場所：研究室			
アクティブ・ラーニング			
アクティブ・ラーニング（その他の内容）			

アクティブ・ラーニング（授業回数）

備考（受講要件）

前期の国際貿易投資論Iを受講していることが望ましい。

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
科目名			
システム構築実習			
英語名			
開講学科		コース	
法経社会学科経済コース 新旧共通		経済コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会・経済コース/選択科目	実習	1単位	2～4年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
市川英孝			ichikawa@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
		前期	
授業概要			
現在の社会は、多くのシステムが相互に影響することによって成立している。特に、ITの発達により、Webシステム上で非常に多くの情報の発信だけでなく、受信も可能にしている。そこで本授業では、企業の情報発信源としてのメインツールとなっているホームページの作成を通して、その仕組みと現代企業が行っているWebシステムを学習する。			
学修目標			
HTML言語を使用し、自分のホームページを作成する。多くのツールが発達している状況下、企業がどのようなツールを用いてステークホルダーと情報共有を行っているかを理解する。			
授業計画			
第1回 ガイダンス、キーボード操作について			
第2回 HTML、HPとは(1)			
第3回 HTML、HPとは(2)			
第4回 HTML、HPとは(3)			
第5回 HTML、HPとは(4)			
第6回 文章を構成するタグ(1)			
第7回 文章を構成するタグ(2)			
第8回 文章を構成するタグ(3)			
第9回 HPへのリンク(1)			
第10回 HPへのリンク(2)			
第11回 CSS スタイルシートとは(1)			
第12回 CSS スタイルシートとは(2)			
第13回 HPへの画像を表示する			
第14回 表を作成する、複数のページで構成する			
第15回 デザイン、JavaScriptの使用方法、HP公開			
授業外学習(予習・復習)			
授業時間内では、HP作成は完了しないので、必要に応じて各自でのHP作成を行う。			
教科書			
『できるホームページHTML入門』(インプレス社)			
参考書			
授業中適宜紹介する。			
成績の評価基準			
作成した成果物(自身のHP)100%			
オフィスアワー			
メールにて連絡後、適宜対応			
アクティブ・ラーニング			
アクティブ・ラーニング(その他の内容)			

アクティブ・ラーニング（授業回数）

備考（受講要件）

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード

科目名

社会と経済の統計

英語名

開講学科

コース

法経社会科学経済コース 新旧共通

経済コース

授業科目区分

授業形態

単位数

開講期

法経社会・経済コース/選択科目

講義

2単位

2～4年

担当教員

連絡先 (TEL)

連絡先 (MAIL)

松川太一郎

099-285-7601

matsukawa@leh.kagoshima-u.ac.jp

共同担当教員

前後期

後期

授業概要

本講義の目的は、官庁統計の情動的な性格を、その統計の作成過程が置かれている社会の在り方との関係において考えていくことである。取り上げる統計は、調査統計・業務統計に加えて、統計学総論で触れることが少なかった加工統計である。講義内容の柱は以下の通り：(1) 調査統計について、統計調査環境と作成過程との関係を見る。(2) 加工統計の中でもGDPについて、その加工プロセスの理論的前提であるSNA(国民経済計算体系)の理論的内容を理解していく。そのうえでGDPの作成過程を、技術的な観点と制度的な観点の両方から理論的にとらえていく。(3) 業務統計の中でも犯罪統計について、その作成過程の社会的で技術的な様相を理解し、そのうえで、犯罪統計の正確性に関する分析事例を紹介する。この分析では、関連する経済統計を利用する。

学修目標

1. 加工統計の経済理論的前提の理解、また、加工統計・調査統計・業務統計の作成事情とを理解し、統計情報の真実性を検討する際に不可欠な契機を学ぶ。
2. 統計学の研究対象が、単なるデータ処理にとどまるのではなく、統計の作成過程という社会的現象の性質の考察にまで及ぶことを理解する。

授業計画

- 第1回 全15回の概要紹介
 第2回 必要な統計学概念の理解
 第3回 毎月勤労統計調査と統計調査環境(1)
 第4回 毎月勤労統計調査と統計調査環境(2)
 第5回 国民経済計算の理論的基礎(1)
 第6回 国民経済計算の理論的基礎(2)
 第7回 国民経済計算の理論的基礎(3)
 第8回 国民経済計算の理論的基礎(4)
 第9回 GDPの推計過程(1)
 第10回 GDPの推計過程(2)
 第11回 刑法犯認知件数とその作成組織
 第12回 認知件数正確性の規定要因
 第13回 自動車盗に関する犯罪統計と保険統計の比較
 第14回 税務統計を用いた犯罪統計(自動車盗認知件数)の吟味
 第15回 経済統計と認知件数を用いた犯罪統計(暗数調査)の吟味
 第16回 期末試験

授業外学習(予習・復習)

講義内容について理解を促進するための宿題を、講義の節目で課す。ただし節目については、授業の様子などを見て、こちらで判断する。そのため宿題の配布が不定期となるから、毎回出席して宿題の用紙を受け取ること。

教科書

適宜指定する。

参考書

作間逸雄編 『SNAがわかる経済統計学』有斐閣、2003年。その他適宜指定する。

成績の評価基準

期末試験と宿題による。宿題による評価ウェイトは3割を基本として考えているが、上記のとおり配布が不定期となるため宿題の回数変動する状況を加味して、宿題の評価ウェイトを若干調整する可能性がある。いずれにせよ、総合的な成績評価は、宿題のすべてで評価を得なければ、ほぼ不合格になるのが従来の状況である。課された宿題はすべて提出して評価を得ること。

オフィスアワー

火曜日1限 経済統計論研究室

アクティブ・ラーニング

学習の振り返り（ミニッツ・ペーパー等）；

アクティブ・ラーニング（その他の内容）

宿題

アクティブ・ラーニング（授業回数）

15回中不定回数（授業の様子を見て必要に応じた回数）

備考（受講要件）

統計作成論の学習内容を前提としているので、統計作成論を単位履修していなければ理解に困難をきたす可能性がある。

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
科目名			
商学総論			
英語名			
開講学科		コース	
法経社会学科経済コース 新旧共通		経済コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会・経済コース/選択科目	講義	2単位	2～4年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
馬場武		099-285-7582	baba@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
		前期	
授業概要			
<p>商学や商業の中心的概念のひとつに、交換と売買取引があります。本講義では、商学や商業の交換と売買取引に密接に関係する流通システムを中心に学修していきます。また、交換や売買取引を超えて、組織の市場へのコミュニケーションとして展開されるマーケティングについても学修します。</p> <p>本講義を通じて、我々の生活にも影響をおよぼしている商学・商業・流通・マーケティングについて、個人を中心としたミクロ的視点から、広く社会を中心としたマクロ的視点に至るまで幅広い基礎的視座を習得することを目指します。</p>			
学修目標			
<ol style="list-style-type: none"> 1. 商学・商業・流通・マーケティングについての包括的かつ基礎的な理解 2. 自分の身近な商学的現象を説明できる 3. 社会で起こっている商学的現象を説明できる 			
授業計画			
第1回：ガイダンス 概論（商学・商業・流通・マーケティング） 第2回：流通の機能(1) 商的流通・物的流通 第3回：流通の機能(2) 情報流通・流通の補助機能 第4回：小売業(1) 百貨店・総合スーパー、食品スーパー・コンビニエンスストア 第5回：小売業(2) ディスカウントストア・SPA 第6回：小売機関と卸売機関 第7回：流通の構造と変化 第8回：小括と授業課題 第9回：ロジスティクスと物流技術の発展 第10回：日本の商業・流通業の特徴と課題 第11回：投機的流通と延期的流通・生産と流通の関係と市場の変化 第12回：マーケティングの基本(1)・市場の分析と自社の分析 第13回：マーケティングの基本(2)・STPマーケティング 第14回：マーケティングの基本(3)・4P 第15回：まとめと最終課題			
授業外学習（予習・復習）			
予習：次回授業までに調査すべきことなど授業内で指示します（30分）。 復習：レジュメや資料に沿って復習してください（30分）。			
教科書			
適宜レジュメを配布します。			
参考書			
基礎からの商業と流通〔第3版〕、石川和男、中央経済社。 コトラー＆ケラーのマーケティング・マネジメント〔第12版〕、フィリップ・コトラー他、丸善出版			
成績の評価基準			
授業内課題および授業への貢献度（発言を含む）によって総合的に評価します。 また、受講者数によってはレポートを課す場合もあります。			

オフィスアワ -

メールにてアポイントをとってください。

アクティブ・ラーニング

学習の振り返り（ミニッツ・ペーパー等）；

アクティブ・ラーニング（その他の内容）

アクティブ・ラーニング（授業回数）

15回中15回

備考（受講要件）

平成29年度以降入学の商業免許取得希望者の必修科目となっています。隔年開講の科目なので、履修には十分留意してください（次回開講予定は2021年度以降になります）。

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
科目名			
特殊講義（企業活動の基礎）			
英語名			
Basics of Corporate Management			
開講学科		コース	
法経社会学科経済コース 新旧共通		経済コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会・経済コース/選択科目	講義	2単位	2～4年
担当教員	連絡先（TEL）	連絡先（MAIL）	
井上佳朗	099-285-8193	plus02@gm.kagoshima-u.ac.jp	
共同担当教員		前後期	
		後期	
授業概要			
<p>学卒者が企業や自治体等における中核的人材としての基礎的能力を高めるためには、(1)時代の変化や社会状況を理解するとともに、(2)企業や自治体における目的を理解し、(3)組織活動の全体を俯瞰する視点を持ち、(4)スタッフをまとめ作業全体を調整・コントロールする能力、(5)将来の可能性に対するチャレンジ精神、(6)企画立案・課題解決能力などを伸ばしていくことが重要である。本授業では、特に(2)(3)(6)に関する認識を深めていくことを目的としている。</p> <p>各テーマの最後にはグループに分かれて、ミニ・ディスカッションをし授業内容の理解を深める。</p>			
学修目標			
<ul style="list-style-type: none"> ・企業活動を多角的に理解できる視点を獲得する。 ・多様な業務を関連づけて組織のパフォーマンスを高める思考を身につける。 ・組織における中核的人材として求められる資質について理解する。 			
授業計画			
<p>1回：総論：キャリア形成と企業活動の理解 キャリア形成の観点から、地域の諸組織、特に地元企業における中核的人材として企業の発展に寄与できる人材としての資質を磨くために、企業活動の全体を俯瞰する視点を獲得することの重要性について理解する。</p> <p>2～3回：企業と人事計画 人材の採用と確保、社内研修による能力・技能の向上などの人材育成、適材適所による人員配置、仕事の評価と昇進・昇給などを司る人事の仕組み、職員の心身の健康管理などについて理解する。</p> <p>4～5回：企業活動と法務 企業活動にともない発生する法律問題の対応・指導、契約起案・交渉支援、コンプライアンス等内部統制、企業の社会的責任など、企業活動と法務の果たす役割について基本的な理解をする。</p> <p>6～7回：商品開発とブランディング 企業は市場（顧客）の顕在的あるいは潜在的ニーズに合わせて、商品やサービスの開発とブラッシュアップが欠かせない。この商品・サービスの開発やブランディングの基本的仕組みについて理解する。</p> <p>8～9回：マーケティング・流通 企業が利益を生み出すためには、マーケティングの知識や技能を駆使して顧客が求める商品やサービスを効果的に作り、最適な状態で顧客に届ける流通の仕組みを理解することが重要である。</p> <p>10～11回：企業活動と金融（資金調達、財務） 法人における資産・負債・損益などの管理、事業やプロジェクトの収支管理、資金の調達および調達した資金の運用などの内容を含めて理解する。特に、近年の国際化の進展は、為替の変動による利益獲得という新しい資金調達の道を生み出した。これらの仕組みについても理解する。</p> <p>12～13回：企業活動と顧客・対外対応 企業は、組織外の人々に何らかの商品・サービスを提供することで利益を上げることを目的としており、外部の多様な人々との円滑で安定した信頼関係を構築することが、組織の効率的効果的な運営にとって重要であることを理解し、そのためのノウハウの基本を学ぶ。</p> <p>14～15回：企業活動と知財管理 企業は自社の商品・サービスに知的財産権を設定することで、不当な価格競争を避け、差別化された商品・サービスを市場に提供し、開発等に要した費用を回収し、適正な利益水準を確保することができる。この知財管理</p>			

の重要性と仕組みについて理解する。

授業外学習（予習・復習）

予習について：毎時間ごとに担当教員から成される指示に基づいて予習を行う。

復習について：授業内容及び担当教員からの課題等を踏まえ、授業で扱った内容が十分身に付くよう復習を行う。

教科書

指定しない。

参考書

関連する資料などを適宜配布する。

成績の評価基準

- ・各テーマごとに課せられるレポートと最終レポートの総合点によって評価を行う。
- ・各テーマごとのレポートの合計50%、最終レポート50%

オフィスアワ -

毎週月曜日17：00～18：00

メールでの対応可能

アクティブ・ラーニング

グループワーク；学習の振り返り（ミニッツ・ペーパー等）；

アクティブ・ラーニング（その他の内容）

アクティブ・ラーニング（授業回数）

15回中14回

備考（受講要件）

全学部の学生を対象とする。

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード

科目名

国際経済学II (旧 国際経済システム論)

英語名

International Economics II

開講学科

コース

法経社会科学経済コース 新旧共通

経済コース

授業科目区分

授業形態

単位数

開講期

法経社会・経済コース/選
択科目

講義

2単位

2~4年

担当教員

連絡先 (TEL)

連絡先 (MAIL)

日野道啓

hino@leh.kagoshima-u.ac.jp

共同担当教員

前後期

後期

授業概要

本講義では、国際資本移動に注目して国際経済学の諸理論・政策・現実について学習する。

具体的なトピックスは、以下の通りである。国際資本移動の基礎と理論、国際資本移動の実態と制度の変遷、そして国際資本移動に代表される国際経済活動に起因して生じる環境問題の変遷と国際環境政策の意義等について解説する。国際環境政策については、とくに近年注目を集めている、環境物品 (=環境に優しい財・環境対策に必要な財) の国際貿易の活性化を目指す環境物品交渉について取り上げる。

なお、日本経済に関連する現象および事例を積極的に取り上げ、日本経済の現状と課題についても学習する。

学修目標

1. 国際資本移動の理論を理解できる。
2. 国際資本移動に関する制度の変遷と現代の課題を理解できる。
3. 国際経済に関する現実の問題に関心を持ち、自分の見解を論理的に表現できる。

授業計画

第1回：ガイダンス

第2回：国際資本移動の重要性

第3回：外国為替の基礎

第4回：国際収支と日本経済(1)

第5回：国際収支と日本経済(2)

第6回：国際通貨体制

第7回：国際資本移動と多国籍企業(1)

第8回：国際資本移動と多国籍企業(2)

第9回：国際資本移動と多国籍企業(3)

第10回：国際資本移動と多国籍企業(4)

第11回：国際環境問題と国際環境政策(1)

第12回：国際環境問題と国際環境政策(2)

第13回：国際環境問題と国際環境政策(3)

第14回：国際環境問題と国際環境政策(4)

第15回：総括

定期試験

授業外学習(予習・復習)

manabaを活用した講義内容に関する出題・配布資料を利用した予習。

教科書

日野道啓『環境物品交渉・貿易の経済分析』文眞堂(近刊)。

テーマ毎に、講義資料を配布する。

参考書

多岐にわたるため、講義中に説明する。

成績の評価基準

「期末試験(70%)」および「課題レポート(30%)」(+自主レポート)

オフィスアワー

火曜日の3限目

アクティブ・ラーニング

その他;

アクティブ・ラーニング (その他の内容)

アクティブ・ラーニング (授業回数)

15回3回

備考 (受講要件)

「経済学概論」および「国際経済学I」を履修しておくこと。

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
科目名			
国際経済学I (旧 国際経済システム論)			
英語名			
International Economics I			
開講学科		コース	
法経社会学科経済コース 新旧共通		経済コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会・経済コース/選択科目	講義	2単位	2~4年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
日野道啓			hino@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
		前期	
授業概要			
<p>世界経済および日本経済の実態を理解するためには、国際貿易の意義とメカニズムの把握が必要である。本講義では、国際貿易に注目して、国際経済学の諸理論・政策・現実について学習する。</p> <p>具体的なトピックスは、以下の通りである。新しい分類からみた国際貿易の実態と日本の現状、古典から最新の貿易理論、そしてWTO体制の限界とメガFTAの展開 (TPP・日欧EPA等)、サービス貿易の内容と日本の観光サービス貿易の現状等について解説する。なお、日本経済に関連する現象および事例を積極的に取り上げ、日本経済の現状と課題についても学習する。</p>			
学修目標			
<ol style="list-style-type: none"> 1. 国際貿易の理論を理解できる。 2. 国際貿易体制の変遷と現代の課題を理解できる。 3. 国際貿易に関する現実の問題に関心を持ち、自分の見解を論理的に表現できる。 			
授業計画			
<p>授業計画</p> <p>第1回：ガイダンス</p> <p>第2回：国際貿易の重要性</p> <p>第3回：国際貿易の形態分類と現代の貿易構造</p> <p>第4回：国際貿易の原理 (1)</p> <p>第5回：国際貿易の原理 (2)</p> <p>第6回：国際貿易の原理 (3)</p> <p>第7回：貿易政策と通商問題 (1)</p> <p>第8回：貿易政策と通商問題 (2)</p> <p>第9回：貿易政策と通商問題 (3)</p> <p>第10回：国際貿易体制の歴史的展開 (1)</p> <p>第11回：国際貿易体制の歴史的展開 (2)</p> <p>第12回：国際貿易体制の歴史的展開 (3)</p> <p>第13回：サービス貿易と観光 (1)</p> <p>第14回：サービス貿易と観光 (2)</p> <p>第15回：総括</p> <p>定期試験</p>			
授業外学習 (予習・復習)			
manabaを活用した講義内容に関する出題・配布資料を利用した予習。			
教科書			
指定しない。テーマ毎に、講義資料を配布する。			
参考書			
多岐にわたるため、講義中に説明する。			
成績の評価基準			
期末試験 [70%] + 課題レポート [30%] (+ 自主レポート)			
オフィスアワ -			

火曜日3限目

アクティブ・ラーニング

その他;

アクティブ・ラーニング (その他の内容)

manabaを活用した講義内容に関する出題

アクティブ・ラーニング (授業回数)

15回中3回ほど

備考 (受講要件)

「経済学概論・ミクロ経済学1」を履修しておくこと。

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
科目名			
情報ネットワーク論			
英語名			
開講学科		コース	
法経社会学科経済コース 新旧共通		経済コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会・経済コース/選択科目	講義	2単位	2～4年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
市川英孝			ichikawa@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
		前期	
授業概要			
われわれはインターネットにより、多くの利便性を享受している。それは知らず知らずの内にネットワークに参加し、多くの人々とつながっていることを意味する。このメリットにのみ目を向けることは非常に危険で、デメリットは気づかないうちに多くの被害をもたらす危険性がある。本授業では、インターネットの仕組みと、利便性のトレードオフとしての情報ネットワークの危険性について取上げ、講義を進める。			
学修目標			
インターネットを使用することにより、ネットワークに参加し、どのような影響を及ぼすか理解し、その危険性を十分に理解するとともに、インターネットの安全な利用について考える。			
授業計画			
第1回 ガイダンス			
第2回 インターネット技術とその仕組み (1)			
第3回 インターネット技術とその仕組み (2)			
第4回 インターネット技術とその仕組み (3)			
第5回 ネットのメリットとリスク (1)			
第6回 ネットのメリットとリスク (2)			
第7回 ネットのメリットとリスク (3)			
第8回 SNSの利用とその社会的影響 (1)			
第9回 SNSの利用とその社会的影響 (2)			
第10回 SNSの利用とその社会的影響 (3)			
第11回 ネットワーク環境の変遷とその技術 (1)			
第12回 ネットワーク環境の変遷とその技術 (2)			
第13回 情報ネットワークを取巻く環境とセキュリティ問題 (1)			
第14回 情報ネットワークを取巻く環境とセキュリティ問題 (2)			
第15回 情報ネットワークを取巻く環境とセキュリティ問題 (3)			
第16回 最終レポート			
授業外学習 (予習・復習)			
授業で指示する書籍を読んでくること。			
教科書			
特になし			
参考書			
成績の評価基準			
授業への参加態度50%と授業内レポート20%と最終レポート30%による。			
オフィスアワー			
メールにて連絡後、適宜対応			
アクティブ・ラーニング			
アクティブ・ラーニング (その他の内容)			

アクティブ・ラーニング（授業回数）

備考（受講要件）

なし

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
科目名			
工業簿記・原価計算論			
英語名			
開講学科		コース	
法経社会学科経済コース 新旧共通		経済コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会・経済コース/選択科目	講義	2単位	2～4年
担当教員		連絡先 (TEL)	
北村浩一		099-285-6296	
共同担当教員		連絡先 (MAIL)	
		ki tamura@leh.kagoshima-u.ac.jp	
		前後期	
		後期	
授業概要			
<p>企業経営において利益を高めるために重要視されるのは「原価」とその記録である「工業簿記」である。しかし、その具体像は必ずしも捉えにくいものである。そこで、本講義では、その原価の計算・会計そして管理についてより具体的な視点で学ぶ。</p>			
学修目標			
<p>本講義では、実際の企業で用いられている工業簿記・原価計算の技術の習得を通じて、原価の計算・会計そして管理についてより具体的な視点から修得することを目標としている。</p>			
授業計画			
<p>第1回 第2・3回 第4・5回 第6・7回 第8～10回 原価の製品別計算-個別原価計算 第11?13回 原価の製品別計算-総合原価計算 第14・15回 その他の原価計算方法 *ただし、テキストを中心に据えて授業を進めていくので、多少内容が変更になる場合もある。</p>			
授業外学習 (予習・復習)			
必要に応じて適宜指示をする			
教科書			
西村明・小野博則・大下丈平『ベーシック原価計算』中央経済社,2010年。			
参考書			
成績の評価基準			
期末試験、レポート(レポートは授業時間中に数回行う予定)			
オフィスアワ -			
水曜・12時半?16時・研究室			
アクティブ・ラーニング			
学習の振り返り(ミニッツ・ペーパー等);			
アクティブ・ラーニング(その他の内容)			
アクティブ・ラーニング(授業回数)			
5回中3回			
備考(受講要件)			
<p>担当の講義「管理会計論」「企業会計論」は当講義の内容と密接に関わっているので受講することが望ましい。 実務経験のある教員による実践的授業</p>			

ナンバリングコード			
科目名			
マーケティング論			
英語名			
Marketing			
開講学科		コース	
法経社会学科経済コース 新旧共通		経済コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会・経済コース/選択科目	講義	2単位	2～4年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
馬場武		099-285-7582	baba@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
		後期	
授業概要			
<p>マーケティング的な発想の原点は、消費者志向にあります。また、マーケティング的な発想において、消費者は、製品やサービスの「価値」を購入していると考えられます。</p> <p>本講義では、このような消費者志向をベースとしたマーケティングの基礎的概念を理解したうえで、消費者を理解するために情報を収集し、収集した情報を分析することで、組織のマーケティングに活用できるようになることを目指します。</p>			
学修目標			
<ol style="list-style-type: none"> 1. マーケティング的な発想を理解し、説明できる。 2. マーケティング・リサーチのフローを理解し、計画に落とすことができる 3. 独自のマーケティング・リサーチを企画し、調査設計・データ収集・分析・報告まで実践できる 			
授業計画			
<p>第1回：初回テスト・マーケティングの基礎（マーケティング的な発想・STP）(1)</p> <p>第2回：マーケティングの基礎（STP・4P）(2)</p> <p>第3回：マーケティング・リサーチとは</p> <p>第4回：マーケティング・リサーチの進め方</p> <p>第5回：リサーチの品質と誤差</p> <p>第6回：リサーチ・デザインとデータ形式</p> <p>第7回：リサーチ対象の選定</p> <p>第8回：質的調査とは</p> <p>第9回：量的調査とは(1)調査設計・データ収集</p> <p>第10回：量的調査とは(2)前処理・基礎分析</p> <p>第11回：量的調査とは(3)発展的な分析</p> <p>第12回：量的調査とは(4)発展的な分析</p> <p>第13回：マーケティング・リサーチの企画と調査設計</p> <p>第14回：データ収集と分析</p> <p>第15回：まとめ</p>			
授業外学習（予習・復習）			
<p>予習：次回授業までに調査すべきことなど授業内で指示します（30分）。</p> <p>復習：講義内容を中心に復習してください（30分）。</p>			
教科書			
星野崇宏・上田雅夫（2018）『マーケティング・リサーチ入門』，有斐閣。			
参考書			
必要に応じて授業内で紹介します。			
成績の評価基準			
<p>実習状況と課題など【データ分析実習/課題提出/グループワーク・プレゼンテーション（受講生が20名未満の場合のみ）など】：60%</p> <p>小テスト：40%</p>			
オフィスアワ -			

メールにてアポイントをとってください。

アクティブ・ラーニング

グループワーク; プレゼンテーション; 学習の振り返り(ミニッツ・ペーパー等); その他;

アクティブ・ラーニング(その他の内容)

マシンを用いたハンズオン形式の実習(データ分析)

アクティブ・ラーニング(授業回数)

15回中15回

備考(受講要件)

履修定員50名。

統計学に関連する講義を受講済みであるか、基礎的な統計学に関する知識を有していることが望ましい。

また、統計解析には「R」を用いる予定のため、初歩的なプログラミングスキルを有していることが望ましい。

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード

科目名

市民社会思想史I

英語名

History of Social Thought I

開講学科

コース

法経社会学科経済コース 新旧共通

経済コース

授業科目区分
法経社会・経済コース/選
択科目授業形態
講義単位数
2単位開講期
2~4年

担当教員

連絡先 (TEL)

連絡先 (MAIL)

橋本直樹

hx2m@leh.kagoshima-u.ac.jp

共同担当教員

前後期

なし。

後期

授業概要

今期の市民社会思想史Iのテーマは、主著『資本論』の自用本とともに青年期に起草した『共産党宣言』の草稿が2013年にユネスコの「世界の記憶」リストに登録され、今や人類全体の文化遺産ともなった青年期のマルクスの思想です。

一昨年と昨年はカール・マルクスの主著『資本論』刊行150周年およびマルクス生誕200周年に当たるマルクス年でした。種々の著作・論文等が出版されて新知見が示されましたし、1840年代のマルクスおよびフリードリヒ・エンゲルスの思想的発展を描いた映画『マルクス・エンゲルス』なども各地で上映されて評判をよびました。今回の講義ではそれら新知見等を利用して、青年期のマルクスの思想的発展を探ってみることを目的とします。

中味としては、マルクスの著作として知られている『経済学・哲学手稿』、『ドイツ・イデオロギー』、『賃労働と資本』、『共産党宣言』等を探り上げ、それらの内容を説明します。

授業は、担当教員が昨年1月に出版した下記教科書を軸にして、もっぱら講義形式で行います。

学修目標

経済学の基礎的知識を体系的に修得するとともに、地域社会や国際社会の現実的諸課題を解決する上での前提となる論理的・科学的思考力を体得するため、市民社会思想史の講義を受講して、社会思想のもつ共時的・通時的な次の2つの特性を、具体的に説明することができるようになります。

- 1) いろいろな社会思想が生まれる基盤は経済過程にあって、両者には特定の関連があること。
- 2) 経済的基礎過程が歴史的制約をもつことに規定されて諸社会思想も歴史的制約を被ること。

授業計画

第1回：ガイダンス・映画『若きカール・マルクス（邦題：マルクス・エンゲルス）』鑑賞

第2回：1840年代マルクスの思想展開概観

第3回：ドイツの状態と思想状況（ヘーゲル哲学批判とL・フォイエルバッハ）

第4回：疎外論による経済的諸範疇の批判構想

第5回：マルクスの労働観

第6回：唯物論的社会・歴史観1)土台・上部構造論

第7回：唯物論的社会・歴史観2)生産諸関係と経済的諸範疇の関連について

第8回：唯物論的社会・歴史観3)法律的・政治的上部構造と社会的意識諸形態・イデオロギー的諸形態

第9回：唯物論的社会・歴史観4)規定・被規定と先発国・後発国

第10回：『共産党宣言』の思想1)書誌的事項と前文の内容

第11回：『共産党宣言』の思想2)第I章の内容 階級闘争史観はイギリス古典経済学やフランス王政復古期の歴史学者が始めたこと・生産諸力と生産諸関係の矛盾・恐慌と革命

第12回：『共産党宣言』の思想3)第II章の内容 『宣言』の表題・マルクスの資本理解・マルクスによる反批判の手法・实际的措置の時代制約性

第13回：『共産党宣言』の思想4)第III章の内容 その他の社会主義・共産主義思想への批判・空想的社会主義の批判的評価の論理

第14回：『共産党宣言』の思想5)第IV章の内容、二月・三月革命の勃発と退潮、共産主義者同盟の再組織

第15回：共産主義者同盟の分裂と1850年のマルクスによる経済学研究の再出発

(第16回：定期試験)

授業外学習 (予習・復習)

詳しくはガイダンス（初回の講義）時に指示しますが、教科書を中心に、講義で配布した追加資料、参考文献の該当部分を所定の時間以上をかけて事前に予習しておきましょう。また、教科書及び講義資料を基に毎回の講義内容について所定の時間以上をかけて、講義で深めた理解を定着させるようにしましょう。とりわけ、復習しても不明の点は、毎回配布する「学習連絡シート」に記入して担当教員に必ず伝え、回答を得て、不明点をなくすようにしましょう。

教科書

橋本直樹著『1850年のマルクスによる経済学研究の再出発』八朔社、2018年。

参考書

橋本直樹著『『共産党宣言』普及史序説』八朔社、2016年。

橋本直樹著「『共産党宣言』という表題にした理由」『経済』第272号、新日本出版社、2018年5月、140～148ページ。

橋本直樹著「『ドイツ・イデオロギー』における「疎外」についての一考察」鹿児島大学経済学会『経済学論集』第45号、1996年12月、41～61ページ。

橋本直樹著「『経済学批判』の端緒的形成 《パリ草稿》における「私的所有」批判」福島大学経済学会『商学論集』第48巻第2号、1979年10月、88～168ページ。

橋本直樹著「『独仏年誌』の「プラン」と「往復書簡」」『季刊 科学と思想』第52号、新日本出版社、1984年4月、163～191ページ。

カール・マルクス／フリードリヒ・エンゲルス〔服部文男 訳〕『共産党宣言／共産主義の諸原理』（新日本出版社）。現時点でもっとも学術的で正確な邦訳です。

マルティン・フント〔橋本直樹 訳〕『「共産党宣言」はいかに成立したか』（八朔社）。『宣言』成立史を一般向けに説明しています。

なお、その他の参考文献はガイダンス（初回の講義）時に指示しますが、発展的学習のための文献などは講義のなかで随時ご紹介します。

成績の評価基準

期末の筆記試験（70％ 教科書は持ち込み可とします）、1600字程度の課題レポート（20％）および毎回の講義で書いていただく「学習連絡シート」の記載状況（10％）で評価します。

オフィスアワー

アクティブ・ラーニング

学習の振り返り（ミニッツ・ペーパー等）；その他；

アクティブ・ラーニング（その他の内容）

講義内容に関連する映画を鑑賞し、それについての短い鑑賞レポートを作成し、提出する。

アクティブ・ラーニング（授業回数）

ミニッツ・ペーパー：15回中14回、その他：15回中1回。

備考（受講要件）

特になし。

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード

科目名

市民社会思想史II

英語名

History of Social Thought II

開講学科		コース	
法経社会学科経済コース 新旧共通		経済コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会・経済コース/選択科目	講義	2単位	2～4年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
橋本直樹			hx2m@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
なし。		前期	

授業概要

今期の市民社会思想史IIのテーマは、2013年にユネスコの「世界の記憶」リストに登録され、人類全体の文化遺産ともなった『共産党宣言』の受容史です。

<書物が受容される歴史を追う>という、社会史や思想史の分野において近年定着してきた手法を用いて、古典としてよく知られている有名な諸著作を取り上げ、古典のもつ意味を、主にその本文の内容から把握してきた従来の理解(いわば<書物の解釈史>)とはまた別の切り口から探ってみることを目的とします。

内容として、今回は、カール・マルクスおよびフリードリヒ・エンゲルスの著作として知られている社会科学上の古典中の古典である『共産党宣言』を採り上げ、その受容史を概観してみます。

一昨年と昨年はカール・マルクスの主著『資本論』刊行150周年およびマルクス生誕200周年に当たるマルクス年でした。種々の著作・論文等が出版されて新知見が示されましたし、1840年代のマルクスおよびフリードリヒ・エンゲルスの思想的発展を描いた映画『マルクス・エンゲルス』なども各地で上映されて評判をよびました。今回の講義ではそれら新知見等をも利用して、この分野で定評のあるベルト・アンドレアスの学術的大著に沿いながら、担当教員が新たに得た知見をまとめ、一昨々年出版した下記教科書を軸に、講義形式で行います。

学修目標

経済学の基礎的知識を体系的に修得するとともに、地域社会や国際社会の現実的諸課題を解決する上での前提となる論理的・科学的思考力を体得するため、市民社会思想史の講義を受講して、社会思想のもつ共時的・通時的な次の2つの特性を、具体的に説明することができるようになります。

- 1) いろいろな社会思想が生まれる基盤は経済過程にあって、両者には特定の関連があること。
- 2) 経済的基礎過程が歴史的制約をもつことに規定されて諸社会思想も歴史的制約を被ること。

授業計画

第1回：ガイダンス

第2回：初版について(1)3つの「初版」の内どれが本当の初版か？

第3回：同上 (2)7つの異本のどれが初刷か？

第4回：同上 (3)扉にある印刷所で本当に印刷されたのか？ 刊行時期はいつか？ 刊行期間はいつまでか？

第5回：最初の新聞連載について(1)『ドイツ語ロンドン新聞』社主ダイヤモンド王カールII世

第6回：同上 (2)20歳の編集長シャーベリッツ

第7回：同上 (3)シャーベリッツの活動

第8回：最初期の諸版について(1)労働者が翻訳したスウェーデン語版と30ページ本の謎

第9回：同上 (2)30歳の女性チャーティストが翻訳した最初の英訳

第10回：1872年ドイツ語版について(1)前史としての『ライプツィヒ大逆罪裁判』

第11回：同上 (2)版本の主な特徴

第12回：同上 (3)少数の秘密出版同然だったのにその後の諸版の底本となったのはなぜなのか等の諸問題

第13回：日本における受容の歴史(1)国禁の書であった戦前

第14回：同上 (2)戦後の諸版

第15回：まとめ

(第16回：定期試験)

授業外学習（予習・復習）

詳しくはガイダンス（初回の講義）時に指示しますが、教科書を中心に、講義で配布した追加資料、参考文献の該当部分を所定の時間以上をかけて事前に予習しておきましょう。また、教科書及び講義資料を基に毎回の講義内容について所定の時間以上をかけて、講義で深めた理解を定着させるようにしましょう。とりわけ、復習しても不明の点は、毎回配布する「学習連絡シート」に記入して担当教員に必ず伝え、回答を得て、不明点をなくすようにしましょう。

教科書

橋本直樹 著 『『共産党宣言』普及史序説』（八朔社、2016年）。

参考書

1) カール・マルクス/フリードリヒ・エンゲルス〔服部文男 訳〕『共産党宣言/共産主義の諸原理』（新日本出版社）。現時点でもっとも学術的で正確な邦訳です。

2) マルティン・フント〔橋本直樹 訳〕『「共産党宣言」はいかに成立したか』（八朔社）。『宣言』成立史を一般向けに説明しています。

なお、その他の参考文献はガイダンス（初回の講義）時に指示しますが、発展的学習のための文献などは講義のなかで随時ご紹介します。

成績の評価基準

期末の筆記試験（70% 教科書は持ち込み可とします）、1600字程度の課題レポート（20%）及び毎回の講義で書いていただく「学習連絡シート」の記載状況（10%）で評価します。

オフィスアワ -

アクティブ・ラーニング

学習の振り返り（ミニッツ・ペーパー等）；

アクティブ・ラーニング（その他の内容）

アクティブ・ラーニング（授業回数）

15回中14回。

備考（受講要件）

特になし。

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
科目名			
金融政策論			
英語名			
開講学科		コース	
法経社会学科経済コース 新旧共通		経済コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会・経済コース/選択科目	講義	2単位	2～4年
担当教員		連絡先 (TEL)	
衣川 恵			
共同担当教員		連絡先 (MAIL)	
		前後期	
		前期	
授業概要			
<p>金融政策は、中央銀行が国民経済の健全な発展に資するために、通貨及び金融の調節を行う政策である。急激なインフレーション、スタグフレーション、バブル経済、デフレーションなど通常の経済状態から著しく乖離した時に、金融政策の真価が問われる。金融政策の基礎知識とともに、日本を中心とする金融政策の実相とその帰結について学ぶ。</p>			
学修目標			
<ol style="list-style-type: none"> 1. 金融政策の目的と手段について説明できる。 2. バブル期の金融政策について説明できる。 3. 日本銀行の量的・質的金融緩和 (QQE) について説明できる。 4. マイナス金利政策について説明できる。 			
授業計画			
<ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクション 2. 金融政策の目的と手段 3. 日本銀行法と金融政策 4. マネーストックと金融政策 5. 高度成長期の金融政策 6. 狂乱物価と金融政策 7. バブル経済と金融政策 8. 「物価の安定」を巡る問題 9. ゼロ金利政策 10. インフレ・ターゲティング 11. 量的・質的金融緩和(QQE) 12. マイナス金利政策 13. 金融政策を巡る世界的潮流 14. 金融政策のあるべき目標 15. まとめ 			
授業外学習 (予習・復習)			
配布したレジюмеや資料をしっかりと読んで、学習内容を再確認すること。			
教科書			
教科書は使用せず、授業の際にレジюмеや資料を配布する。			
参考書			
小林照義『金融政策』中央経済社 (2015年) 日本経済新聞社『黒田日銀 超緩和の経済分析』 (2018年) 衣川恵『新訂 日本のバブル』日本経済評論社 (2009年)			
成績の評価基準			
期末試験によって評価する。			
オフィスアワ -			

アクティブ・ラーニング

学習の振り返り（ミニッツ・ペーパー等）；

アクティブ・ラーニング（その他の内容）

アクティブ・ラーニング（授業回数）

15回中8回程度

備考（受講要件）

板書を中心とするため、きちんとノートがとれるようにすること。

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
科目名			
管理会計論			
英語名			
開講学科		コース	
法経社会学科経済コース 新旧共通		経済コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会・経済コース/選択科目	講義	2単位	2~4年
担当教員	連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)	
北村浩一	099-285-6296	ki tamura@leh.kagoshima-u.ac.jp	
共同担当教員	前後期		
	前期		
授業概要			
<p>企業経営者にとって厳しく先の見えない環境の中で、管理会計はますます重要な管理手法として位置づけられている。そこで本講義では管理会計を概念的に、そして体系的に捉える作業が非常に重要であるという観点から、概念・体系を中心として「管理会計」を分析してゆく。</p>			
学修目標			
<p>本講義では第1に「管理会計」とは一体何かをそれぞれがそれなりに掴むことを目標としている。管理会計については様々に定義されているからである。また、管理会計の分析を通じて、関連する経営・管理といった概念についても修得することをさらなる目標としている。</p>			
授業計画			
<p>第1回 ガイダンス 第2回-第3回 会計による管理と管理のための会計 第4回-第5回 計画と統制 第6回-第9回 利益管理・予算管理 第10回-第12回 原価管理 第13回-第15回 業績管理会計・総括(管理会計の役割と意義) ただし、テキストを中心に捉えて授業を進めていくので、多少内容が変更になる場合もある。</p>			
授業外学習 (予習・復習)			
その都度指示する			
教科書			
西村明・大下丈平編『ベーシック管理会計』中央経済社			
参考書			
授業中に随時示す。			
成績の評価基準			
レポートと試験			
オフィスアワ -			
毎週水曜日午前10時半から			
アクティブ・ラーニング			
学習の振り返り (ミニッツ・ペーパー等) ;			
アクティブ・ラーニング (その他の内容)			
アクティブ・ラーニング (授業回数)			
3回			
備考 (受講要件)			
<p>関係講義 『企業会計論』 『工業簿記・原価計算論』 の受講が望ましい。 実務経験のある教員による実践的授業</p>			

ナンバリングコード			
科目名			
国際貿易投資論I			
英語名			
International Trade and Investment I			
開講学科		コース	
法経社会学科経済コース 新旧共通		経済コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会・経済コース/選択科目	講義	2単位	2~4年
担当教員		連絡先 (TEL)	
山本一哉		099-285-7595	
共同担当教員		連絡先 (MAIL)	
なし		yamamoto@leh.kagoshima-u.ac.jp	
		前後期	
		前期	
授業概要			
本講義では、基礎的な貿易理論を解説したうえで、日本を中心に世界の貿易動向を統計資料等を使って紹介する。また、それを通して、日本及び世界経済の変化や問題点等について解説する。			
学修目標			
1) 国際貿易の基礎的な理論を理解する。 2) 日本と世界の貿易について、その動向や構造的な変化について理解する。 3) 貿易・通商政策について理解する。			
授業計画			
第1回 ガイダンス 第2回 質理基礎理論? (アダム・スミス、リカード) 第3回 質理基礎理論? (アダム・スミス、リカード) 第4回 質理基礎理論? (ヘクシャー・オリーン) 第5回 質理基礎理論? (ヘクシャー・オリーン) 第6回 質理基礎理論? (ヘクシャー・オリーン) 第7回 質理基礎理論? (新貿易理論) 第8回 貿易政策とその理論 第9回 世界の貿易動向 第10回 日本の貿易? (概要) 第11回 日本の貿易? (戦後~1970年代) 第12回 日本の貿易? (1980年代以降) 第13回 日本の貿易? (貿易不均衡と通商摩擦) 第14回 米国トランプ政権の通商政策? (概要と狙い) 第15回 米国トランプ政権の通商政策? (中国との通商摩擦)			
授業外学習 (予習・復習)			
講義で配布したレジюме及び資料をしっかりと読んで、その日の学習内容を再確認すること。			
教科書			
特になし。授業の際にレジюмеと資料を配布する。			
参考書			
講義中に紹介する。			
成績の評価基準			
期末試験			
オフィスアワー			
曜日・時間：毎週木曜日3限、場所：研究室			
アクティブ・ラーニング			
アクティブ・ラーニング (その他の内容)			

アクティブ・ラーニング（授業回数）

備考（受講要件）

特になし

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
科目名			
経営情報論			
英語名			
開講学科		コース	
法経社会学科経済コース 新旧共通		経済コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会・地域社会コース /経済コース/選択科目	講義		2～4年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
萩野誠		7605	mhagino@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
		前期	
授業概要			
<p>企業の情報システムは、既存の企業組織を超えて、ネットワークを介し、大きく変化している。この動きは、コンピュータ導入の初期段階から存在していた。</p> <p>本講義は、この情報通信技術ICTの本質を見極めて、情報を中心とした企業組織の変化を見出すことを目指す。</p>			
学修目標			
<p>1) 情報通信技術の本質を説明できる。</p> <p>2) 企業の組織がネットワークで変化する経緯を説明できる。</p>			
授業計画			
<p>第1回 はじめに：ICTとは何か？</p> <p>第2回 コンピュータのハードウェアについて</p> <p>第3回 コンピュータのソフトウェアについて</p> <p>第4回 ICTの技術進歩について（1）</p> <p>第5回 ICTの技術進歩について（2）</p> <p>第6回 小テストとレポート提出</p> <p>第7回 ダウンサイジングの帰結：スマートフォン</p> <p>第8回 ボードレス化とICT</p> <p>第9回 小テストとレポート提出</p> <p>第10回 ICTの技術特性（1）：becoming</p> <p>第11回 ICTの技術特性(2)：sharing</p> <p>第12回 ICTの技術特性(3)：others</p> <p>第13回 小テストとレポート提出</p> <p>第14回 鹿児島県とICT(1)</p> <p>第15回 鹿児島県とICT(2)：レポート提出</p>			
授業外学習（予習・復習）			
<p>講義中に宿題を出すので、これを予習時間に行うこと。</p> <p>小テスト及びレポート提出のために、復習を行うこと。</p>			
教科書			
なし			
参考書			
随時、紹介する			
成績の評価基準			
<p>小テスト（20点）×2回＝40点</p> <p>レポート（20点）×3回＝60点</p> <p>この合計点で評価する</p>			
オフィスアワ -			
講義終了直後			
アクティブ・ラーニング			
学習の振り返り（ミニッツ・ペーパー等）；			

アクティブ・ラーニング（その他の内容）

アクティブ・ラーニング（授業回数）

備考（受講要件）

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
FHS-CCE2548			
科目名			
地域計画論			
英語名			
Reginal Planning			
開講学科		コース	
法経社会学科経済コース 新旧共通		経済コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会・経済コース/地域社会コース/選択科目	講義	2単位	2～4年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
北崎浩嗣		099-285-7592	ki tazaki@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
		前期	
授業概要			
<p>分権化・国際化が進展する一方で、過疎化・高齢化に悩む地域社会は、今、地域設計のあり方が問われている。地域の諸問題を、自治体・民間企業・地域住民といった幅広い領域から汲み取り、地域に発生している課題を明確にし、その解決策を多角的・総合的に解明する。また、地域計画の策定過程を検討し、これからのよりよい地域設計を模索する。</p>			
学修目標			
<ol style="list-style-type: none"> 1) 地域の諸問題を自分の視点で考察できる。 2) 並行在来線問題と新幹線の影響について述べることができる。 3) 地域活性化策をいくつかを提言できる。 4) いくつかの自治体の長期振興計画の特徴と課題について述べるができる。 5) 行政評価の方法を挙げることができる。 			
授業計画			
第1回	ガイダンス		
第2回 - 第4回	地域の選択 - 新幹線開通と並行在来線問題 (1) (2) (3)		
第5回	地域の選択 - 錦江湾横断トンネルなどの鹿児島の交通網問題		
第6回	地域の活性化 (1) グリーン・ツーリズムの推進		
第7回	地域の活性化 (2) 地域ブランドの取組		
第8回	地域活性化 (3) 農業を主体としたまちづくり		
第9回	地域活性化 (4) 中心市街地活性化計画		
第10回	地域活性化 (5) 商店街の活性化策		
第11回	地域活性化 (6) 鹿児島市の様々な試み (観光農業公園など)		
第12回 - 第14回	地域計画の実践 (1) 自治体の総合計画 (2) 行財政改革と行政評価 (3) 今後の地域計画のあり方 -		
第15回	本講義のポイント確認とまとめ		
授業外学習 (予習・復習)			
講義の事前事後に、配布資料を熟読しておくことが望ましい。			
教科書			
なし。資料と講義レジュメを講義時に配布する。			
参考書			
講義の進展に応じて、適宜紹介する。			
成績の評価基準			
期末試験70点と講義時に行うレポート30点で行う。			
オフィスアワー			
金曜日 2 時間目、研究室			
アクティブ・ラーニング			
学習の振り返り (ミニッツ・ペーパー等) ;			
アクティブ・ラーニング (その他の内容)			

アクティブ・ラーニング（授業回数）

15回中3回

備考（受講要件）

日頃から、新聞、雑誌等を通じて地域の情報を知っておいてほしい。

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード

科目名

財政政策論I (旧 財政学総論)

英語名

Public Finance I

開講学科

コース

法経社会科学経済コース 新旧共通

経済コース

授業科目区分

授業形態

単位数

開講期

法経社会・経済コース/地域社会コース/選択科目

講義

2単位

2~4年

担当教員

連絡先 (TEL)

連絡先 (MAIL)

林田吉恵

共同担当教員

前後期

後期

授業概要

私たちが生活する社会・経済は、自由経済・市場経済を基本としながらも、政府や財政による公的な対応を不可欠としている。そして「地方分権の時代」と言われるが、事実上、依然としてわが国の地方財政は国のコントロール下にあり、地方にとって国からの地方交付税や国庫支出金はなくてはならない財源である。この講義では国と地方の財政関係の現状とあり方について考察する。

本講義では、なぜ私たちは政府や財政を必要としているのか、そこではどのような政策手段が可能であるのかについて、基礎的概念を学んでもらうこと、また、日本の財政や地方財政を取り巻く制度面・政策面での特徴を解説し、どのような課題・論点があるかを理解してもらうことを目標とする。

学修目標

財政・地方財政に関する基礎知識・基本的概念を自己の言葉で説明でき、また理論的背景についても説明できる。

授業計画

できるかぎり受講生の反応を見ながら講義を進めたいので、板書を中心に講義を進めるとともに、随時、受講生からの発言を求め、コメントペーパーを書いてもらうなどの双方向の講義になるように努める。

したがって、講義の進捗状況によっては、シラパスを変更する可能性もある。

- 第1回 経済活動における政府の役割 GDP、国民負担率、政府支出、社会保障給付
- 第2回 経済活動における財政の役割(1) 財政の3機能公共財、外部性、税・移転支出、公共事業
- 第3回 経済活動における財政の役割(2) 引き続き財政の3機能、国と地方の役割分担
- 第4回 財政制度 予算、決算、地方財政計画、特別会計
- 第5回 日本の財政状況と問題点(1) プライマリー・バランス、クラウドディング・アウト、世代間の公平
- 第6回 日本の財政赤字の要因 増分主義、福祉国家、高齢化
- 第7回 これまでの講義のまとめ 予備
- 第8回 公共財・サービスの供給(1) 非排除性、非競合性、ただ乗り、民間財、効率性
- 第9回 公共財・サービスの供給(2) 準公共財、価値財、外部性
- 第10回 政府支出の理論(1) 生産の効率性、配分の効率性、公共財の最適供給
- 第11回 政府支出の理論(2) 多数決投票、ナッシュ均衡、リンダール均衡
- 第12回 財政と経済安定(1) 国民所得の決定、乗数効果、IS・LM
- 第13回 財政と経済安定(2) 税収弾性値、完全雇用余剰、財政配当
- 第14回 政府の失敗を考える X非効率性、エージェンシー問題、意思決定の費用
- 第15回 講義のまとめを行い、受講生からの質問を受けるつける。予備。

授業外学習 (予習・復習)

毎日新聞・ニュースなどを読む(見る)など、わが国の抱える様々な経済問題に対するの関心を持つようにする。

講義で疑問に思ったことや興味をもったことについて自分で調べる。

(学修に係る標準時間は約30分)

教科書

とくに定めなし。

講義内容に応じて、適宜資料を配布する。

参考書

林 宜嗣 『基本コース財政学 第3版』 新世社

林 宜嗣 『地方財政 新版』 有斐閣

成績の評価基準

定期試験および、平常態度（講義内レポート、受講態度）等も考慮して評価する。

オフィスアワ -

火曜日

必ず事前にメールで連絡してください

アクティブ・ラーニング

アクティブ・ラーニング（その他の内容）

アクティブ・ラーニング（授業回数）

備考（受講要件）

板書で講義をすすめるため、きちんとノートがとれるようにする。

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
科目名			
データベース論			
英語名			
Database Architecture			
開講学科		コース	
法経社会学科経済コース 新旧共通		経済コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会・経済コース/選択科目	講義	2単位	3～4年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
萩野誠		7605	mhagino@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
		前期	
授業概要			
<p>われわれはICTを活用したデータベースにより、便利な生活をおくっている。 このデータベースの存在を明確にイメージすることは、これからの生活だけでなく、データベースを活用するビジネスにとって不可欠である。 本講義では、非常にプリミティブなデータベースを作成し、その活用をSQLを利用しておこなう。</p>			
学修目標			
<ol style="list-style-type: none"> 1. データベースの概念を明確に述べることができる。 2. データベースを検索するSQL言語を理解することができる。 3. アプリケーションによって、データベースを検索ができ、SQLに翻訳できる。 4. 逆もできるようになる。 5. LibreOfficeをUSBメモリーにセットアップできる 			
授業計画			
<ol style="list-style-type: none"> 1. 講義環境の設定 2. データベースの存在をイメージする。 3. データベースの原始的な形態：テーブル 4. アプリケーションの操作（1）：テーブルの作成 5. アプリケーションの操作（2）：クエリーの作成 6. アプリケーションの操作（3）：クエリーによるクエリーの作成 7. アプリケーションの操作（4）：詳細なクエリーの操作 8. SQL言語の理解（1）：文法 9. SQL言語の理解（2）：セレクト文 10. SQL言語の理解（3）：条件設定 11. SQL体系のまとめ 12. 重複データ等の処理について 13. 出力書式について 14. あらためてデータベースを理解する：ネット上のデータベース 15. ネットからデータを処理する手法を学ぶ 16. テスト 			
授業外学習（予習・復習）			
<p>ネット上にはさまざまな教材がある。 これを有効に活用して、予習復習をすること。 それぞれ30分もあれば、理解度が深まる</p>			
教科書			
なし			
参考書			
なし			
成績の評価基準			

適時、小テストを実施し、理解度を確認する。
期末テストでは、データベース概念をしっかりと理解したかをチェックする。

オフィスアワ -

講義終了後30分

アクティブ・ラーニング

アクティブ・ラーニング (その他の内容)

アクティブ・ラーニング (授業回数)

備考 (受講要件)

簡単なプログラムができるか、それに対して意欲的に臨む学生であること。
LibreOfficeの設定をUSBメモリーにするので、持参すること。
また、Java, LibreOfficeの不定期なバージョンアップがあるので、各自で対応すること。

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
FHS-CCE2370			
科目名			
アジア農村経済論			
英語名			
Asian Rural Economics			
開講学科		コース	
法経社会学科経済コース 新旧共通		経済コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会・経済コース/選択科目	講義	2単位	3~4年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
西村知		099-285-8851	satoru@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
なし。		後期	
授業概要			
アジアの農村経済を理解するための理論とアジア農村の実態を講義する。			
学修目標			
1 ミュールダル, ミント, スコット, シュルツなどの農村の経済発展に関する理論を学ぶ。			
2 セン, シーバなど開発学において重要な理論を学ぶ。			
3 農地改革や緑の革命などのアジア農村における制度的, 技術的变化の内容およびその農村への影響 につ			
いて学ぶ。			
4 フィリピンを中心としてアジアの農村変化の具体例を通じて, アジア農村の抱える問題を理解す る。			
授業計画			
1 オリエンテーション			
2 農村の経済発展に関する理論1ミュールダル			
3 " 2 ミント			
4 " 3 スコット			
5 " 4 シュルツ			
6 開発学1 セン1			
7 " 2 セン2,			
8 開発学3 シーバ1			
9 " 4 シーバ2			
10 農地改革1			
11 " 2			
12, 緑の革命1			
13 " 3			
14 フィリピンの農村変化1			
15 " 2			
授業外学習 (予習・復習)			
授業中、適宜、指示する。			
教科書			
授業開始後に紹介。			
参考書			
授業開始後に紹介。			
成績の評価基準			
数回の小テスト成績。			
オフィスアワ -			
水曜日 : 12:00-13:00			
アクティブ・ラーニング			
アクティブ・ラーニング (その他の内容)			

アクティブ・ラーニング（授業回数）

備考（受講要件）

特になし。

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
科目名			
日本経済論			
英語名			
開講学科		コース	
法経社会学科経済コース 新旧共通		経済コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会・経済コース/選択科目	講義	2単位	3~4年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
三浦壮		099-285-8905	miura@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
		後期	
授業概要			
<p>日本経済の動向について、?国民経済とマーケットに関する簡素な分析方法を紹介し、?戦後の具体的な歩みを概観する。?については経済統計とマーケットに関する指標について学習する。?では経済統計・マーケットに関する学習を基盤として、各種資料を読み解く。</p> <p>本講義は、3年次履修科目であり、基礎科目ではない。基礎を身につけた上での、応用科目である。とりわけ、マクロ経済学と金融論の知識がないと、理解できないor浅い知識しか身につかない。授業の内容が難しいと感じる場合は、予習をしっかりと行い、それぞれのOSをアップデートしてから挑みたい。</p>			
学修目標			
<p>?経済統計の調べ方・読み方、マーケットに関する諸数値の調べ方・読み方を身につける</p> <p>?戦後日本経済の歩みを「知識」として身につける。</p>			
授業計画			
<p>第1回 オリエンテーション</p> <p>第2回 経済統計の調べ方・読み方 (GDP, 消費, 投資・国際収支)</p> <p>第3回 経済統計の調べ方・読み方 (財政)</p> <p>第4回 経済統計の調べ方・読み方 (金融)</p> <p>第5回 マーケットの指標 (ROE, PER, PBR, ほか)</p> <p>第6回 戦後復興期の日本経済?</p> <p>第7回 戦後復興期の日本経済?</p> <p>第8回 高度成長期の日本経済?</p> <p>第9回 高度成長期の日本経済?</p> <p>第10回 高度成長期の日本経済?</p> <p>第11回 企業集団の形成とメインバンク</p> <p>第12回 オイルショックと繁栄の1980年代</p> <p>第13回 バブル経済の出現と崩壊</p> <p>第14回 長期不況期の日本経済?</p> <p>第15回 長期不況期の日本経済?</p>			
授業外学習 (予習・復習)			
教科書			
用いないが、メモ用紙を持参する事。			
参考書			
成績の評価基準			
評価は期末試験のみ (100%)。			
オフィスアワ -			
月曜日1限目			
アクティブ・ラーニング			

アクティブ・ラーニング（その他の内容）

アクティブ・ラーニング（授業回数）

備考（受講要件）

マクロ経済学（経済情報学科旧科目）、マクロ経済学?、マクロ経済学?のいずれか1科目の単位取得者（必須）
．また必須ではないが、金融論関係科目（金修論・金融システム論・金融政策論のいずれか）の単位取得者が望ましい。

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
科目名			
経営分析			
英語名			
開講学科		コース	
法経社会学科経済コース 新旧共通		経済コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会・経済コース/選択科目	講義	2単位	3~4年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
澤田成章		099-285-8888	sawada@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
		後期	
授業概要			
<p>本講義では、財務会計の知識をベースとし、財務諸表分析を中心に経営分析について学んでいただく。教員のレクチャーは第3回講義までであり、「経営分析の実践(1)~(8)」では受講者によるグループワークが主たる講義内容となる。原則として企業の経営にフォーカスするが、受講者の興味・関心に応じて、自治体や公営企業を分析対象とすることも可能である。</p>			
学修目標			
<p>?グループで作業内容を分担し、作業結果を共有し、適切に進捗管理を行う能力を身に付けること(可~良) ?財務諸表情報をはじめとする経営情報を収集し、適切に仮説検証を行う能力を身に付けること(優) ?問いを立て(課題発見)、問いを解消し(課題解決)、分析作業によって新たな知を生み出すことに貢献する能力を身に付けること(秀)</p>			
授業計画			
<p>第 1 回：ガイダンス、経営分析を行う意義について 第 2 回：経営分析の視点 第 3 回：情報の利活用方法について 第 4 回：経営分析の実践(1)_進捗報告・ディスカッション・分析作業 第 5 回：経営分析の実践(2)_進捗報告・ディスカッション・分析作業 第 6 回：経営分析の実践(3)_進捗報告・ディスカッション・分析作業 第 7 回：経営分析の実践(4)_進捗報告・ディスカッション・分析作業 第 8 回：中間報告会(1) 第 9 回：中間報告会(2) 第 10回：経営分析の実践(5)_進捗報告・ディスカッション・分析作業 第 11回：経営分析の実践(6)_進捗報告・ディスカッション・分析作業 第 12回：経営分析の実践(7)_進捗報告・ディスカッション・分析作業 第 13回：経営分析の実践(8)_進捗報告・ディスカッション・分析作業 第 14回：最終報告会(1) 第 15回：最終報告会(2)・総括</p>			
授業外学習(予習・復習)			
アウトプットのクオリティを最大化するために必要な予習を求める。			
教科書			
伊藤邦雄『新・現代会計入門(第2版)』日本経済新聞出版社			
参考書			
成績の評価基準			
中間報告会(20%)、受講者の相互評価(20%)、最終報告会(60%)の総合評価による。			
オフィスアワ -			
メールにてアポイントメントをお願いします。			
アクティブ・ラーニング			
グループワーク; ディベート; プレゼンテーション; 学習の振り返り(ミニッツ・ペーパー等);			

アクティブ・ラーニング（その他の内容）

アクティブ・ラーニング（授業回数）

15回中12回

備考（受講要件）

教員によるレクチャーを最小限にすることから、会計学総論（財務会計論）、原価計算論（工業簿記・原価計算論）等の会計関連科目を受講済みであることが望ましい。

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
科目名			
外国書研究			
英語名			
開講学科		コース	
法経社会学科経済コース 新旧共通		経済コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会・経済コース/選択科目	講義	2単位	3~4年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
三浦壮		099-285-8905	miura@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
		後期	
授業概要			
<p>英字雑誌（経済・経営）を読み、英語で経済・経営の情報を取得するとともに、それを素材として、日本経済・世界経済のトレンドについて理解を深める。</p> <p>毎週、授業前半で、テクニカルタームに関する筆記試験を実施する（20問程度）。この筆記試験は点数化され、授業評価の対象となる。単位取得のためには、総正解数が60%以上必要である。</p> <p>授業後半で、英語の長文（ただし、日本語の対訳がついている）を素材として、ディスカッションを行う。いずれも、それぞれの基礎学力に応じた予習・復習が求められるので、覚悟して履修されたい。</p>			
学修目標			
<p>?英字で書かれた経済・経営情報を読むための基礎的な知識（とりわけテクニカルターム）を修得する。</p> <p>?日本経済・世界経済のトレンドについて、その概略を理解する。</p> <p>?上記を通じて、英字文献の独解能力をアップデートし、より高度な文献の読解へステップするための基盤を作り上げる。</p>			
授業計画			
<p>1回 オリエンテーション</p> <p>2回~15回 試験・ディスカッション</p>			
授業外学習（予習・復習）			
<p>毎週冒頭で、テクニカルタームに関する試験を実施する（20問程度）。当然、点数化される。結果が出せるのならば、予習・復習は受講者本人の責任で判断してよい。逆に、結果がでないなら、予習・復習が足りない証左なので、それぞれの判断で</p>			
教科書			
第1回の授業で選択させる。			
参考書			
成績の評価基準			
<p>毎週、授業前半で、テクニカルタームに関する筆記試験を実施する（20問程度）。筆記試験は点数化され、その積算値（20問×14回）が授業評価の対象となる。単位取得のためには、14回分の総正解数が60%以上必要である。授業を休めば、その回の取得数はゼロである。</p> <p>ディスカッションでの発言は、+ の扱いとする、</p>			
オフィスアワ -			
月曜1限目			
アクティブ・ラーニング			
アクティブ・ラーニング（その他の内容）			
アクティブ・ラーニング（授業回数）			
備考（受講要件）			
なし			

ナンバリングコード			
科目名			
農業政策論			
英語名			
Agricultural Policy			
開講学科		コース	
法経社会学科経済コース 新旧共通		経済コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会・地域社会コース /経済コース/選択科目	講義	2単位	3～4年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
北崎浩嗣		099-285-7592	ki tazaki@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
		後期	
授業概要			
<p>本講義では、戦後日本経済の展開の中で、日本の農業政策がいかに推移し、いかなる役割を演じてきたかを説明する。講義の前半では、農地改革と農地法、企業の農業参入や生産調整など、日本農業の構造面に焦点を当てる。後半では、担い手問題、農産物流通問題、農業保護問題など、最近の日本農業に生じてきた様々な課題や地域農業問題をとりあげる。</p>			
学修目標			
<ol style="list-style-type: none"> 1. 農業経済の基本的用語を説明できる。 2. 戦後から高度成長時の日本農政の特徴を説明できる。 3. 90年代以降の農政の転換を説明できる。 4. 日本農政の課題を世界農政の潮流の中で考察できる。 			
授業計画			
<p>第1回 ガイダンス 第2回 農地改革と日本農業の構造問題 第3回 農地法の功罪について 第4回 企業の農業参入について 第5回 生産調整（減反）について 第6回 食糧管理制度とコメ問題 第7回 1990年代からの農政転換 第8回 中山間地等直接支払制度 第9回 民主党政権下の戸別所得補償制度 第10回 自民政権下の農業政策の経緯 第11回 農林水産業・地域の活力創造プラン 第12回 儲かる農業とは？ - 成功した農業生産法人の声を拾う 第13回 WTO以降の世界農政の潮流 第14回 地域農業の発展と産地づくりのために 第15回 まとめ</p>			
授業外学習（予習・復習）			
講義中に配布したオリジナル資料を熟読すること。			
教科書			
なし。オリジナル資料を準備し、配布する。			
参考書			
講義中に紹介する。			
成績の評価基準			
講義中に実施する小レポート30点と期末試験70点の合計点で判定する。			
オフィスアワー			
金曜日2時限目			
アクティブ・ラーニング			

アクティブ・ラーニング（その他の内容）

アクティブ・ラーニング（授業回数）

備考（受講要件）

特になし

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
科目名			
地場産業企業論			
英語名			
開講学科		コース	
法経社会学科経済コース 新旧共通		経済コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会・地域社会コース /経済コース/選択科目	講義	2単位	3～4年
担当教員		連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)
萩野誠		7605	mhagino@leh.kagoshima-u.ac.jp
共同担当教員		前後期	
		後期	
授業概要			
<p>本講義は、鹿児島県で操業している様々な中小零細企業を対象とし、鹿児島県という地方において地場産業が操業を継続できている理由を検討する。</p> <p>受講生は、授業中に指定された地場産業に関して、個別企業の分析をし、報告しなければならない。この報告をもとにして、地方の地場産業の企業経営についても具体的に分析をおこなう。</p>			
学修目標			
<ol style="list-style-type: none"> 1) 中小零細企業および地場産業を分析する能力をつける 2) 身近な企業の経営努力に気づくことができる 3) 南九州の経済環境について理解し、分析の中に織り込むことができる。 			
授業計画			
<ol style="list-style-type: none"> 1) イントロダクション：プレゼンテーション等の注意事項 2) 中小零細企業の支援策からみる地場産業 3) 伝統産業からみる地場産業 4) 南九州の経済環境と地場産業 5) 小テスト 6) 地場産業のケーススタディ：焼酎産業の分析報告（1） 7) 地場産業のケーススタディ：焼酎産業の分析報告（2） 8) 地場産業のケーススタディ：大島紬産業の分析報告（1） 9) 地場産業のケーススタディ：大島紬産業の分析報告（2） 10) 地場産業のケーススタディ：鰹節産業の分析報告（1） 11) 地場産業のケーススタディ：鰹節産業の分析報告（2） 12) 地場産業のケーススタディ：菓子・特産品製造業の分析報告（1） 13) 地場産業のケーススタディ：菓子・特産品製造業の分析報告（2） 14) 地場産業のケーススタディ：菓子・特産品製造業の分析報告（3） 15) 小テスト 			
授業外学習（予習・復習）			
<p>予習：あらかじめ決められた業種の中から1社を選び、企業分析を行わなければならない。その報告資料も作成しなければならない。</p> <p>復習：予習で作成する報告資料に授業で得られた知識等を反映させる。</p>			
教科書			
なし			
参考書			
なし			
成績の評価基準			
<p>小テスト：30点満点X2回（60点満点）</p> <p>プレゼンテーション：40点満点</p> <p>この合計点で評価をおこなう。</p> <p>プレゼンテーションを行わないものは、受講放棄という扱いをおこなう。</p>			

オフィスアワ -

講義終了直後の30分

アクティブ・ラーニング

グループワーク; ディベート;

アクティブ・ラーニング(その他の内容)

アクティブ・ラーニング(授業回数)

9回

備考(受講要件)

実務経験のある教員による実践的授業

ナンバリングコード			
科目名			
経済地理学			
英語名			
開講学科		コース	
法経社会学科経済コース 新旧共通		経済コース	
授業科目区分	授業形態	単位数	開講期
法経社会・経済コース/地域社会コース/選択科目	講義	2単位	3～4年
担当教員	連絡先 (TEL)	連絡先 (MAIL)	
石塚孔信	099-285-7586	ishiduka@leh.kagoshima-u.ac.jp	
共同担当教員	前後期		
	前期		
授業概要			
<p>経済地理学の中でも都市や地域に関する諸問題について分析するためのツールを学習する。現代の都市のイメージは、「みやこ」や「いち」といった牧歌的なものとは程遠く、急速な都市化の結果である過密、過大の弊害に悩まされているという姿がクローズアップされている。一方で、地方では過疎化の進展により、人口減少、高齢化に伴い、限界集落化が問題となっている。都市における住宅難、地価高騰、交通混雑、公害、公共施設不足、地方財政赤字といった諸問題は、ますます深刻化しているなかで、経済地理学は、都市や地域の経済の構造や機能を体系的、総合的に分析し、都市や地域の経済の発展や変動の法則を見いだすことを通じて、このような複雑な都市・地域問題を解明していくことを目的としている。</p> <p>この講義では、都市・地域の構造や機能をミクロ経済学やマクロ経済学の理論を援用して分析し、都市・地域システムの構造を解明する。さらには余裕があれば理論モデルに実際のデータを投入してシミュレーションを行い、理論モデルの現実への適用を吟味してみたい。</p>			
学修目標			
<ol style="list-style-type: none"> 1. 都市・地域システムの構造を解明するための分析ツールを身につけることができる。 2. 都市と地方の問題（過密・過疎の問題、地域間格差の問題）の要因とその対応を学習することができる。 3. 地域問題について意見を述べることができる。 			
授業計画			
<p>第1回 都市・地域経済学の課題（地域の概念）</p> <p>第2回 都市・地域経済学の課題（グローバル化と地域経済）</p> <p>第3回 日本の地域構造（産業構造の変化と地域構造）</p> <p>第4回 日本の地域構造（人口動態から見た地域構造）</p> <p>第5回 地域経済と所得形成（地域所得の決定）</p> <p>第6回 地域経済と所得形成（地域の産業連関分析）</p> <p>第7回 地域成長の経済分析（需要主導型モデル）</p> <p>第8回 地域成長の経済分析（供給主導型モデル）</p> <p>第9回 産業の立地（工業立地論）</p> <p>第10回 産業の立地（空間的競争理論）</p> <p>第11回 都市の成立・発展（都市の形成発展の要因）</p> <p>第12回 都市の成立・発展（都市化と都市圏の形成）</p> <p>第13回 都市の土地利用（地価と地代）</p> <p>第14回 都市の土地利用（住宅の立地の理論）</p> <p>第15回 まとめ</p>			
授業外学習（予習・復習）			
授業終了後は、問題点を整理しておくこと。			
教科書			
適宜指示する。			
参考書			
適宜指示する。			
成績の評価基準			

成績評価は定期試験（80％）と時々出す宿題の提出（20％）を総合的に評価する。

オフィスアワ -

月曜日の2限

アクティブ・ラーニング

学習の振り返り（ミニッツ・ペーパー等）；

アクティブ・ラーニング（その他の内容）

宿題を時々出します。

アクティブ・ラーニング（授業回数）

15回中5回

備考（受講要件）

特になし。

実務経験のある教員による実践的授業

なし。